

make^oland

メイクランド

別冊データ集
2026-2027



Index (アルファベット / 50音順)

品名	掲載ページ		
	施工要領	寸法図	施工断面図
3			
3Dスプリングル(ウォーターコック)	73	72	
B			
BASARA(バサラ)	210	210	
C			
compatto(コンパト)	133	132	
D			
duomo(ドゥオモ)	214	214	214
E			
eaves(イーヴス)	101	100	
EAサイン	141	141	
eiji(エイジ)	142		
F			
float(フロート)	107	106	
float II(フロートツー)タテLタイプ	113	112	
G			
Glut(グラット)	197	196	
G・P・B(ゴム・パーキング・ブロック)	231	231	
GRADY(グラディ)	201	200	
H			
hacorogo(ハコロゴ)	142		
J			
jellee(ジュレ)	142		
K			
Kanji 01(カンジ)	142		
konoha(このは)	142		
Kターフ	28		
L			
LSサイン	165	164	
Luce(ルーチェ)	206	206	
Luce plus(ルーチェプラス)	204	204	204
M			
miel(ミエル)	142		
MLタイル			10
MLタイル モダン			10
MターフPro	44		
N			
NYタイル			10
O			
O-moji(オーモジ)	142		
obi(オビ)	202	202	202
P			
pile(パイル)	131	130	
R			
Retta(レッタ)	216	217	216
Rink(リンク)	142		
Rossetto(ロセット)	220	221	
S			
SWING(スウィング)	212	212	
Sトラップ(立水栓)	82	80	
Sトラップ(ロングタイプ)(立水栓)	82	80	
T			
T926	209	209	209
T-moji(ティモジ)	142		
V			
Villetta(ヴィレッタ)	215	215	215
W			
Woody&Rusty(ウッディー&ラスティー)	220	221	
Z			
ZMサイン(FHタイプ)	166	166	
ZMサイン(GSタイプ・ASタイプ)	179	178	

品名	掲載ページ		
	施工要領	寸法図	施工断面図
A			
アートクリートステンシル	46		47
アーバングラニット(笠木・キャップ)		3	
アーバングラニット(沓脱石)		3	
アプローチ手すり	124	124	
アマゾンジャラ	58		
アルフラット	121	120	
アルミサイン	174	173	
アンシエント(タイル)			10
アンティークブロック	11		11
イーヴス	101	100	
イージーデッキパネル(木製品(ウリン))		63	
イージーフラワーボックス(木製品(ウリン))		63	
いろは(国産自然塗料)	64		
インターカラー(タイル)			10
インターホンカバーサイン	181	180	
インターホンカバーサイン カッパー&アイアン	182	182	
ウーピアガーデン	229		
ウィーガード(軽~重歩行仕様)	16		17
ウィーガード御影(軽~重歩行仕様)	16		17
ウィーガード(防草仕様)	15		17
ウィーガード御影(防草仕様)	15		17
ヴィレッタ(ポスト)	215	215	215
ウェルカムアニマル	228	228	
ウォーターコック	73	72	73
ウォーターコック ニロスプリングルスリム		69	
ウォールストーン	6	6	
ウォールデコレーション	227	227	
ウッディー&ラスティー(ポスト)	220	221	
ウリン	58		
エイジ(サイン)	142		
エコアコールドウッド	57		
エッジサポート	55	54	
エッジマイスターII	56		
エトロウ(ポスト)	219	219	
オーモジ(サイン)	142		
オクシタニー(タイル)			10
オックスフォード(タイル)			10
オビ	202	202	202
カ			
カーミラー		230	
笠木(パイグラニット・アーバングラニット)		3	
笠木(フロート)	107	106	
笠木(フロートIIタテLタイプ)	113	112	
カッツァフォーマ			10
ガビオーネ	92		
ガビネオ	94	94	94
ガビネオ LED	96		
カモプロップ		67	67
カモプロップ 小庭セット	65	65	65
カモプロップ ロングセット			68
ガラスブロック	229		229
カランN		78	
カリダー(サイン)	156	154	
かりゆしブロック	8	9	
カンジ01(サイン)	142		
キャップ(パイグラニット・アーバングラニット)		3	
金属サイン(MAシリーズ)	145	145	
金属(緑青)サイン	144	144	
クイックコート	237		
クォーツ アーバン(タイル)			10
九谷焼サイン	166	166	
沓脱石(アーバングラニット)		3	
グラストリー	184	184	
グラット	197	196	
グラディ(ポスト)	201	200	
グラベルガビネオ	99		
グラベルキーパー	12		12
グラベルロック	14		
グランデコ	53	53	
グリーンパネル	89		
クリスタルペイブ	45	45	
クリフストーン			10
グレーチングサイドカバー	234	234	
クロワゼ(サイン)	158	150	
コートヤード			10
コテージII(タイル)			10
小庭ポスト	188	188	189
このは(サイン)	142		
ゴム・パーキング・ブロック	231	231	

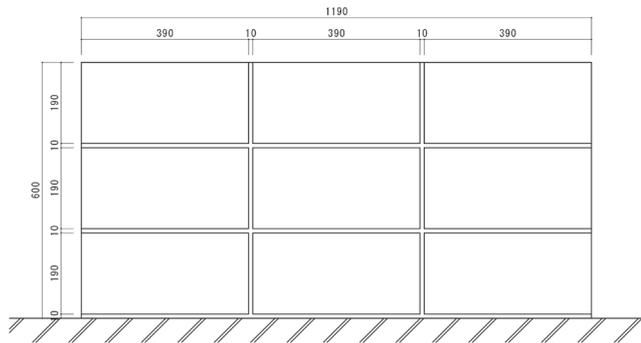
品名	掲載ページ		
	施工要領	寸法図	施工断面図
コルポ(サイン)	156	151	
混合水栓柱(ウォーターコック)		75	
コンパート	133	132	
コンビニブリック・レンガ	7		
サ			
サッカラ(タイル)			10
寂美 SABI	183	183	
サンドコートL(フロアーピース)	25		22
サンドコートR(フロアーピース)	24		
サンドコート補修材(フロアーピース)	24		
信楽焼照明(あかり)	84		
自然石サイン	167	167	
シュヴァルツ(サイン)	162	162	
シュヴァルツ・ミニ(サイン)	163	163	
集合ポスト	222	222	
集合宅配ボックス	223	224	224
ジュレ(サイン)	142		
人工芝・Kターフ	28		
人工芝・MターフPro	44		
人工芝・ラインターフ	38		
水栓パン	77	76	
スウィング(ポスト)	212	212	
スクエアパン(水栓パン)	77	77	
スコティッシュウッド(タイル)			10
スタックス アーバン	6		
スタックス モネ	6		
スタックス リーフ	6		
スティッキー(サイン)	156	148	
ステイトリーストーン	7		
ステナ	89	89	89
ステンレスガーデンパン(水栓パン)		76	
ステンレス水栓柱(ウォーターコック)		75	
ステンレスレーザーカットサイン	177	176	
ストール(タイル)			10
ストーン クォーツ(タイル)			10
スパトゥーラ(タイル)			10
スプリットマーブル	7		
スプリットマーブルII	7		
スプリングル(ウォーターコック)	73	72	73
スプリングルスリム3Dバルブハンドル(ウォーターコック)	73	72	73
スマートポスト	226	226	
諏訪鉄平	3		
スワン(立水栓)	81	80	
セラグラベル(タイル)			10
セラスティック	7		
ソーラーライト	85		
ソティエーレ	134	134	
タ			
タイル			10
宅配ボックス	191	190	
宅配ボックス(据置タイプ)		190	
タクボス	194	194	
段々花壇(木製品(ウリン))		62	
チタンサイン	171	170	
ツインクルピラー	70		70
ツインクルピラー(シャワー付き)	70		70
手洗い鉢(メビウス)	84		
手洗い鉢(利休信楽)	84		
ティエラ(サイン)	142		
ティエラ(ポスト)	208	208	208
デザインピース	27		
デックコートステンシル	50		51
テラスエッジ	233	232	
テラスエッジ オプション		236	
テラスエッジneo	233		
トゥエンティ(タイル)			10
ドゥオモ(ポスト)	214	214	214
凍結防止ソケット	68	68	
銅サイン	169	168	
ドッグボール		88	
トレイス(サイン)	157	151	
ドロップネット	4		
ハ			
ハーチカル(ポスト)	218	218	
バードネスト(サイン)	142		
パイブロップ		66	66
パイブロップ 小庭セット	65	65	65
パイブロップ ショート			66
ハイラパーウッドトップ	97	97	
パイル	131	130	

品名	掲載ページ		
	施工要領	寸法図	施工断面図
ハコロゴ(サイン)	142		
バサラ(ポスト)	210	210	
バリ			10
ハンドメイドガラスサイン	160	160	
ハンドメイドガラスサインII にじいろ	160	160	
ハンドメイドガラスサインII にじいろミニ	161	161	
はんなり(サイン)	157	155	
ピースロック(フロアーピース)	23		
ピールドウッド		61	
ピュアスリック(タイル)			10
ビルドマテリアル	6		
ひとえ(一重)(サイン)	142		
ファサードストーン	7		
ブリグラニット(笠木・キャップ)		3	
フイタイル			10
ふたえ(二重)(サイン)	142		
ニロステンレス水栓柱(ウォーターコック)		75	
フチ(サイン)	156	146	
フレームワークス タイプA	114	114	
フレームワークス タイプB	116	116	
フレームワークス タイプC	118	118	
ブレンプロップ		69	
ブレンチクォーター	7		
フローガ	138	138	
フロート(笠木)	107	106	
フロート2 タテLタイプ(笠木)	113	112	
ブロードウェイII(タイル)			10
フロアーピース	18		22
フロアーピース・ゴムチップ	26		
フロアーピース サンドコートL	25		22
フロアーピース サンドコートR	24		
フロアーピース・遮熱ゴムチップ	26		
フロアーピース・標準ゴムチップ	26		
フロアペイントステンシル	48		49
ポリッシュ(タイル)			10
ボルケーノ			10
ポルティエ	136	136	
ボン・ビュー			10
マ			
マサブロック	11		11
マルチ(タイル)			10
ミエル(サイン)	142		
ミラシック(タイル)			10
ミラネーゼ(タイル)			10
ミラプレート(透水平板)	11		11
ミルストーン	6	6	
メタルデザイン(階段)			123
メタルライト	86	86	
メティリーストーン	2	2	
木製品(ウリン)		62	
木目水栓柱(ウォーターコック)	73	73	
モタンベンチ		88	
モックル			10
ヤ			
ユナイテッド・ガード		98	
ラ			
ライトガビ	92		
ラインターフ	38		
ラフネス			10
リードフック水栓柱		76	
利休信楽水琴窟(屋内用)	83		
立水栓	81	80	
リベルタII(ウォーターコック)	74	74	74
リンク(サイン)	142		
ルーチェ(ポスト)	206	206	
ルーチェプラス(ポスト)	202	202	202
ルートウ・ビエニ	87	87	
レイ(サイン)	158	152	
レゼーナ(ウォーターコック)		75	75
レッタ(ポスト)	216	217	216
レトロン(立水栓)	82	80	
ロートアイアンレーザーサイン	139	139	
ロセット(ポスト)	220	221	
ロンジウォール	6		
ロンジン			10
ワ			
ワンデーダイレクト	23		

メテリーストーン

① 基礎壁

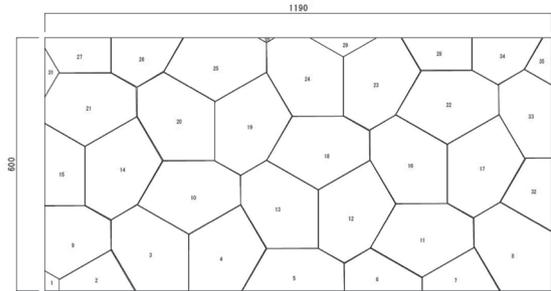
- ・基礎壁を用意する。



※推奨基礎壁はブロック3列3段になります。
 ※推奨ブロックサイズは390x190x120の使用しております。

② 基本面の施工

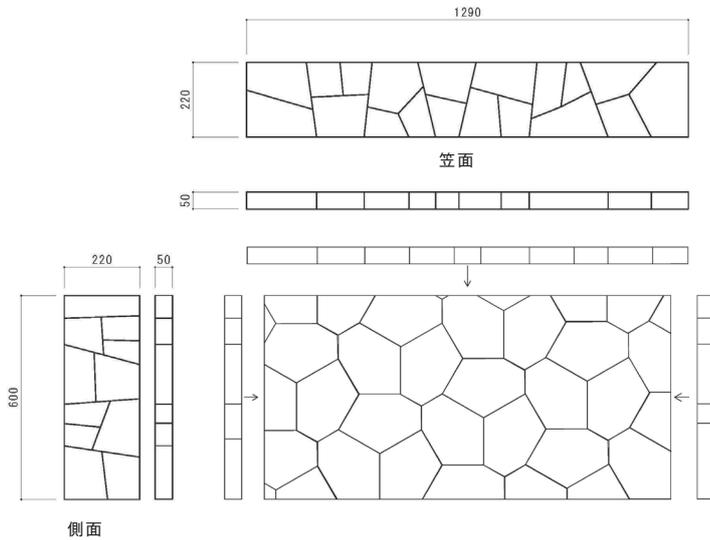
- ・仮並べ、圧着施工していきます。
- ・材料は木枠の中に下図の状態でご提供されています。
- ・下から番号順に部材を取り出し圧着モルタルにて施工していきます。



・手加工品の為、寸法誤差がございますのでサビ、養生テープを使いながら隙間を調整して下さい。
 ※季節により圧着モルタルの硬化時間が異なるのでご注意下さい。

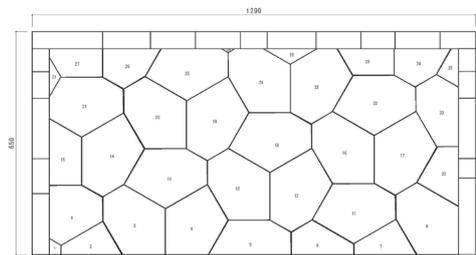
③ 側面、笠面の施工

- ・側面、笠面を施工後、ロープ、テープ等で仮固定を行い、モルタルが硬化するまで養生を行う。



④ 仕上げ

- ・モルタルの硬化を確認後、仮固定していたロープ、テープ等を取り外し完成になります。



【施工手順例】

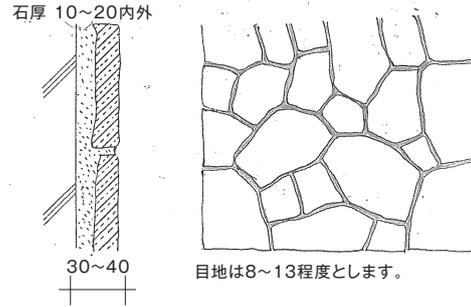


諏訪鉄平（壁面推奨施工）

施工要領

ストーン

- 1 壁コンクリート面を清掃して、散水してから施工して下さい。
- 2 施工モルタルには、剥離を防止する為、市販の接着増強剤を混合して、施工する方法をお薦めします。
- 3 水は油、酸、塩類、有機物質を含まない清浄なものをご使用下さい。



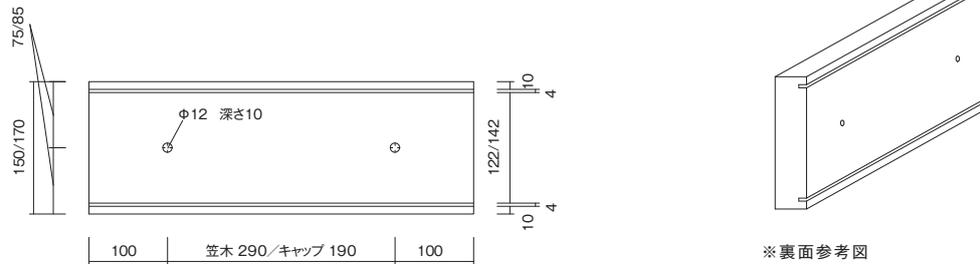
混合モルタルは、ダンゴ貼りで20Kg以上の圧力で練り圧着をして下さい。

ブイグラニット／アーバングラニット

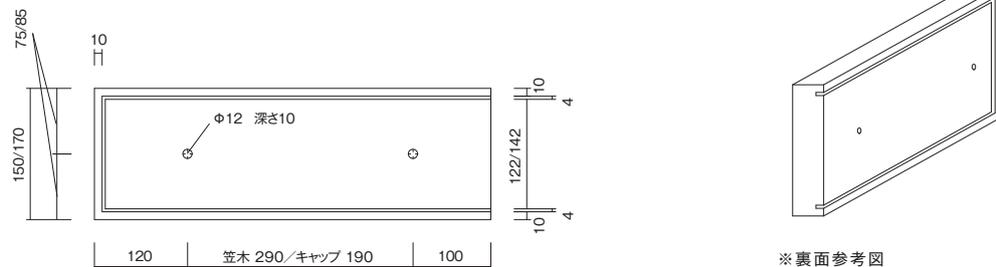
寸法図

【ブイグラニット、アーバングラニット笠木・ブイグラニット、アーバングラニットキャップ】

150/170 基本



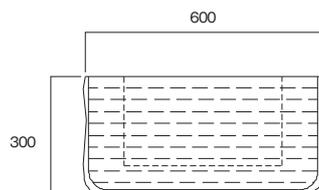
150/170 コーナー



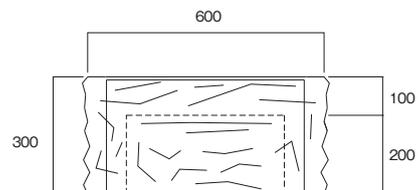
【沓脱石】

6-3-3

平面図

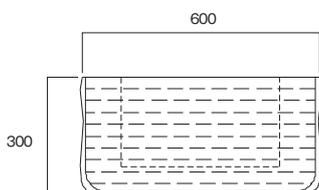


側面図

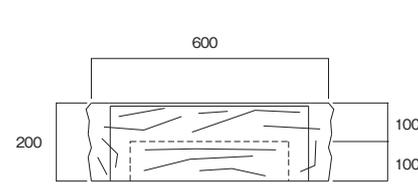


6-3-2

平面図



側面図



ドロップネット

<参考> 施工手順

はじめに

- 原則として、1日目に手順1~2、2日目に手順3~4を施工してください。接着用モルタルの硬化が早い場合には、同日中の施工は可能ですが、砂利の欠落が起きないように十分注意してください。
- 施工中や施工直後に貼付けた本品の上に乗ることは可能ですが、スリ足や道具を引きずるような行為は本品シートの上のズレや砂利の欠落の原因となりますので注意してください。
- 下地の不陸調整(凹凸を平らにする処置)、ひび割れ修復、及び清掃は事前に終わらせておいてください。
- 本品のほかに、次の材料・道具をご用意してください。(※)
 - 接着用セメント・モルタル
 - 目詰用セメント・モルタル(目地材)
 - クシ目鋺
 - ゴム鋺
 - タイル用タタキ板(タタキ鋺)
 - 刷毛, 左官ブラシ
 - スポンジ(洗い出し用)
 - ハンドミキサー(かくはん機)
 - 練り樽, 練り用バケツ
 - バケツ(スポンジを洗う用)



1. 接着用モルタルの塗付け

- ① コンクリート・モルタル仕上げの下地(接着面)に湿らす程度に水打ちして、接着をより良くしたい場合は、プライマー・シーラーといった調整材を塗布します。
- ② 水と混練した接着用モルタルを、クシ目鋺を使い、厚みが均一になるように塗付けます。厚みは、本品砂利の高さの1/3程度を目安にします。
 - ・ 接着用モルタルは、クシ目鋺で塗付けた時に凹凸が崩れない程度の固さに練り合わせてください。
 - ・ 端までの塗り付けが不十分の場合、浮きや剥がれの原因となりますので注意してください。



Point-1

接着用モルタルは、仕上げの目詰用モルタルの色に同じ(もしくは近い)色合いのものを使用してください。

2. 本品の貼付け

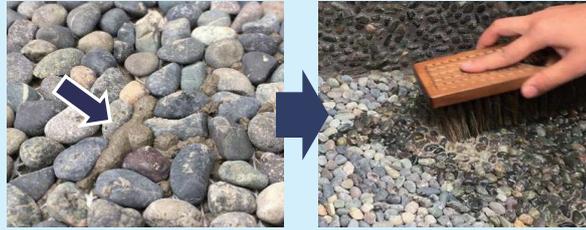
- ① 1枚目を角に置き、タイル用タタキ板等で叩きながら貼り付け、2枚目以降は隣のシートに沿うように置き、隣との境目を詰める(寄せる)ように叩いて貼り付けます。砂利が重なり盛り上がりしてしまう場合、タタキ板で叩いて平らに均します。
- ② 端の部分など、本品の大きさが合わない箇所はカッター等で切断し大きさを合わせます。
- ③ 端の部分や砂利が欠落した部分の隙間等は、備え付けの予備砂利を埋めて補修します。



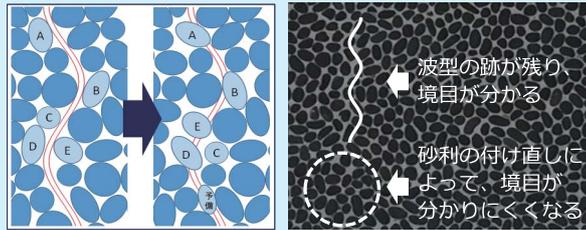
※各種材料・道具は、それぞれのメーカーが定める使用方法・注意事項をよく読み、ご使用ください。

Point-2

接着用モルタルが、境目や砂利の間から表面に出過ぎた場合、硬化する前にブラシで掻き取り、スポンジで拭き取るなど必ず対処してください。そのまま硬化した場合、仕上り時に「境目が目立つ」「砂利の表れ方にムラがある」といった仕上りの原因になります。

**Point-3**

シートを貼り付けた際にシートの縁にある砂利をいくつか取り外し、向きを変えて無作為に付け直すと、仕上り時のシート境目が目立ちにくくなります。特に「フシミ」のような単色の色合いのものは、境目が比較的目立ちやすくなりますので、効果的です。

**3. 目詰用モルタルの塗付け**

- ① 水と混練した目詰用モルタルを、ゴム鏝を使い、砂利の隙間がしっかり詰まるように塗り付けます。砂利が完全に隠れる様にまんべんなく塗ります。
- ② 刷毛やブラシを使って表面の余分なモルタルを掻き取り、砂利の立体感が出るように厚みを調整します。
 - ・目詰用モルタルを塗り過ぎると次工程の洗い出し作業が困難になりますので注意してください。
 - ・手順1.~3.を同日に行った場合、塗付け時に力を入れすぎると本品シートが動いてしまったり、砂利が欠落してしまうことがありますので注意してください。

**Point-4**

仕上り時に「巣穴」「ピンホール」といった気泡の穴ができないように、しっかり押え込みながら塗り付けてください。

4. 洗い出し

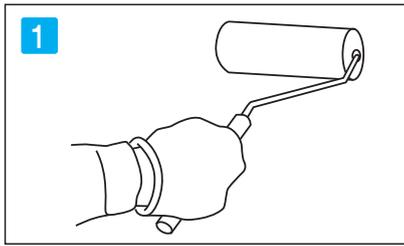
- ① 刷毛やブラシを使って水を打ちながら擦り、表面のモルタルを柔らかくします。(「アマ出し」の作業)
- ② スポンジ等で砂利表面の柔らかくなったモルタル(アマ)を綺麗に拭き取り仕上げます。(刷毛・スポンジを使い、きれいな水で繰り返し拭き取ります。)
- ③ 砂利が欠落した部分の隙間等は、備え付けの予備砂利を埋める等をして補修します。



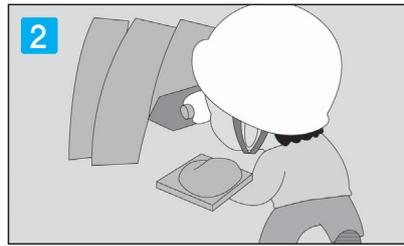
「簡単」「スピーディ」な施工、そして「美しい」仕上がりをこの **-ドロップネット-** でぜひ実感してみてください。

ウォールストーン / スタックスアーバン / ミルストーン / スタックスモネ / スタックスリーフ / ビルドマテリアル / ロンジスウォール

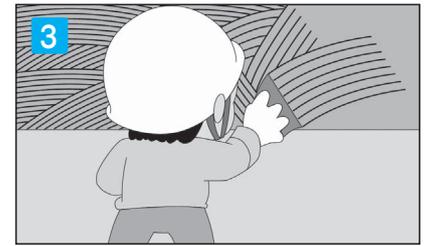
【改良圧着貼り】



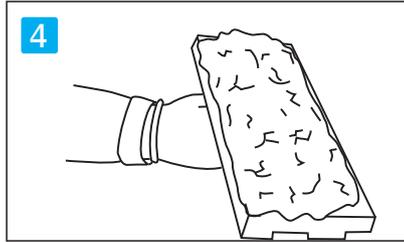
1 施工面の清掃
接着不良の原因となるゴミ・ホコリ・油分・レタンスなどを取り除きます。



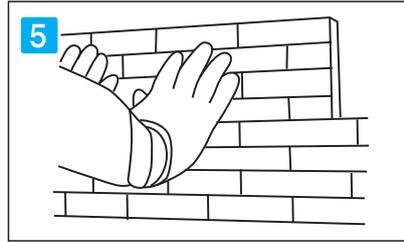
2 躯体に貼り付けエポキシ系接着剤を約5mmの厚さに、30分程度で貼り材を貼ることができる面積に塗ります。



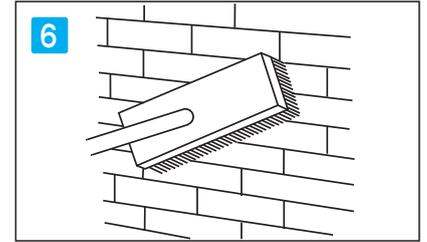
3 接着剤を塗布した後、クシ目ゴテを用いてクシ目を立てます。



4 貼り材の裏側に中央が20mm程度になるようにエポキシ系接着剤を全体に塗ります。



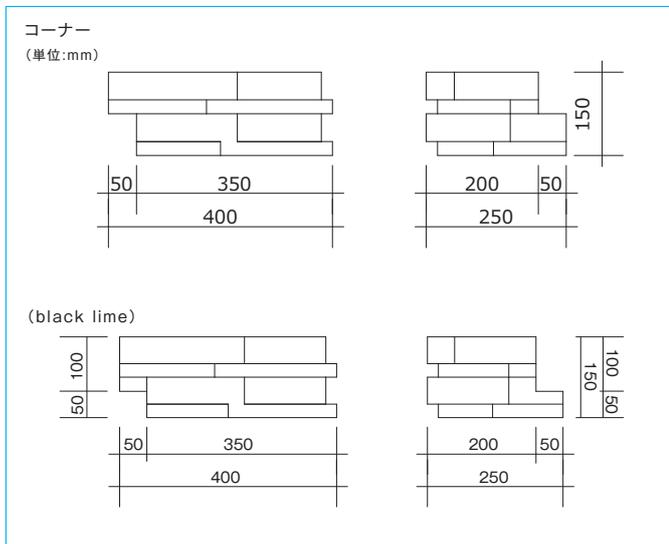
5 貼り付けは改良圧着貼りで最下段より積み上げていきます。また、ピプラートをを用い、十分に圧力をかけて貼って下さい。



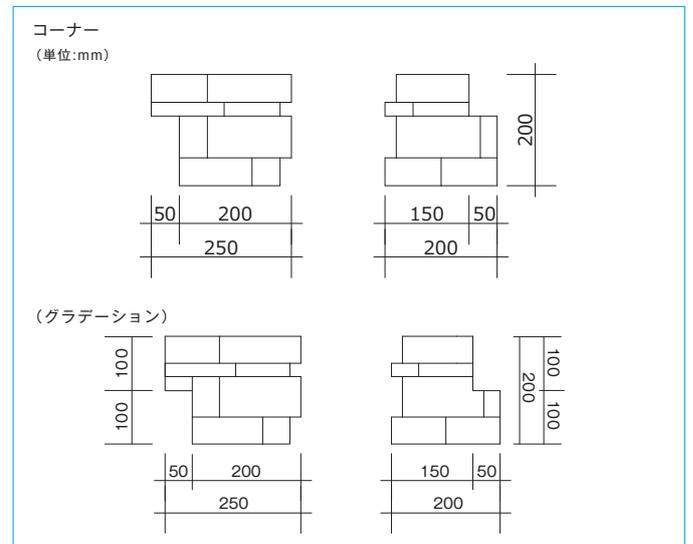
6 石に付着したエポキシ系接着剤は少し硬化してからブラシで掻き落とし、その後、すぐに水を含ませたスポンジ等で完全に拭き取って下さい。

■ご注意
重量のあるものについては、ME-01とカケン外エポなどの接着剤を推奨しております。

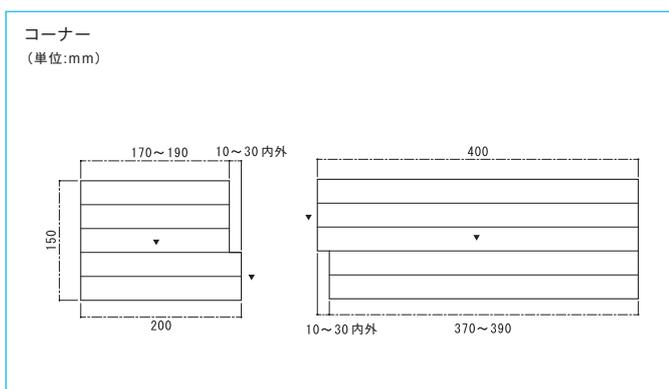
【ウォールストーン (black lime、gray、mint)】



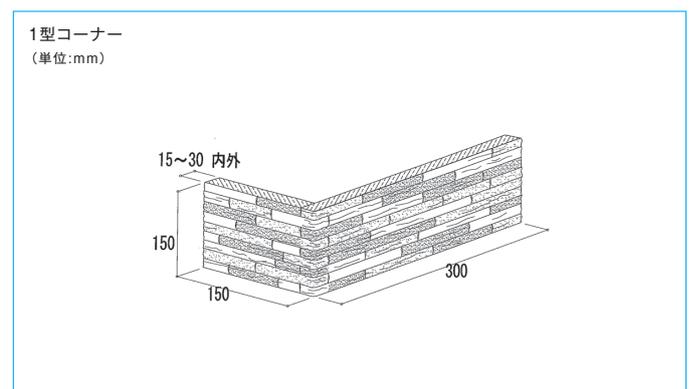
【ウォールストーン (グラデーション、snow gold、green gold、shimura white、silver gray MIX)】



【ウォールストーン (ミルキーホワイト、グレイッシュ、マットブラック、スターギャラクシー、ホワイトウッド、ブルーウッド、アーストラパーチン、フラワーカラー)】



【ミルストーン】



ファサード ストーン／スプリットマーブル／スプリットマーブルⅡ／ステイトリーストーン

施工要領

ウォール



1 洗浄
下地となる部材は、コンクリート・ブロック・ALC等石材の重量荷重に対応できるものなら基本的に施工可能です。下地の不陸・油分・錆・ゴミ・埃等を十分除去します。施工下地面が十分に乾燥していることを確認願います。
*若令下地への施工は石材汚染の原因となりますので避けて下さい。



2 仮並べ
大きさ・長さ・色調等が偏らないように予め数ケースを開封し、混合させたくて仮並べを行い、全体のバランスを整えます。
長さに関しては乱尺の為、目地が通らないように配置を考慮させます。



3 接着剤準備
エポキシ系建築石材用の接着剤を準備します。2液混合型(推奨商品:ME-01とカケン外工ボ)を使用の割合で十分練り混ぜます。
*接着剤の練り混ぜが不十分ですと、接着強度不良・石材汚染の要因となります。



4 ボンド点付け
石材1ピースに2点～3点、タンコ状にボンドを点付します。ボンド点付間隔は、150mmを目安に20mm×20mm程度。



5 コーナー部貼付け
コーナー部分がある場合は、最下段部のコーナー部より施工を始めます。
はみ出したボンドは水に浸したスポンジやタオル等で速やかに良く拭き取ります。



6 平目の貼付け
石を水平に施工する為、予め施工面に水平墨を何本か打つと施工基準となります。
はみ出したボンドは水に浸したスポンジやタオル等で速やかに良く拭き取ります。



7 貼付け完了・養生
接着剤を硬化させる為、石材施工後1日以上外力が加わらないように養生します。



8 目地詰め
目地あり施工と目地なし施工があります。
・目地あり施工の場合
接着剤硬化後、目地セメントを使用して目地埋め→拭き取り→清掃
*伸縮目地部や設備器具との取合い部には、弾性目地(コーキング剤)を設けます。
・目地なし施工の場合
各種寸法によりすり合わせが必要となり、施工速度が遅れます。また、必要な石材量も増えます。



9 完成

■ ご注意

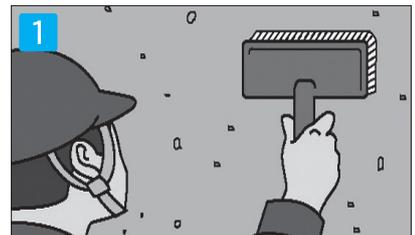
*施工要領に使用している商品は、実際の商品とは異なります。
*スプリットマーブルに役物はございません。

コンビニブリック・レンガ／セラスティック／フレンチクォーター

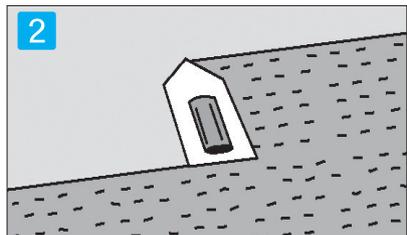
施工要領

*この施工要領は、外構工事における躯体・新設の場合を対象としています。

【弾性接着剤(セラタック)施工要領】



1 下地確認
下地のほこり・油分・レイタンス汚れ等を除去し、専用プライマーの塗布処理を行います。
*外構工事の門柱や塀に施工する際には、接着面に対する雨水の浸透を避けるため、必ず笠木の施工をして下さい。



2 地塗り
貼付けに使用する弾性接着剤(フレックスマルチとタイルエースLPRO)などを下地に塗りこみます。



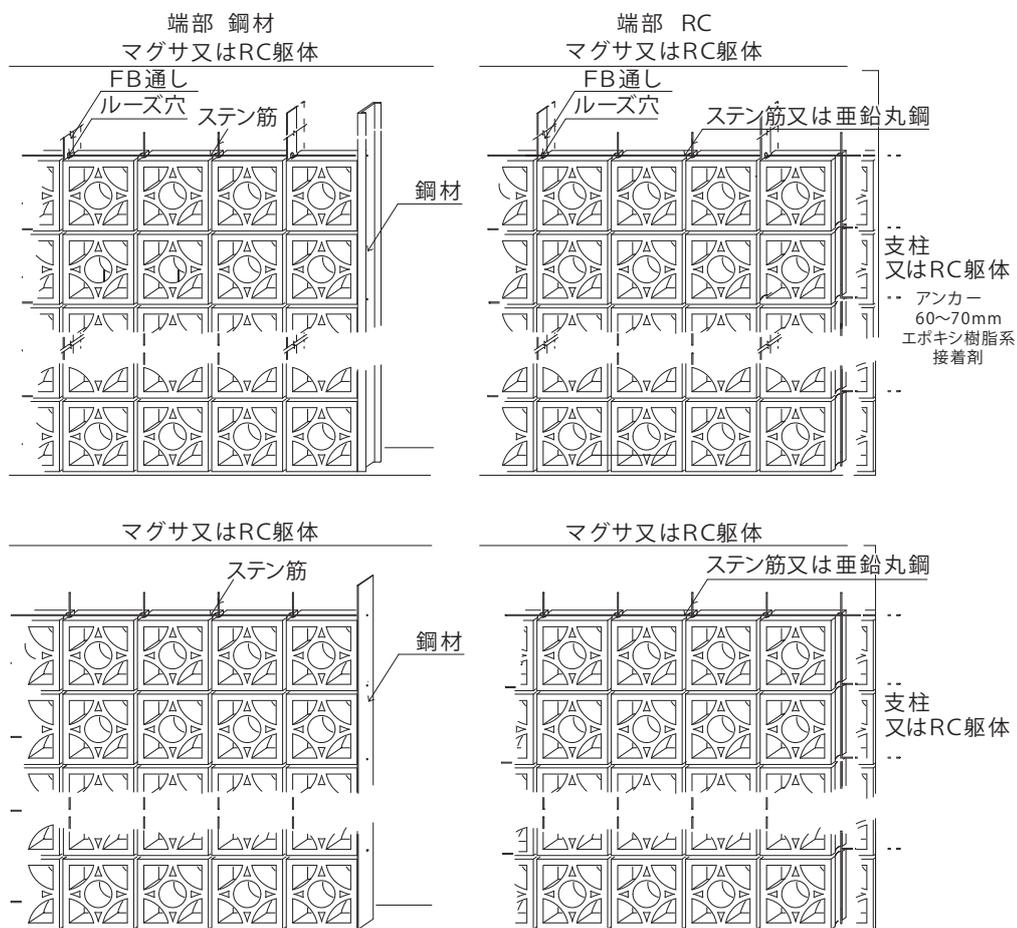
3 張り付け
もみ込むように強く張り付けて下さい。

かりゆしブロック

【施工要領】

- かりゆしブロックは基本四辺固定積みとする。
- 外構工事でブロック塀として使用する際は空洞コンクリートブロックの施工要領に準ずる。
- 自立するかりゆしブロック塀等は強固な構造物等により支持する。
- 配筋は十分なモルタルのカブリがとれない為、錆での爆裂を危惧し、ステン筋又は亜鉛メッキ等の使用を推奨。
- 基本ブロック内では継手は設けない。

■ 施工例



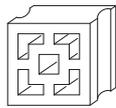
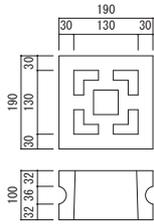
FB(フラットバー)を使用時の point

- FBの間隔：400～1200ピッチ。
- FBの素材：SS400等の鋼材等、亜鉛引き推奨。
- FBの奥行き：ブロックの厚みに収まるサイズ推奨。
- FBの天端の処理：天端より30mmほど下げて中に収める。

※ FBをブロックの周囲フレームとしても使用する場合は、周囲のFB(又は鋼材)へ溶接または固定する方法もあります。

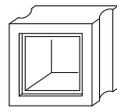
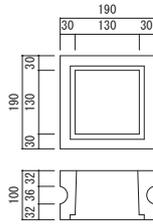
【寸法図】

角型1/2(二重角型)
Y.B-2-8
(6.0kg)



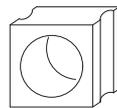
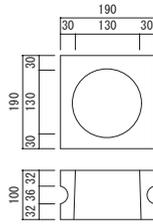
(二方鉄筋溝有り)

角型1/2(ガラス面取)
Y.B-3-1
(4.2kg)



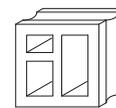
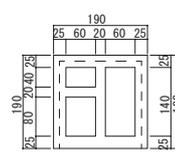
(二方鉄筋溝有り)

角型1/2(丸型)
Y.B-7-1
(5.0kg)



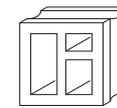
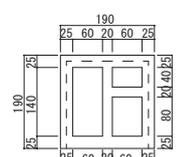
(二方鉄筋溝有り)

佑
YSK1-1
(4.3kg)(厚100×190×190)



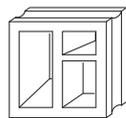
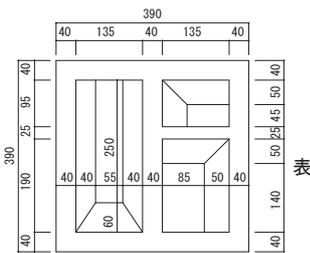
(三方鉄筋溝有り)

佐
YSK1-2
(4.3kg)(厚100×190×190)



(三方鉄筋溝有り)

あいI
(18.5kg)(厚100)
開口率19.0%

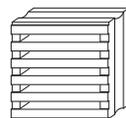
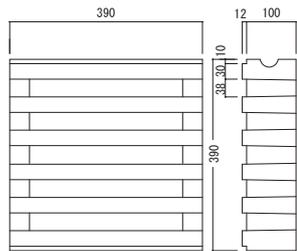


(四方鉄筋溝有り)



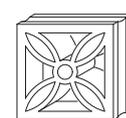
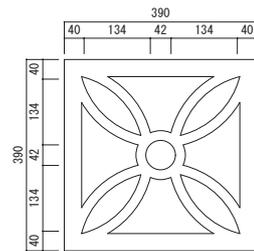
裏

格子
K-5
(21.5kg) 開口率29.5%



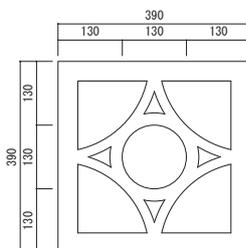
(三方鉄筋溝有り)

花
H-1
(参考重量16.5kg)(厚100×390×390)
開口率40.48%



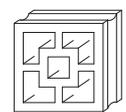
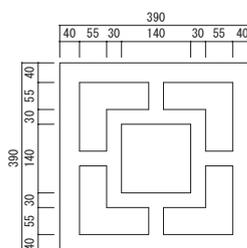
(三方鉄筋溝有り)

角丸三日月型
Y.D-1-1
(18.0kg)(厚100)



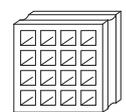
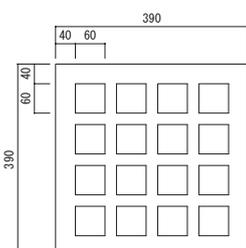
(三方鉄筋溝有り)

二重角型
Y.D-4-1
(16.5kg)(厚100)



(三方鉄筋溝有り)

グリッド
G-1
(21.0kg)(厚100)

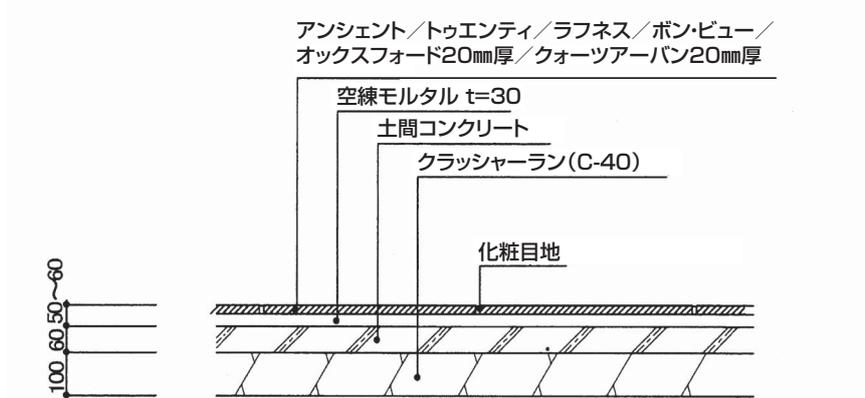


(三方鉄筋溝有り)

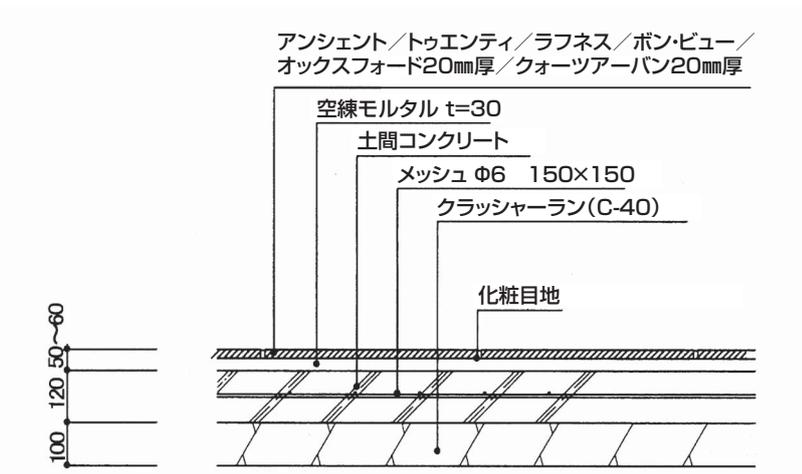
アンシェント／トゥエンティ／ラフネス／ボン・ビュー／ オックスフォード20mm厚／クォーツアーバン20mm厚

【アンシェント／トゥエンティ／ラフネス／ボン・ビュー／オックスフォード20mm厚／クォーツアーバン20mm厚】

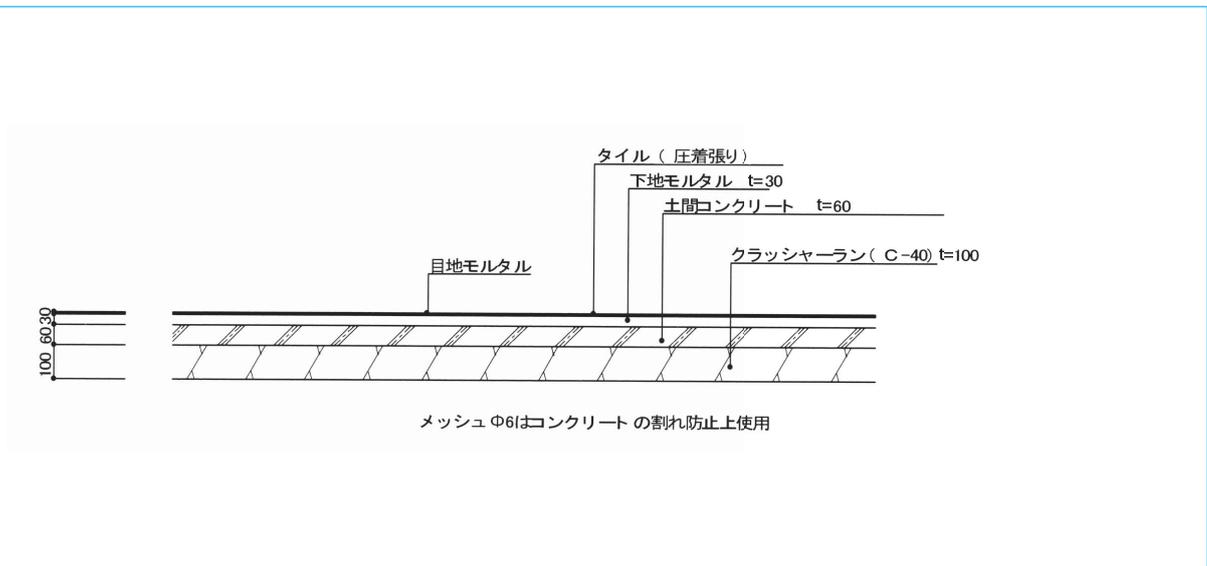
■歩行用



■車庫用



【タイル(歩道用)】



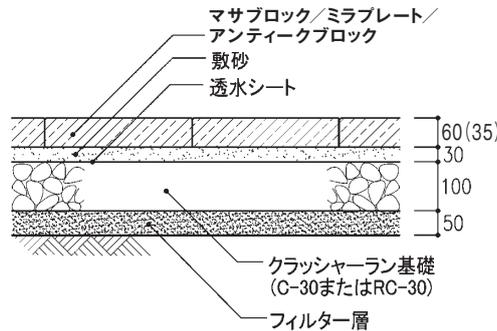
マサブロック／ミラプレート（透水平板）／アンティークブロック

施工断面図

施工要領

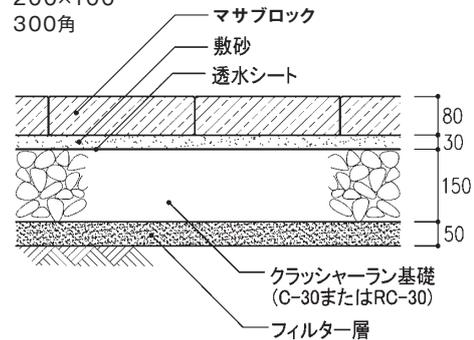
■歩行者系道路

200×100
300角



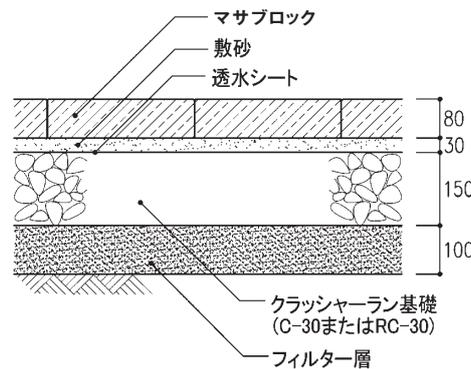
■最大積載量4t未満の車両の通行する歩行者系道路

200×100
300角



■乗用車主体の駐車場

200×100
300角



施工フロー例

- 1 路床・路盤の確認
支持力・平坦性・転圧状況を確認し、必要ならば調整を加えます。
- 2 レベル出し
水糸などを張って、仕上がり位置を設定します。
- 3 敷砂の敷均し
転圧後の厚さを30mmとすると、敷き均し時にはこれに通常15mm程度の余盛り厚を加えておきます。
- 4 舗装材料の敷設
現場の条件に合わせて、敷き始めの基準点を設定します。一旦、既設ブロックに強く押しあて、垂直に下ろし、施工して下さい。
- 5 目地調整
材料にあて木をして木槌で叩いたり、ドライバーやバール等で移動させたりして修正します。
- 6 端部の処理
端部用のブロックを使用します。
使用できない場合は、カッティングして下さい。
- 7 転圧
コンパクターにより、歩く速さで3回程度行います。
転圧できない箇所は、プラスチックハンマー等で叩きます。
- 8 目地詰め
目地材を均一に撒き、目地の中に掃き込みます。
コンパクターにより振動をかけ、充填効率を高めます。
- 9 後処理
材料表面に残った砂をきれいに掃き取り、仕上がり状況を確認して下さい。

施工要領

- 1 路盤作り
工事はまず路盤を作ることから始まります。
入念に転圧を行い、締め固めます。路盤表面に凹凸があると不陸の原因となります。
- 2 敷砂の敷込み
使用する砂は、中目のものが最適です。
4～5cm 砂を敷き込んでから、水糸などでレベルを設定します。
次に敷きならし棒などを使って、レベルを合わせます。
砂層を平坦に保つことが肝心です。
- 3 マサブロック/ミラプレート/アンティークブロックの敷込み
それぞれの現場の条件に合わせて、敷き並べます。
この一列になったブロックを基準に、ブロックを並べます。端部には、端部用のブロックをお使い下さい。
- 4 スプリットカッターによる処理
端部で端部用ブロックでは処理できない箇所は、寸法に合わせて、スプリットカッター等でカットし、敷き込みます。
- 5 転圧
転圧機（コンパクター）で、入念に平坦仕上げを行います。
- 6 目地の砂詰め
乾燥した細目の砂（珪砂）をホウキなどで目地に落とし込み、作業は完了です。
- 7 完成

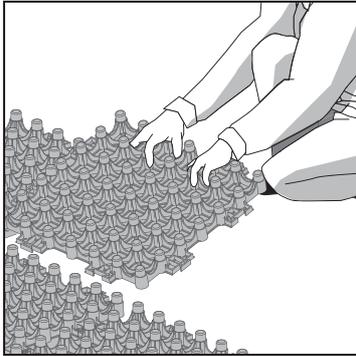
グラベルキーパー

[ハードベース]

■ 施工手順

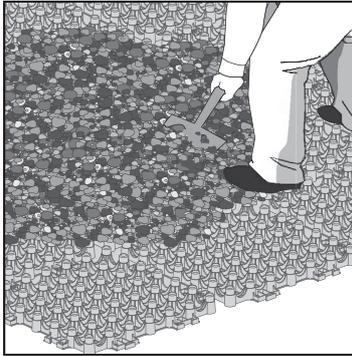
1 床ならびに碎石路盤は十分な転圧を行い、不陸の調整はレベル調整材(砂等)で行って下さい。

2 敷施工



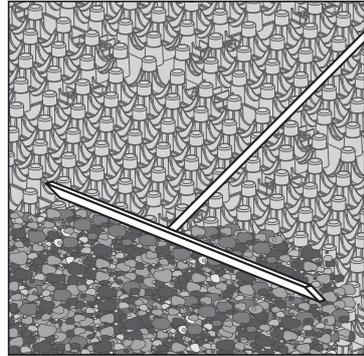
路盤上の一角より、施工して下さい。ジョイント部を上から押し込むだけの簡単施工です。

3 砂利投入



敷設完了後、突起間に砂利を入れ足等で締め固めて下さい。

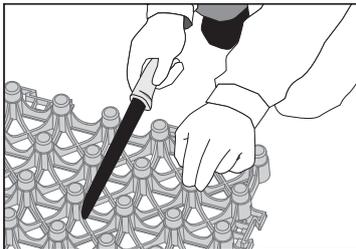
4 施工完了



トンボ等で砂利の表面を平らに均して施工完了として下さい。

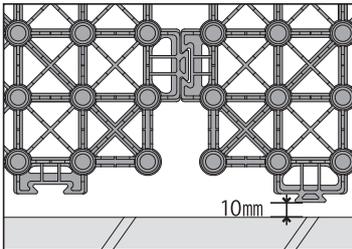
■ 施工ポイント

< 切断加工 >



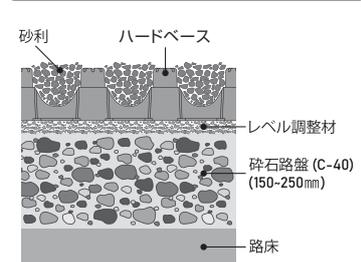
外周部や車止め周辺等は、形状に合わせ、突起間を鋸などで切断して調整して下さい。

< 伸縮対策 >



温度差による伸縮対策の為、ジョイント部のアソビは開いた状態で敷設して下さい。また、縁石等の固定物の周りは10mm程度の隙間を設けて下さい。

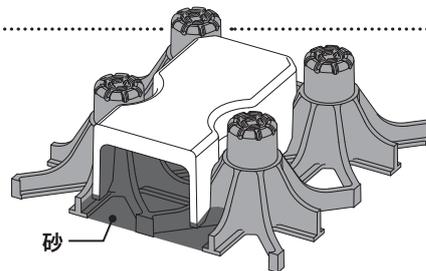
< 標準施工断面図 > (駐車場用)



※充填物は、6号単粒度碎石 (5~13mm程度の碎石)が推奨です。

.....専用マーカ―設置イメージ.....

専用マーカ―は、砂利の代わりに砂を充填して施工して下さい。また、支持脚面の高さと同様になるように注意して下さい。



< 設計・使用及び施工上のご注意 >

- ※本製品の支持脚を砂利面以上に突出させないで下さい。
- ※砂利投入前の本製品の直上をトラックや施工機などで走行しないで下さい。
- ※ブルドーザー等の施工機による片押しによる砂利投入はしないで下さい。
- ※本製品は駐車場や通路に使用する砂利保持材です。それ以外の目的で使用しないで下さい。
- ※タイヤのスエグリや切替が多い場所では、舗装等を併用することをお勧めします。
- ※本製品の施工部分の周囲は縁石などで囲い、固定して下さい。
- ※凍上の可能性のある地域では碎石層を300mm以上にして下さい。
- ※現地盤が難透水性地盤や軟弱地盤の場合は、必要な対策を施して下さい。
- ※本製品は耐荷重10t車以下(総荷重20t以下)です。
- ※本製品は駐車場や通路では、支持脚に引っ掛かるなどして転倒し怪我をする恐れがあります。自転車等のタイヤが細い乗り物での通行やハイヒール等の不安定な履物による歩行の際には十分にご注意下さい。

【ソフトベース】

■ 施工手順



路床等の路盤は十分な転圧を行い、破片、岩を取り除いて、不陸な部分を調整して下さい。



施工路床に防草シートまたは砂利下シートを敷設、固定して下さい。



本製品をシートの上に展開します。
※オプションの専用固定ピンをご使用ください。
(目安使用量:50本/1本体セット)。



砂利を入れ、トンボ等で砂利の表面を平らに均して下さい。



施工完了
※施工後歩行により砂利が多少沈む場合があります。
本製品の上部が漏出しないように同商品の砂利を足して下さい。

■ 施工ポイント



本体との連結は付属品のジョイントをご使用下さい。



本製品施工後、上の部分は砂利面より下にして下さい。

〈設計・使用及び施工上のご注意〉

- ※砂利投入前に本製品の上を走行しないで下さい。
- ※本製品の施工部分の周囲は縁石などで囲い、本体を露出ないように施工して下さい。
- ※現地盤が難透水性地盤や軟弱地盤等の場合は必要な対策を施して下さい。
- ※本製品は砂利の保持材です。それ以外の目的で使用しないで下さい。
- ※歩行する場所にご使用下さい。駐車場、車両通行場所への施工は避けて下さい。

グラベルロック

<グラベルロックを施工する際、必要な道具>

- * コテ (もしくは表面が平らなもの…木材、ブロック 等)
- * プラ舟、バケツ (本品全量が入るもの)
- * 空容器 (水量の目盛が有るもの、水量のわかるもの)
- * スコップ、シャベル、練りクワ (本品を練り込めるもの)
- * ビニールシート (冬場・夏場・降雨時)

<施工時主な注意事項>

- * 水量を守って下さい。(1袋に対しての水量は1.0ℓとなります。)
- * 満遍なく練り込めるように水は一度に入らず、数回に分けて徐々に加えて下さい。
- * ひび割れ防止のため、施工幅約2m毎に目地を入れて下さい。
- * 本製品の特性上、広い面積など数回に渡り施工する場合は色調など仕上がりに差が出ることがあります。予めご了承ください。
- * プラ舟、バケツ、コテなどの用具類は残材や汚れのない、綺麗なものを使用して下さい。

本製品の最低施工厚は3cmです。施工時の㎡あたりの使用目安は4袋となります。現場の広さに応じて材料を調達して下さい。



空練
雑草や石などを全て取り除き、下地を押し固めます。下地をしっかり作ることで、美しい仕上がりがとなります。本品をプラ舟、バケツ等にかけて空練を必ず行なって下さい。粒度分布がある為、均一に分散して下さい。
* 空練とは？…水を加える前に商品スコップ等にて良く混ぜ込む事。
* 空練は満遍なく混ぜ込んで下さい。偏りがあると施工不良となります。
* 下地の地盤が軟弱な場合や、水たまりができるなど水はけが悪い場合は、必ず砕石で路盤を造って下さい。

練上げ
空練を行なった後徐々に水を加え使い易い硬さまで練り上げて下さい。目安として1袋(12.5kg)に対しての水量は、1.0ℓです。水量に注意して下さい。水が多すぎると固まる成分が流れてしまい強度が落ちる事になります。逆に水が少なすぎると全体の固まりが悪くなり、強度にも影響が出てしまいます。施工面の仕上がりは粉っぽくなります。

全体に水分がゆき渡るまで良く練り込んで下さい。季節によって硬化時間が異なりますので注意しながら施工して下さい。
* 水量は適量に対して多くても少なくても施工不良となり、補修ができません。



敷均し、コテ押さえ
均一になるように敷き、コテで素早く伸ばします(表面に凸凹がなくなるように)。コテ押さえは充分に行なって下さい。コテ押さえが足りないと施工面が崩れたり欠けることがあります。角、端も充分にコテで押さえして下さい。
* コテ押さえとは？…コテにて施工面を押える事。コテがない時は木材など表面が平らな物で可能です。

養生
施工後、ビニールシート等を掛けておきます(冬場・夏場・降雨時)。ビニールシートを掛けることにより表面が急速に乾燥するのを防ぎます。養生期間は約24時間で表面が固まれば歩行可能になります。

<水量が適量の仕上がり>



水量が少なすぎると全体の固まりが悪くなり、強度にも影響が出てしまいます。施工面の仕上がりは粉っぽくなります。

水量が適量に対して多くても少なくても施工不良となり、補修ができません。

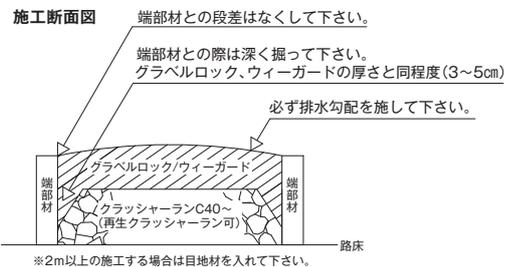
水量が多すぎると固まる成分が流れてしまい強度が落ちることになります。また、施工後の透水性が悪くなることもあります。

* 製品の特性上、「白華」が発生する場合があります。予めご注意ください。



<注意事項>

- * セメントが含まれております。湿気に弱いので開封後はお早めにお使い下さい。また、開封した物は全て使い切ってください。
- * 施工時の気温、湿度によって施工後に表面が白くなる事がありますが品質、防草効果、強度に問題ありません。
- * 敷きならす際に商品が飛散しない様に注意して下さい。施工面の周辺は必ず養生し周辺に色移りしない様に注意して下さい。
- * 日当たりの悪い場所、水はけの悪い場所はコケが生える可能性があります。
- * 冬期において凍結し、割れや剥離が起こる可能性があります。昼夜気温5℃以下になる場合は施工を避けて下さい。
- * 割れや剥離、破損が起きた場合はその部分を取り除き、施工手順通りに再度施工して頂ければ補修可能です。
- * 一度に大量に練り込んでしまうと施工途中に硬化してしまうので練り込む量に注意して下さい。



ウィーガード／ウィーガード御影（防草仕様）

施工要領

雑草除去路盤に40mm厚施工（使用量 約2.8袋/m²）



1 施工する場所の除草。



2 根まで十分除去して下さい。



3 不陸整正。



4 転圧。（踏み固める。）
端部はブロック等で固定し、境界部の抑えをしっかり行って下さい。



5 砕石を敷き均す。



6 転圧。

【地盤が軟弱な場合や、水溜まりができるなど水はけが悪い場合は、必ず下図のように砕石で路盤を造って下さい。】



7 ウィーガード／ウィーガード御影を敷き均す。
飛散した材料が付着しないように周辺を養生して下さい。
木コテ・プラスチックコテで均し押さえて下さい。
（平らに整地する程度、押さえすぎると施工厚が40mm以下となり、透水性・保水性が低下します。）



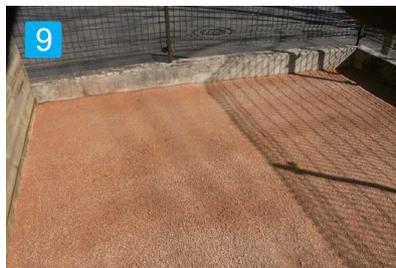
8 コテむらを無くすため、ほうきや剛毛等で表面を均して下さい。



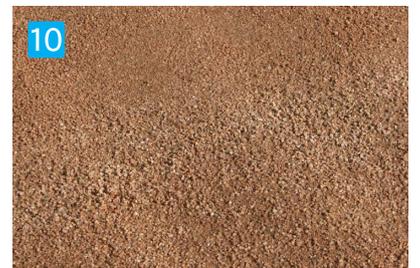
9 1次散水
噴霧器等（出来るだけ霧状）を使って、全体をやさしく均一に散水して下さい。シャワーホース等で勢い良く散水すると色粉が沈んでしまい、施工不良となります。清水（水道水）を使用して下さい。水量は表面が濡れる程度。散水時の足跡はほうきで均しながら順次散水して下さい。
※整地した表面が崩れないように全体を濡らして引き締める程度、散水量が多過ぎると固化材が流出し、骨材表面の露出により本来の仕上がり時の色調と異なりますのでご注意下さい。（P16の「固化材が流出した仕上がり」画像をご参照下さい）



10 2次散水（目安時間1次散水後 夏場：約30分、冬場：約60分）
手で押さえて跡が残らない程度に硬化したら散水可能。
ジョウロ（シャワーホース）を使って均一に散水して下さい。
清水（水道水）を使用して下さい。（1mあたり15～18ℓ：季節や厚みにより変動あり）目安としては水が薄く浮き上がる程度に散水して下さい。散水量が不足すると下層部まで水が浸透しないため、硬化不良やクラックの発生原因になりますのでご注意下さい。



11 養生期間 夏場：12時間 冬場：24時間



12 完全硬化 夏場：約1週間 冬場：約2週間
（表面の砂利は徐々にとれますが強度は変わりません。）

<注意事項>

- ※バイクや自動車の乗り入れる場所には強度不足のため施工を避けて下さい。
- ※降雨時または降雨が予測される日には施工を避けて下さい。
- ※強風時には施工を避けて下さい。
- ※気温が5℃以下の日には施工を避けて下さい。
- ※冬場など寒い時期は施工表面がまだら状に凍結し剥離する場合がありますが、強度上の問題はありません。

ハイブメント

ウィーガード／ウィーガード御影（軽～重歩行仕様）

施工フロー

下地調整 >>> 敷き均し・転圧 >>> 1次散水 >>> 2次散水 >>> 養生 >>> 完成

準備する工具

レーキ・トンボ・タンパー・ジョウロ・木コテ・ほうき・平スコップ・転圧ローラー
 水道を利用できる現場＝シャワーホース（霧状の物）、連結ホース
 水道を利用できない現場＝水タンク・動力式散水機（シャワーホース）

施工手順

1. 下地調整

- 1) 雑草や障害物を取り除き、土面を均等に均します。
- 2) 砂利や碎石で必要な厚さの路盤を形成します。（施工断面図参照）
- 3) 全体を十分に転圧し締め、路盤を平坦にしてください。
 （路盤に不陸が出ている場合、表層面の不陸やクラックの発生の原因に繋がりますので入念に仕上げて下さい。）
- 4) 下地散水
 路盤や舗装止め（縁石、型枠等）を十分に散水して下さい。（舗装散水時に水分が路盤や舗装止めに取られないため。）
- 5) 舗装見切り（縁石・見切り箇所）を汚さないため、養生テープ等で養生を行って下さい。

2. 敷き均し・転圧

- 1) ウィーガード／ウィーガード御影を舗装箇所に必要な量を配置して下さい。

舗装厚4cm	70kg/m ²	2.8 袋
5cm	87.5kg/m ²	3.5 袋
6cm	105kg/m ²	4.2 袋

 （ロス分は含まず）
- 2) 舗装面に舗装厚に合わせて均一に舗装材袋を並べて下さい。
- 3) 袋を開封してレーキやトンボ・木コテ等で、舗装厚の10%程高く均一に敷き均して下さい。
 なお舗装止め（縁石、型枠等）の角も足踏みやタンパー等で十分に押し固めて下さい。（強度が均一になるポイントです。）
- 4) レーキやトンボ又は定木等で平坦になる様敷き均して下さい。（仕上がりが平坦になるポイントです。）
- 5) 防草対策以外で施工する場合は、転圧ローラーまたはタンパー足踏み等で、舗装面全体を十分に締め固めた後レーキや定木にて引き均しを行って下さい。
- 6) 敷き均し後、自在箒や大き目な刷毛で表面を同一方向に軽く均してローラーやレーキの跡を消すことにより、完成後より自然な舗装面に仕上がります。
- 7) ウィーガード／ウィーガード御影は散水後わずかな収縮が発生するため、小面積の場合は目地の設置は不要ではありますが、大きな面積の場合はクラック防止の為目地の設置が必要になります。目地間隔は歩道の場合2m間隔、広場の場合は2m×2mを基本に設置して下さい。

3. 1次散水

噴霧器等（出来るだけ霧状）を使って、全体をやさしく均一に散水して下さい。清水（水道水）を使用してください。水量は表面が濡れる程度。散水時の足跡はほうきで均しながら順次散水して下さい。

※整地した表面が崩れないように全体を濡らして引き締める程度、散水量が多過ぎると固化材が流出し、骨材表面の露出により本来の仕上がり時の色調と異なりますのでご注意ください。



固化材が流出した仕上がり（グレー）



通常の仕上がり（グレー）

4. 2次散水（目安時間 1次散水後 夏場：約30分～1時間、冬場：約1時間～2時間）

手で押さえて跡が残らない程度に硬化したら散水可能。ジョウロ（シャワーホース）を使って均一に散水して下さい。清水（水道水）を使用して下さい。
 水量は規定量（1㎡あたり厚さ4cm：約15L、厚さ5cm：約19L、厚さ6cm：約23L季節や厚みにより変動あり）目安としては水が薄く浮き上がる程度に散水して下さい。
 散水量が不足すると下層部まで水が浸透しないため、硬化不良やクラックの発生原因になりますのでご注意ください。

5. 養生

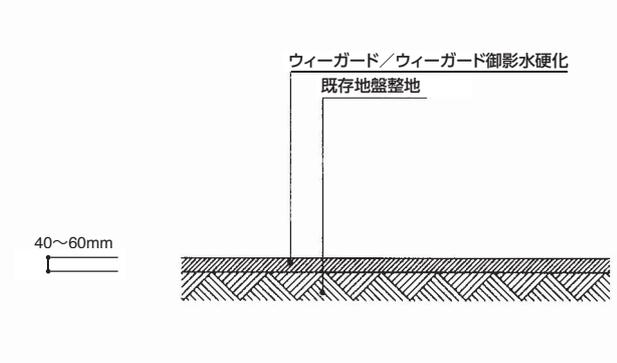
- 1) 散水後、ブルーシートや農ポリにて養生が必要です。舗装材の湿潤状態を作ることで、舗装材の強度を上げ、クラックの発生や表面のドライアウトによるポロ付を抑えることができます。
- 2) 夏季においては、暑さにより散水後に表面乾燥によるドライアウトが起こりやすく、冬季においては低温による表面凍結が発生することを防ぐため、養生マット、ブルーシート、農ポリシート等で舗装表面をキズつけない様に養生し、夏季は4日以上、冬季は1週間以上の目安で養生して下さい。
- 3) 養生シートは風等で飛ばされない様しっかり土糞等で抑えて下さい。
- 4) 養生期間は、絶対に乗らないで下さい。

*冬季気温が4度以下でやむをえず施工する場合は、下記注意事項を考慮して施工して下さい。

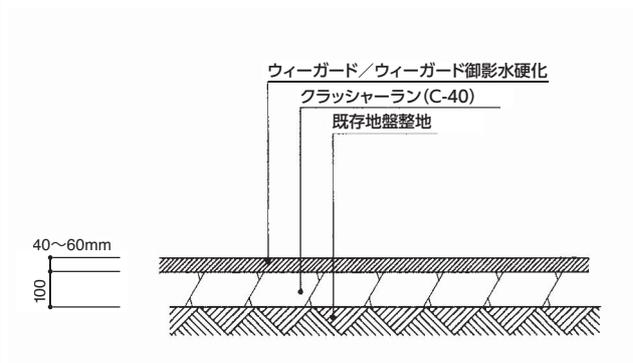
- ①散水は暖かい昼ごろまでに終了して下さい。
- ②日陰の低温場所では施工しないで下さい。
- ③散水後、養生マット等で加温養生して下さい。

6. 完成

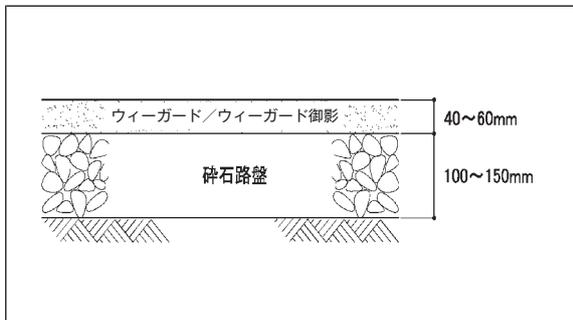
施工断面図（防草仕様）



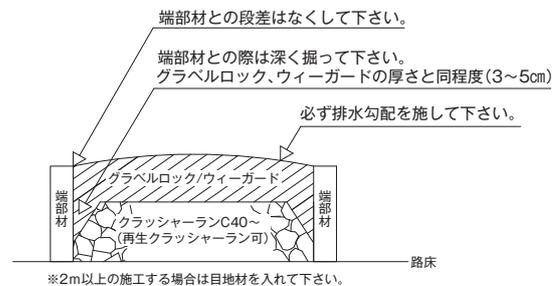
施工断面図（軟弱地盤用）



施工断面図（軽～重歩行仕様）



■ 端部処理について



使用目的による施工厚（1㎡あたり）

施工厚	40mm	50mm	60mm
使用量(kg)	70	87.5	105
必要袋数 (25kg/袋数)	2.8	3.5	4.2
使用目的	防草及び公園園路等における 人員程度の交通	左記に加え、より多くの人員及び 軽車両(自転車)程度の交通	左記に加え、管理車両・緊急車 両等の通行が想定される場合
路盤	砕石等を使用し、 100mm程度の路盤を施工する	砕石等を使用し、 100~150mm程度の路盤を 施工する	砕石等を使用し、 150mm以上の路盤を施工する

フローベーズ レギュラー／スモール

繊維化ウレタン樹脂FB-U1000を使用する場合

土間コンクリート下地に10mm厚施工（レギュラー）
土間コンクリート下地に5mm厚施工（スモール）



1 下地処理
施工現場清掃作業

※事前にP21「フローベーズ施工後の生活臭について」のご注意を必ずご参照下さい。



2 施工下地にプライマーを塗布
プライマーの塗付可能面積の目安
ウールローラー:約150g/m²
刷毛:約100g/m²
(使用する塗付工具により異なります)



3 樹脂の配合
資材(骨材)を容器に入れます。
練り合わせる樹脂に見合う分量
樹脂1.25kg / レギュラー骨材20kg
樹脂2.25kg / レギュラー骨材40kg

樹脂の配合：大面積の場合（樹脂計量）



4 主剤(A)を計量。



5 計量した主剤(A)に繊維化強化剤(B)を計量しながら入れて下さい。
硬化促進剤を使用される場合は、この時点で入れて下さい。本体に記載してある使用方法を、ご確認ください。

樹脂の配合：小面積の場合（小分けセット）



4 樹脂の攪拌容器に主剤(A)と繊維化強化剤(B)を入れて下さい。
硬化促進剤を使用される場合は、この時点で入れて下さい。本体に記載してある使用方法を、ご確認ください。
※小分けセットの容器は、アルミパックに変更しております。



5 骨材と樹脂を均一に混ぜ合わせて下さい。
※攪拌不足ですと施工不良(強度のパラツキ)の原因になります。



6 合材の作成
主剤(A)と繊維化強化剤(B)が均一になるまで混ぜます。



7 骨材に投入
攪拌した樹脂を骨材に投入します。



8 混ぜ合わせ
骨材と樹脂を均一に混ぜ合わせて下さい。
※攪拌不足ですと施工不良(強度のパラツキ)の原因になります。



9 均し作業
施工場所に骨材を流し込みます。

施工要領



10

均し仕上げ作業
仕上げは金ゴテを使用し、平滑になるように十分押さえながら同時に施工厚を確認し、仕上げていきます。



バーナーで熱を加えると、金ゴテの滑りが良くなります。



均し作業における注意事項
樹脂溜まりが来ると、写真のように発泡状態となります。樹脂溜まりがある場合は、まわりの骨材とよく混ぜ合わせて下さい。



11

仕上げ作業
金ゴテ均し終了後、硬化する前に滑り止め(ノンスリップ材)を撒いて下さい。
※ノンスリップ材を撒きすぎると、色むらの原因になりますのでご注意ください。



12

仕上げ作業
大面積の場合、20㎡ごとに目地きりを入れます。



13

完成
硬化時間の目安
歩行可能/施工完了後6時間程度
車両乗り入れ可能/施工完了後12時間程度
※上記硬化時間の目安は外気温度25℃の設定です。但し、冬場の外気温度5℃以下の場合2倍以上かかることがあります。

【アスファルト下地の場合の施工手順】

アスファルト下地に施工する場合は左ページに掲載されているフローピース施工手順の1と2部分を下記の手順に従って下さい。



下地処理
施工現場清掃作業



下地に振るい砂を散布し表面が平滑になるようホウキ等で均してください。



砂を均した状態



樹脂の配合

※左ページ上段 3 へ

- ※土間コンクリート下地には、フローピースの透水性を活かすために、排水処理を考慮し必要に応じて適切な処理を行って下さい。
- ※プライマーは塗布後、約1時間(外気温25℃条件)で乾燥しますが、未乾燥のままフローピースの施工をしても強度上問題はありません。但し、靴に付着し周囲を汚すことがありますので、養生して下さい。
- ※施工に使用する容器や工具類は必ず専用のものをご使用下さい。汚れた容器やハンドミキサーを使用すると色むらが発生する可能性があります。
- ※外気温5℃以下での施工は避けて下さい。
- ※風の強い日や降雨の予想される日には施工を避けることをおすすめします。
- ※必要施工厚(レギュラー骨材10mm以上・スモール骨材5mm以上)を順守して下さい。施工厚が少ないと強度不足のため剥離することがあります。
- ※アスファルトは伸縮が大きく、クラックを防止する為、砂による分離層が必ず必要になります。
- ※アスファルト下地にフローピースを施工する際は、必ず施工厚を10mm以上とって下さい。スモール骨材での施工は避けて下さい。
- ※下地のアスファルトに凹凸がある場合や、クラックなどが生じている場合には、施工できないことがありますので、ご相談下さい。

ハイブメント

フローベーズ 色むら／すべり止め加工／メンテナンス

施工要領

◎「色むら」が発生した事例の中で下記のものゝ主ゝ要因としてあげられます。(※1)

1 使用する工具類 2 材料の骨材 3 天候

1-1. 使用する工具類の要因その1

原因 樹脂と骨材を混合する際にモルタルの付着した容器や攪拌機を使用した場合。

内容 攪拌中、工具類に付着したモルタルが削れて、細かい粒子となって樹脂と骨材の中に混入されます。多少の濃淡の差はありますが施工をした順に「黒っぽい色むら」が発生します。

※モルタルの付着した容器・工具は、絶対使用しないで下さい。

1-2. 使用する工具類の要因 その2

原因 樹脂と骨材を混合する際に、使用する攪拌機を直接地面に置き、土などが付着したままの状態ゝ攪拌作業を行った場合。

内容 付着した土が樹脂と骨材に混入して「黒っぽい色むら」が発生します。

※土や埃の付いた工具は、絶対使用しないで下さい。

※工具に土や埃が付着しないように混合作業場所の地面を養生して下さい。

2. 材料(骨材)の要因

原因 特に自然石骨材でロット違いのものを合わせて使用した場合。

内容 色むらの状態は、骨材自体の配合粒子の色調が原因ですのでモルタルや土の混入による「色むら」とは違う状態です。

対策 弊社では在庫品のロット管理を更に徹底し、ロットの違うものを出荷しないように致します。

※お客様のストック分と新たな手配分を合わせてご使用になる場合は、袋に記載されているロット番号が同じかどうかご確認ください。

※ロットの違う骨材で施工する場合は、同一比率で骨材同士を混ぜ合わせて使用して下さい。

3. 天候の要因

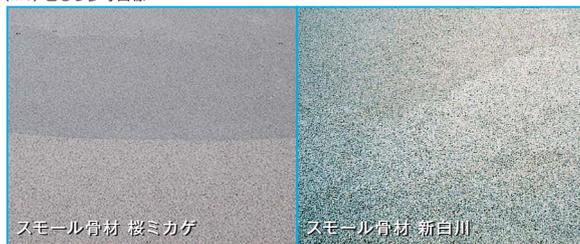
原因 風のあるときの施工または施工途中で強風・突風があった場合。

内容 施工したフローベーズの表層が完全硬化前に強風・突風で飛ばされてゴミ・埃が表層の樹脂に付着して「色むら」となります。

※強風時での施工は避けて下さい。また、施工途中や施工後の完全硬化前に強風・突風の恐れがある場合は、状況に応じた対応をお願い致します。

※ゴミ・埃の付着による「色むら」を防止するため、施工場所の周辺の養生やフローベーズを施工した部分の養生をしていただくことをおすすめします。

(※1) 色むら参考画像



【すべり止め施工(事後施工の場合)】

フローベーズのすべり止め施工は、砂利形骨材及びガラス骨材を使用される現場については、必ず同時施工をおすすめします。この施工方法は、すでにフローベーズが施工済みの現場に事後施工する場合のものです。



1 施工場所の表面のゴミ・汚れを除去して下さい。汚れのひどい場合は、デッキブラシ等で水洗いし乾燥させてから施工して下さい。



2 トップコートを施工面積に合わせて主剤と硬化剤を計量し、十分に混ぜ合わせて下さい。混合比は、主剤：硬化剤が1：1です。



3 トップコートがローラーに多量に付着しないようにローラーを「シコキ」ながら作業して下さい。



4 トップコートは、ローラーで均一に塗布して下さい。多量に塗布した部分があると、数日後に「むら」となり目立つことがあります。



5 トップコートは、塗布後15分～20分(外気温25℃として)で乾燥してしまいますので、塗布作業は2～3㎡目安に順次ノンスリップ材を散布して下さい。

■すべり止め施工使用部材



トップコート
M5438 / M5439
12kgセット
施工可能面積 約75m²

トップコート
M5437
2.6kgセット
施工可能面積 約16m²



ノンスリップ材
M5434
袋(500g)
施工可能面積 約25m²

■アフターメンテナンス施工使用部材



トップコート
M5438 / M5439
12kgセット
施工可能面積 約75m²

トップコート
M5437
2.6kgセット
施工可能面積 約16m²

【アフターメンテナンスについて】

フローベーズの自然石及びガラス骨材を使用して施工された場合に1ヶ月に1～2回水洗いをされますと施工当初の光沢が保持されます。この施工方法は、骨材の表面が車の乗り入れによる損傷や紫外線及び酸性雨による光沢の減少に対する補修施工です。

状況により異なりますが、フローベーズを施工後、2年前後に行うことにより景観性を保つことが出来ます。



1 デッキブラシ等で水洗いし、乾燥させてから施工して下さい。



2 トップコートを施工面積に合わせて主剤と硬化剤を計量し、十分に混ぜ合わせて下さい。混合比は、主剤：硬化剤が1：1です。



3 トップコートがローラーに多量に付着しないようにローラーを「シコキ」ながら作業して下さい。



4 トップコートは、ローラーで均一に塗布して下さい。多量に塗布した部分があると、数日後に「むら」となり目立つことがあります。

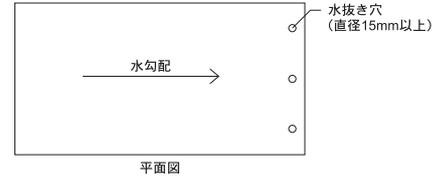
フローベーズ施工についてのご注意

フローベーズ施工後の生活臭について

- 原因** ※フローベーズの空隙部分から混入した有機物(泥・土等)が滞留した水分により腐敗臭やカビ臭が発生することがあります。
 ※動物(ペット等)の糞・尿が原因で、臭いを発生する場合があります。
- 対策** ※施工したフローベーズの下層部まで完全硬化しないうちに泥・土等が混入すると、樹脂と接着してしまい流出しません。
 泥・土等が付着しやすい施工環境では、施工後一週間程度表面をシート等で養生し、泥・土等の侵入を防止して下さい。
 ※雨水等の滞留を防止するため下記のように水抜き(排水)処理をして下さい。

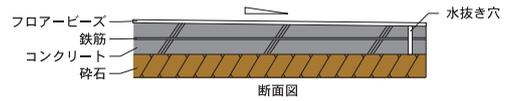
■ 土間コンクリートに水抜き穴を作る場合

- (1) 下地コンクリートに砕石路盤まで抜けるようにドリルで水抜き穴を開け加工して下さい。
- (2) 両サイドから約0.5mに開け中間は約1.0m間隔で直径15mm以上の水抜き穴を開けて下さい。
- (3) 施工時には、フローベーズを水抜き穴部分に先に埋め込み、全体を仕上げして下さい。



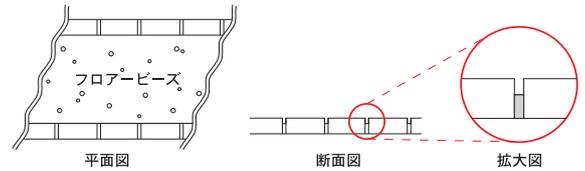
■ 縁石に水抜き加工をする場合

- (1) 敷地内の通路で敷設した見切りの縁石に水抜き加工する場合には、縁石のジョイント目地部分を加工して下さい。
- (2) フローベーズの施工厚み分だけ目地モルタルを下げて施工するか又は縁石施工後に目地部分をサンダーで5mm～10mm前後切り込んで下さい。



■ 対処方法

※生活臭が発生した場合には、臭いがフローベーズに付着して取れ難くなりますので、早期に市販されている無香料の消臭剤を散布して下さい。



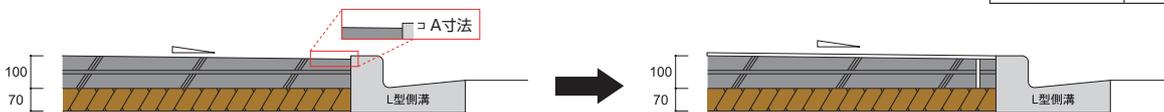
新規／既存土間コン下地での施工注意点

■ 新規土間コン下地での施工注意点

施工強度を保持するため、下記のように施工して下さい。
 ※各製品の施工厚み(標準)を確保した下地をご用意ください。

標準施工厚

商品名	A寸法
レギュラー	10mm以上
スモール	5mm以上
ゴムチップ	7.5mm以上



■ 既存土間コン下地での施工注意点

見切り部分の強度を保持するため、下記のように施工して下さい。
 ※レギュラー骨材の施工の場合
 ※必ず既存土間コンを見切り部分で幅100mm、深さ20mm分カットし除去してからフローベーズを施工して下さい。
 ※スモール・ゴムチップ骨材の施工の場合
 ※必ず既存土間コンを見切り部分で幅100mm、深さ10mm分カットし除去してからフローベーズを施工して下さい。

カット厚

商品名	a寸法
レギュラー	20mm以上
スモール	10mm以上
ゴムチップ	10mm以上



トッピング (骨材がポロポロとれてしまう現象) についてのご注意

- 原因** 1. 規定通りの施工厚みが取れていないため。
 2. 骨材が立っている状態で施工面に凹凸がある場合。(右写真をご参考下さい)
- 内容** 原因の1では、強度不足のため施工した骨材がポロポロ取れてしまう。
 原因の2では、骨材と骨材の接着が悪いためポロポロ取れてしまう。
- 対策** 必ずレギュラーでは施工厚み10mm厚、スモールでは5mm厚で施工し、表面が平滑になるように「コテ」でよく均して下さい。



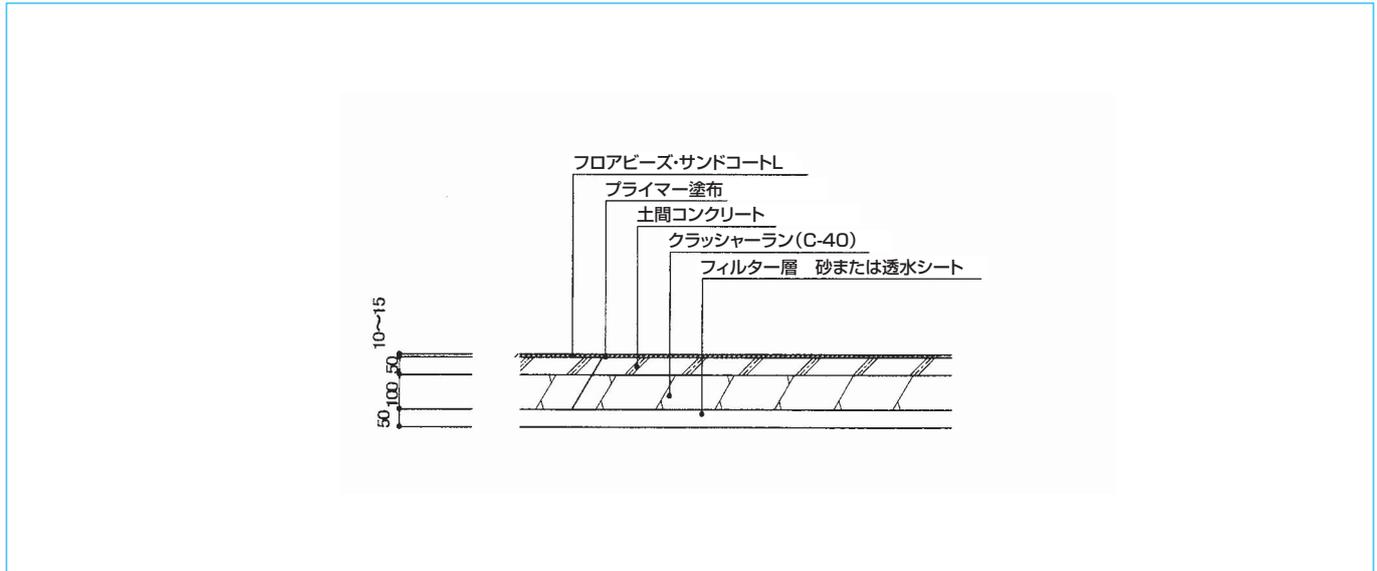
正常施工状態



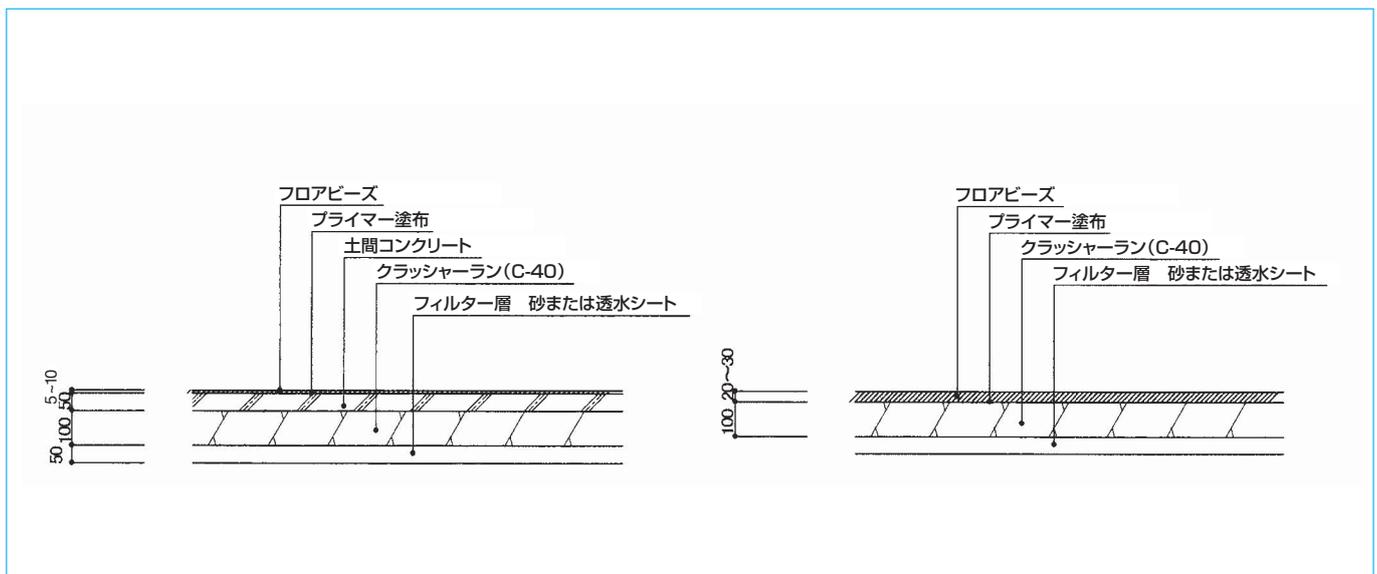
不良施工状態

フロービーズ

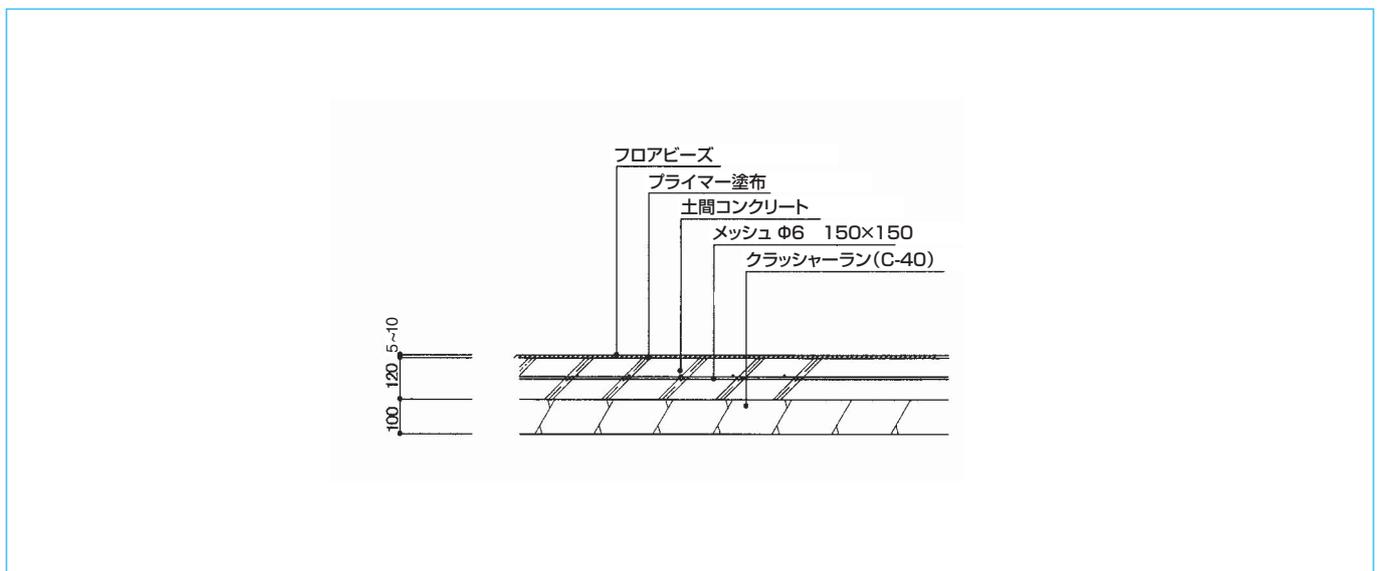
【フロービーズ・サンドコートL (歩道用)】



【フロービーズ (歩道用)】



【フロービーズ (車両用)】



ビーズロック

施工要領


1

1 回目の噴霧

バインダーを付属のスプレー容器に移し、固定したい砂利の上から均等に適量をスプレーします。



2

2 回目の噴霧

1 回目のスプレーの後、数分おいてから均等にスプレーして仕上げます。



3

完成

硬化するまで養生して下さい。
(硬化までの目安 夏場: 6 時間以上 冬場: 2 4 時間以上)

<注意事項>

- * 本製品は飛散防止を目的としており、歩行など加重がかかる場所への施工は避けて下さい。
- * 車庫目地などに使用する場合、タイヤが直接触れないようにするため、仕上がリレベルは土間のレベルよりも低く設定して下さい。
- * スプレーがかかる範囲は十分な養生をして下さい。
- * 外気温 5℃ 以下の場合は施工を避けて下さい。
- * 強風時または強風の恐れがある日は施工を避けて下さい。
- * 降雨時や降雨が予想される状況では施工を中止して下さい。
- * 施工後は完全硬化まで養生し、必ず硬化の確認のうえ開放して下さい。
- * 施工の際には保護メガネ、防塵マスク、保護手袋を着用して下さい。
- * 万が一、皮膚に付着した場合は水と石鹸でよく洗い流して下さい。目に入った場合は数分間注意深く水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けて下さい。
- * 誤って吸引するなどして、気分が悪くなった時は速やかに医師の手当てを受けて下さい。
- * 材料を保管する場合は雨水などの水濡れ及び直射日光を避けて下さい。

ワンデーダイレクト

施工要領

- 1** 碎石下地を作る。
碎石 (50mm~70mm厚: 歩行用) を施工箇所に撒く (クラッシャーランC-40推奨)。



- 2** 転圧する。
転圧機又はランパー等を用いて、碎石を十分に転圧する (仕上がリG.L.より-10mmまで転圧)。



- 3** ワンデーダイレクト施工
本製品を噴霧器等に入れ、適量を2回に分けて噴霧する。
※ 噴霧前、周囲に本製品がかからないよう、しっかり養生して下さい。
※ 誤って付着した場合、速やかに洗浄用シンナーで拭きとって下さい。
※ 1回目噴霧後すぐ2回目の噴霧を行なえます。



- 4** フロアービーズ施工
※ ワンデーダイレクト施工後すぐにフロアービーズの施工が可能です。
※ 通常通りのフロアービーズを施工して下さい。施工厚=10mm (スモール・レギュラー共)
※ プライマー処理は必要ありません。
※ ワンデーダイレクト施工面に立ち入らないよう施工して下さい。



- 5** 養生
フロアービーズ面が完全硬化するまで養生する。

<注意事項>

- * 外気温 5℃ 以下の場合は施工を避けて下さい。
- * 洗浄可能な噴霧器以外は施工後処分して下さい。

フローピース サンドコートR

施工要領



1
下地処理
 施工現場(フローピースレギュラー)の清掃
 ※フローピースレギュラーを施工の際にノンスリップ材の使用はお避け下さい。



2
充填材の敷き均し
 充填材(粉末)を適量配り刷毛やブラシで石目の間や隙間に充填しながら均一に敷き均して下さい。



3
余分な充填材を取り除く
 石表面がある程度露出する位がきれいな仕上がりになります。



4
吹きつけ(写真は噴霧器)
 樹脂を付属のスプレーや噴霧器(現地調達)で石の表面を洗い流すように均等に規定量を吹きつけて下さい。



5
完成
 硬化するまで養生して下さい。
 (硬化までの目安 夏場:4時間以上 冬場:12時間以上)



6
ノンスリップ材を撒いた場合の仕上がり
 既にフローピースを施工している現場でノンスリップ材が残っている場合、ノンスリップ材に色粉が付着し写真のような仕上がりになります。

<注意事項>

- * 外気温5℃以下の場合には施工を避けて下さい。
- * 強風時または強風の恐れがある日は施工を避けて下さい。
- * 降雨時や降雨が予想される状況では施工を中止して下さい。
- * 施工後は完全硬化まで養生し、必ず硬化の確認のうえ開放して下さい。
- * 施工の際には保護メガネ、防塵マスク、保護手袋を着用して下さい。
- * 万が一、皮膚に付着した場合は水と石鹸でよく洗い流して下さい。目に入った場合は数分間注意深く水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けて下さい。
- * 誤って吸引するなどして、気分が悪くなった時は速やかに医師の手当てを受けて下さい。
- * 材料を保管する場合は雨水などの水濡れ及び直射日光を避けて下さい。
- * フローピースを新規施工し、連続してサンドコートRを施工する場合は、フローピースが完全硬化してからサンドコートRの施工を始めて下さい。

サンドコート補修材

施工要領

* 表面に充填骨材が残ってしまった場合の除去方法

サンドコートR/Lを施工した後の表面に膜が張ったように曇ってしまった場合、サンドコートが完全硬化したあとに表面を軟らかいヤスリを使って円を描くように擦り、再度樹脂を噴霧すると曇りが軽減され本来の仕上がりに近づけることができます。(サンドコートの硬化が不十分な状態で行うと綺麗に仕上がりませんのでご注意ください。)



1
 スポンジブラシ等を使って石の表面に残った充填骨材を擦り取る。その後表面を掃いて綺麗にする。



2
 樹脂を噴霧する



3
 自然乾燥(養生)して完了。
 (乾燥までの目安:外気温25℃で1~2時間)

<注意事項>

- * 外気温5℃以下の場合には施工を避けて下さい。

フロービーズ サンドコートL

施工要領



1
下地処理
施工現場の清掃



2
プライマー塗布
プライマーが周りに付着しないように必ず養生して下さい。刷毛又はウーローラーで均一に塗布して下さい。



3
骨材と樹脂混合
容器に骨材を投入し専用樹脂を全量流し込んで下さい。



4
攪拌
骨材の表面全体に樹脂が付着するまで十分攪拌して下さい。



5
投入
施工場所に投入し流し込んで下さい。



6
敷き均し
金コテを使って平滑になるように十分押さえながら、同時に施工厚を確認しながら均して下さい。
(施工厚:15mm以上)
※バーナーで金コテに熱を加えると滑りがよくなります。

ハイブメント



7
ベースの完成
硬化するまで養生して下さい。硬化する前に作業を進めるとベースが動いて施工不良の原因になります。
(硬化までの目安 夏場:6時間以上 冬場:24時間以上)



8
充填材の投入
充填材(粉末)を適量配り刷毛やブラシで石目の間や隙間に充填しながら均一に敷き均して下さい。



9
余分な充填材を取り除く
石表面がある程度露出する位がきれいな仕上がりになります。



10
吹きつけ(スプレー)
樹脂が付属のスプレーや噴霧器(現地調達)で石の表面を洗い流すように均等に規定量を吹きつけて下さい。



11
吹きつけ(噴霧器)
樹脂が付属のスプレーや噴霧器(現地調達)で石の表面を洗い流すように均等に規定量を吹きつけて下さい。



11
完成
硬化するまで養生して下さい。
(硬化までの目安 夏場:4時間以上 冬場:12時間以上)

<注意事項>

- * 外気温5℃以下の場合は施工を避けて下さい。
- * 強風時または強風の恐れがある日は施工を避けて下さい。
- * 降雨時や降雨が予想される状況では施工を中止して下さい。
- * 施工後は完全硬化まで養生し、必ず硬化の確認のうえ開放して下さい。
- * 施工の際には保護メガネ、防塵マスク、保護手袋を着用して下さい。
- * 万が一、皮膚に付着した場合は水と石鹸でよく洗い流して下さい。目に入った場合は数分間注意深く水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けて下さい。
- * 誤って吸引するなどして、気分が悪くなった時は速やかに医師の手当てを受けて下さい。
- * 材料を保管する場合は雨水などの水濡れ及び直射日光を避けて下さい。
- * 土間コンクリート下地には、フロービーズの透水性を活かすために、排水処理を考慮し必要に応じて適切な処理を行って下さい。

フローピース／ 標準ゴムチップ・遮熱ゴムチップ・ゴムチップ

土間コンクリート下地に7.5mm厚施工



1
下地処理
施工現場清掃作業
※事前にP21「フローピース施工後の生活臭について」のご注意を必ずご参照下さい。



2
施工下地にプライマー(1液性)を塗布
塗布作業には、刷毛もしくはローラーを使います。
プライマー塗布可能面積の目安:
ウーローラー 約150g/m² 刷毛 約100g/m²
(使用する塗付工具により異なります)



3
プライマーを均一に塗布
小面積用の0.2kgで約1.5m²施工出来ます。



4
骨材投入
骨材(ゴムチップ)をポリ容器に投入します。



5
樹脂(1液性)投入
容器に樹脂を全量、流し込んで下さい。



6
攪拌
骨材(ゴムチップ)と流し入れた樹脂を十分に攪拌します。
骨材全体が濡れた感じになるくらいが目安です。
(約10分程度)
※攪拌が不十分ですと、施工不良の原因となります。



7
均し作業
合材を施工箇所へ移します。



8
均し作業
仕上げは均コテを使用し、平滑になるように十分押さえながら同時に施工厚を確認して仕上げていきます。金コテに樹脂が付着しますので、バーナーで熱を加えると金コテの滑りが良くなります。



9
均し完了
施工現場の清掃



10
養生作業
養生する前に、霧吹きで水分を加えますと硬化速度が促進されます(外気温20℃以下の場合)。表面が濡れる程度にして下さい。加えすぎは施工不良の原因となります。



11
養生
硬化するまで養生して下さい。
(降雨、ゴミ、ホコリの付着防止)
※ゴムチップ舗装が歩行可能になるまでに必要な硬化時間は約6時間(外気温25℃条件)です。但し、冬場の外気温5℃以下の場合、約2倍かかることがあります。



12
完成

<注意事項>

※プライマーは塗布後、約1時間(外気温25℃条件)で乾燥しますが、未乾燥のままフローピースの施工をしても強度上問題はありません。但し、靴に付着し周囲を汚すことがありますので、養生して下さい。
※外気温が5℃以下の場合には施工を避けて下さい。特に夜間、気温が下がる冬場にはご注意ください。

ハイブリメント

デザインピース全品

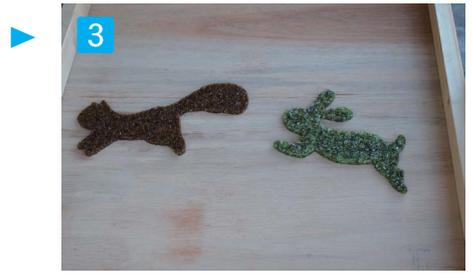
【フローピースの中にデザインピースを施工する場合】



1
下地処理
施工現場清掃作業
※施工面が平らであることを確認する。(注意1)



2
施工下地にプライマー(1液性)を塗布



3
デザインピースを置く
※仮固定したい時は必ずクリア(透明)な接着剤を使用する。(注意2)



4
フローピースを施工する
(フローピース施工要領を参照)
※周囲にフローピースを隙間なく施工します。



5
養生/完成

※注意1 接着面が平らでないとデザインピースと下地の間に隙間ができ施工後割れてしまう可能性があるため、必ず平らな下地にデザインピースを密着させて下さい。
※注意2 接着剤を多量に使用するとデザインピースの隙間から余分な接着剤が染み出てしまうため、接着剤を使用する場合は少量でクリア(透明)な接着剤を使用して下さい。

【土間コンクリートの中にデザインピースを施工する場合】



1
デザインピースにラップを被う
※生コンが付着しないようにしっかりと包むように被う。



2
コンクリート打設



3
デザインピースを埋め込む
※コンクリートがまだ柔らかいうちに埋め込む(注意3)



4
コンクリートを均す



5
養生



6
完成
硬化した後、ラップを除去する。

※注意3 コンクリートのブリージング水が多いときに設置すると、汚れ水がデザインピース内部に侵入する場合がありますので注意して下さい。

Kターフ(DUO・V) 標準施工(下地:土)

①

整地工



<下地>

- ・下地は透水性の良い土をご使用下さい。
- ・目の粗い碎石の場合、ピンが効かないおそれがあります。
- ・下地の透水性が悪い場合は排水勾配を設け、必要に応じて水下部に側溝等の排水設備を設けて下さい。(水はけが悪い場合は水たまりやカビの原因になります。)

<整地と転圧>

- ・不陸の無いように整地した後、プレート等でしっかりと転圧して下さい。転圧不足は施工後の不陸による浮きやシワの原因になります。

②

シート敷設



<シートの敷設>

- ・Kシート(またはジョイントシート)を土上に敷設します。
- ・Kシートの継目は10cm以上重なるように施工して下さい。

<ピンでの固定>

- ・平米あたり5~6本を目安にしっかりと固定して下さい。防草シートの浮きやシワが施工不良の原因になる可能性がある為、特に端部や浮きが目立つところはしっかりと固定して下さい。

③

本体準備



端部のカット

<シワ伸ばし>

- ・人工芝本体はロール状で発送されますので、巻癖がついている場合があります。巻癖がある場合は逆巻いたり、スチームクリーナー等で伸ばしてから使用して下さい。

<端部カット>

- ・人工芝本体の芝の縫目には約7mmの間隔があります。継目の施工時は端部の縫目から出ている基布をカットすることで、継目が目立たなくなります。(左図参照)

<仮敷きと細部カット>

- ・人工芝本体は裏面よりカッター(黒刃)で切るようにして下さい。表面から切ると芝糸が切れてしまい、きれいに仕上がりません。
- ・必ず仮敷きを行い、現場の形状に合わせて細部をカットして下さい。仮敷きを行わずに施工すると細部のズレやシワ等の原因になります。
- ・人工芝本体は熱により収縮が起る可能性があります。直射日光が当たりやすい場所への施工では、端部については熱による収縮を考慮し、少し長めにカットして端部を仕上げして下さい。(収縮率1.0~2.0%程度。設置条件や気象状況によってはそれ以上収縮する可能性もあります。)
- ・仮敷きの際は必ず芝目を合わせて下さい。芝目はお施主様が芝を見る方向に対して芝が逆立って見えるように施工して下さい。(左図は芝目の合わせ不良)
- ・障害物がある場合は切れ込みを入れたり、くり抜くことで障害物に合わせて加工しやすくなります。



芝目の合わせ不良



細部のカット

④

接着剤の塗布



- ・水抜き穴や継目に注意して接着剤を塗布して下さい。水抜き穴や継目から接着剤がはみ出すと芝が固まり、景観を損ねます。また、下地に水を透水させる場合、水抜き穴を塞いでしまうと十分な排水が出来ません。はみ出した接着剤は付属の拭取り剤で拭取して下さい。
- ・接着剤は下地または人工芝本体に塗布して下さい。塗布量の目安は接着剤本体に記載の塗布量をご確認ください。
- ・接着剤は継目と端部に塗布して下さい。また、浮きが見受けられる部分についても接着剤を塗布し、圧着して下さい。
- ・接着剤の溶剤が気化する際のガスで浮きが出る可能性がある為、**オープンタイムを十分取って**下さい。

⑤

人工芝本体の敷設



- ・端から順に貼り合わせると端部の調整がしやすくなります。
- ・継目については両端をつまんで貼り合わせることで芝糸が巻き込まれずに施工出来る為、継目が目立ちにくくなり、調整もしやすくなります。

左図：継目を調整し、貼り合わせている様子

⑥

養生完了



<圧着と養生>

- ・施工後、特にシワがついている場合はしっかりと伸ばし、浮きが見受けられる場合はその部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
- ・左図のように浮きが心配な部分にコンパネや土嚢袋等で養生すると施工後の浮きやシワを抑えることができます。

Kターフ(DUO・V) 標準施工(下地:コンクリート等)

①

下地



<下地の確認>

- ・新設のコンクリートの場合は養生をしっかりと取り、乾燥状態になってから施工するようにして下さい。
下地がアスファルトの場合、油分が残っていると接着剤が使用できません。
しっかりと乾燥しているかどうかで確認下さい。
(新設のアスファルトへの接着施工はお薦めできません)
- ・下地がFRPの場合、そのままでは接着できない可能性がございます。
表面を少し削ることで接着剤が馴染みやすくなりますが、接着可能かどうか試してから施工して下さい。
- ・表面の大きな不陸(凹凸)がある場合はモルタル等で表面が均一になるように補修して下さい。
- ・人工芝表面より水下方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。

<清掃>

- ・表面のゴミやホコリ、油分等を除去して下さい。
ゴミやホコリ、油分等が残っていると接着不良の原因になります。

②

本体準備



<シワ伸ばし>

- ・人工芝はロール状で発送されますので、巻癖がついている場合があります。巻癖がある場合は逆巻したり、スチームクリーナー等で伸ばしてから使用して下さい。

<端部カット>

- ・人工芝の芝の縫目には約7mmの間隔があります。
継目の施工時は端部の縫目から出ている基布をカットすることで、継目が目立たなくなります。(左図参照)

端部のカット



芝目の合わせ不良

<仮敷きと細部カット>

- ・人工芝は裏面よりカッター(黒刃)で切るようにして下さい。
表面から切ると芝糸が切れてしまい、きれいに仕上がりにません。
- ・必ず仮敷きを行い、現場の形状に合わせて細部をカットして下さい。
仮敷きを行わずに施工すると細部のズレやシワ等の原因になります。
- ・人工芝本体は熱により収縮が起こる可能性があります。
直射日光が当たりやすい場所への施工では、端部については熱による収縮を考慮し、少し長めにカットして端部を仕上げして下さい。
(収縮率1.0~2.0%程度。
設置条件や気象状況によってはそれ以上収縮する可能性もあります。)
- ・仮敷きの際は必ず芝目を合わせて下さい。
芝目はお施主様が芝を見る方向に対して芝が逆立って見えるように施工して下さい。(左図は芝目の合わせ不良)
- ・障害物がある場合は切れ込みを入れたり、くり抜くことで障害物に合わせて加工しやすくなります。



細部のカット

③

接着剤の塗布



- 水抜き穴や継目に注意して接着剤を塗布して下さい。水抜き穴や継目から接着剤がはみ出すと芝が固まり、景観を損ねます。下地がコンクリートの場合、表面排水となる為、水抜き穴は養生テープで塞いでも構いません。はみ出した接着剤は付属の拭取り剤で拭取って下さい。
- 接着剤は下地または人工芝本体に塗布して下さい。塗布量の目安は接着剤本体の塗布量をご確認ください。
- 接着剤の溶剤が気化する際、ガスで浮きが出る可能性がある為、**オープンタイムを十分取って**下さい。

④

人工芝本体の敷設



- 端から順に貼り合わせると端部の調整がしやすくなります。
- 継目については両端をつまんで貼り合わせることで芝糸が巻き込まれずに施工出来る為、継目が目立ちにくくなり、調整もしやすくなります。

左図：継目を調整し、貼り合わせている様子

⑤

養生完了

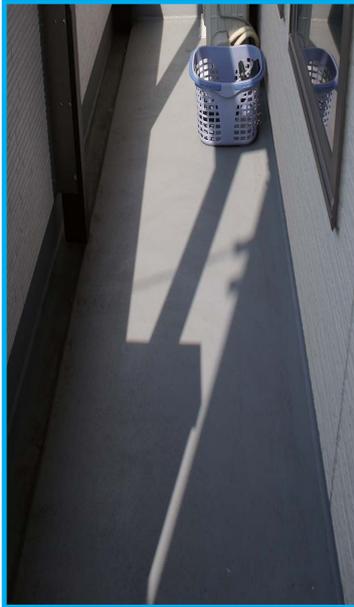


<圧着と養生>

- 施工後、特にシワがついている場合はしっかりと伸ばし、浮きが見受けられる場合はその部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
- 左図のように浮きが心配な部分にコンパネや土嚢袋等で養生すると施工後の浮きやシワを抑えることができます。

Kターフ (DUO・V) 両面テープでの施工

①

ジョイントシートの準備と
下地の確認

<ジョイントシートの準備>

- ・本製品は樹脂製品につき、温度差による伸縮があります。継目にジョイントシートを使用（別売接着剤）することで、継目の（ジョイント部）の開きを軽減します。

<下地の確認>

- ・新設のコンクリートの場合は養生をしっかりと、乾燥状態になってから施工するようにして下さい。
- ・両面テープの厚みが約1mmですので、表面に大きな不陸（凹凸）が多数ある場合は粘着力が低下する恐れがあります。モルタル等で表面が均一になるように補修して下さい。
- ・人工芝表面より水方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。

<清掃>

- ・表面のゴミやホコリ、油分等を除去して下さい。
ゴミやホコリ、油分等が残っていると接着不良の原因になります。

②

本体準備



端部のカット

<シワ伸ばし>

- ・人工芝本体はロール状で発送されますので、巻癖がついている場合があります。巻癖がある場合は逆巻したり、スチームクリーナー等で伸ばしてから使用して下さい。

<端部カット>

- ・人工芝本体の芝の縫目には約7mmの間隔があります。継目の施工時は端部の縫目から出ている基布をカットすることで、継目が目立たなくなります。（左図参照）

<仮敷きと細部カット>

- ・人工芝本体は裏面よりカッター（黒刃）で切るようにして下さい。表面から切ると芝糸が切れてしまい、きれいに仕上がりません。
- ・必ず仮敷きを行い、現場の形状に合わせて細部をカットして下さい。仮敷きを行わずに施工すると細部のズレやシワ等の原因になります。
- ・人工芝本体は熱により収縮が起こる可能性があります。直射日光が当たりやすい場所への施工では、端部については熱による収縮を考慮し、少し長めにカットして端部を仕上げして下さい。（収縮率1.0～2.0%程度。設置条件や気象状況によってはそれ以上収縮する可能性もあります。）
- ・仮敷きの際は必ず芝目を合わせて下さい。芝目はお施主様が芝を見る方向に対して芝が逆立って見えるように施工して下さい。（左図は芝目の合わせ不良）
- ・障害物がある場合は切れ込みを入れたり、くり抜くことで障害物に合わせて加工しやすくなります。



芝目の合わせ不良



細部のカット

③

両面テープの貼付



- ・両面テープは人工芝本体に貼り付けて下さい。敷地の形状にもよりますが、貼付目安は10㎡あたり3巻～4巻です。
- ・水勾配を考慮し、水路を妨げないように貼り付けて下さい。
- ・継目にジョイントシートを使用する場合はジョイントシートの中心部に人工芝本体の継目がくるように割り付けた後、ジョイントシートに両面テープを貼り付け、圧着して下さい。

④

本体の敷設と継目の接着



継目を調整し、貼り合わせている様子

＜本体の敷設＞

- ・端から順に貼り合わせると端部の調整がしやすくなります。
- ・継目については両端をつまんで貼り合わせることで芝糸が巻き込まれずに施工出来る為、継目が目立ちにくくなり、調整もしやすくなります。



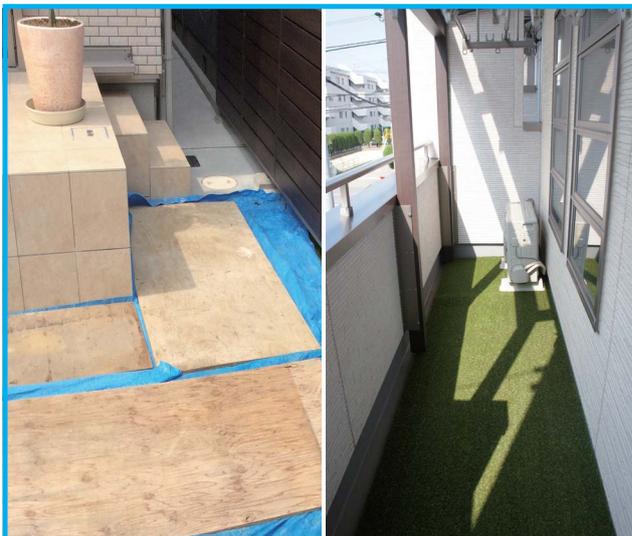
ジョイントシートに接着剤を塗布する様子（写真は下地が土）

＜継目の接着＞

- ・水抜き穴や継目に注意して接着剤を塗布して下さい。水抜き穴や継目から接着剤がはみ出すと芝が固まり、景観を損ねます。両面テープ施工の場合、継目は表面排水となる為、水抜き穴は養生テープで塞いでも構いません。はみ出した接着剤は付属の拭取り剤で拭取して下さい。
- ・接着剤はジョイントシートに塗布して下さい。塗布量の目安は塗り面積に対して 500 g / ㎡です。
- ・接着剤の溶剤が気化する際のガスで浮きが出る可能性がある為、**オープンタイムを十分取って**下さい。

⑤

養生完了



＜圧着と養生＞

- ・施工後、特にシワがついている場合はしっかりと伸ばし、浮きが見受けられる場合はその部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
- ・特に継目は圧着、養生をしっかりと行って下さい。
- ・その他、左図のように浮きが心配な部分にコンパネ等で養生すると施工後の浮きやシワを抑えることができます。

＜施工後の取外しについて＞

- ・施工後に本体の取外しはできますが、両面テープが強力な為、下地にテープが付着する場合があります。ヘラを使用して剥がすと綺麗に剥がすことができます。

Kターフ (DUO・V) 屋上施工 (ジョイントシートによる継目の接着施工)

①

下地



<下地の確認>

- ・新設のコンクリートの場合は養生をしっかりと、乾燥状態になってから施工するようにして下さい。
下地がアスファルトの場合、油分が残っていると接着剤が使用できません。
しっかりと乾燥しているかどうかを確認下さい。
(新設のアスファルトへの接着施工はお薦めできません)
- ・下地がFRPの場合、そのままでは接着できない可能性があります。
表面を少し削ることで接着剤が馴染みやすくなりますが、接着可能かどうか試してから施工して下さい。
- ・表面の大きな不陸 (凹凸) がある場合はモルタル等で表面が均一になるように補修して下さい。
- ・人工芝表面より水方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。

<清掃>

- ・表面のゴミやホコリ、油分等を除去して下さい。
ゴミやホコリ、油分等が残っていると接着不良の原因になります。

②

本体準備 (シワ伸ばし・端部カット・細部カット)



端部のカット

<シワ伸ばし>

- ・人工芝本体はロール状で発送されますので、巻癖がついている場合があります。巻癖がある場合は逆巻したり、スチームクリーナー等で伸ばしてから使用して下さい。

<端部カット>

- ・人工芝本体の芝の縫目には約7mmの間隔があります。
継目の施工時は端部の縫目から出ている基布をカットすることで、継目が目立たなくなります。(左図参照)

<細部カット>

- ・人工芝本体は裏面よりカッター (黒刃) で切るようにして下さい。
表面から切ると芝糸が切れてしまい、きれいに仕上がりにません。
- ・現場の形状に合わせて細部をカットして下さい。
細部のカットを行わず無理矢理現場に合わせてズレの原因になります。
- ・人工芝本体は熱により収縮が起こります。特に屋上では温度が高くなり易く、収縮も起こり易くなります。
端部については熱による収縮を考慮し、少し長めにカットして端部を仕上げして下さい。
(収縮率1.0~2.0%程度。
設置条件や気象状況によってはそれ以上収縮する可能性もあります。)
- ・必ず芝目を合わせて下さい。
芝目はお施主様が芝を見る方向に対して芝が逆立って見えるように施工して下さい。(左図は芝目の合わせ不良)
- ・障害物がある場合は切れ込みを入れたり、くり抜くことで障害物に合わせて加工しやすくなります。



芝目の合わせ不良



細部のカット

③

ジョイントシートの敷設と接着



ジョイントシートに接着剤を塗布する様子（写真は下地が土）



継目を調整し、貼り合わせている様子

<ジョイントシートの敷設>

- ・継目についてはジョイントシートを使用して下さい。ジョイントシートの中心部に人工芝本体の継目がくるように割り付けた後、ジョイントシートと接着剤で継目を接着します。
- ※ジョイントシートを使用し、継目を接着することで施工後の継目の開きを抑えることができます。

<継目の接着>

- ・接着剤はジョイントシートに塗布して下さい。塗布量の目安は塗り面積に対して 500g/㎡です。
- ・水抜き穴や継目に注意して接着剤を塗布して下さい。水抜き穴や継目から接着剤がはみ出すと芝が固まり、景観を損ねます。継目は表面排水となる為、水抜き穴は養生テープで塞いでも構いません。
- はみ出した接着剤は付属の拭取り剤で拭取って下さい。
- ・接着剤の溶剤が気化する際のガスで浮きが出る可能性がある為、**オープンタイムを十分取って**下さい。
- ・継目については両端をつまんで貼り合わせることで芝糸が巻き込まれずに施工出来る為、継目が目立ちにくくなり、調整もしやすくなります。

④

養生完了



圧着・養生の様子

施工完了後の様子

<圧着と養生>

- ・施工後、特にシワがついている場合はしっかりと伸ばし、継目部分で浮きが見受けられる場合はその部分をしっかりと圧着し、コンパネや土嚢袋等で養生して下さい。
- ・人工芝は日数の経過とともに下地に馴染んでいきます。

Kターフ(DUO・V) その他

施工道具

<施工時に使用する道具と用途>

- ・カッターナイフ（黒刃）
人工芝、Kシート等を加工する際に使用します。
- ・定規（鋼尺）、巻尺（スケール）
現場の採寸、直線を切るときに使用します。
※スタッフがあると長い距離を切るときに便利です。
- ・ハンマー
固定ピンの固定に使用します。
- ・マーカー（建築用ペン、チョーク、チョークライン等）
加工するラインを人工芝本体裏面に書き込むことで加工しやすくなります。
チョークラインは継目の目印として使用でき、接着剤を塗布する際に役立ちます。
- ・転圧機（プレート）、整地道具
下地の調整に使用します。
- ・掃除機またはフローア
施工後の掃除に使用します。
- ・養生用資材（コンパネ、土嚢袋等）
圧着、養生を行う際に使用します。

<その他あったら便利なもの>

- 養生テープ 継目部分の芝に貼ることで接着剤を塗布する際に接着剤が芝に付着するのを防止できます。
- 熊手 施工後に芝を立てる際に便利です。（先が尖っているものは不可）
- スチムクリナー 人工芝本体のシワ伸ばしに使用します。（長時間同じ場所を温めると芝が縮れる場合があります）

接着剤施工時の注意点

<接着不良の原因>

- ・下地が十分に乾燥しているか確認します。
- ・塗布面を清掃し、ゴミやホコリ、土砂等を除去します。
- ・接着剤が硬化する前の水分の混入は避けて下さい。

オープンタイム・貼付け可能時間の目安

Kターフ専用接着剤

施工時季	オープンタイム	貼付け可能時間 (オープンタイム後)	硬化時間
夏(25℃～35℃)	10～20分	40～60分	約1日
春・秋(15℃～25℃)	10～20分	40～60分	約1日
冬(5℃～15℃)	20～30分	40～60分	約2日

※下地の状況により変わります。

※指で触って表面に薄い皮が張り始めたら施工してください。

※接着剤に触れて粘着性があるうちは貼り合わせ可能です。

※冬場で湿気が少ない場合は、硬化する時間が少し長く(プラス1日～2日)掛かります。

※接着剤が硬化するまでは充分養生を行ってください。

※硬化速度は温度・湿度・通気性等の条件により異なりますのでご注意ください。

★1:本書でのオープンタイムとは接着剤を塗布してから貼り合わせるまでの待ち時間をさします。

その他の注意事項

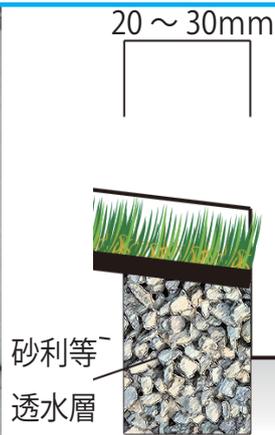
＜その他注意事項＞

- パイル長については ±2mm程度は誤差があります。
- 本製品は材質上、夏場の暑さや冬場の寒さにより伸縮が発生する可能性があります。
特に暑さによる収縮については1.0～2.0%程度の収縮が起きますが、収縮率は設置条件、気象状況により異なります。
条件によっては2.0%以上収縮する可能性もある為、ご注意ください。日照が続くような施工場所では端部に余裕を持たせて施工することをお勧めします。
- 本製品の色合いは生産ロットにより見本と多少異なる場合があります。
- 本製品は多少の色ムラがございますが、品質には問題ありません。人工芝のパイルを立たせることで色ムラは目立たなくなります。
- 使用頻度や使用状況により、パイルの磨滅を早める可能性がありますのでご注意ください。
- 本製品の裏面はパイルを保護するためのコーティングを施してあります。
コーティングを剥がすとパイルが抜けるおそれがありますので、決して剥がさないで下さい。
- 発送時にはロール状に梱包し発送する為、シワや折り目等がついている場合があります。
シワや折り目については逆巻にしたり、スチームを使用してシワや折り目を補正して下さい。
- 本製品はあくまで景観用途の製品ですので、競技用途での使用はお勧めしません。
- 人工芝の上でスライディングすると擦過傷を起こすことがあります。
- 勾配がある場所に本製品を施工した場合や、本製品が水に濡れた場合は転倒等にご注意下さい。
- 製品規格、色合いを予告なしに変更する場合があります。
- Kシートツインを砂利下で使用する場合、使用する砂利が尖っていると破れる可能性があります。
尖った砂利をご使用する際は、Kシート250(強力タイプ)をご使用下さい。
- Kシートツインは表層シートとしてお使い頂くには適していません。
表層でご使用する場合はKシート250(強力タイプ)をご使用下さい。
Kシートツインを表層でご使用した場合、熱による伸縮や紫外線による劣化が起りやすくなり、破れの原因になります。
必ず砂利下でご使用頂き、砂利は10cm以上敷いてご使用下さい。砂利が薄い場合も同様の現象が起る可能性がありますので、ご注意ください。
- 窓やガラス戸の近くに本製品を設置する場合、太陽光の反射熱により、直毛部分が縮れ枯草部分が目立つようになる可能性があります。
材質上、熱に弱い為、熱が高くなるような場所に設置する場合はご注意ください。
- 防災製品ですが、火気厳禁であり、高温のものを上に置くと変形や溶けるおそれがあります。
スチームをご使用する場合も適度に離してご使用下さい。
- 水はけの悪い場所でご使用する場合はカビ等が発生する可能性がありますので排水勾配等を設けて施工して下さい。
- 住宅の外壁と同じように使用年数の経過とともに多少色落ちする場合があります。
- カットする場合は裏面よりカッターナイフ等でカットして下さい。
また、パイルが縫い込んである部分をカットすると、パイルが多少抜けることがあります。
- 専用接着剤は水性で水分が多い為(約30%)、硬化後に若干の縮みがあります。
接着剤に含まれている水分がなくなることで硬化する為、養生期間は1日以上必要になります。
また、接着する下地が樹脂モルタル、ポリマー入りのモルタルの場合、モルタルが接着剤の水分を吸収しにくい為、硬化までに時間が掛かります。養生期間を3日以上みるようにして下さい。
同様に水分が多い下地や高湿度(80%以上)の際は固まりにくくなりますので、養生期間を十分みるようにして下さい。ただし、水分が全くない状態では使用できなくなる恐れがある為、夏場の施工で接着面の表面温度が高い場合は、打ち水を行う等をして接着面の表面温度を下げてからご使用下さい。
- 専用接着剤は乾燥する前に雨に当たると溶けてしまいます(水性の為、接着面に水が流れることで溶けます)。
雨が降りそうなときは施工を見合わせて下さい。
- 専用接着剤は凍結すると使用不可能になります。冬場の施工、保管には十分ご注意ください。

ラインターフ 標準施工

①

モルタル下地の作成



- ・土間の天端より 20 mm以上下までモルタルを入れます。モルタルは養生をしっかりと取って下さい。多少の水分はよいですが、水分が多すぎると専用の接着剤が固まらない可能性があります。
- ・モルタルの表面に大きな不陸（凹凸）がある場合は表面が均一になるよう補修して下さい。
- ・ラインターフ表面より水下方向へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。
- ・勾配先端部には砂利等で透水層（幅 20 mm～ 30 mm）を設け、排水された水を透水させるようにして下さい。

②

ラインターフの準備



- ・ラインターフの裏面に穴が開いている所（水抜き穴）がありますので、専用接着剤がはみ出さないように養生テープ等で穴を塞いで下さい。
- ・現場の目地の長さに合わせてラインターフを加工します。このとき裏面からカッター（黒刃）で切るとあまり芝糸を切らずに加工することができます。

③

接着剤の塗布



- ・下地（モルタル等）の表面にあるゴミやホコリ、油分等を除去して下さい。ゴミやホコリ、油分等が残っていると接着不良の原因になります。
清掃に水を使う場合、水たまりがあると専用接着剤が固まらない場合があります。多少の水分はよいですが、水が残りすぎないように水たまりは拭き取る等して下さい。
- ・コテ等を使用し、専用接着剤を接着面に均一に塗布して下さい。厚さ 2 mm～ 3 mm程度を目安に塗布して下さい。
- ・ラインターフ貼付後に接着剤がはみ出さないよう余幅をとるようにして下さい。

④

ラインターフの貼付

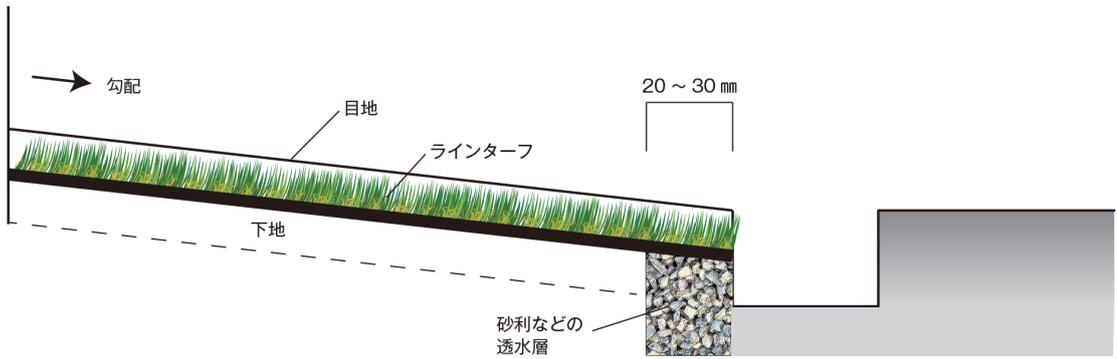


- ・専用接着剤が乾かないうちに貼り合わせます。このとき、芝糸に接着剤が付かないようご注意ください。
- ・貼り合わせる際、芝目の向きにご注意下さい。正面から見た時に芝糸が逆立って見えるように貼り合わせて下さい。
- ・継目はしっかりと突き合わせて貼り付けることで継目が目立ちにくくなります。

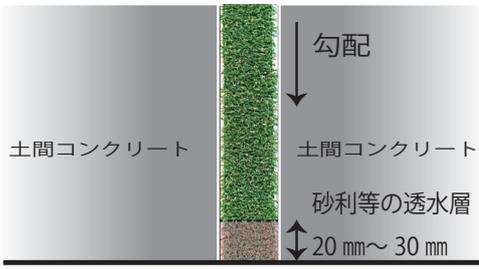
⑤ 養生



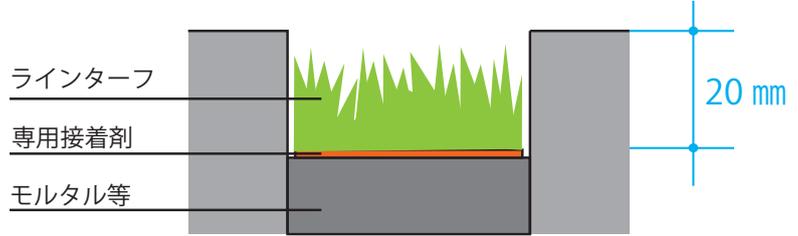
- ・重しを乗せ、均等に荷重をかけ圧着します。
特にラインターフに空気が入ったような浮きが見受けられる場合、その部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
- ・養生期間は1日以上ですが、梅雨期、冬季は乾燥・硬化が遅くなるので、3日以上養生期間を設けて下さい。
下地のモルタルに樹脂モルタルやポリマー入りのモルタルを使用する場合も硬化時間が遅くなりますのでご注意下さい。
- ・養生後に芝が倒れた状態になっている場合があります。
倒れている場合は起こすようにして下さい。芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。



ハイブメント



【水勾配先端部の上面図】



【ラインターフ施工断面図 正面】

【Before】

<ラインターフ Before After>

【After】



ラインターフ 標準施工

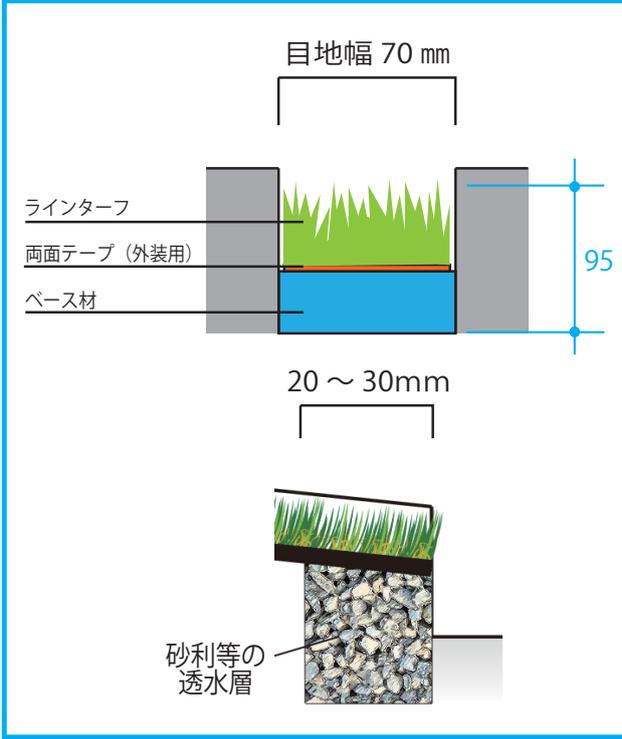
<注意事項>

- W=67mmを基本寸法としますが、+1～2mmの誤差が生じる場合があります。
- 製品の特性上、シワや折り目等がつく場合があります。その際は逆巻きしたり、スチーム等で温めたりして、シワや折り目等を直してからご使用下さい。
- 防災製品ですが、火気厳禁であり、高温のものを上に置くと変形や熔けるおそれがあります。スチームをご使用する場合も適度に離してご使用下さい。
- 芝目がありますので、芝が逆立って見えるように芝の先端方向が正面に向くように施工して下さい。
- 水はけの悪い場所でご使用する場合はカビ等が発生する可能性がありますので排水勾配等を設けて施工して下さい。
- 住宅の外壁と同じように使用年数の経過とともに多少色落ちする場合があります。
- カットする場合は裏面よりカッターナイフ（黒刃）等でカットして下さい。また、パイルが縫い込んである部分をカットすると、パイルが多少抜けることがあります。
- ラインターフ同士をジョイントする場合は、ジョイント部をしっかりと突き合わせ施工する事で継目が目立たなくなります。また、基布の部分が目立つ場合は基布をカットする事で目立たなくなります。
- 専用接着剤は水性で水分が多い為（約30%）、硬化後に若干の縮みがあります。接着剤に含まれている水分がなくなることで硬化する為、養生期間は1日以上必要になります。また、接着する下地が樹脂モルタル、ポリマー入りのモルタルの場合、モルタルが接着剤の水分を吸収しにくい為、硬化までに時間が掛かります。養生期間を3日以上みるようにして下さい。同様に水分が多い下地や高湿度（80%以上）の際は固まりにくくなりますので、養生期間を十分みるようにして下さい。ただし、水分が全くない状態では使用できなくなる恐れがある為、夏場の施工で接着面の表面温度が高い場合は、打ち水を行う等をして接着面の表面温度を下げてください。
- 専用接着剤は乾燥する前に雨に当たると溶けてしまいます（水性の為、接着面に水が流れることで溶けます）。雨が降りそうなときは施工を見合わせて下さい。
- 専用接着剤は凍結すると使用不可能になります。冬場の施工、保管には十分ご注意ください。
- 施工時、ラインターフに空気が入ったような浮きが見受けられる場合は、その部分をしっかりと圧着し、養生して下さい。
- 本製品は材質上、静電気が発生する可能性がありますので、ご注意ください。なお、静電気は乾燥により発生しやすくなる為、散水する事で多少改善致します。

ラインターフ (ベース付) 標準施工

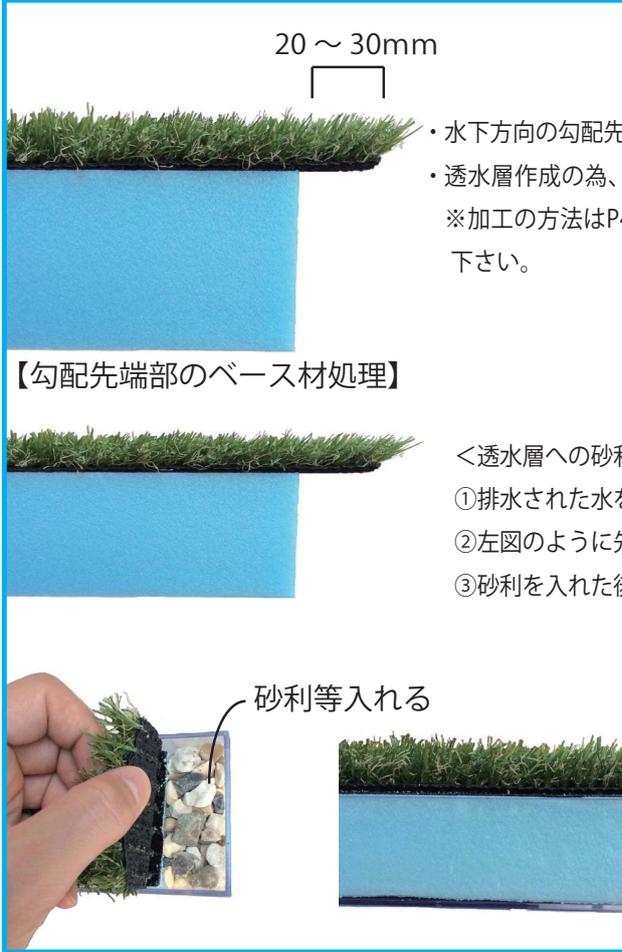
施工要領

① 下地の調整



- ・下地が土の場合、均一にならし十分に転圧して下さい。
- ・下地がモルタル等で表面に大きな不陸（凹凸）がある場合、無理やり押し込むとベース部分が割れる可能性があります。表面が均一になるよう補修して下さい。
- ・ラインターフ表面より水下方へ排水しますので、必ず排水勾配を設けて施工して下さい。
勾配の取り方が悪いと下地に水が溜まり、ベース材が浮く可能性があります。
- ・ラインターフ（ベース付）は高さが約 95 mm あります。芝糸が土間の天端から出ないように目地の深さを 100 mm とって下さい。
- ・目地の幅が均等でない、目地が真っ直ぐでない等の場合は下地を整えて下さい。下地が調整できない場合はベース材の側面や底面等を調整してから施工して下さい。
- ・下地をモルタル等にする場合、勾配先端部には砂利等で透水層（幅 20 mm～30 mm）を設け、排水された水を透水させるようにして下さい。

② 透水層の作成



- ・水下方向の勾配先端部には水が溜まり易い為、排水させる為の透水層を作ります。
 - ・透水層作成の為、勾配先端部のベース材は20～30 mmカットして下さい。
※加工の方法はP42の③ラインターフ(ベース付)はめ込み・カットをご参照下さい。
- 【勾配先端部のベース材処理】
- <透水層への砂利詰め>
- ①排水された水を透水させるために勾配先端部に砂利を入れて下さい。
 - ②左図のように先端部のラインターフを上部に開き、砂利を入れます。
 - ③砂利を入れた後はラインターフを戻して下さい。

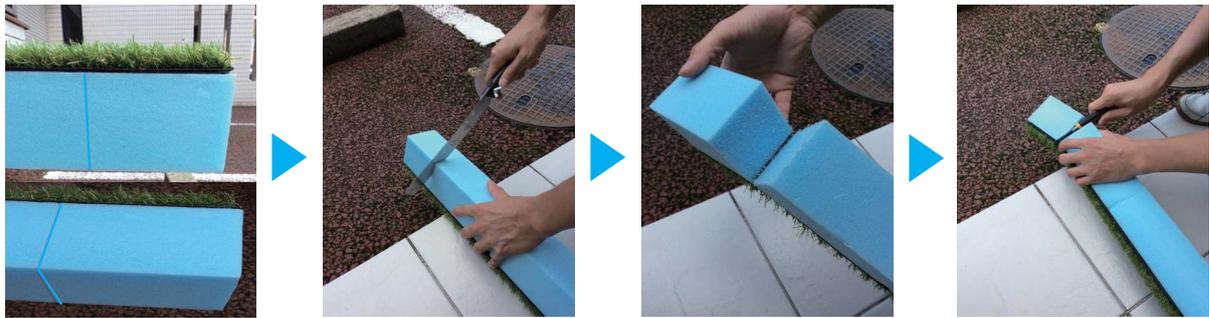
ペイプメント

ラインターフ (ベース付) 標準施工

③

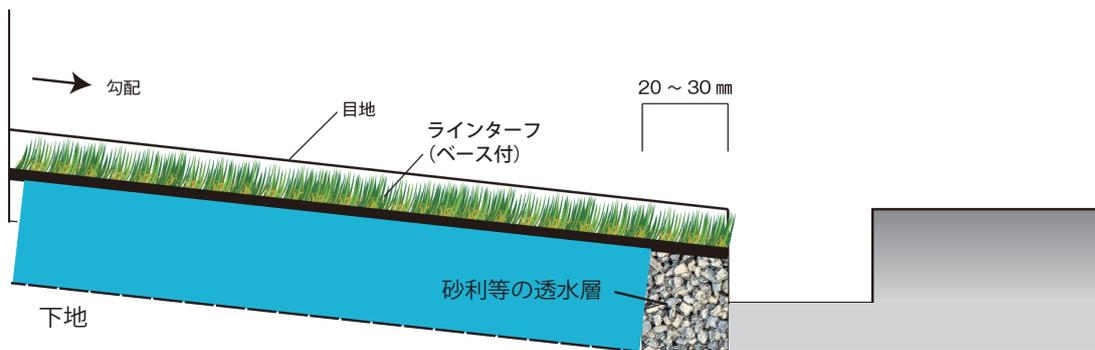
ラインターフ (ベース付) のはめ込み・カット

- 目地にはめ込むだけの簡単施工です。幅など合わない部分は目地やベース材を調整してはめ込んで下さい。
- 継目に段差ができる場合、もしくは隙間ができる場合は状況に応じてベース部分のみを削り (ラインターフは切らない)、突き合わせる事で調整することができます。
※ベース部分を加工する場合はカッターナイフ等で加工することができます。加工する際はケガには十分ご注意ください。
- 芝が倒れた状態になっている場合があります。倒れている場合は起こすようにして下さい。
芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。

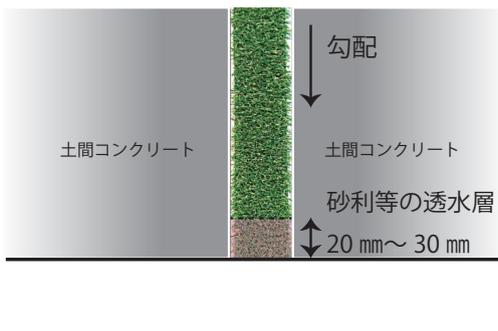


<ラインターフ (ベース付) の加工>

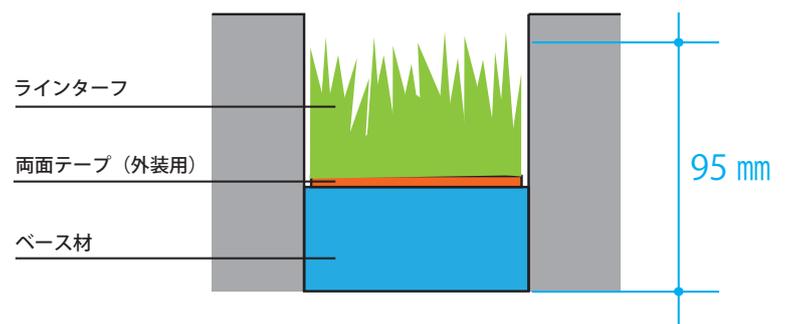
- ①ベース材にカットラインを書く
- ②カットラインに沿ってベース材をカット
(塩ビパイプ等を切る歯の細かいノコギリを使用するときれいに切れます。)
- ③ベース材がカットできたらカッター (黒刃) でラインターフを切ります。
このとき、両面テープが付いている為、多少切りにくいのでご注意ください。
また、ラインターフを切るときに裏面から切ることあまり芝糸を切らずに加工することができます。



【施工断面図】



【水勾配先端部の上面図】



【ラインターフ (ベース付) 施工断面図 正面】

＜注意事項＞

- W=67mmを基本寸法としますが、+1～2mmの誤差が生じる場合があります。
- 製品の特性上、芝が倒れた状態になっている場合があります。倒れている場合は起こすようにして下さい。
芝が起きにくい場合はスチーム等をご使用下さい。
- 防災製品ですが、火気厳禁であり、高温のものを上に置くと変形や熔けるおそれがあります。
スチームをご使用する場合も適度に離してご使用下さい。
- 芝目がありますので、芝が逆立って見えるように芝の先端方向が正面に向くように施工して下さい。
- 水はけの悪い場所でご使用する場合はカビ等が発生する可能性がありますので排水勾配等を設けて施工して下さい。
- 住宅の外壁と同じように使用年数の経過とともに多少色落ちする場合があります。
- カットする場合は裏面よりカッターナイフ（黒刃）等でカットして下さい。
ベース材をカットする場合は塩ビパイプ等を切るような歯の細かいものを使用すると容易に切ることができます。
また、パイルが縫い込んである部分をカットすると、パイルが多少抜けることがあります。
- ラインターフ同士をジョイントする場合は、ジョイント部をしっかりと突き合わせ施工する事で継目が目立たなくなります。また、基布の部分が目立つ場合は基布をカットする事で目立たなくなります。
- 施工後に目地が冠水したり、水がたまりやすくなるとベース材が浮く可能性があります。
冠水地域や水がたまりやすい場所への施工では下地にモルタルを入れ、専用接着剤で接着して下さい。
- ラインターフ（ベース付）に使用しているベース材とモルタル、コンクリートは専用接着剤で接着が可能ですが、硬化までに時間が掛かります。（接着剤に溶剤は含まれておりません）
専用接着剤は、水性で水分が多い為（約30%）、硬化後に若干の縮みがあります。
接着剤に含まれている水分がなくなることで硬化する為、養生期間は3日以上必要になります。
また、接着する下地が樹脂モルタル、ポリマー入りのモルタルの場合、モルタルが接着剤の水分を吸収しにくい為、硬化までに時間が掛かります。養生期間を3日以上みるようにして下さい。
同様に水分が多い下地や高湿度（80%以上）の際は固まりにくくなりますので、養生期間を十分みるようにして下さい。ただし、水分が全くない状態では使用できなくなる恐れがある為、夏場の施工で接着面の表面温度が高い場合は、打ち水を行う等をして接着面の表面温度を下げてください。
- 専用接着剤は乾燥する前に雨に当たると溶けてしまいます（水性の為、接着面に水が流れることで溶けます）。
雨が降りそうなときは施工を見合わせて下さい。
- 専用接着剤は凍結すると使用不可能になります。冬場の施工、保管には十分ご注意ください。
- 本製品は材質上、静電気が発生する可能性がありますので、ご注意ください。
なお、静電気は乾燥により発生しやすくなる為、散水する事で多少改善致します。
- ラインターフ（ベース付）は施工時に目地のレイタンス（※）が悪い場合、無理やり押し込むとベース部分が割れる可能性があります。必ずレイタンスを除去し下地を整えてからご使用下さい。
- ラインターフ（ベース付）に使用しているベース材は土中に埋めても加水分解しませんが、虫に食べられる可能性があります（餌にはなりません）。土の上に施工する場合はご注意ください。
- ラインターフ（ベース付）に使用しているベース材は運動靴や安全靴で踏んでも跡が付く程度ですが、ベース材がたわんでいる状態で衝撃（踏みつける等）が加えられると割れる可能性がありますのでご注意ください。
また、ヒール等先が尖っているもので踏みつけた場合は穴が開く可能性があります。

※レイタンス：コンクリートを打ち込み後、水とともに浮き上がってくる、石灰質などの微粒子。

MターフPro

施工要領
【施工要領】
1 整地・転圧

MターフPro 施工後に地盤沈下や水たまりができないように転圧機を用いて締固めと整地をしっかりと行って下さい。

2 K シートの敷設作業

整地・転圧後にKシートを敷設します。
Kシートのジョイント部は100mm程度のラップをとり固定ピンでしっかりと固定して下さい。
構造物が近くにありU型固定ピンの使用が困難な箇所はコンクリート釘等で固定して下さい。

3 MターフProの端部カット

MターフProの端部をカットします。
(裏地の芝糸縫い目横でカットし、最端部に基布が残らないようにカットすることでMターフPro 施工後の継ぎ目が目立ちにくくなります。)

4 MターフPro 仮敷・カット

芝目を合わせ全面に仮敷をして敷地に合わせ、MターフProをカットしていきます。

・ポイント・・・芝目は活動スペースのメイン方向（例えばリビング側等）に向かって敷設することで人工芝の光沢を抑え、より自然な景観になります。

・ポイント・・・人工芝は夏場等、気温の高い時期に収縮にて縮む性質がありますので、カット施工時には設置場所や商品により約1%～3%程度縮む恐れがあります。
日当たりの良い場所や気温上昇が予想される場合は端部を長めにカットし、暖かい時期を終えてから仕上げカットをお勧めします。

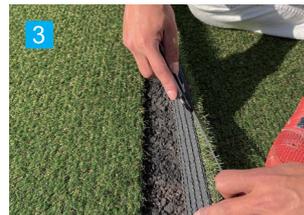
5 MターフPro 本体の圧着

MターフProのカットが終わりましたら専用接着剤をKシート上に塗布していきます。

・ポイント・・・専用接着剤本体に記載のオープンタイムを目安に時間経過後に圧着して下さい。
(接着剤は揮発しますのでオープンタイムなしでの圧着はエア溜まりが出来た状態で接着剤が硬化する場合がありますのでご注意ください。)

6 MターフProの養生・完成

圧着後、接着剤が硬化するまでの間はMターフPro内に立ち入らないよう養生期間を設けて下さい。MターフProにシワ等がある場合はベニヤ板や土嚢にて加圧して平坦になるよう養生して下さい。


【接着剤施工時の注意点】
<接着不良の原因>

- ・下地が十分に乾燥しているか確認します。
- ・塗布面を清掃し、ゴミやホコリ、土砂等を除去します。
- ・接着剤が硬化する前の水分の混入は避けて下さい。

※下地の状況により変わります。

※接着剤に触れて粘着性があるうちは貼り合わせ可能です。

※接着剤が硬化するまでは充分養生を行って下さい。

**オープンタイム・貼付け可能時間の目安
MターフPro専用接着剤**

施工時季	オープンタイム	貼付け可能時間 (オープンタイム後)	硬化時間
夏(30℃)	5～15分	30～40分	約半日
春・秋(20℃)	15～25分	50～60分	約1日
冬(10℃)	20～30分	60～70分	約1日

★オープンタイムとは接着剤を塗布してから貼り合わせるまでの待ち時間をさします。

※指で触って表面に薄い皮が張り始めたら施工して下さい。

※冬場で湿気が少ない場合は、硬化する時間が少し長く(プラス1日～2日)掛かります。

※硬化速度は温度・湿度・通気性等の条件により異なりますのでご注意ください。

【その他注意事項等】

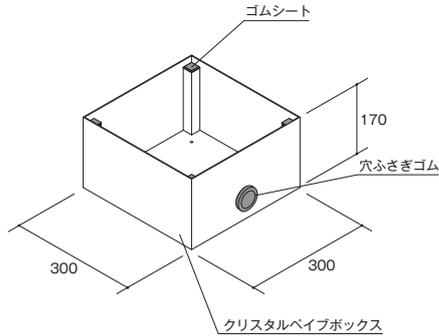
- 人工芝は他の樹脂製品と違い、温度上昇に伴い縮む特性があります。この点を施工前にお施主様を含め説明してご理解を頂いてから施工をお願い致します。
- MターフProは防災商品ですが火気は厳禁です。
- MターフProは景観用人工芝につき、車両乗り入れにより摩耗損傷する場合がありますので車両の乗り入れはご遠慮下さい。
- 施工直後は芝糸が倒れている場合があります。その場合は芝糸をレーキ等で起こして下さい。
- 人工芝はガラスの反射熱等で芝糸が縮む可能性があります。
- MターフProは生産ロットによるカラー相違があります。

クリスタルペイブ

施工要領

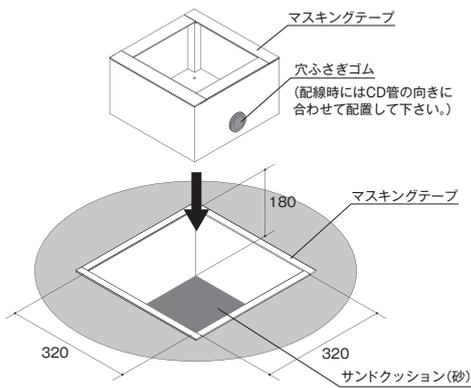
寸法図

- 1 ゴムシート4ヶ所、穴ふさぎゴムが取付けられているクリスタルペイブボックスを確認します。

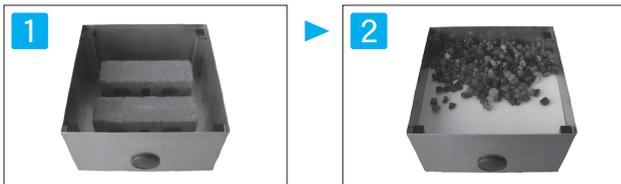


- 2 縦・横320mm、深さ180mmの角穴を用意します。

- 3 下記の図のように、マスキングテープを、製品、角穴に張ります。角穴の底面に10mmの高さまでサンドクッション（砂）を入れて、その後、クリスタルペイブボックスごと角穴に配置します。



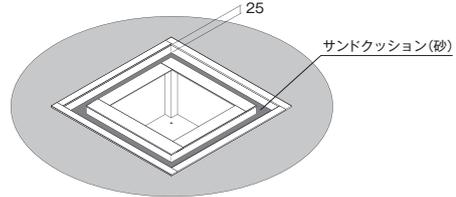
■化粧砂利使用参考例（ガラス色：クリア）



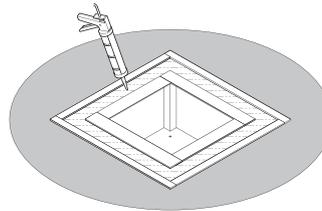
ボックス内部にレンガなどの高さ調整材を置きます。

仕切り材（市販品）を敷き、化粧砂利を適量入れます。

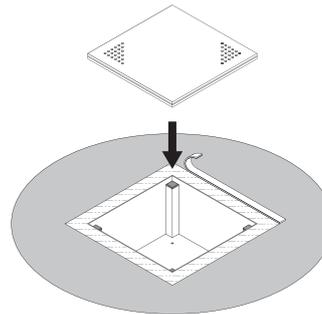
- 4 地面から深さ25mmまで、サンドクッション（砂）を全周に引き詰めます。



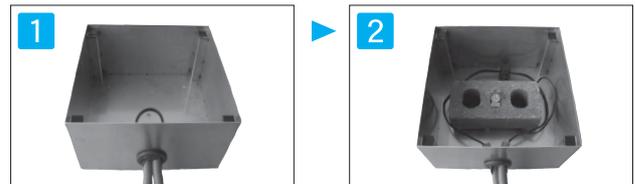
- 5 残りの部分に、コーキングを行います。



- 6 コーキングが乾いた後に、マスキングテープをはがします。クリスタルペイブボックス内部へクリスタルペイブを配置します。



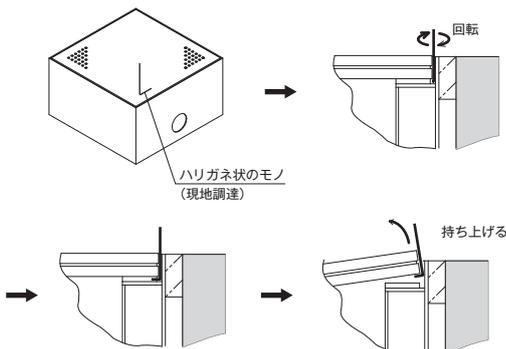
■LEDライト使用参考例（ガラス色：乳白）



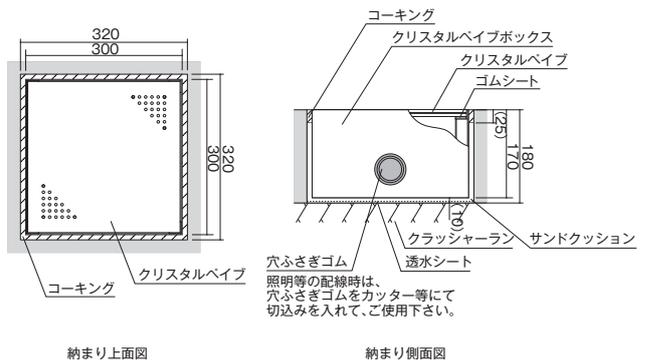
穴ふさぎゴムに切り込みを入れ、CD管を挿入し配線します。単体設置時のCD管は1本ですが、複数または連結設置時は2本になります。

使用する照明をボックス内部に設置します。

■メンテナンス時の取り外し方



■納まり図・寸法図



ペイブメント

アートクリートステンシル



1 土間コンクリートの打設
コンクリート打設前に配筋を行います。



2 土間コンクリートはコテで均し、
表面を平らにしてください。



3 生コンクリート仕様の目安
夏場：強度：21以上 スランプ：15～18
冬場：強度：21以上 スランプ：10～12



4 **ステンシル(型紙)の貼り付け**
ステンシルのサイド部分と施工範囲の区切り目とを
合わせコンクリート面に貼り付けます。



5 貼り付けたステンシルの中央部分から端側に向かって
木ゴテもしくはプラスチックコテにてステンシルが
ややコンクリートにめり込むように均していきます。

※ステンシルパターン(型紙)はツヤがある面を上側に
して使用して下さい。



6 2列目のステンシルを貼り付けるときは、前に貼り付け
たステンシルの端部と2列目のステンシル端部が重なり
合うように貼り付け、同じようにコテで均します。



7 ステンシルの端部や不必要な部分をさみ等で切り落
とします。



8 **ベースの色つけ**
カラーハードナーのベース色をセメント表面部にまん
べんなく振りかけ、ハードナーの色が濃くなるまで
待ち、表面をコテ等で均しコンクリートと馴染ませ
ます。

ただし、水分量が少ないとハードナーとの密着が不十分
となり、剥離することがあり、水分量が多すぎると色ムラ
や白華が発生し易くなります。

フリージング
流し込んだ土間コンクリートの表面に水分が浮き出して
くる現象。効果により色粉が定着します。



9 この作業を最低2回以上繰り返します。
アクセント色を付けない場合は、この作業で色付けは
終了となります。

※均しているときに下地コンクリートが引きずられて
見えてこなくなるまで繰り返す。
※ハードナーの量、コテのあて具合、水分量により表面
に様々な表情をつける事が出来ます。

<注意事項>

- ※外気温度が5℃以下の場合は施工を避けて下さい。特に夜間、気温が下がる冬場にはご注意ください。
- ※カラーハードナーが付着しないように状況に応じて養生して下さい。
- ※風の強い日や降雨の予想される日には施工を避けることをおすすめします。
- ※施工後、車両が乗り入れるまでには十分養生期間を取って下さい。
- ※夏と冬では、施工に要する時間に差が生じますのでご注意ください。特に夏の場合、土間コンクリートの乾燥が早いので、作業は迅速に行ってください。
- ※季節・天候・施工場所で差がありますが、生コンや色粉に含まれるアルカリ成分により表面に「白華」が出る場合があります。水分の影響が大きいと思われる。
 - 白華の多い場合：希塩酸で洗浄し、水洗いして十分乾燥後にシーラーを塗布して下さい。
 - 白華の少ない場合：シーラーを塗布することにより、かなり解消できます。



10 アクセントカラーの施工
ベース色の上からアクセント部分のカラーハードナーを任意の量振りかけ、軽く均してからカラーハードナーをなじませます。



11 一次養生
表面が乾燥するまで養生します(夏場で2~3時間、冬場で6~7時間目安)。



12 ステンシルの除去・補修・清掃
表面を指で軽く押しつけて色が指に付着しなくなったら、ステンシルをはがし始めて下さい。



13 補修
バリが出たり、目地にカラーハードナーが染み込んだりしたところは、目地ゴテもしくは木ゴテを使い補修して下さい。



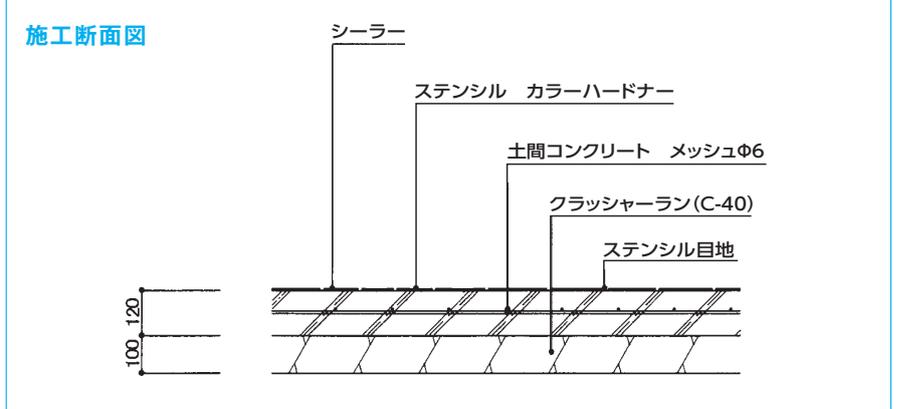
14 補修
補修作業が完了したら、柔らかめのブラシ、もしくはフロアー等にて細かなセメントの欠片等を取り去って下さい。完全に硬化してからの除去は困難となります。白華が発生している部分は、ブラシ等で表面をこすり、白華を取って下さい。



15 シーラーの塗布
(強度を保持するため、2回塗布をして下さい。)
施工後2~3日養生し、シーラーを刷毛、もしくはローラーにて塗布して下さい。
※シーラーは塗布後(晴天の状態)6時間以上養生して下さい。



16 完成



ステンシルシーラーの除去方法



1 シーラー塗布済み



2 シーラー除去
シーラー除去剤をウエスに含ませ、シーラーを除去したい部分を軽く擦るようにして拭き取って下さい。(ローラーや刷毛では拭き取る事が出来ませんので、使用を避けて下さい。)
ウエスが汚れたら新しいものと交換して下さい。(除去したシーラーで汚れたウエスのまま作業すると、取れたものが表面に再付着します)



3 シーラー除去後

フロアペイントステンシル



1 下地処理: 施工現場清掃作業。



2 下地専用プライマーを刷毛で塗布して下さい。

※目安時間: 夏場で5~10分 / 冬場で20~30分



3 接着専用プライマーを刷毛で塗布して下さい。



4 乳白色の接着専用プライマーが透明な状態(注意)になってから次工程に進んで下さい。

※目安時間: 夏場で30分程度 / 冬場で60分程度



5 ステンシルパターン(コプルストーンN)を市販のプラスチックローラーで十分密着させながら貼りつけて下さい。

※ステンシルパターン(型紙)はツヤがある面を上側に使用して下さい。



6 ステンシルパターンの貼りつけ完了。



7 パウダー(テラコッタN)に専用混和剤を混合して下さい。



8 パウダーと専用混和剤を攪拌機でよく混ぜ合わせて下さい。



9 1色使用。金コテで薄く塗り込んで下さい。塗り厚は0.5mmが目安です。

アクセントカラーを使用する場合



ベースカラー(ビーチN)の塗り込み後、速やかにアクセントカラー(テラコッタN)を塗布して下さい。ベースカラーの表面が乾いてしまうとアクセントカラーが密着せず施工不良になりますのでご注意下さい。施工には別売のアクセントカラー専用施工キットを使用すると塗布しやすくなります。



アクセントカラーを塗布したら金コテで軽く押えて下さい。



アクセントカラー使用例 施工完了。



アクセントパターン使用例 施工完了。



10

ステンシルパターンの模様がはっきり確認出来る程度に仕上げてください。表面が十分乾燥するまで養生して下さい。

※目安時間:夏場で120分程度/冬場で240分程度



11

ステンシルパターンを除去して下さい。



12

乾燥が不十分ですとステンシルパターンを除去したときに「バリ」が出やすくなりますのでご注意ください。



13

冬場の施工など白華の発生が予想される場合は必要に応じて、シーラーを塗布して下さい。



14

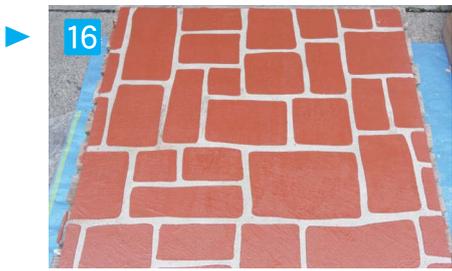
目地部に塗材が付着している場合には除去して下さい。上記の補修はシーラーを塗布してから行った方が除去しやすくなります。



15

シーラーの塗布 (強度を保持するため、2回塗布をして下さい。)

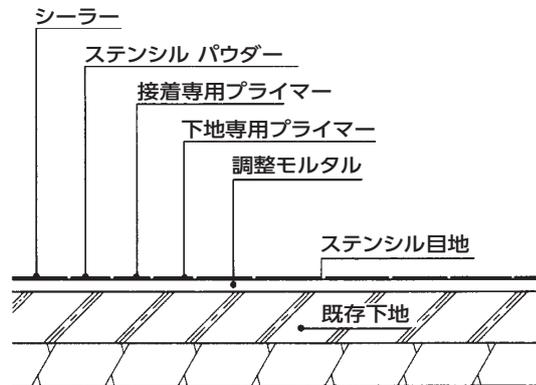
※シーラーの養生期間:
シーラー塗布後(晴天時)6時間以上



16

1色使用施工完了。

施工断面図



<注意事項>

- ※降雨が予想される場合、風が強い場合、気温が5℃以下の場合、施工を避けて下さい。
- ※表面に付着している油・泥・カビ・ペンキ等を適切な方法で除去して下さい。
- ※クラック・不陸を補修し表面を平滑に処理して下さい。
- ※既存土間コンクリートが刷毛引きや櫛引仕上げの場合や表面が荒れている場合には必ず補修し金コテで仕上げして下さい。
- ※施工する下地の表面が荒れているとステンシルパターンが密着せず施工不良の原因になります。
- ※接着用プライマーは透明にならないとステンシルパターンが密着するための接着効果が出ません。
- ※風で表面にゴミや埃が付着するとステンシルパターンの密着が悪くなり施工不良の原因になります。
- ※土足で施工面にのりと泥などが付着してステンシルパターンの密着が悪くなり施工不良の原因になります。
- ※小面積向けの商品ですが、足場が確保できる場合や幅1m程度の細長いアプローチなど両サイドにスペースがある場合、また、パターン(型紙)を使用しない場合は施工が容易におこなえます。
- ※ステンシルパターンの貼付け密着作業には、市販のプラスチックローラーをご用意いただくと便利です。
- ※写真のカラーバリエーションにはシーラーを塗布してありますのでツヤがでています。
- ※施工下地は薄塗りのため、金コテ仕上げの下地に限定されます。
- ※施工厚みは、ステンシルパターンの厚みと同じ0.5mmが目安です。
- ※アートクリートステンシルおよびデッキコートステンシルのカラーバリエーションは色調に差があります。

デッキコートステンシル



1
下地処理
施工現場清掃作業



2
施工場所を養生



3
下地処理剤の塗布
下地処理剤(純正レジン(40~50g/m²))を水で2~3倍希薄液)塗布。吹付ける合材との接着をよくするために均等に塗布して下さい。



4
ステンシル(型紙)の設置
ステンシルの設置。ツヤのある方が上です。



5
2列目のステンシルを設置するときは、前に設置したステンシルの端部と2列目のステンシル端部が重なり合うように設置して下さい。



6
ステンシルを固定
下地とステンシルの間にあまり隙間がないようにテープなので固定すると仕上がりがきれいです。



7
吹き付け用合材の作成
計量カップにて計量したレジンにパウダーを混入。混合割合はパウダー1袋に対しレジン4ℓを目安として下さい。



8
クリーム状になるまでよく攪拌
状況により、粘度の調整には水を少量使用して下さい。



9
ペースカラーの吹きつけ
吹き付け(パウダー1袋、レジン4ℓ)施工面積は約9.3m²です。
吹き付け作業は、基本的に下塗りとし仕上げ塗りの2工程です。
※施工方法により差が生じます。

<注意事項>

- ※外気温度が5℃以下の場合は施工を避けて下さい。特に夜間、気温が下がる冬場にはご注意ください。
- ※良い仕上がりに施工するためには、下地の表面とデッキコートが接合しやすいように処理する必要があります。表面に付着しているもの(油・泥・カビ・ベンキ等の塗装)を適切な方法にて除去して下さい。
- ※また、デッキコートを施工する全ての表面は、希塩酸液(10%程度)で洗浄し、綺麗に水洗いして下さい。
- ※あらかじめ施工前にコンクリート下地のクラック・不陸の補修をしておいて下さい。
- ※新規打設のコンクリートに施工する場合、下地が完全乾燥している状態で行って下さい。
- ※風の強い日や降雨の予想される日には施工を避けることをおすすめします。
- ※施工後、車両が乗り入れするまでには十分養生期間を取って下さい。
- ※季節・天候・施工場所で差がありますが、生コンや色粉に含まれるアルカリ成分により表面に「白華」が出ることがあります。水分の影響が大きいと思われる。
 - 白華が多い場合:希塩酸で洗浄し、水洗いして十分乾燥後にシーラーを塗布して下さい。
 - 白華の少ない場合:シーラーを塗布することにより、かなり解消できます。
- ※吹付け施工は2回塗りをお願いします。(参考施工厚:約2~4mm)
- ※1回目の吹付けは、土間コンクリートの表面が見えなくなるように、全体に細かく吹付けて下さい。
- ※2回目の吹付けは、吹付けむらを調整しながら凹凸仕上げるように吹付けて下さい。
- ※吹付けガン器は、リシガン製のノズル部の自在型を使用して下さい。ノズル口径は、5・6・7mmが適合サイズです。
参考例:大塚剛毛製造株式会社(建築用吹付けガン器)



10 アクセントカラーの吹付け



11 吹付け完了



12 ステンシルを除去
塗料が乾いた段階でステンシルを除去します。



13 清掃
エアガン・ブローア等を使用して清掃。
※乾燥期間:
夏場1時間、冬場(10℃)3~4時間。

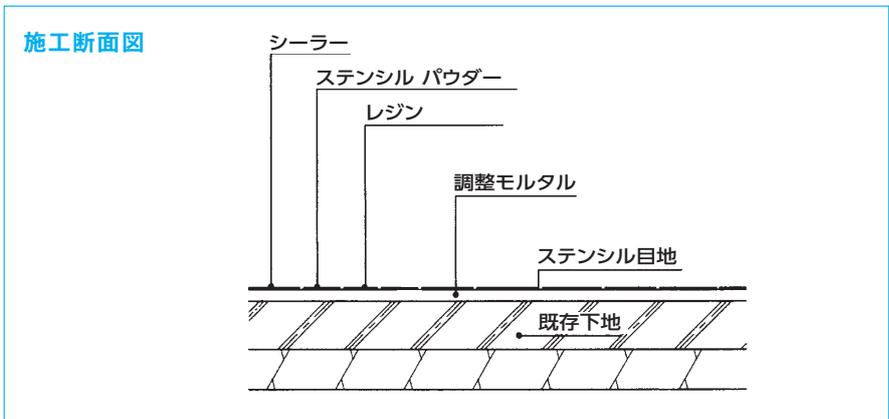


14 シーラーの塗布
(強度を保持するため、2回塗布をして下さい。)
施工後、表面が完全に乾燥したらシーラーを刷毛もしくはローラーにて塗布して下さい。溶剤系のシーラーのため、塗布後はツヤがありますが、1週間くらいで落ち着きます。
※シーラーの養生期間:
シーラー塗布後(晴天時の状態で)6時間以上養生して下さい。



15 完成
ステンシルパターン/アシュラスレイトN
ベースカラー/カメオN
アクセントカラー/デザートサンドN

ハイブメント



ステンシル白華の除去方法

施工要領



1 白華の除去
シーラー除去剤をウエスに含ませ、白華が出ている部分を軽く擦るようにして拭き取して下さい。
(ローラーや刷毛では拭き取る事が出来ませんので、使用を避けて下さい。)
ウエスが汚れたら新しいものと交換して下さい。
(除去したシーラーで汚れたウエスのまま作業すると、取れたものが表面に再付着します)



2 シーラー塗布
白華した部分を除去したら、シーラーを塗布して下さい。
※シーラー除去剤で白華が取れない場合は市販の白華除去剤をご使用下さい。

ステンシルの角欠け補修

シーラー塗布前の場合



1
角欠け部分



2
レジン塗布
レジンを原液のまま補修部分に塗布して下さい。



3
補修剤の準備
施工されているカラーと同じ種類のもので補修剤を作ります。
【使用材料】 デックコートステンシル用パウダー
 デックコートステンシル用レジン
施工されている現状の色調に合うようにレジン进行調合して下さい。
アートクリートステンシル用のハードナーは、接着剤の含有量が少なく、補修用に不向きなため使用しないで下さい。



4
コテ仕上げ
【仕上げの際に使用するコテの種類】
アートクリートステンシルの場合…金コテで表面を均して下さい。
デックコートステンシルの場合…木コテ・プラスチックで表面を均して下さい。



5
シーラー塗布
欠け部分の補修が完了したら、シーラーを塗布して下さい。

シーラー塗布後の場合



1
角欠け部分



2
シーラーの除去



3
レジン塗布
レジンを原液のまま補修部分に塗布して下さい。



4
補修剤の準備
施工されているカラーと同じ種類のもので補修剤を作ります。
【使用材料】 デックコートステンシル用パウダー
 デックコートステンシル用レジン
施工されている現状の色調に合うようにレジン进行調合して下さい。
アートクリートステンシル用のハードナーは、接着剤の含有量が少なく、補修用に不向きなため使用しないで下さい。



5
コテ仕上げ
【仕上げの際に使用するコテの種類】
アートクリートステンシルの場合…金コテで表面を均して下さい。
デックコートステンシルの場合…木コテ・プラスチックで表面を均して下さい。



6
シーラー塗布
欠け部分の補修が完了したら、シーラーを塗布して下さい。

ハイブメント

グランデコ

施工要領

寸法図



1 モルタルを置く



2 本品を置き、タイルに合わせる
※下記「固定方法」も合わせてご確認ください。



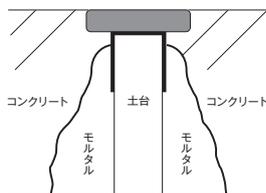
3 タイルを専用テープ養生し、土間を打つ。
※タイル面に合わせて、土間を施工して下さい。



4 面取り不要で完成

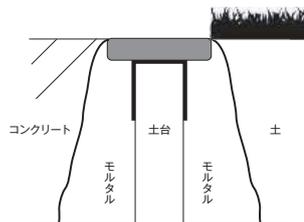
■ 固定方法

化粧目地として用いる場合



- 土間はタイル面と同じ高さ。
- 面取り不要。
- 土台をモルタルで固定。

見切り材として用いる場合

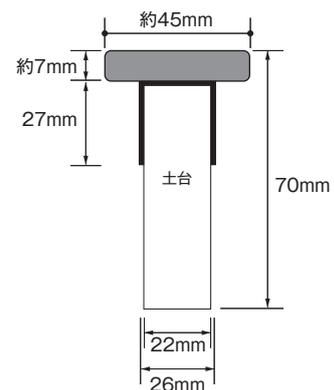


- 土間はタイル面と同じ高さ。
- 面取り不要。
- タイルの下までモルタル及びコンクリートで固定。

■ 寸法図



※タイルの寸法・厚みには多少の誤差があります。



<施工上の注意事項>

- ※タイルにモルタル・生コンなどの汚れが付着しないよう、専用養生テープを貼り、施工後はテープを剥して、汚れを除去して下さい。
- ※見切り材として使用する場合は、タイル部分が取れないように、モルタル・生コンでしっかりと固定して下さい。
- ※以下の場所では使用しないで下さい。
 - ・4t以上の車両が駐車する場所・車両の交通量が多い場所・タイヤの切り返しが多い場所
- ※本製品をハンマーなどで叩かないで下さい。特にタイル材の部分は、破損の恐れがあります。
- ※レール部(塩ビ素材)は、外気温の影響で多少の反りや歪みが生じるため、緩和策で両側中央に切り込みを施しています。状態により矯正して施工をお願いします。

<タイルの特性及び、使用上の注意>

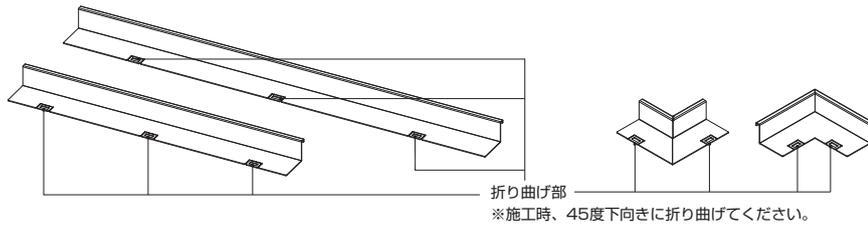
焼き物の特性として色ムラ、色幅があることはもちろんですが、同じ色の原料を用いたとしても、生産時期の違いにより色違い、色幅、風い等がずれて異なる色合い、色幅、風合いに見える場合がございます。またタイル表面が粗面(凹凸)になっておりますので、塗り目地をされる場合は凹面の中に目地材が残ります。

※お手入れの際は、水または中性洗剤を使用し、デッキブラシ等で洗浄して下さい。

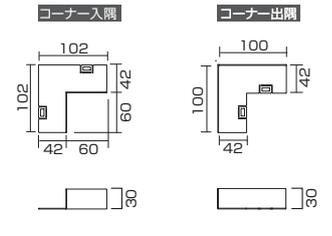
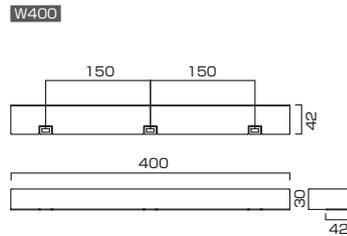
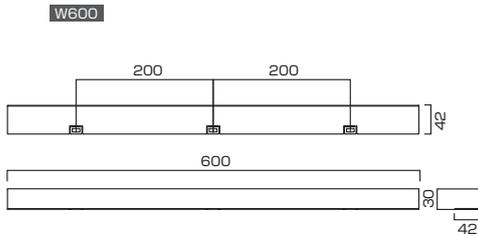
エッジサポート

各部名称

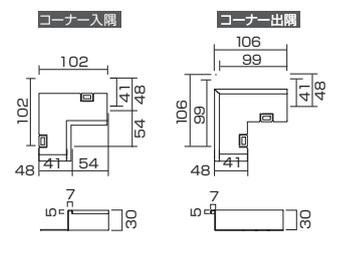
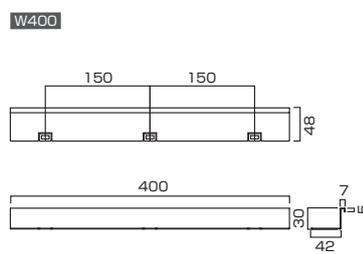
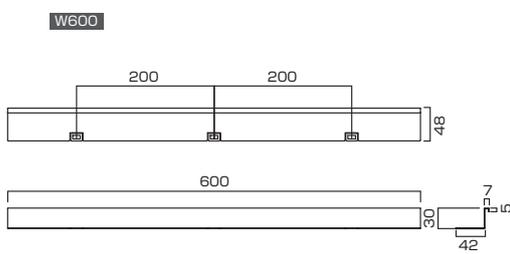
※図はスリムタイプとなります。



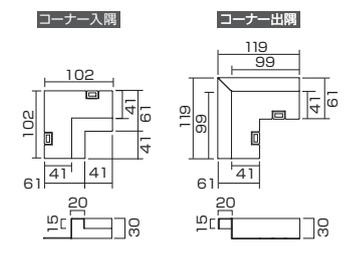
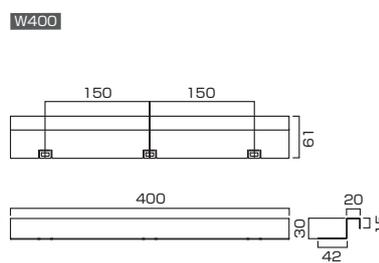
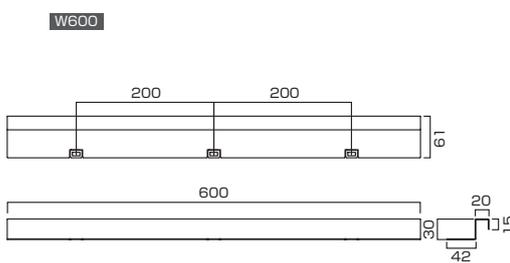
基本タイプ



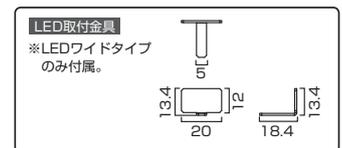
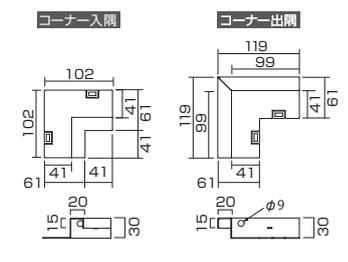
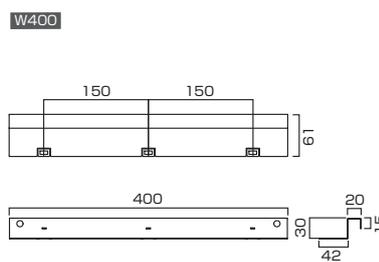
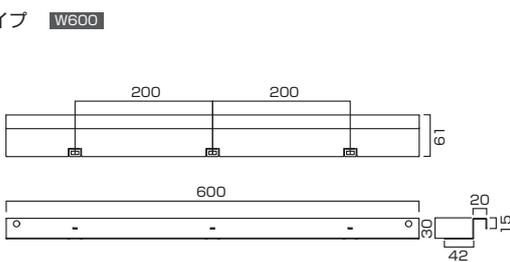
スリムタイプ



ワイドタイプ



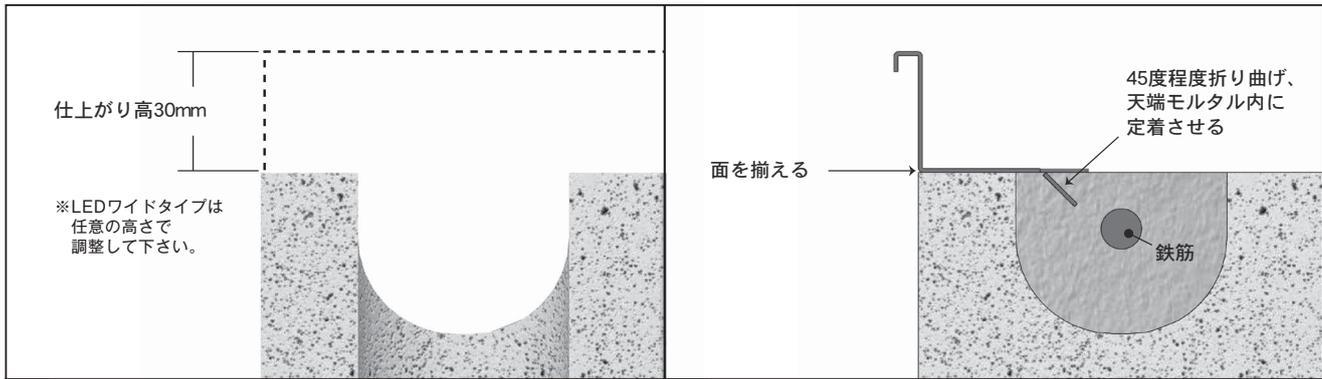
LEDワイドタイプ



各タイプの仕上げ一覧

基本タイプ	フチ無し	塗り仕上げ
スリムタイプ	7mm	塗り仕上げ 又は 薄型タイル※1
ワイドタイプ	20mm	一般タイル※2 又は 薄型タイル
LEDワイドタイプ	20mm	薄型タイル※1 + LEDライト※3 又は 塗り仕上げ + LEDライト※3

※1 薄型タイルは厚さ3.5mmまでのタイルをご使用下さい。
 ※2 一般タイルは厚さ15mmまでのタイルをご使用下さい。
 ※3 LEDライトはD15×H10までのサイズを使用下さい。
 (推奨商品：
 LIXILエクステリアライト美彩シンプルラインライト)

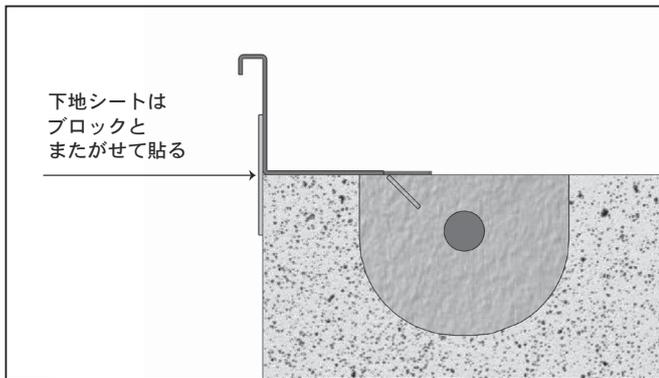


1 下地ブロック作成

下地のコンクリートブロックを花壇の仕上がり高から30mm低く施工します。最上段のブロックは横筋用ブロックを uses。

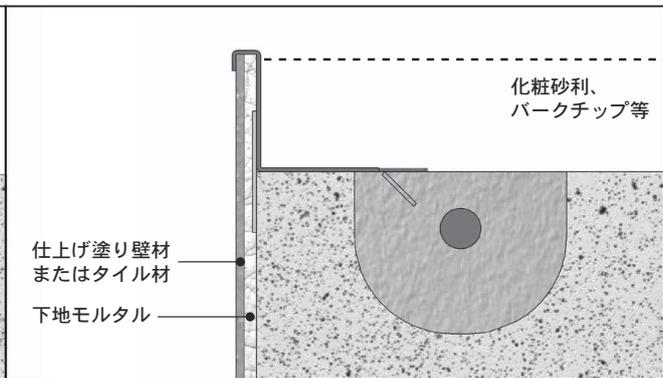
2 商品の設置

エッジサポートのベース部分にある爪を、下に約45度程度折り曲げブロックの天端モルタルに埋め込み定着させ、本体の立ち上がりブロックの面を揃えて配置します。（連続して使用する場合は立上り裏面に養生テープ等で貼り合わせ、ずれないように注意してください。）



3 下地シートの貼り付け

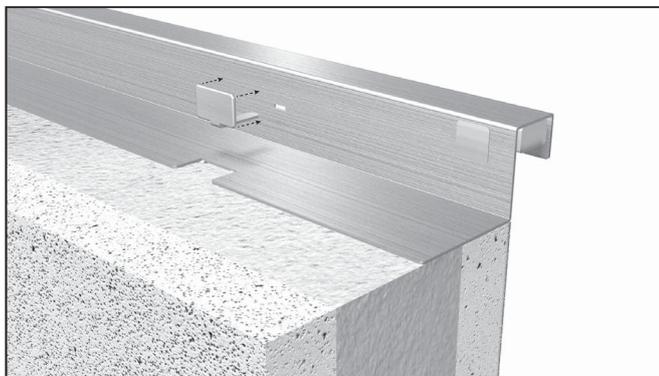
付属の下地シートをブロックとエッジサポートの立上り面をまたがせて貼り付けします。



4 仕上げ

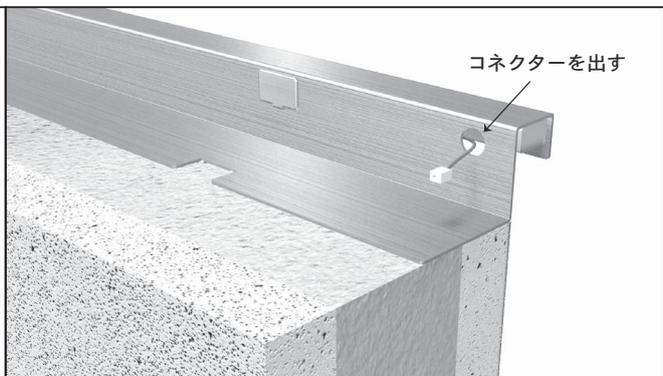
ブロック部分とエッジサポート立上り部分を同時に仕上げます。花壇は化粧砂利やバークチップ等で覆います。

LEDワイドタイプのみ「4. 仕上げ」の前に下記の工程を行ってください。



LED取付金具の設置

LED取付金具を本体に差し込み、両面テープで本体に固定します。LEDライトを金具の上に乗るように設置します。



LEDライトの取付

テープを剥がし、配線用の孔（φ9mm）からコネクター部分を内側へ通します。通した孔は市販の防水テープ等で塞ぎます。

エッジマイスターⅡ

本体セット



セット内容 本体×2本 ストレートジョイント×2個

別売りオプション



ストレートジョイント



90度コーナー材



1 本体にストレートジョイントを差し込みます。



2 差し込んだ状態



3 根切りを行います。



4 エッジマイスターを設置します。



5 土を埋め戻し転圧をかけ設置完了です。

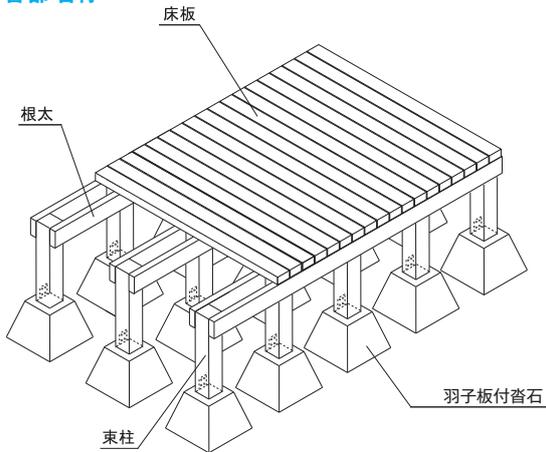


直角の箇所には別売りオプション「90度コーナー材」をご利用下さい。

エコアコールウッド (根太仕様)

施工要領

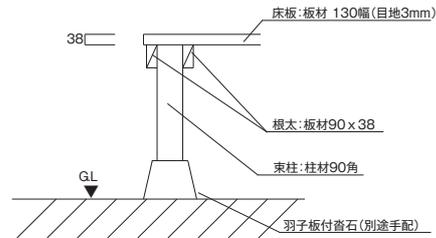
■ 部材各部名称



■ 材料一覧

- 束柱 90角
 - 床板・根太・幕板 (幅130・90・180)
 - タッチアップ塗料 *スタンダードカラー・アンティークカラーのみ (小・大)
 - コーススレッド (組み立てビス) (30本入り) 長さ65mm
- ※節、欠けがあるものは裏返しをするなどし、選んでご使用下さい。

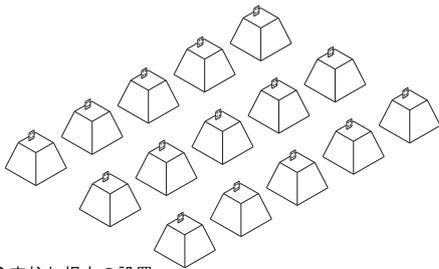
■ 参考断面図



■ 施工手順

1. 地盤整備

- 地面を十分に転圧し、水平に調節して下さい。
- 羽子板付番石 (別途手配) を配置して下さい。

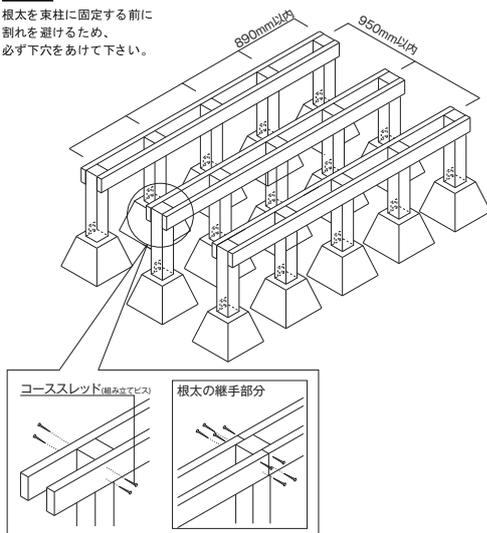


2 束柱と根太の設置

- 束柱のピッチ及び根太ピッチは出幅方向は950mm以内、間口方向は890mm以内として下さい。
- 束柱は、必要に応じて希望の長さに切断して下さい。
- コーススレッド (組み立てビス) で根太を束柱に固定して下さい。

注意

根太を束柱に固定する前に割れを避けるため、必ず下穴をあけて下さい。

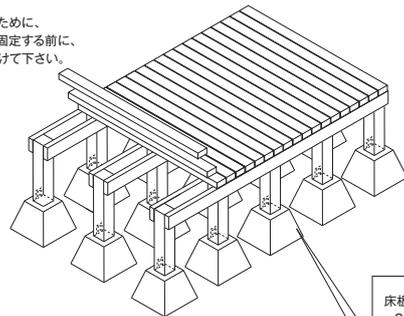


3. 床板の取付け

- 2列目以降はスパーサーを用いて3mm隙間(目地)をあけ、床板上面から根太に向かって、コーススレッド (組み立てビス) で固定して下さい。

注意

割れを避けるために、床板をビスで固定する前に、必ず下穴をあけて下さい。



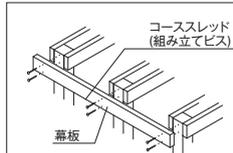
注意

床板の固定は、端からコーススレッド (組み立てビス) を各根太に2本ずつ固定して下さい。

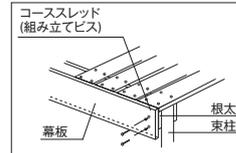
4. 幕板の取付け

- 幕板に下穴をあけてから、コーススレッド (組み立てビス) で固定して下さい。
- 出幅方向は束柱に2本、間口の外側幕板にも束柱のある位置へ2本ずつ固定して下さい。

● 出幅方向



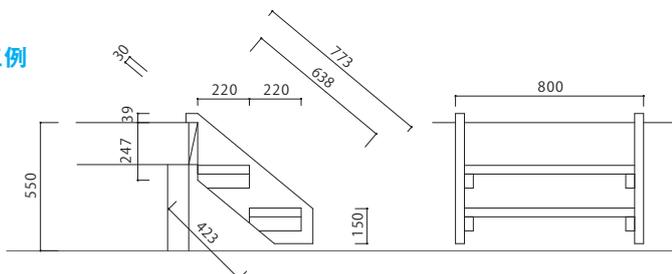
● 間口方向



5. タッチアップ塗装

必要に応じて床板等の表面、木口にタッチアップ塗装をして下さい。

■ 参考 階段施工例



- 38×220×800~850 4枚 → L=4000 1枚
- 38×90×220~250 4枚 → L=3000 1枚
- ビス 65mm 26本 → 1袋

ウッド

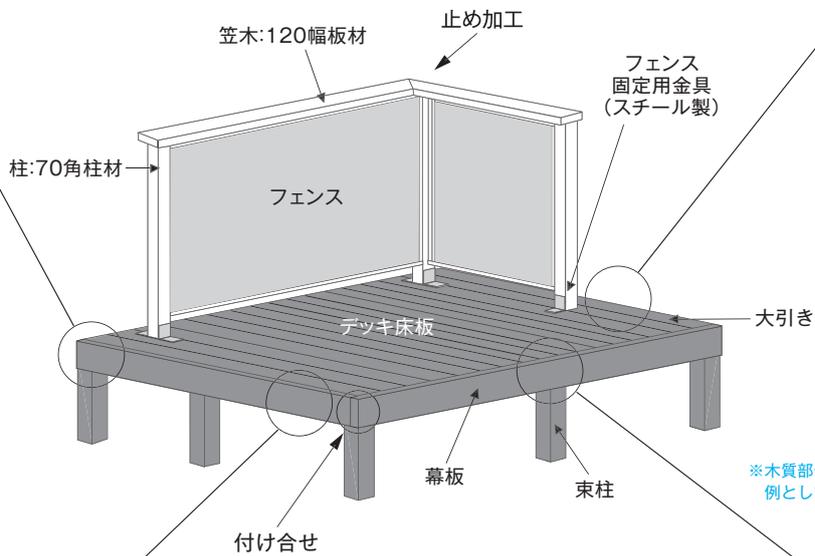
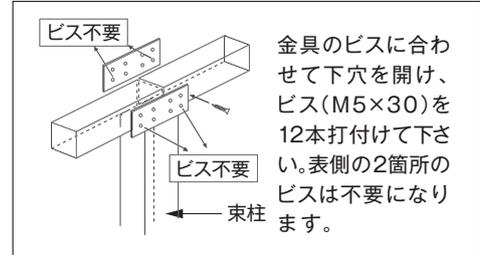
アマゾンジャラ／ウリン

■ デッキ部品及び納まり図

■ 幕板の取付け

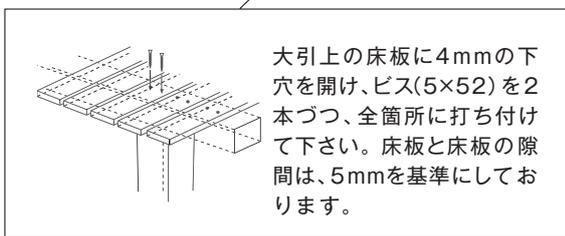


■ 束柱と大引きの連結取付け

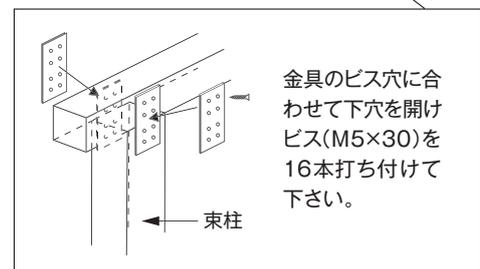


※木質部分にはすべて例としてウリン材を使用しております。

■ 大引と床板の取付け



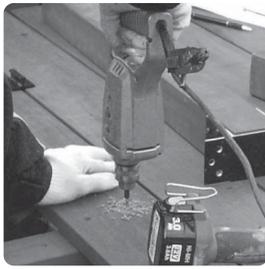
■ 束柱と大引きの通常の取付け



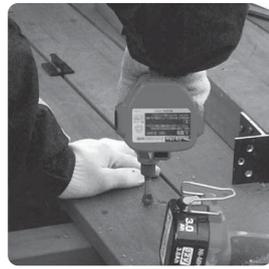
デッキについてのご案内

- ※束柱・大引き・フェンスの柱は、全て70mm角で統一しております。(ウリンは90角材のご用意があります。)
- ※板材及び柱材は表示寸法より20~40mm程度長いため必要に応じて現場で切断加工して下さい。
- ※板材20×105mmの場合、束柱ピッチは間口方向900mm以下、出幅方向の650mm以下にして下さい。
- ※板材30×120mmの場合、束柱ピッチは900mm以下にして下さい。

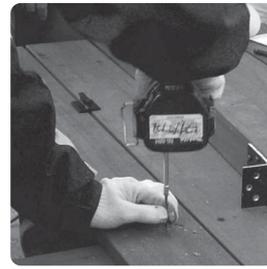
皿ビスによる床板固定



木工用ドリルで大引も共に下穴を開けます。



皿取りキリでテーパ加工します。
※床板の皿取り加工は、大きく取りすぎないように注意して下さい。



床板取付ビス (5×52) で固定。



使用工具
皿取錐
(ドリルキーパー付き)



下穴開けに便利なドリルキーパー付皿取錐も取り扱っております。詳しくは総合カタログP307をご確認ください。

※樹液が雨水などにより溶け出し周辺に付着することがありますので、下記の点に注意して下さい。
1. 切断加工する場所には、シート等で養生し切り粉が散乱しないようにして下さい。
2. 下穴開け加工等で発生した切り粉は、集塵機などで清掃して下さい。

束柱と大引の通常の接合



4mm 木工ドリルで下穴加工。

※非常に硬い木ですのでビスを打つ場合は、必ず下穴開け加工をして下さい。



ビス止め (M5×30)



切断部の小口処理

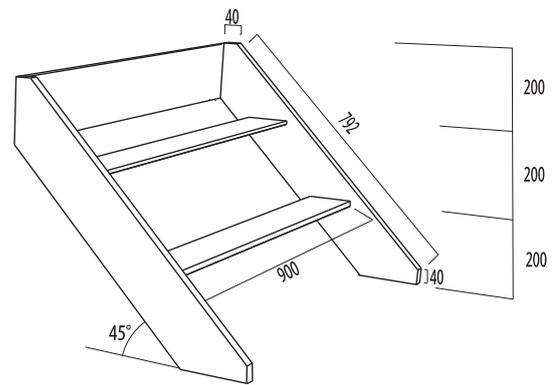
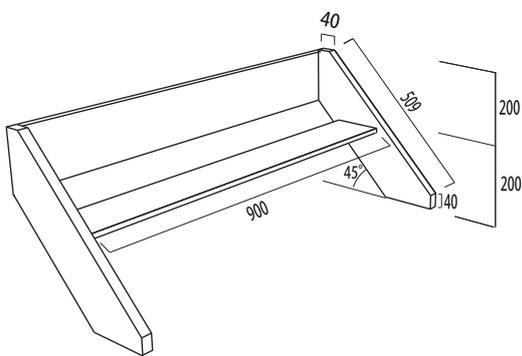


※切断面は、必ず市販のロウとバーナーを使用して小口処理して下さい。

アマゾンジャラ／ウリン ステップ

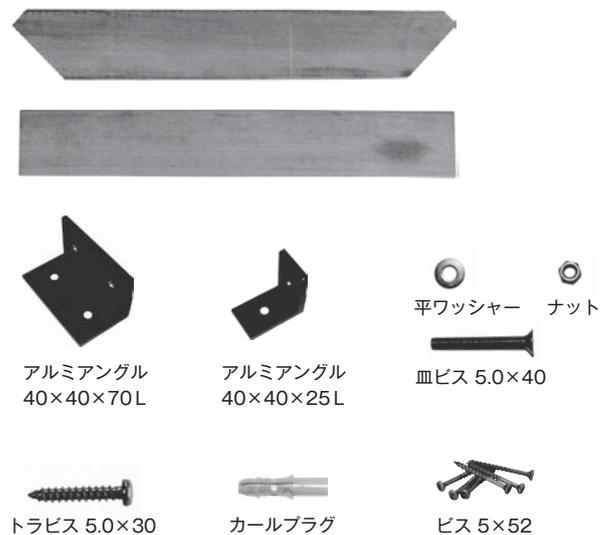
【ステップの施工要領】

■ ステップ取付金具仕様

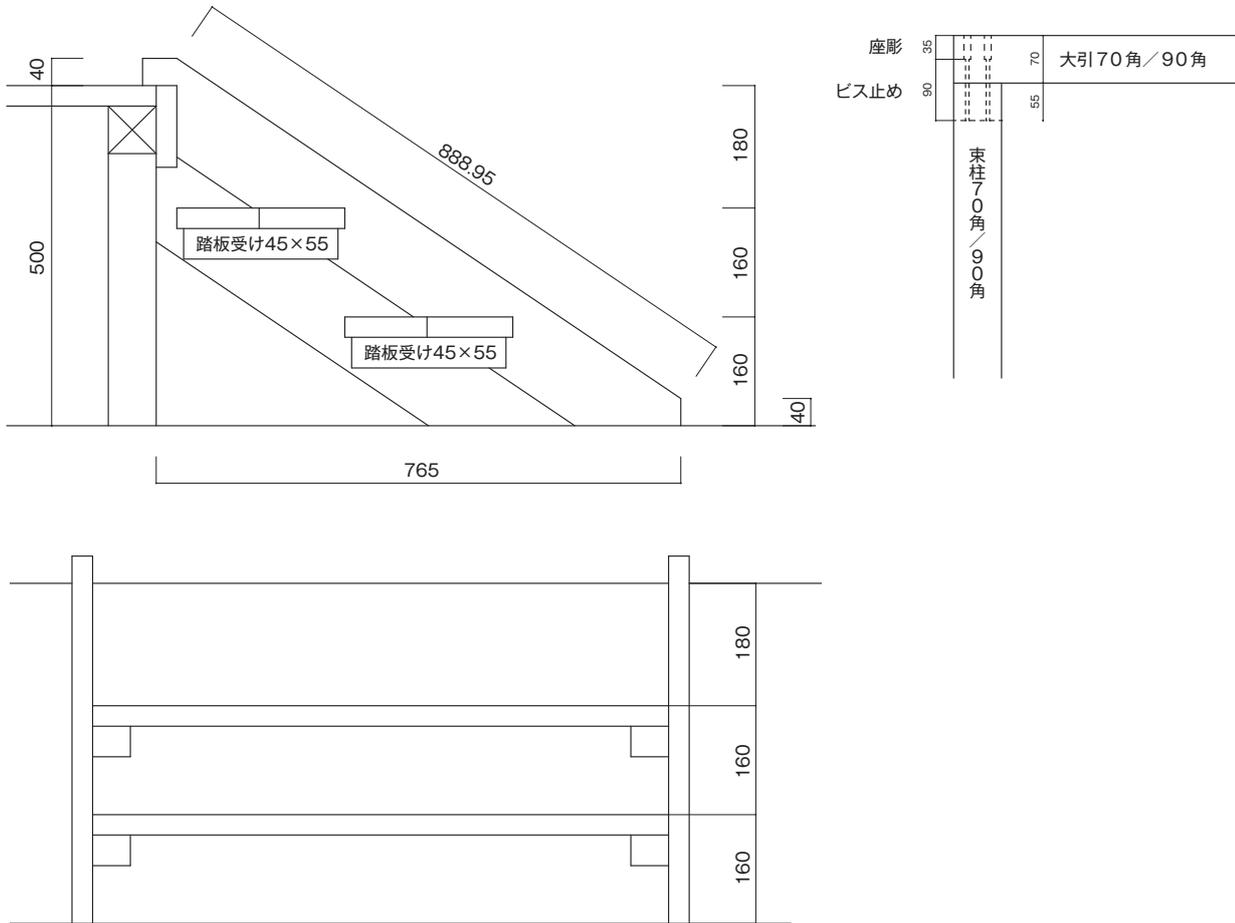


コード	部材名	規格	色	必要数	
				1段用	2段用
	床板	1800 × 120 × 30		2	1
	床板	2700 × 120 × 30			1
M9273	1段用 部品セット	アングル 40 × 40 × 70L	ブラック	2	4
		アングル 40 × 40 × 25L	ブラック	2	2
		皿ビス 5.0 × 30	ブロンズ	4	8
		皿ビス 用ナット	ブロンズ	4	8
		皿ビス 用平ワッシャー	ブロンズ	4	8
		トラビス 5.0 × 30	ブロンズ	4	4
	トラビス用カールプラグ			2	2
M9163	板材取付 ビス	5 × 52		11	15

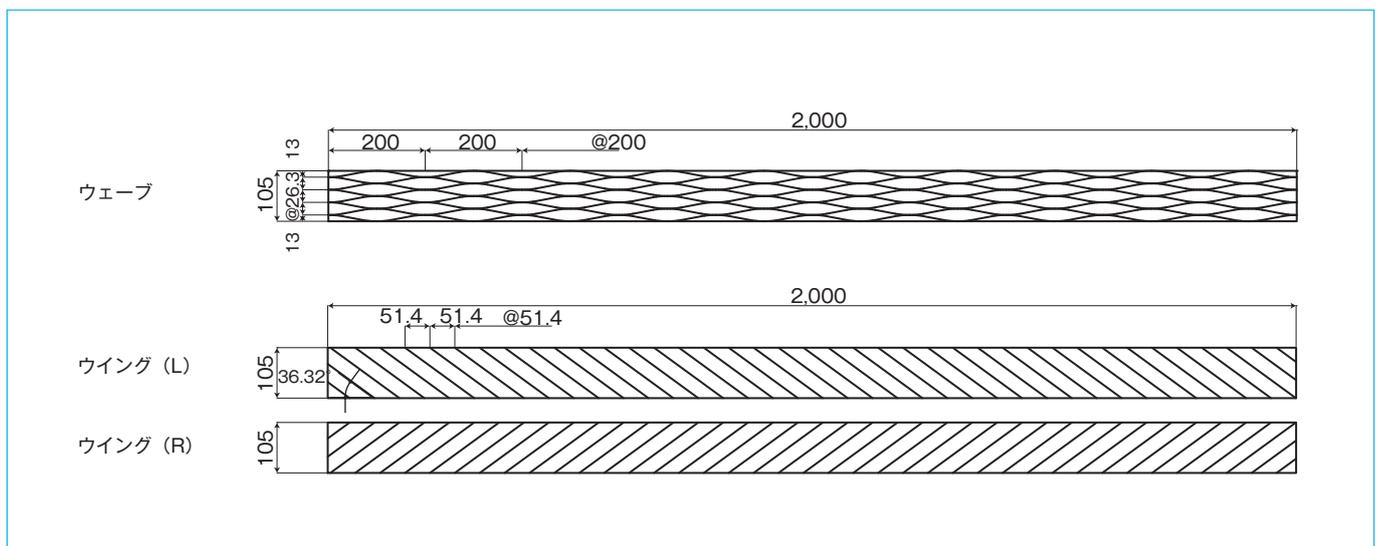
※ ビス5×52は、1セット/160本入り(M9163)の販売になります。
 ※ 床板は、現場に合わせて切断及び加工して下さい。



■ ステップ取付金具を使用しない場合



ピールドウッド

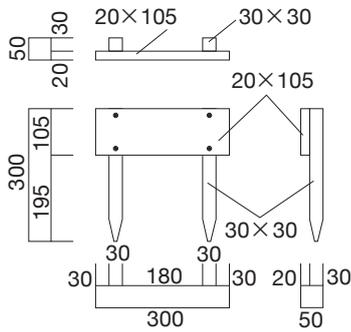


木製品 (ウリン)

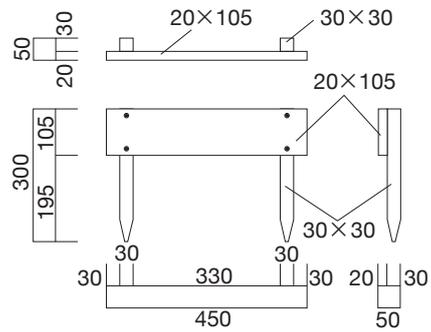
【段々花壇】

1型

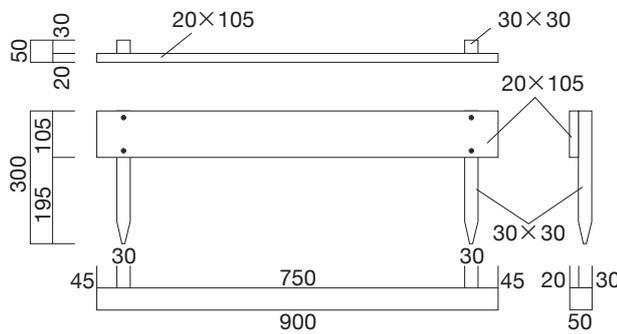
20×105×300 1枚貼 (H300)



20×105×450 1枚貼 (H300)

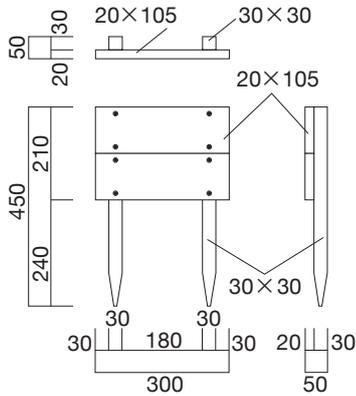


20×105×900 1枚貼 (H300)

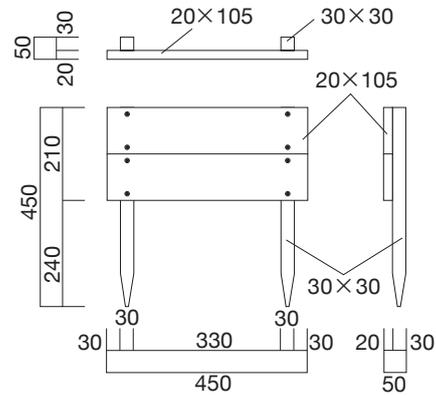


2型

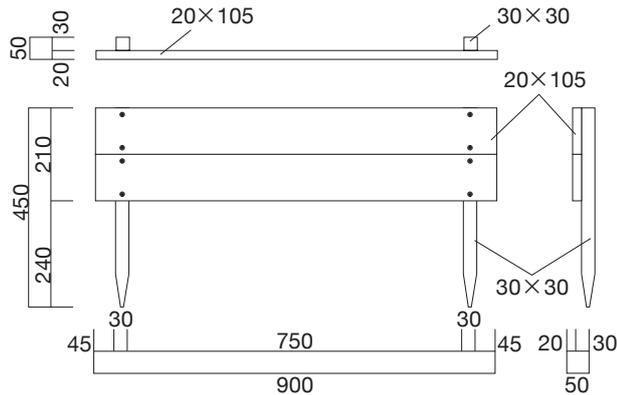
20×105×300 2枚貼 (H450)



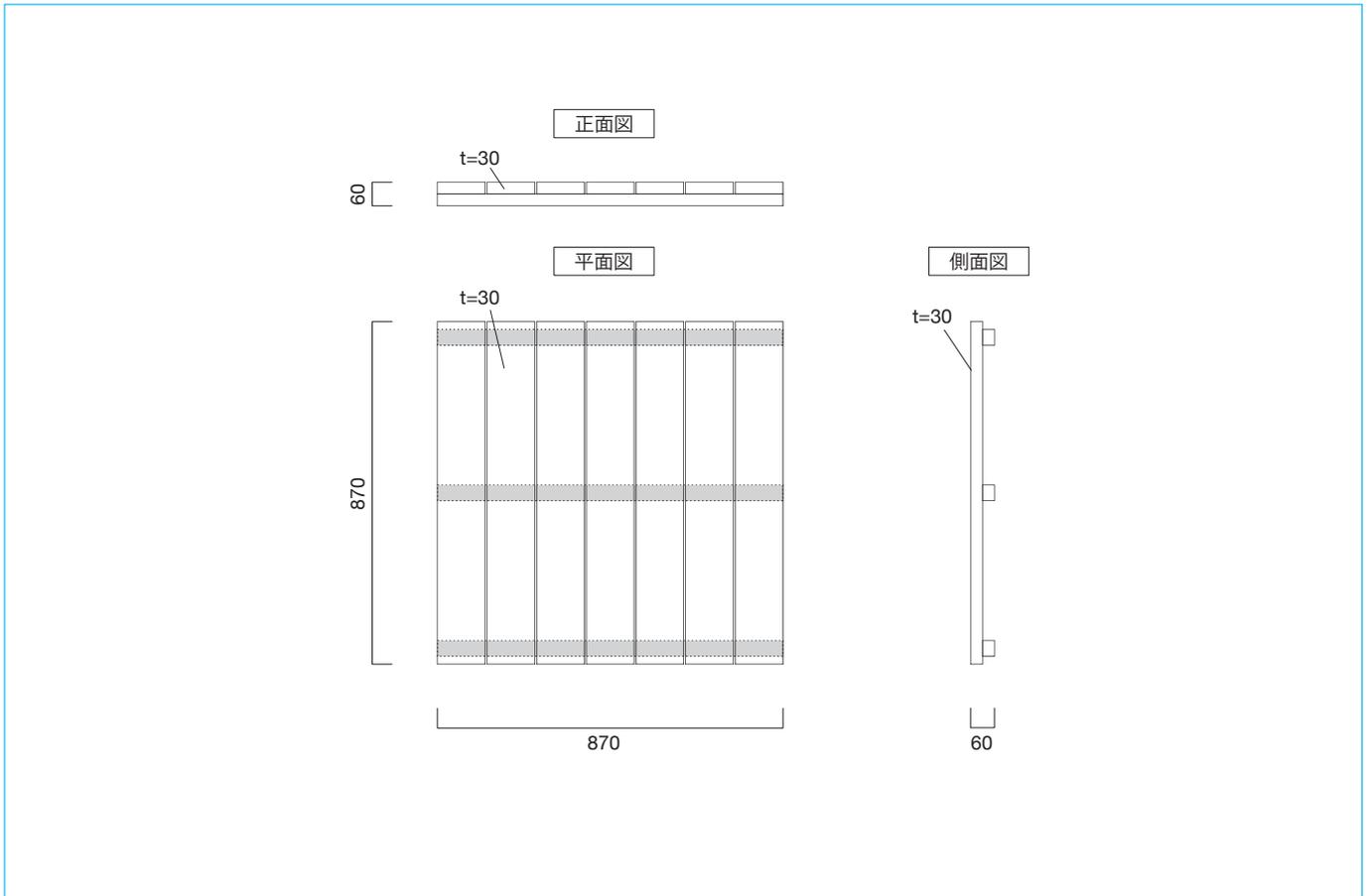
20×105×450 2枚貼 (H450)



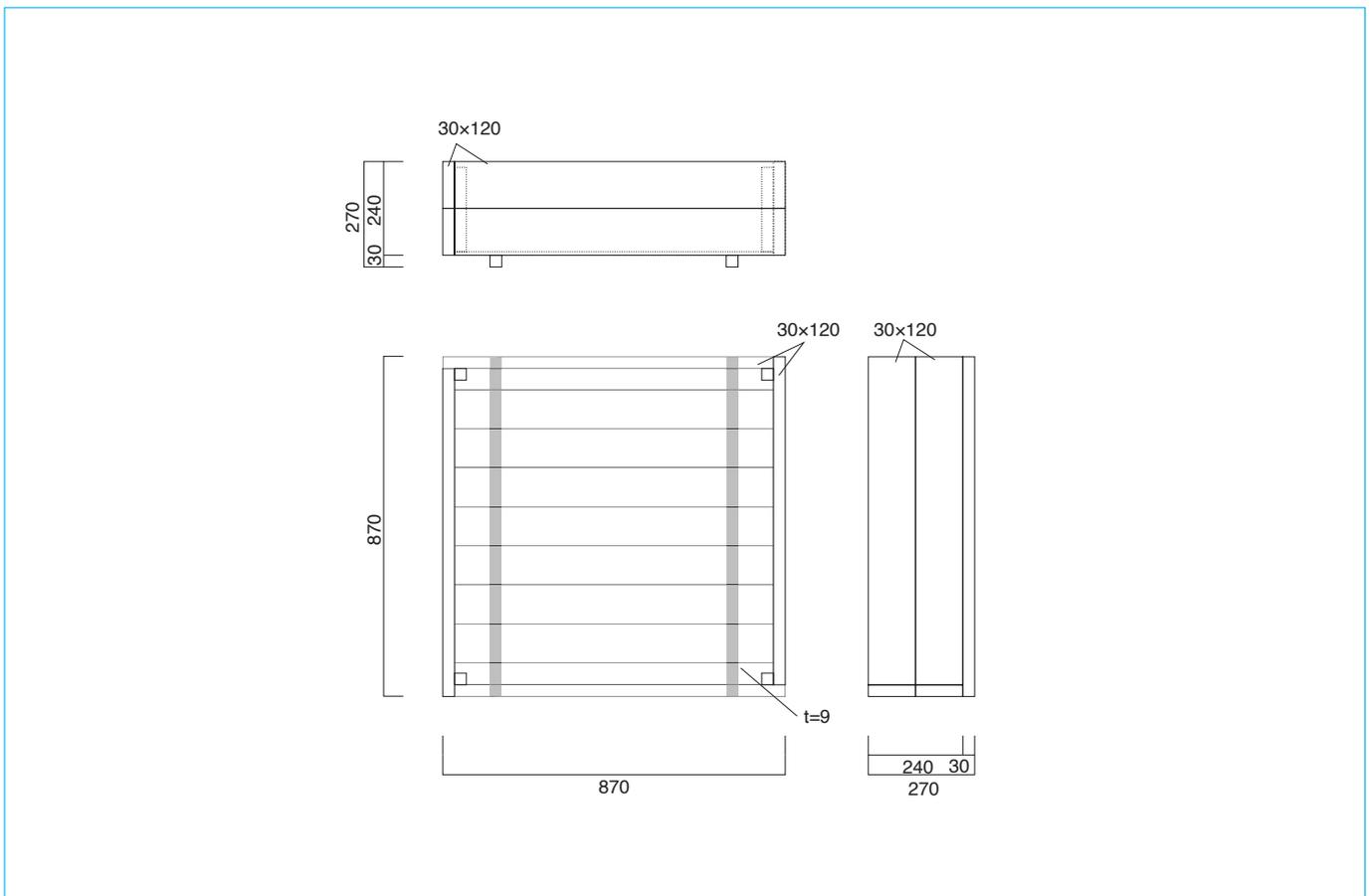
20×105×900 2枚貼 (H450)



【イージーデッキパネル】



【イージーフラワーボックス】



ウッド

いろは（国産自然塗料）

施工要領

■ 使用上のご注意

- ・ご使用前に容器をよく振り、十分に混ぜて下さい。
- ・「いろはカラー（着色タイプ）」の場合、缶の底に顔料が沈殿していますので、棒などでよく混ぜた後、容器をよく振り動かして顔料を均一の状態にして下さい。
- ・ペンキなどの古い塗膜は必ずサンドペーパー等により完全に除去して下さい。
- ・素材は含水率20%以下の木材に使用して下さい。
- ・雨や水洗い等で木材が濡れた状態で塗装しないで下さい。
- ・木材の種類により仕上がりの色が異なりますので、必ず試し塗りをして色を確認して下さい。
- ・室内に使用する場合、塗布後ウエスで十分な拭き取りをおこなって下さい。
- ・「いろはカラー（着色タイプ）」は塗装後しばらくの間、洋服などに色が付着することがありますのでご注意ください。
- ・床面等日常触れる部分に「いろはカラー（着色タイプ）」を使用する場合、木材表面に塗料が残らないようにウエスでしっかりとすり込みをおこない、上塗りとして「いろはクリア（無色）」を薄く塗布して下さい。
- ・塗装中及び乾燥中は充分換気をして下さい。
- ・塗布後養生等をされる場合は、十分な乾燥を確認してからおこなって下さい。
- ・使用後の刷毛等は乾かないうちにいろはうすめ液で洗って下さい。

■ 塗装方法及び用具

工具：刷毛、ウエス（布）、スポンジ、コテバケ（推奨品）



1 素地調整

塗装前にサンドペーパー（＃120～180）で木材表面の素地調整。サンディング後、ホコリ等を取り除きます。サンドペーパーで素地調整をすることで、塗料の吸い込み方が均一になり塗装の仕上がりが美しくなります。表面が荒れていると、吸い込みムラが生じることがあります。材種により吸い込みムラが激しいものもありますので塗装前の試し塗りによりご確認ください。



2 塗装

「いろはカラー（着色タイプ）」を刷毛またはコテバケで木目に沿って薄く（塗りすぎや溜まりができないように）塗り伸ばして下さい。



3 拭き取り

塗装後すぐに木材表面の余分な塗料分をウエスで十分（表面がサラッとするまで）拭き取ります。



4 塗装

換気をよくして12時間以上乾燥させ必ず2度塗りをして下さい。
 工程2「塗装」と3「拭き取り」を行って下さい。
 その後自然乾燥させて下さい。
 ※乾燥時間約12時間（低温、高湿度条件下では乾燥が著しく遅くなります。）
 ※標準使用量 50～70g/m²（2回塗り）
 ※2回目は使用量が若干少なくなります。

■ メンテナンス（再塗装）について

環境や気候にもよりますが、3～5年で塗布面の様子を見て、色や表面の劣化が見られるようでしたらいろはの上塗りのメンテナンスをして下さい。この時期に一度上塗りをするによりさらに耐候性はよくなります。

■ 取扱い及び保管上のご注意

- ・自然発火にご注意！塗装や拭き取りに使用した布（ウエス）やスポンジ、刷毛等は自然発火する恐れがありますので、そのまま放置せず、使用後ただちに焼却するか、水に浸して処分して下さい。
- ・火気のあるところでは使用しないで下さい。
- ・余った塗料は元の缶に戻さないで下さい。
- ・使用後はフタをきちんと閉め直射日光を避けて冷暗所に保管して下さい。
- ・容器中の残量が少なくなりますと塗料が固まることがありますのでお早めにご使用下さい。
- ・子供の手の届かない場所に保管して下さい。
- ・容器は中身を使い切ってから捨てて下さい。
- ・本来の用途以外には使用しないで下さい。

パイプロップ 小庭セット カモプロップ 小庭セット

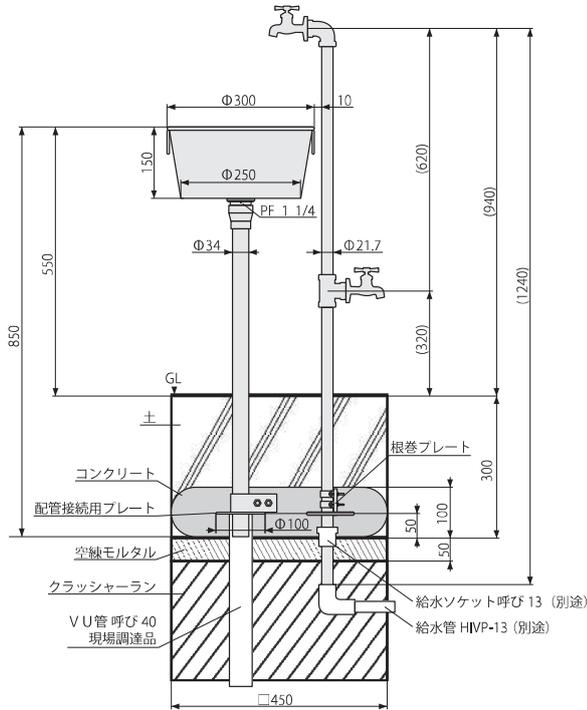
施工要領

施工断面図

寸法図

【パイプロップ 小庭セット】

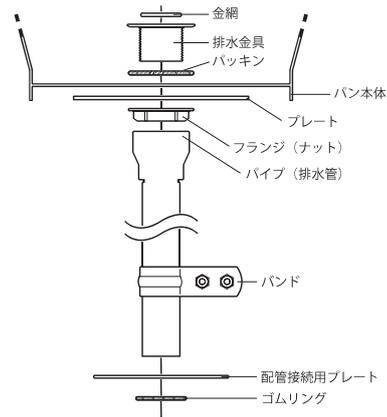
■ 寸法図・施工断面図



■ 施工方法

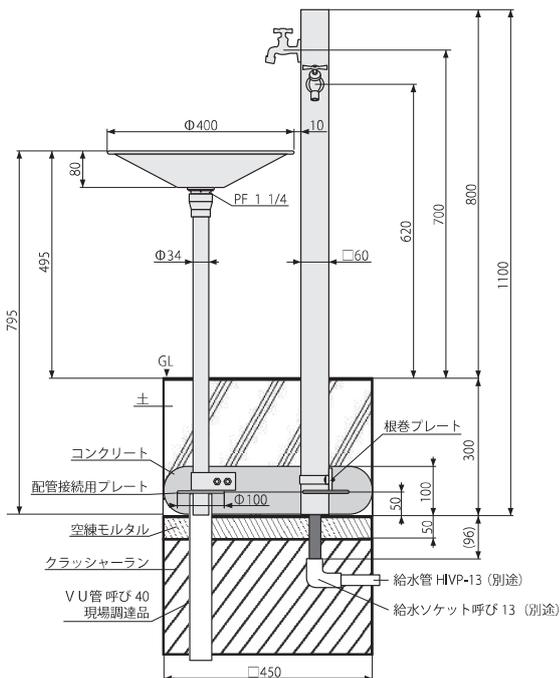
バケツパンに付属のフランジ（ナット）が締まっていることを確認します。
パンの下に出た排水金具のネジにシールトテープを数周右向きに巻き、支柱となるパイプをねじ込み固定します。

- ⚠️ 排水金具がゆるまないように注意してください。ゆるんだときは締めなおしてください。
- ⚠️ バケツスタンドパンの特性上、底部に水がたまりますが異常ではありません。バケツは経年により錆が発生します。



【カモプロップ 小庭セット】

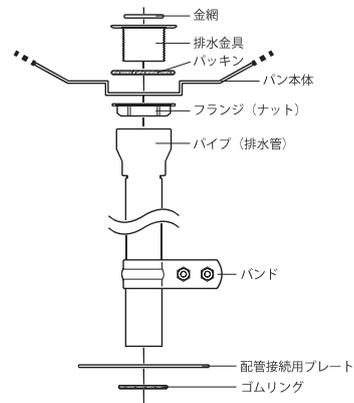
■ 寸法図・施工断面図



■ 施工方法

ステンパンに付属のフランジ（ナット）が締まっていることを確認します。
パンの下に出た排水金具のネジにシールトテープを数周右向きに巻き、支柱となるパイプをねじ込み固定します。

- ⚠️ 排水金具がゆるまないように注意してください。ゆるんだときは締めなおしてください。



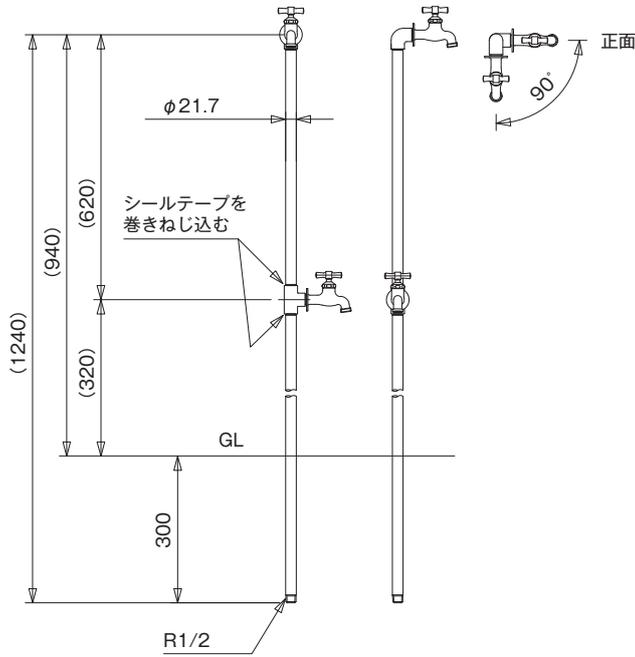
パイプロップ

施工断面図

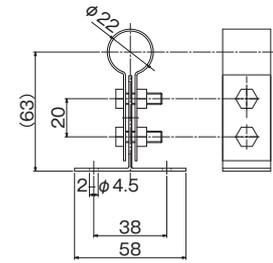
寸法図

■ 寸法図 (ダブルセット)

補助水栓の向きは現場に応じて変えて使用して下さい。
 ※固定に必要なコンクリートなどの寸法は右記と同じです。

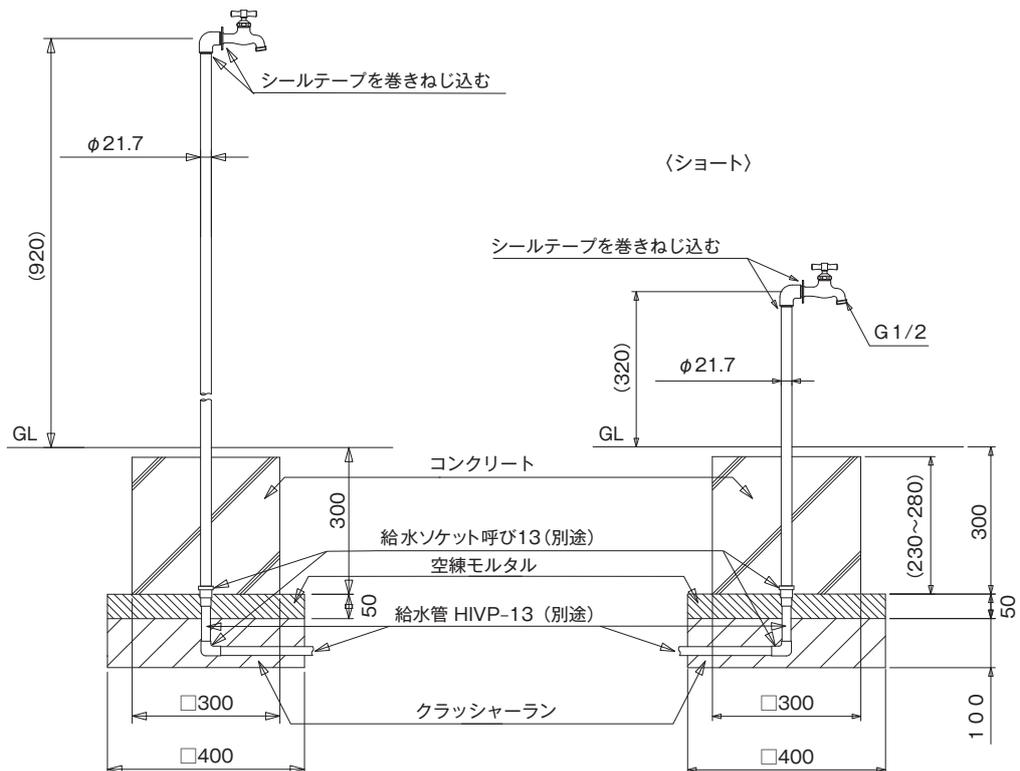


■ 寸法図 (支持金具)



■ 施工断面図

(シングルセット)

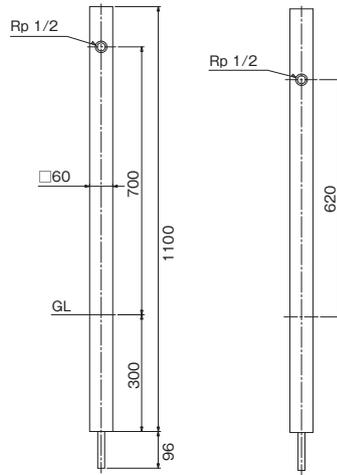


カモプロップ

施工断面図

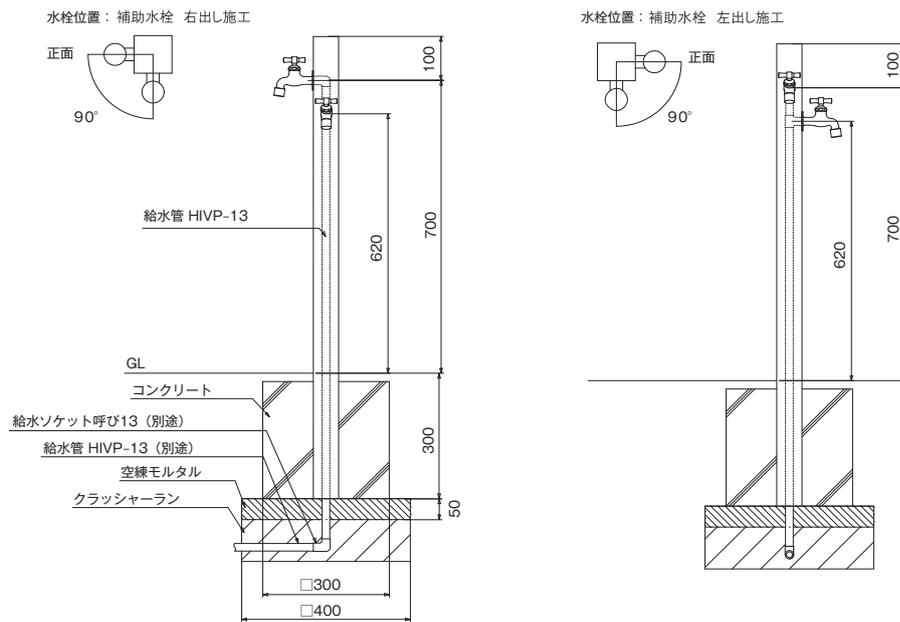
寸法図

■ 寸法図

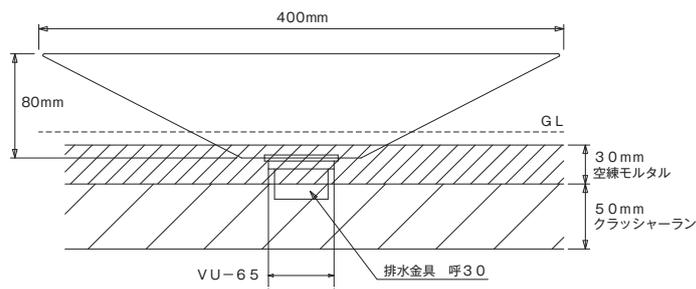


■ 施工断面図

補助水栓の向きに応じて水栓柱の向きを変えて使用して下さい。



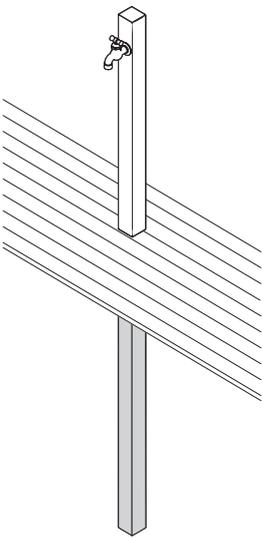
■ パン 施工断面図



カモプロップ

施工断面図

【カモプロップ ロングセット】



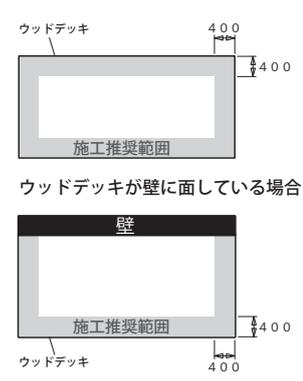
■施工する際にはこの施工寸法図を参考にして下さい。

■本製品を施工する位置については、下図の灰色で示したように

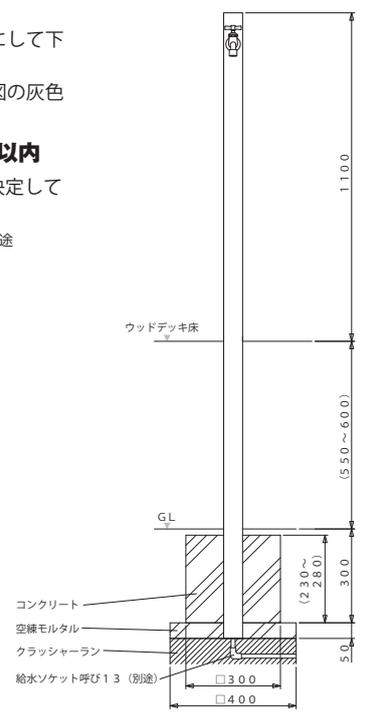
ウッドデッキの端から400mm以内

を目的に、無理なく施工できる範囲で決定して下さい。

※ウッドデッキへの固定をより確実に行う場合は、別途「M5797 ウッドデッキ金具」をお買い求め下さい。



ウッドデッキが壁に面している場合



凍結防止ソケット

施工要領 寸法図

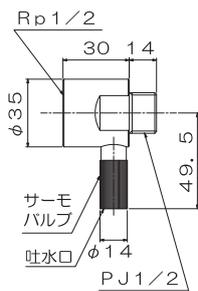
⚠ 使用条件とご注意

本製品にはサーモバルブを採用しております。その使用条件及び、注意点を以下に示します。

- ・取り付けの時は必ず元栓を閉めて作業してください。
- ・排水には十分注意してください。(サーモバルブが働いて流れだした水が地面で凍結し、すべて怪我をする恐れがあります。)
- ・ご使用の水道が、イ、給水圧力0.04~0.75MPa。
ロ、水道本管の水温(蛇口をあけて1~2分後の水温)が5.0℃以上であること。
- ・外気温度が、-15℃以上であること。
- ・家庭内に蛇口を取付ける場合、蛇口の周囲温度が0.5℃以下にならず、屋外の温度がマイナスになるような場所では使用できません。(サーモバルブが働かないうちに屋外の配管が凍結する場合があります)
- ・本製品の下には、十分な空間を確保してください。サーモバルブの凍結により、凍結防止機構が機能しなくなります。
- ・凍結防止のため開いた弁は、感知部の水温が5.0℃以上に上がらない時は水が止まらないことがあります。

給水圧力	最低必要圧力	0.04MPa
	最高圧力	0.75MPa
	適正圧力	0.2~0.3MPa
使用温度範囲		-15~60℃
開弁温度		2.5±2℃
閉弁温度		5.0℃以下
取付姿勢		排水が垂直下向き

■ 外観寸法図



■ 施工手順

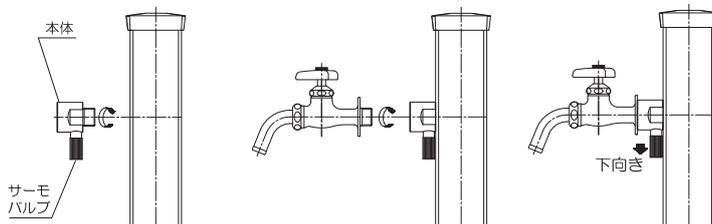
- 1 本製品をシールテープを用いて、水栓柱に取付ます。
- 2 水栓をシールテープを用いて、本製品に取付ます。
- 3 元栓を開き、水漏れがないことを確認してください。



必ずサーモバルブの吐水口が垂直下向きになるように取付してください。サーモバルブに無理な力を加えると、破損の恐れがあります。本体の両側を工具で挟んで取付してください。



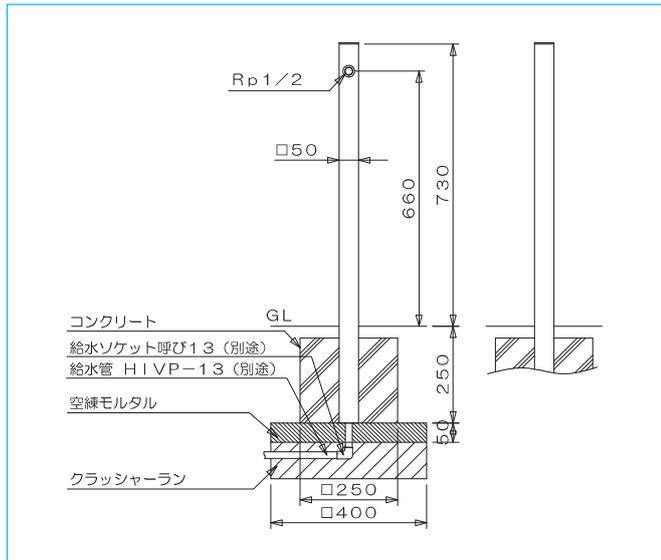
サーモバルブがずれないように、製品本体を工具などで挟み込んで固定しながら取付してください。



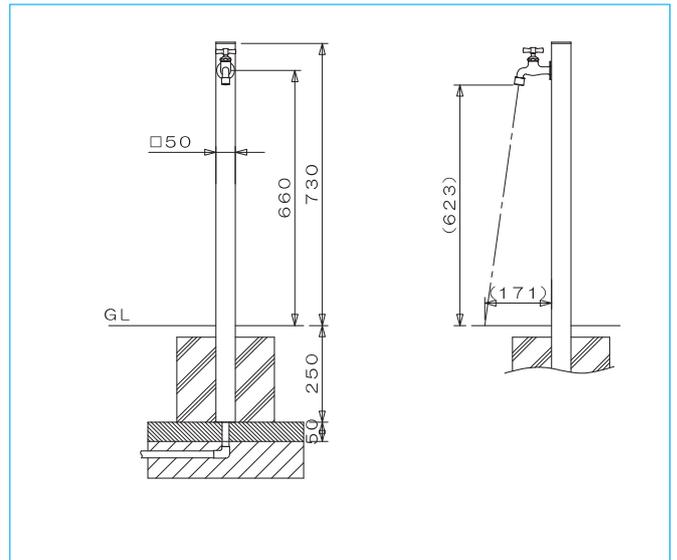
プレーンプロップ

寸法図

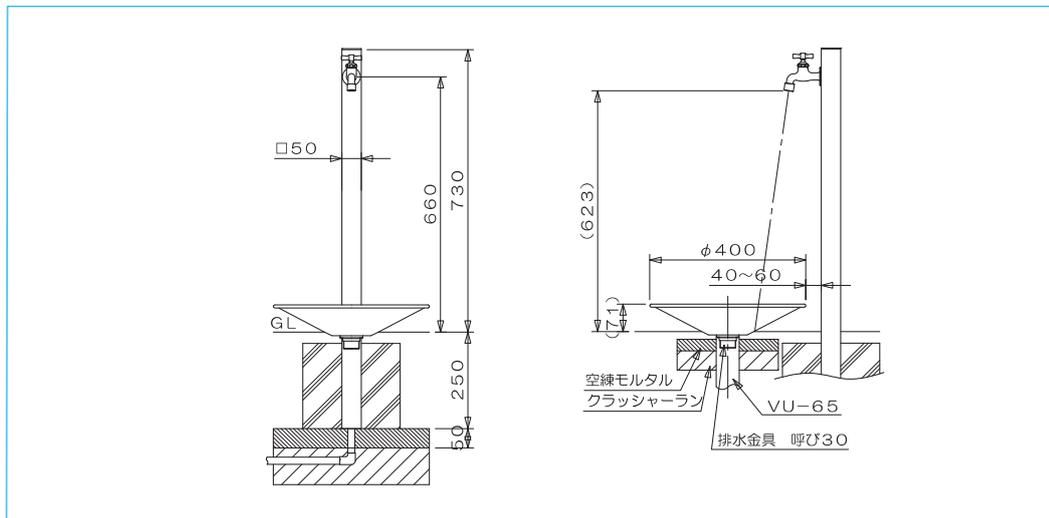
【プレーンプロップ シングル】



【プレーンプロップ ミニマルセットシングル(立水栓+蛇口1つ)】



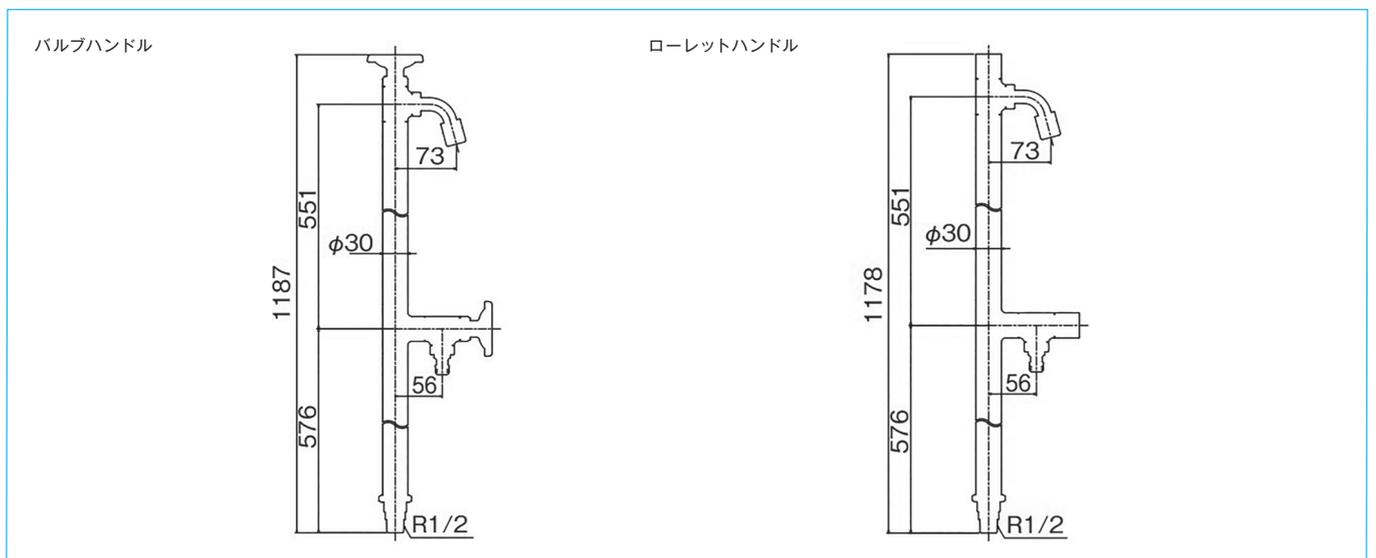
【プレーンプロップ ハーモニーセットシングル(立水栓+蛇口1つ+パン)】



ウォーターコック

寸法図

【ニロスプリングルスリム】

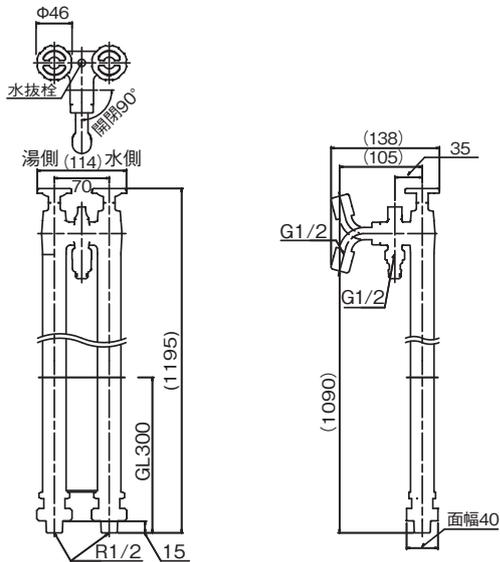


ガーデン

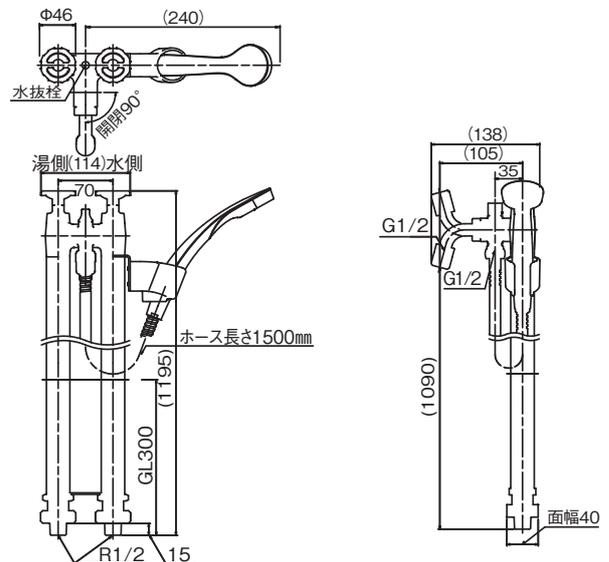
ツインクルピラー

■ 寸法図

G21KS-S / G21KS-B / G21KS-W

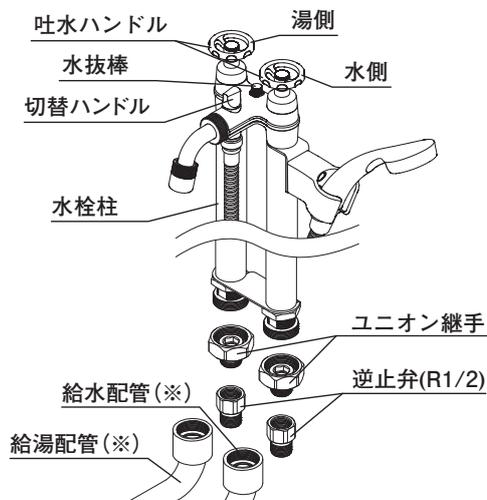


G21KSS-S / G21KSS-B / G21KSS-W



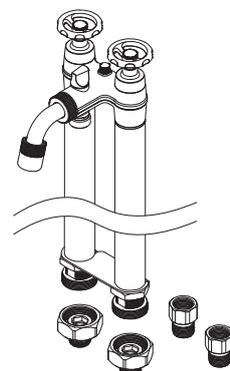
水栓柱について 各部の名称

ツインクルピラー(シャワー付き)



※下記を参考に、
必要な部材を別途手配して下さい。
●シールテープ
●給水配管:HI-VP仕様(呼び径13mm)

ツインクルピラー



施工について 適切な使用条件

[水圧について]

給水圧力	最低必要水圧(流動時)	最高使用水圧(静止時)
	0.05MPa	0.75MPa

●給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁などで0.2~0.3MPa程度に減圧して下さい。

[温度について]

最高使用温度	60度
--------	-----

[水質・用途について]

使用可能水質	水道水及び飲用可能な井戸水
用途	一般住宅用

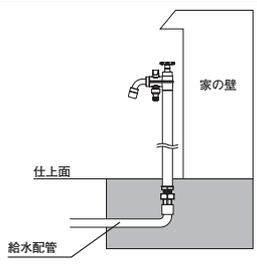
施工について 施工手順

①設置場所の確認

給水配管の位置を確認する。

⚠注意

- 水栓柱は住宅の基礎面上に設置して下さい。
- 基礎がない場合は砂利石、PC板などの十分強固な上に設置して下さい。
- ※正しく固定しないと水漏れ等の原因になります。
- 給水は、上水道に接続して下さい。
- 開梱、施工の際は製品に傷をつけないようご注意ください。



②水栓柱の取付け

水栓柱を所定の位置に立てかけ、先に給水配管に逆止弁、ユニオン継手の順に接続します。次にユニオン継手に水栓柱を接続します。

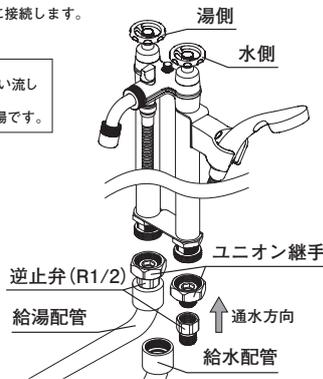
⚠注意

- 取付前に必ず通水し、配管内のゴミを洗い流して下さい。
- 給水・給湯配管は右側が給水、左側が給湯です。

⚠注意

(付属の逆止弁について)
●水側と湯側のメンテナンス可能な配管内に必ず取付けてください。
●正しい通水方向で取付けて下さい。

- 給水・給湯配管取付足に直接取付けしないで下さい。抜けなくなるおそれがあります。



③通水点検

蛇口の施工後に、水が流れるか、止水できているかどうかを点検します。

注:このとき、確実にフラッシングを行ってください。

フラッシング:蛇口を全開にして、約30~60秒間勢よく通水を行って下さい。

施工後数日~数ヶ月で、「水がでない、止まらない、ポタ漏れする」等のお問い合わせが頻発しております。

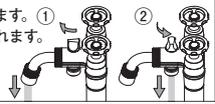
その一番の原因は、「フラッシング不足により蛇口の施工時に発生したゴミ等が止水部に詰まる為」です。

フラッシングを行った後は、蛇口止水部のゴミをピンセット等を用いて、丁寧に取り除いて下さい。

ご使用について 操作方法

切替ハンドルをまわして、通水方向を切り替えることができます。

切替ハンドルを時計回りにまわすと図①のように水が流れます。
切替ハンドルを反時計回りにまわすと図②のように水が流れます。
※可動範囲は90度です。
それ以上、まわそうとすると破損の原因になります。



吐水ハンドルをまわして、湯水の調整ができます。

向かって左側の吐水ハンドルをまわすと湯が流れます。
向かって右側の吐水ハンドルをまわすと水が流れます。
温度および吐水量を調整して下さい。



ご使用について 凍結予防

凍結のおそれがある場合は、次の処置によって凍結を予防できる場合があります。

水抜き棒を開け、水栓より水を出して下さい。
※凍結による破損は保証期間内でも有料修理となります。
一度でも凍結すると破損し水漏れが発生するため、確実に凍結予防策を講じて下さい。
※水道が凍結する地域でご使用する場合は、水抜き栓を設置して下さい。



日頃のお手入れ 汚れの拭き取り

製品についた汚れを放置しておくと、汚れが落ちにくくなる場合があります。快適にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。

- 柔らかい布で水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取って下さい。
- 汚れが目立つときは、中性洗剤を柔らかい布にふくませて拭き取った後水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取って下さい。

⚠注意

次のものは使用しないでください。変色や傷みのおそれがあります。

- 酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類
※特に酸性洗剤はメッキを侵します。
- ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコールなどの溶剤や油類
- クレンザーなどの粒子の粗い洗剤
- ナイロンたわしなど

- 洗剤・薬品が本体に付着した場合は、すぐにきれいに拭き取って下さい。本体の割れや変色変質の原因となります。

定期的な点検 可動部分の点検

可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。

放置すると故障の原因になりますので、修理をご依頼下さい。

吐水口の点検については下記を参照下さい。

定期的な点検 吐水口の点検

日頃から、ときどき吐水口と切替ハンドルを回して下さい。(月1回を目安)
長期間回さずに使用すると水あかなどが付着し、無理に回そうとすると、水漏れ・異音の発生の原因になります。
回らなくなった場合は、修理をご依頼下さい。



定期的な点検 配管周りの水漏れ・器具のガタツキ

定期的に、配管周りの水漏れがないか確認して下さい。(年2回を目安)

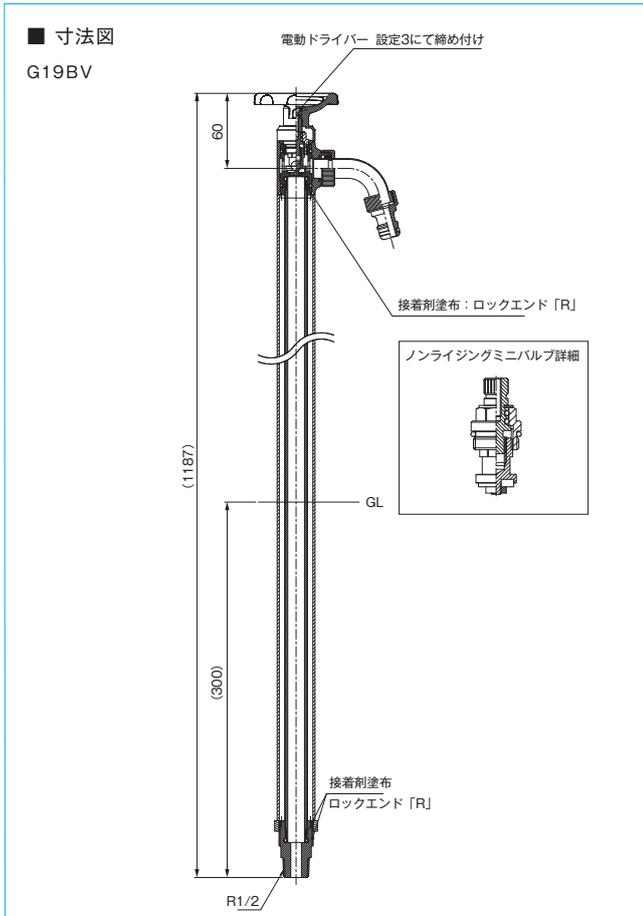
定期的に、器具のガタツキがないか確認して下さい。(年2回を目安)

劣化・摩耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

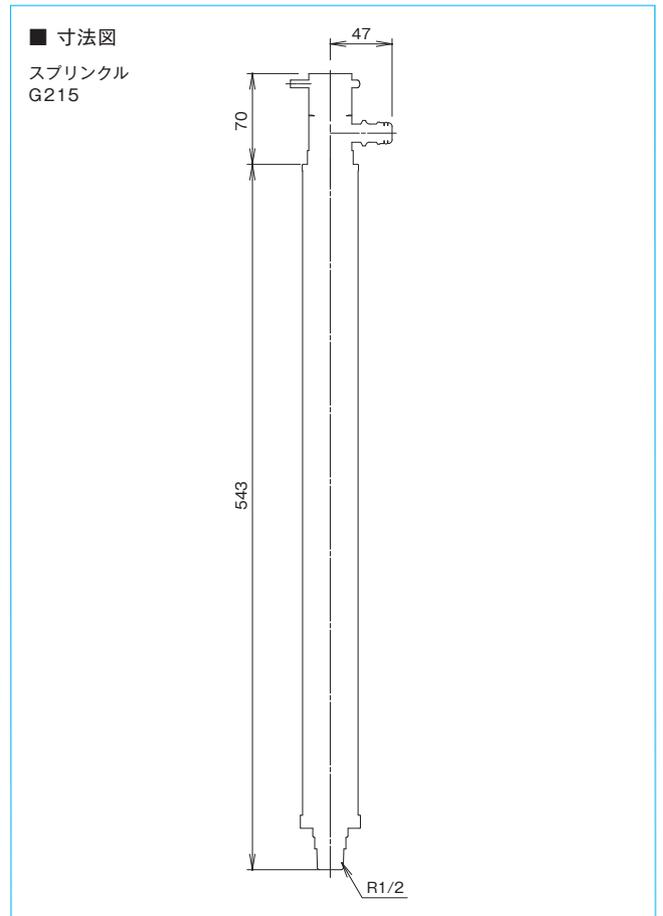


ウォーターコック

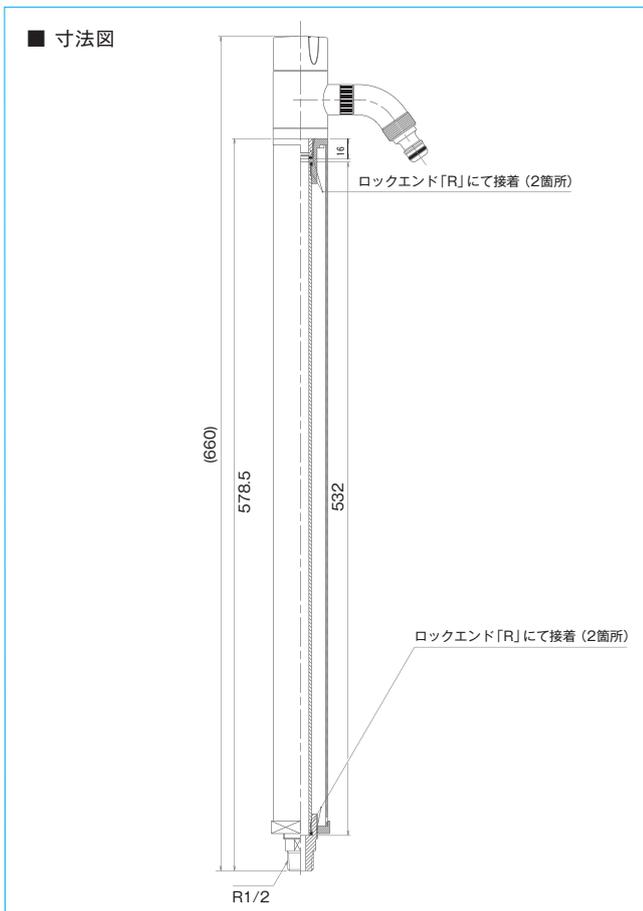
【スプリンクルスリム3Dバルブハンドル】



【スプリンクル】



【3Dスプリンクル】

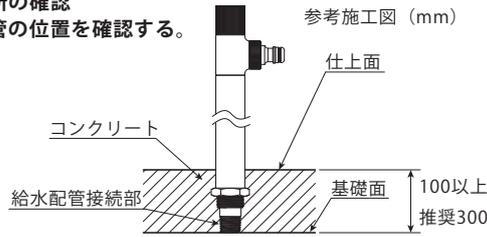


【スプリンクルシリーズ施工要領】

■ 施工手順

1 設置場所の確認

水栓柱の位置を確認する。

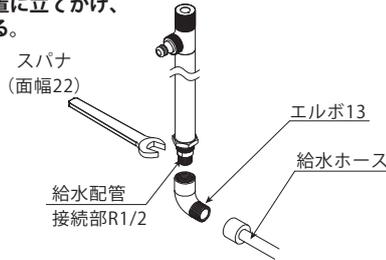


注意

- 水栓柱は住宅の基礎面上に設置して下さい。
- PC板などの十分強固な上に設置して下さい。
- 配管の深さは各自治体ごとに決まり(凍結深度)がございます。100mmより深い場合は指示に従って下さい。

2 水栓柱の取付け

水栓柱を所定の位置に立てかけ、給水配管を接続する。



注意

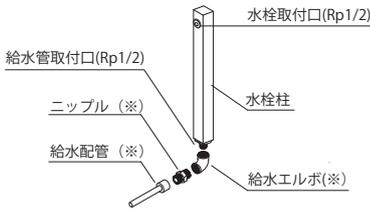
- 接続の際は、給水配管接続部が回らないよう、スパナ等の工具で掴んで接続して下さい。
- 取付け前、取付け後には必ず通水し、配管のゴミを洗い流して下さい。(フラッシング) ※フラッシング不足に起因する水漏れや破損は、購入からの期間に関わらず有料修理となります。施工後数日~数ヶ月で、『水が出ない』『止まらない』等のお問い合わせが頻発しております。その一番の原因は、フラッシング不足により、『蛇口の施工時に発生したゴミ等が止水部に詰まるため』です。

3 通水確認

蛇口の施工後に、水が流れるか、止水できているかどうかを点検します。このとき、確実にフラッシングを行って下さい。
フラッシング：蛇口を全開し、約30~60秒間勢よく通水を行って下さい。

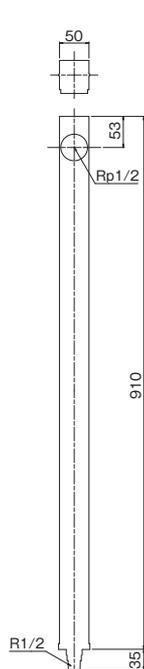
【木目水栓柱】

■ 各部名称



- ※下記を参考に、必要な部材を別途手配してください。
- ニップル：13×13ニップル
 - シールテープ
 - 給水エルボ：13×13エルボ
 - 給水配管：HI-VP仕様 呼び13

■ 寸法図



■ 施工手順

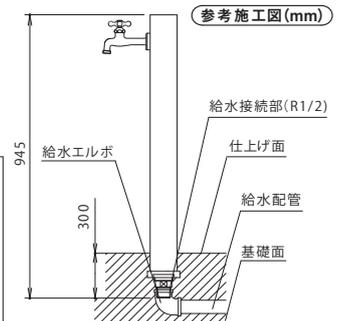
① 設置場所の確認

給水配管の位置を確認する。



注意

- 水栓柱は住宅の基礎面上に設置してください。
- 基礎がない場合は砂利石、PC板などの十分強固な上に設置してください。
- 給水は、上水道に接続してください。
- 開梱、施工の際は製品に傷をつけないようご注意ください。



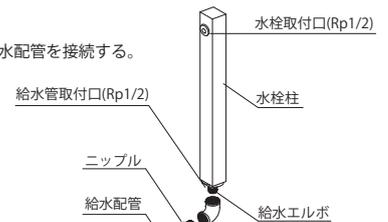
② 水栓柱の取付け

水栓柱を所定の位置に立てかけ、給水配管を接続する。



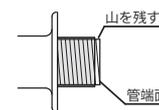
注意

取付け前に必ず通水し、配管内のゴミを洗い流してください。



③ 水栓の取付け

水栓のねじにシールテープを巻きつけます。テープは、管端面からはみ出さないよう、ねじ山を1~2山残した状態で、テープがたるまないよう巻きつけます。



管端からはみ出して巻きつけると、テープが切れて管内のゴミとなり、水漏れ原因となります。



ねじを正面から見て、時計回りにきょうく巻く。

④ 通水点検

蛇口の施工後に、水が流れるか、止水できているかどうかを点検します。

●このとき、確実にフラッシングを行ってください。

フラッシング：蛇口を全開し、約30~60秒間勢よく通水を行ってください。

施工後数日~数ヶ月で、『水がでない、止まらない、ポタ漏れする』等のお問い合わせが頻発しております。その一番の原因は、フラッシング不足により『蛇口の施工時に発生したゴミ等が止水部に詰まる為』です。フラッシングを行った後は、蛇口止水部のゴミをピンセット等を用いて、丁寧に取り除いてください。

■ 凍結予防

凍結のおそれがある場合は、次の処置によって凍結を予防できる場合があります。

水栓より少量の水を出してください。(目安として1分間に牛乳ビン1本程度)
※凍結による破損は保証期間内でも有料修理となります。一度でも凍結すると破損し水漏れが発生するため、確実に凍結予防策を講じてください。

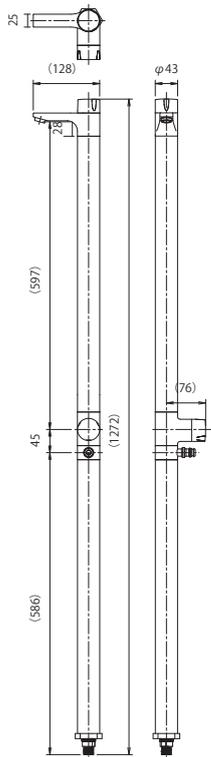
少量の水を出すなど



ウォーターコック

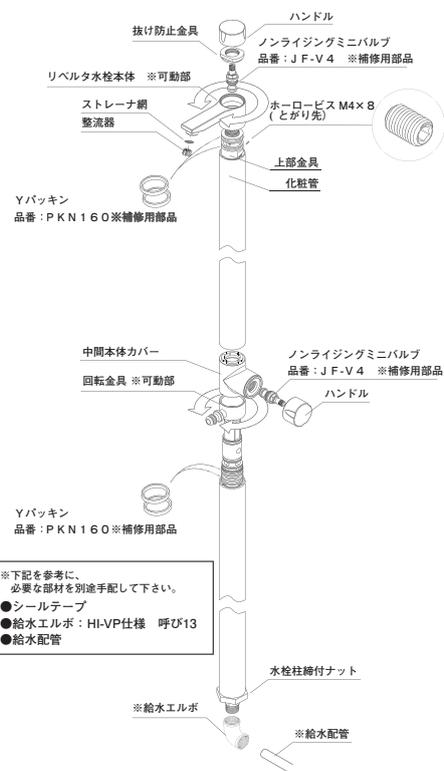
[リベルタII]

■ 寸法図



■ 構造

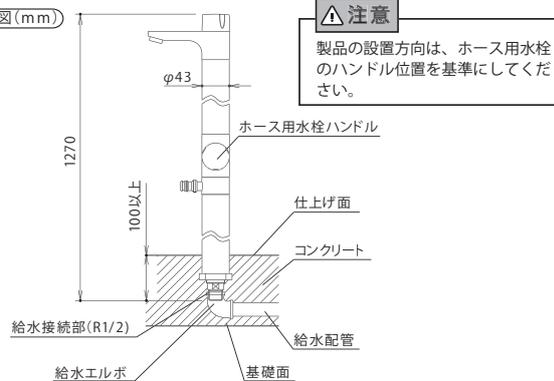
構造を表したイラストです。
本製品の構造をご理解いただくにご使用ください。



■ 施工手順

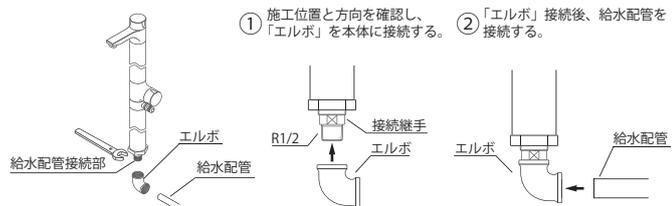
① 設置場所の確認 給水配管の位置を確認する。

(参考施工図(mm))



② エルボの接続・位置決め・配管の接続

- 工具を使ってしっかりと締め付け、接続してください。
- 先に「エルボ」を接続すると、後の施工が容易になります。
- 仮固定・位置決めは、「エルボ」を接続した後に行ってください。
- 配管種類に合わせて、継手等を手配してください。



③ 通水点検

蛇口施工後に、水が流れるか、止水できているかどうかを確認します。

●このとき、確実にフラッシングを行ってください。

フラッシング：蛇口を全開にし、約30～60秒間勢いよく通水を行ってください。

施工後数日～数ヶ月で、『水が出ない、止まらない、ポタ漏れる等』等のお問い合わせが頻発しております。その一番の原因は、フラッシング不足により『蛇口の施工時に発生したゴミ等が止水部に詰まる為』です。

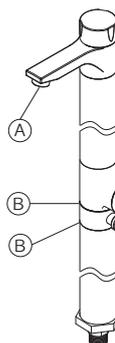
フラッシングを行った後は、蛇口止水部のゴミをピンセット等を用いて、丁寧に取り除いて下さい。

水漏れをした場合

水漏れ箇所の確認

- A: 吐水口
B: 管の継ぎ目

原因は？



B) Yパッキンの傷み

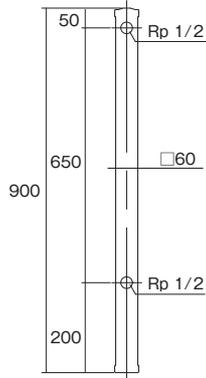


A) ノンライジングミニバルブの傷み



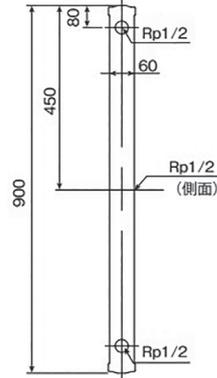
水漏れ等が見つかった場合、当社【お客様窓口】までお問い合わせ頂き、交換部品をお求め下さい。

ステンレス水栓柱
G206-S60K

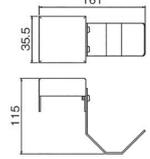


※給水口の接合はP76を参照ください。

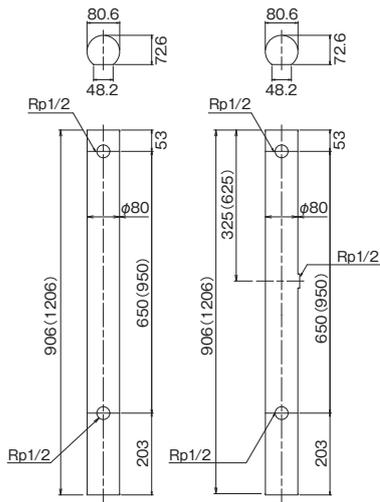
ステンレス水栓柱 ニロ
G25S60KB
G206-S60K



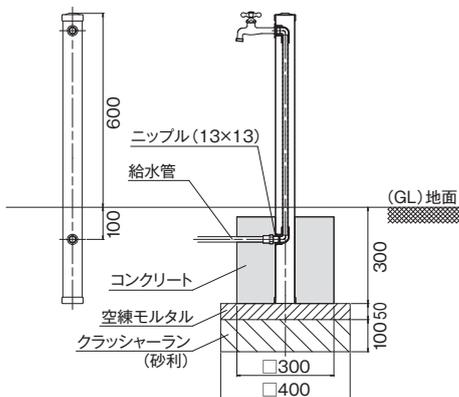
60角水栓柱用
ホースハンガー



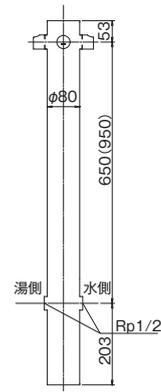
レゼーナ 900/1200



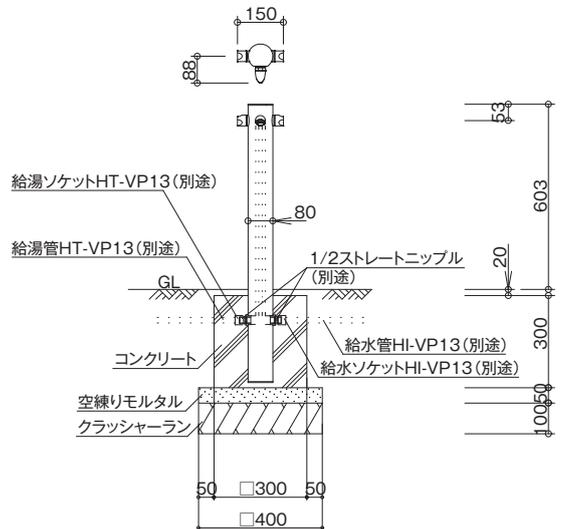
施工断面図



混合水栓柱レゼーナ(切替栓付き) 900/1200



施工断面図



水栓パン

施工要領

寸法図

【スクエアパン】

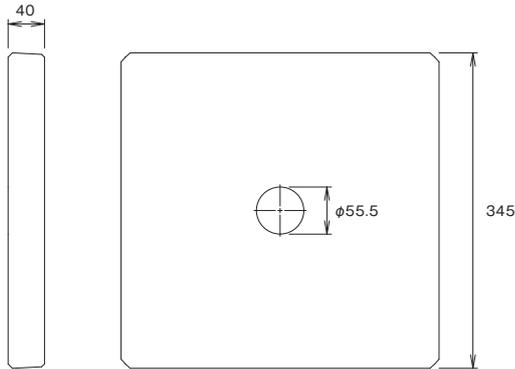
■ 施工前の確認

<設置場所の確認>

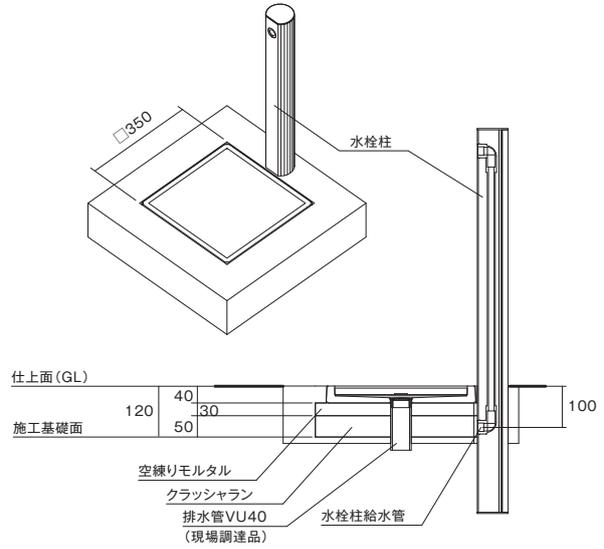
- ガーデンパンは、必ず安定した砂利、モルタル、コンクリの上等に設置して下さい。
- 水栓柱の給水配管に干渉しないよう、水栓パン、及び排水設備を施工して下さい。

<排水管のサイズ>

- 水栓パンの排水金具は塩ビパイプVU40対応品です。排水管は塩ビパイプVU40を用意して下さい。
- ※ 排水管(塩ビパイプVU40)は現場手配となります。



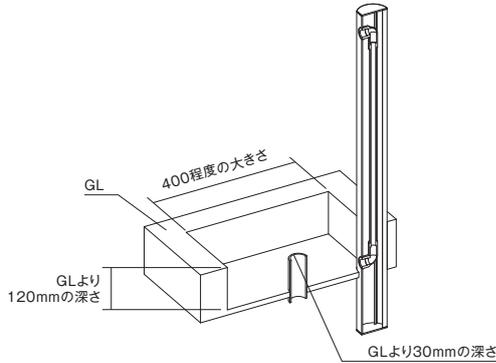
<施工完了例> (単位:mm)



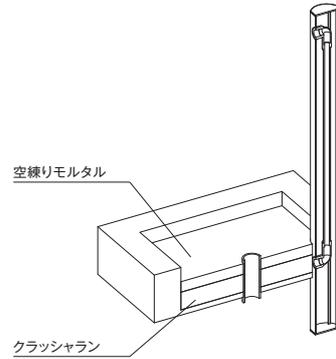
■ 施工手順

GLとツラ位置で、埋め込んで施工する場合の施工方法となります。お好みで埋め込み深さを浅くする場合は、希望する埋め込み深さに合わせて寸法の調整を行って下さい。

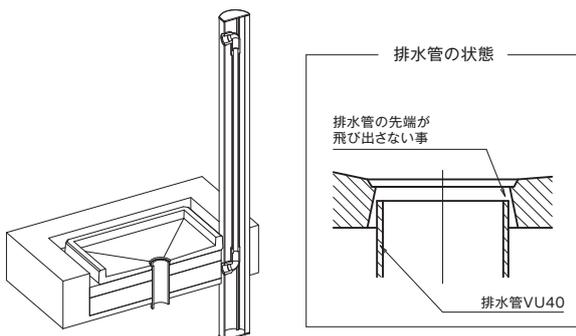
- 1 パンの大きさより周囲100mm大きく、120mmの深さで床掘し、充分に転圧します。このとき排水管(塩ビパイプVU40。現場調達品)をパンの穴位置にあわせ埋設しておきます。排水管の上端はGLより30mm低くして下さい。また、水栓柱の給水管と干渉しないよう、排水パイプの位置を検討して下さい。



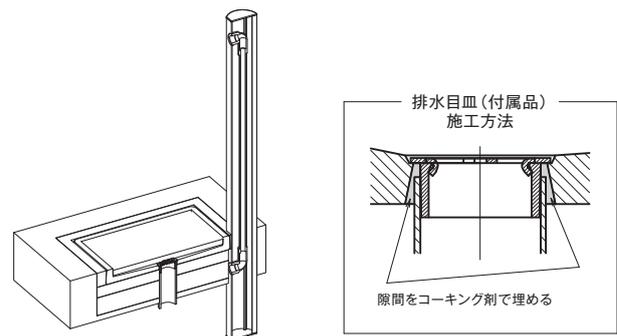
- 2 クラッシュランを50mm敷設し転圧した後、その上に空練りモルタルを30mm敷設します。



- 3 パンをセットし、パンの高さを調整します。この時、排水管が飛び出さないようにします。飛び出した場合、適切な高さへ切断、または空練りモルタルで高さを調整し、問題の無い事を確認してから、パンの周囲を埋め戻して下さい。



- 4 排水管とパンの隙間をシリコン系コーキング剤で充填し、排水金具を差込みます。水はね防止マットをセットし、完成です。

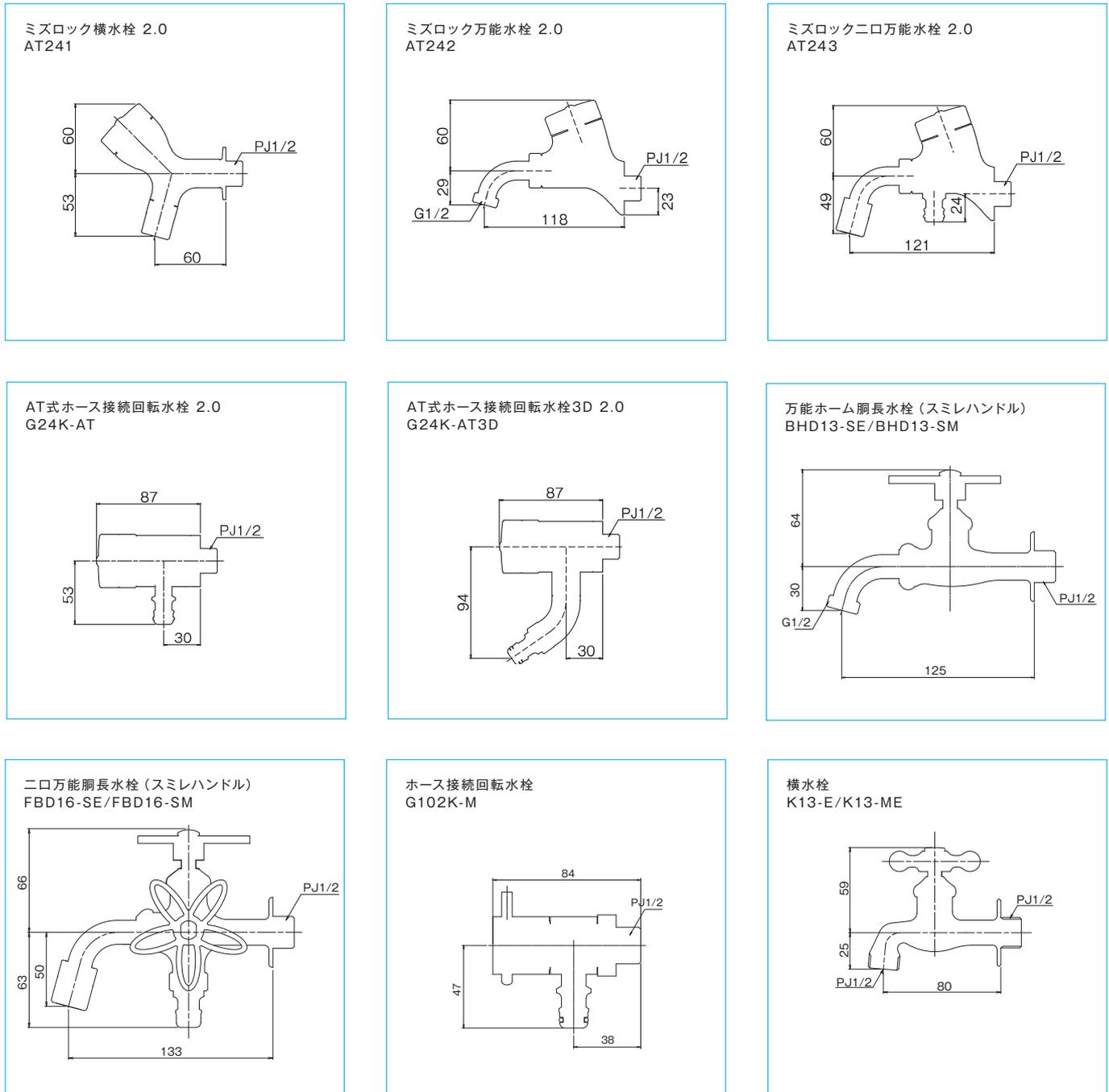


ガーデン

カランN

※ゴールド色はご使用期間の経過により、表面の色が落ち着いた色調に変化していきます。

【カランNの寸法図】



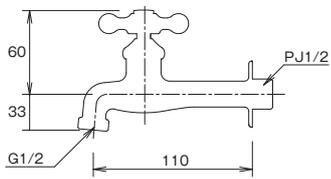
【水栓金具の取付け方】

水栓金具の交換をするときは、止水栓を止めて下さい。止水栓は、ほとんど水道メーターの付近にあります。右にまわすと閉まり、左にまわすと開きます。

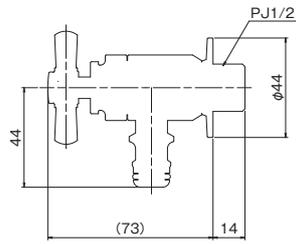
- 1 古い水栓金具を左にまわして外します。次に配管内のゴミを取り除きます。
※配管内のゴミが残っていると、パッキンを傷つけ、水もれの原因になります。
- 2 新しい水栓金具のネジ部分にシールテープを全体が2〜3重になるように巻きます。シールテープは軽く引っ張りながら、ネジに食い込むように巻きます。
- 3 新しい水栓金具を右にまわしてねじ込みます。最後までねじ込んで水栓が斜めになる場合は、いったん外してシールテープの量を増減して正しい位置になるよう調節します。
※一度ねじ込んだものを左にまわして戻すと、水もれの原因になります。
- 4 最後に止水栓を開き、水もれを点検します。
※水もれをする場合は②から戻って作業しなおして下さい。



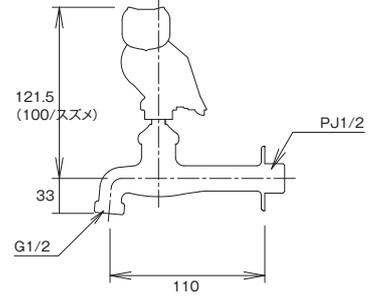
胴長横水栓
DN13-E/DN13-M/DN13-MS



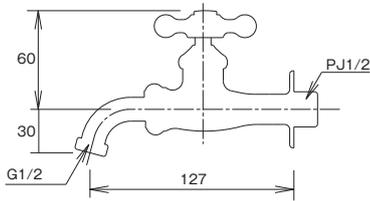
ホース接続水栓
G102-IB/G102-IM



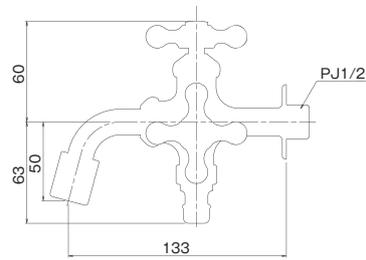
胴長横水栓 (フクロウ) 胴長横水栓 (スズメ)
DN13-OW DN13-SP



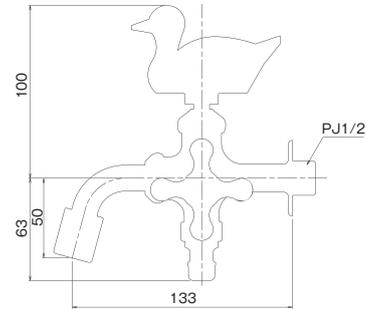
万能ホーム胴長水栓
BHD13-E/BHD13-M



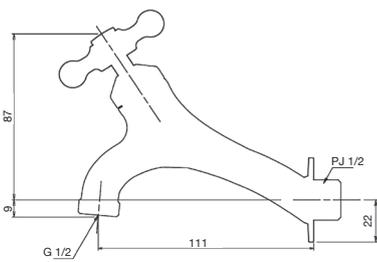
二口万能胴長水栓
FBD16-E/FBD16-M/FBD16-MS



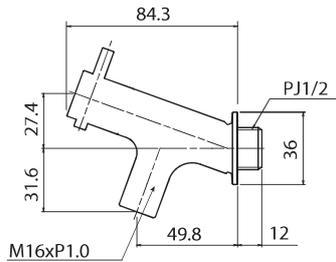
二口万能胴長水栓 (カモ) 二口万能胴長水栓 (スズメ)
FBD16-WD FBD16-SP



T14型胴長横水栓
T14D-E/T14D-M

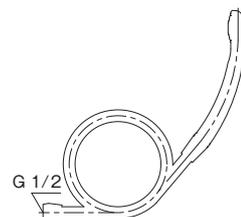


ラモミニ (メッキ、マットブラック)
G24RMY-M
G24RMY-A



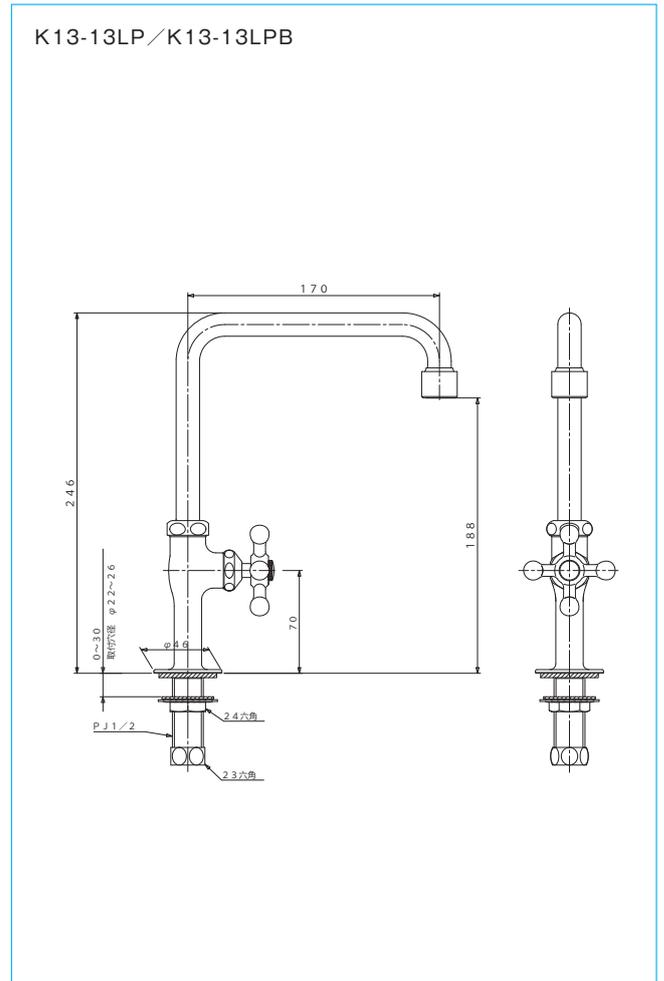
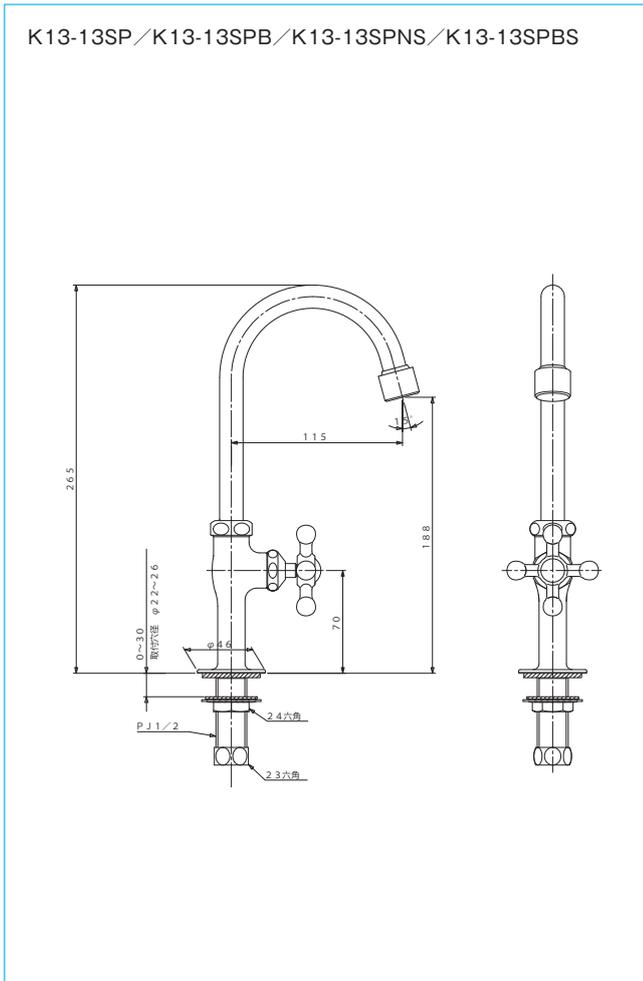
【シャワーホースの寸法図】

G216SHS-M

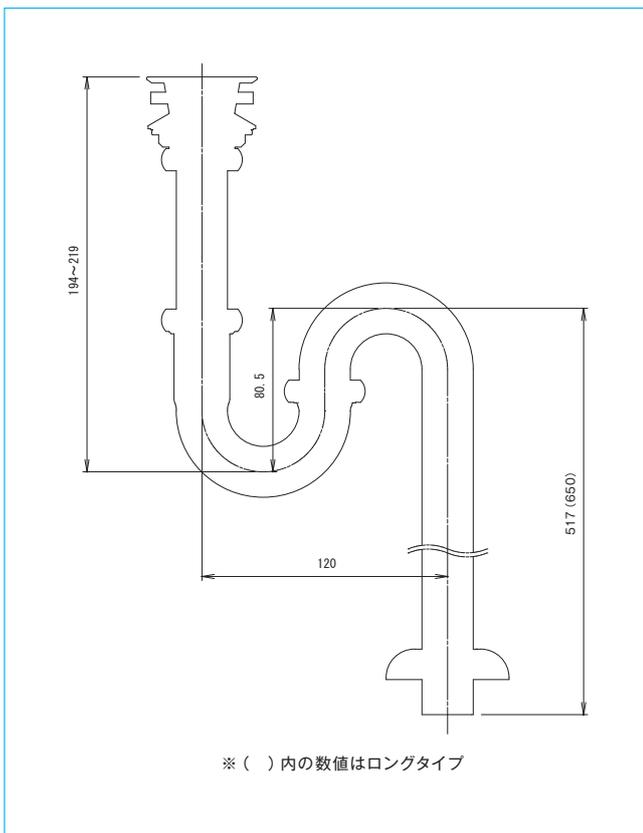


立水栓

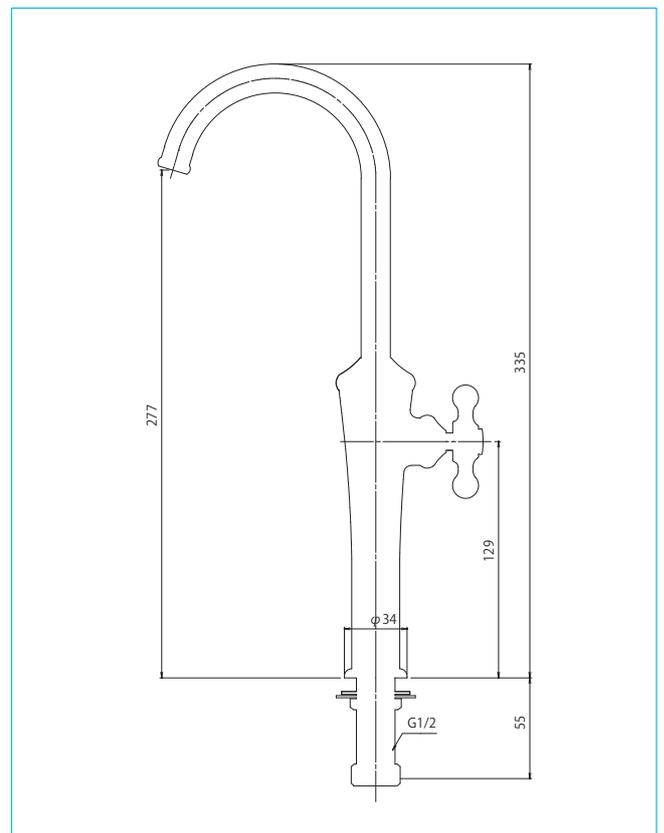
【スワンの寸法図】



【ストラップ・ストラップ(ロングタイプ)の寸法図】



【レトロンの寸法図】



ガーデン

【スワンの施工要領】

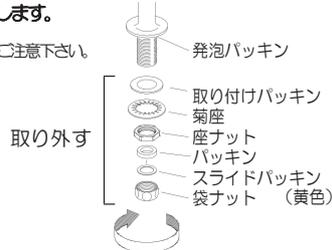
・正しい設置および正しい使用がされなかった場合の製品の故障および事故について、当社は責任を負いかねますので予めご了承下さい。

器具の取り付け

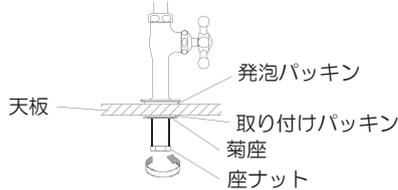
取り付けが順にしたがって確実に取り付け下さい。取り付け後は本管を開き、締め付け各部防らの漏れの無いことを確認し、実用テストを必ず実施して下さい。

1 水栓に取り付けてある袋ナット、座ナットのネジを回し、菊座、取り付けパッキンを取り外します。

※取り外す際には部品をなくさないようにご注意ください。



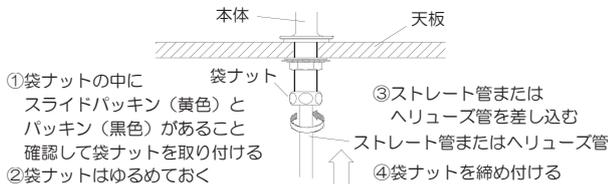
2 本体をハンドルが右側になるように天板の穴に差し込み、下から取り付けパッキン、菊座をいれ座ナットで締め付けます。



3 本体と止水栓を接続します。(ストレート管、ヘリユース管の場合)

※付属の袋ナットにスライドパッキン(黄色)とパッキン(黒色)が入っていることを確認して袋ナットを取り付けて下さい。

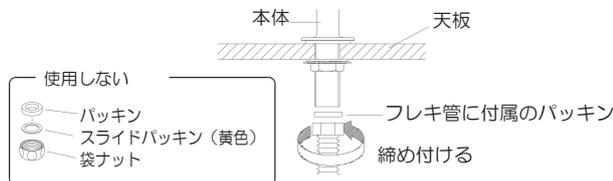
※袋ナットをゆるめ、ストレート管またはヘリユース管を差し込み、袋ナットを締め付けて下さい。



3 本体と止水栓を接続します。(フレキ管の場合)

※フレキ管で接続する場合、付属の袋ナット、パッキン、スライドパッキンは使用しません。フレキ管のナットで直接本体に接続して下さい。

※本体とフレキ管の間には必ずフレキ管に付属されているパッキンを使用して下さい。



取り付け後の点検

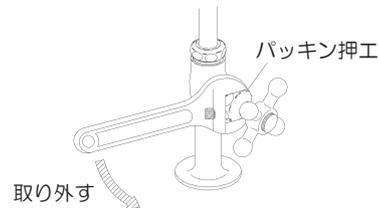
※水栓の出し止めを数回繰り返して、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認して下さい。

※天板の上から水栓に対し、水をかけてキャビネット内に浸入がないか確認して下さい。

コマの掃除

止水できなくなった場合には、コマにゴミがついていることがありますので、下記の手順によりコマの掃除を行って下さい。

1 止水栓のハンドルを閉じて給水を止めます。パッキン押エのネジを回して上部を取り外します。



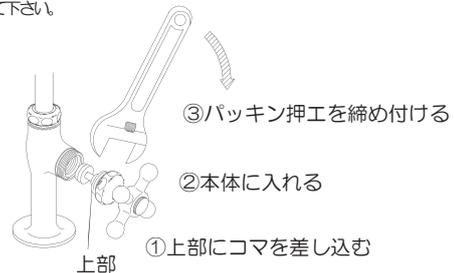
2 コマを取り出し、ゴミを取り除きます。

※コマが取れない場合は、ラジオペンチ等ではさんで取り出して下さい。



3 上部にコマを差し込み、本体に取り付け締め付けます。

※全ての部品を取り付け、水栓の出し止めを数回繰り返して、接続部から水漏れがないことを確認して下さい。



吐水口の掃除

吐水口が詰まると吐水量が少なくなったり、温度調整が出来なくなるなど十分な機能が発揮されなくなりますので、ときどき吐水口部を掃除して下さい。

※吐水口部を外して、網目や穴に詰まったゴミをブラシなどで取り除いて下さい。



お手入れの方法

いつまでも美しさを保つため、柔らかい布で磨き、メッキされたところはときどきミシン油やカーワックスなどをしみ込ませた布で磨いて下さい。

※クレンザー、みかき粉、粗い粒子を含む洗剤およびナイロンたわしなどはメッキ面を傷つけるので使用しないで下さい。

※また、酸性洗剤はメッキを侵しますので使用しないで下さい。間違っても使用したときはすぐに水洗いして下さい。

※K13-13SPB・K13-13LPB (ブロンズメッキ)、K13-13SPBS (ブラックサテンメッキ) は特殊メッキのため、経年により色が変化する場合があります。

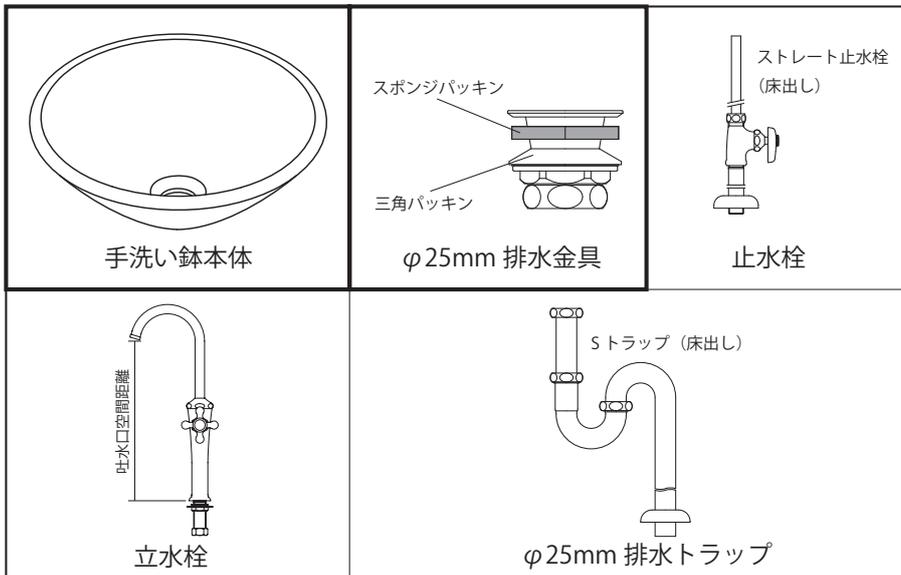
立水栓

施工要領

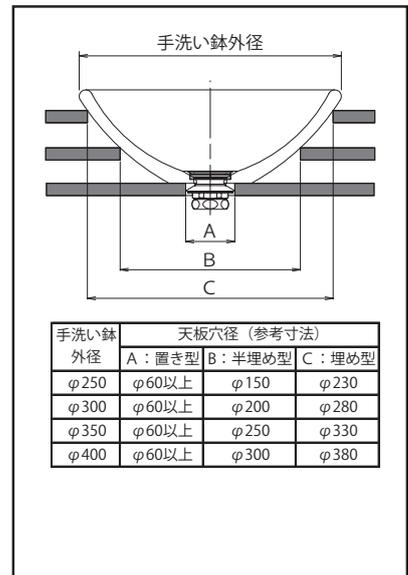
寸法図

[レトロ／ストラップ／ストラップ(ロングタイプ)]

各部の名称



参考寸法



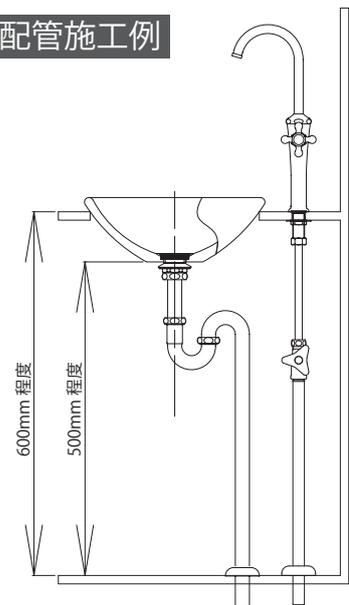
施工に関する安全上のご注意

- 手洗い鉢の取付工事は必ず専門の工事店に依頼してください。
- 手洗い鉢には様々な材質がありますが、壊れ物としてご認識ください。落としたりぶつけたりしますと、欠けたり割れたりするおそれがあります。
- 工具などの硬いものを手洗い鉢の上に落としたり、のせて引きずったりしないでください。

参考施工図

- 下図は参考図です。必ず天板開口前に水栓や手洗い鉢の位置のバランスを見て開口位置を決定してください。
- 天板と手洗い鉢のすき間に必ずコーキング処理をしてください。
- 施工後には必ず通水点検を行ってください。
- 必ずモンキーレンチ等の工具を用いて締付けてください。手締めをすると水漏れが発生するおそれがあります。

床出し配管施工例



※通水点検※

- 水栓を吐水させ、適切な吐水量であるか確認します。水はねが激しい場合は、止水栓を絞るか、手洗い鉢の位置を微調整してください。吐水量が排水能力を上回る（あふれる）場合は、適正水量になるまで止水栓を絞ってください。
- 通水、排水経路の接続部に水漏れが無いか確認します。
- 排水がスムーズに行われているか確認をします。

日頃のお手入れ

製品についた汚れを放置しておくと、汚れが落ちにくくなる場合があります。快適にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。

- 柔らかい布で水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。
- 汚れが目立つときは、中性洗剤を柔らかい布にふくませて拭き取った後水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。
- ゴミ等により排水口が目詰まりすることがあります。その場合、排水口を掃除してください。
- 酸性や塩素系の洗剤・ベンジン・油などは、表面を傷めますので使用しないでください。

利休信楽水琴窟（屋内用）

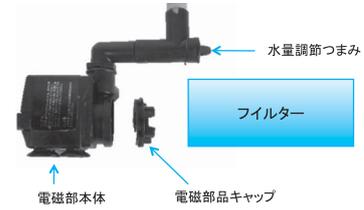
施工要領

【信楽焼・琴音ボール】

水量が少ない場合ポンプが機能出来ず水が回転しない時その時は蓋部上部からコップにて水を注いでポンプに力を与えてください

接続キャップとホースを取り付ける

注意
*ポンプ清掃時、電磁部品キャップを電磁部本体に取り付けてください。



モーターが隠れるほどの水量

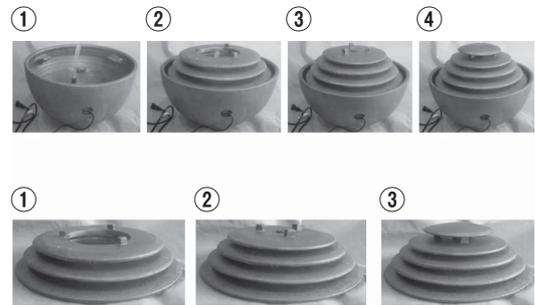
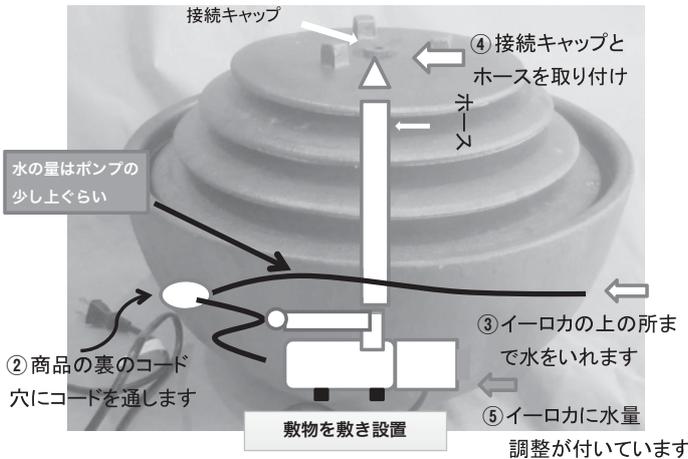
ポンプ設置位置

穴にコードを通す。

*ポンプコードの引っ張りすぎに注意、水漏れ原因になります。
*応急処置、穴をテープなどでふさぐ。(コードを穴の上部位置に)

先端のつまみを左右に回して水量調節を行うことができます。(右側=大、左側=小)

水琴窟本体の下に敷物を敷き設置



- ① 琴音ボール本体を設置する。
- ② 水中ポンプフィルター<イーロカ>を本体底部に置き、商品の裏の穴にコードを通します。
*ホースが長い場合はポンプが傾く事がございますが支障ございません。
- ③ 琴音ボール本体に<イーロカ>上部が隠れる所まで水を入れて下さい。
- ④ 琴音ボールの蓋裏部に接続キャップとホースを取り付けて下さい。
- ⑤ 電源を入れて下さい。(水の勢いが強い場合は、<イーロカ>にて水量調整をして下さい)

<注意事項>

設置の際には以下の点にご注意下さい

- * セットや点検をする際には必ず差し込みプラグが抜かれた状態で行って下さい。(感電の原因になります)
- * <イーロカポンプ>電源部に水などがつかないようにして下さい。
- * 水はねなど周辺に水が飛び散る場合がございます。
- * 設置の時、琴音ボール本体の下に敷物を敷き設置して下さい。
- * 直接設置すると床、畳などに傷、変色(拭きわすれ水、日当たりによる色落ち)の原因になります。
- * 設置場所に似合うデザインの受け皿を設置することをお勧めいたします。(素材例、プラスチック、ガラス、石)
- * ポンプのコードの引っ張りすぎに注意、水漏れ原因になります。
- * 応急処置、穴をテープなどでふさぐ。(コードを穴の上部位置に)
- * 屋外で使用した場合、雨水により感電の原因、コード穴まで雨水が入り込み反響音が変わる原因になります。
- * ポンプは購入店から購入できます。
- * 不具合が生じた場合購入店にご相談下さい。

ガーデン

手洗い鉢

施工要領

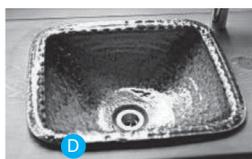
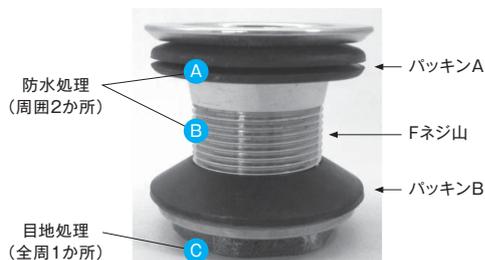
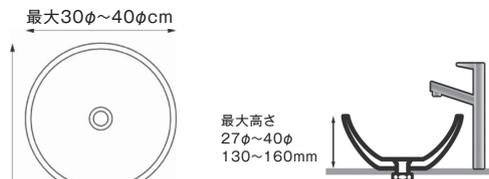
【手洗い鉢の施工要領】

■ 手洗い鉢、ボウル排水金具取り付け手順

- 丸鉢排水栓、パイプ径25mm使用
- 手洗い鉢の排水金具は仮取り付けをした状態です。
- ①取り付ける手洗い鉢に排水金具を仮付けし、排水金具との相性を検証します。(出荷時に確認済みですが再確認。)
- ②排水金具を取り外しAとB2か所に防水処理材を塗布します。
*防水処理材例(TOTOなどPシール、市販のシリコンコーキング材)
- ③もう一度排水金具を取り付け、六角ナットをしっかりと本締めします。
*この場合事前にFのネジ山にシリコン材を塗布して防水処理を行って下さい。
- ④最後にCの箇所メジ処理を施し手締めで取り付けます。
*メジ処理材例(TOTOなどPシール、市販のシリコンコーキング材)

【補足事項】

- 上記方法を怠りますと水漏れする可能性が格段に上がります。
- ①相性の調整、「パッキンA」を切って調整するか、取り外してPシールやシリコンコーキング材などで防水処理を行って下さい。尚、「パッキンB」は絶対外さないで下さい。



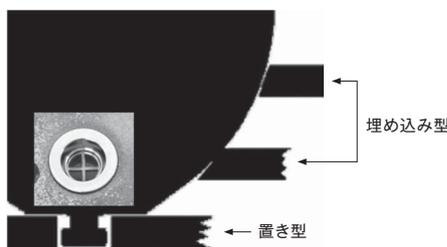
*手洗い鉢と設置されたカウンターなどのD隙間に防水処理材にて防水処理をして下さい。水漏れする可能性があります。



(株)三栄水栓製作所 推奨立水栓【撮影使用Y50750H-2T-13】
K4750NV-2T-13 シングルワンホール洗面混合栓 K4750NK-2T-13 シングルワンホール洗面混合栓 寒冷地用
Y50750H-2T-13 立水栓 Y5075H-2T-13 立水栓 *止水栓との接続にT190-13X300ベンリーフレキを使用

手洗い鉢、置き型と埋め込み型図解

下記図解の様に、各高さにより洗面台やカウンターに設置施工して下さい。手洗い鉢現物の型紙を作成し、はめこみ施工して下さい。



●丸鉢排水栓、パイプ径25mm使用

(排水栓トラップ口径は25mm用をご使用下さい)

*取り付けに困られた場合、販売店にご相談下さい。

信楽焼照明 (あかり)

施工要領

■ 設置方法

- 1 A照明器具を設置
- 2 本体陶器カバーを照明器にかぶせて完成



■ 注意

- 設置の際には以下の点にご注意下さい。
- この器具は防雨型です。浴室、サウナ風呂、高湿多湿の場所では使用できません。
 - この器具は直置き型です。不安定な場所には設置されないようにお願いいたします。
 - 器具を改造したり、部品を追加、変更して使用しないで下さい。
 - 器具、本体の隙間や放熱穴などに金属類を差し込まないで下さい、又ふさがないで下さい。
 - 器具は高温のため触らないで下さい。
 - 照明を布などで覆って使用しないで下さい。
 - 表示された電圧以外で使用しないで下さい。
 - 異常を感じた場合は早急に電源を切って下さい。
 - 温度の高くなる場所近くの取り付けはしないで下さい。

*セットや点検をする際には必ず差し込みプラグが抜かれた状態で行って下さい。(感電の原因になります)

*コードの引っ張りすぎに注意、転倒原因になります。

ソーラーライト

施工要領
【ソーラーライトの施工要領】


1 本体裏面矢印



2 墨出し



3 サンダー切込み



4 研り



5 副資材 (参考)



6 設置



7 バックアップ材充填



8 シーリング



9 完了

■ ソーラーライトについてのご案内

- ※ **車乗り入れ不可**となります。
- ※ソーラーライトは直射日光のあたる場所で使われることを想定しています。常時建物の影になる場所、ピロティ、建物内部などには適していません。設置場所は予め十分にご検討下さい。
- ※ソーラーライトは高耐荷重性能を有していますが、駐車場などへの設置により、タイヤの溝に挟まった石、ソーラーブリック直上でのハンドル操作、ブレーキ摩擦などにより、ソーラーライトの破損を生じる恐れがあります。
- ※ソーラーライトは周囲が夜間でも明るい場所(約200ルクス以上)では点灯しないことがあります。街灯、庭園灯、その他外部照明との位置関係を十分に配慮してご計画下さい。
- ※ソーラーライトを直接土間コン打設時に埋設しないで下さい。コンクリートの硬化時に変形圧力がかかり、破損の原因となります。オプションのステンレスケースを使用するか、必ず箱抜きをして、その空間部分に設置して下さい。
- ※ソーラーライトの周囲には必ず目地を設けて下さい。隣接する素材の膨張収縮率の違いから、夏季、冬季の伸び縮みにより、床仕上げ材へのクラック発生、あるいはソーラーライトの破損の恐れがあります。ステンレスケースの使用が便利です。
- ※水盤内の設置は、水深10cm程度までとして下さい。また、透明度の低い池や海水には適していません。製品の不具合が生じた場合などに、水盤内の水は排水できる構造とし、かつ、容易に取り外しが出来るシール止めとして下さい。
- ※夕刻の点灯時、朝方の消灯時において、一定時間点滅を繰り返すことがあります。これは周囲の明るさを検知して作動する商品の特性上、切り替え時(約200ルクス)に起こり得る現象ですが、故障ではありません。
- ※工場出荷時は充電が空の状態です。設置直後は点灯が安定しません。満充電には晴天で3日ほどかかります。
- ※高輝度LEDは製造時に選定作業をしておりますが、個体別に微妙な色調のバラツキが生じる恐れがあります。LEDの特性としてご理解下さい。
- ※ソーラーライトは1つひとつが独立しており、個体差があります。複数個を同じ場所に設置した場合でも、点灯・消灯は完全には同期化しませんので、予めご了承下さい。
- ※365日点灯保証されるものではありません。冬季の日射不足や悪天候が続くなど、十分な日射が得られず、充電が切れた場合には夜間でも点灯しません。晴天時に再度充電されることで点灯するようになります。一度充電が切れた場合、満充電になるには晴天で3日ほどかかります。
- ※設置後は、一般的な清掃等以外、特別なメンテナンス作業などは発生しません。透明養生フィルムは設置後、必ず剥がしてご利用下さい。
- ※立面に設置する場合、本体裏面の矢印が必ず上を向く方向で設置してください。矢印が上向きでない場合、正しく内部のバッテリーが作動しません。

メタルライト／ルートウ・ピエニ

【メタルライトの寸法図/施工要領】

モンステラの灯り

【施工要領】

<p>コンクリートの場合</p> <p>下穴 6mmをあけてカールプラグを差込み タッピングネジをしめてください</p>	<p>木質系の場合</p> <p>タッピングネジでそのまましてください</p>
--	---

アンティーク門灯

【施工要領】

<p>コンクリートの場合</p> <p>下穴 6mmをあけてカールプラグを差込み タッピングネジをしめてください</p>	<p>木質系の場合</p> <p>タッピングネジでそのまましてください</p>
--	---

【側面図】

かわいいジャム瓶の灯り

【施工要領】

<p>コンクリートの場合</p> <p>下穴 6 mmをあけてカールプラグを差込み タッピングネジをしめてください</p>	<p>木質系の場合</p> <p>タッピングネジでそのまましてください</p>
---	---

【側面図】

ねこの灯り

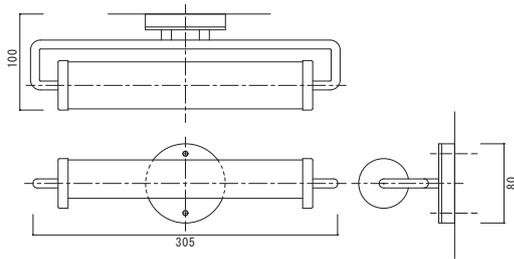
【施工要領】

<p>コンクリートの場合</p> <p>下穴 6mmをあけてカールプラグを差込み タッピングネジをしめてください</p>	<p>木質系の場合</p> <p>タッピングネジでそのまましてください</p>
--	---

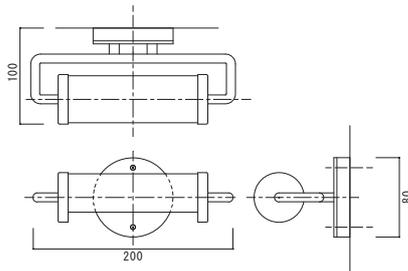
【側面図】

ガーデン

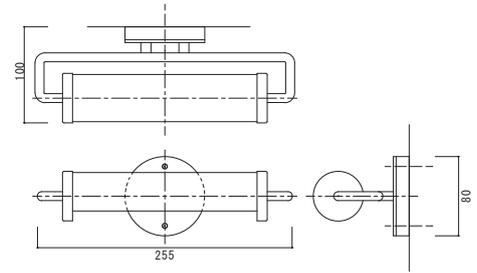
マローネ・ライト L



マローネ・ライト S



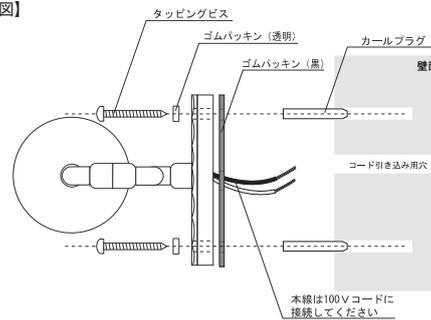
マローネ・ライト M
ピアンカ・ライト M



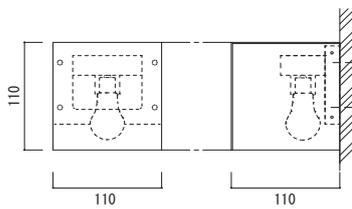
【施工要領】

- コンクリートの場合
下穴 6mm をあけてカールプラグを差込み
タッピングネジをしめてください
- 木質系の場合
タッピングネジでそのまましてください

【側面図】

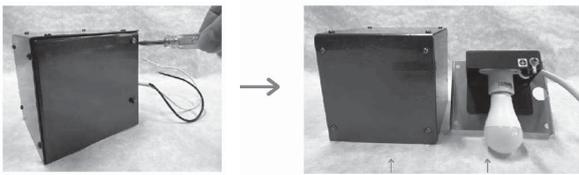


【ルートウ・ピエニの寸法図/施工要領】



【施工要領】

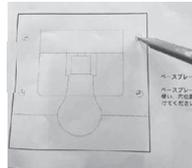
- 1 準備** 両サイドの真鍮のネジを外します。



※外したネジは本体とベースプレートの固定のため使用します。紛失することがないように、ご注意ください。

- 2 取付位置の確認**

ケガキシートを使い取付位置の確認、ベースプレートの穴位置のアタリを付けてください。



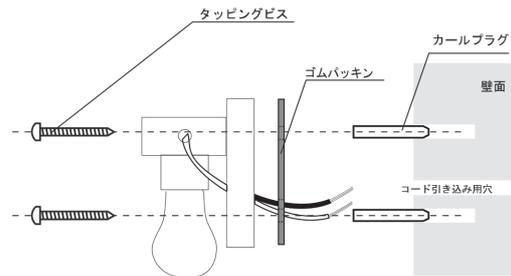
- 3 配線**

壁面に埋設された配線コードと照明コードを結線しテープで防水、絶縁して下さい。
※配線とベースプレート取付の際には安全のため電球を外して作業することをお勧めします。

- 4 ベースプレートの取付**

ベースプレートを図のようにゴムパッキンを挟み 4ヶ所にタッピングビスを使用して壁面に固定します。

- ・壁面がコンクリートの場合、下穴 6mm を開けカールプラグを差し込みます。タッピングビスで固定。
- ・壁面が木質の場合はカールプラグは使用せず、タッピングビスのみで固定して下さい。



- 5 本体の取付け**

ベースプレートの固定が終了しましたら、本体をベースプレートに被せ、最初に外した真鍮のネジで固定してください。

【メタルライト/ルートウ・ピエニ 取扱説明】

【取付について】

電線の導入口や壁面などの貫通部はコーキング材などで防水処理を施工して下さい。(電線を伝わっての水の侵入の原因になります。)

安全確保のため電源ブレーカー及びスイッチは遮断を確認してから施工して下さい。(感電の原因になります。)

接続不完全や容量オーバーの場合、火災の原因になります。
【適合電力 (W)】 最大 60W 白熱電球

※配線は、電気工事店様により接続をお願いいたします。

【お手入れについて】

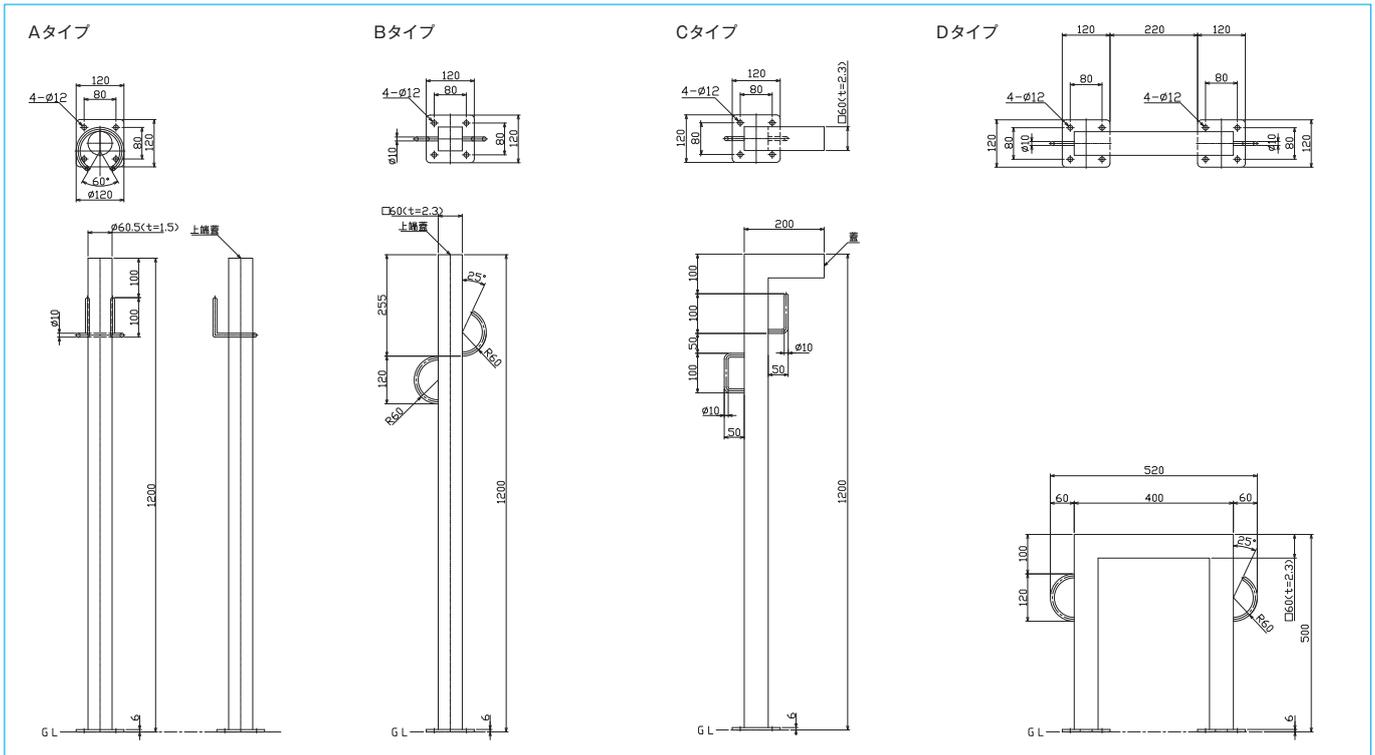
ランプの交換は、必ず電源を切って下さい。感電の原因になります。

点灯中、消灯直後に器具に触れないで下さい。
消灯後 20 分程経過後にランプ交換等をして下さい。
(やけどの原因になります。)

メタルライト アンティーク門灯は完全密閉型器具のため、ガラス内部が結露等で曇ることがあります。
ランプ交換と同じ要領で定期的にガラスの内側も拭いていただきますようお願いいたします。

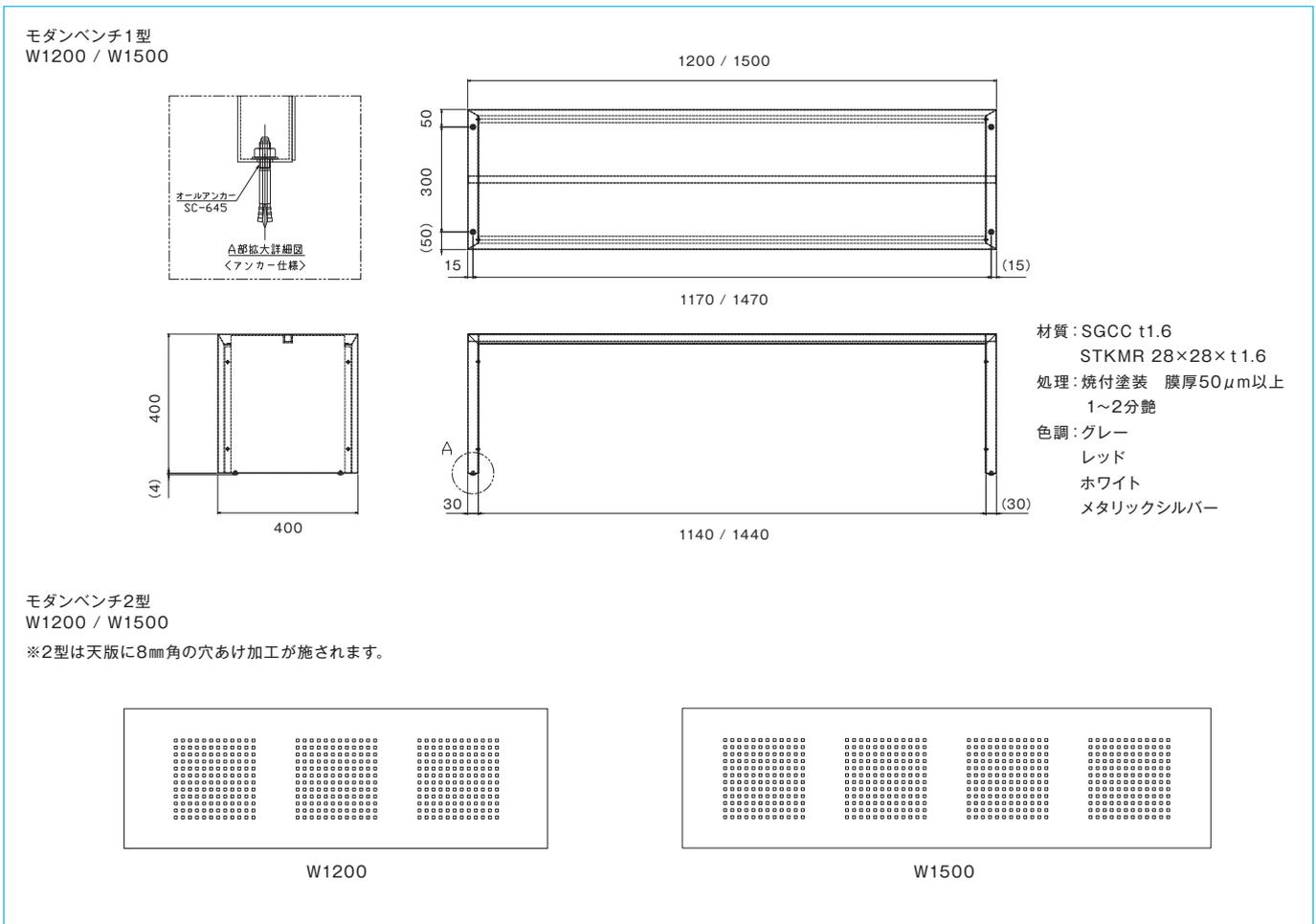
ドッグポール

寸法図



モダンベンチ

寸法図



ガーデン

グリーンパネル／ステナ

施工要領

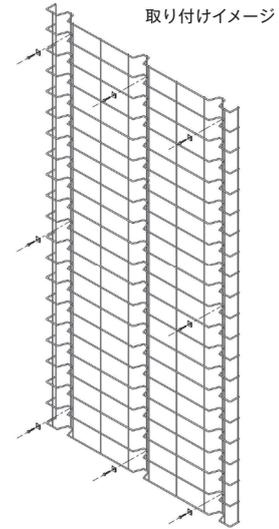
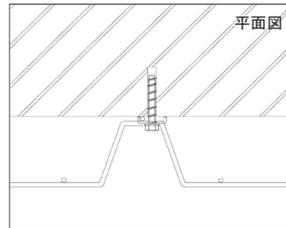
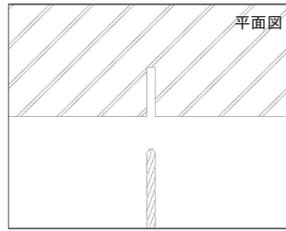
施工断面図

寸法図

【グリーンパネルの施工要領】

① 取り付け位置の確認、下穴開け加工

※グリーンパネルの取り付け位置を決めます。必要に応じて印をつけます。
 ※RC塀やALC壁、コンクリートブロック塀に深さ30～35mmの下穴開け加工を行います。下穴開けに使用するドリルは直径6mmを推奨します。

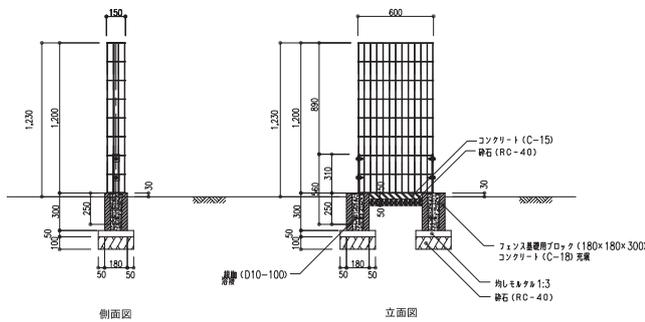
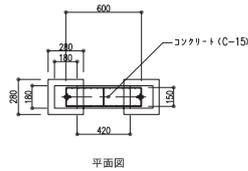


② 固定部材による取り付け

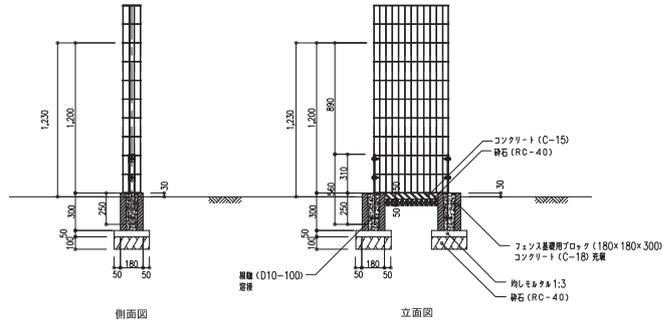
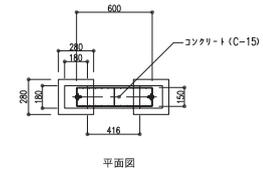
※固定金具とハイタップアンカーを使い固定します。
 ソケットのサイズは8mmを使用します。

【ステナフラットバー緑化用の施工断面図】

FB支柱タイプ 砕石なし
 H=1200
 ブロック基礎



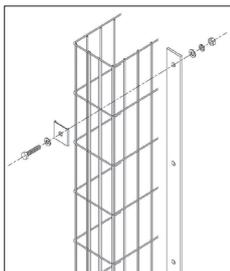
FB支柱タイプ 砕石なし
 H=1500
 ブロック基礎



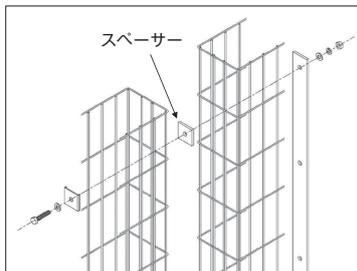
【ステナの施工要領】

ステナ本体とステナフラットバー・Lアングルの組み立て

※H1200タイプ・H1500タイプ共に埋め込み部250mmが下から出る位置でフラットバーを固定します。H1800タイプも同様にLアングルを固定します。フラットバー・Lアングルと座金でメッシュフレームを挟み込む様に組み立てます。
 ※連結設置中間部は隣接するメッシュの食い込みを防ぐため、スペーサーをメッシュフレームの間に使用します。
 ※石材を投入せず緑化フェンスとしてご使用する際は、H1200タイプ・H1500タイプ・H1800タイプ共に緑化用フラットバーをご使用下さい。



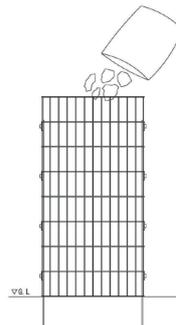
単独設置、連結設置 端部の場合



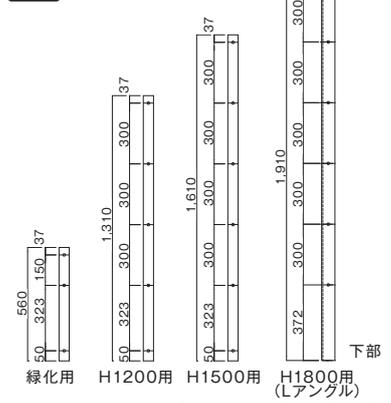
連結設置 中間部の場合

本体の取り付けと石材の投入

※フラットバーの埋め込み部を基礎へ固定します。養生したのち石材を投入し完成となります。



注意



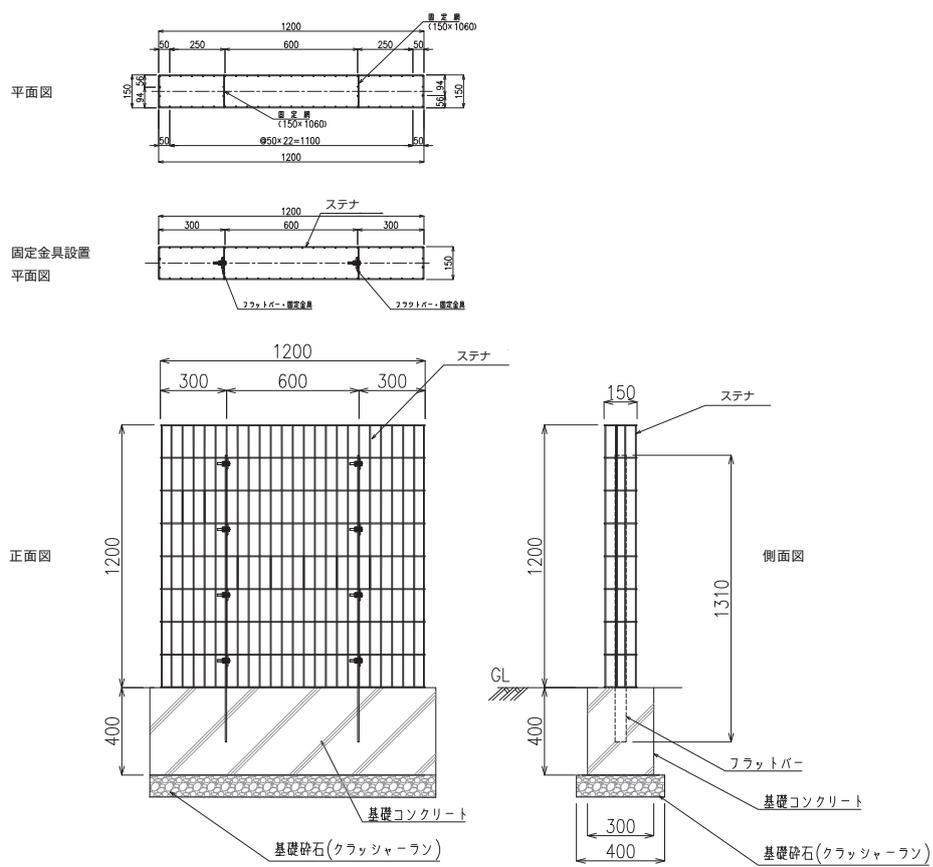
フラットバー・Lアングルは上下があり、端の穴位置が上下で異なります。組み立ての際はご注意ください。

ガーデン

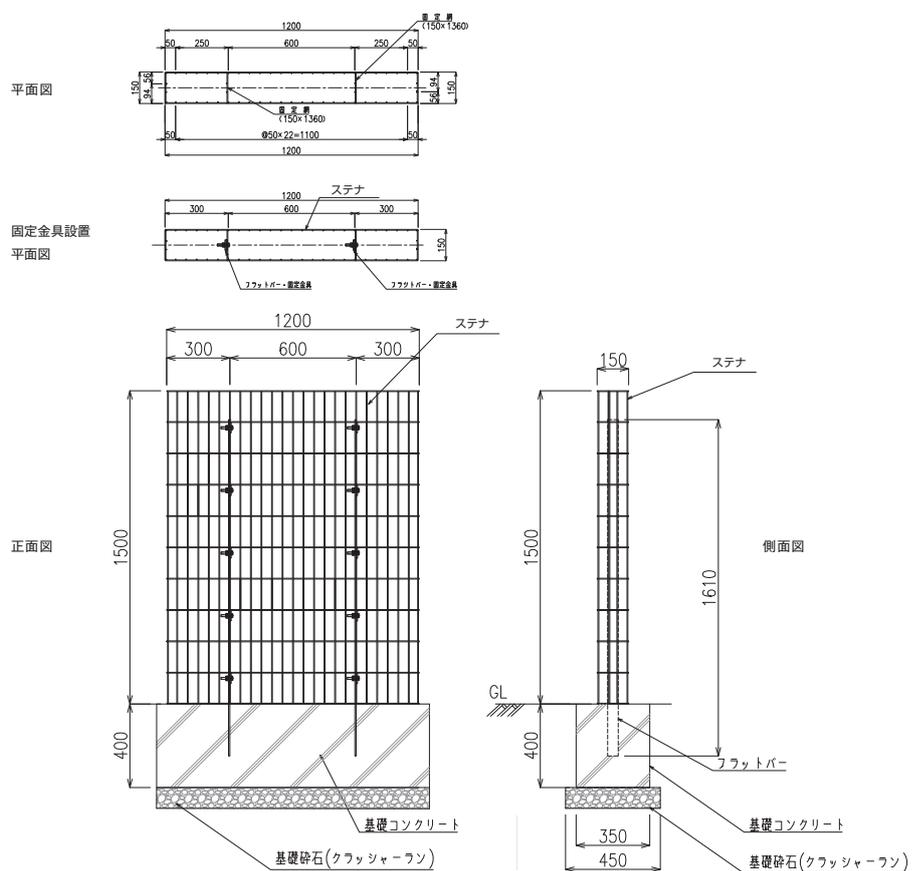
ステナ

【ステナの施工断面図】

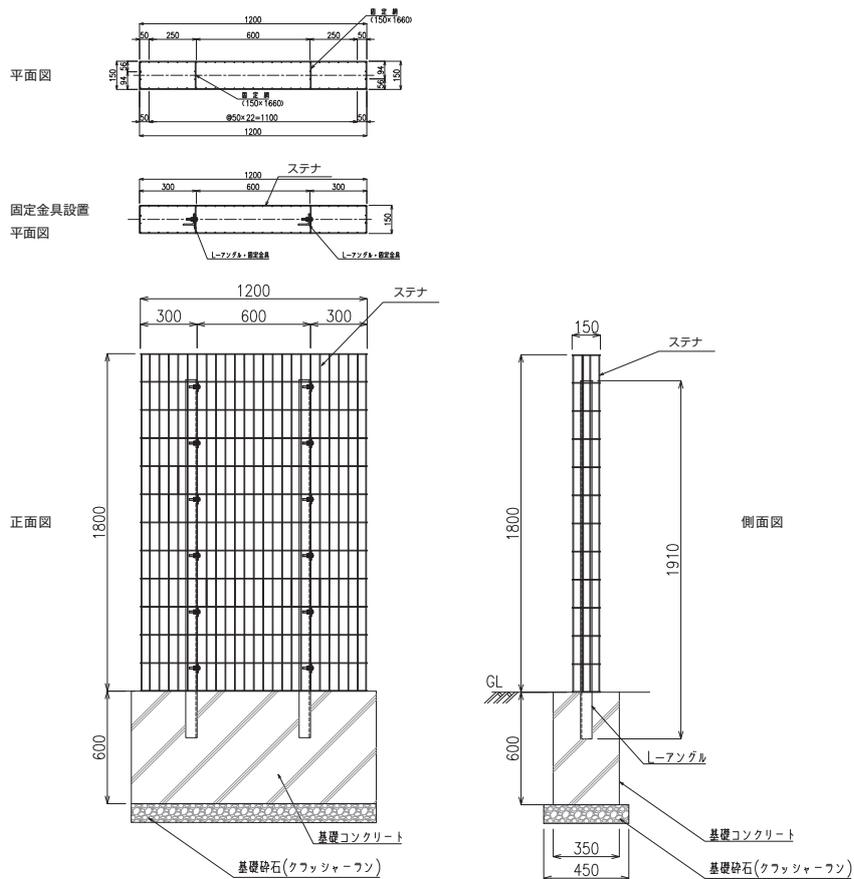
H=1200タイプ
フラットバー仕様



H=1500タイプ
フラットバー仕様

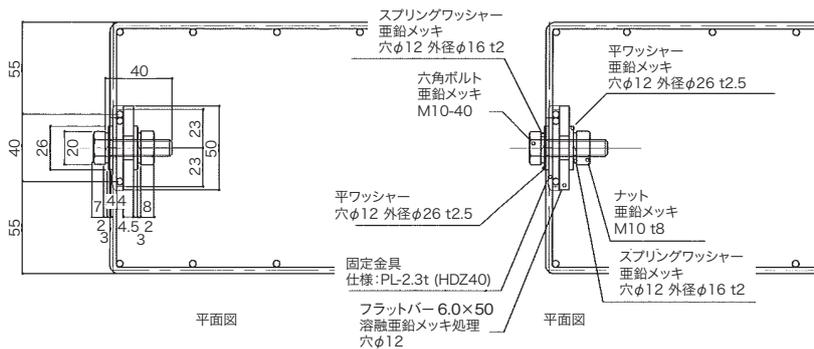


H=1800タイプ
Lアングル仕様

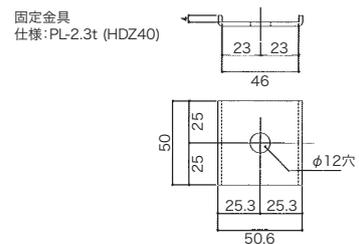
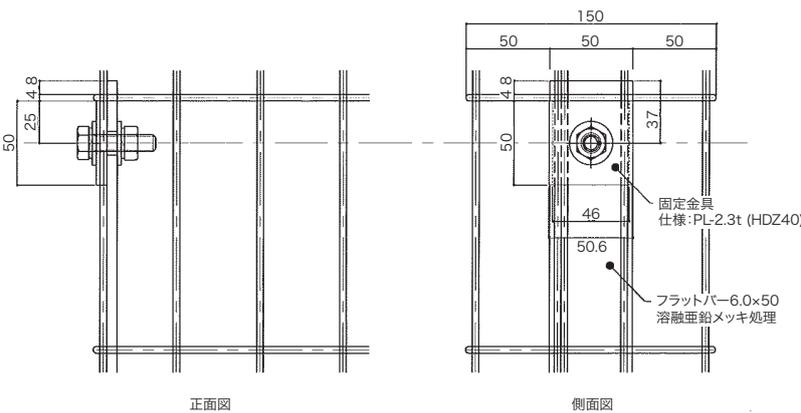
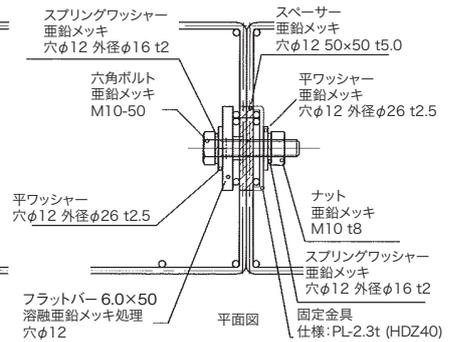


フラットバー仕様
端部・連結部

端部詳細図



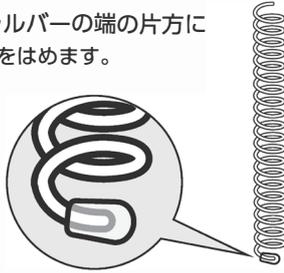
連結部詳細図



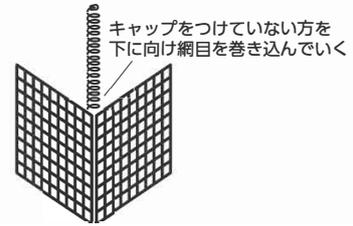
ガビオーネ／ライトガビ

【組み立て方】 底面にパネルを使用して施工する場合
※イラストは「ガビオーネ」のイメージです。

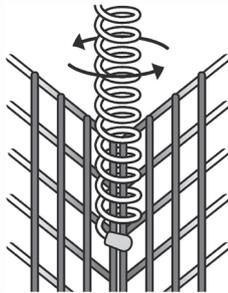
- ① スパイラルバーの端の片方にキャップをはめます。



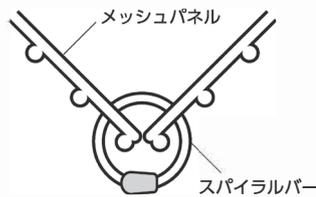
- ② 側面になるメッシュパネル2枚の端を合わせ、立ち上げて持ちます。



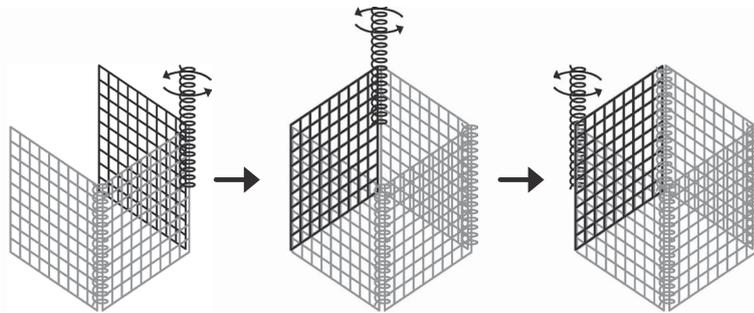
- ③ 合わさる辺のメッシュパネルの上にスパイラルバーを立てて持ち、スパイラルバーを回転させながら、パネル2枚の網目を巻き込み進めます。最後まで巻き込み作業が終わったらスパイラルバーの先にキャップを被せておきます。



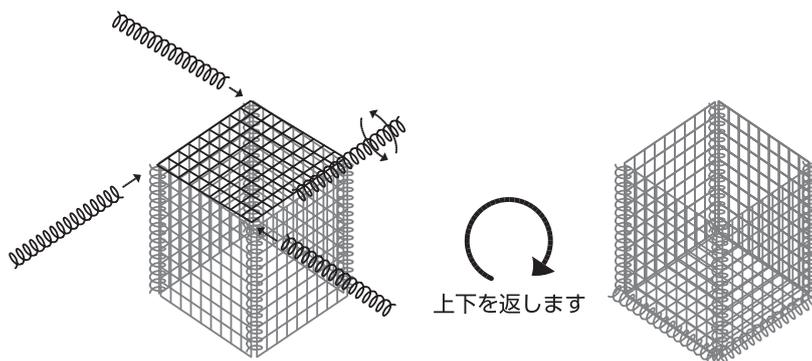
仕上がりを上から見た図



- ④ ③の要領で側面のメッシュパネル4枚をスパイラルバーで連結します。底面のメッシュパネルを使わない場合は設置場所に置いて⑥の充填作業へ。

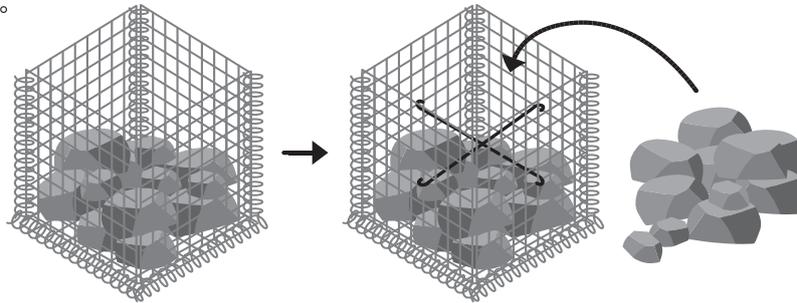


- ⑤ 底になるメッシュパネルを④の上に置き、側面パネルと合わさる4辺すべてをスパイラルバーで連結して、ひっくり返して設置場所に置きます。



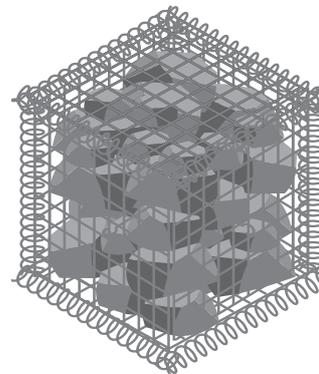
上下を返します

- ⑥ 石などの内容物を半分ほど充填します。
たわみ防止のためのテンショナーを向き合う面の網目に引っ掛けセットします。
残りの充填を行います。



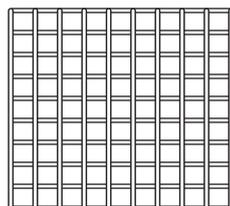
※内容物の最小サイズは直径50mm以上必要です
※テンショナーの長さは、ペンチ等で引っ掛けの曲げ位置を調整してお使いください。

- ⑦ 充填が終わったら上面になるメッシュパネルをかぶせ、
側面メッシュパネルとの4辺を
スパイラルバーで連結して完成です。



パッケージ内容と名称

メッシュパネル
サイズは下記の表をお確かめください



×6枚

スパイラルバー
(接続金具)



×12本

テンショナー (たわみ防止金具)



×2~8本

本数はサイズごとに違います
下記の表でお確かめください

スパイラルバーキャップ



×24個+予備

サイズ表

製品サイズ (仕上がるサイズ) どの方向でも使えます	テンショナーの長さ別本数				テンショナー 合計本数
	300mm	450mm	900mm	1200mm	
450×450×450mm	—	2本	—	—	2本
900×450×300mm	2本	2本	2本	—	6本
900×450×450mm	—	2本	2本	—	4本
1200×300×900mm	4本	—	2本	2本	8本

製品仕様

	ガビオーネ	ライトガビ
材質	スチール 5mm径	スチール 4mm径
	300g/m ² ドブ漬亜鉛メッキ	50g/m ² ドブ漬亜鉛メッキ
組立	パネル式+スパイラルバー	
メッシュサイズ	50mm×50mm	40mm×90mm



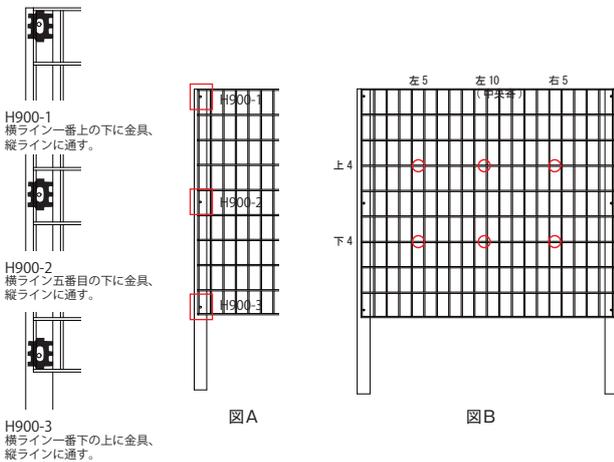
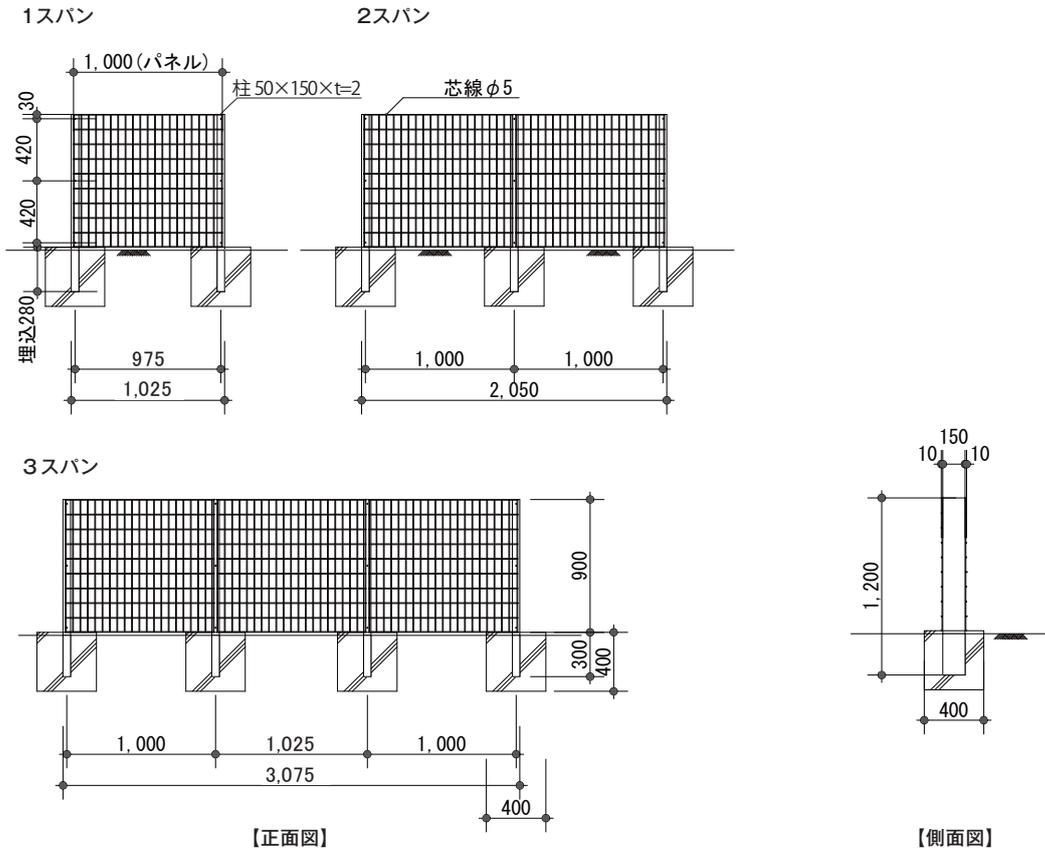
◎スパイラルバーの先端が尖っていますので、保護具(軍手など)着用のうえ作業を進めてください。
◎組み立て作業は二人以上が効率よく安全です。

《設置場所について》

倒れやすい傾斜地や軟弱で不安定な場所は避け、設置場所は施工前に、サイズにあわせて平らに均し、必要であれば基礎を打ち、アンカーを使用するなど、ガビオーネ/ライトガビが倒れないように施工してください。石など充填後にガビオーネ/ライトガビの移動はできません。お気をつけください。

ガビネオ

【H900タイプ】



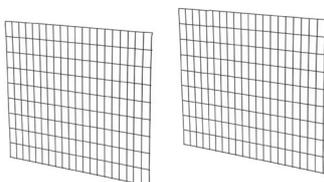
ガビネオ(H900タイプ) 施工要領

- ① 柱を埋込280mm立面図の柱位置を参照に固定します。
- ② 柱に溶接されているボルトをいったん外します。(6本/柱)
- ③ 柱→パネル(横格子が外側)→ボルト止め金具→ボルトの順で柱にパネルを両面固定します。(固定位置は図A参照)
- ④ 石を1/3程充填します。
- ⑤ たわみ防止のテンショナーを引っ掛けセットします。(図B参照)
- ⑥ 石を2/3程充填し、テンショナーをセットし、残りの石を充填します。
- ⑦ オプションの笠木を天端止め金具で固定します。

■ セット内容

セット ()はH1500タイプの数量

パネル:2枚



柱:2本



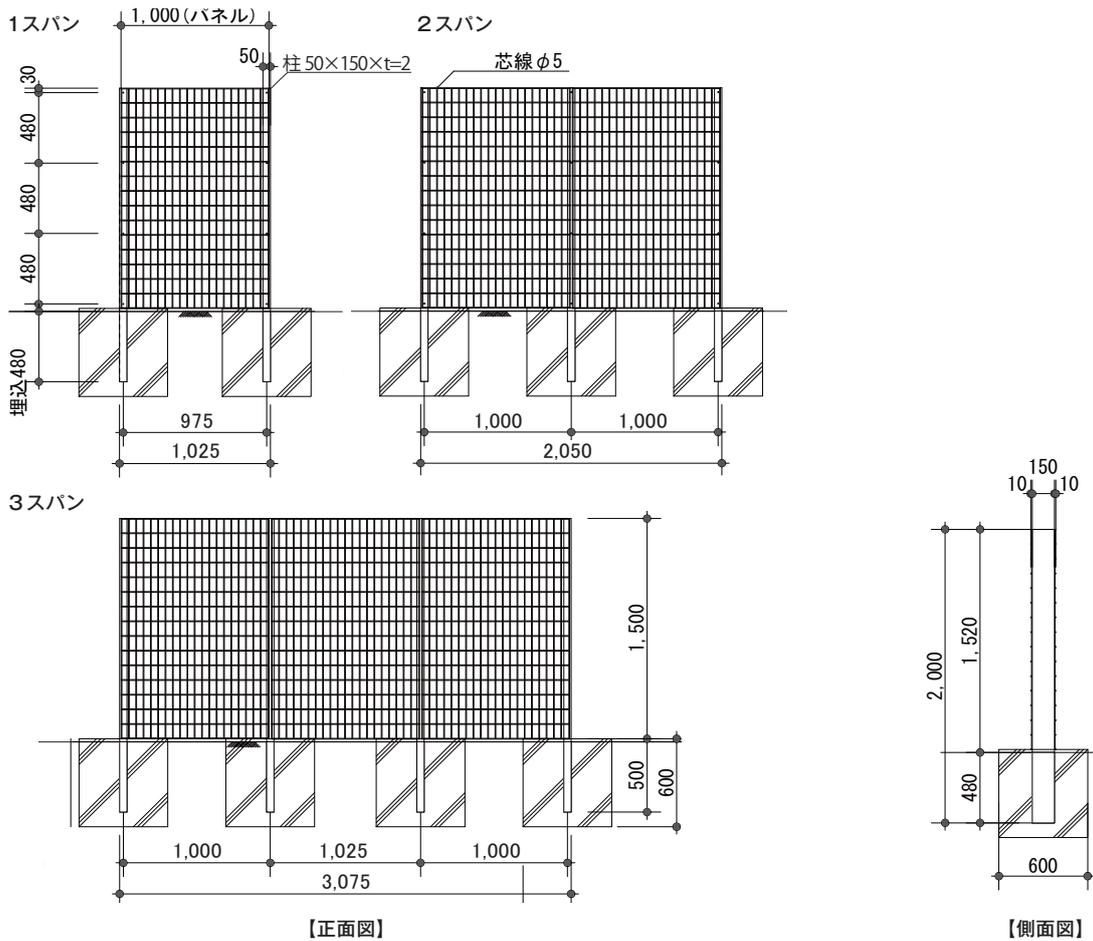
テンショナー:6本(12本)
(たわみ防止金具)



取付金具:12枚(16枚)

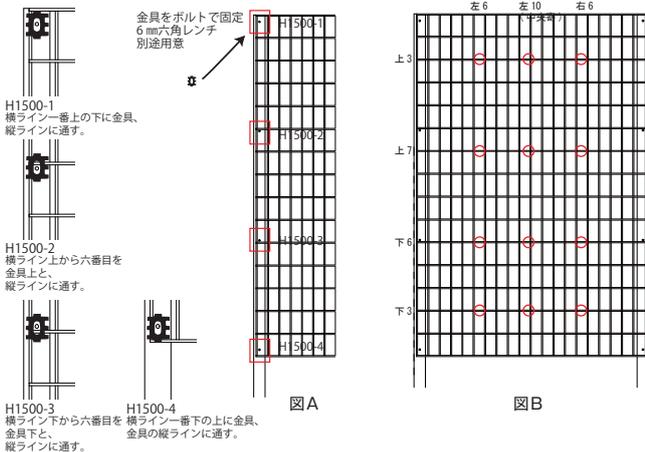


[H1500タイプ]



【正面図】

【側面図】



ガビネオ(H1500タイプ) 施工要領

- ①柱を埋込480mm立面図の柱位置を参照に固定します。
- ②柱に溶接されているボルトをいったん外します。(8本/柱)
- ③柱→パネル(横格子が外側)→ボルト止め金具→ボルトの順で柱にパネルを両面固定します。(固定位置は図A参照)
- ④石を1/3程充填します。
- ⑤たわみ防止のテンショナーを引っ掛けセットします。(図B参照)
- ⑥石を2/3程充填し、テンショナーをセットし、残りの石を充填します。
- ⑦オプションの笠木を天端止め金具で固定します。

■ 単体柱1本セット内容

柱 ()はH1500タイプの数量

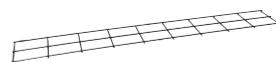
取付金具:6枚(8枚)



■ オプション

天端パネル

天端パネル:1枚



取付金具:6セット



タッチアップペン

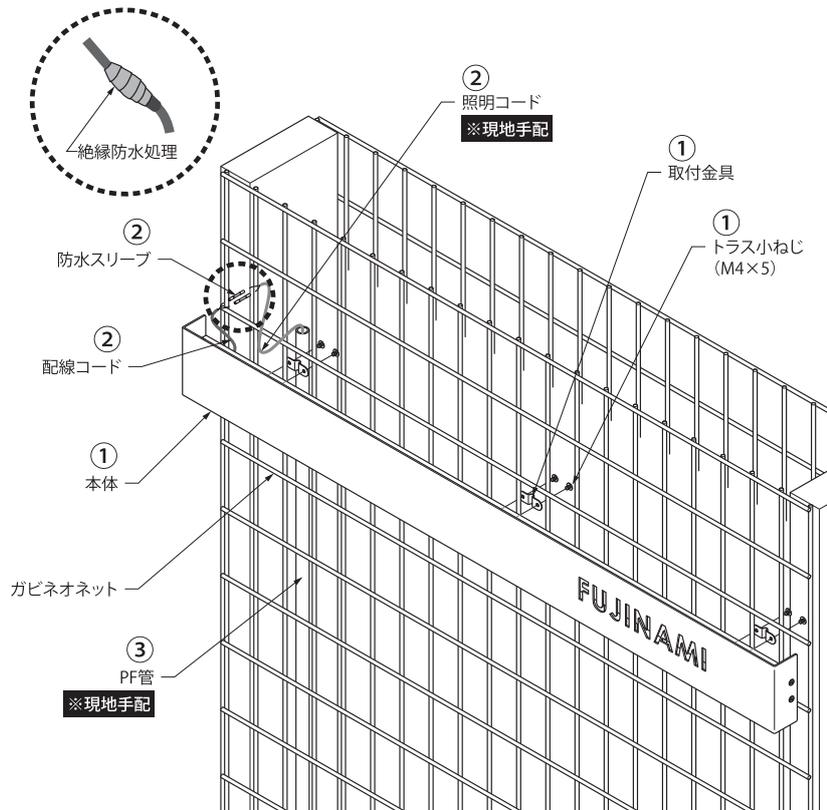
容量:30ml



ガビネオ LED

■施工手順

- ①照明本体を取付金具3個とトラス小ねじ(M4×5)6本でガビネオネットに取り付けてください。
- ②本体の配線コードと照明コード(※現地手配)を防水スリーブにて結線し、自己融着テープ等で防水・絶縁してください。
- ③②の結線部をPF管(※現地手配)に通して防水処理をしてください。



●同梱セット

No.	同梱部品	数量	単位
1	本体	1	セット
2	取付金具	3	個
3	トラス小ねじ(M4×5)	6	本
4	防水スリーブ	2	個
5	自己融着テープ	1	枚
6	六角レンチ(呼び2)	1	本

⚠️ ご注意

- 電気配線は電気工事店にご依頼ください。

⊘ 禁止

ほたるスイッチと組み合わせて使用しない

LED照明(100V)にほたるスイッチを接続すると、ほたる点灯時に流れる微小電流により、LED照明(100V)がぼんやり点灯、点滅するおそれがありますので、ほたるスイッチと組み合わせて使用しないでください。

ハイパーウッドトップ

施工要領

寸法図

■施工手順 ※下記商品のセット画像はイメージの為、実際の製作図と多少の誤差がありますのでご了承ください。

①ハイパーウッドトップは穴加工済みで、座面板材、根太材と組み合わせた状態で納品されます。

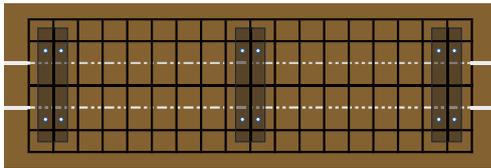
②ハイパーウッドトップの裏面の根太材と固定用ビス(12本)を取り外してください。



梱包内容

座面板座	1
根太材	3
固定ビス	12本(SUSビス 5.1×3.8)

③ガビオーネCタイプの上面になるメッシュパネルをハイパーウッドトップ座面板座の裏に左右の間隔を均等になるようにセットします。



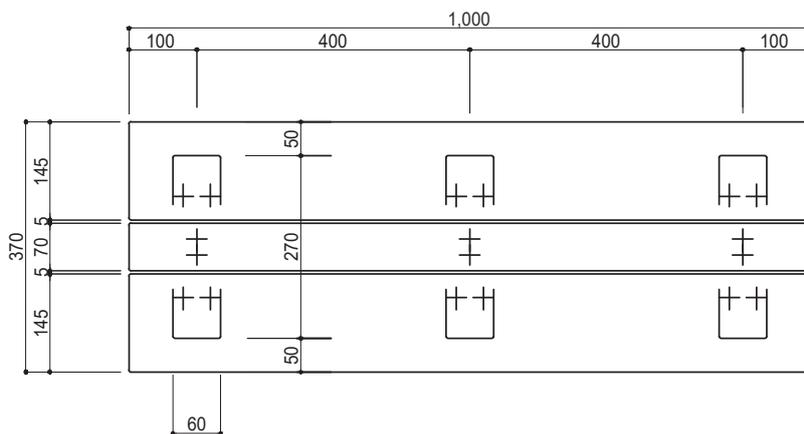
⑤ガビオーネ本体に石などの内容物の充填が終わったら、セットしたハイパーウッドトップをかぶせ、スパイラルバーで連結して完成です。



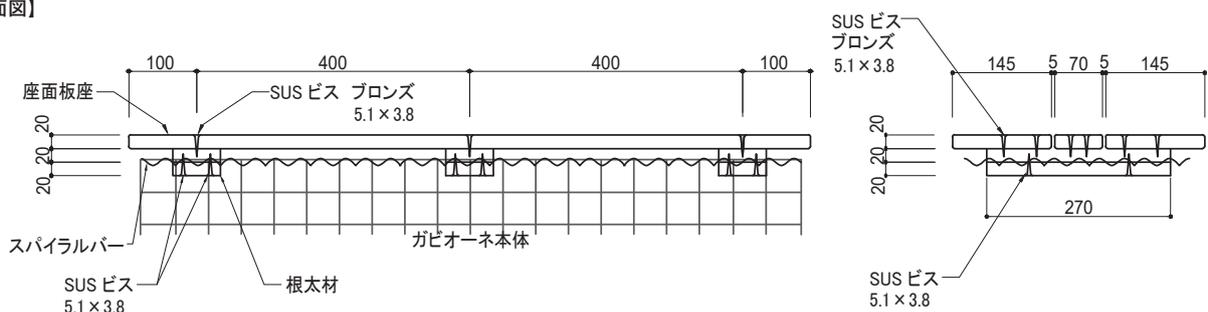
④根太材を元の位置に戻して固定ビスでとめて下さい。



【平面図】



【立面図】



ガーデン

ユナイテッド・ガード

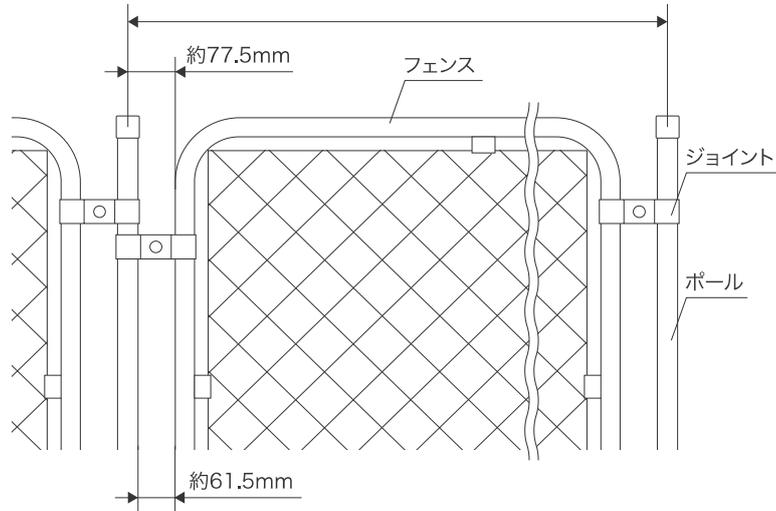
寸法図

■ 取付寸法図

芯々の長さ

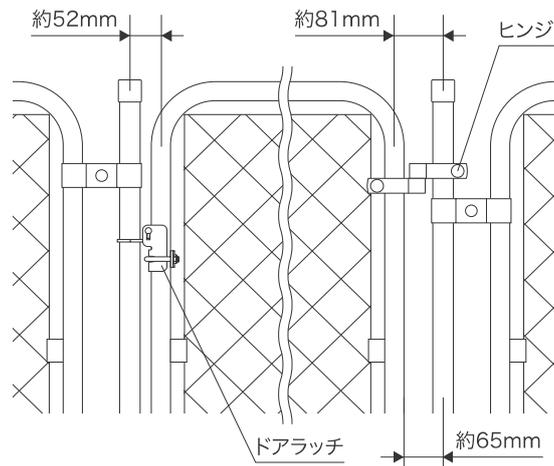
ジョイント使用時

- ・縦張り=約1,055mm
- ・横張り=約1,955mm



ドア仕様

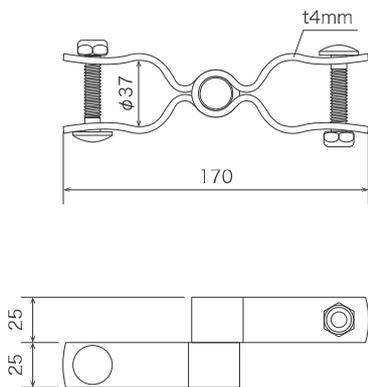
- ・縦張り=約1,000mm
- ・横張り=約1,900mm



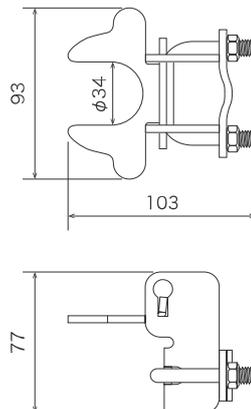
*製造上の精度により位置は多少ずれる場合があります。余裕の持った取り付け位置でお考え下さい。

■ 寸法図

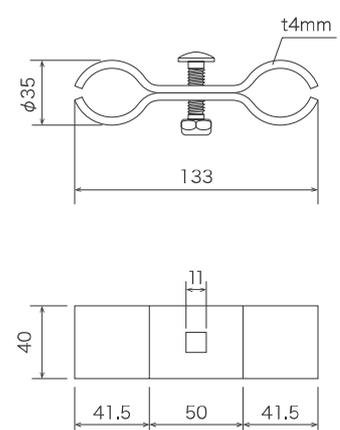
ヒンジ



ドアラッチ



ジョイント



グラベルガビネオ

1 位置の測定とマーキング

地面に支柱用の穴の中心位置を2か所測定・マーキングします。
2つの穴の中心間距離は900mmとし、各位置に500mm角・深さ約450mmの穴を掘削します。
*製造上の精度により多少の寸法誤差があります。
必ず下部クロスビームを左右両側支柱に仮取付して、位置を確認してから施工して下さい。

2 左側支柱の設置

左側の支柱を左の穴に差し込み、地面に対して垂直であることを確認します。
穴にセメントまたは砂利を入れて固定し、セメントが完全に乾燥・硬化するまで待ちます。

3 下部クロスビームの取り付け

ネジとナットを使用し、左側支柱内部に溶接されているベースプレートに下部クロスビームを固定します。(図A)

4 メッシュパネルの設置

2枚のメッシュパネルを、左側支柱および下部クロスビームの溝に慎重に差し込み、メッシュが確実に固定されていることを確認して下さい。(図B)

5 右側支柱の設置

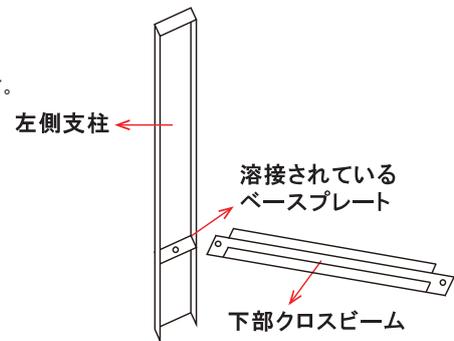
右側支柱を溝に差し込み、垂直を確認します。
メッシュパネルを溝に確実にロックし、支柱を固定・調整後、セメントを流し込みます。

6 中間仕切りと砂利の充填

支柱間に砂利を投入し、S字型スティフナーワイヤーを使用して固定します。
(H600…6本、H1200…8本)砂利が均等に分布していることを確認して下さい。

7 上部クロスビームの取り付け

ネジとナットを使用し、支柱上部に上部クロスビームを固定して、構造体を完成させます。(図C)



図A



図B



図C

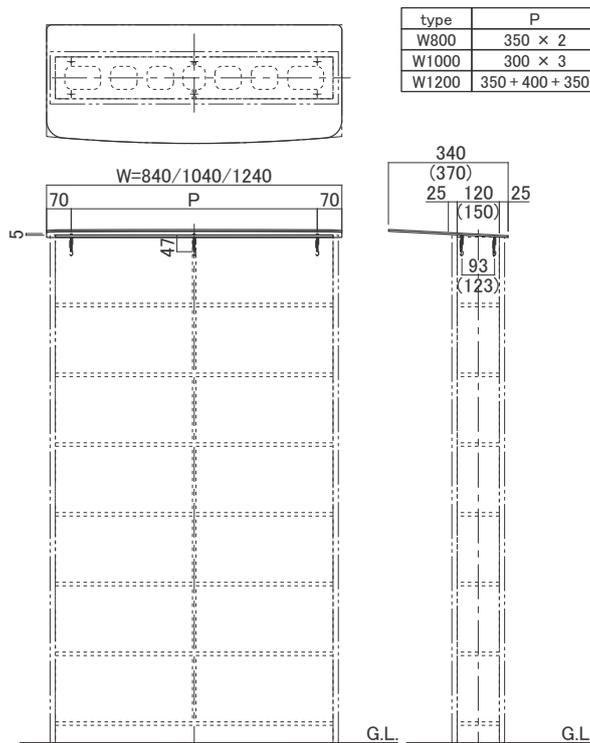
eaves (イーヴス)

[タイプ1]

No.		数量
1	ポストカバー笠木 ●タイプ1 	1台
2	取付金具 (M4-L50 寸切りボルト) 	840タイプ 6本
		1040タイプ 8本
		1240タイプ 8本

■本体寸法図

※ 図は W800 120B 仕様



() 内寸法は150B仕様



より美しく仕上げるために

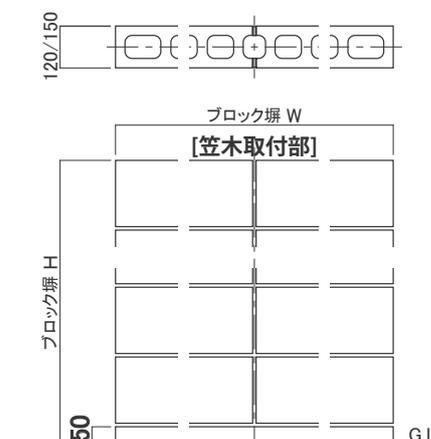
次ページの
《美観ポイント》をご覧ください！

■本体取付の準備

- ① 以下図表より所定のサイズを確認し、コンクリートブロックを積み上げて下さい。

[笠木取付部]

type	ブロック幅 W
W800	790
W1000	990
W1200	1190



⚠ 施工上のご注意

- 壁面の仕上げ素材により納まりが変わる場合がありますので、状況に合わせて調整を行って下さい。
- 壁の高さは、H1450またはH1650で使用して下さい。
- 製品に傷をつけないようご注意下さい。
- 商品の塗装表面には、直接養生テープを貼り付けしないで下さい。塗装剥がれの原因となります。
- 商品に付着したモルタルやコンクリートなどは速やかに清掃して下さい。
- 施工時の汚れ落としは、中性洗剤をご使用下さい。シンナー、塩酸などを使用すると、腐食の原因となります。

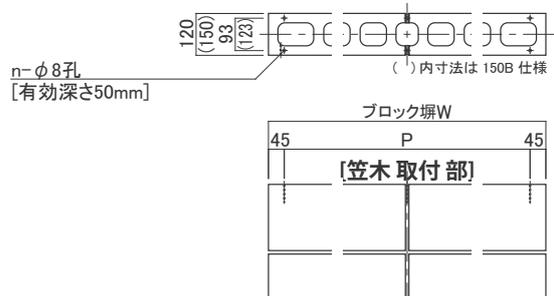
■本体の取付

- ①表示の図表より商品の取り付け孔ピッチおよび数量を確認し、先にブロック塀[笠木取付部]の所定の位置にφ8孔(n)[有効深さ50mm]を空けて下さい。

[笠木取付部]

type	ブロック塀W	P	n
W800	790	350 × 2	6
W1040	990	300 × 3	8
W1240	1190	350 + 400 + 350	8

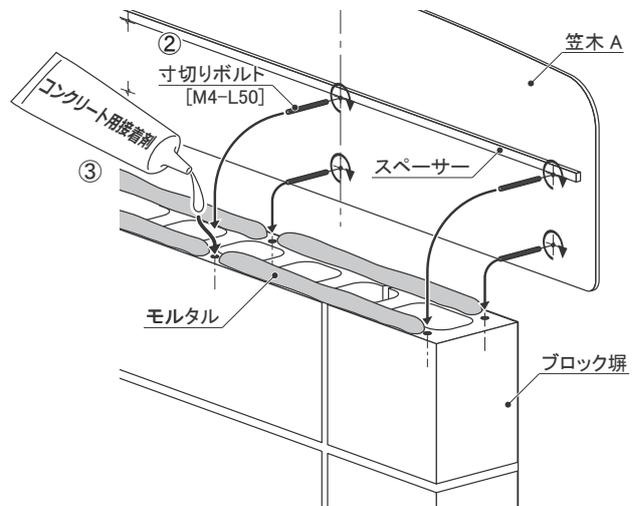
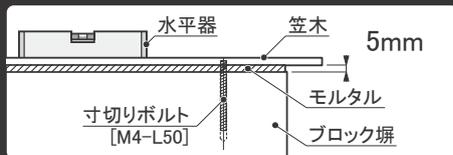
①《取付穴位置指示図》



- ②寸切りボルト(同梱:M4-L50)を笠木のタップ孔にしっかりとねじ込んで下さい。
- ③ブロック塀の[笠木取付部]にモルタルを盛り、①で空けた孔(6~12ヶ所)にコンクリート接着剤を注入し、寸切りボルトを差し込んで下さい。

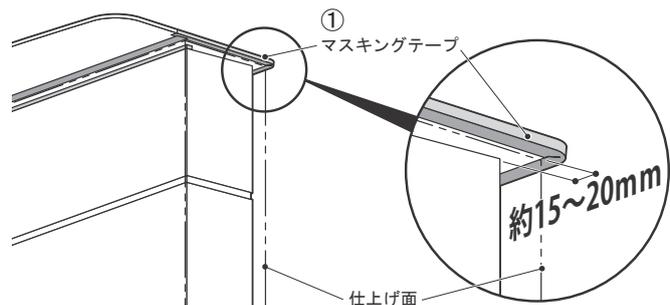
⚠️ ご注意

水平器で確認しながらモルタル厚が5mmになるように調整して下さい。



■ブロック塀の表面仕上げ

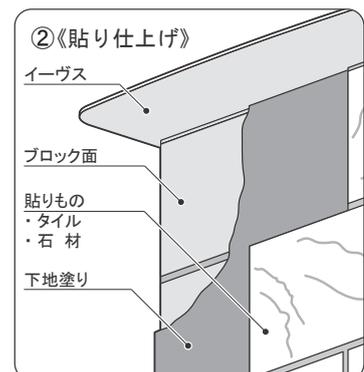
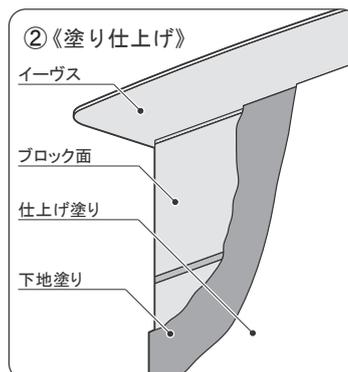
- ①笠木つば部の全周をキズ・ヨゴレ等保護のため、壁仕上げ分(15~20mm)を残し、マスキングテープを貼って下さい。



- ②右図のように下地塗り・仕上げを行って下さい。

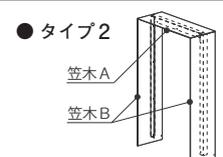
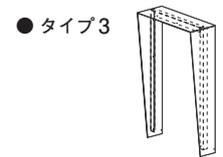
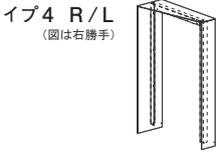
《仕上げ厚の目安》

- 塗り仕上げ:
〈下地塗り〉+ 〈仕上げ塗り〉 15~20mm
- 貼り仕上げ:
〈下地塗り〉+ 〈貼りもの〉 ~25mm



eaves (イーヴス)

【タイプ2/タイプ3/タイプ4】

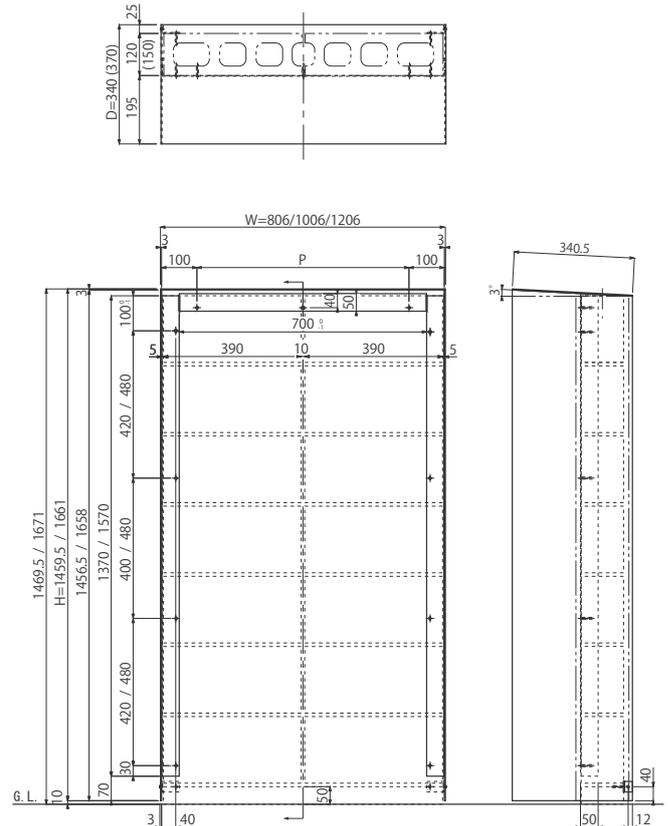
No.		数量						
1	ポストカバー 笠木 <ul style="list-style-type: none"> ●タイプ2  ●タイプ3  ●タイプ4 R/L (図は右勝手)  	1台						
2	取付金具 C 	2個						
3	呼び4×32 Pレスアンカー 	<table border="1"> <tr> <td>800タイプ</td> <td>13本</td> </tr> <tr> <td>1000タイプ</td> <td>13本</td> </tr> <tr> <td>1200タイプ</td> <td>14本</td> </tr> </table>	800タイプ	13本	1000タイプ	13本	1200タイプ	14本
800タイプ	13本							
1000タイプ	13本							
1200タイプ	14本							
4	M4-L8 六角穴付きスリムヘッドキャップ (極低頭タイプ) 	2本						
5	位置決めスペーサー 	2本						
6	六角レンチ (呼び2) 	1本						

■本体寸法図

※ 図は W800×H1450 120B 仕様

type	P
W800	300 × 2
W1000	400 × 2
W1200	330 + 340 + 330

●タイプ2



()内寸法は150B仕様

⚠️ 施工上のご注意

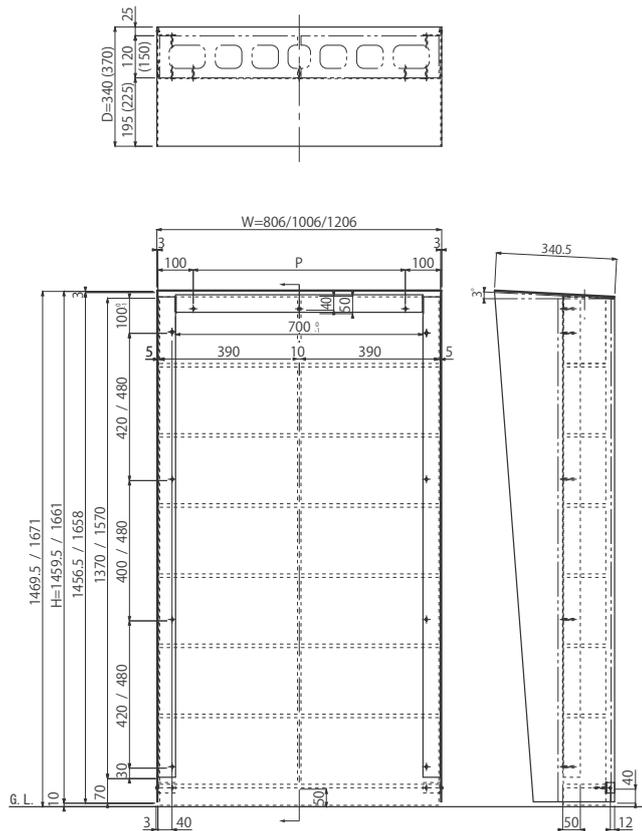
- 壁面の仕上げ素材により納まりが変わる場合がありますので、状況に合わせて調整を行って下さい。
- 壁の高さは、H1450またはH1650で使用して下さい。
- 製品に傷をつけないようご注意下さい。
- 商品の塗装表面には、直接養生テープを貼り付けしないで下さい。塗装剥がれの原因となります。
- 商品に付着したモルタルやコンクリートなどは速やかに清掃して下さい。
- 施工時の汚れ落としは、中性洗剤をご使用下さい。シンナー、塩酸などを使用すると、腐食の原因になります。



より美しく仕上げるために

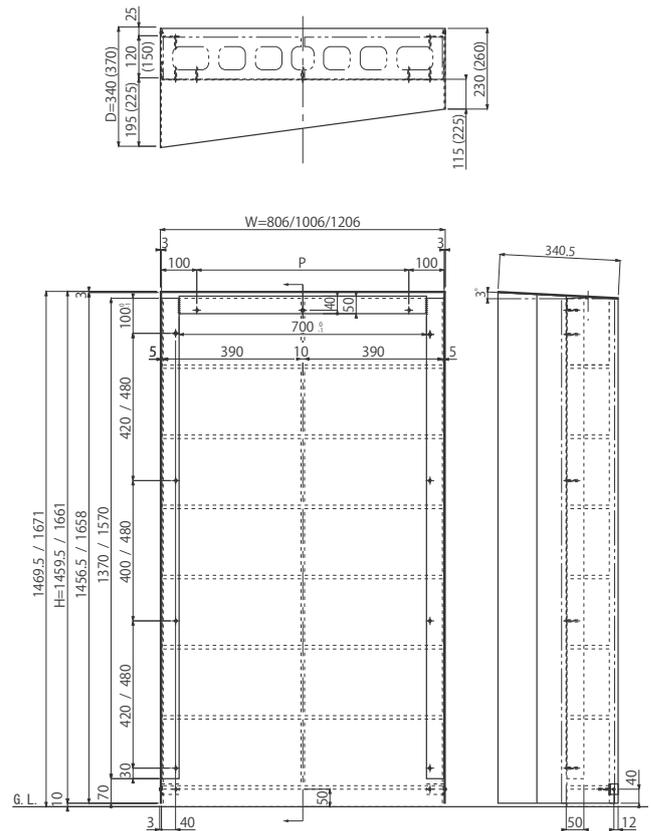
P105の《美観ポイント》
をご覧ください！

● タイプ3



()内寸法は150B仕様

● タイプ4 R/L (図は右勝手)



()内寸法は150B仕様

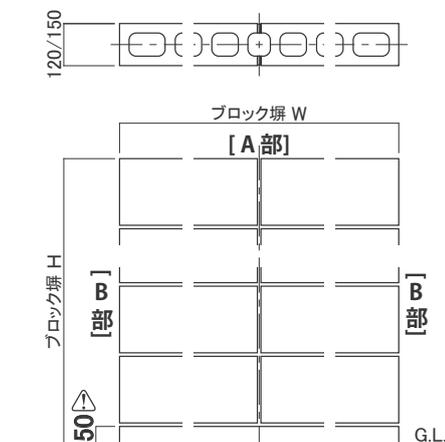
■ 本体取付の準備

- ① 以下図表より所定のサイズを確認し、コンクリートブロックを積み上げて下さい。

[A部]		[B部]	
type	ブロック幅 W	type	ブロック高 H
W800	790	H1450	1450
W1000	990	H1650	1650
W1200	1190		

⚠️ ご注意

基礎をG.L.から約50mm上げて下さい。



eaves (イーヴス)

[タイプ2/タイプ3/タイプ4]

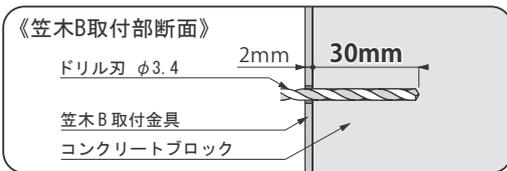
■本体の取付

※ 図は タイプ2 W800 仕様

- ① 表示の図表より商品の取り付け孔ピッチおよび数量を確認し、先にブロック塀[A部]の所定の位置にφ6孔(n1)[有効深さ30mm]を空けて下さい。

[A部]

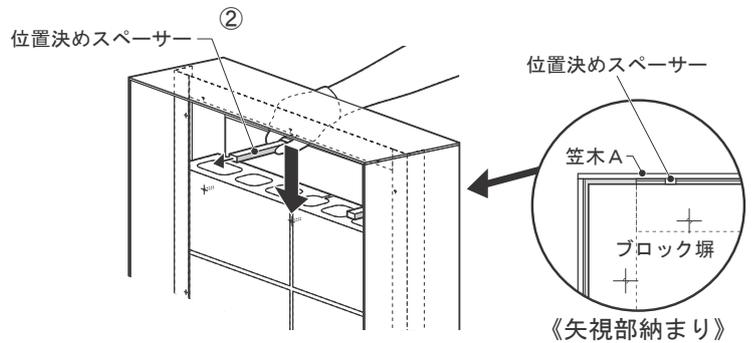
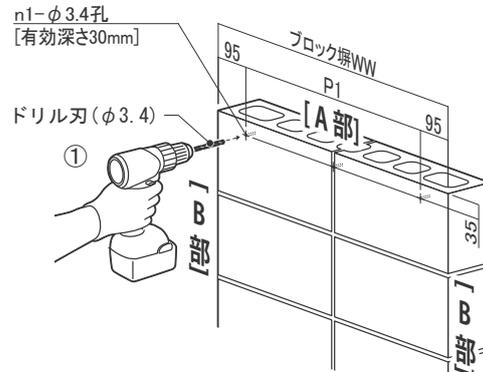
type	ブロックW	P1	n1
W800	790	300 × 2	3
W1000	990	400 × 2	3
W1200	1190	330 + 340 + 330	4



- ② [A部]のブロック塀上端と笠木Aの間に位置決めスペーサー(同梱)を2ヶ所セットし、笠木を5mm浮かせます。

⚠️ ご注意

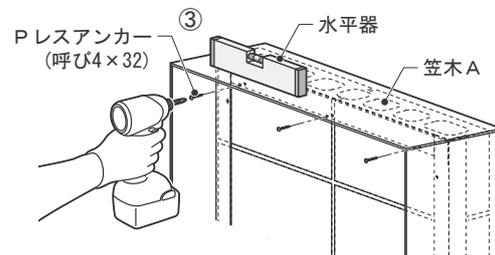
笠木はブロック塀の中心にセットして下さい。



- ③ 水平器で笠木Aの水平を確認し、プレスアンカー(同梱:呼び4×32)で笠木Aをブロック塀に固定して下さい。

⚠️ ご注意

[B部](縦方向)の孔空け(n2)は、先に笠木Aを[A部]に固定してからおこなって下さい。



- ④ 水平器で確認し、笠木B取付金具の孔からブロック塀に、φ3.4下孔(n2)[有効深さ30mm]を空けて下さい。

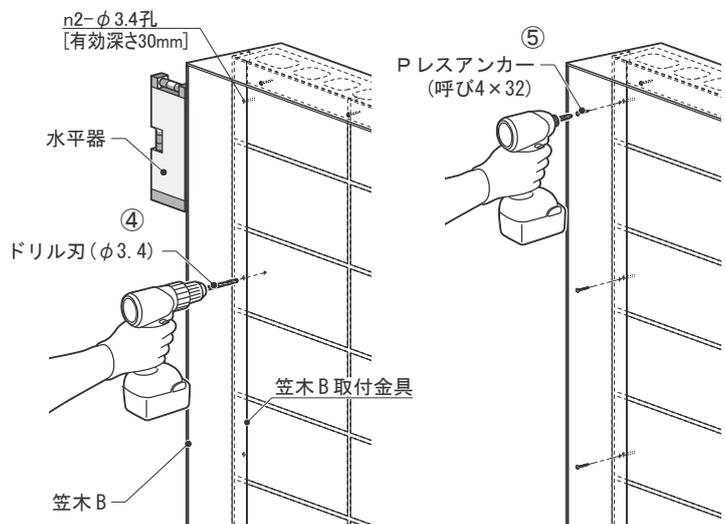
[B部]

type	ブロックH	P2	n2
H1450	1450	420 + 400 + 420	8
H1650	1650	480 × 3	8

- ⑤ プレスアンカー(同梱:呼び4×32)で笠木Bをブロック塀に固定して下さい。

⚠️ ご注意

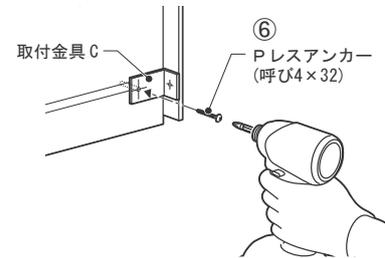
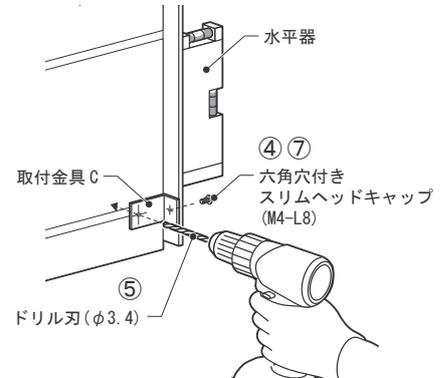
笠木B取付金具がブロック塀に密着するまでしっかりと締め付けて下さい。



■ 本体の取付 (つづき)

※ 図は タイプ2 W800 仕様

- ④ 取付金具Cを笠木B下部の背面側に六角穴付きスリムヘッドキャップ(同梱: M4-L8)で仮止めて下さい。
- ⑤ 水平器で確認し、取付金具Cの孔からブロック塀に下孔(φ3.4、深さ30mm)を空けて下さい。
- ⑥ プレスアンカー(同梱: 呼び4×32)で取付金具Cをブロック塀に固定して下さい。
- ⑦ 最後に先程仮止めた六角穴付きスリムヘッドキャップ(同梱: M4-L8)を本締めして下さい。



⚠️ ご注意

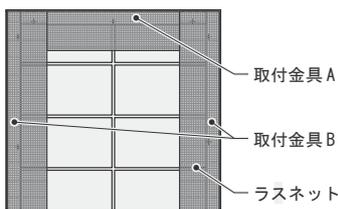
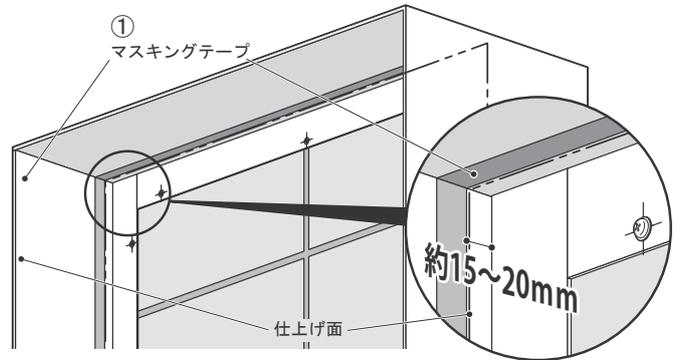
電動ドライバーをご使用の際は、トルクの掛け過ぎにご注意下さい。

⚠️ ご注意

取付金具Cは取り付け箇所が左右2ヶ所あります。取り付け忘れにご注意下さい。

■ ブロック塀の表面仕上げ

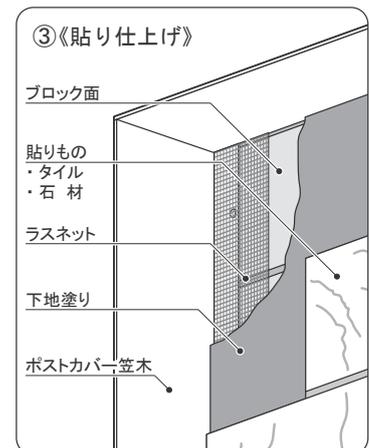
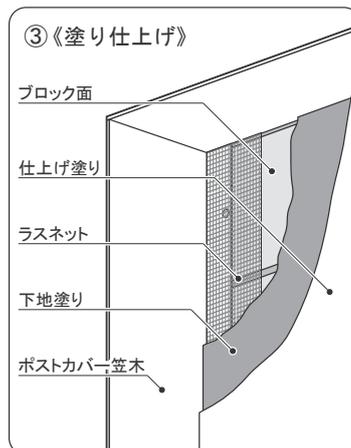
- ① 笠木つば部の全周をキズ・ヨゴレ等保護のため、壁仕上げ分(15~20mm)を残し、マスキングテープを貼って下さい。
- ② 下図のように各取付金具とコンクリートブロックの境界にラスネット(現地調達)を貼って下さい。



- ③ 右図のように下地塗り・仕上げを行って下さい。

《仕上げ厚の目安》

- 塗り仕上げ:
(下地塗り) + (仕上げ塗り) **15~20mm**
- 貼り仕上げ:
(下地塗り) + (貼りもの) **~25mm**



float (フロード)

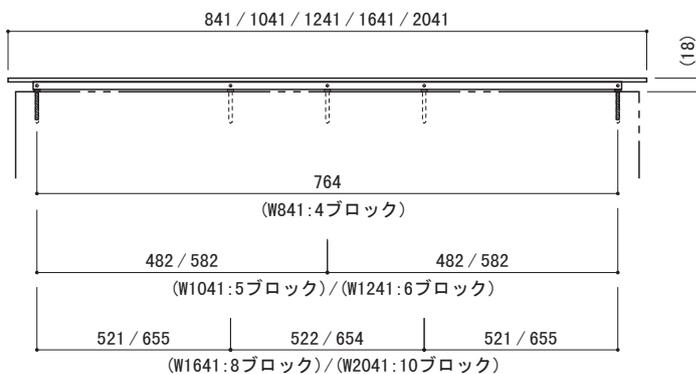
【照明あり】

⚠ 施工上のご注意

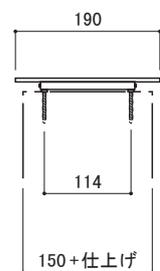
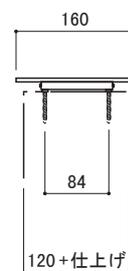
- 壁面の仕上げ素材により納まりが変わる場合がありますので、状況に合わせ調整を行って下さい。
- 商品の塗装表面には、直接養生テープを貼り付けしないで下さい。塗装剥がれの原因となります。
- 商品に付着したモルタルやコンクリートなどは速やかに清掃して下さい。
- 施工時の汚れ落としは、中性洗剤をご使用下さい。シンナー、塩酸などを使用すると、腐食の原因になります。
- 主電源を切ってから施工を行って下さい。

No.		数量		
		W841	W1041 / W1241	W1641 / W2041
1	本体 ※図はW841タイプです。 	1		
2	M4×50 寸切りボルト	4セット	6セット	8セット
3	M4×5 ホーローセット			
4	D8-L3 スペーサー			
5	呼び2 六角レンチ	1個		
6	自己融着テープ	1枚		
7	配線孔カバー	1個		
8	照明コード(15m12v)	1本		
9	ダウントランスBOX (光センサー、電源コード付き)	1個		

■ 本体寸法図



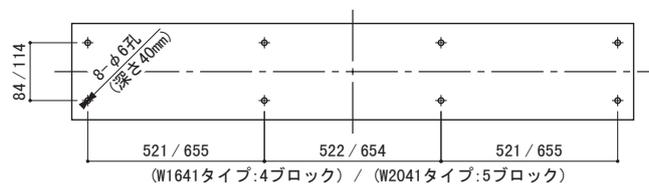
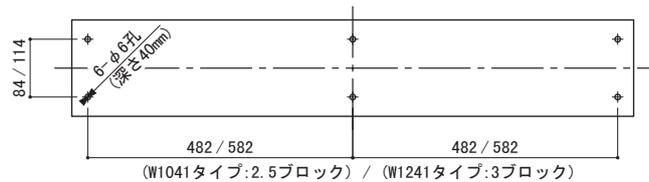
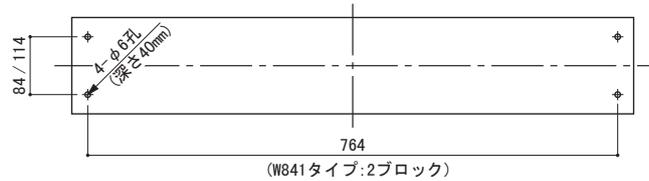
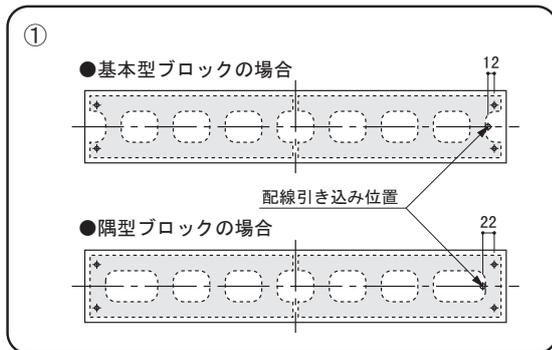
120サイズブロック 150サイズブロック



フ
ア
サ
ー
ド

■ 本体取付の準備

- ① ブロック積みの際、下図を参考にLED照明用配線コードの引き込み位置を確認し、配線を引き込んで下さい。
- ② ブロック塀表面を仕上げして下さい。
- ③ 右図で商品の取り付け孔ピッチおよび数量を確認し、ブロック塀上面の所定の位置にφ6の孔を空けて下さい。

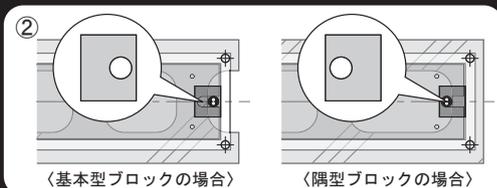


■ 本体の取付

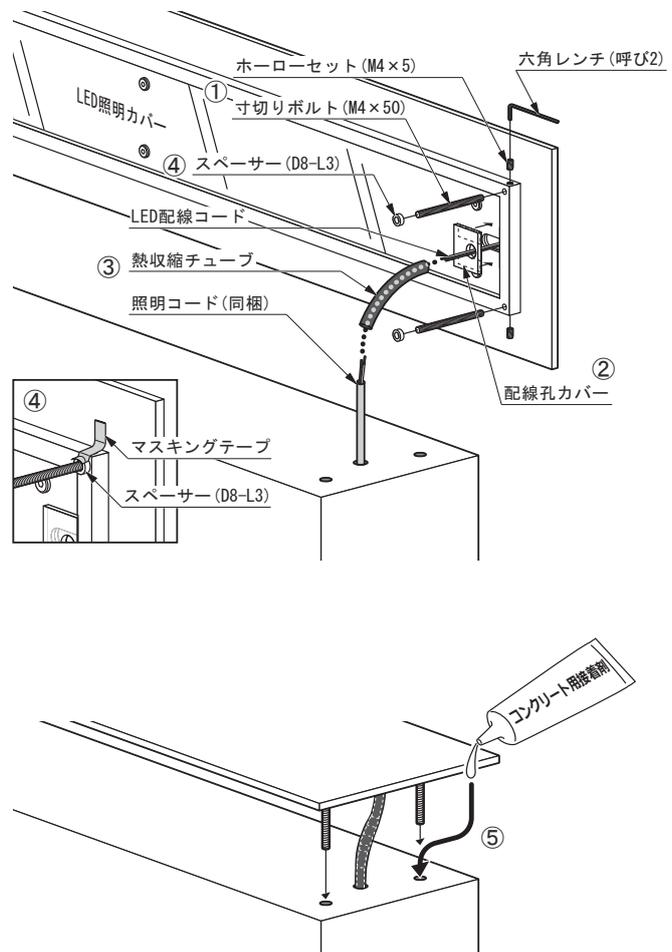
- ① 本体の取付孔(4~8ヶ所)に寸切りボルト(同梱)を差し込み、ホーローセット(同梱)で固定して下さい。
- ② 配線孔カバーを下図を参考にLED照明カバーの配線孔部に貼り付けて下さい。
- ③ LED配線コードと照明コード(同梱)を結線し、熱収縮チューブで本体配線孔から結線部までを保護して下さい。
- ④ スペース(D8-L3)を本体に取付けた各寸切りボルトへ通し、脱落防止の為マスキングテープなどで仮止めして下さい。

⚠️ ご注意

ブロックの種類によって配線孔カバーの取付方向が変わります。



- ⑤ ブロック塀に空けた孔(4~8ヶ所)にコンクリート接着剤を注入し、寸切りボルトを奥まで差し込んで下さい。
- ⑥ 仮止めのマスキングテープをはがし、本体に均等に荷重が掛かる様に重しを乗せて固定して下さい。

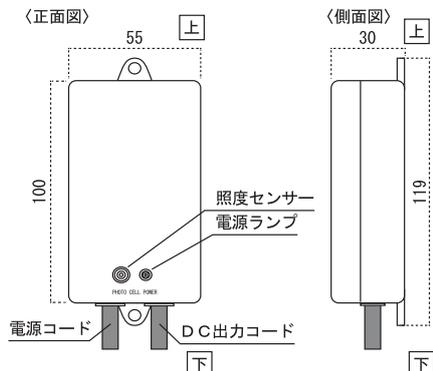


ファサード

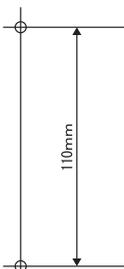
float (フLOAT)

【照明あり】

■ 製品図



■ 取付寸法



※アンカープラグを使用する場合
φ6.4のアンカードリルを使用
すること

■ 仕様

防水性能	防噴流形
大きさ (mm)	幅 55 × 高さ 119 × 奥行 30
重量	約 0.35 kg
入力電圧	AC100V 50/60Hz
出力電圧	DC12V
接続容量	最大 8W まで
電源コード	約 30cm 差し込みプラグ付
出力ケーブル	約 2m

付属品 取付用ビス アンカープラグ

● 安全上のご注意

⚠ 警告

- このトランスは 100V 専用です。火災や感電の原因になる恐れがありますので、それ以外の電源では使用しないで下さい。
- 火災の原因となる恐れがありますので、紙や布など燃えやすいものを被せたりしないで下さい。また、コンセントプラグにホコリなどが付着している場合は取り除いて下さい。
- 故障の原因となりますので、ケーブルはそのままコンクリートへ埋めず、電線保護管を使用した配管施工を行って下さい。
- ケガの原因となりますので、電源コードが足などに引っ掛かりそうな場所へは配線しないで下さい。
- コードやケーブルが損傷し、火災や感電の原因となりますので電源コードやケーブルを無理に引っ張ったり重いものを載せたりしないで下さい。
- ショートして火災や感電の原因となりますので、通電中は電源コードやケーブルを切断したり短絡させないで下さい。
- 感電・火災・故障の原因となりますので、部品交換や改造をしないで下さい。
- 火災の原因となる恐れがありますので、照明器具は接続容量内で使用して下さい。また、接続は確実に行って下さい。
- 感電しますので、濡れた手で差し込みプラグを抜き差ししないで下さい。
- トランスは防噴流形で壁面への取り付け専用です。天井面・据え置き・傾斜面への取り付けは控えて下さい。火災・感電・落下の原因となる恐れがあります。
- 冠水などの状況下で火災や感電の恐れがありますので、地面から 300mm 以上離して取り付けして下さい。
- 回路部分に雨水などが入ると火災や感電の原因となりますので、商品の設置方向を守って取り付けして下さい。
- 爆発・火災・落下の原因となりますので、ガソリンなどの引火物やガス機器等の近くで使用しないで下さい。
- 火災や感電の原因となる恐れがありますので、異音・異臭等の異常を感じた場合は、差し込みプラグを抜き、工事店にご相談下さい。

⚠ 注意

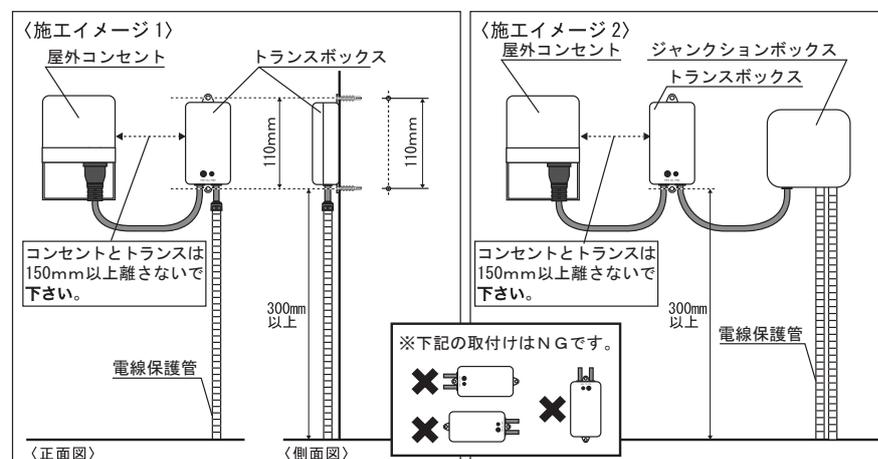
- 製品には寿命があります。外観が正常でも内部の劣化は進行しています。進行度合いは使用条件・設置場所の環境で大きく異なりますので定期的に商品の外観・動作のご確認をお願い致します。点検せずに使用するとまれに火災や感電、落下などに至る場合があります。
- コードやケーブルが破損し、火災や感電の原因となりますので、電源コードやケーブルが痛んだら使用をやめ、業者に修理を依頼して下さい。

トランスの設置について

■ 設置の前に

- ・ トランスと防水コンセントは 150mm 以内の場所に設置して下さい。150mm 以上離れた場所に設置すると差込プラグの抜き差しに支障がでます。
- ・ トランスは防噴流形、壁面取付専用です。天井面や地面などに据え置いたり、傾斜面などに取り付けしないで下さい。雨のハネ返りなどで濡れないように地面から約 300mm 以上離して設置して下さい。
- ・ 照度センサーの反応に支障が出るような場所に設置しないで下さい。夜間に電灯、自販機、車のヘッドライトなどが当たるところは避けて設置して下さい。屋間に木陰など、太陽光をさえぎる物があるところは避けて設置して下さい。

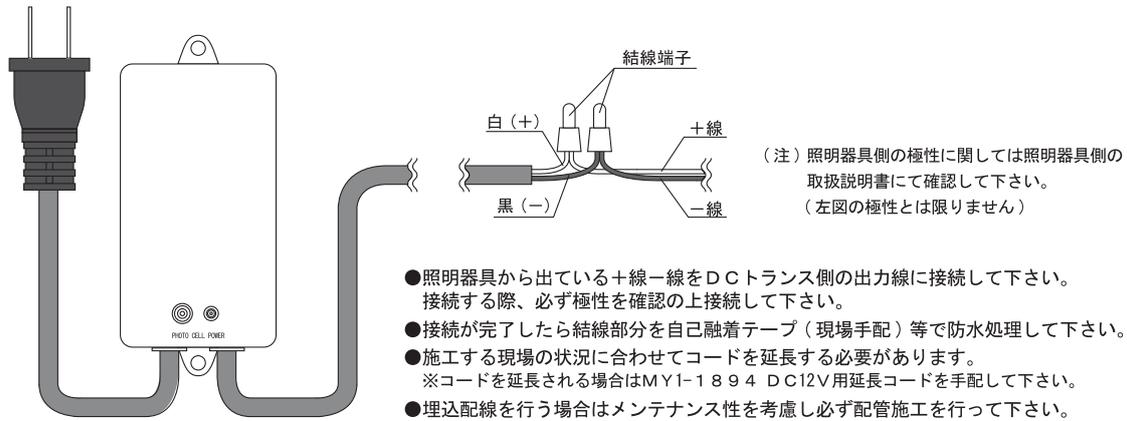
■ 設置方法、および設置位置について



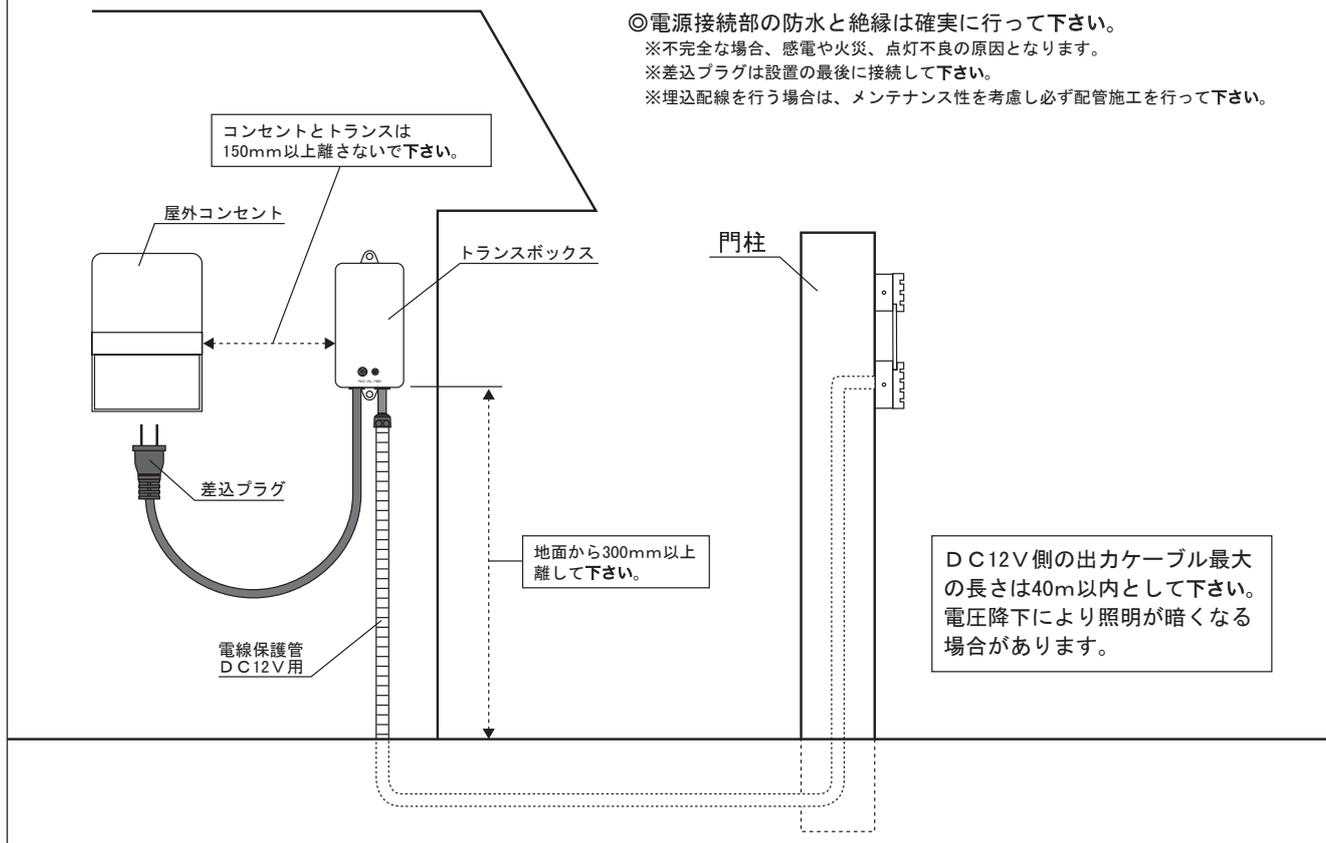
DC トランスの取付位置に取付け寸法を罫書いた後、下穴をあけて下さい。
※トランスの付属品（取付用ビス、アンカープラグ）を使用する場合は下穴φ6.4をあけて下さい。
付属品以外のアンカーボルトを使用する場合は、プラグに適した下穴をあけて下さい。

ファサード

■ DC12V 照明およびLEDサインの接続方法について



〈配線イメージ〉



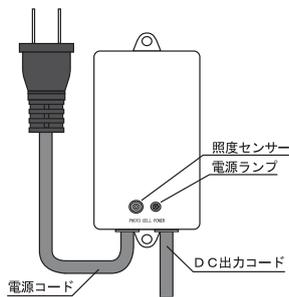
■ 設置について

- ・ トランスと屋外コンセントは150mm以内の場所に設置して下さい。150mm以上離れた場所に設置すると差込プラグの抜き差しに支障がでます。
- ・ トランスは防噴流形、壁面取付専用です。雨のハネ返りなどで濡れないように地面から約300mm以上離して設置して下さい。
- ・ 照度センサーの反応に支障が出るような場所に設置しないで下さい。夜間に電灯・自販機・車のヘッドライトなどの光があたる場所は避けて設置して下さい。昼間に木陰など、太陽光をさえぎる物があるところは避けて設置して下さい。

float (フLOAT)

【照明あり】

■ トランスの各部の名称



各部の名称	詳細
照度センサー	周囲の明るさに反応して、照明を暗くなったら点灯、明るくなったら消灯させます。
電源ランプ	トランスにAC100Vが入力されると緑色に点灯します。
電源コード	コンセントに差し込むことでDCトランスに電源を供給します。
DC出力コード	DC12Vの照明器具（LEDサイン、ウォールライト等）に電源を供給します。

■ 点検について

点灯の確認

防水コンセント差込プラグに接続して電源ランプが点灯するか確認して下さい。
確認を行う際は照度センサー部分を布等で覆い完全に光を遮って下さい。

○点灯の確認にて各部接触不良、電球切れがなく点灯しない、暗い、あるいは点いたり、消えたりする場合は以下のような原因が考えられます。

症状	原因	対処
全て点灯しない	ブレーカーが落ちていませんか	ブレーカーを上げる
	電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていますか	しっかり差し込む
	照度センサーに照明等明かりが入っていませんか	トランス、光源の場所をかえる
	電源線 ケーブルに断線、傷などはありませんか	新しい電源線ケーブルに変える
一部点灯しない	電源線 ケーブルに断線、傷などはありませんか	新しい電源線ケーブルに変える
夜間に点いたり消えたりする	器具ワット数合計が8W以上になっていませんか	接続本数を減らす
	電源線ケーブル露出部、各部接続部分などで短絡（ショート）していませんか	電源線・ケーブルを新しくする 短絡部に絶縁処理をする
消灯しない	光センサーに太陽をさえぎるものはありませんか	正しく作動する場所に設置しなおす
暗い	器具ワット数合計がトランス定格容量以上になっていませんか	接続本数を減らす
	最大ケーブル長が40m以上になっていませんか	40m以内に収まるように設置する

■ お手入れについて

⚠️ **注意** お手入れの際は、安全のため電源を切して下さい。通電状態で行うと感電の原因となります。

- 安全にご使用いただくため、定期的（6か月に1回程度）にお掃除、点検して下さい。
- 汚れがひどい場合は、石けん水に浸した布をよく絞って拭き取り、乾いた布で仕上げして下さい。
丸洗いはしないで下さい。
- シンナーやベンジンなどの揮発性のもので拭いたりしないで下さい。変質・変色・破損の原因となります。
- 器具全体を丸洗いはしないで下さい。火災 感電の原因となります。

■ 保管・破棄

保管：保管の際は下記の要領で行って下さい。

- 購入時と同じ状態で細包して下さい。
 - 梱包ケースの上に、物を置かないで下さい。
 - 梱包ケースに局部的な外圧をかけないで下さい。
 - 常温（20±15℃）、常湿（65±20%）の場所に保管して下さい。
- 破棄：使用済の照明器具は、所轄の地方自治体が定めた方法に基づき、適正に処理して下さい。
なお、廃棄の際にはケガをしないよう手袋等をご使用下さい。

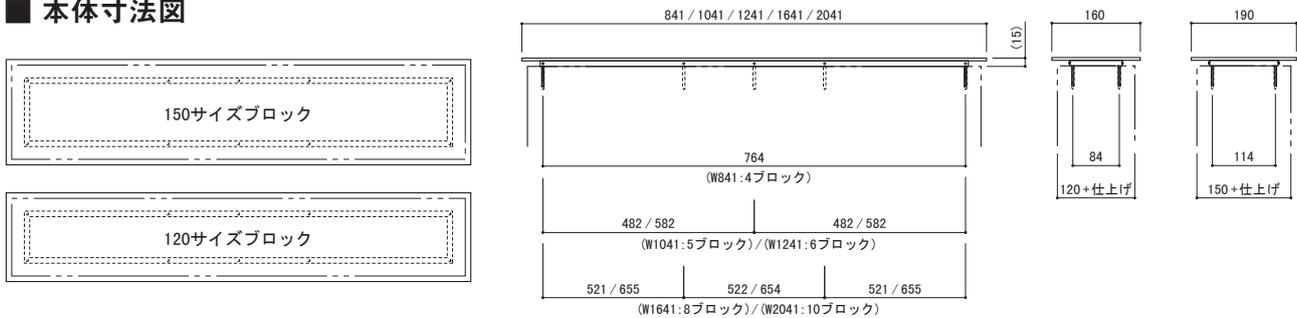
【照明なし】

⚠ 施工上のご注意

- 壁面の仕上げ素材により納まりが変わる場合がありますので、状況に合わせて調整を行って下さい。
- 商品の塗装表面には、直接養生テープを貼り付けしないで下さい。塗装剥がれの原因となります。
- 商品に付着したモルタルやコンクリートなどは速やかに清掃して下さい。
- 施工時の汚れ落としは、中性洗剤をご使用下さい。シンナー、塩酸などを使用すると、腐食の原因になります。
- 主電源を切ってから施工を行って下さい。

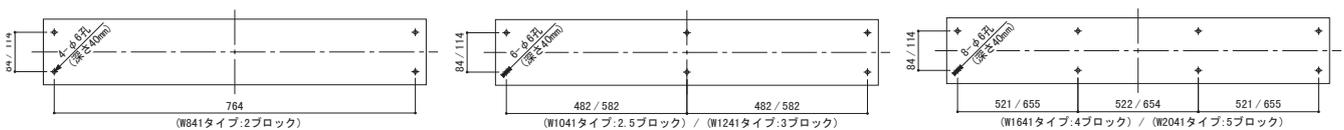
No.	品名	数量		
		W841	W1041 / W1241	W1641 / W2041
1	本体 ※図はW841タイプです。	1		
2	M4×50 寸切りボルト	4セット	6セット	8セット
3	M4×5 ホーローセット			
4	呼び2 六角レンチ	1個		

■ 本体寸法図



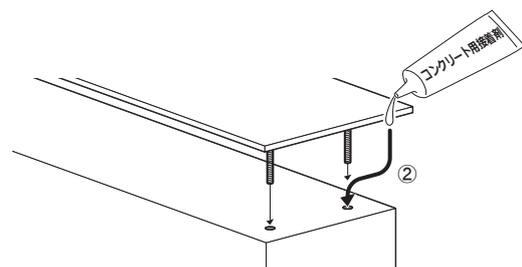
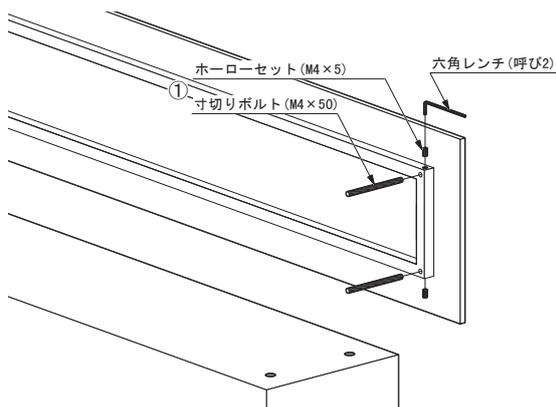
■ 本体取付の準備

- ①ブロックを積み、表面を仕上げして下さい。
- ②右図で商品の取り付け孔ピッチおよび数量を確認し、ブロック塀上面の所定の位置にφ6の孔を空けて下さい。



■ 本体の取付

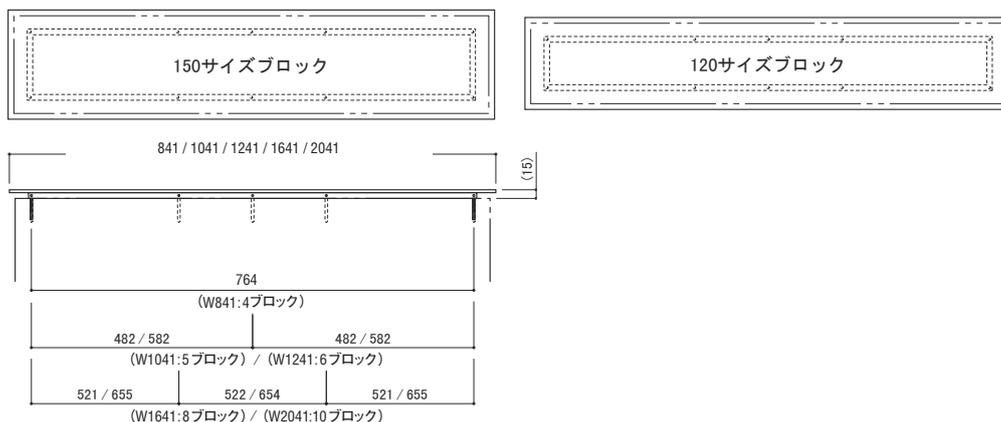
- ①本体の取付孔(4~8ヶ所)に寸切りボルト(同梱)を差し込み、ホーローセット(同梱)で固定して下さい。
- ②ブロック塀に空けた孔(4~8ヶ所)にコンクリート接着剤を注入し、寸切りボルトを奥まで差し込んで下さい。
- ③仮止めのマスキングテープをはがし、本体に均等に荷重が掛かる様に重しを乗せて固定して下さい。



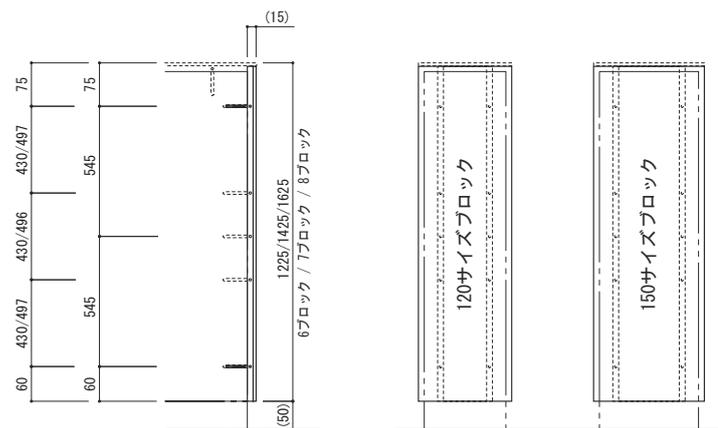
float II (フロートツー) タテLタイプ

No.		数量(笠木ヨコ)			数量(笠木タテ)	
		W841	W1041/W1241	W1641/W2041	H1225	H1425/H1625
1	笠木プレート ヨコ	1			1	
2	笠木プレート タテ	1			1	
3	M4×50 寸切りボルト	4セット	6セット	8セット	6セット	8セット
4	M4×5 ホーローセット					
5	5×10 パッキン	1本				
6	呼び2 六角レンチ	1個				

■ 本体寸法図 (笠木プレート ヨコ)



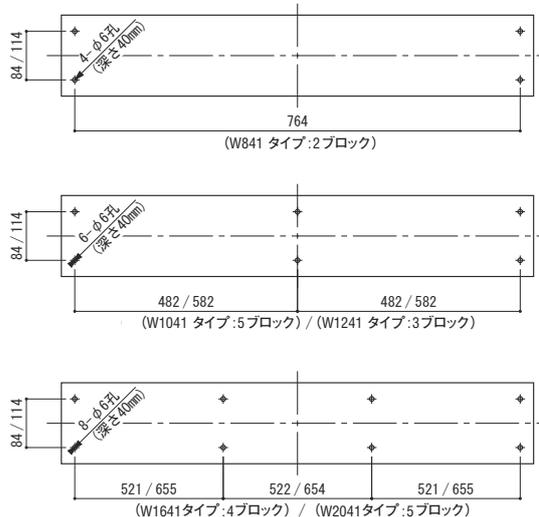
■ 本体寸法図 (笠木プレート タテ)



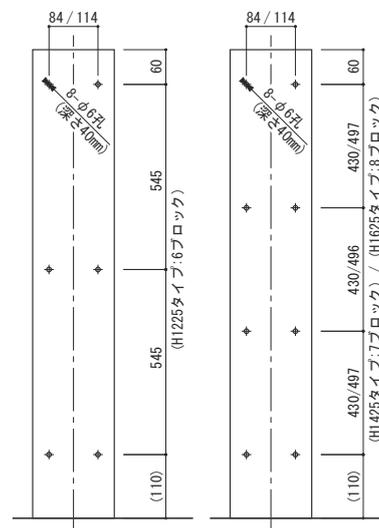
■ 本体取付の準備

- ①ブロックを積み、表面を仕上げてください。
- ②下図で商品の取り付け孔ピッチおよび数量を確認し、ブロック塀上面および側面の所定の位置にφ6の孔を空けてください。

〈上面〉

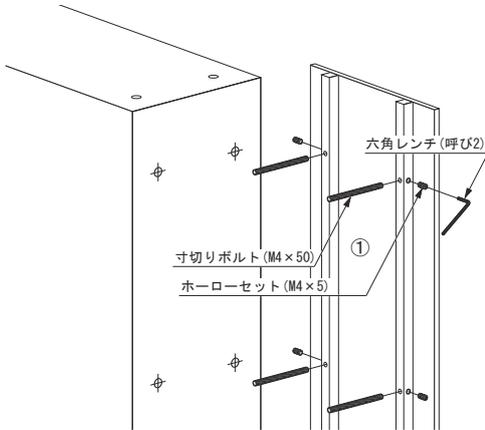


〈側面〉

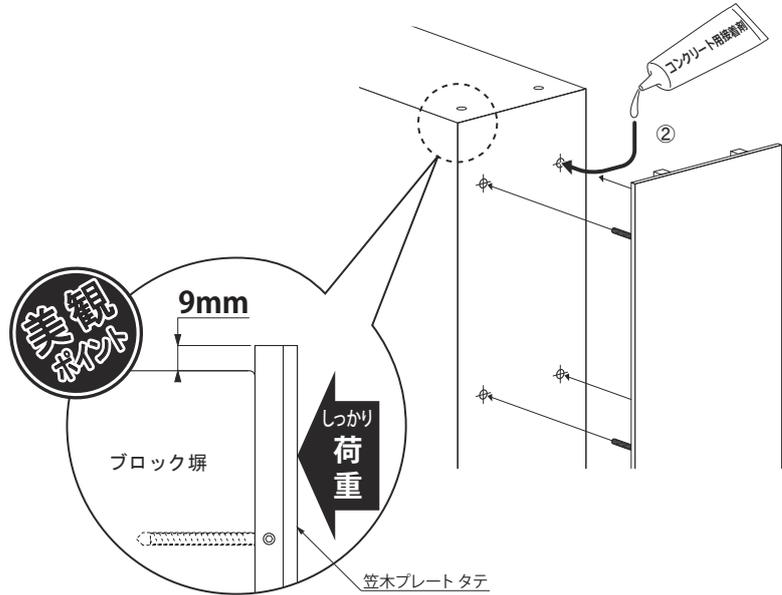


■ 笠木プレート タテの取付

① 笠木プレートタテの取付孔(6~8ヶ所)に寸切りボルト(同梱)を差し込み、ホーローセット(同梱)で固定してください。



② ブロック塀に空けた孔(4~8ヶ所)にコンクリート接着剤を注入し、寸切りボルトを奥まで差し込んでください。



③ 仮止めのマスキングテープをはがし、笠木プレートタテに均等に荷重が掛かる様に重しを横から押し当て固定してください。



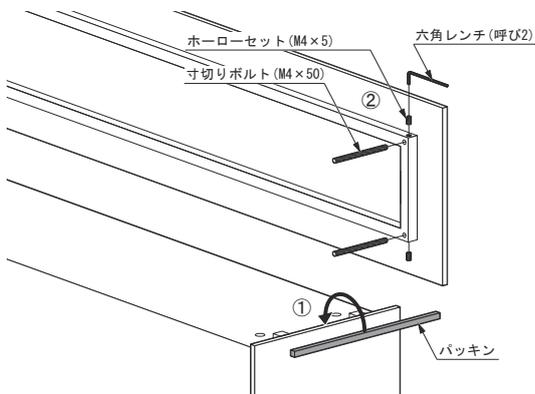
⚠️ ご注意

笠木プレートタテ上端のはみ出し寸法は天端から9mmを守ってください。

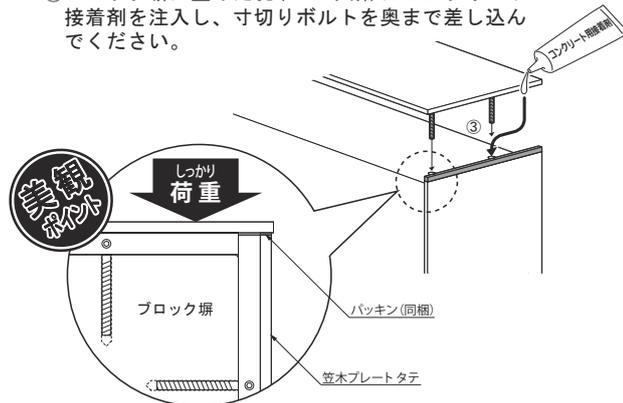
■ 笠木プレート ヨコの取付

① 先に取付けた笠木プレートタテの上端にパッキン(同梱)を接着してください。

② 笠木プレートヨコの取付孔(4~8ヶ所)に寸切りボルト(同梱)を差し込み、ホーローセット(同梱)で固定してください。



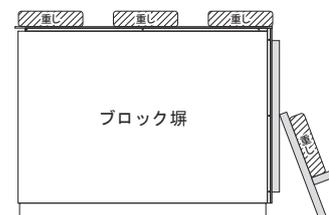
③ ブロック塀に空けた孔(4~8ヶ所)にコンクリート接着剤を注入し、寸切りボルトを奥まで差し込んでください。



⚠️ ご注意

パッキンは笠木プレートの外側にはみ出さない様にしてください。

④ 仮止めのマスキングテープをはがし、笠木プレートヨコに均等に荷重が掛かる様に重しを乗せて固定してください。



ファサード

フレームワークス

[タイプA]

⚠ 施工上のご注意

- 商品に傷をつけないようご注意ください。
(傷は錆びの原因となりますのでタッチアップ塗料等で必ず補修を行ってください。)
- 傷などの補修方法はお問い合わせください。
- 取付場所が通行のさまたげにならないか、十分に確認してください。
- 商品の施工に関しては必ず「施工要領書」に従ってください。
- むやみに改造・変更をしないでください。
- ねじなどのゆるみがあるかどうか確認し、ゆるんでいる場合はしめてください。

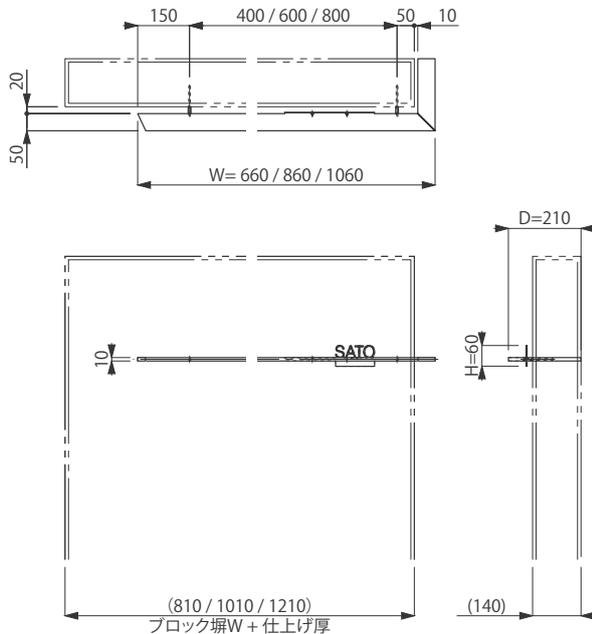
- 商品の塗装表面には、直接養生テープを貼り付けないでください。塗装剥がれの原因となります。
- 商品に付着したモルタルやコンクリートなどは速やかに清掃してください。
- 施工時の汚れ落としは、中性洗剤をご使用ください。
シンナー、塩酸などを使用すると、腐食の原因になります。
- 開梱時に種類と数量を確認してください。
- 商品に破損や異常が無いか確認してください。



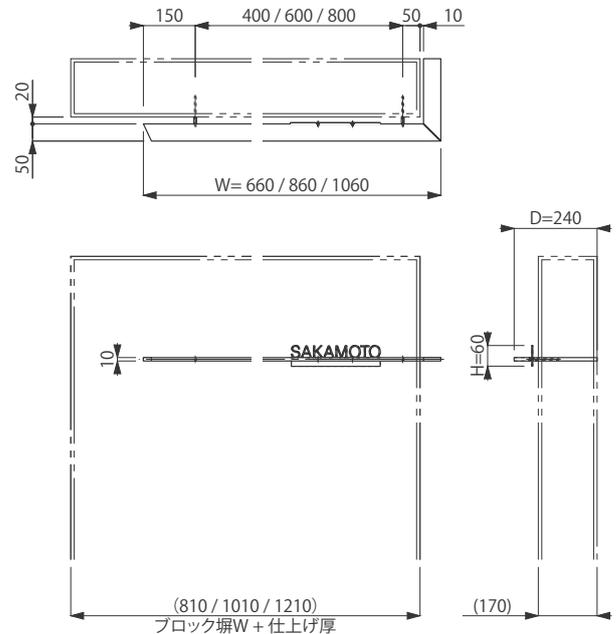
No.		数量	No.		数量
1	 本体 左勝手 または 右勝手	1台	3	D8-L20 スペーサー	2個
2	 ネームプレート(オプション) ※出荷時本体に取り付け済み	1個	4	M5×L90 寸切りボルト	2本
			5	M4×L10 ホーローセット ※出荷時本体に取り付け済み	2個

■ 本体寸法図 ※図は 本体:右勝手 (ネームプレート:右揃え)

[120B(塀厚140mm例)]

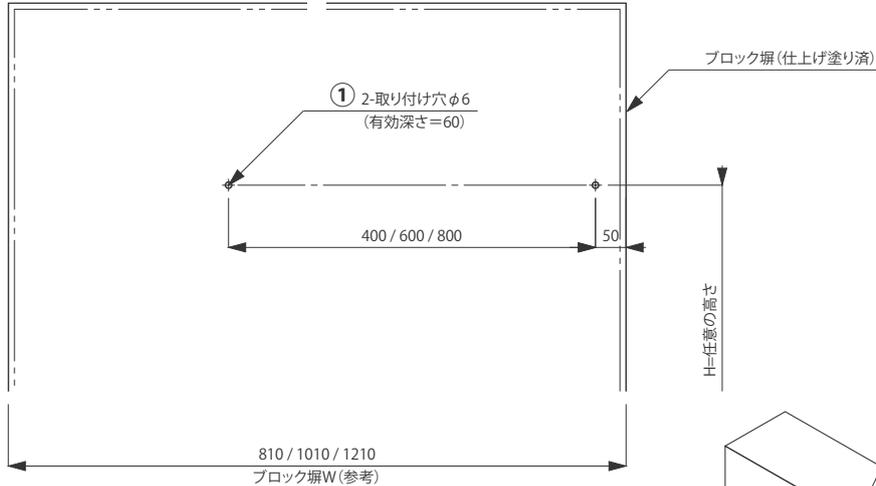


[150B(塀厚170mm例)]



■ 本体取付の準備

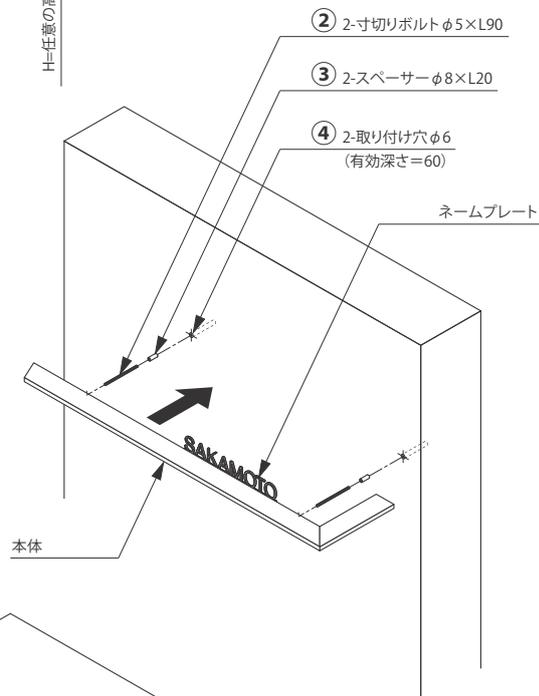
- ① 下図に従い、ブロック塀の仕上げ塗り後、所定の位置に本体取付用の孔 $\phi 6$ (2ヶ所) を空けてください。



※図は右勝手（ネームプレート：右揃え） 左勝手仕様の場合は左右反転

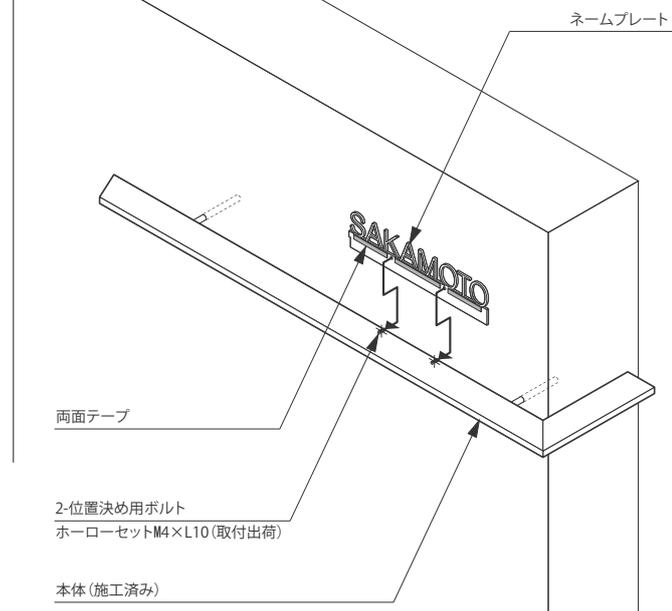
■ 本体の取り付け

- ② 本体裏側のタップ穴 (M5、2ヶ所) に寸切りボルト (同梱M5×L90) をしっかりねじ込んでください。
- ③ 取り付けした寸切りボルトにスペーサー (同梱 $\phi 8 \times L20$) を通します。
- ④ 本体を取り付ける塀にあらかじめ開けた取り付け穴 ($\phi 6$ 、2ヶ所) に、コンクリート用接着剤を注入し本体の寸切りボルトを奥までしっかりと差し込んでください。
- ⑤ 接着剤が硬化するまで、添え木等で固定してください。



■ ネームプレートを本体施工後に取り付ける場合

ネームプレートにあらかじめ接着されている両面テープの剥離紙をはがし、右図のように本体裏側の位置決めボルトへネームプレートの穴 (2ヶ所) を差し込み、しっかりと接着してください。



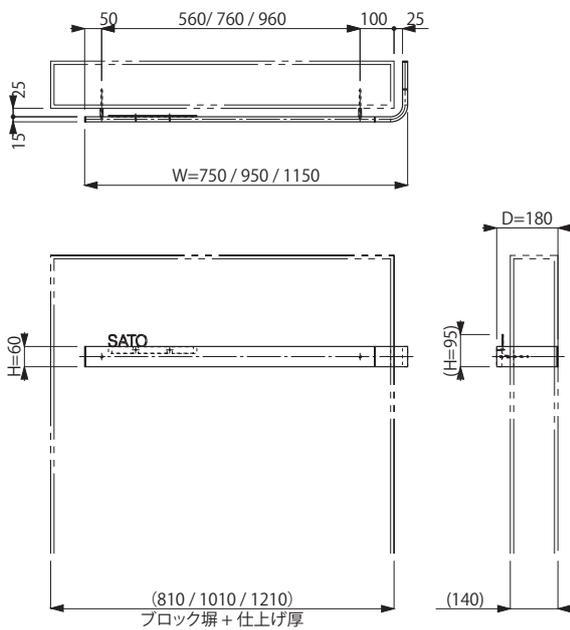
フレームワークス

【タイプB】

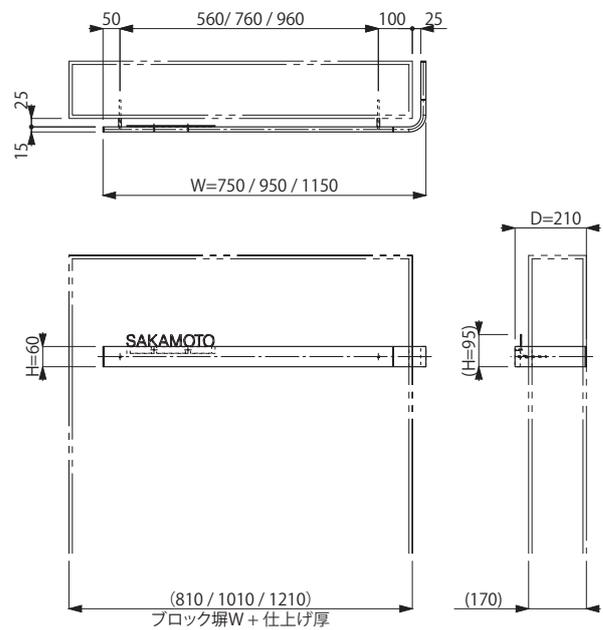
No.		数量	No.		数量
1	本体 左勝手 または 右勝手	1台	3	D8-L20 スペーサー	2個
2	ネームプレート(オプション) ※出荷時本体に取り付け済み SATO 右揃え または SATO 左揃え	1個	4	M5×L90 寸切りボルト	2本
			5	M4×L10 ホーローセット ※出荷時本体に取り付け済み	2個

■本体寸法図 ※図は 本体:右勝手 (ネームプレート:左揃え)

[120B(塀厚140mm例)]

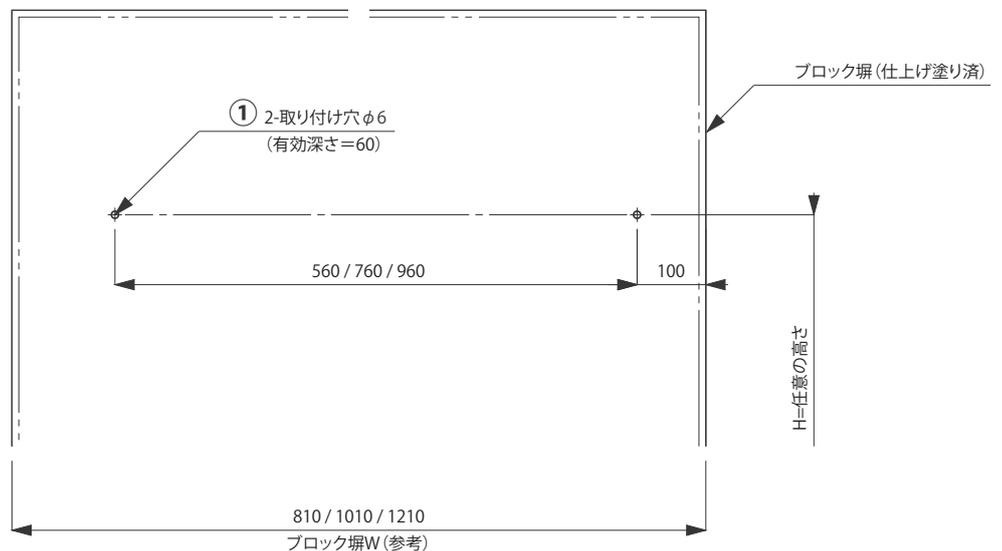


[150B(塀厚170mm例)]



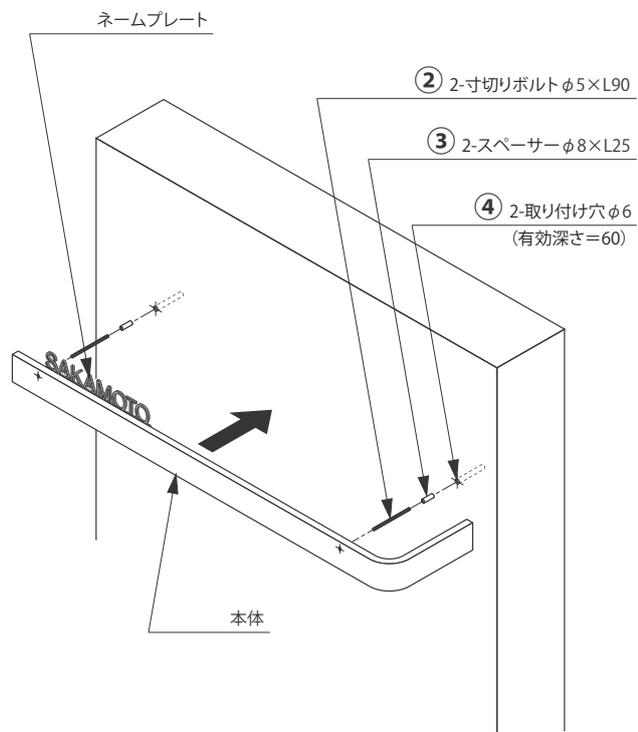
■本体取付の準備 ※図は右勝手 左勝手の場合は左右反転

- ①下図に従い、ブロック塀の仕上げ塗り後、所定の位置に本体取付用の孔φ6(2ヶ所)を開けてください。



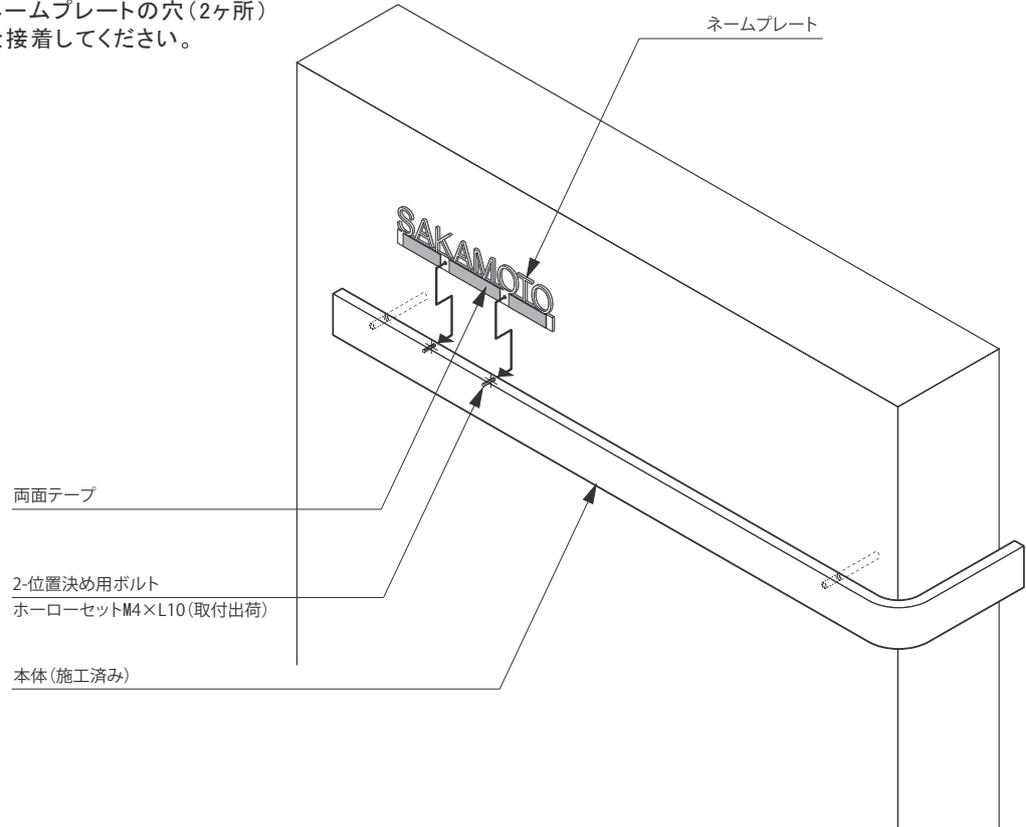
■本体の取り付け ※図は右勝手 左勝手の場合は左右反転

- ② 本体裏側のタップ穴(M5、2ヶ所)に寸切りボルト(同梱M5×L90)をしっかりとねじ込んでください。
- ③ 取り付けした寸切りボルトにスペーサー(同梱φ8×L20)を通します。
- ④ 本体を取り付ける壁にあらかじめ開けた取り付け穴(φ6、2ヶ所)に、コンクリート用接着剤を注入し本体の寸切りボルトを奥までしっかりと差し込んでください。
- ⑤ 接着剤が硬化するまで、添え木等で固定してください。



■ネームプレートを本体施工後に取り付ける場合 ※図は右勝手(ネームプレート:左揃え) 左勝手仕様の場合は左右反転

ネームプレートにあらかじめ接着されている両面テープの剥離紙をはがし、右図のように本体裏側の位置決めボルトへネームプレートの穴(2ヶ所)を差し込み、しっかりと接着してください。



フレームワークス

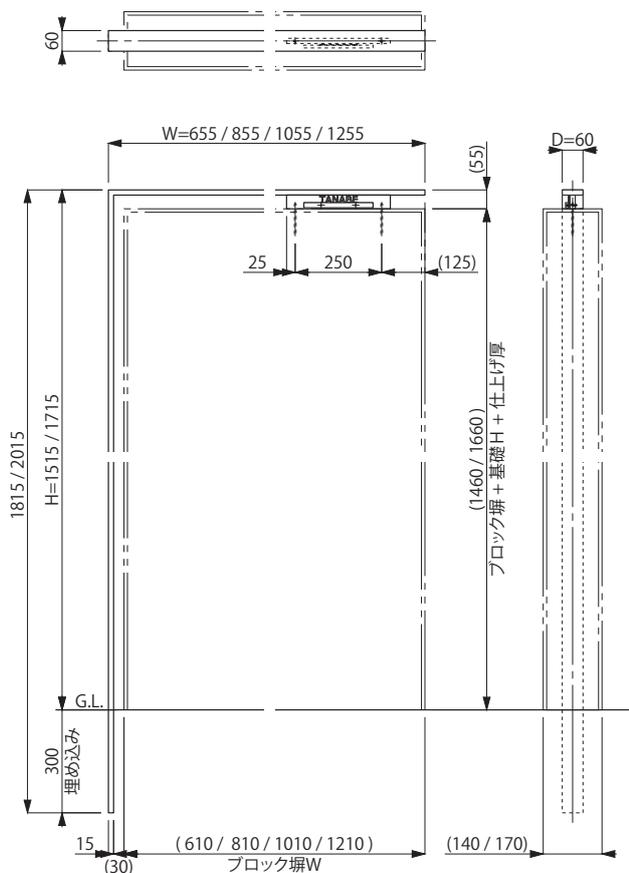
【タイプC】

No.		数量
1	<p>左勝手</p> <p>右勝手</p> <p>または</p> <p>※ネームプレートは出荷時本体に取り付け済み</p>	1台
2	<p>M5×L90 寸切りボルト</p>	2本

■ネームプレート用部品 ※出荷時本体に取り付け済み

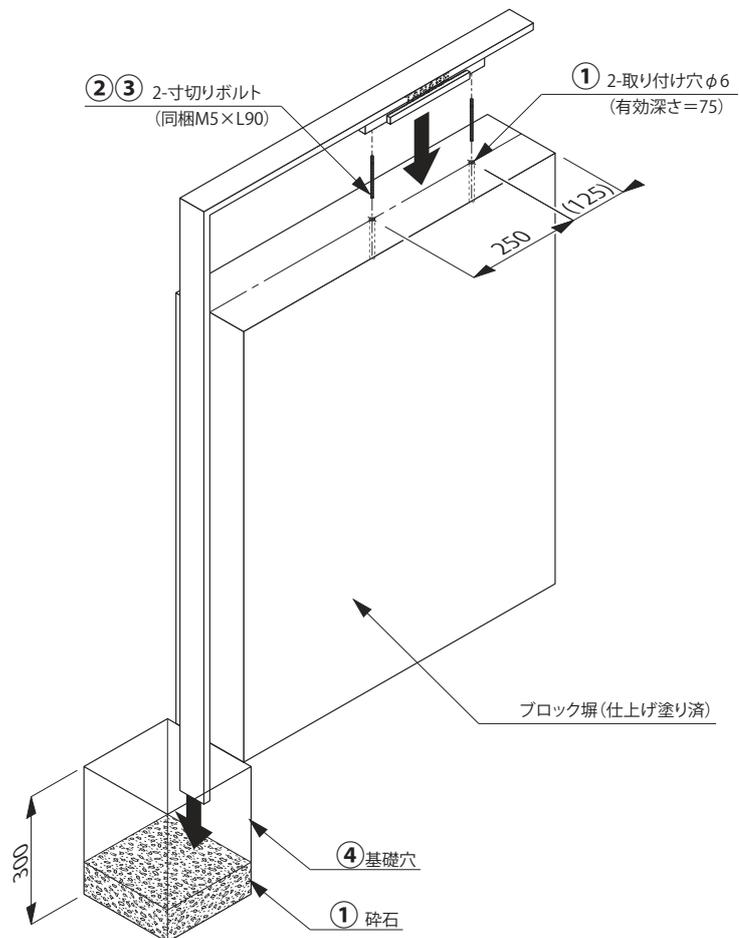
No.		数量
3	<p>ネームプレート</p>	1個
4	<p>ネームプレート装飾</p>	1個
5	<p>D8-L3 スペーサー</p>	2個
6	<p>M4×L25 六角穴付き極低頭ボルト</p>	2本

■本体寸法図 ※図は左勝手



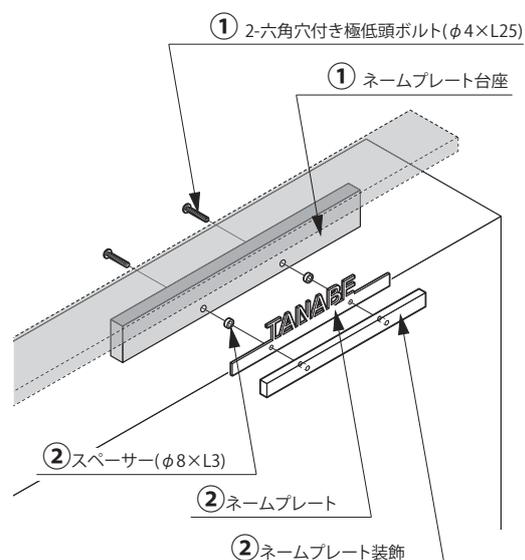
■ 本体取付の準備 ※図は左勝手 右勝手の場合は左右反転

- ① 下図に従い、ブロック塀の仕上げ塗り後、所定の位置に本体取付用の孔 $\phi 6$ (2ヶ所)を開けてください。
また、本体埋め込み部に基礎穴を空け、碎石を入れて押し固めてください。
(深さ=GLから300mm)
- ② 本体ネームプレート台座下部のタップ穴 (M5、2ヶ所) に寸切りボルト (同梱M5×L90) をしっかりとねじ込んでください。
- ③ 本体を取り付ける塀にあらかじめ開けた取り付け穴 ($\phi 6$ 、2ヶ所) に、コンクリート用接着剤を注入し本体の寸切りボルトを奥までしっかりと差し込んでください。
- ④ ③の接着剤が硬化する前に基礎穴にモルタルを流し込んでください。
- ⑤ 接着剤、モルタルが硬化するまで、添え木等で固定してください。



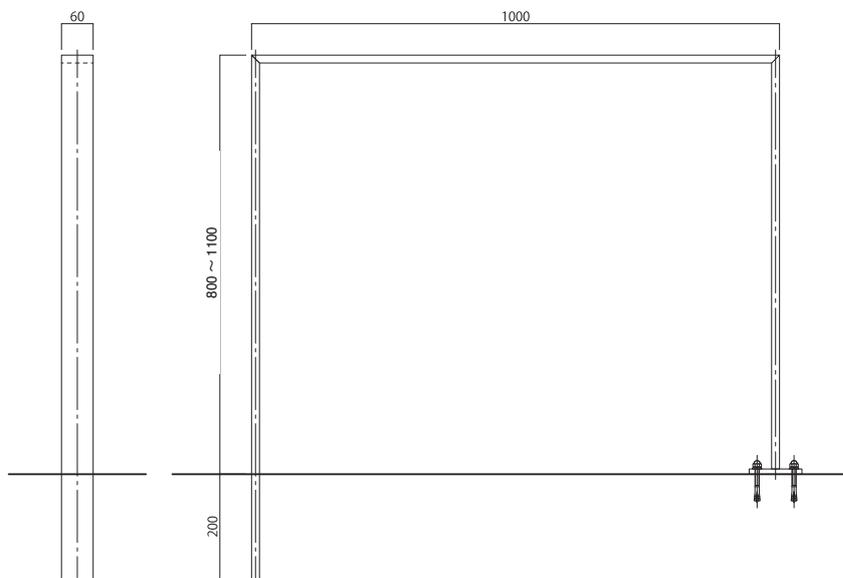
■ ネームプレートを本体施工後に取り付ける場合 ※図は左勝手 右勝手の場合は左右反転

- ① ネームプレート台座の取り付け穴に六角穴付き極低頭ボルト (M4×L25) を裏から差し込んでください。(2ヶ所)
- ② 右図のようにスペーサー ($\phi 8 \times L3$) → ネームプレートの順に六角穴付き極低頭ボルトに差し込み、最後にネームプレート装飾のタップ穴に六角レンチで締め込んでください。

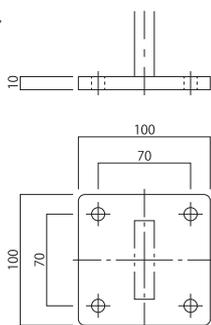


アルフラット

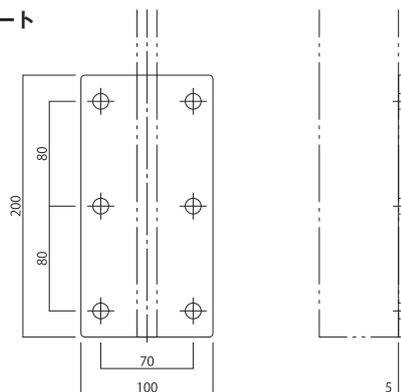
■ 寸法図 (01型の場合)



● ベースプレート



● 支柱壁面固定プレート



⚠ 設置上のご注意

- 歩行補助手摺を目的にするものです。
歩行補助手摺以外への転用及び改造は行わないで下さい。

⚠ 施工上のご注意

- 商品に傷をつけないようご注意ください。
(傷は腐食の原因となりますのでタッチアップ塗料等で必ず補修を行って下さい)
- 商品の施工については必ず施工要領書に従って下さい。
- 製品の水平・垂直に注意して施工を行って下さい。
- 基礎は当社指示寸法以上にして下さい。
- コンクリートモルタルの養生期間は十分(4日以上)とり、
養生期間中は重い物を乗せたり、振動させたりしないよう注意して下さい。
- 施工後、ボルト及びねじ類にゆるみやガタつき、
その他使用上危険な箇所などないか点検して下さい。

■ 梱包内容

● セット内容

No.	同梱部品	数量	単位
1	手摺本体	1	セット

● ジョイントセット

No.	同梱部品	数量	単位
1	トラス小ねじ M5×10	2	本

※開梱時に種類と数量を確認して下さい。
※商品に破損や異常が無いか確認して下さい。

● ベースプレートセット(オプション)

No.	同梱部品	数量	単位
1	ベースプレート※溶接済	1	枚
2	オールアンカー(8×70)	4	本
3	オールアンカー用ナット	4	個
4	ワッシャー(M8)	4	枚
5	スプリングワッシャー(M8)	4	枚
6	袋ナット(M8)	4	個

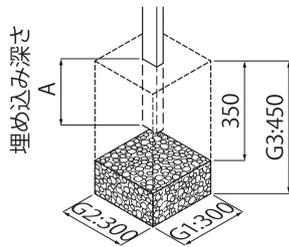
● 壁面固定金具セット(オプション)

No.	同梱部品	数量	単位
1	壁面取付プレート※溶接済	1	枚
2	オールアンカー(8×70)	6	本
3	ワッシャー(M8)	6	枚
4	スプリングワッシャー(M8)	6	枚
5	袋ナット(M8)	6	個

■ 施工手順 (埋め込み仕様の場合)

● 支柱の設置

下図を参考に支柱を固定して下さい。



● 必要基礎寸法(表)

手摺高さ H	埋め込み深さ A	基礎寸法		
		G1	G2	G3
800~1100	200	300	300	450

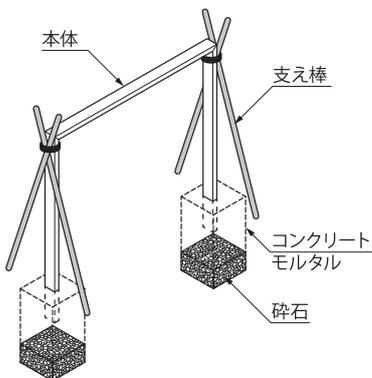
● 本体の固定

基礎固定の場合

- ①基礎穴を掘り、水たまり防止のための碎石を敷いて下さい。
- ②本体をコンクリート・モルタルで固定します。

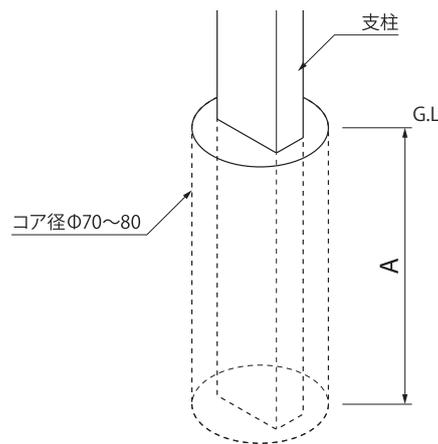
⚠ ご注意

- 本体を傷つけないよう養生した後、支え棒で自立させ、垂直・水平を確認してからコンクリートで打って下さい。



コア抜きの場合

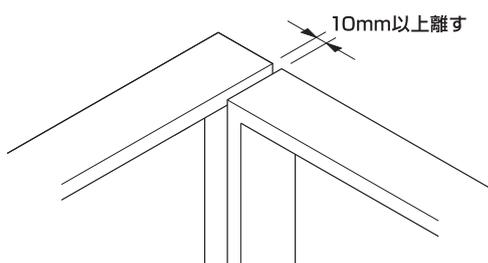
- ①支柱の埋め込み深さを(A) mmとし、支柱を固定して下さい。
(コア径Φ70~80)
※本体の水平、垂直を確認するまで、固定しないで下さい。



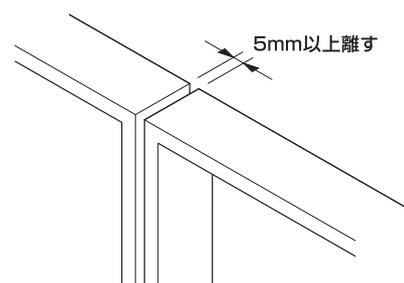
⚠ ご注意

- 本製品を隣り合わせで設置する場合、笠木同士が接触し傷が付かないようにするため、笠木の端部を離して設置して下さい。

● コーナー部



● ストレート部



アルフラット

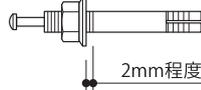
■ 施工手順（オーダー仕様）

● ベースプレートの場合

⚠️ ご注意

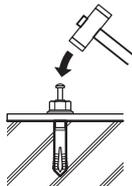
- アンカーを境界面から50mm以上離して設置して下さい。
- コンクリートブロック、レンガ等への設置はお避け下さい。

- ① オールアンカーのナット部分を、完全に締め込む手前（ねじ部が2mm程度残るくらい）までまわして下さい。

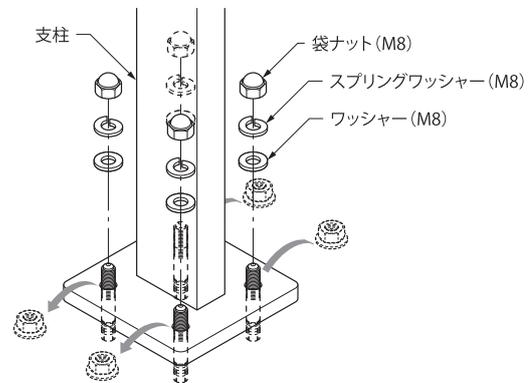
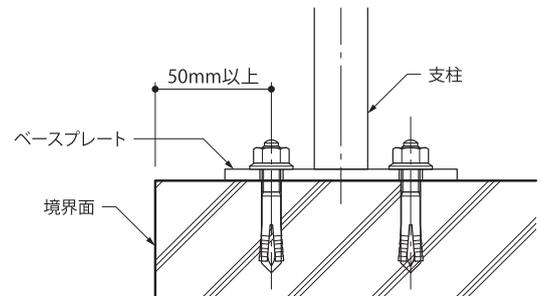


- ② 取付け部4ヶ所の指定位置に、振動ドリルで穴（Φ8.5、深さ40mm）をあけ、孔内の切粉を除去します。

- ③ 本体を置き、アンカーを挿入します。芯棒が本体の頭部に接するまでハンマーを用いて打込みます。



- ④ スパナ等でナットを締め付けた後、ナットを取り外し、ワッシャー、スプリングワッシャー、袋ナットの順で取付けます。

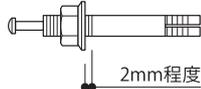


● 壁面ベースプレートの場合

⚠️ ご注意

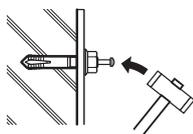
- アンカーを境界面から50mm以上離して設置して下さい。
- コンクリートブロック、レンガ等への設置はお避け下さい。

- ① オールアンカーのナット部分を、完全に締め込む手前（ねじ部が2mm程度残るくらい）までまわして下さい。

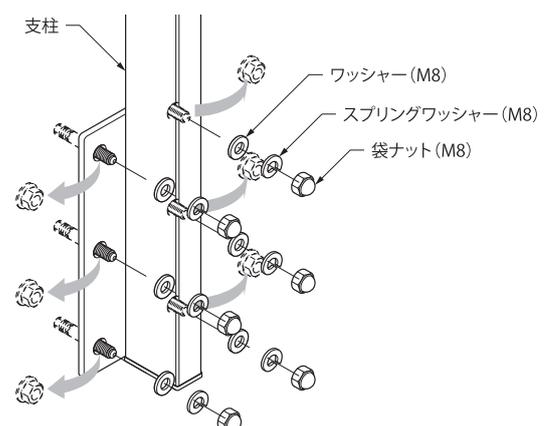
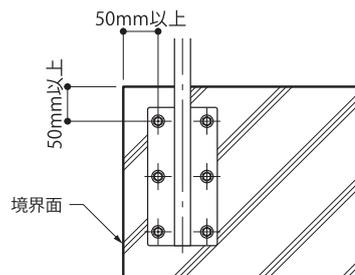


- ② 取付け部6ヶ所の指定位置に、振動ドリルで穴（Φ8.5、深さ40mm）をあけ、孔内の切粉を除去します。

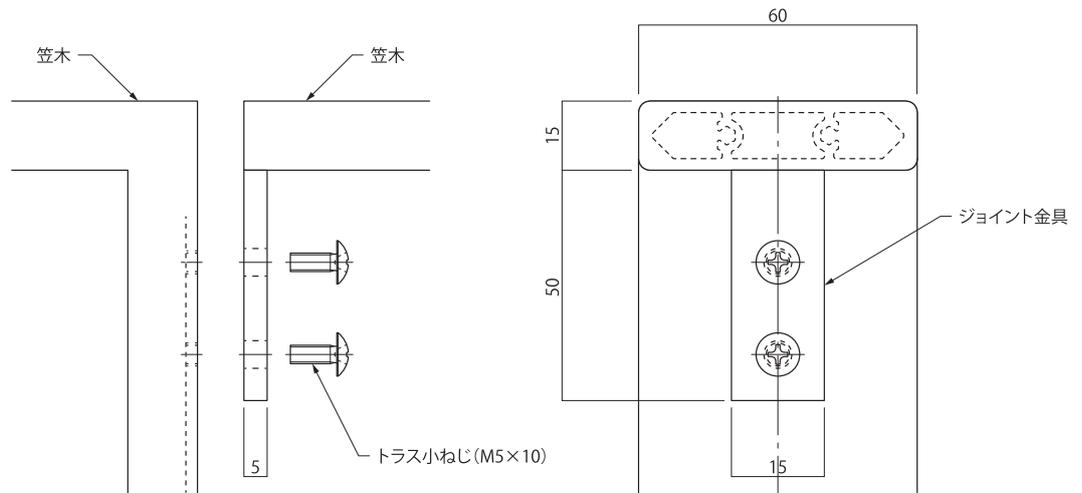
- ③ 本体を置き、アンカーを挿入します。芯棒が本体の頭部に接するまでハンマーを用いて打込みます。



- ④ スパナ等でナットを締め付けた後、ナットを取り外し、ワッシャー、スプリングワッシャー、袋ナットの順で取付けます。



● ジョイントの場合



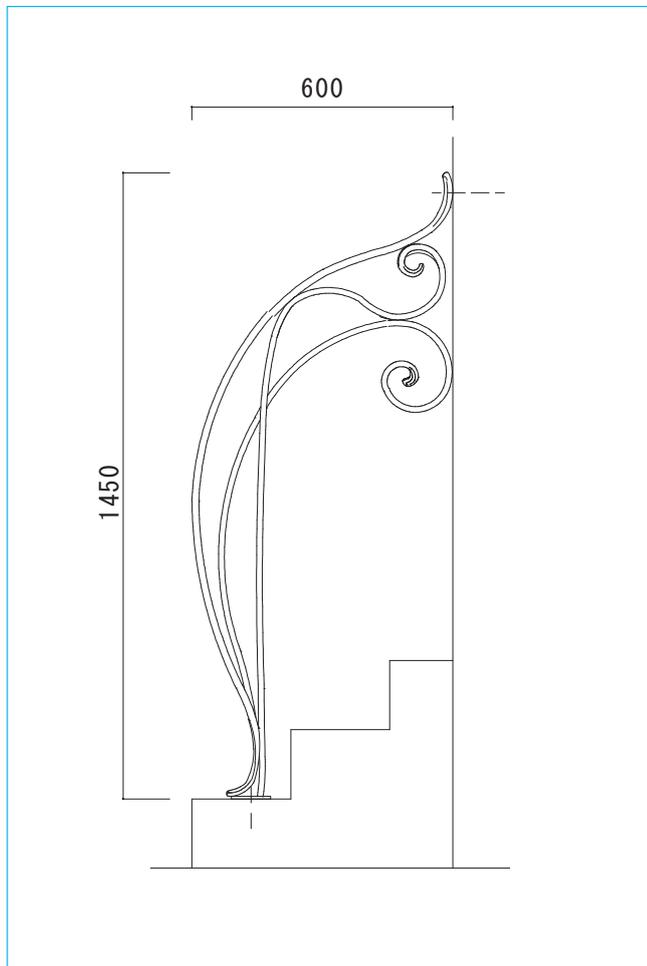
⚠️ ご注意

●タイプ及び施工現場の状況により寸法、形状等変わる場合があります。

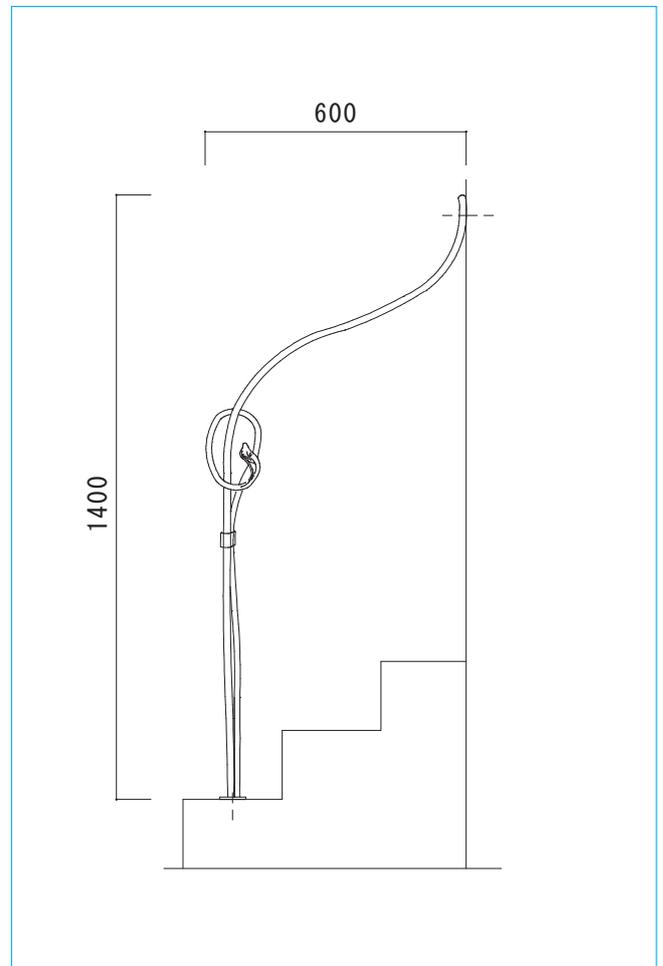
メタルデザイン (階段)

寸法図

[KWKK001.02の寸法図]



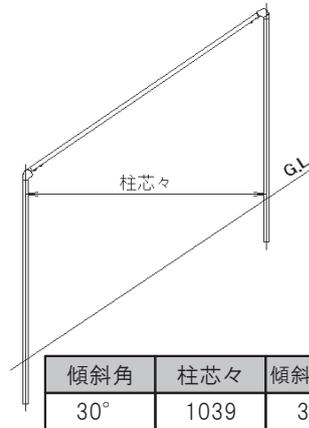
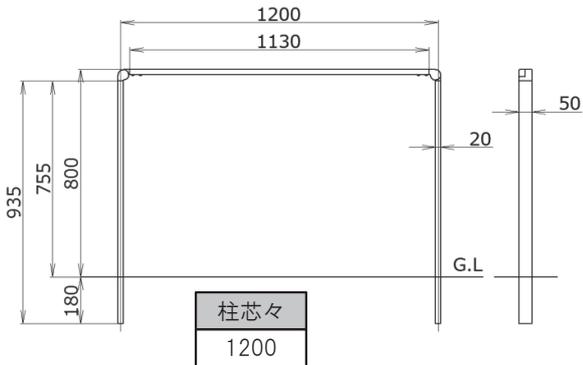
[KWKK-R001.03の寸法図]



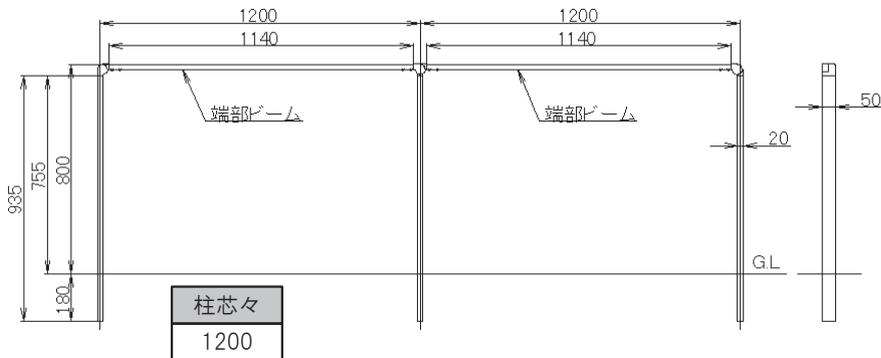
アプローチ手すり

1 基本寸法

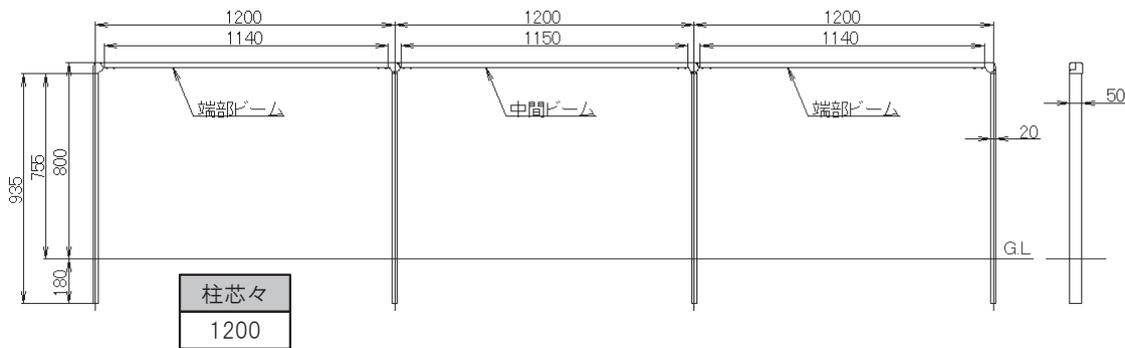
単独施工



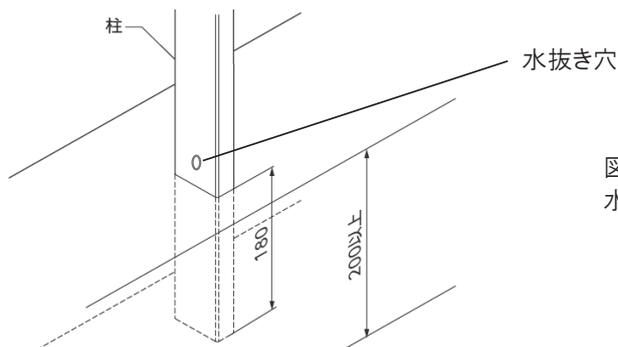
連続施工(2連)



連続施工(3連)

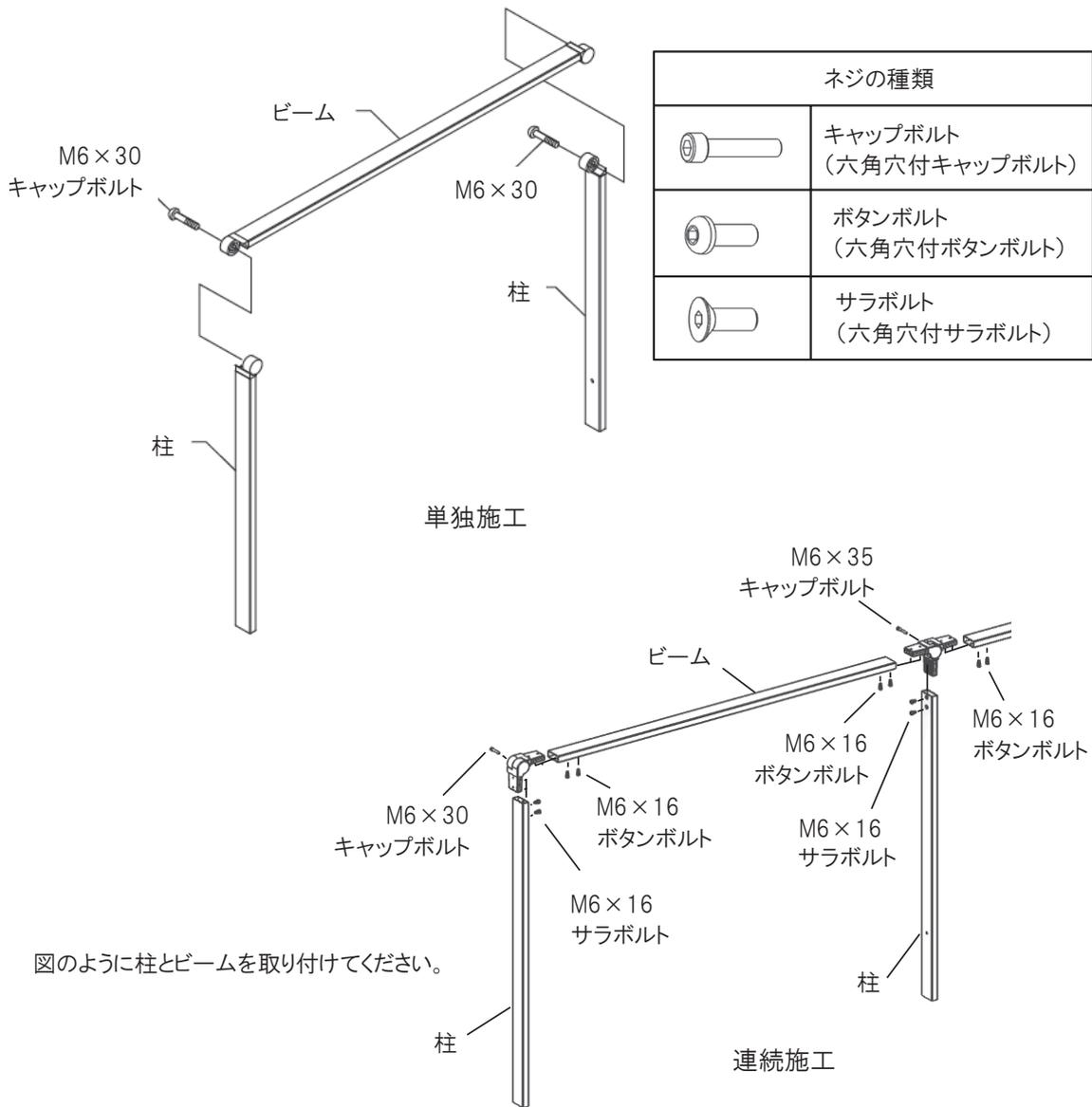


2 基礎の施工

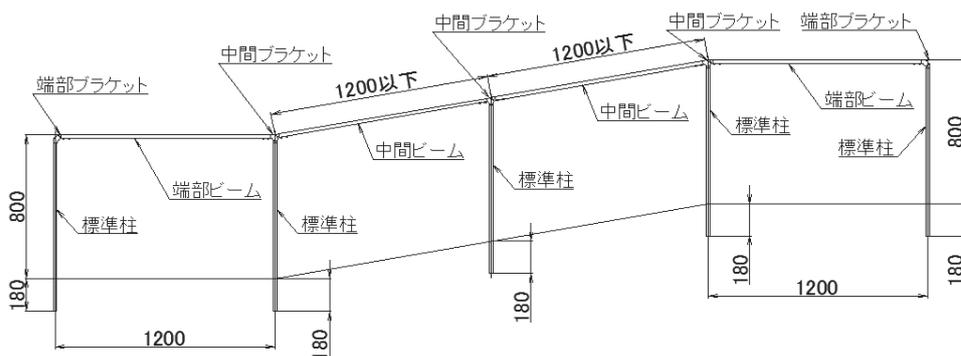


図のように本体を基礎に埋込んでください。
水抜き穴をふさがないように施工してください。

3 ビームと柱の取付



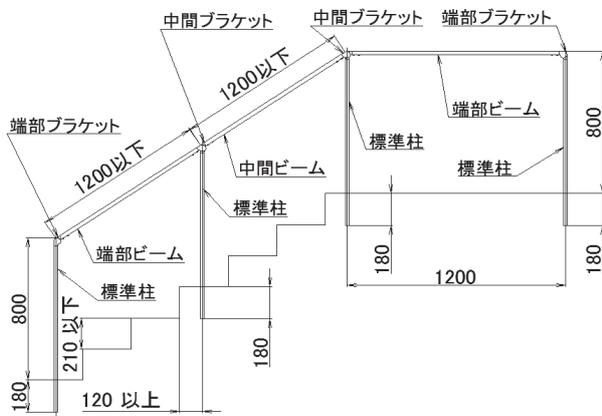
4 スロープ施工



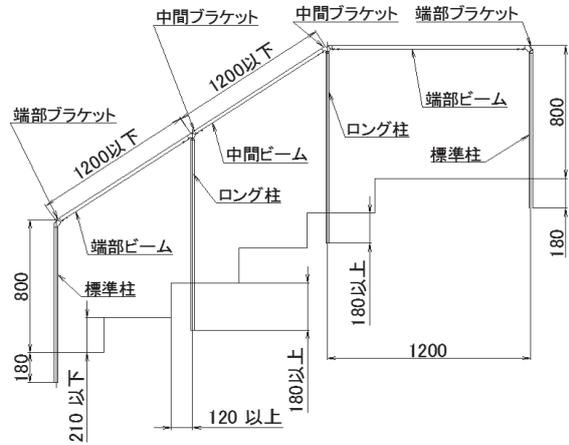
アプローチ手すり

5 階段施工

階段 標準柱施工例



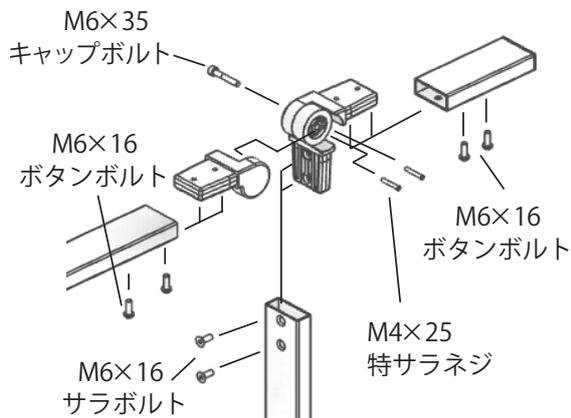
階段 ロング柱施工例



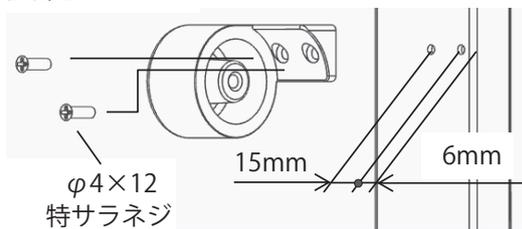
- ・ロング柱には、水抜き穴が加工されてません。
施工に合わせ、階段面から 20mm 上部に $\phi 7$ の穴をあけてください。

6 オプション

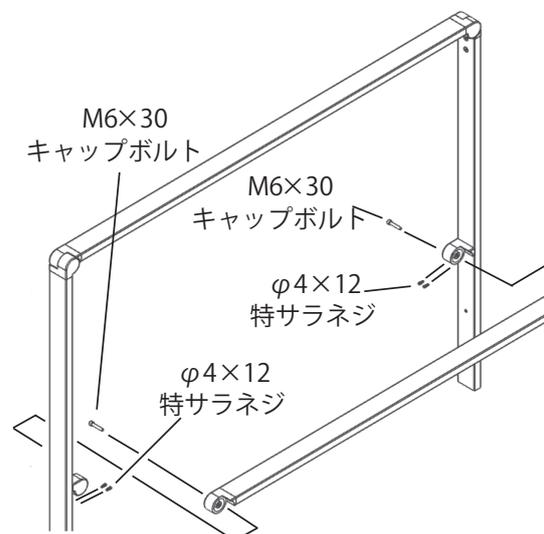
壁際ビームセット



横棧セット

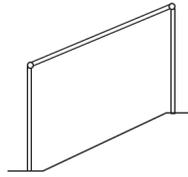


- ・横棧の高さは、任意です。ネジ下孔をあけ、取り付けてください。
- ・ネジ下穴
アルミ形材: $\phi 3.5$
ステンレス: $\phi 3.6$
- ・下穴加工は、ブラケットの穴をガイドにすると穴あけできます。

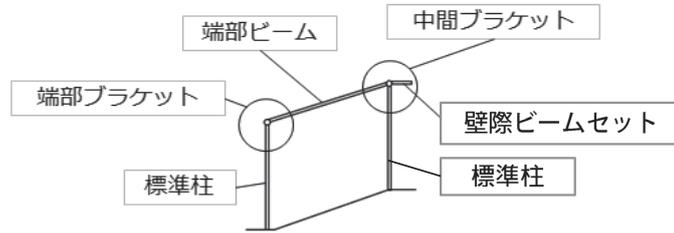


ファサード

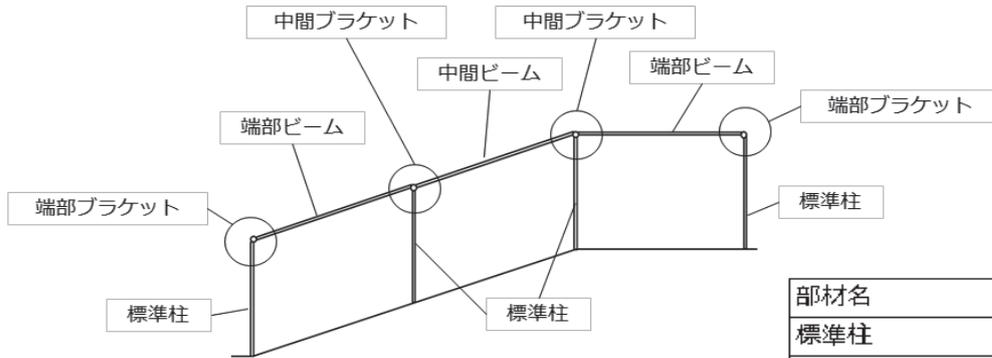
■ 拾いだし



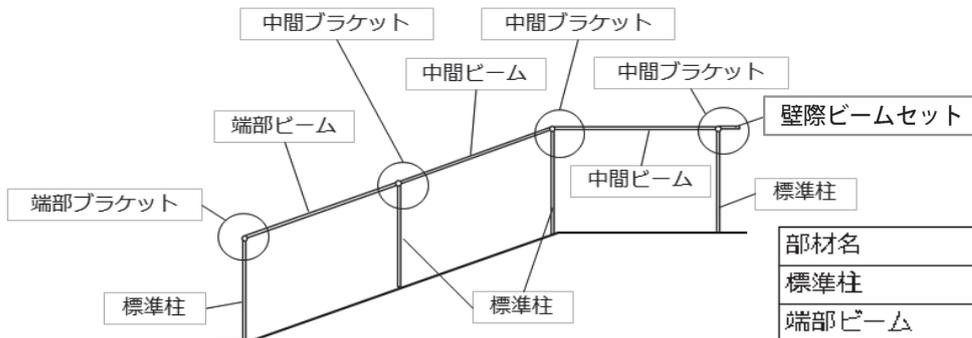
部材名	員数
単独セット	1



部材名	員数
標準柱	2
端部ビーム	1
壁際ビームセット	1
端部ブラケット	1
中間ブラケット	1



部材名	員数
標準柱	4
端部ビーム	2
中間ビーム	1
端部ブラケット	2
中間ブラケット	2

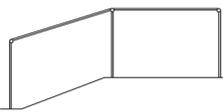


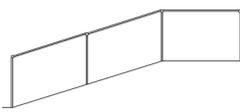
部材名	員数
標準柱	4
端部ビーム	1
中間ビーム	2
壁際ビームセット	1
端部ブラケット	1
中間ブラケット	3

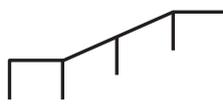
アプローチ手すり

■ セット内容

単独 	部材名	員数
	単独セット	1

2連 	部材名	員数
	標準柱	3
	端部ビーム	2
	端部ブラケット	2
	中間ブラケット	1

3連 	部材名	員数
	標準柱	4
	端部ビーム	2
	中間ビーム	1
	端部ブラケット	2
	中間ブラケット	2

4連 	部材名	員数
	標準柱	5
	端部ビーム	2
	中間ビーム	2
	端部ブラケット	2
	中間ブラケット	3

5連 	部材名	員数
	標準柱	6
	端部ビーム	2
	中間ビーム	3
	端部ブラケット	2
	中間ブラケット	4

施工される方へのお願い

- 1)ここに示した注意事項は、商品の性能・機能および強度や安全性を確保する上での重要な内容です。施工にあたって必ずお守りください。

⚠ 注 意

製品破損による人への被害・物的損害が想定されますので、下記事項を厳守してください。

〈設置上の注意事項〉

1)本製品は、屋外通路へ設置し、歩行補助を目的にするもので、転落防止の機能はありません。転落などの大きな事故につながるおそれがありますので、下記事項をお守りください。

- ・GL 1m以下の高さで、ご使用ください。
- ・高い階段の外側や崖など、転落してケガをするおそれのある場所には設置しないでください。
- ・おおぜいの人が集まるおそれのある場所に設置しないでください。

2)地下埋設物(給排水管等)に影響を及ぼさないように柱位置を決めてください。

3)寒冷地で凍上するおそれがある地域でのご使用の際には、凍上線の下まで基礎を設けてください。

〈施工上の注意事項〉

1)施工は専門業者が行なってください。専門知識のない方が施工されますと不具合発生の原因となることがあります。

2)水平・垂直は正確に出してください。施工に支障がでるおそれがあります。

3)指定の組立てネジ・ボルトは指示に従って全て確実に締めてください。

4)指定の部品およびオプション品以外は、使用しないでください。

5)材料が固いので、ビスの取り外しを繰り返すと下穴が緩くなったり、ビスが折れる場合があります。

6)基礎は当社指示寸法以上にしてください。

7)コンクリート養生期間は十分(4~7日)にとり、養生期間中は重い物をのせたり、震動させたりしないよう支持してください。

8)基礎に海砂を使用しないでください。塩分が含まれていますので、腐食の原因になります。

9)凝結促進剤・減水促進剤・凍結防止剤を使用しないでください。柱が腐食する恐れがあります。

施主様へのお願い

- 1) 当社指定の付属部品以外は取付けないでください。
- 2) ボルト・ナット・ネジなどは絶対にゆるめないでください。
(使用中にゆるんだ場合は締め直してください)

梱包明細書(単独セット)

名称	員数
柱(端部ブラケットA組付)	1
柱(端部ブラケットB組付)	1
ビーム(端部ブラケットA、B組付)	1
M6×30 キャップボルト	2
取付・取扱説明書	1

梱包明細書(連続施工)

名称	部品名称	員数
標準柱		1
ロング柱		1
端部ビーム		1
中間ビーム		1
壁際ビームセット	壁際ビーム(端部キャップ組付)	1
	φ4×25 特サラネジ	2
横棧セット	横棧(端部ブラケットA、B組付)	1
	柱取付ブラケットA	1
	柱取付ブラケットB	1
	M6×30 キャップボルト	2
	φ4×12 特サラネジ	4
端部ブラケット	端部ブラケットA	1
	端部ブラケットB	1
	M6×30 キャップボルト	1
	M4×16 六角穴付サラボルト	2
	M4×16 六角穴付ボタンボルト	2
	取付・取扱説明書	1
中間ブラケット	中間ブラケットA	1
	中間ブラケットB	1
	柱中間ブラケット	1
	M6×35 キャップボルト	1
	M4×16 六角穴付サラボルト	2
	M4×16 六角穴付ボタンボルト	4

■ インターホンの取付け (別途品)

※図は右勝手仕様

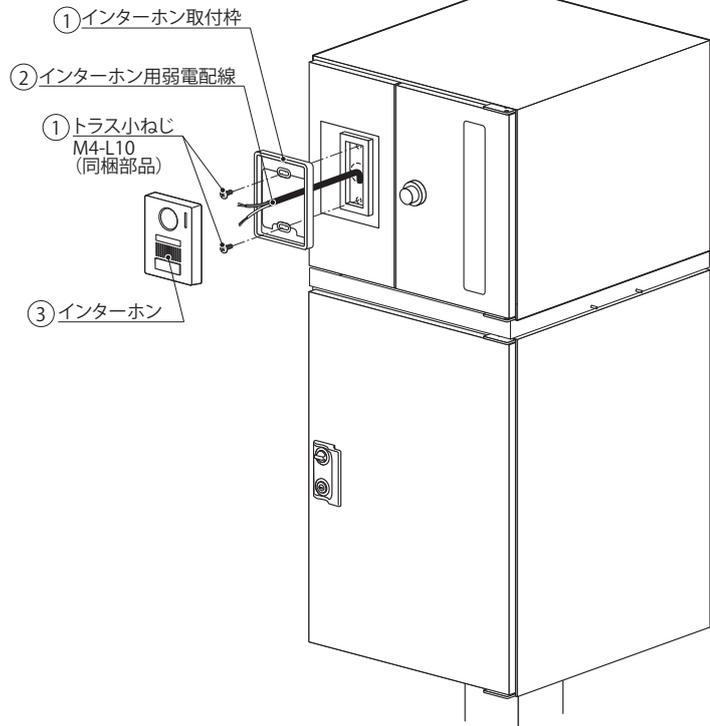
- ① インターホン取付枠をトラス小ねじ (M4×L10) で、本体所定の位置に取付けて下さい。(2箇所)
- ② インターホン用弱電配線をインターホン子機に結線して下さい。
- ③ インターホン子機本体を取付枠に取付けて下さい。(取付方法はインターホンに付属の施工説明書などをご確認下さい)

⚠️ ご注意

- 結線後必ず絶縁処理を施して下さい。
- 本体にホース等で直接水をかけないで下さい。インターホンの故障の原因となります。

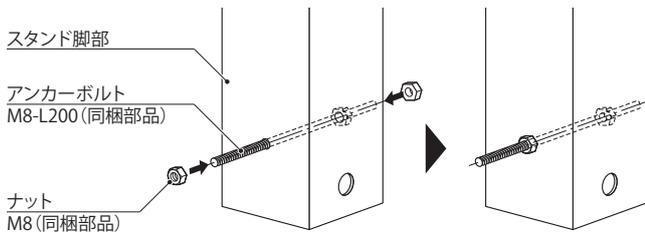
⚠️ ご注意

- インターホンは各社製品に概ね対応可能な設計になっております。ご確認の際は製品寸法・開口・取付けピッチを参考にして下さい。カメラレンズ、マイク、スピーカーを妨げないようにご注意下さい。
- 子機の機種によって取付けできない場合があります。事前にお問い合わせ下さい。



■ アンカーボルトの取付け

- ① スタンド脚部先端の孔にアンカーボルトを通し下図のように両側から締め付けます。



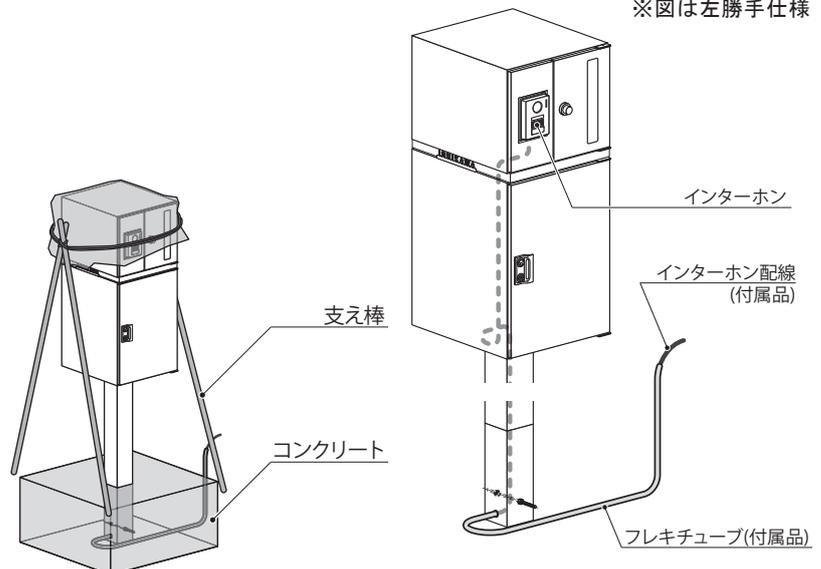
■ インターホンの接続

注) 電気配線は電気工事店にご依頼下さい。

- ・インターホン配線を接続します。インターホン親機側配線 (現地手配) を接続し、配管 (フレキシチューブ、PF管等) どうしを防水処理して下さい。

配線の結線は地上でおこなう事を推奨しております。

※図は左勝手仕様



■ 本体の固定

本体をコンクリートモルタルで固定します。

本体を支え棒で自立させ垂直・水平を確認してからコンクリートで打って下さい。

※注意：本体を傷つけないように養生した後、支え棒を設置して下さい。

⚠️ ご注意

- 商品の塗装表面には、直接養生テープを貼り付けしないで下さい。塗装剥がれの原因となります。

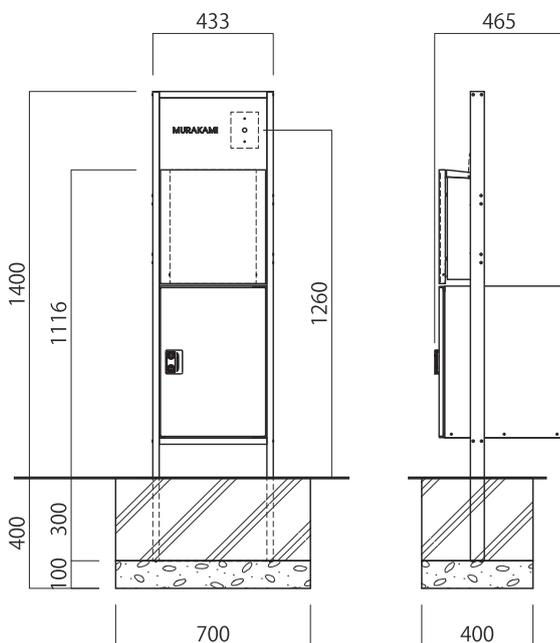
compacto (コンパクト)

●本体セット

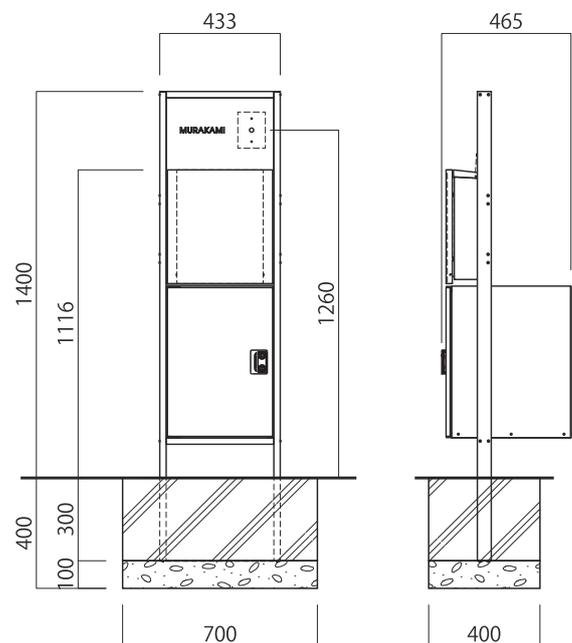
No.	同梱部品	数量
1	本体	1
2	トラス小ねじ (M4×10)	2
3	六角ナット (M4)	2
4	ネームシート	1

■基本寸法図

右勝手

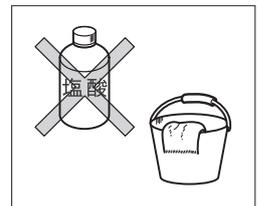


左勝手



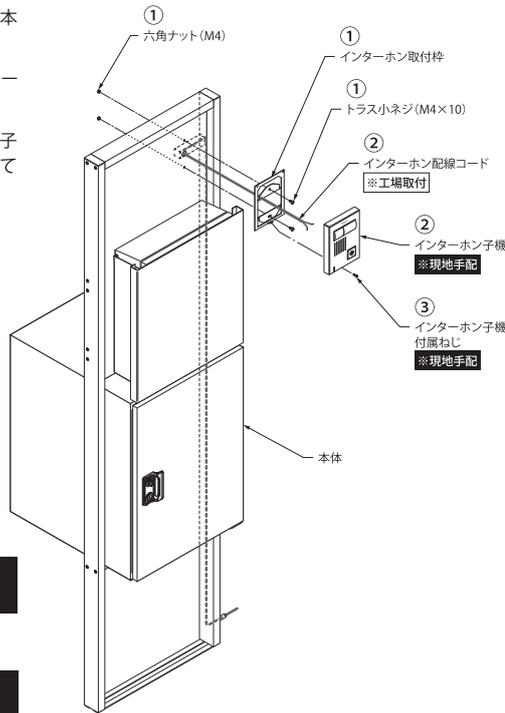
⚠ 施工上のご注意

- 商品に傷をつけないようご注意ください。
(傷は錆びの原因となりますのでタッチアップ塗料等で必ず補修を行って下さい。)
- 傷などの補修方法はお問い合わせ下さい。
- 施工前に水平出しを行って下さい。
- 取付場所が通行のさまたげにならないか、十分に確認して下さい。
- 本体の前面に、ホース等で直接水をかけないで下さい。
- 商品の施工に関しては必ず「施工要領書」に従って下さい。
- むやみに改造・変更をしないで下さい。
- 主電源を切ってから施工を行って下さい。
- ねじなどのゆるみがあるかどうか確認し、ゆるんでいる場合はしめて下さい。
- 100V電源は漏電ブレーカーを介して接続し、D種(第3種)接地工事を必ず実施して下さい。
(電気工事店にご依頼下さい。)
- 商品の塗装表面には、直接養生テープを貼り付けしないで下さい。塗装剥がれの原因となります。
- 商品に付着したモルタルやコンクリートなどは速やかに清掃して下さい。
- 施工時の汚れ落としは、中性洗剤をご使用下さい。シンナー、塩酸などを使用すると、腐食の原因になります。



■インターホンの取付け

- ①インターホン取付枠をトラス小ねじ (M4×10) 2本と六角ナット (M4) 2個で固定して下さい。
- ②インターホン配線コード (※工場取付) をインターホン子機 (※別途手配) に結線して下さい。
- ③動作確認後、インターホン子機をインターホン子機付属ねじでインターホン取付枠に取り付けて

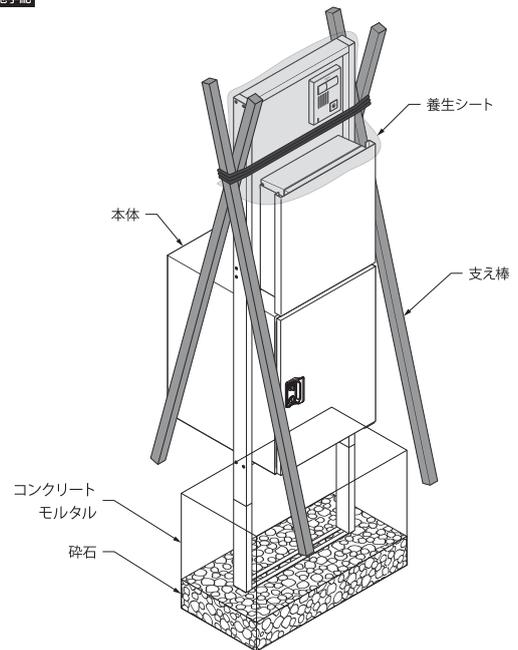


■本体の固定

- ①基礎穴を掘り、水たまり防止のための碎石を敷いて下さい。
- ②本体をコンクリート・モルタルで固定して下さい。

⚠️ ご注意

- 本体を傷つけないよう養生した後、支え棒で自立させ、垂直・水平を確認してからコンクリートで打って下さい。
- 本体の塗装表面には直接養生テープを貼り付けしないで下さい。塗装剥がれの原因となります。



⚠️ ご注意

- 電気配線は電気工事店にご依頼下さい。

⚠️ ご注意

- 結線後、必ず絶縁処理を施して下さい。
- 本体にホース等で直接水をかけないで下さい。インターホンの故障の原因となります。
- インターホンは各社製品に概ね対応可能な設計になっております。ご確認の際は製品寸法・開口・取付けピッチを参考にして下さい。カメラレンズ、マイク、スピーカーを妨げないようにご注意下さい。
- 子機の機種によって取付けできない場合があります。

■ネームシートの貼付け方法

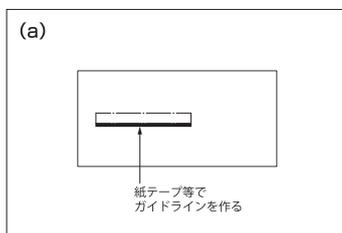


●貼付け前に用意するもの

1. 家庭用洗剤
2. ヘラ (表面を傷つけないもの)
3. 紙テープ等

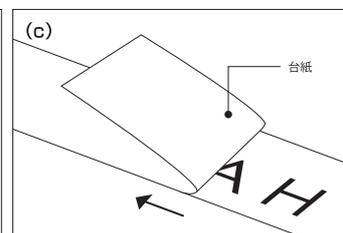
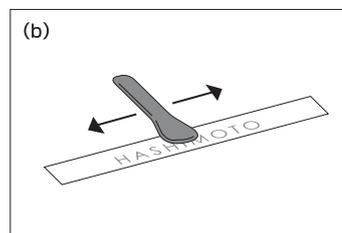
●位置決め

- ①シートの貼付け位置を決め、洗剤で表面の油分を拭き取ります。
 - ②次に紙テープ等でシートを貼り易くする平行なガイドラインを作ります。下図(a)
- ※お好みの位置に貼付けてご使用下さい。



●シートの貼付け

- ①はじめに、シートは上図のように台紙側に付いていますので、保護シート側に移すためにヘラで保護シートの上からこすりつけます。(完全に保護シート側には付きません) 下図(b)
- ②次に台紙をていねいに剥がします。(シートを裏返して台紙を折りながら、ゆっくり丁寧に剥がします。) 下図(c)
- ③最後に保護シートをガイドラインに合わせて、慎重に貼付けて下さい。(ヘラでしっかり圧着させて下さい。)



ソティール

⚠ 施工上のご注意

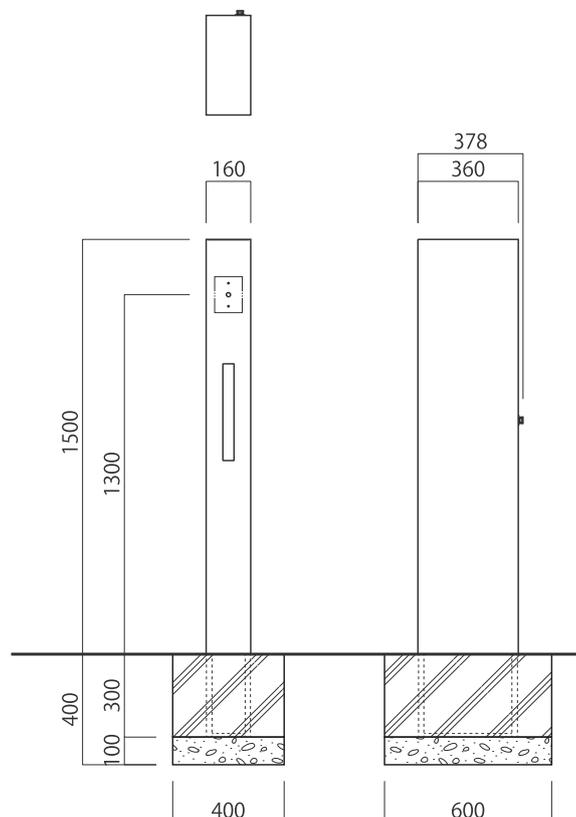
- 商品に傷をつけないようご注意ください。
(傷は錆びの原因となりますのでタッチアップ塗料等で必ず補修を行ってください。)
- 傷などの補修方法はお問い合わせください。
- 施工前に水平出しを行ってください。
- 取付場所が通行のさまたげにならないか、十分に確認してください。
- 本体にホース等で直接水をかけないでください。
- 商品の施工に関しては必ず「施工要領書」に従ってください。
- むやみに改造・変更をしないでください。
- 主電源を切ってから施工を行ってください。
- ねじなどのゆるみがあるかどうか確認し、ゆるんでいる場合はしめてください。
- 100V電源は漏電ブレーカーを介して接続し、D種(第3種)接地工事を必ず実施してください。
(電気工事店にご依頼ください。)
- 商品の塗装表面には、直接養生テープを貼り付けしないで下さい。塗装剥がれの原因となります。
- 商品に付着したモルタルやコンクリートなどは速やかに清掃してください。
- 施工時の汚れ落としは、中性洗剤をご使用ください。シンナー、塩酸などを使用すると、腐食の原因になります。



●本体セット

No.	同梱部品	数量
1	本体	1
2	トラス小ねじ(M4×10)	2
3	ネームプレート・ネームシート(オプション)	1

■基本寸法図



■インターホンの取付

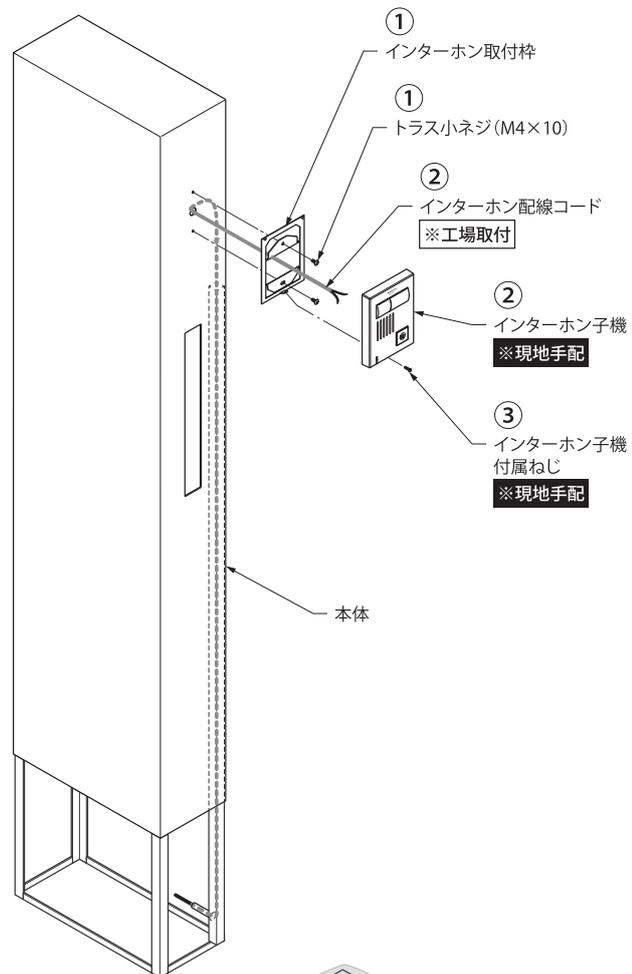
- ① インターホン取付枠をトラス小ねじ (M4×10) 2本で固定してください。
- ② インターホン配線コード (※工場取付) をインターホン子機 (※別途手配) に結線してください。
- ③ 動作確認後、インターホン子機をインターホン子機付属ねじでインターホン取付枠に取り付けてください。

⚠️ ご注意

- 電気配線は電気工事店にご依頼ください。

⚠️ ご注意

- 結線後、必ず絶縁処理を施してください。
- 本体にホース等で直接水をかけないでください。インターホンの故障の原因となります。
- インターホンは各社製品に概ね対応可能な設計になっております。ご確認の際は製品寸法・開口・取付けピッチを参考にしてください。カメラレンズ、マイク、スピーカーを妨げないようにご注意ください。
- 子機の機種によって取付けできない場合があります。

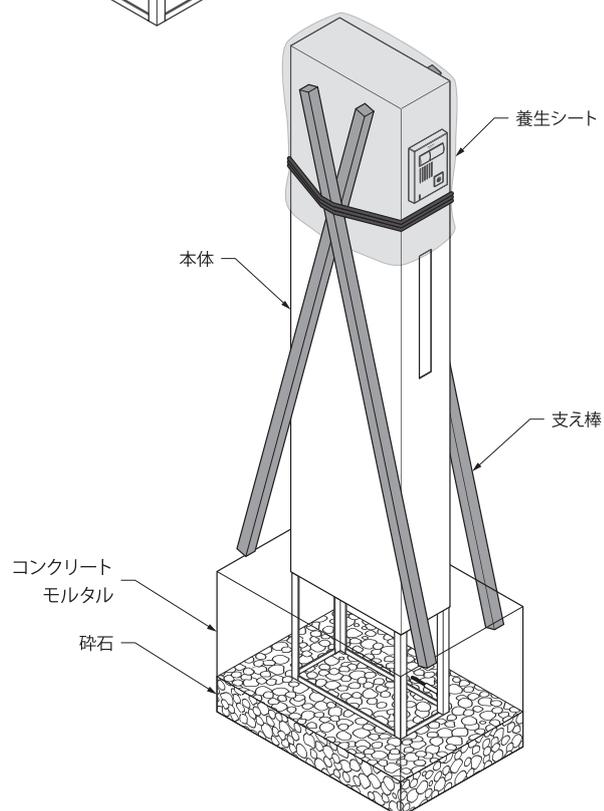


■本体の固定

- ① 基礎穴を掘り、水たまり防止のための砕石を敷いてください。
- ② 本体をコンクリート・モルタルで固定してください。

⚠️ ご注意

- 本体を傷つけないよう養生した後、支え棒で自立させ、垂直・水平を確認してからコンクリートで打ってください。
- 本体の塗装表面には直接養生テープを貼り付けないでください。塗装剥がれの原因となります。



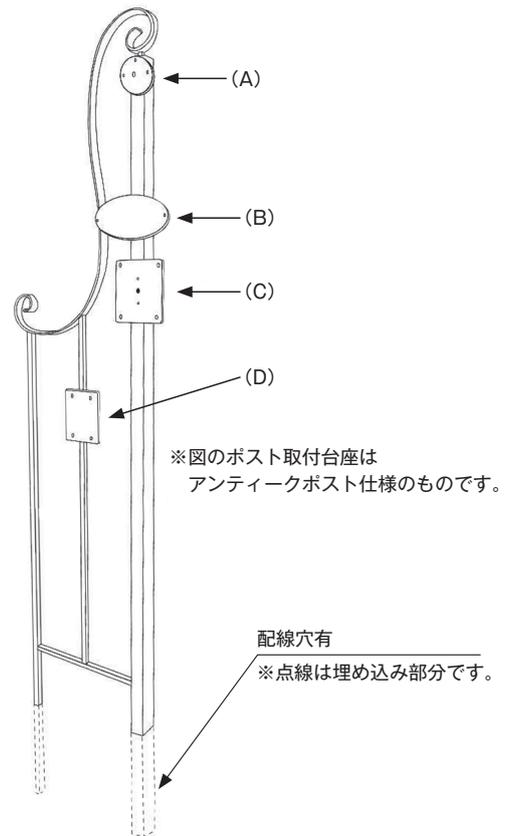
【1型】

■ 取扱説明書

- 商品には傷をつけないように、ご注意ください。
(傷は錆の原因になりますのでタッチアップ塗料などで必ず補修を行って下さい)
- 錆の原因となる塩酸、酸類で洗わないで下さい。
- 改造などしないで下さい。故障の原因になります。
- 電気配線は電気工事店にご依頼下さい。
- 配線コード、CD管をご用意下さい。

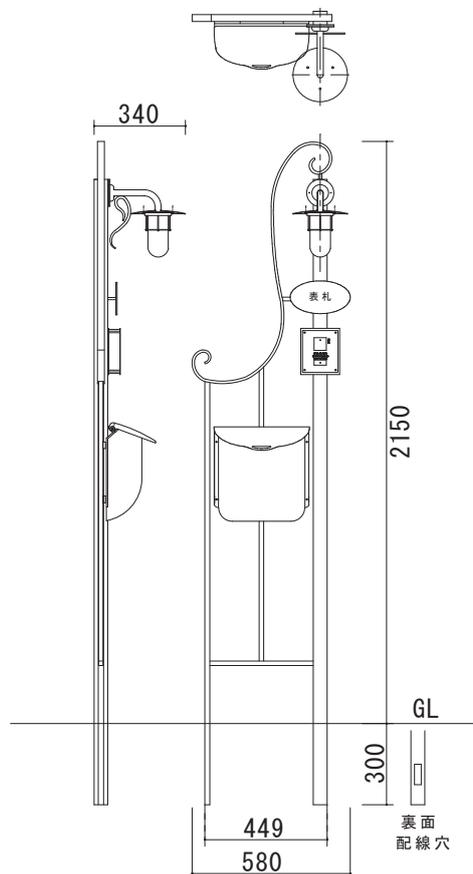
- (A) 照明取り付け版
ネジは取り付け板についています。配線には予め通してある針金をご利用下さい。
- (B) 表札取り付け版
ネジは表札と一緒に梱包されています。
- (C) インターホン取り付け版
この板にインターホンを取り付けて下さい。ネジは本体に付いています。
配線には予め通してある針金をご利用下さい。
- (D) ポスト取り付け版
ネジはポストに梱包されています。

- 付属品は、別梱包です。



■ 寸法図

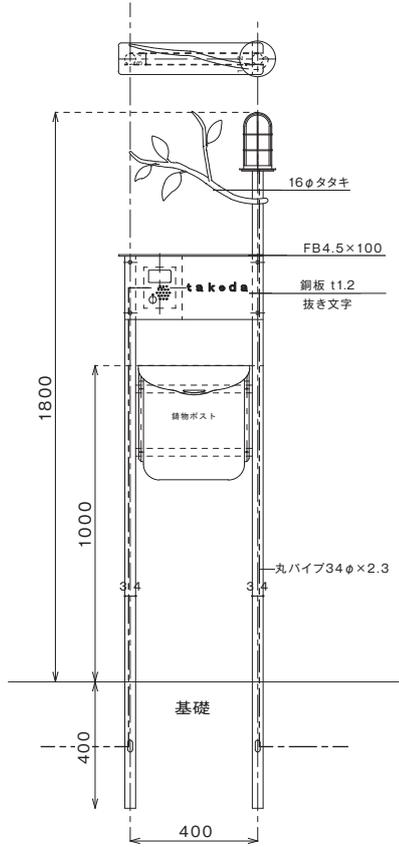
1型 ダフィ鋳物ポスト付き



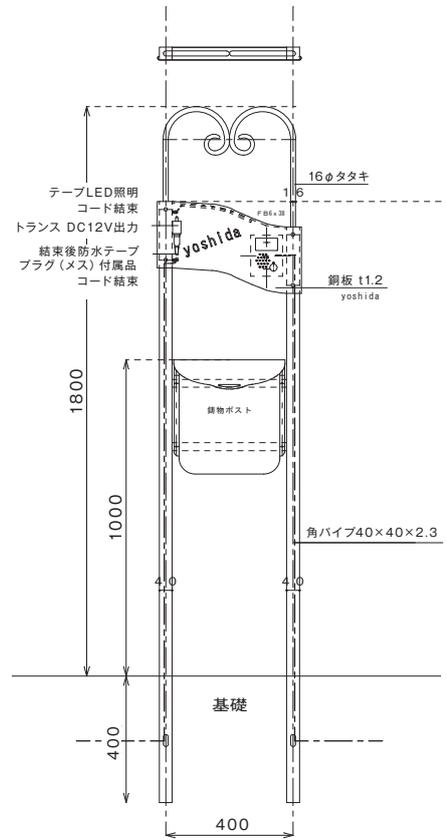
フローガ

施工要領 寸法図

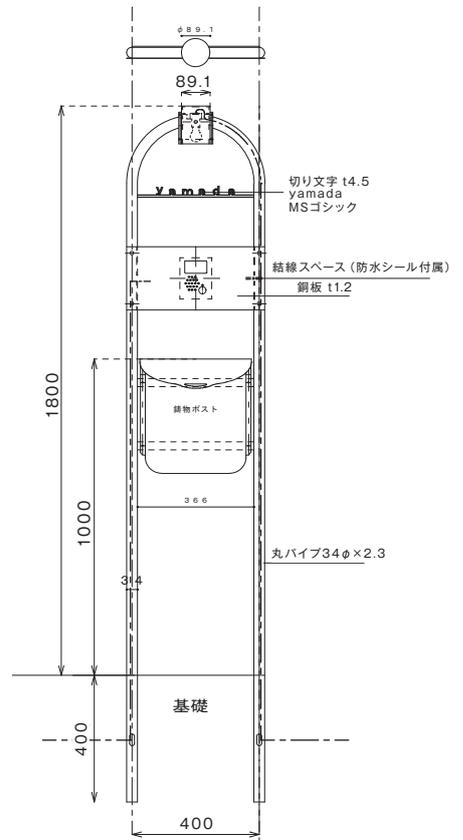
■レプトγ (ガンマ)



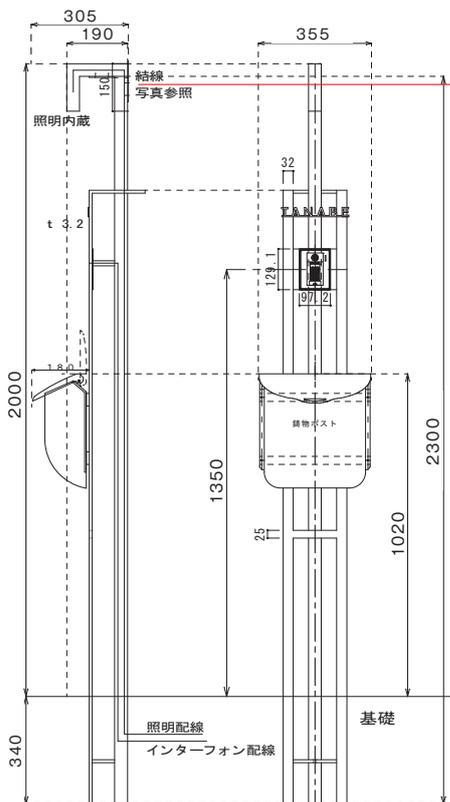
■レプトδ (デルタ)



■レプトε (イブシロン)



■レプトα (アルファ)



・照明配線の取り付け方法
 図①のように照明を外します。
 (照明結線が完了後裏板を取り付けてください。)

レプトα照明結線

ファサード

ロートアイアンレーザースサイン

施工要領 寸法図

NS-S30

2-M4×50寸切りボルト

1 取付部2ヶ所の指定位置で、壁 (RCの場合) に振動ドリルで穴 (6φ、任意の深さ) をあけ、コンクリートボンド (市販品) を注入し、本体を差し込み固定します。

NS-S32

2-M4×50寸切りボルト

1 取付部2ヶ所の指定位置で、壁 (RCの場合) に振動ドリルで穴 (6φ、任意の深さ) をあけ、コンクリートボンド (市販品) を注入し、本体を差し込み固定します。

NS-S31

36

NS-S33

30

NS-S34

42

NS-S35

40

NS-S36

40

NS-S37

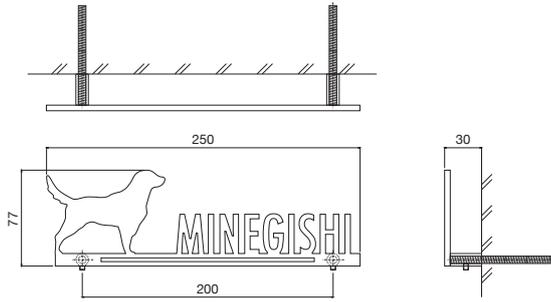
30

ファサード

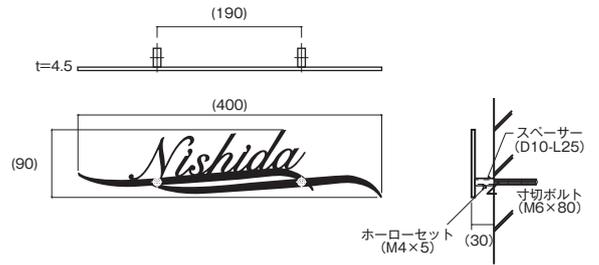
ロートアイアンレーザーサイン

寸法図

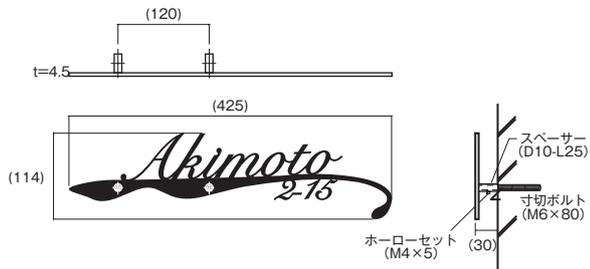
NS-S38



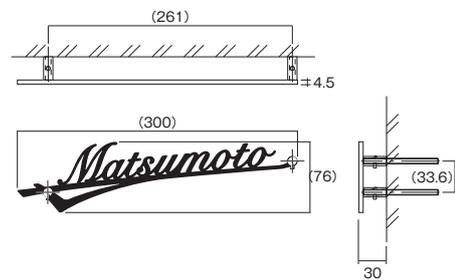
NS-11



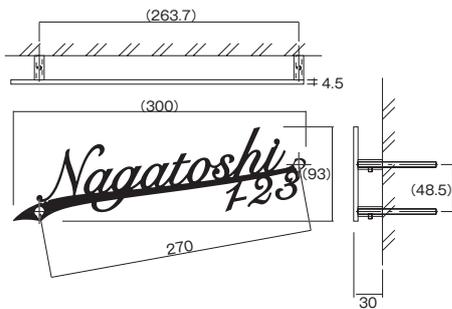
NS-12



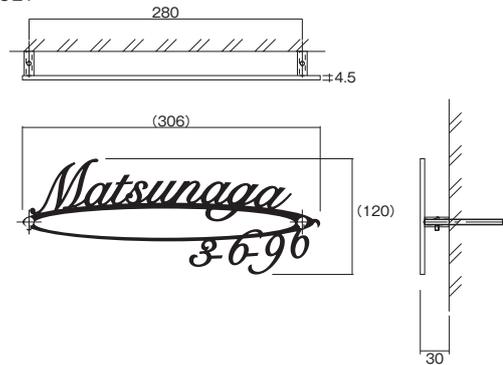
NS-S25



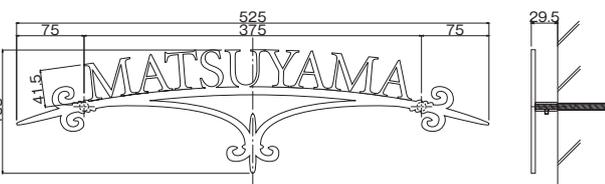
NS-S26



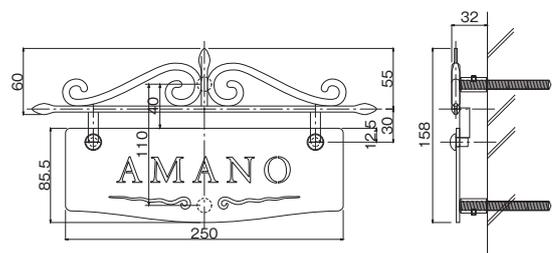
NS-S27



NS-S17

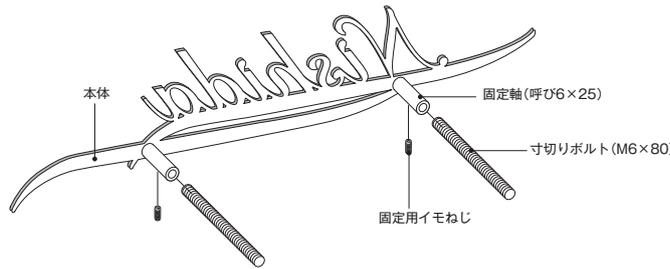


NS-S16



ロートアイアンレーザースサイン

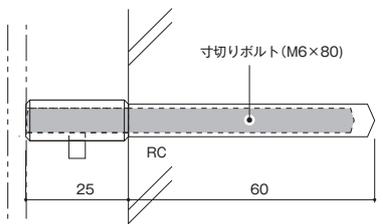
施工要領



1 取付部2ヶ所の指定位置で、壁（RCの場合）に振動ドリルで穴（8φ、深さ60mm以上）を明け、コンクリートボンド（市販品）を注入し、本体を差し込み固定します。

2 最後に固定軸下部のねじ穴に、イモねじを六角棒レンチで締め付け、寸切りボルトを固定します。

基準納まり図



取付ピッチ基準値

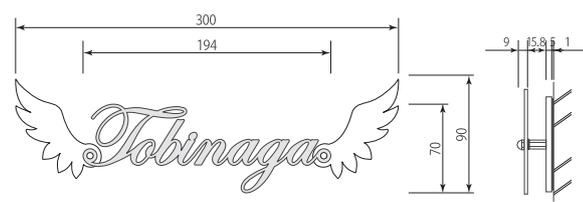
NS-11 (190)	NS-S25 (261)	NS-S33 (100)	NS-S37 (200)
NS-12 (120)	NS-S26 (263.7)	NS-S34 (100)	NS-S38 (200)
NS-S16 (110)	NS-S27 (280)	NS-S35 (100)	
NS-S17 (375)	NS-S31 (120)	NS-S36 (100)	

EAサイン

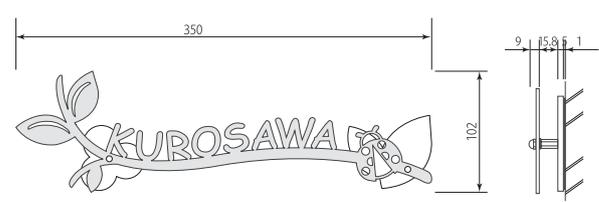
施工要領 寸法図

【EAサインの寸法図】

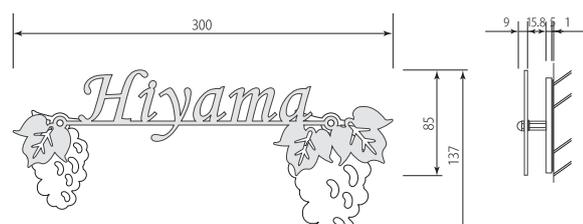
GHEA01



GHEA02



GHEA03



【EAサインの施工要領】

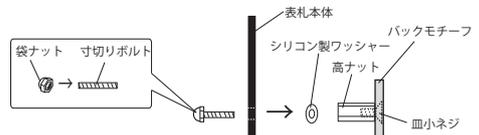


1 表札を組み立てた状態でお送りします。輸送中の振動でネジ等が緩む場合がありますので、袋ナットが緩んでいないか、確認をして下さい。緩んでいる場合は、手で強く締め直して下さい。

2 表札を貼り付ける壁等をタオルなどで拭き、汚れやほこり、油分などを取り除いて下さい。バックモチーフの裏面に両面テープを貼り、壁面に十分に圧着して貼り付けて下さい。

※取付作業の日～翌日は、雨等が降らない日を選んで下さい。
 ※両面テープの種類によっては、両面テープの本来の接着力が得られるまでに、数時間かかる場合があります。その場合は、しばらくは表札をテープなどで壁に固定して下さい。表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。テープを外す時は、表札が壁に固定されているのを確認しながら作業を行って下さい。

お手入れなどで表札を外す時は、下記のイラストを参考に組み立てて下さい。



ファサード

O-moji / Kanji 01 / T-moji / ひとえ / ふたえ / Rink / miel / jelee / konoha / hacorogo / eiji

安全上のご注意

必ずお守り下さい

⚠ 警告

- 正しく施工、取り付けを行うために、施工前に必ず施工説明書をお読み下さい。
- むやみに改造・変更をしないで下さい。

⚠ 施工上のご注意

- 商品に傷をつけないようご注意ください。
お客様がお取り付け中に破損された商品につきましては、商品のお取り替え等の措置は出来かねますのでご了承下さい。
- 不安定な場所に設置しないで下さい。
屋上や高い壁面の上など、商品が落下した場合にケガをする可能性のある高所には設置しないで下さい。
- 通行の妨げになる場所に取り付けを行わないで下さい。
ケガの原因になる恐れがあります。特にお子様がぶつかって事故につながる場所への設置はしないで下さい。
- 壁面の素材が異なりますと取り付け方法も変わります。
状況に合わせて補強を行って下さい。
- ステンレスの切断面に充分ご注意ください。
安全に配慮し処理を施しておりますが、ケガをする場合があります。

⚠ 使用上のご注意

必ずお守り下さい

- ステンレスの切断面に充分ご注意ください。安全に配慮し処理を施しておりますが、ケガをする場合があります。
この商品は意匠性を重視した造形となっておりますので、部分的に繊細な構造になっているところがあります。
- 急激な加重や衝撃を与えないで下さい。変形、破損、落下する恐れがあります。
屋上や高い壁面の上など、商品が落下した場合にケガをする可能性のある高所には設置しないで下さい。
- この商品は壁面より手前に突き出しますので、危険の無いよう充分ご注意ください。
特にお子様がぶつかる危険のないよう、ご留意下さい。
- 塗装の商品に関しては、ステンレスに焼付け塗装を施しておりますので、屋外での使用には耐えますが、摩擦や引っ掻きなどにより塗装面が傷つくことがあります。
また、環境条件により塗装面に変色・シミ・サビ等が生じることがあります。
- ステンレスの表面はクロムと空気中の酸素が結合し薄い皮膜が表面を保護しているためにさびにくい構造となっております。
しかし、ホコリやチリ、鉄粉などが表面に付着したまま放置すると皮膜の再生が妨害され、サビが発生します。
ステンレスの輝きを保つためにはホコリやチリ、鉄粉などをすばやく取り除くことが必要となります。

お手入れ方法

※ステンレス商品のみ(その他素材別紙参照)

砂ぼこり等の汚れは、水で薄めた中性洗剤を布にしみ込ませてお拭き取り下さい。
最後に、水で湿らした布で軽く拭いて下さい。

- ⚠ 汚れを取るために、研磨剤入りのクレンザー等は、本体表面に傷をつける恐れがあるため使用しないで下さい。
シンナー、ベンジン、ワックス、石油、塩素系溶剤等は本体塗装を剥がす恐れがあるため使用しないで下さい。
殺虫剤、ガラスクリーナー、ヘアスプレーなどをかけないで下さい。

付属品

 取付・ 取扱説明書	裏面ねじ穴商品の場合  寸切りボルトφ4 全長40mm	1文字ごとの切り文字の場合  取付用治具用紙 ※実寸商品図面と取付位置の穴が印刷してあります。
---	---	--

用意するもの

 電動ドリル 商品のボルトサイズによって穴直径を調節して下さい。 (ボルトφ3:ドリル刃直径3.5~4mm) (ボルトφ4:ドリル刃直径4.5~5mm)	 接着剤	 養生テープ等	 ペン	 塗装面保護用紙 ※商品の塗装面を保護できるサイズ
---	--	--	---	--

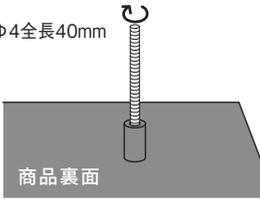
※壁面に適したものをご準備下さい。

壁面に取り付ける I

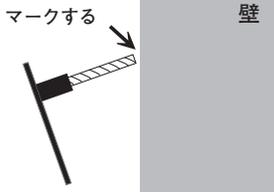
❗ 裏面ねじ穴の商品をご購入のお客様は下記手順より取り付けをお願い致します。

① 付属の寸切りボルトを商品裏面のネジ穴にねじ込み取り付ける。

付属品：
寸切りボルトφ4全長40mm



② 商品を取り付け場所に水平にあてがい、ボルトの位置を油性ペン等で壁面にマークする。

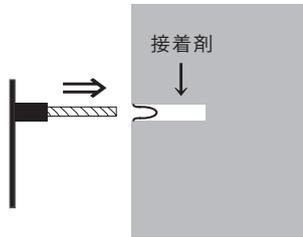


③ マークした位置に電動ドリルで垂直に穴をあける。
(直径4.5~5mm、深さ約35mm以上)



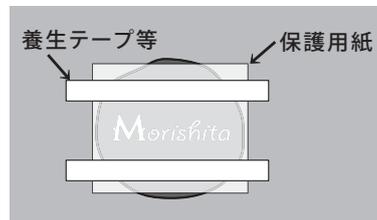
❗ 穴の中のゴミは充分に取り除いて下さい。

④ 壁面の穴に接着剤を注入し、商品のボルトを差し込む。



❗ 接着剤の使用方法は、接着剤の説明書をよく読んでお取り扱い下さい。

⑤ 塗装面を保護し、接着剤が硬化するまで養生テープ等で固定する。

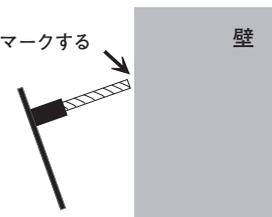


❗ 塗装面に直接養生テープ等を貼らないで下さい。塗装剥がれの原因となります。

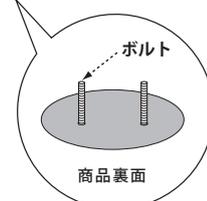
壁面に取り付ける II

❗ 裏面ボルト商品をご購入のお客様は下記手順より取り付けをお願い致します。

① 商品を取り付け場所に水平にあてがい、ボルトの位置を油性ペン等で壁面にマークする。
※商品のボルト径を計測して下さい。



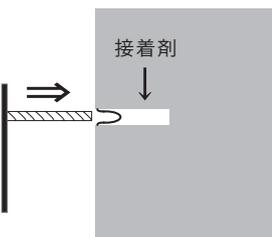
② マークした位置に電動ドリルで垂直に穴をあける。(深さ約35mm以上)



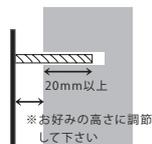
⚠ 商品のボルトサイズによって穴直径を調節して下さい。
(ボルトφ3:ドリル刃直径3.5~4mm)
(ボルトφ4:ドリル刃直径4.5~5mm)

❗ 穴の中のゴミは充分に取り除いて下さい。

③ 壁面の穴に接着剤を注入し、商品のボルトを差し込む。
※付属品にスペーサーがある場合はスペーサーをお使い下さい。

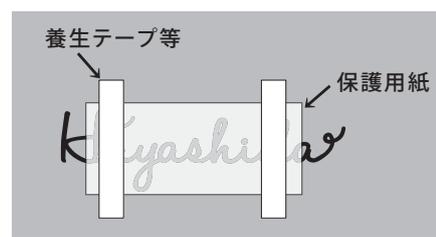


⚠ 接着剤の使用方法は、接着剤の説明書をよく読んでお取り扱い下さい。



❗ ボルトの差し込み量は20mm以上差し込んでください。あとはお好みで高さの調節をして下さい。

④ 塗装面を保護し、接着剤が硬化するまで養生テープ等で固定する。

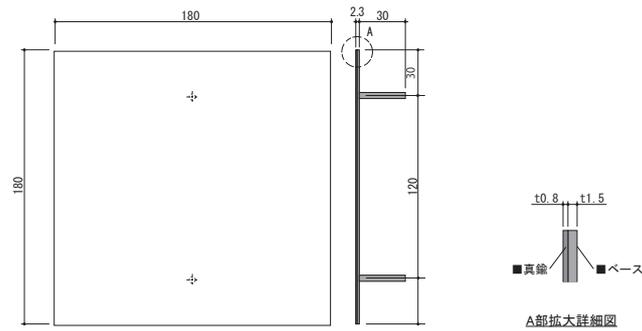


❗ 塗装面に直接養生テープ等を貼らないで下さい。塗装剥がれの原因となります。

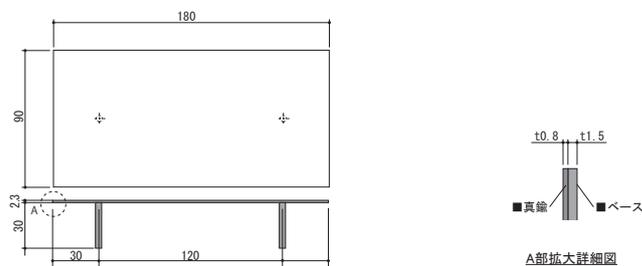
金属（緑青）サイン

施工要領
寸法図
【金属（緑青）サインの寸法図】

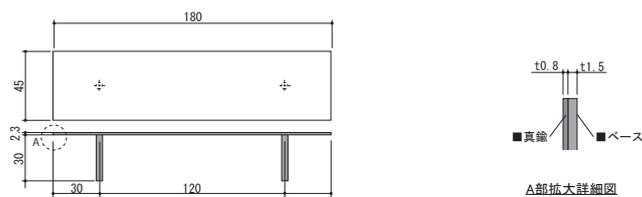
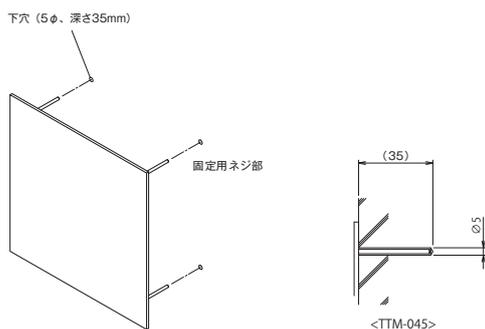
MA-TTM-052/MA-TTM-053



MA-TTM-054/MA-TTM-055



MA-TTM-056/MA-TTM-057


【金属（緑青）サインの施工要領】


- 1 取付け部4ヶ所の指定位置で、壁（RCの場合）に振動ドリルでφ5、深さ35mmの穴をあけ、ダストポンプ等で穴内の切粉を除去します。
- 2 穴内へコンクリートボンド（市販品）を注入し、1で組立てたサイン本体を差し込み固定します。

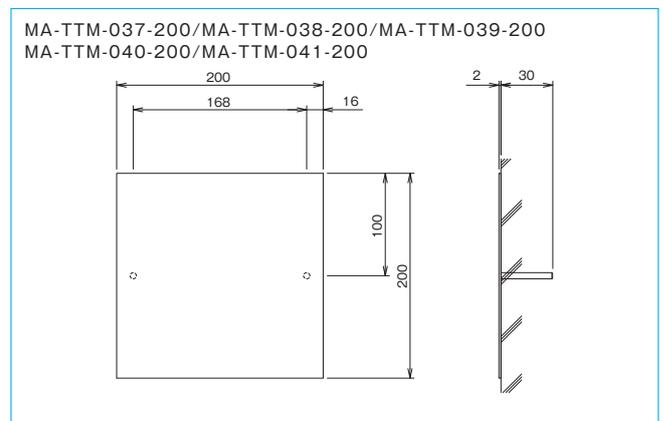
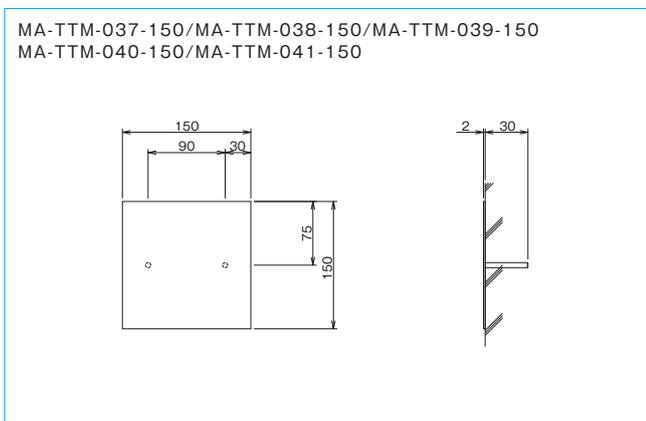
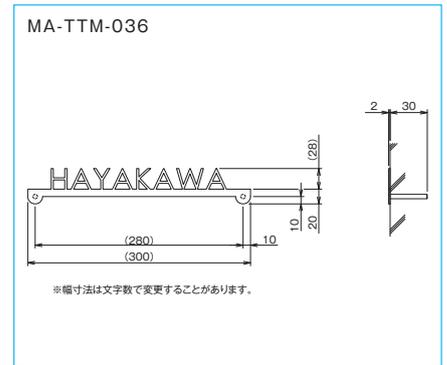
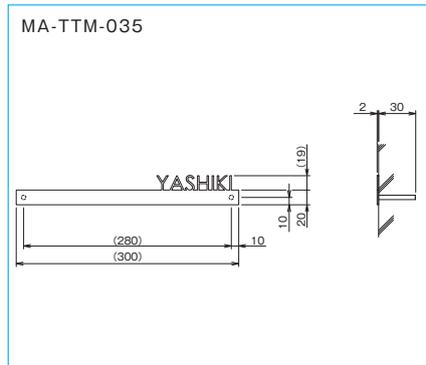
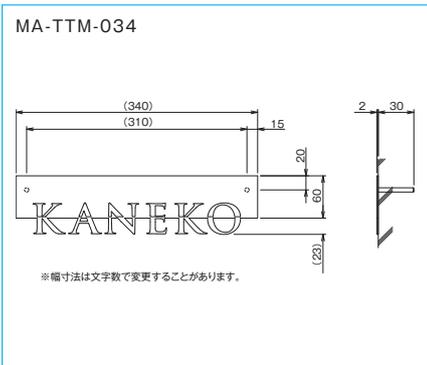
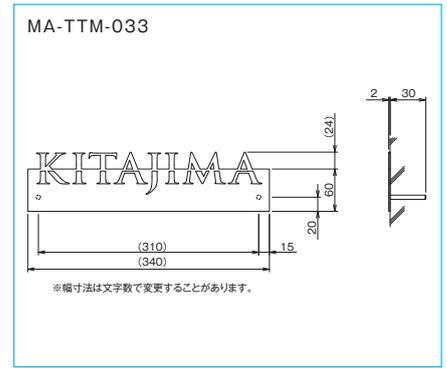
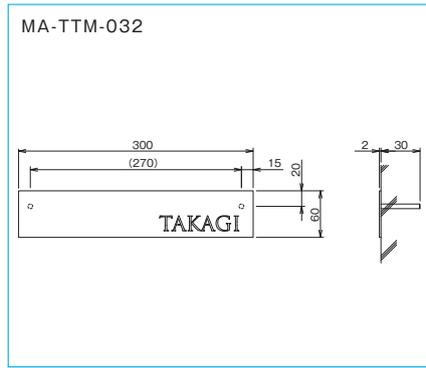
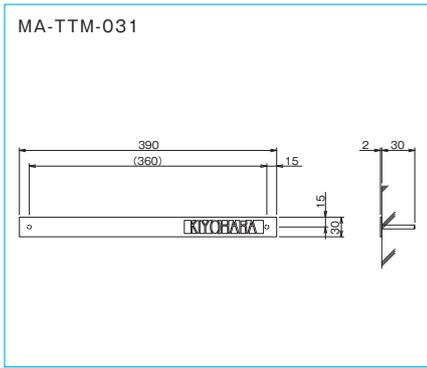
※コンクリートボンドが固まるまではズレる恐れがありますので、テープ等での仮固定をお奨めします。

金属サイン (MAシリーズ)

施工要領

寸法図

【金属サインの寸法図】



【金属サインの施工要領】

- | | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| MA-TTM-031 | MA-TTM-032 | MA-TTM-033 | MA-TTM-034 | MA-TTM-035 | MA-TTM-036 |
| MA-TTM-037-150 | MA-TTM-037-200 | MA-TTM-038-150 | MA-TTM-038-200 | MA-TTM-039-150 | MA-TTM-039-200 |
| MA-TTM-040-150 | MA-TTM-040-200 | MA-TTM-041-150 | MA-TTM-041-200 | | |

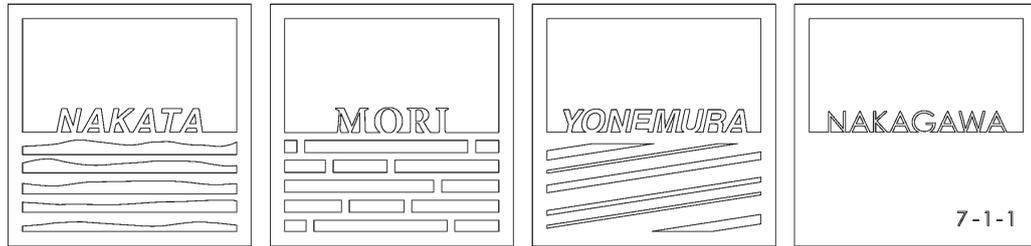
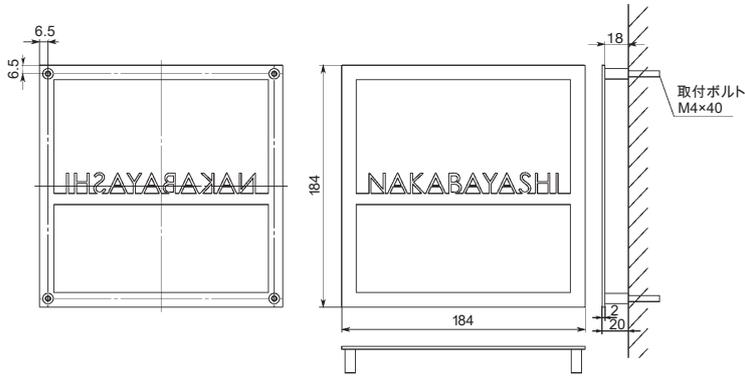
- 取付け部2ヶ所の指定位置で、壁 (RCの場合) に振動ドリルでφ5、深さ35mmの穴をあけ、ダストポンプ等で穴内の切粉を除去します。
- 穴内へコンクリートボンド (市販品) を注入し、サイン本体を差し込み固定します。

※コンクリートボンドが固まるまではズレる恐れがありますので、テープ等での仮固定をお奨めます。

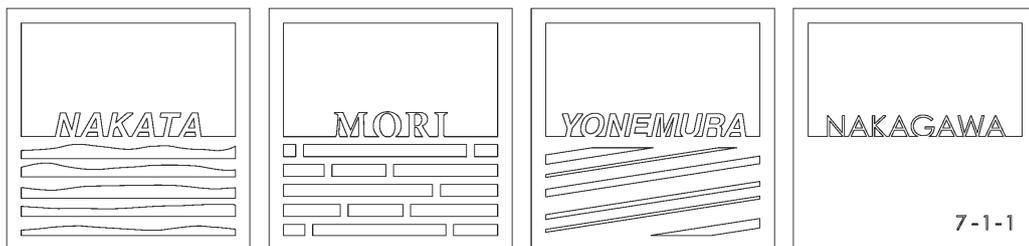
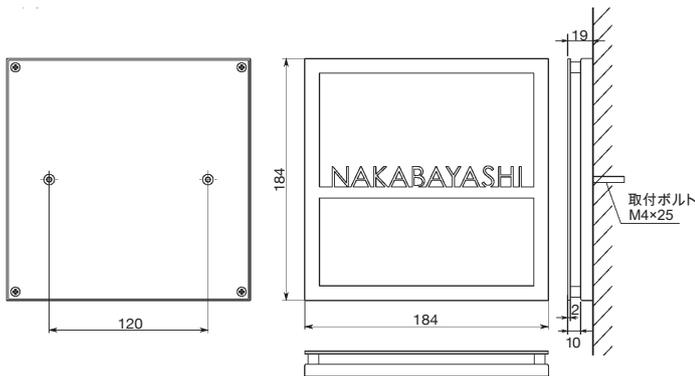
ファサード

フチ

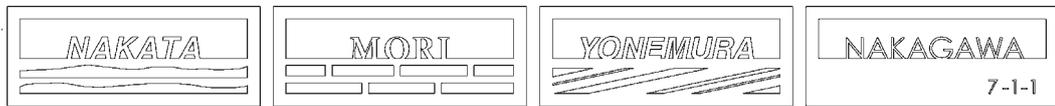
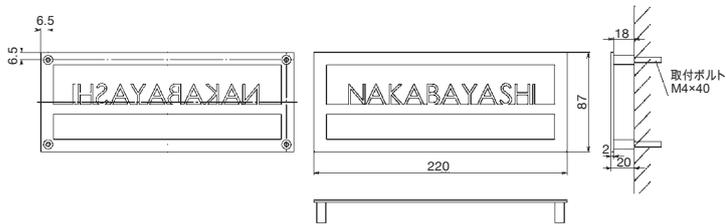
typeA 本体のみ



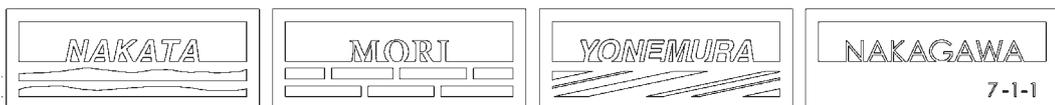
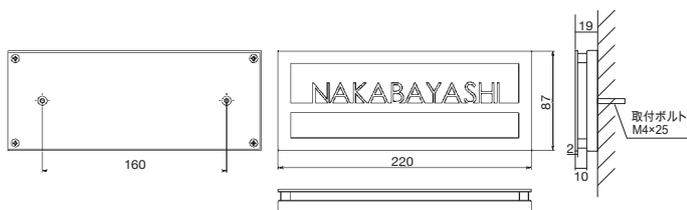
typeA 木目プレート付き



typeB 本体のみ

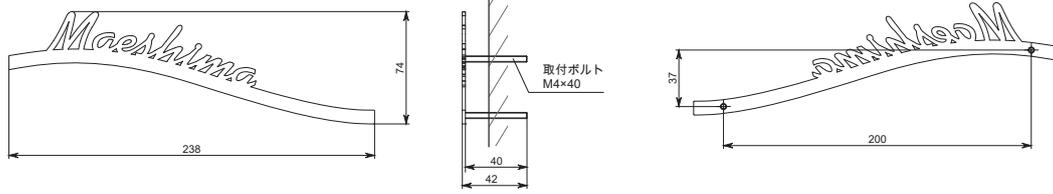


typeB 木目プレート付き

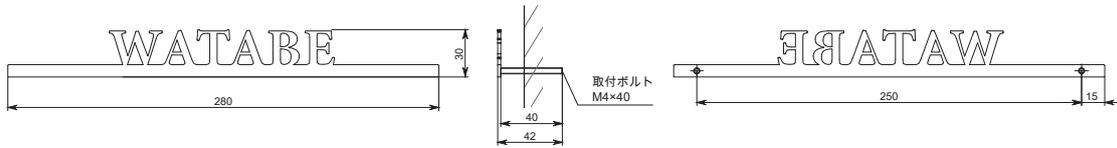


スティッキー

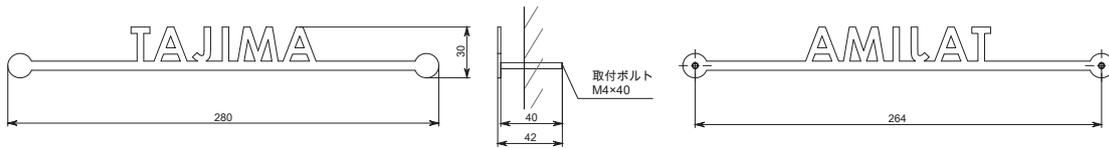
デザインA



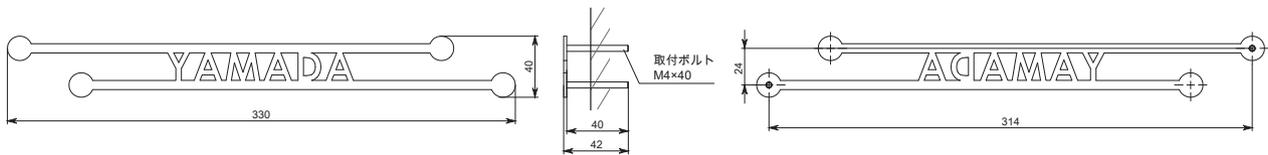
デザインB



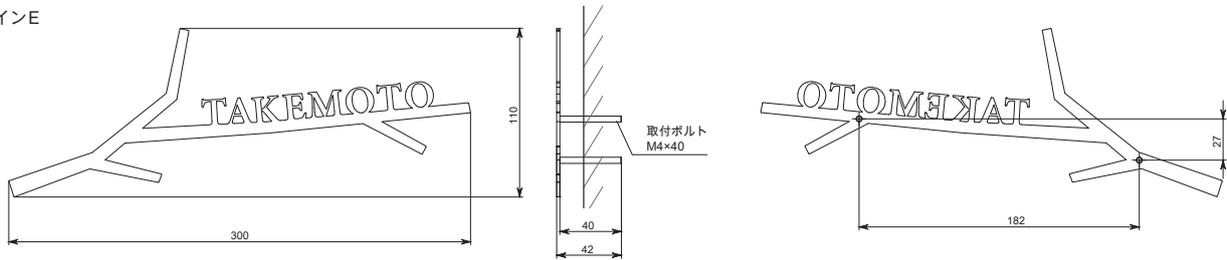
デザインC



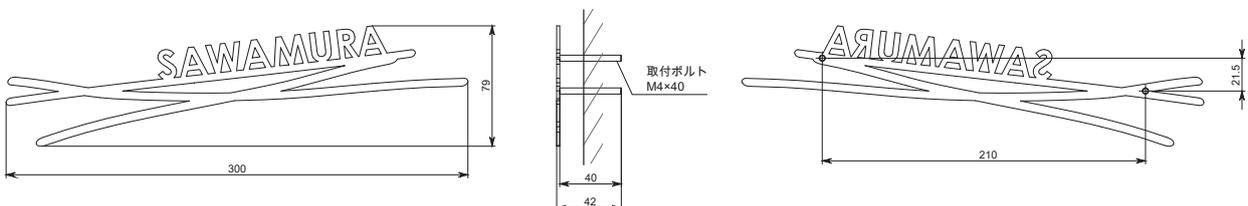
デザインD



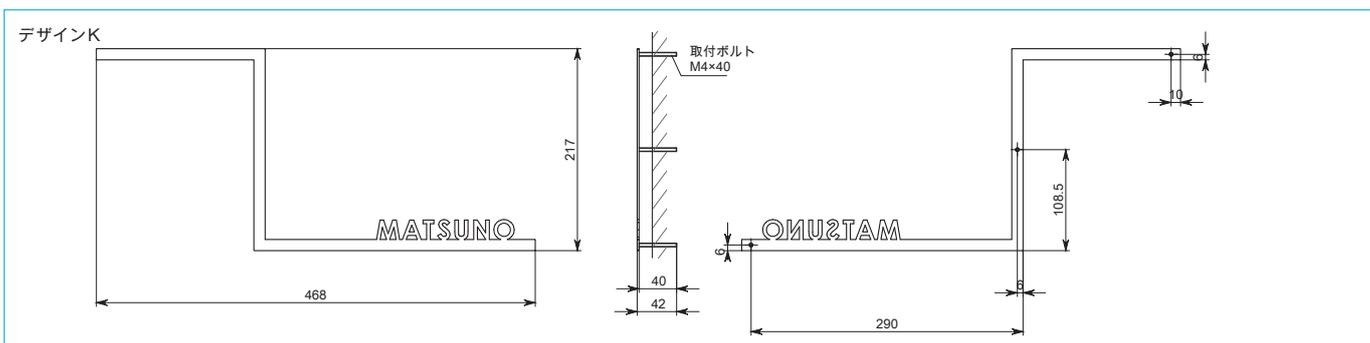
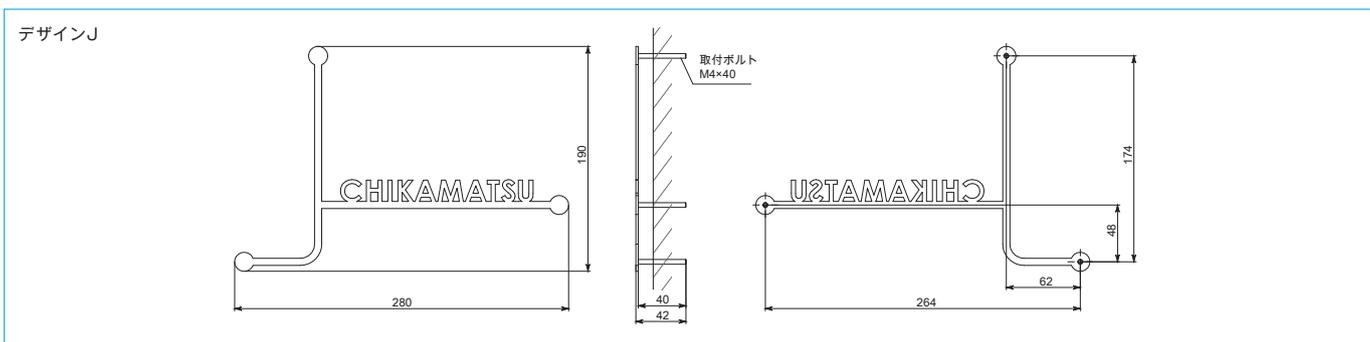
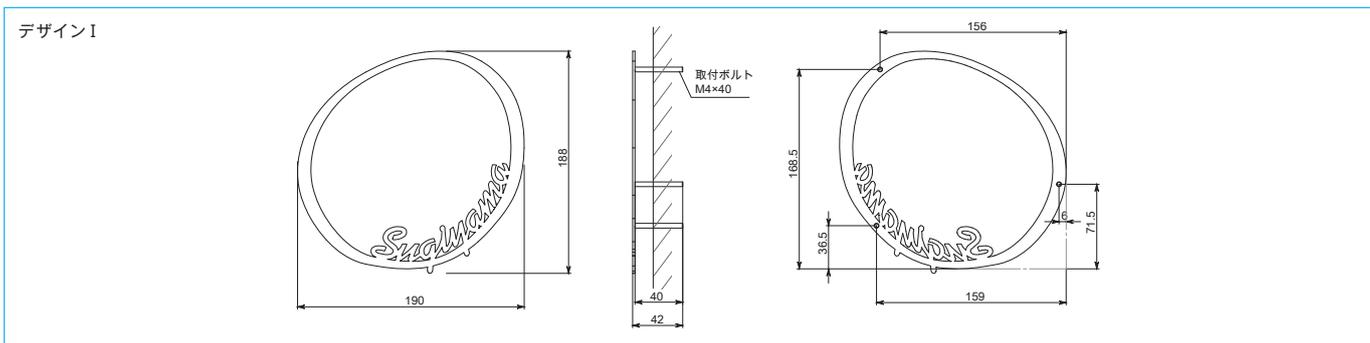
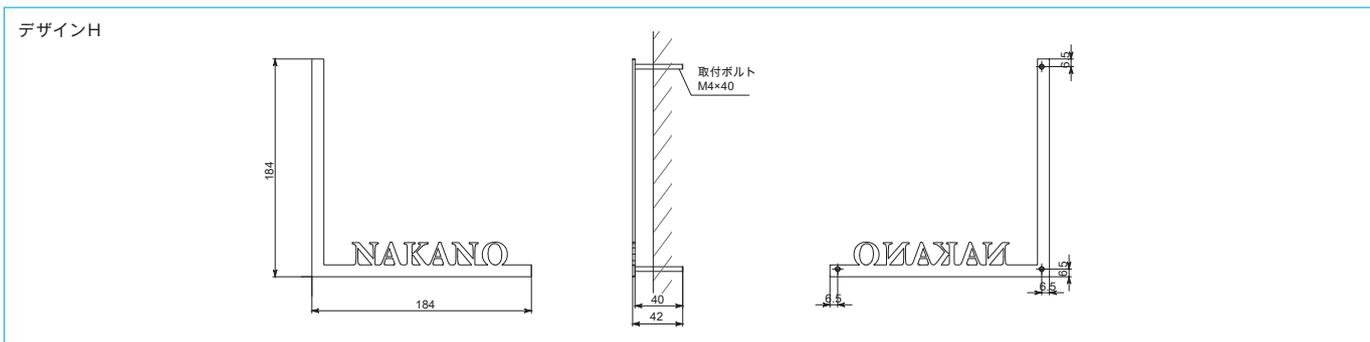
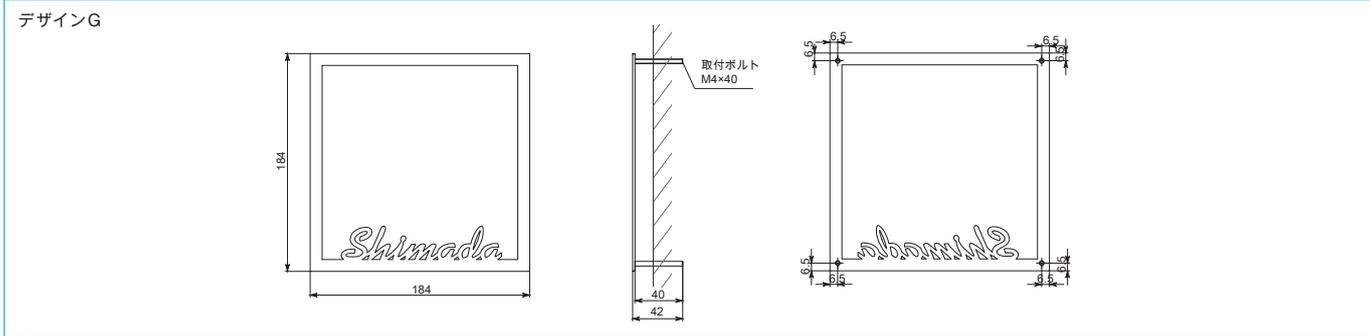
デザインE



デザインF



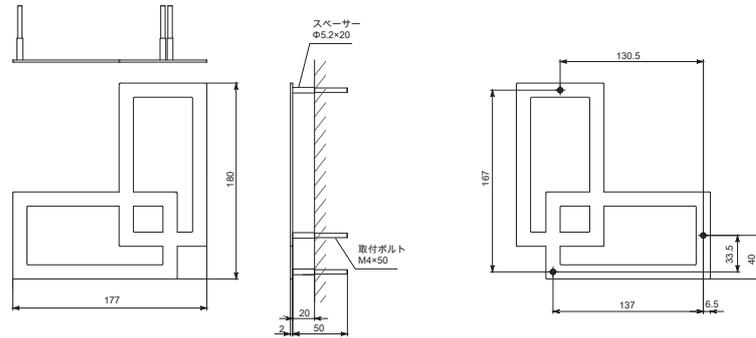
ファサード



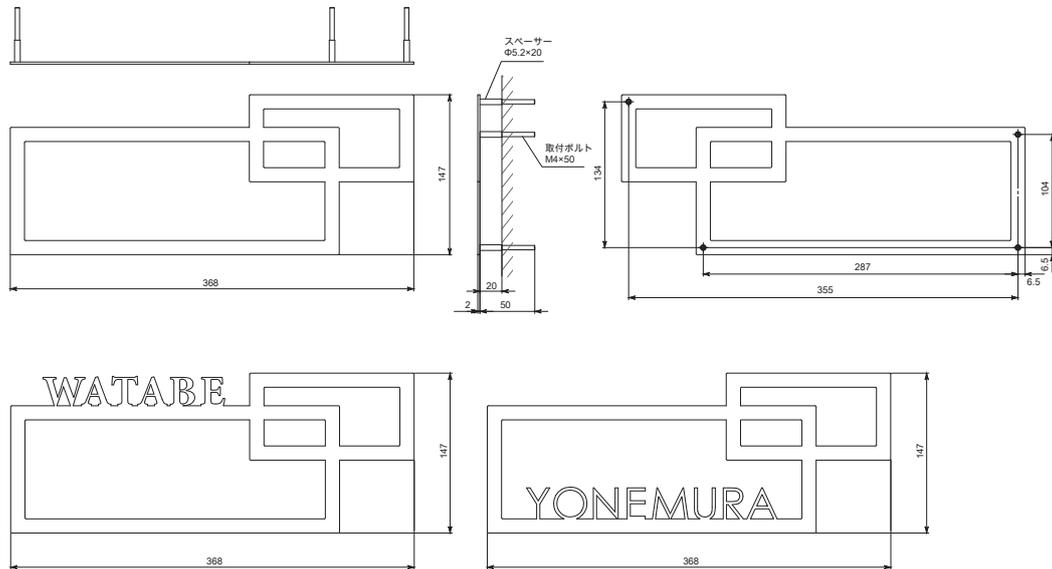
クロワゼ

寸法図

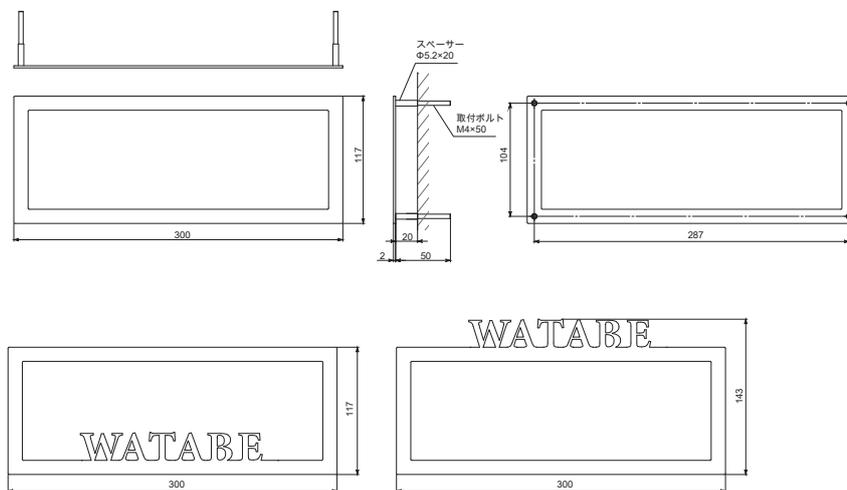
デザインA



デザインB



デザインC



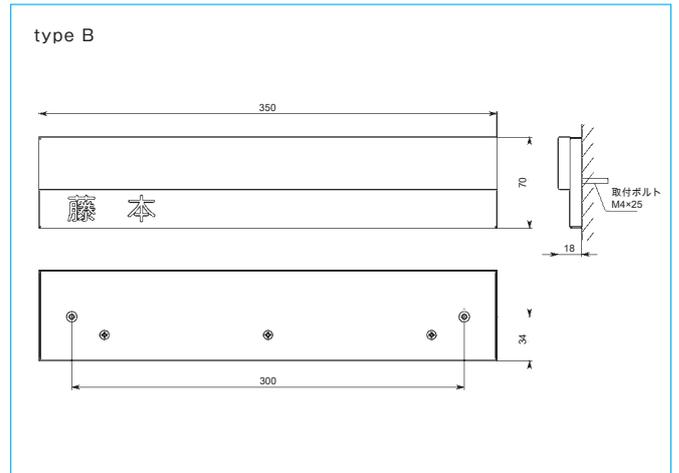
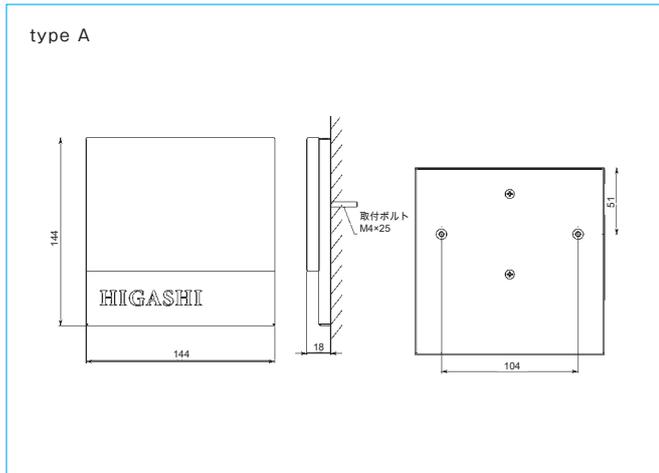
※文字によって高さは異なります

ファサード

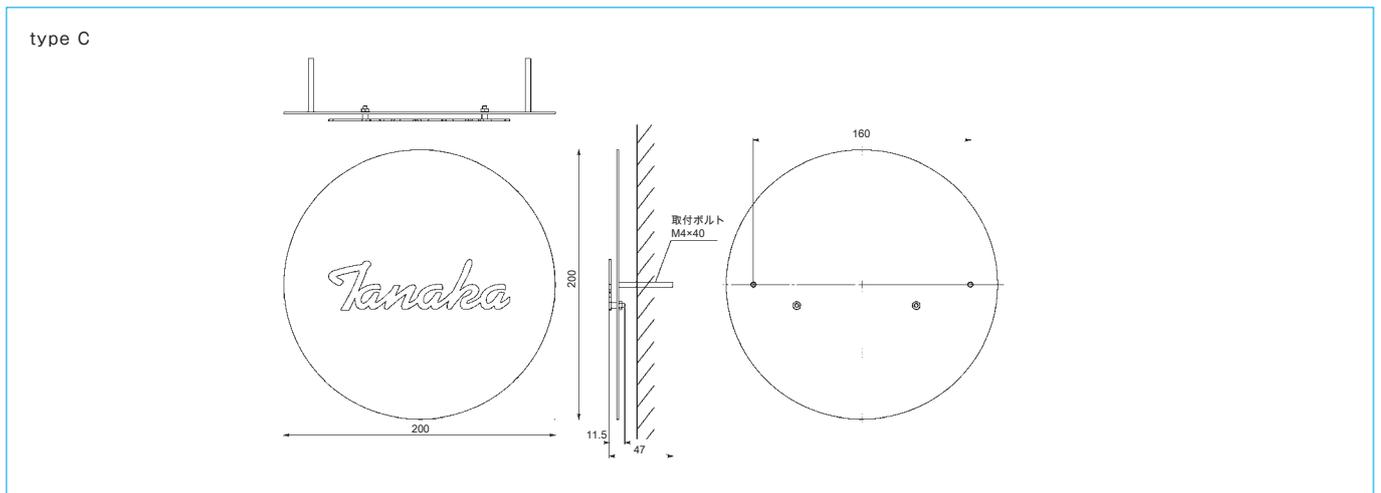
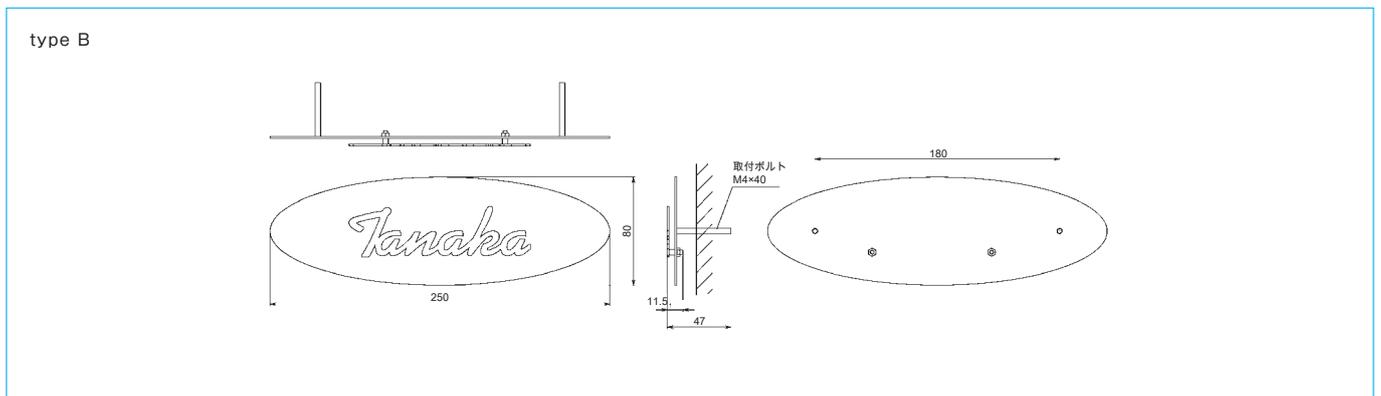
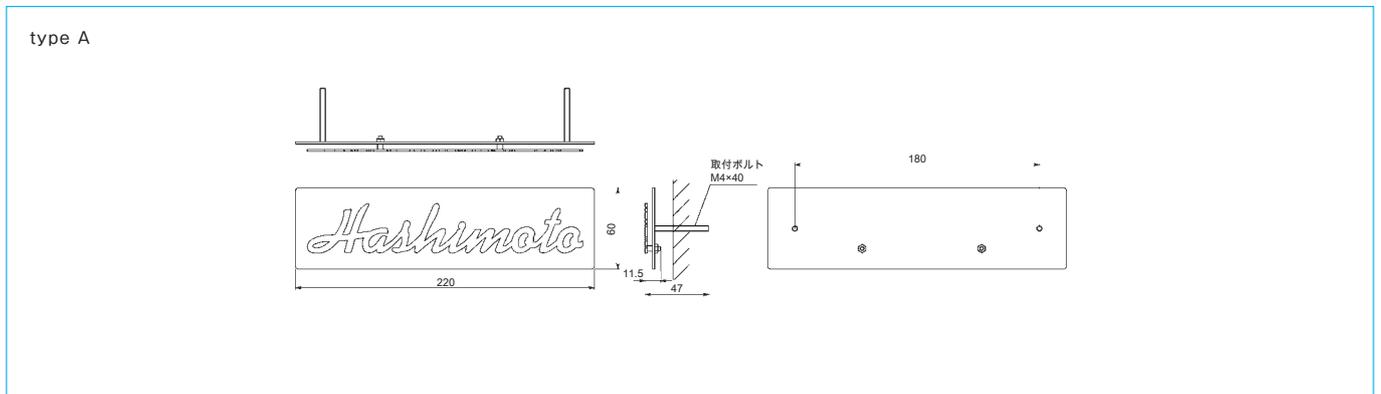
コルポ／トレイス

寸法図

【コルポ】



【トレイス】

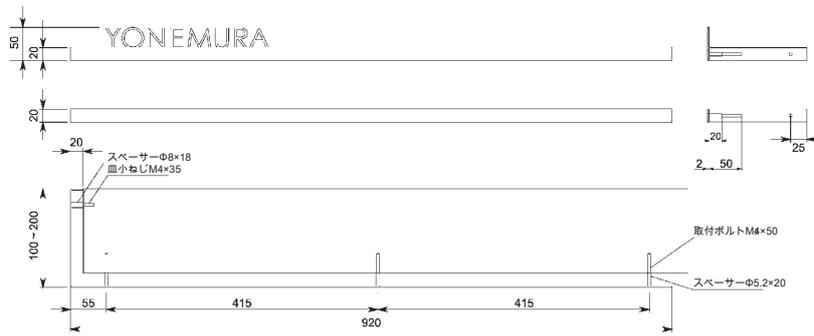


ファサード

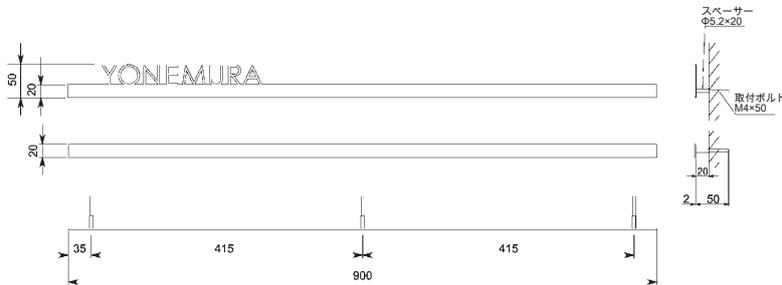
レイ

※サイン付きは文字数によって高さが異なります。

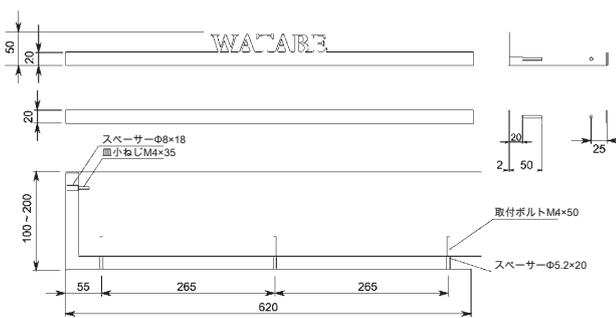
Sサイズコーナー曲げW920



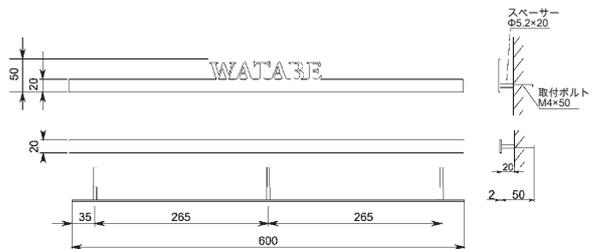
SサイズW900



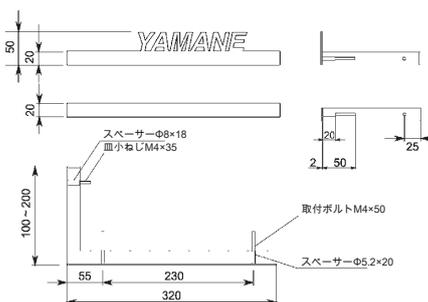
Sサイズコーナー曲げW620



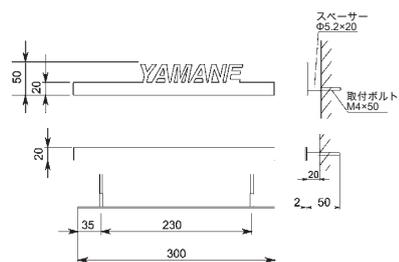
SサイズW600



Sサイズコーナー曲げW320

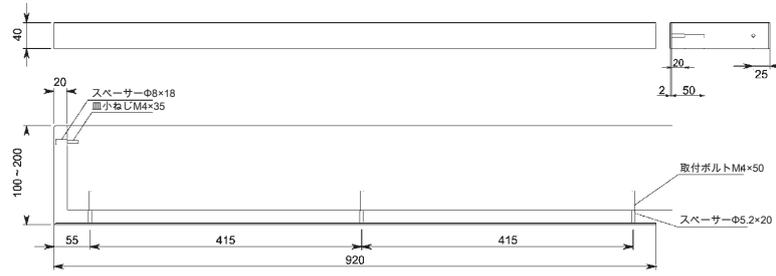


SサイズW300

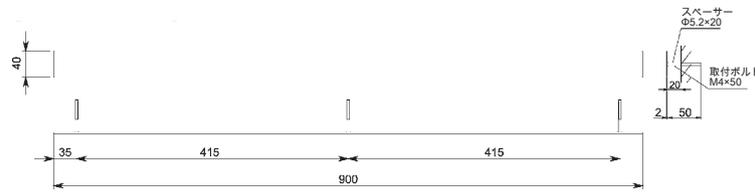


ファサード

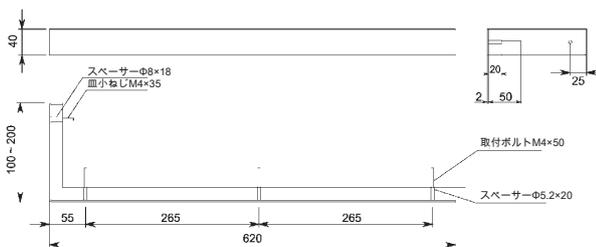
Mサイズコーナー曲げW920



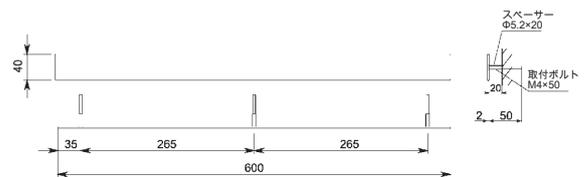
MサイズW900



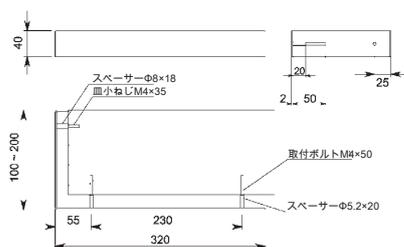
Mサイズコーナー曲げW620



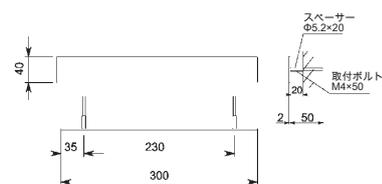
MサイズW600



Mサイズコーナー曲げW320



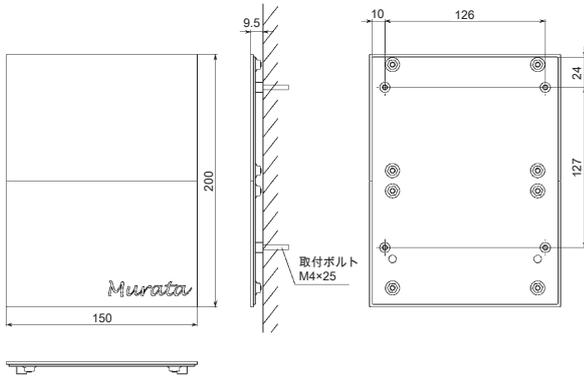
MサイズW300



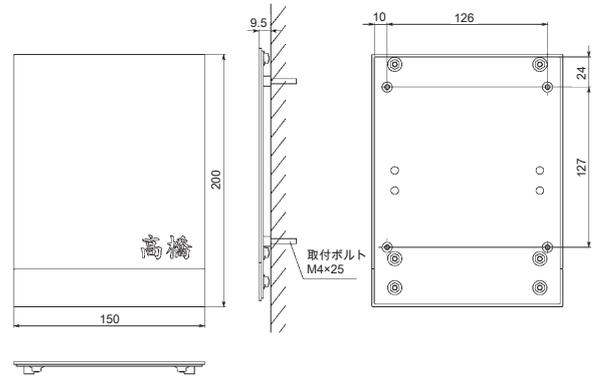
カリダー

寸法図

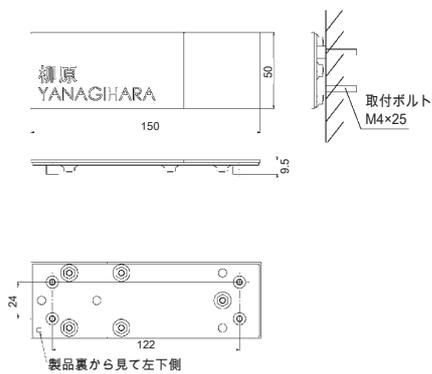
デザインA-1



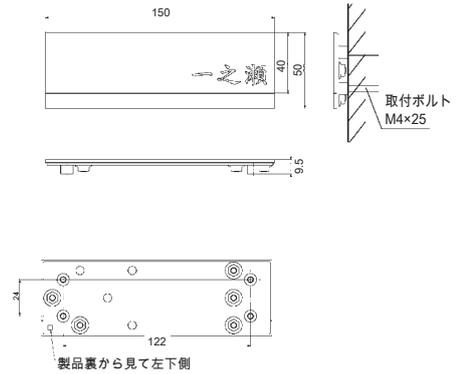
デザインA-2



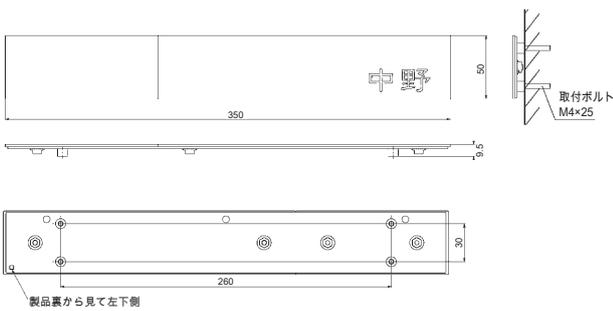
デザインB-1



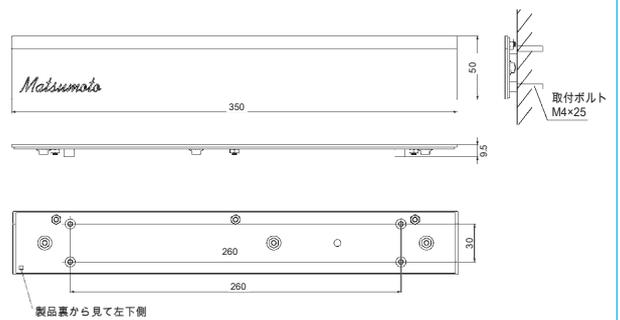
デザインB-2



デザインC-1



デザインC-2

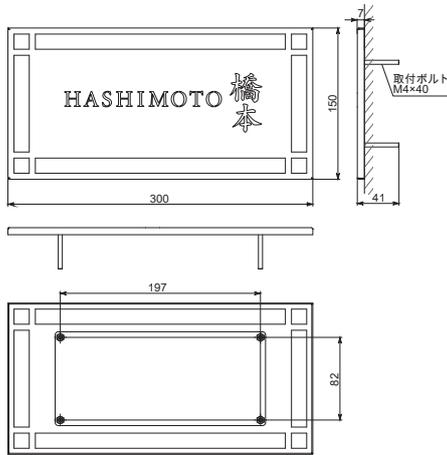


ファサード

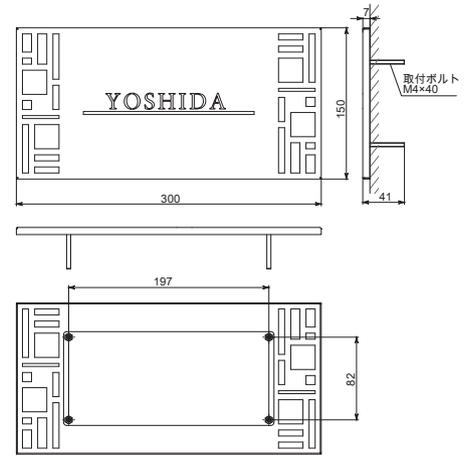
はんなり

寸法図

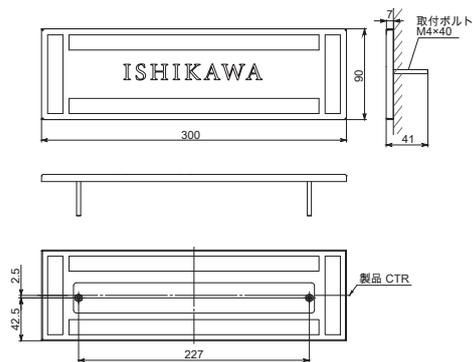
デザインA-1



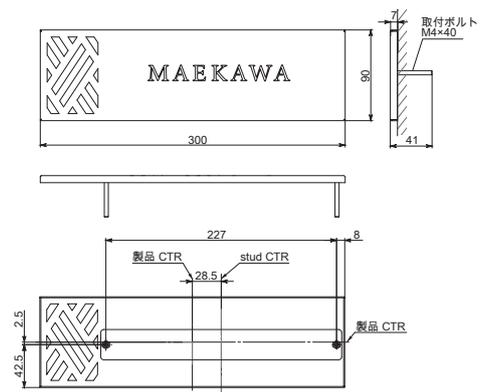
デザインA-2



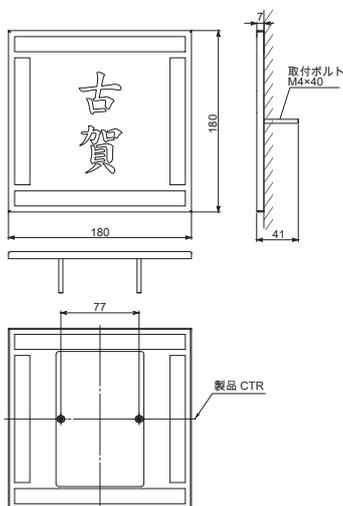
デザインB-1



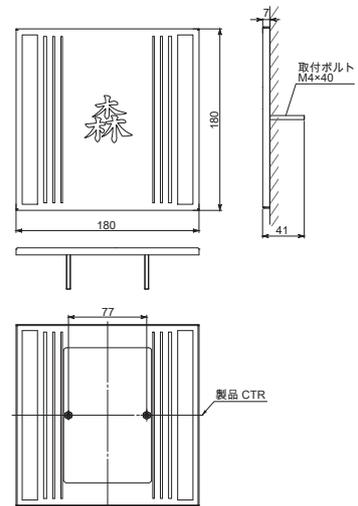
デザインB-2



デザインC-1



デザインC-2



ファサード

コルポ／カリダー／フチ／スティッキー

施工要領

【コルポ(全2タイプ)・カリダー(全3タイプ 各2デザイン)・フチ(本体のみ:全2タイプ 各5デザイン、木目プレート付き:全2タイプ 各5デザイン)・スティッキーのオプションtype1(木目プレート)】

※スティッキーのデザインG・Hとオプションtype1の組み合わせで購入される場合はこちらの施工方法ではなくP157の施工方法になります。

■ 取扱方法

用意するもの

■ ペン等

■ 電動ドリル
ドリル刃直径
4.5～5mm

■ 接着剤
壁面に適応したものを別途ご購入ください。

■ 養生テープ等

1

付属の寸切りボルトを表札裏面のねじ穴にねじ込んで取り付けます。ゆるみがないようにご注意ください。

2

壁面の汚れや付着物を落とし、取り付け場所に表札が傾かないよう水平にあてがいます。ボルトの位置をペン等で壁面にマークします。

3

マークした位置にドリルで垂直に穴をあけます。表札を壁から浮かしたい距離になるよう調整しながら穴を開けて下さい。(直径4.5～5mm、深さ25mm以上)
穴の中のゴミは充分に取り除きます。

4

壁面の穴に接着剤を注入し、表札のボルトを差し込みます。
(接着剤の使用方法は、接着剤の説明書をよく読んでお取り扱い下さい。)

5

表札の表面を保護してから、養生テープ等で固定します。接着剤が完全に硬化したら、テープを剥がします。
塗装部分に直接テープを貼らないで下さい。塗装剥がれの原因となります。

■ 取扱注意

- 取付作業は、施工業者等のプロにお任せすることをお勧めします。
- この商品は無理な荷重・衝撃・落下により破損する可能性がありますので、取り扱いにはご注意ください。
- 金属の切断面には充分ご注意ください。安全に配慮した処理を施しておりますが、ケガをする場合があります。取り付けをする際は保護用手袋を着用し、注意して作業を行なって下さい。
- 塗装部分に関しては、金属に焼付塗装を施しております。摩擦や引っ掻き等により塗装部分が傷つくことがありますので、取り扱いにはご注意ください。環境条件によっては、塗装部分に変色・シミ・錆等が生じることがあります。
- ステンレスは錆に強い金属ですが、絶対に錆びない素材ではありません。特に塩害環境に厳しい地域では錆びやすくなりますので、取付環境には充分ご注意ください。
- 分解・改造・用途以外の使用は絶対にしないで下さい。ケガ・事故の原因となります。
- 商品に傷をつけないようご注意ください。お客様が施工中に破損された場合は、商品の取り替え等の措置は出来かねますので、ご了承下さい。
- 取付面の凹凸が大きい場合は、平らに補正して下さい。凹凸が大きいと落下の原因となります。
- この商品は壁面より手前へ突き出しますので、お子様がぶつかる危険の無いようご注意ください。
- 隙間に手や指を入れないよう、ご注意ください。
- 商品に寄り掛かったり、ぶら下がったり、過度の荷重をかけないで下さい。ケガ・事故の原因となります。
- 火気を近づけないで下さい。変色・塗装剥がれの原因となります。
- 各部のネジのゆるみがないか確認して下さい。
- 取付完了後、商品が確実に固定されていることをご確認ください。
- 商品を廃棄される場合はお住まいの地域の取り決めに基づいた処理をお願いします。

■ お手入れ方法

- 付着した汚れは、柔らかい布で水拭きをした後、柔らかい乾いた布で水分を充分に拭き取って下さい。拭き取る際は、キズがつかないようにご注意ください。ヘアラインの場合は、目に沿って拭くようにして下さい。
- 汚れが目立つ際は、水で薄めた中性洗剤で拭き、充分に水拭きを行なって下さい。
- ゴミなどの付着物を放置すると錆発生の原因となりますので、定期的な水で洗い流す事をおすすめします。
- 海水などの塩分を含んだものが付着した際は、水で洗い流し、充分に拭き取って下さい。
- ステンレスは錆に強い金属ですが、絶対に錆びない素材ではありません。特に塩害環境に厳しい地域では錆びやすくなります。ご了承下さい。また、鉄粉など表面に付着したまま放置すると錆が発生しますので、必ず拭き取るようにして下さい。
- ステンレスの切断面は、安全に配慮し処理を施していますが、ケガをする場合がありますので素手で触れない様、充分ご注意ください。
- お手入れの際、研磨剤入りのクレンザー等は、本体表面に傷をつける恐れがあるため使用しないで下さい。
- シンナー、ベンジン、ワックス、石油、塩素系溶剤等は塗装を剥がす恐れがあるため使用しないで下さい。
- 殺虫剤、ガラスクリーナー、ヘアスプレーなどをかけないで下さい。

ファサード

スティッキー／はんなり／トレイス

施工要領

【スティッキー（表札全11デザイン、オプションtype2-A・2-B、デザインG+オプション1、デザインH+オプション1）
はんなり（全3タイプ各2デザイン）・トレイス（全3タイプ）】

■ 取扱方法

用意するもの

■ ペン等

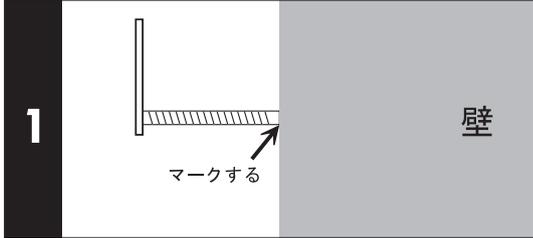
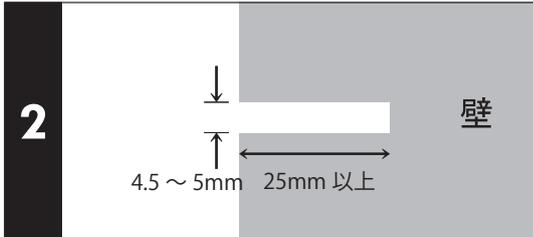
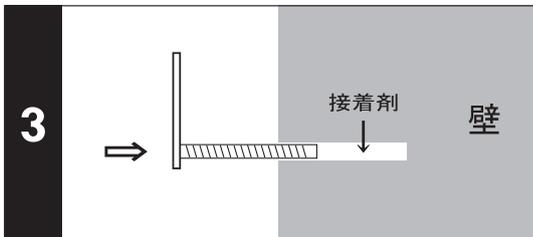
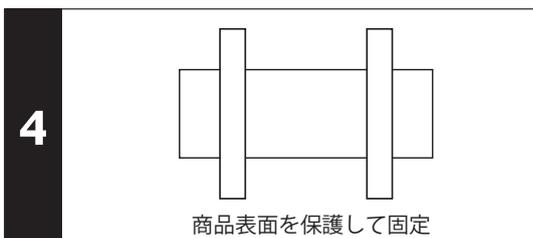
■ 電動ドリル

ドリル刃直径
4.5～5mm

■ 接着剤

壁面に適したものを別途ご購入ください。

■ 養生テープ等

1		<p>壁面の汚れや付着物を落とします。 取付場所に表札を<u>水平</u>にあてがい、ボルト位置をペン等で壁面にマークします。</p>
2		<p>マークした位置にドリルで<u>垂直</u>に穴をあけます。表札を壁から浮かしたい距離になるよう調節しながら穴を開けて下さい。(直径4.5～5mm、深さ25mm以上) 穴の中のゴミは充分に取り除きます。</p>
3		<p>穴に接着剤を注入し、ボルトを20mm以上さし込みます。 ※接着剤は別途ご購入ください。使用方法は接着剤の説明書をよくお読み下さい。</p>
4		<p>商品表面を保護し、養生テープ等で固定します。 接着剤が完全に硬化したら、養生テープ等を剥がします。 ※塗装面に直接テープを貼らないで下さい。 塗装剥がれの原因となります。</p>

■ 取扱注意

- 取付作業は、施工業者等のプロにお任せすることをお勧めします。
- この商品は無理な荷重・衝撃・落下により破損する可能性がありますので、取り扱いにはご注意ください。
- 金属の切断面には充分ご注意ください。安全に配慮した処理を施しておりますが、ケガをする場合があります。取り付けをする際は保護用手袋を着用し、注意して作業を行なって下さい。
- 塗装部分に関しては、金属に焼付塗装を施しております。摩擦や引っ掻き等により塗装部分が傷つくことがありますので、取り扱いにはご注意ください。環境条件によっては、塗装部分に変色・シミ・錆等が生じることがあります。
- ステンレスは錆に強い金属ですが、絶対に錆びない素材ではありません。特に塩害環境に厳しい地域では錆びやすくなりますので、取付環境には充分ご注意ください。
- 分解・改造・用途以外の使用は絶対にしないで下さい。ケガ・事故の原因となります。
- 商品に傷をつけないようご注意ください。お客様が施工中に破損された場合は、商品の取り替え等の措置は出来かねますので、ご了承下さい。
- 取付面の凸凹が大きい場合は、平らに補正して下さい。凹凸が大きいと落下の原因となります。
- この商品は壁面より手前へ突き出しますので、お子様がぶつかる危険の無いようご注意ください。
- 隙間に手や指を入れないよう、ご注意ください。
- 商品に寄り掛かったり、ぶら下がったり、過度の荷重をかけないで下さい。ケガ・事故の原因となります。
- 火気を近づけないで下さい。変色・塗装剥がれの原因となります。
- 取付完了後、商品が確実に固定されていることをご確認ください。
- 商品を廃棄される場合はお住まいの地域の取り決めに基づいた処理をお願いします。

■ お手入れ方法

- 付着した汚れは、柔らかい布で水拭きをした後、柔らかい乾いた布で水分を充分に拭き取って下さい。拭き取る際は、キズがつかないようにご注意ください。ヘアラインの場合は、目に沿って拭くようにして下さい。
- 汚れが目立つ際は、水で薄めた中性洗剤で拭き、充分に水拭きを行なって下さい。
- ゴミなどの付着物を放置すると錆発生の原因となりますので、定期的に水で洗い流す事をおすすめします。
- 海水などの塩分を含んだものが付着した際は、水で洗い流し、充分に拭き取って下さい。
- ステンレスは錆に強い金属ですが、絶対に錆びない素材ではありません。特に塩害環境に厳しい地域では錆びやすくなります。ご了承下さい。また、鉄粉など表面に付着したまま放置すると錆が発生しますので、必ず拭き取るようにして下さい。
- ステンレスの切断面は、安全に配慮し処理を施していますが、ケガをする場合がありますので素手で触れない様、充分ご注意ください。
- お手入れの際、研磨剤入りのクレンザー等は、本体表面に傷をつける恐れがあるため使用しないで下さい。
- シンナー、ベンジン、ワックス、石油、塩素系溶剤等は塗装を剥がす恐れがあるため使用しないで下さい。
- 殺虫剤、ガラスクリーナー、ヘアスプレーなどをかけないで下さい。

クロワゼ／レイ

【クロワゼ(全3タイプ、サイン付き)・レイ(全2タイプ 各3サイズ、サイン付き)】

■ 取扱方法

用意するもの

■ ペン等

■ 電動ドリル
ドリル刃直径
4.5～5mm

■ 接着剤

壁面に適したものを別途ご購入ください。

■ 養生テープ等

付属品

■ スペーサー (Φ5.2×20)

※商品の取付前に
ボルトにはめてください。

【製品を交差させるなど
取り付けの高さを調整した
施工を行う場合はス
ペーサーは不要です。】

1	<p>マークする</p>	<p>壁面の汚れや付着物を落とします。 取付場所に商品をあてがい、ボルト位置をペン等で壁面にマークします。</p>
2	<p>4.5～5mm 約30mm</p>	<p>マークした位置にドリルで<u>垂直</u>に穴をあけます。 (直径4.5～5mm、深さ約30mm) 穴の中のゴミは<u>充分</u>に取り除きます。 ※ 製品を交差させるなど取り付けの高さを調整した施工をされる場合は穴の深さを約25mm以上にします。</p>
3	<p>接着剤</p>	<p>穴に接着剤を注入します。表札のボルトに付属のスペーサーをはめ、壁の穴に差し込みます。 ※ 製品を交差させるなど取り付けの高さを調整した施工をされる場合はスペーサーは不要です。 ※ 接着剤は別途ご購入ください。使用方法は、接着剤の説明書をよくお読みください。</p>
4	<p>養生テープ等</p>	<p>商品表面を保護してから養生テープ等で固定します。接着剤が完全に硬化したら、テープを剥がします。 ※ 塗装面に直接テープを貼らないでください。塗装剥がれの原因となります。</p>

■ 取扱注意

- この商品は、意匠性を重視した造形となっておりますので、部分的に繊細な構造になっているところがあります。無理な荷重や衝撃により変形・破損の可能性がありますので、お取り扱いにご注意ください。
- ステンレスの切断面に充分ご注意ください。安全に配慮し処理を施しておりますが、ケガをする場合があります。
- 通行の妨げになる場所に取り付けしないでください。ケガの原因になる恐れがあります。
- お客様がお取り付け中に破損された商品につきましては、商品のお取り替え等の措置は出来かねますのでご了承ください。
- 塗装の商品に関しては、ステンレスに焼付塗装を施しておりますので屋外での使用には耐えますが、摩擦や引っ掻き等により塗装面が傷つくことがあります。また、環境条件等により、塗装面に変色・染み等が生じる場合があります。

■ お手入れ方法

- 付着した汚れは、柔らかい布で水拭きをした後、柔らかい乾いた布で水分を十分に拭き取ってください。汚れが多い場合は、水で薄めた中性洗剤で拭き、十分に水拭きを行ってください。
- 研磨剤入りのクレンザー等は、商品表面を傷つける恐れがあるため使用しないでください。
 - シンナー、ベンジン、ワックス、石油、塩素系溶剤等は使用しないでください。
 - 殺虫剤、ガラスクリーナー、ヘアスプレーなどをかけないでください。

レイ

施工要領

【レイのコーナー曲げオプション】

■ 取付前に

■ 用意するもの

■ ペン等

■ 電動ドリル

ドリル刃直径

正面壁用：4.5～5mm

側面壁用：7～7.5mm

■ 接着剤

壁面に適応したものを別途ご購入ください。

■ 養生テープ等

■ 付属品

■ スペーサー 1個
(Φ8×18)

■ アンカープラグ 1個
(Φ7×18)

■ 皿小ねじ 1個
(M4×35)

■ スペーサー
(Φ5.2×20)

※商品の取付前にボルトにはめてください。
【製品を交差させるなど取り付けの高さを調整した施工を行う場合はスペーサーは不要です。】

1	2	3
<p>側面 正面</p> <p>ボルト 押し込み分</p> <p>ボルト</p> <p>25mm</p>	<p>正面</p> <p>直径4.5～5mmの穴</p>	<p>側面 正面</p> <p>直径7～7.5mm 深さ20mmの穴</p> <p>アンカープラグ (Φ7×18)</p>
<p>壁面の汚れや付着物を落とします。取付場所に商品をあてがい、ボルト位置をペン等で壁面にマークします。</p> <p>コーナー部分の穴の位置は、小さい曲げの端から穴の中心まで25mm、ボルトが出ている部分と水平になります。ボルトの押し込み分を考慮して印を付けます。</p>	<p>まず正面壁のマークした位置にドリルで垂直に穴をあけます。穴の中のゴミは充分に取り除きます。</p> <p>(★正面壁：直径4.5～5mmで深さ約30mm)</p> <p>※製品を交差させるなど取り付けの高さを調整した施工をされる場合は穴の深さを約25mm以上にします。</p> <p>★正面壁と側面壁それぞれにあける穴の直径と深さが異なります。お気を付けてください。</p>	<p>側面壁も同様にマークした位置にドリルで垂直に穴をあけます。穴の中のゴミは充分に取り除きます。</p> <p>(★側面壁：直径7～7.5mmで深さ約20mm)</p> <p>正面壁の穴に接着剤を注入し、側面壁の穴にはアンカープラグを差し込みます。</p> <p>※接着剤は別途ご購入ください。使用方法は、接着剤の説明書をよくお読みください。</p>
4	5	6
<p>側面</p> <p>アンカープラグ (Φ7×18)</p>	<p>正面</p>	<p>側面 正面</p> <p>スペーサー (Φ8×18)</p> <p>皿小ねじ (M4×35)</p>
<p>アンカープラグのボルトを締め込み、アンカーを広げ固定します。締め込んだボルトは取り外します。</p> <p>※付属のアンカープラグが壁面の材質に合わない場合や、特殊な取り付けをされる場合は、専門店でご適切なものをお買い求めください。</p>	<p>表札のボルトに付属のスペーサー(Φ5.2×20)をはめ、壁の穴に差し込みます。</p> <p>※製品を交差させるなど取り付けの高さを調整した施工をされる場合はスペーサーは不要です。</p>	<p>コーナー部分は側面用のスペーサー(Φ8×18)を製品の穴位置裏面にあてがい、皿小ねじで取り付けます。</p> <p>商品表面を保護してから養生テープ等で固定します。接着剤が完全に硬化したら、テープを剥がします。</p> <p>※塗装面に直接テープを貼らないでください。</p>

■ 取扱注意

- この商品は、意匠性を重視した造形となっておりますので、部分的に繊細な構造になっているところがあります。無理な荷重や衝撃により変形・破損の可能性がありますので、お取り扱いにご注意ください。
- ステンレスの切断面に充分ご注意ください。安全に配慮し処理を施しておりますが、ケガをする場合があります。
- 通行の妨げになる場所に取り付けしないでください。ケガの原因になる恐れがあります。
- お客様がお取り付け中に破損された商品につきましては、商品のお取り替え等の措置は出来かねますのでご了承ください。
- 塗装の商品に関しては、ステンレスに焼付塗装を施しておりますので屋外での使用には耐えますが、摩擦や引っ掻き等により塗装面が傷つくことがあります。また、環境条件等により、塗装面に変色・染み等が生じる場合があります。

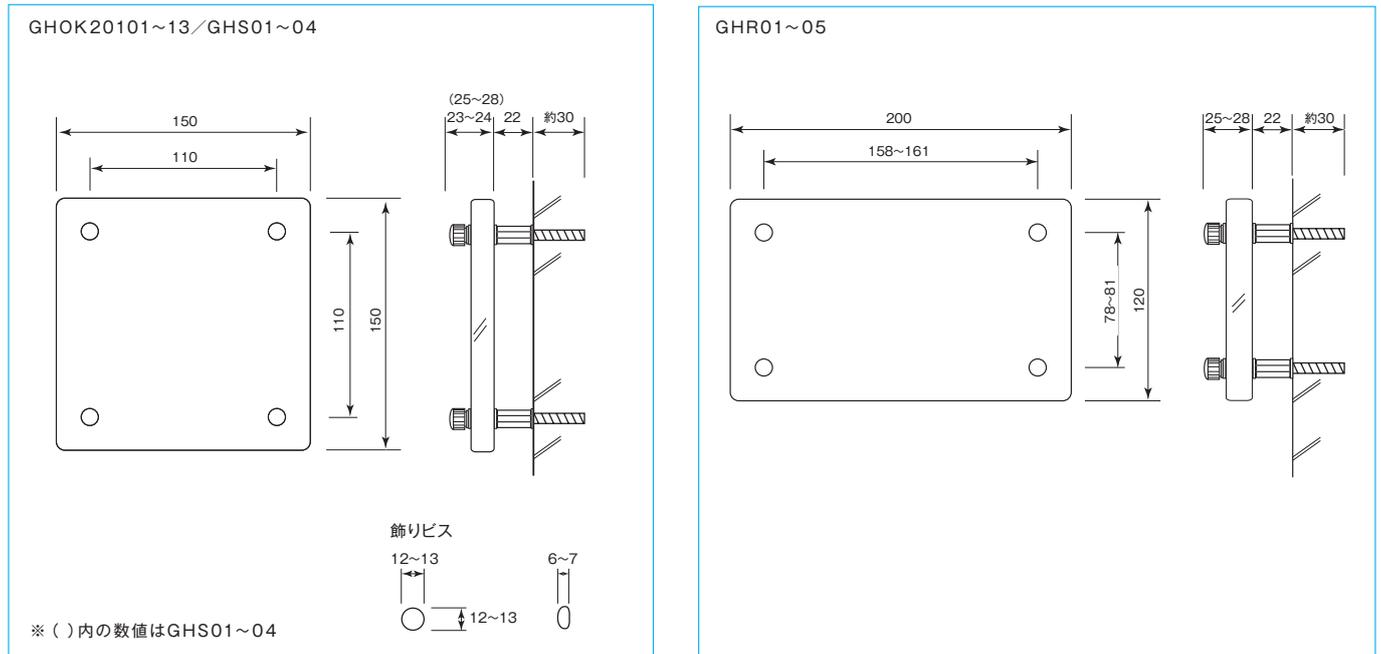
■ お手入れ方法

付着した汚れは、柔らかい布で水拭きをした後、柔らかい乾いた布で水分を充分に拭き取ってください。汚れが多い場合は、水で薄めた中性洗剤で拭き、充分に水拭きを行ってください。

- 研磨剤入りのクレンザー等は、商品表面を傷つける恐れがあるため使用しないでください。
- シンナー、ベンジン、ワックス、石油、塩素系溶剤等は使用しないでください。
- 殺虫剤、ガラスクリーナー、ヘアスプレーなどをかけないでください。

ハンドメイドガラスサイン／ハンドメイドガラスサインⅡにじいろ／にじいろミニ

【ハンドメイドガラスサイン・ハンドメイドガラスサインⅡ にじいろの寸法図】

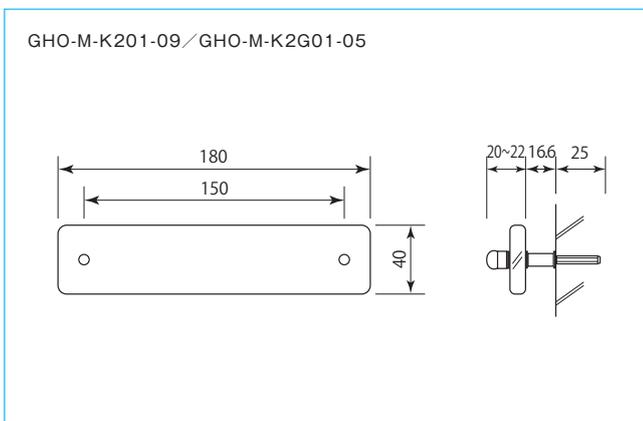
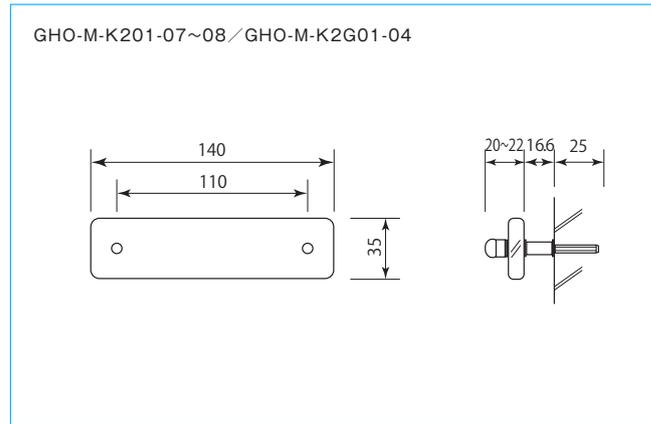
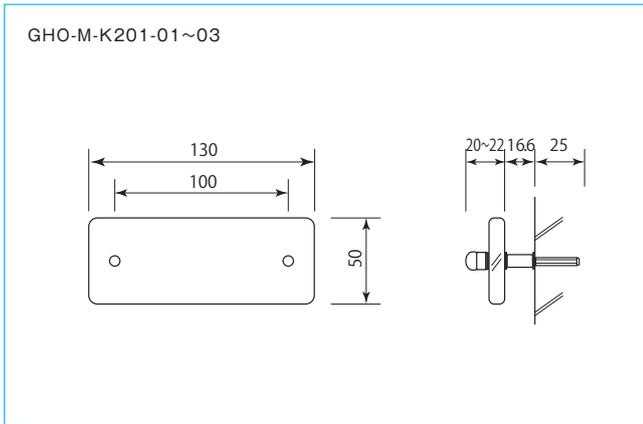


【ハンドメイドガラスサイン・ハンドメイドガラスサインⅡ にじいろの施工要領】

- 1** 壁に電動（振動）ドリルで穴をあけて下さい。
穴は約φ6.2~6.5mm、深さ約30mm。
(穴に通すボルトの太さは、φ6mmです)
穴の中に残った削りくずは掃除機などで取り除いて下さい。
- 2** 壁の穴に接着剤を注入し、寸切りボルトを差し込んで下さい。
ボルトは、壁から9~10mm出るようにして下さい。
- 3** 接着剤が固まって寸切りボルトが固定されたら、壁から出ている寸切りボルトに、ステンレス製ワッシャーを通し、高ナットを回し付けて下さい。
- 4** 表札本体にローレットビス（化粧ビス）と樹脂製ワッシャーをセットし、高ナットの先に取り付けて下さい。

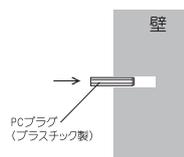
ご注意
六角ナット（※）を強く締めすぎるとガラスが割れる恐れがあります。必ず、手で軽く締めて下さい。

【ハンドメイドガラスサインII にじいろミニの寸法図】



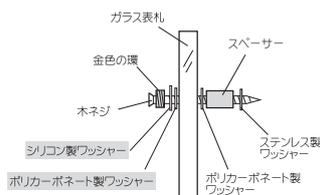
【ハンドメイドガラスサインII にじいろミニの施工要領】

- 1 【壁に下穴をあける】
穴をあける位置を表札本体（現物）で確認し、電動（振動）ドリルで直径7mm、深さ25mm強の穴を開けて下さい。
（これは、PCプラグの外径より0.5mm小さく、プラグの全長より少し深い穴です）
●ドリルを使用する時は、手袋等はしないで下さい。ドリルの刃に巻き込まれると危険です。



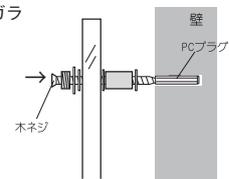
- 2 【PCプラグを壁に打ち込む】
力を入れず軽くハンマー等で打ち込んで下さい。

- 3 【表札に取付用の部品を付ける】
下図を参照し、表札に部品を取り付けて下さい。

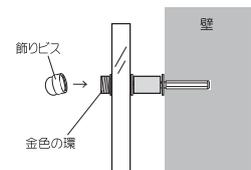


- 4 【表札を取り付ける】
ご注意
・手廻しドライバーを使用して下さい。
・絶対に電動工具を使用しないで下さい。
・ホネジを締めすぎるとガラスが割れます。

手廻しドライバーでホネジを回し、PCプラグに表札を取り付けて下さい。
ホネジを締めていき、ガラスやワッシャー、金具などの隙間がなくなったら、すぐに締めるのをやめて下さい。それ以上締めると、ガラスが割れる恐れがあります。

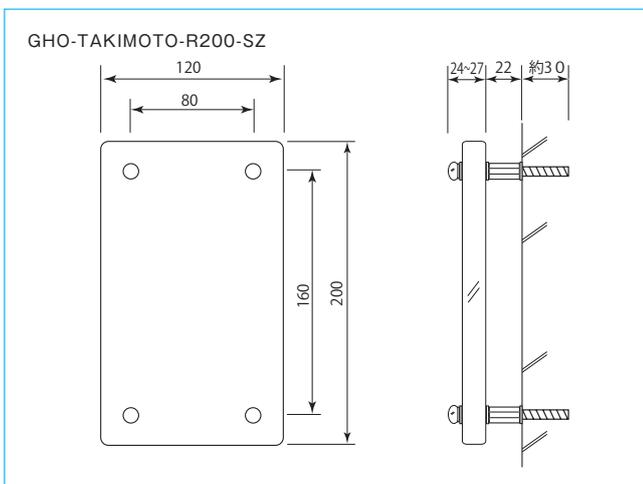
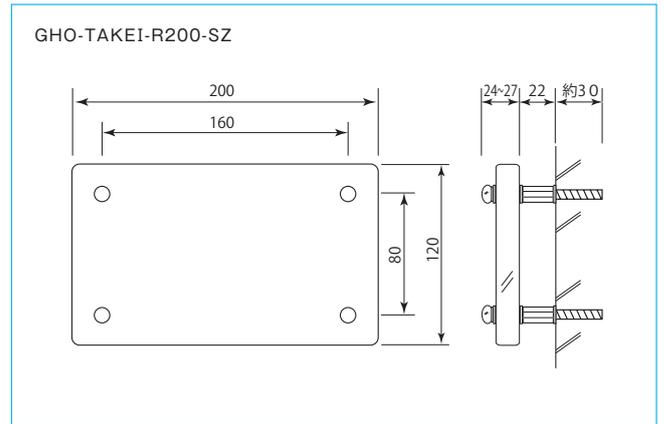
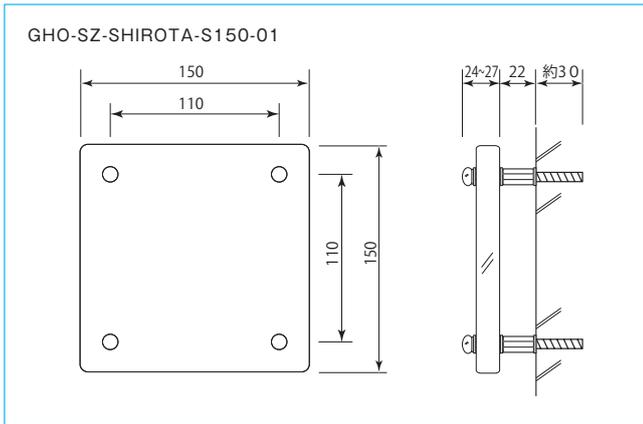


- 5 【飾りビスを付ける】
表札表面のネジに飾りビスを回し付ければ完成です。



シュヴァルツ

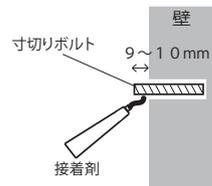
【シュヴァルツの寸法図】



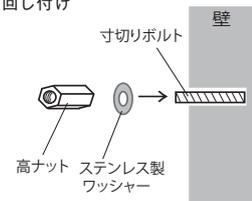
【シュヴァルツの施工要領】

1 壁に電動（振動）ドリルで穴をあけて下さい。
穴は約φ6.2～6.5mm、深さ約30mm。（穴に通すボルトの太さは、φ6mmです）
穴の中に残った削りクズは掃除機などで取り除いて下さい。

2 壁の穴に接着剤を注入し、寸切りボルトを差し込んで下さい。
ボルトは、壁から9～10mm出るようにして下さい。

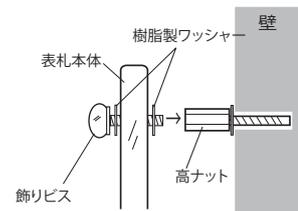


3 接着剤が固まって寸切りボルトが固定されたら、壁から出ている寸切りボルトに、ステンレス製ワッシャーを通し、高ナットを回し付けて下さい。



4 表札本体に飾りビスと樹脂製ワッシャーをセットし、高ナットの先に取り付けて下さい。

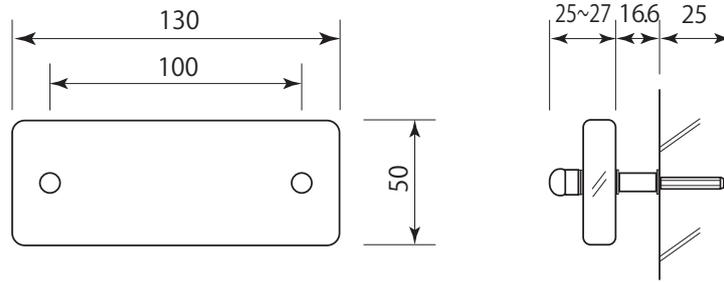
ご注意
飾りビスを強く締めすぎるとガラスが割れる恐れがあります。必ず、手で軽く締めて下さい。



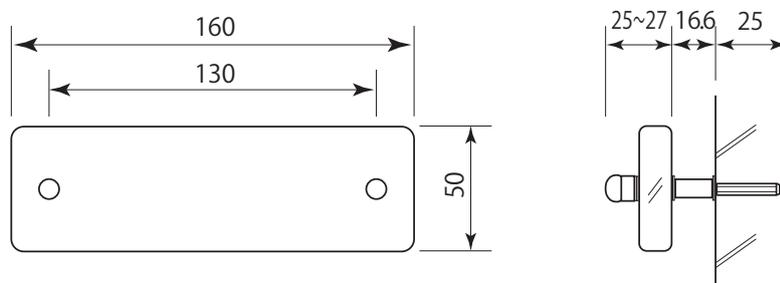
シュヴァルツ・ミニ

施工要領
寸法図
【シュヴァルツ・ミニの寸法図】

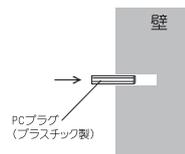
GHO-M-SZ01-03



GHO-M-SZ01-04 / GHO-M-SZ01-05

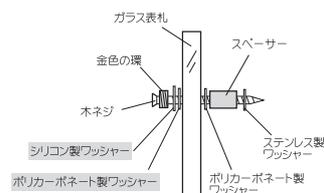

【シュヴァルツ・ミニの施工要領】

- 1** [壁に下穴をあける]
穴をあける位置を表札本体（現物）で確認し、電動（振動）ドリルで直径7mm、深さ25mm強の穴を開けて下さい。
（これは、PCプラグの外径より0.5mm小さく、プラグの全長より少し深い穴です）
●ドリルを使用する時は、手袋等はしないで下さい。ドリルの刃に巻き込まれると危険です。



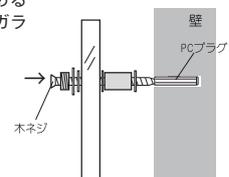
- 2** [PCプラグを壁に打ち込む]
力を入れず軽くハンマー等で打ち込んで下さい。

- 3** [表札に取付用の部品を付ける]
右図を参照し、表札に部品を取り付けて下さい。

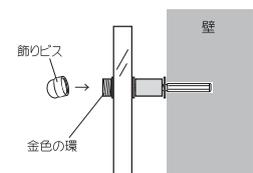


- 4** [表札を取り付ける]
ご注意
・手廻しドライバーを使用して下さい。
・絶対に電動工具を使用しないで下さい。
・木ネジを締めすぎるとガラスが割れます。

手廻しドライバーで木ネジを回し、PCプラグに表札を取り付けて下さい。
木ネジを締めていき、ガラスやワッシャー、金具などの隙間がなくなったら、すぐに締めるのをやめて下さい。それ以上締めると、ガラスが割れる恐れがあります。

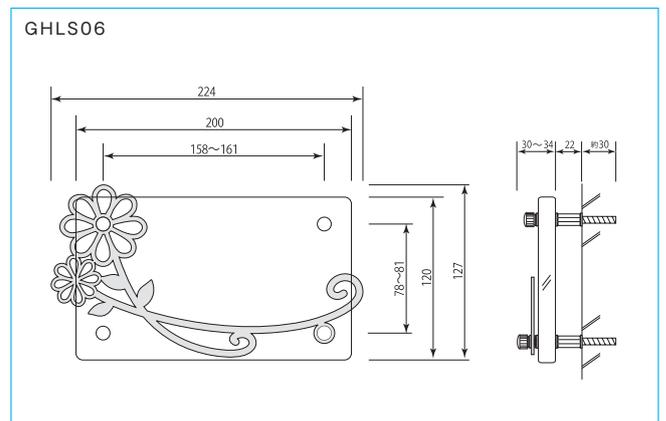
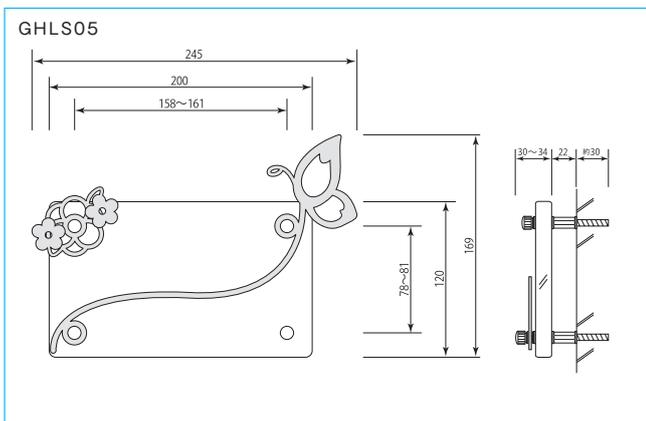
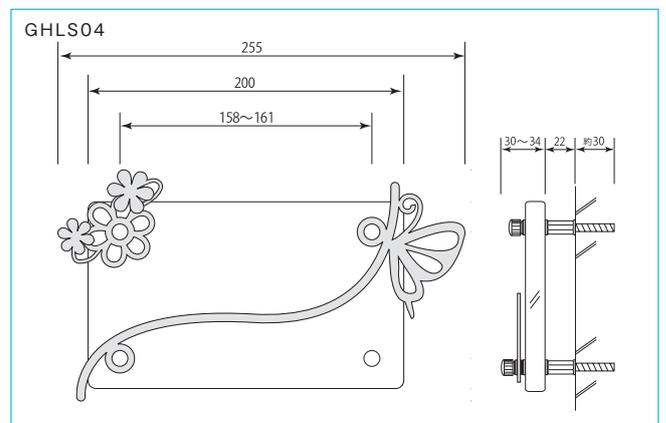
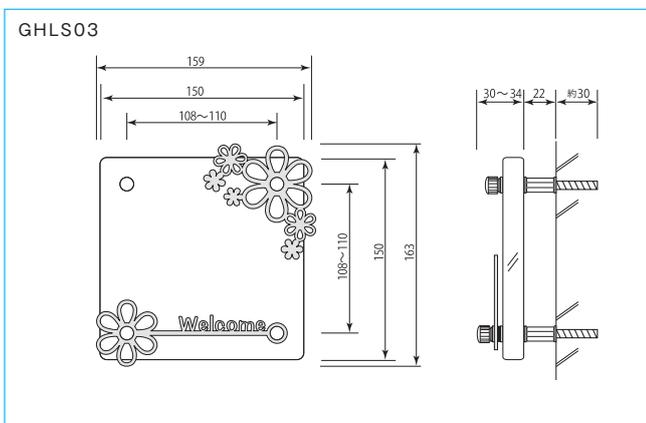
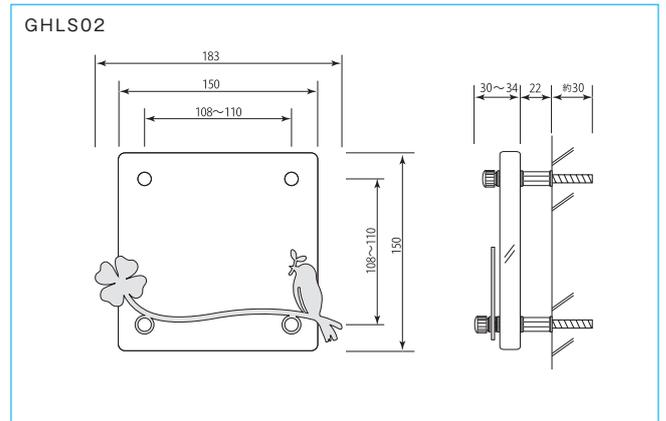
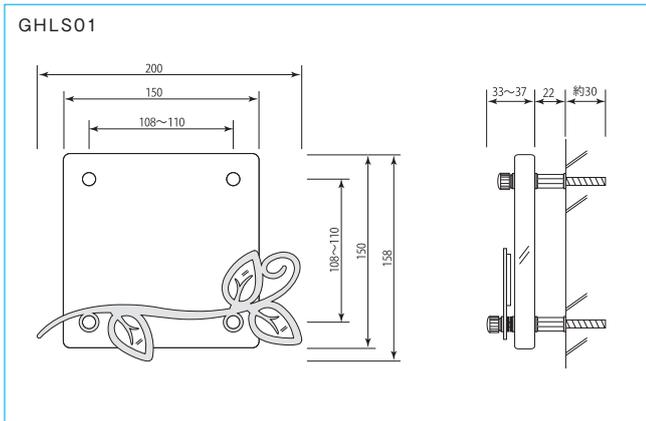


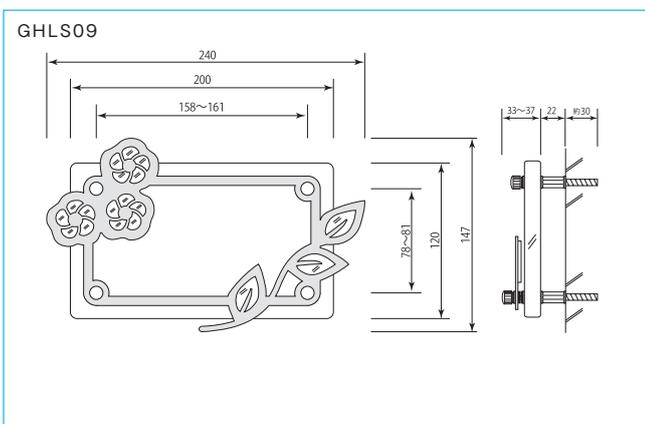
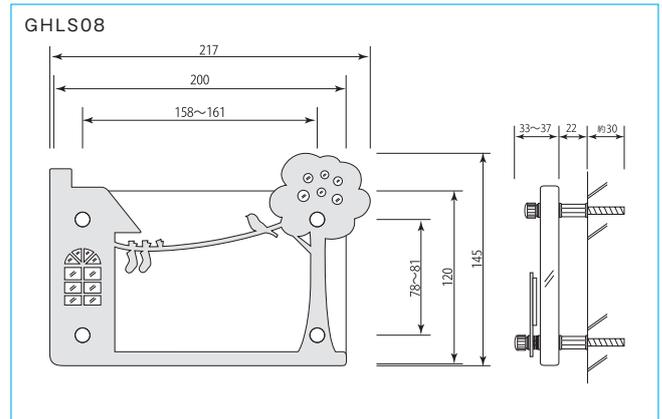
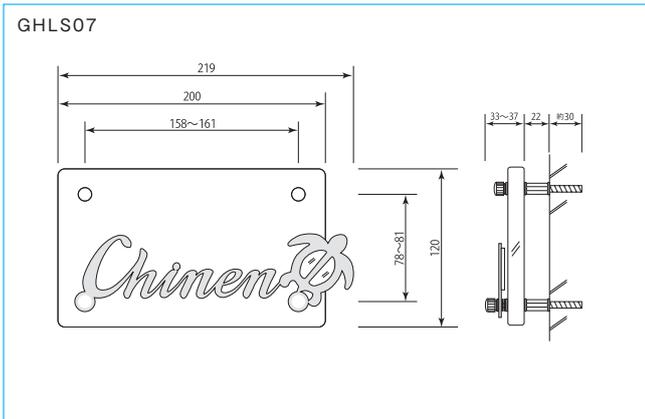
- 5** [飾りビスを付ける]
表札表面のネジに飾りビスを回し付ければ完成です。



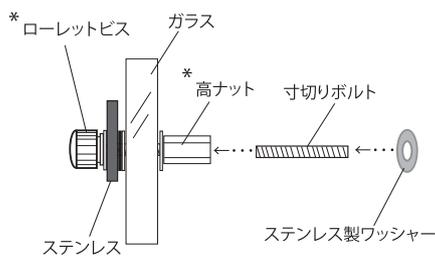
LSサイン

【LSサインの寸法図】





【LSサインの施工要領】

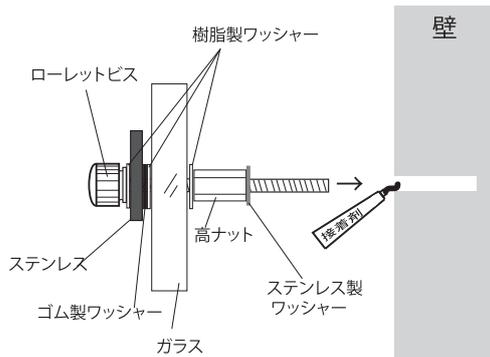


1 壁に電動（振動）ドリルで穴を開けて下さい。穴の直径：約6.2～6.5mm、深さ：約30mm。（この穴に通すボルトの太さは、直径6mmです）穴の中に残った削りクズは掃除機などで取り除いて下さい。

2 表札は予め部品等を組み立ててあります。運送中にネジが緩む場合がありますので、その時はネジ・高ナットを締め直して下さい。

高ナットに寸切りボルトを回し入れ、その寸切りボルトにステンレス製ワッシャーを通して下さい。

*ガラスが割れる恐れがありますので、高ナット・ローレットビスは強く締めすぎないようにご注意下さい。



3 壁の穴に接着剤を注入し、表札本体の寸切りボルトを差し込んで下さい。

接着剤が固まるまでは、表札をテープなどで壁に固定して下さい。

表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。

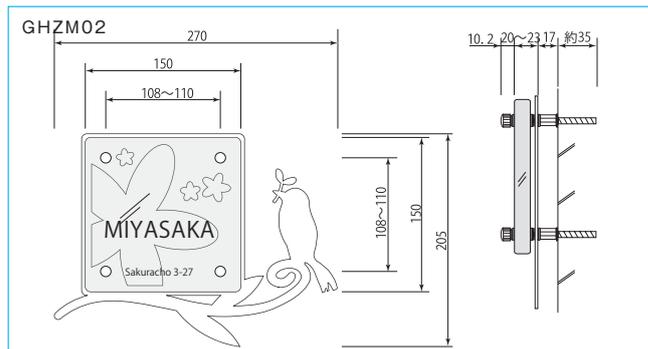
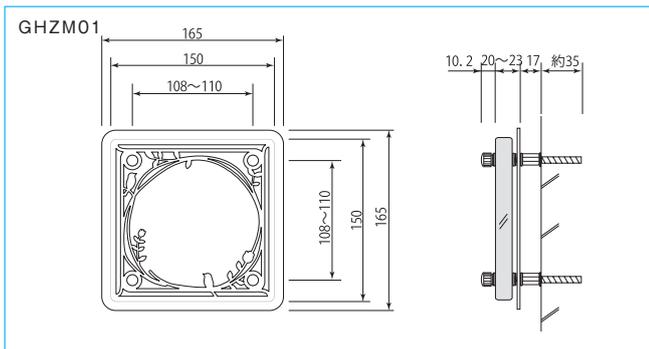
表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。

テープを外す時は、表札が壁に固定されているのを確認しながら作業を行って下さい。

ZMサイン (FHタイプ)

施工要領 寸法図

【ZMサイン (FHタイプ) の寸法図】



【ZMサイン (FHタイプ) の施工要領】

- 壁に電動 (振動) ドリルで穴を開けて下さい。穴の直径: 約6.2~6.5mm、深さ: 約35mm弱。(この穴に通すボルトの太さは、直径6mmです) 穴の中に残った削りくずは掃除機などで取り除いて下さい。
- 表札は予め部品等を組み立ててあります。運送中にネジが緩む場合がありますので、その時はローレットビスや高ナットを締め直して下さい。

※ガラスが割れる恐れがありますので、高ナット・ローレットビスは強く締めすぎないようにご注意ください。

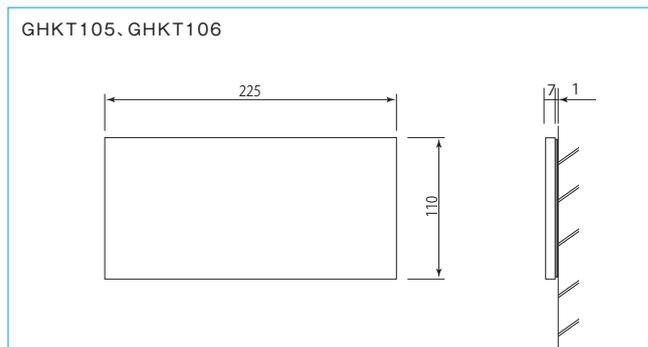
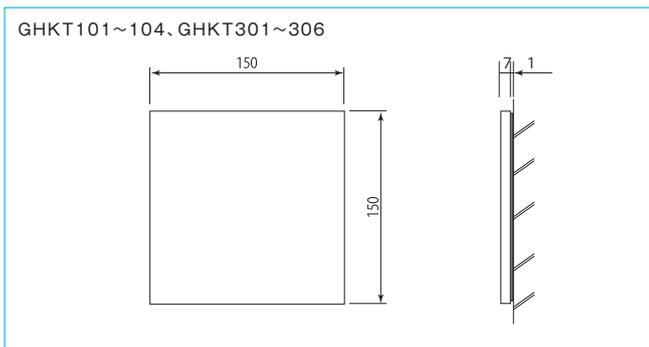
高ナットに寸切りボルトを回し入れて下さい。止まるまで回し入れたら、半回転ほど戻し、寸切りボルトにステンレス製ワッシャーを通して下さい。

- 壁の穴に接着剤を注入し、表札本体の寸切りボルトを差し込んで下さい。接着剤が固まるまでは、表札をテープなどで壁に固定して下さい。表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。テープを外す時は、表札が壁に固定されているのを確認しながら作業を行って下さい。

九谷焼サイン

施工要領 寸法図

【九谷焼サインの寸法図】



【九谷焼サインの施工要領】

- 表札の裏面には、両面テープが貼ってあります。同梱の接着剤を、両面テープがない部分に塗布し、ヘラで延ばして下さい。両面テープの厚さが1mmなので、接着剤の厚さが薄すぎると壁面に付かず、接着剤の効果がありません。ご注意ください。また、塗りすぎにもご注意ください。
- 表札を貼り付ける壁等をタオルなどで拭き、汚れやほこり、油分などを取り除いて下さい。両面テープの剥離紙をはがして壁に貼って下さい。両面テープには、クッション性がありますので、手でぐっと押して壁に密着させて下さい。
- 接着剤が固まるまで (約24時間)、表札をテープなどで壁に固定して下さい。表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。テープを外す時は、表札が壁に固定されているのを確認しながら作業を行って下さい。

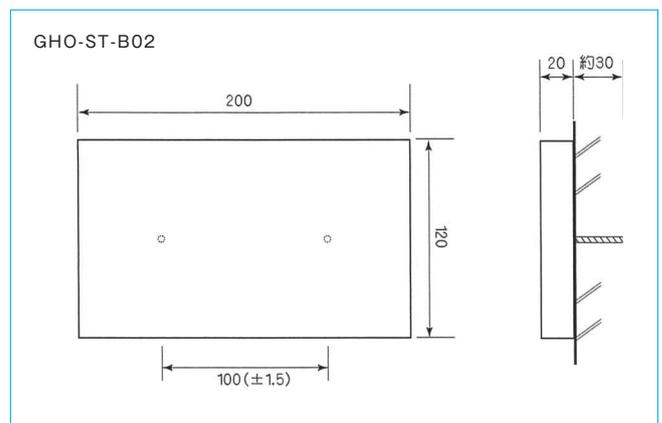
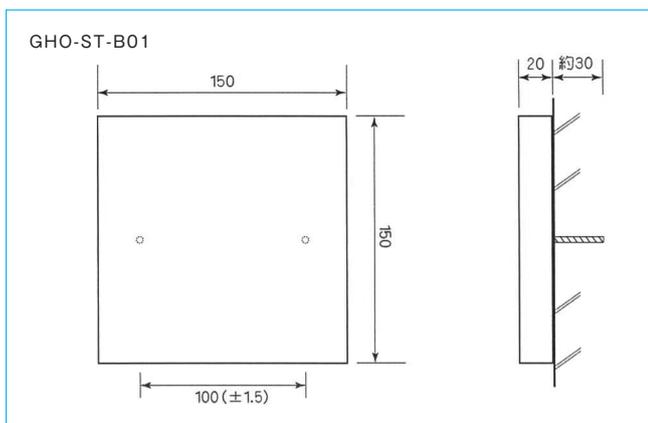
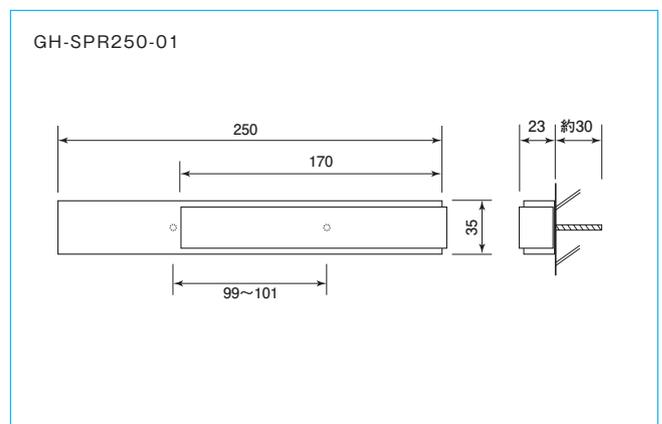
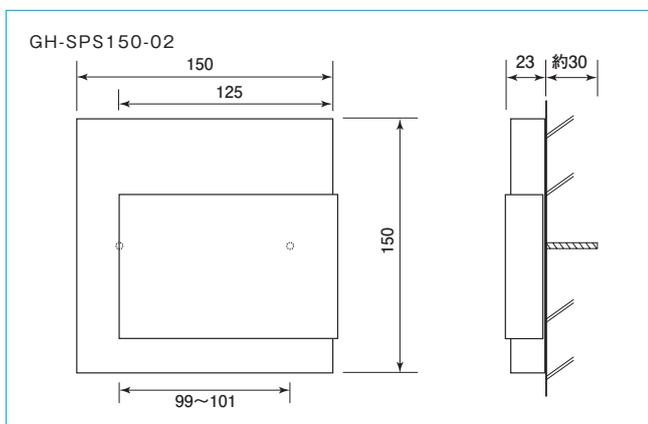
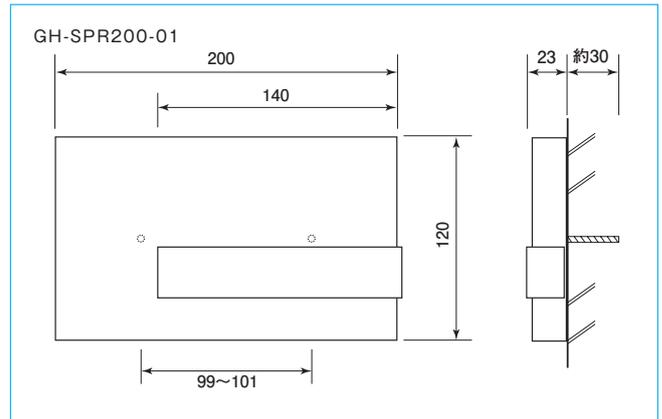
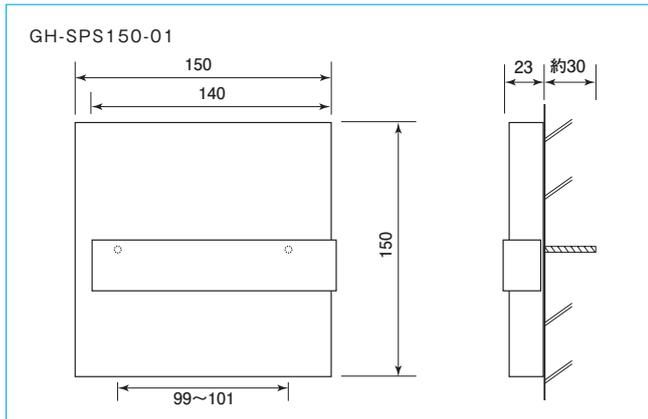
※ 取付作業の日~翌日は、雨等が降らない日を選んで下さい。

ファサード

自然石サイン

施工要領 寸法図

【自然石サインの寸法図】



【自然石サインの施工要領】

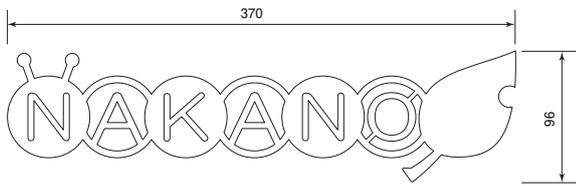
- 1 取付箇所に電動(振動)ドリルで穴をあけて下さい。
穴の直径:約4.2~4.5mm、深さ:30mm。
(この穴に通すボルトの太さは、直径4mmです)
穴の中に残った削りクズは掃除機などで取り除いて下さい。
- 2 壁の穴に接着剤を注入し、表札の裏面にも接着剤を十分に塗って下さい。
次に、表札裏面のボルトを壁等の穴に差し込み、壁と密着するまで押し込んで下さい。
- 3 接着剤が固まるまで(約24時間)、表札をテープなどで壁に固定して下さい。
※表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。
表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。
テープを外す時は、表札が壁に固定されているのを確認しながら作業を行って下さい。

ファサード

銅サイン

【銅サインの寸法図】

GHO-CU-13



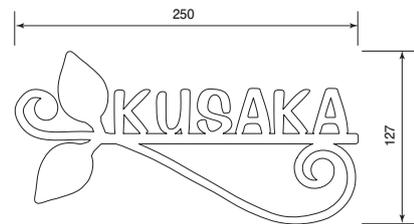
GHO-CU-10



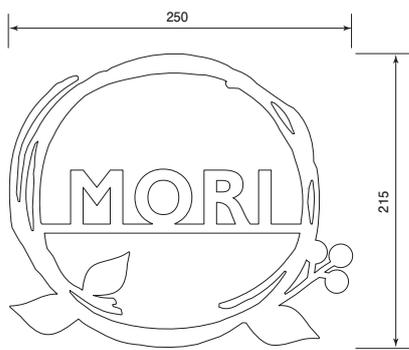
GHO-CU-11



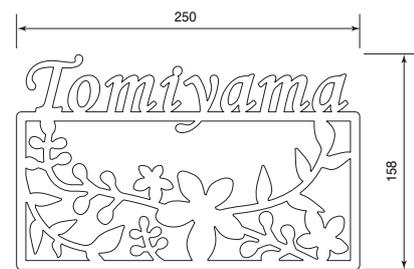
GHO-CU-12



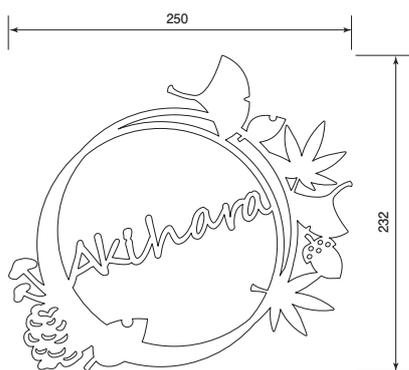
GHO-CU-17



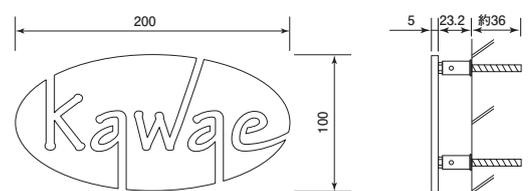
GHO-CU-18



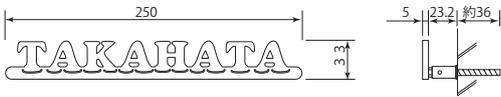
GHO-CU-19



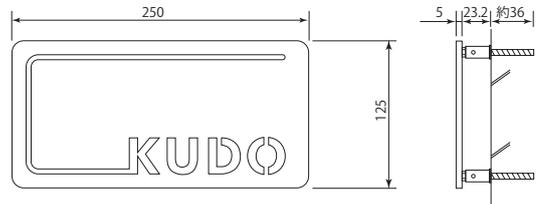
GHO-CU-14



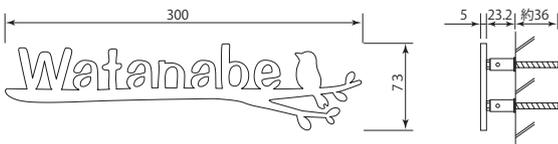
GHO-CU-08



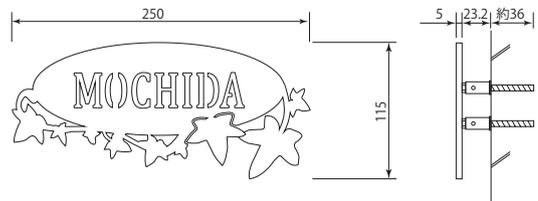
GHO-CU-03



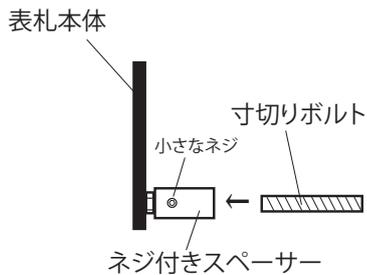
GHO-CU-09



GHO-CU-06



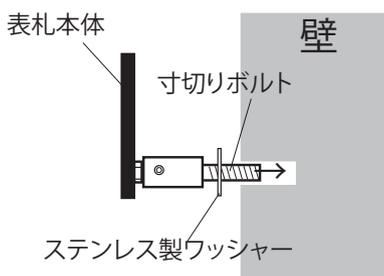
【銅サインの施工要領】



- 1 表札の裏側についているネジ付きスペーサーに寸切りボルトを回し込んで下さい。

ネジ付きスペーサーがぐらつく場合は、一旦寸切りボルトを外して、ネジ付きスペーサーに付いている小さいネジを、L字型六角レンチで締めて下さい。

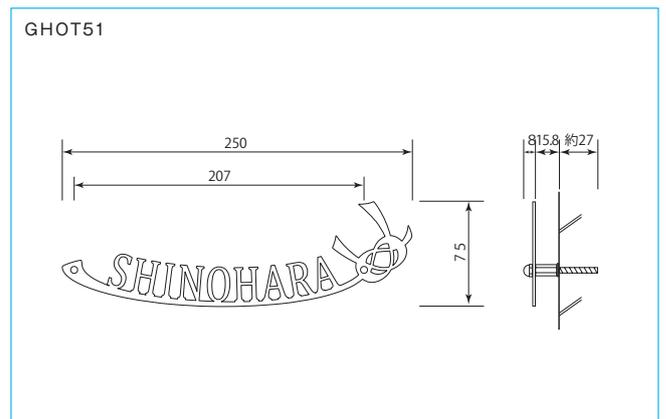
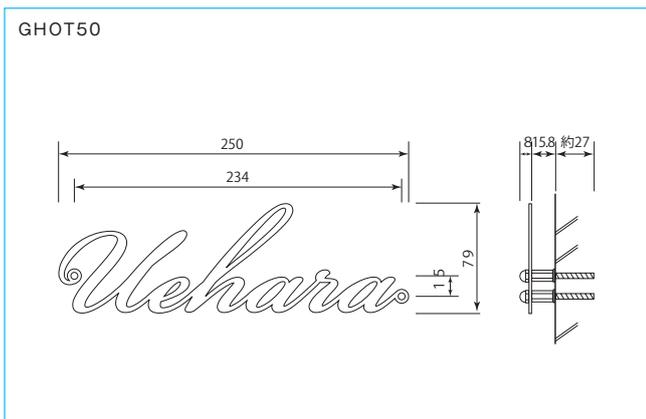
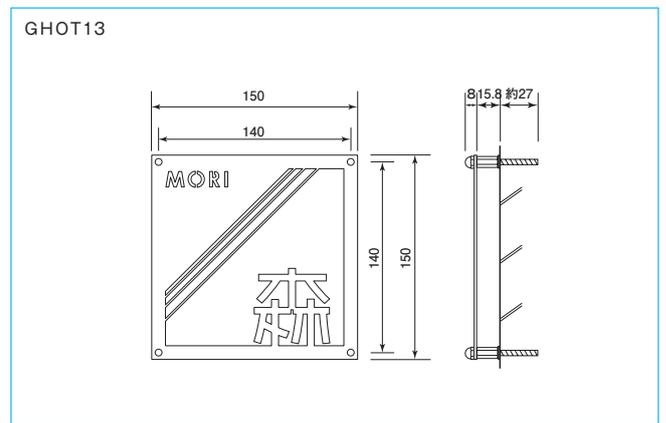
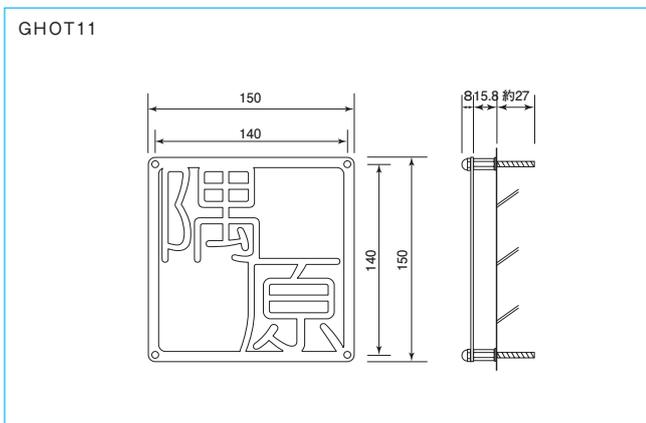
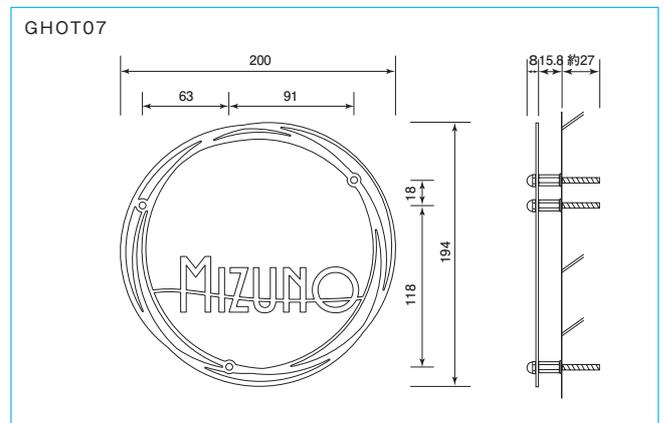
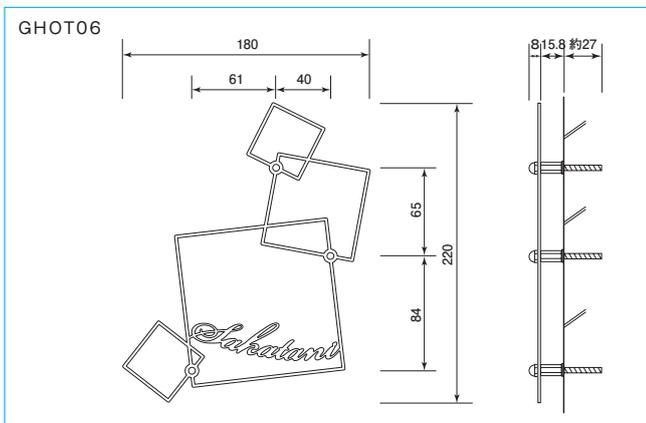
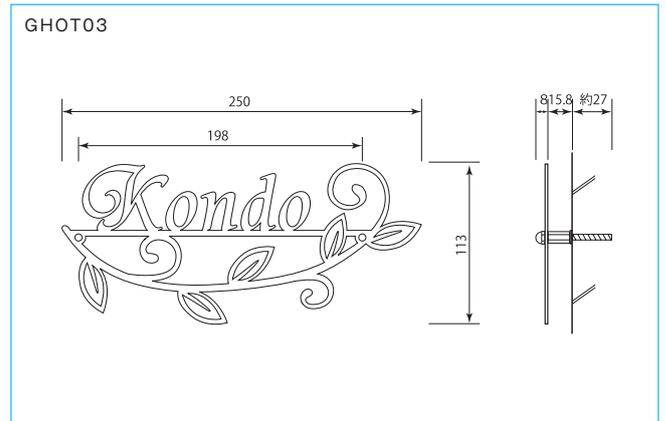
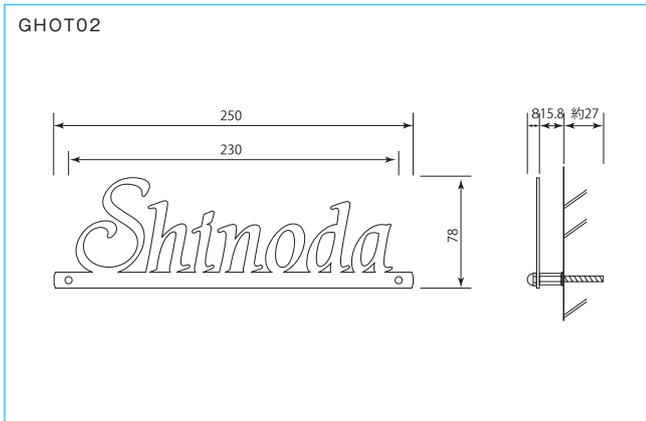
- 2 壁に電動（振動）ドリルで穴をあけて下さい。穴は、直径約5.2～5.5mm、深さ約40mm弱。（この穴に通すボルトの太さは直径5mmです）穴の中に残った削りクズは掃除機などで取り除いて下さい。

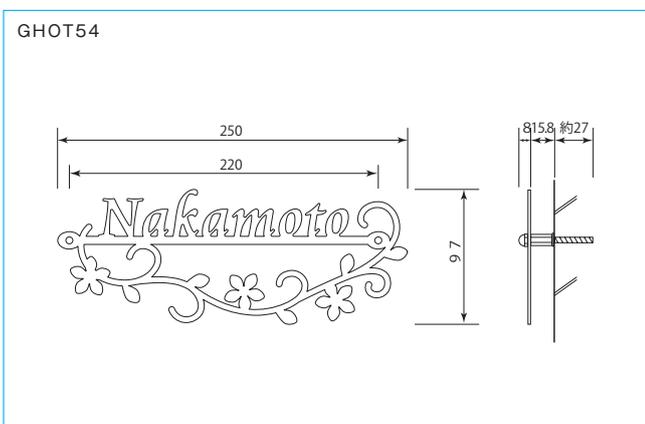
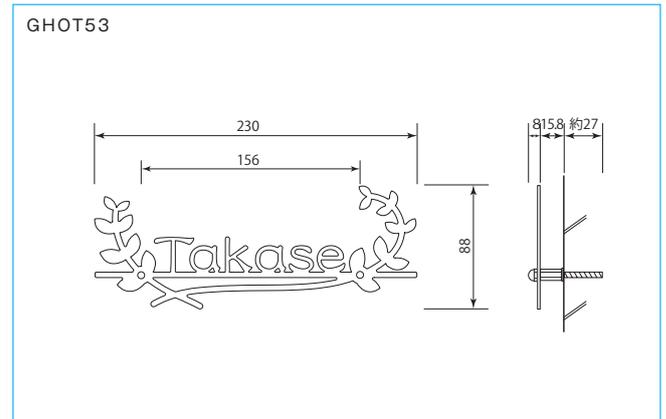
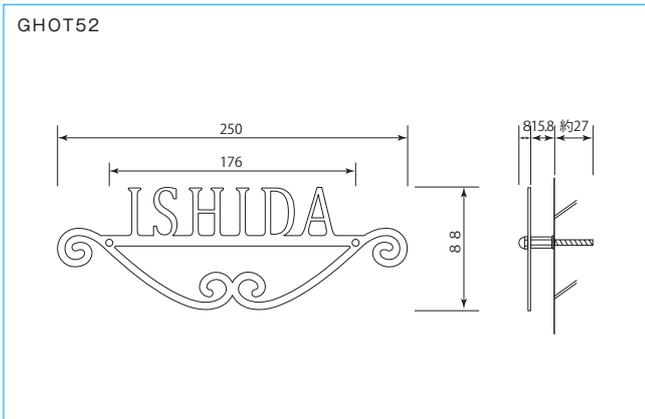


- 3 壁の穴に接着剤を注入してください。表札本体の寸切りボルトにステンレス製ワッシャーを通し、これを壁の穴に差し込んで下さい。接着剤が固まるまでは、表札をテープなどで壁に固定して下さい。表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。テープを外す時は、表札が壁に固定されているのを確認しながら作業を行って下さい。

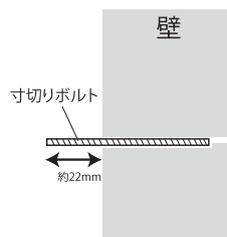
チタンサイン

【チタンサインの寸法図】



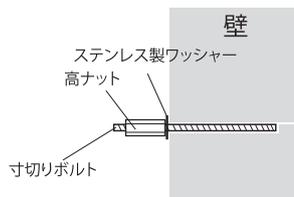


【チタンサイン (GHOT02、GHOT03、GHOT06、GHOT07、GHOT11、GHOT13、GHOT50、GHOT51、GHOT52、GHOT53、GHOT54) の施工要領】

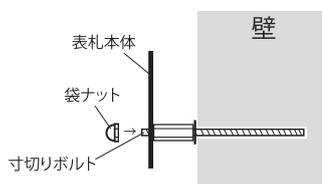


- 1 壁に振動ドリルで穴を開けて下さい。
穴の直径：4mm強、深さ：約27～30mm。
(この穴に通すボルトは、直径4mmです)
穴の中に残った削りクズは掃除機などで取り除いて下さい。

穴に接着剤を注入し、寸切りボルトを差し込んで下さい。
寸切りボルトの先は、壁から約22mm出るようにして下さい。

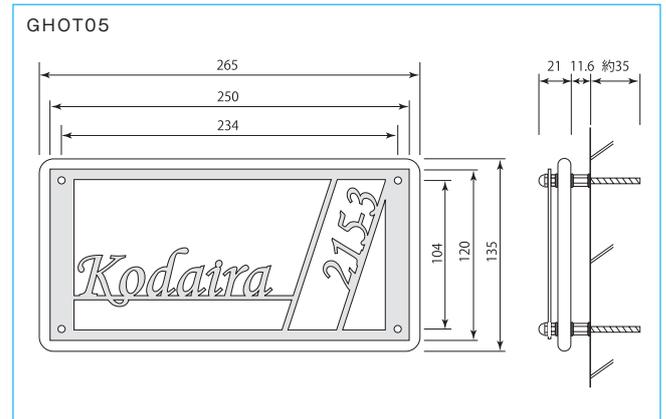
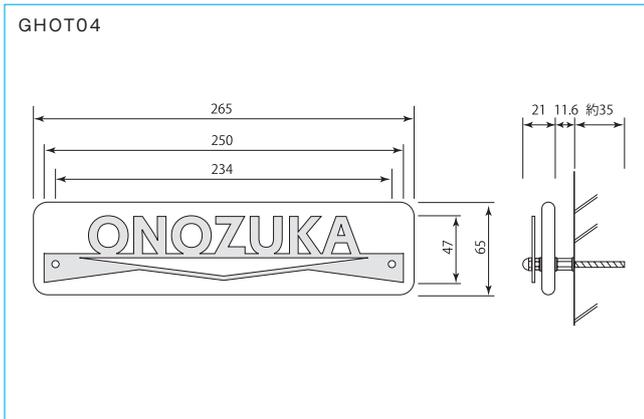
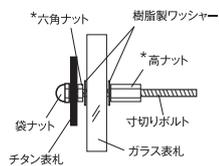


- 2 接着剤が固まったら、寸切りボルトにステンレス製ワッシャーを通し、高ナットを回し付けて下さい。



- 3 寸切りボルトの先に表札の穴を差し込み、袋ナットで締めて固定して下さい。

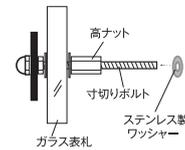
チタンサイン

施工要領
寸法図
【チタンサインの寸法図】

【チタンサイン (GHOT04、GHOT05) の施工要領】


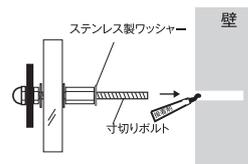
- 1** 壁に電動(振動)ドリルで穴を開けて下さい。直径約4.2mm、深さ約35mm。(この穴に通す寸切りボルトの太さは、直径4mmです) 穴の中に残った削りクズは掃除機などで取り除いて下さい。

- 2** 表札は予め部品等を組み立ててあります。運送中にネジが緩む場合がありますので、その時はネジ等を締め直して下さい。

※ガラスが割れる恐れがありますので、六角ナット・高ナットは締めすぎないようにご注意ください。



- 3** 寸切りボルトにステンレス製ワッシャーを通して下さい。

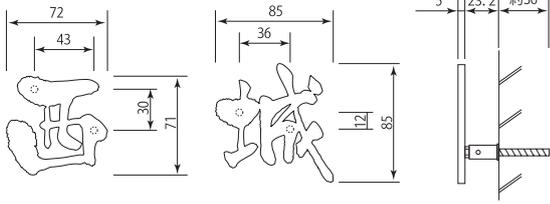


- 4** 壁の穴に接着剤を注入し、表札本体の寸切りボルトを差し込んで下さい。接着剤が固まるまでは、表札をテープなどで壁に固定して下さい。表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。テープを外す時は、表札が壁に固定されているのを確認しながら作業を行って下さい。

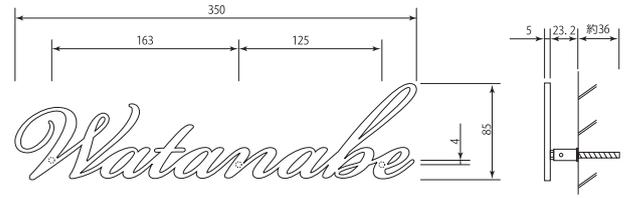
アルミサイン

寸法図

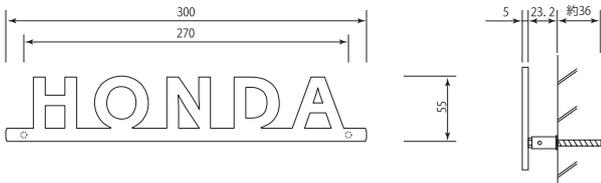
GHAL01



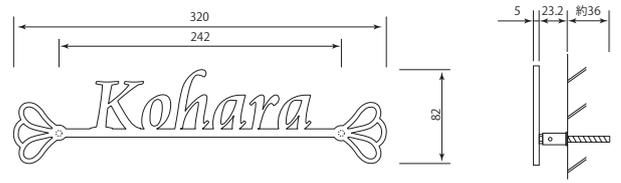
GHAL02



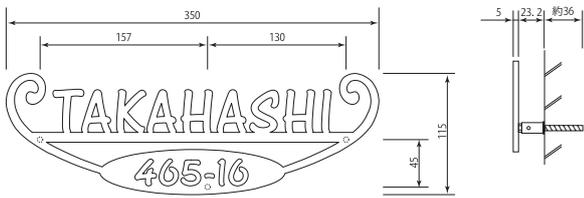
GHAL03



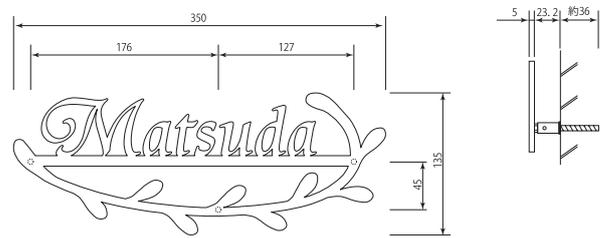
GHAL04



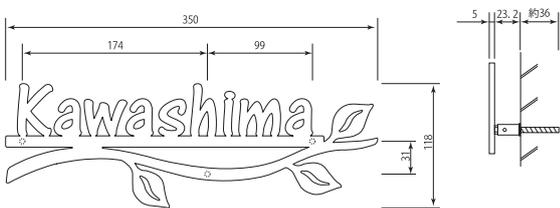
GHAL05



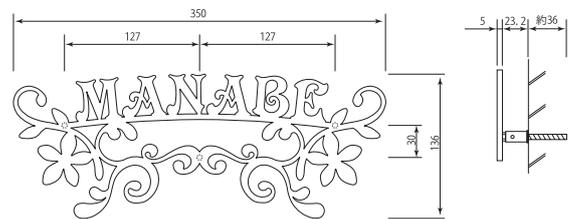
GHAL06



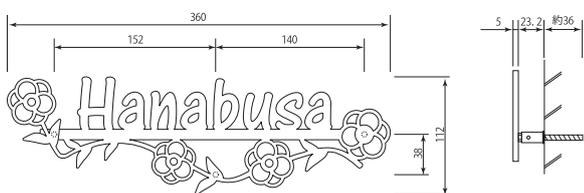
GHAL07



GHAL08



GHAL09

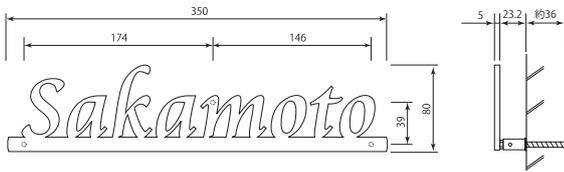


ファサード

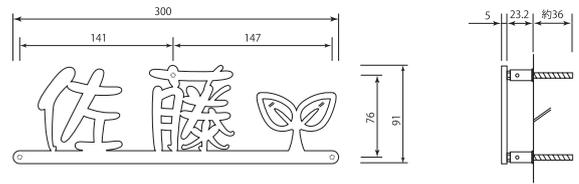
アルミサイン

【アルミサインの寸法図】

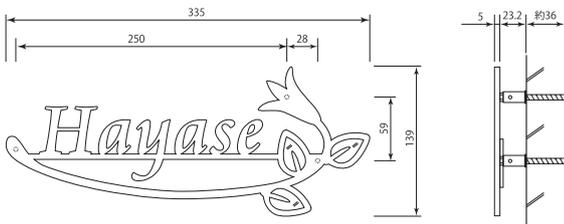
GHOAL42



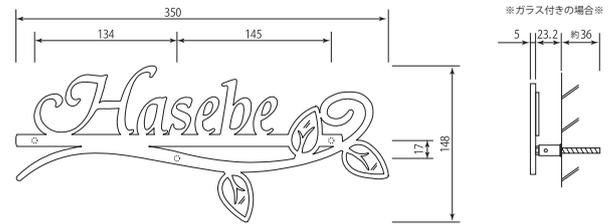
GHOAL67



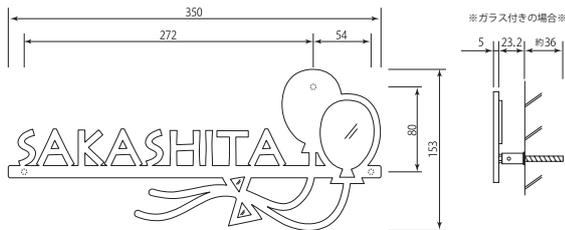
GHOAL68



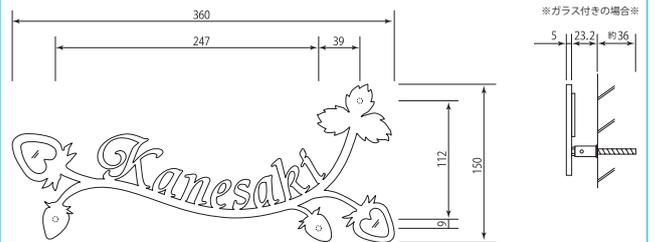
GHAL10



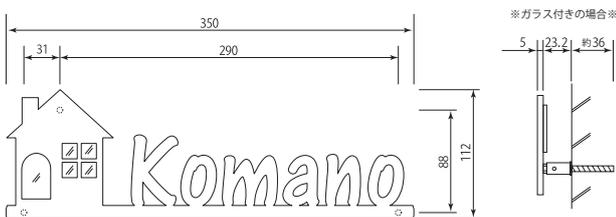
GHAL11



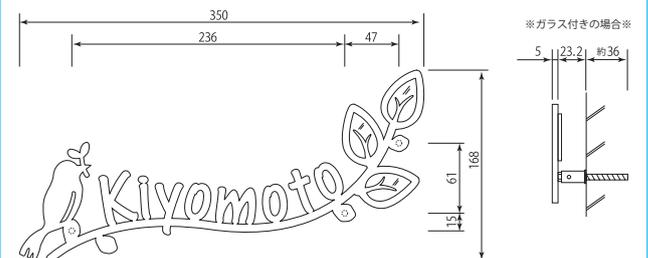
GHAL12

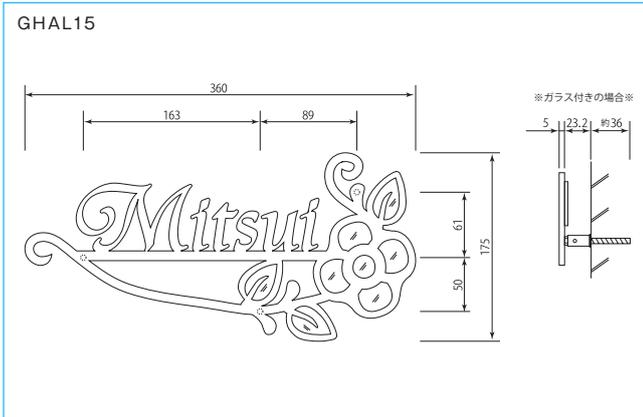


GHAL13

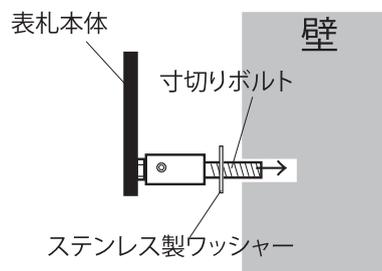
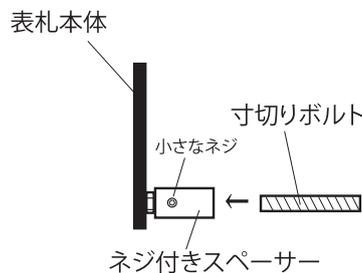


GHAL14





【アルミサインの施工要領】



- 1 表札の裏側についているネジ付きスペーサーに寸切りボルトを回し込んで下さい。

※ネジ付きスペーサーがぐらつく場合は、一旦寸切りボルトを外して、ネジ付きスペーサーに付いている小さいネジを、L字型六角レンチで締めて下さい。

- 2 壁に電動（振動）ドリルで穴をあけて下さい。穴は、直径約5.2～5.5mm、深さ約40mm弱。
（この穴に通すボルトの太さは直径5mmです）
穴の中に残った削りクズは掃除機などで取り除いて下さい。

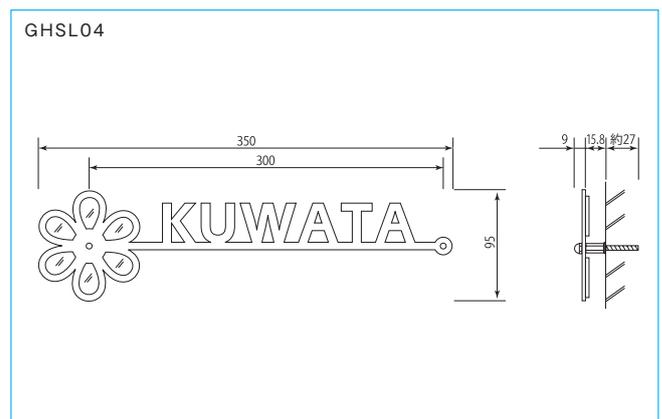
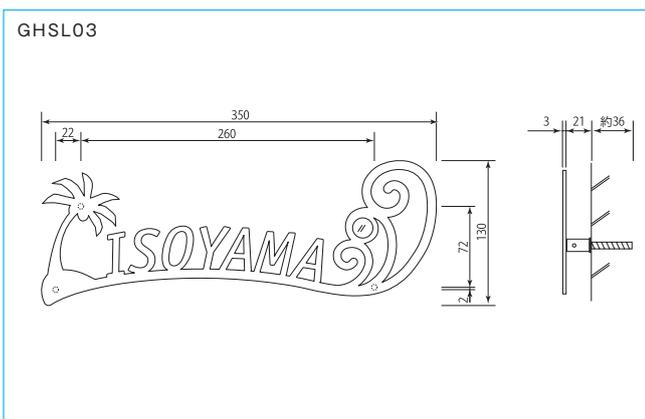
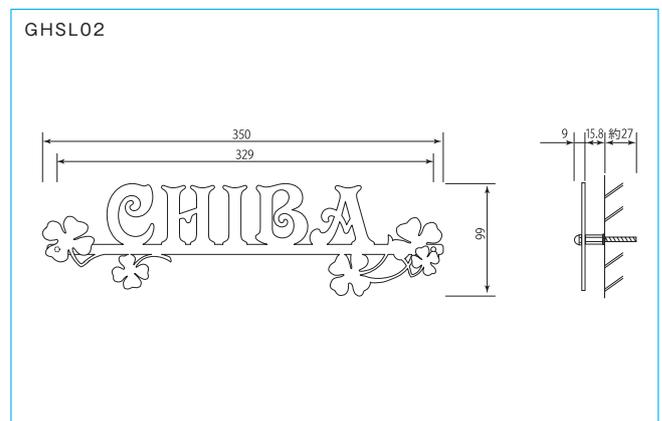
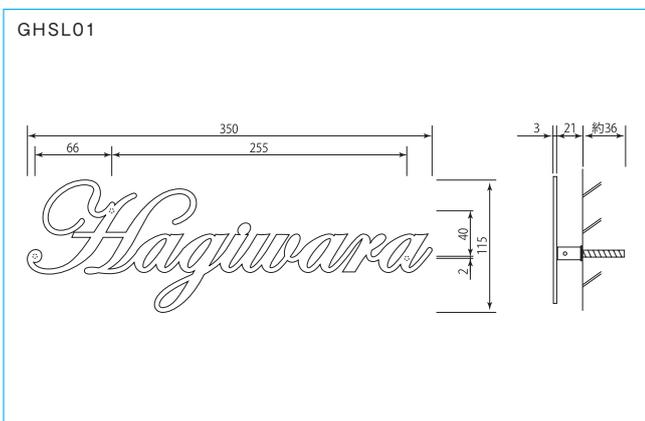
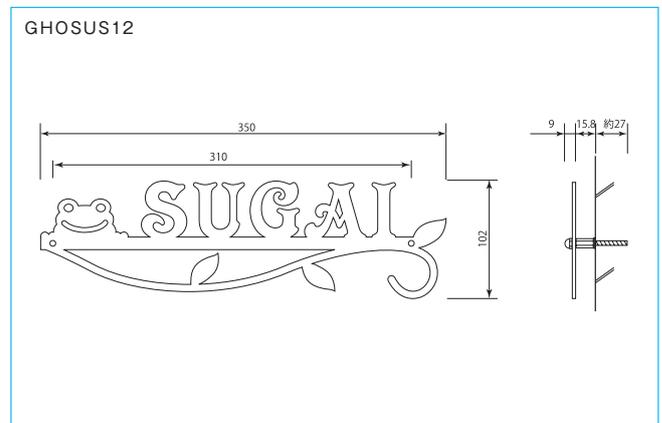
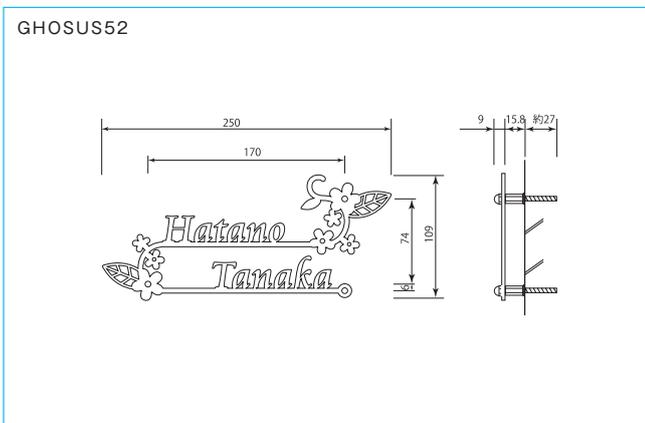
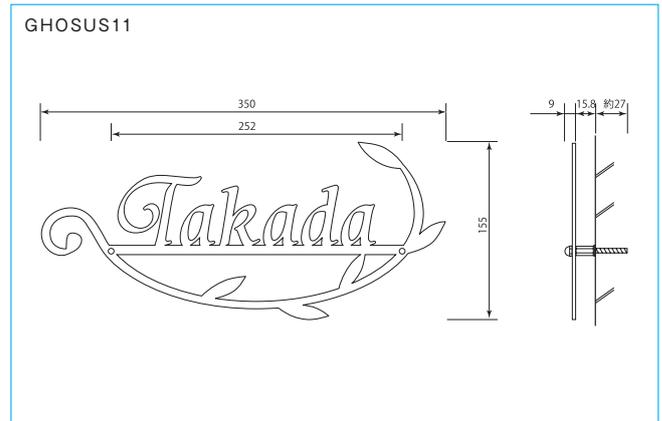
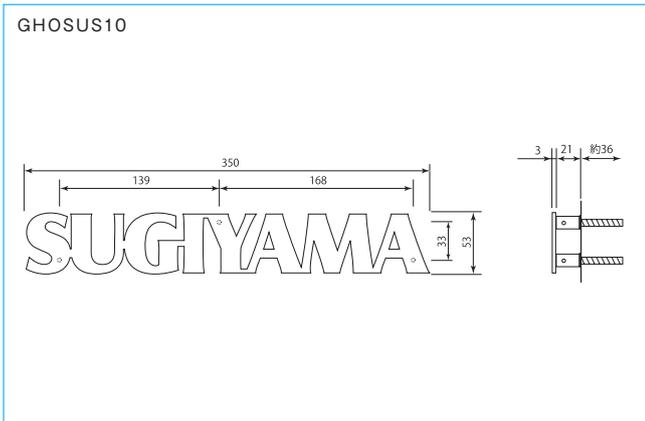
- 3 壁の穴に接着剤を注入して下さい。
表札本体の寸切りボルトにステンレス製ワッシャーを通し、これを壁の穴に差し込んで下さい。

接着剤が固まるまでは、表札をテープなどで壁に固定して下さい。表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。

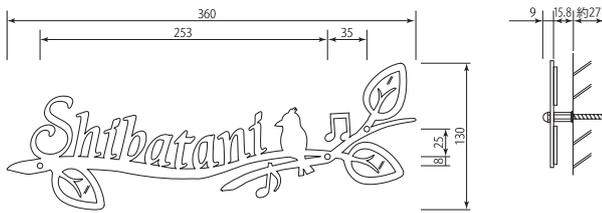
表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。テープを外す時は、表札が壁に固定されているのを確認しながら作業を行って下さい。

ステンスレーザークットサイン

【ステンスレーザークットサインの寸法図】



GHSL05



【ステンスレーザークットサイン (GHOSUS11、GHOSUS52、GHOSUS12、GHSL04、GHSL05、GHSL06、GHSL02) の施工要領】

1 壁に振動ドリルで穴を開けて下さい。
穴の直径：4mm強、深さ：約27～30mm。
(この穴に通すボルトは、直径4mmです)
穴の中に残った削りクズは掃除機などで取り除いて下さい。

穴に接着剤を注入し、寸切りボルトを差し込んで下さい。
寸切りボルトの先は、壁から約22mm出るようにして下さい。

2 接着剤が固まったら、寸切りボルトにステンレス製ワッシャーを通し、高ナットを回し付けて下さい。

3 寸切りボルトの先に表札の穴を差し込み、袋ナットで締めて固定して下さい。

【ステンスレーザークットサイン (GHOSUS10、GHSL01、GHSL03) の施工要領】

1 表札の裏側についているネジ付きスペーサーに寸切りボルトを回し込んで下さい。

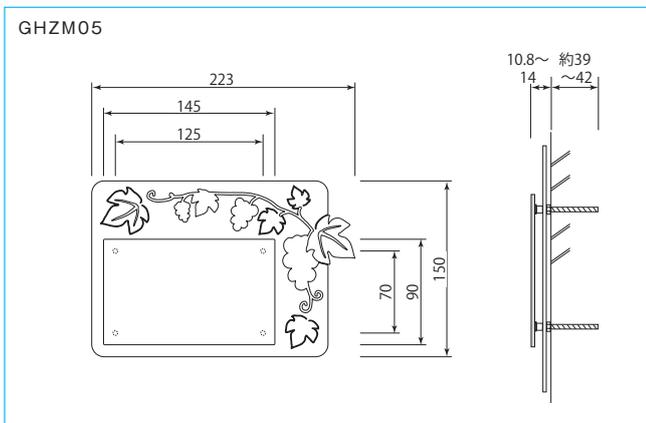
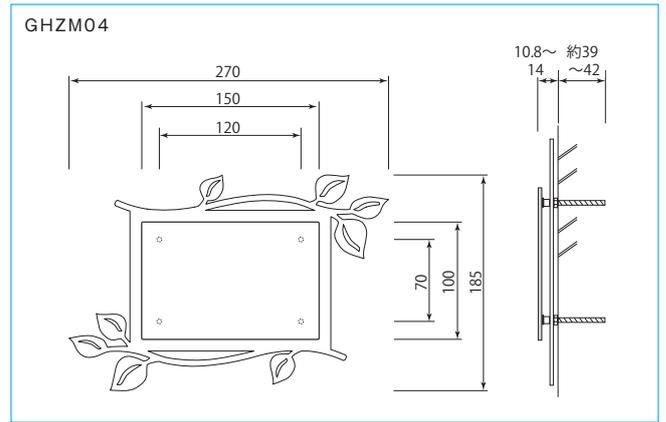
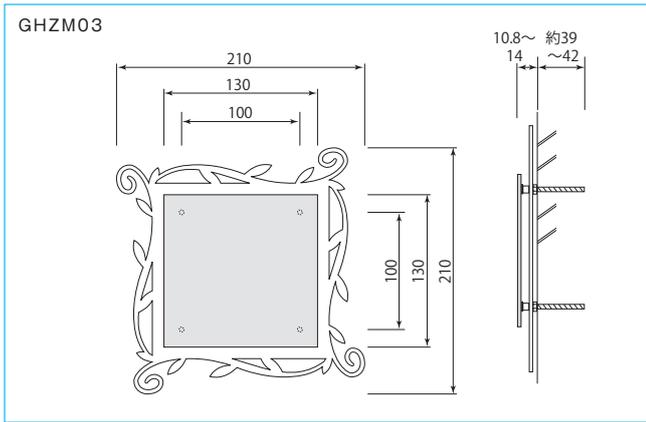
※ネジ付きスペーサーがぐらつく場合は、一旦寸切りボルトを外して、ネジ付きスペーサーに付いている小さいネジを、同梱の六角レンチで締め直して下さい。

2 壁に電動(振動)ドリルで穴をあけて下さい。
穴は、直径約6.2～6.5mm、深さ約40mm。
(この穴に通すボルトの太さは直径6mmです)
穴の中に残った削りクズは掃除機などで取り除いて下さい。

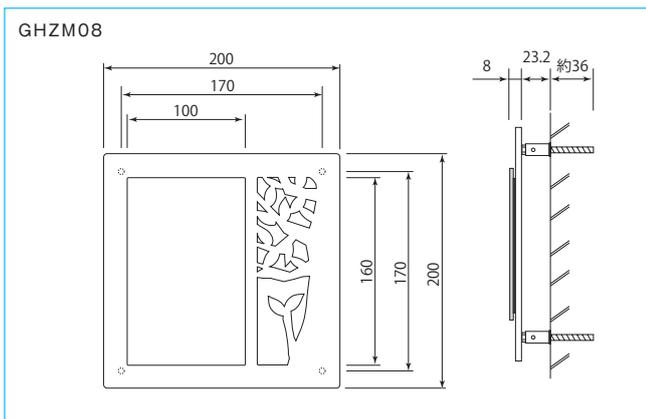
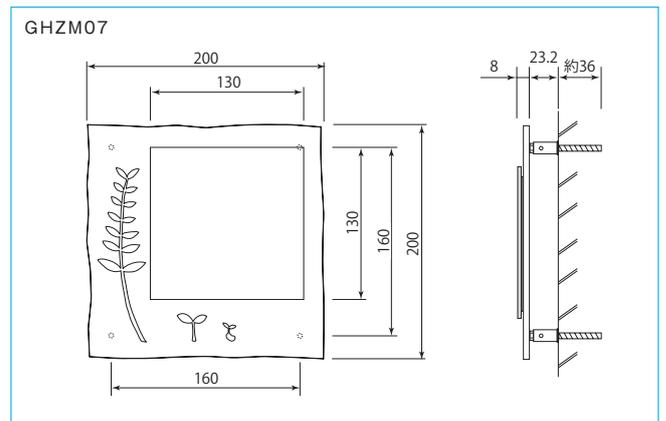
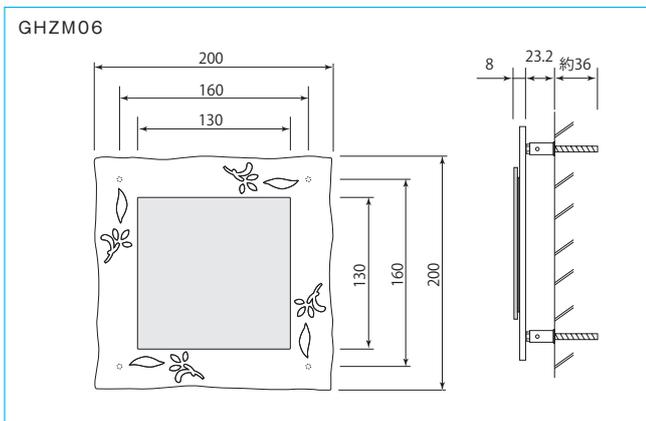
3 壁の穴に接着剤を注入して下さい。
表札本体の寸切りボルトにステンレス製ワッシャーを通し、これを壁の穴に差し込んで下さい。
接着剤が固まるまでは、表札をテープなどで壁に固定して下さい。
表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。
表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。
テープを外す時は、表札が壁に固定されているのを確認しながら作業を行って下さい。

ZMサイン(GSタイプ・ASタイプ)

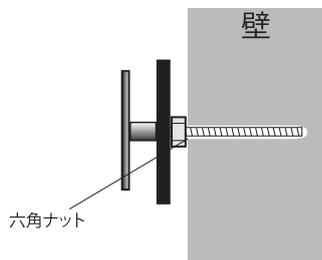
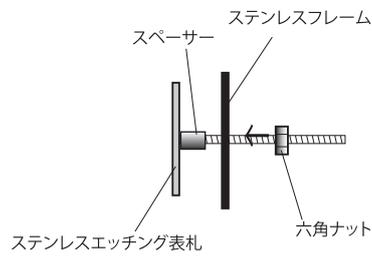
【GSタイプの寸法図】



【ASタイプの寸法図】



【GSタイプ (GHZM03、GHZM04、GHZM05) の施工要領】



※表札と壁の間に隙間がない方を好む場合は、六角ナットを外して下さい。

※ステンレスエッチング部分を素手で触らないようにご注意ください。錆が発生しやすくなります。

- 1 表札を組み立てます。ステンレスエッチング表札の裏側のボルトに、スーパー（金環）、ステンレスフレーム（又は、アクリル板）、の順に通して下さい。そして、六角ナットで留めて下さい。

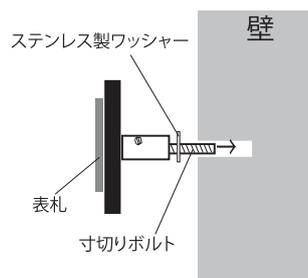
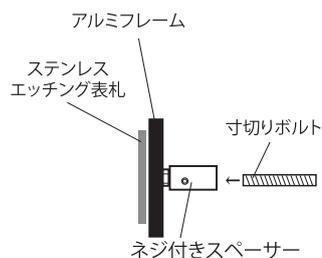
※表札と壁の間に隙間がない方が良い場合は、六角ナットは不要です。

- 2 電気（振動）ドリルで壁に穴を開けて下さい。穴の直径4～4.5mm、深さ約40mm。（この穴に通すボルトの太さは、直径4mmです）穴の中に残った削りくずは掃除機などで取り除いて下さい。

- 3 壁の穴に接着剤を注入して下さい。

表札を穴に差し込み、ボンドが乾いて固定されたら、完成です。

【ASタイプ (GHZM06、GHZM07、GHZM08) の施工要領】



※ステンレスエッチング部分を素手で触らないようにご注意ください。錆が発生しやすくなります。

- 1 表札の裏側についているネジ付きスーパーに寸切りボルトを回し込んで下さい。

※ネジ付きスーパーがぐらつく場合は、一旦寸切りボルトを外して、ネジ付きスーパーに付いている小さいネジを、L字型六角レンチで締めて下さい。

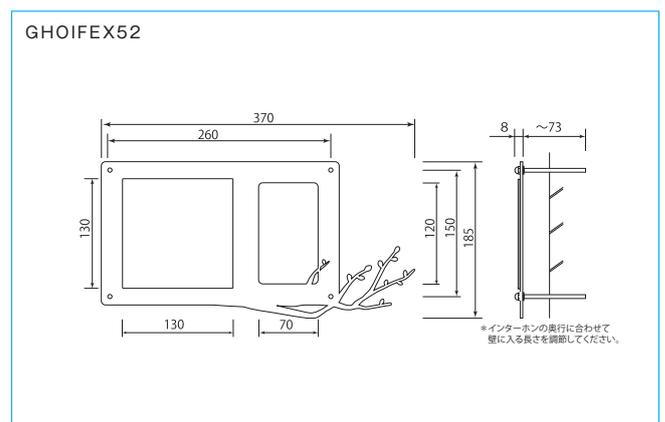
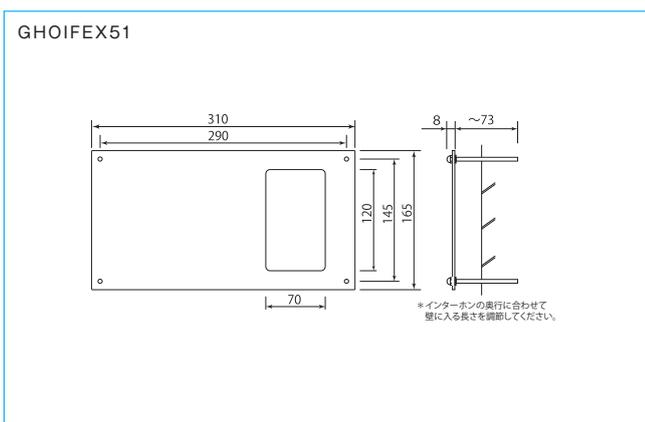
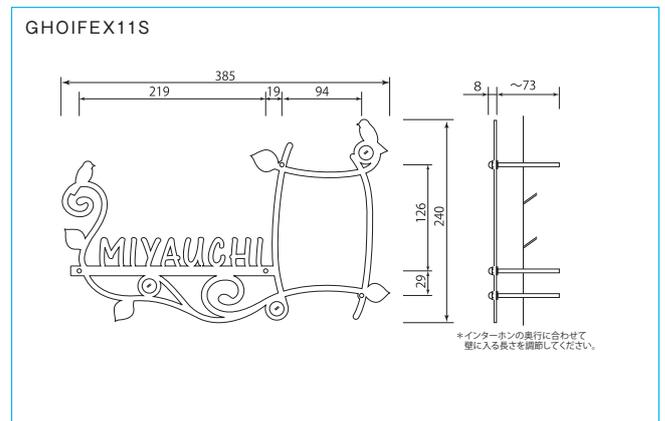
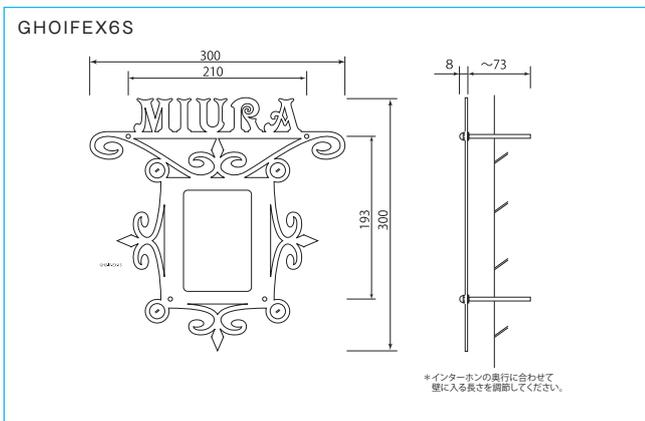
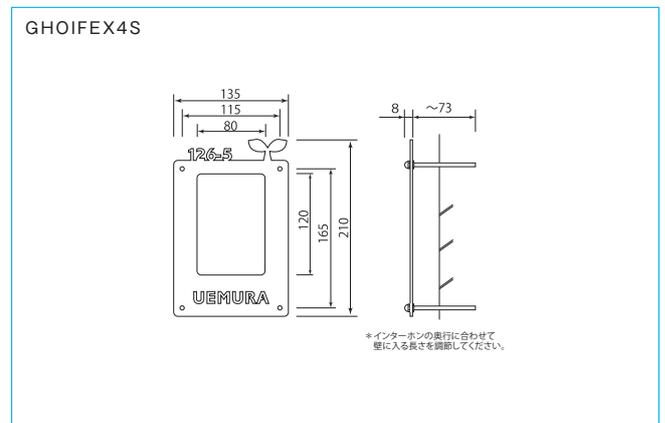
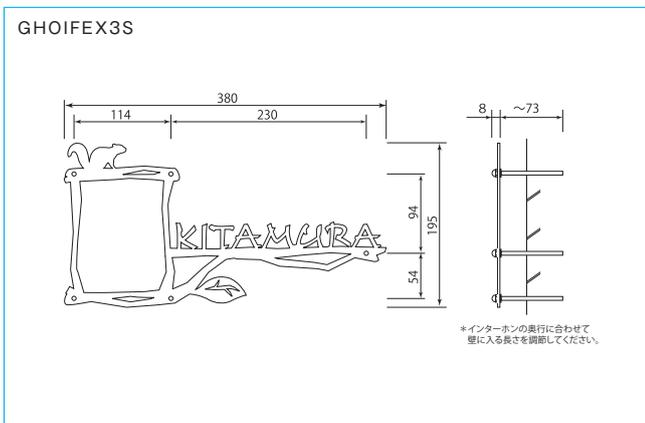
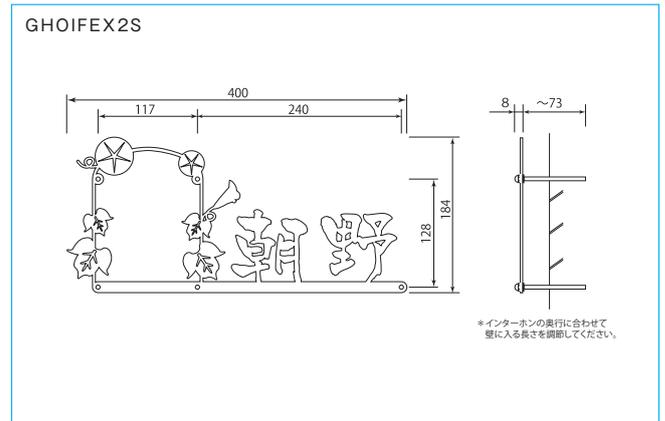
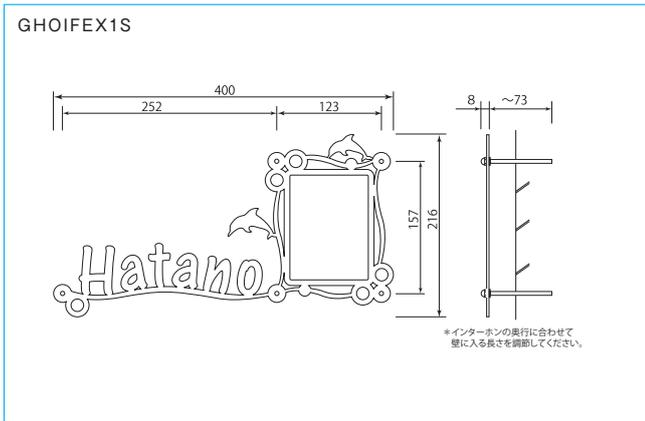


- 2 壁に電動（振動）ドリルで穴をあけて下さい。穴は、直径5.2～5.5mm、深さ約40mm。（穴に通すボルトの太さは、直径5mmです）穴の中に残った削りくずは掃除機などで取り除いて下さい。

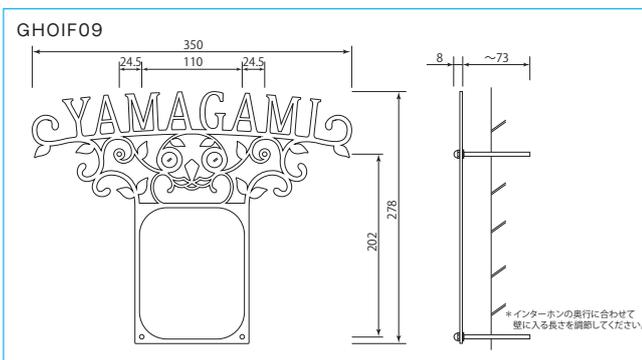
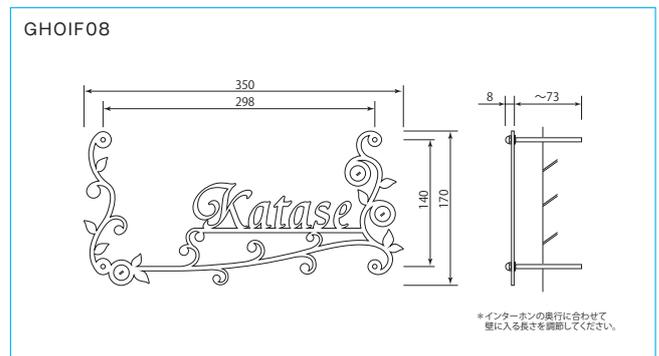
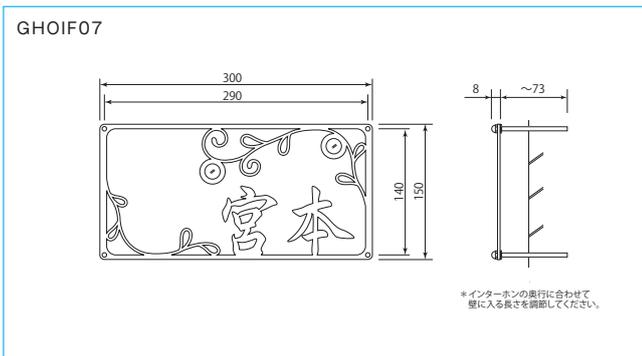
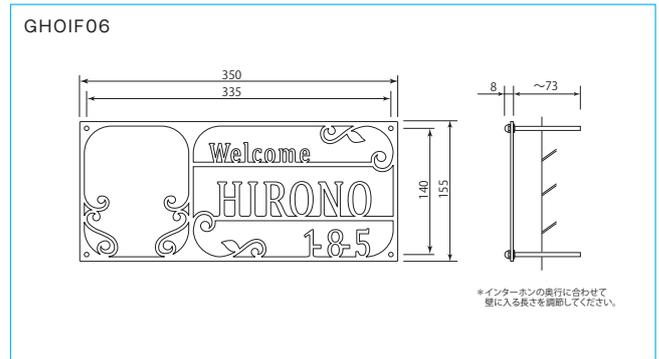
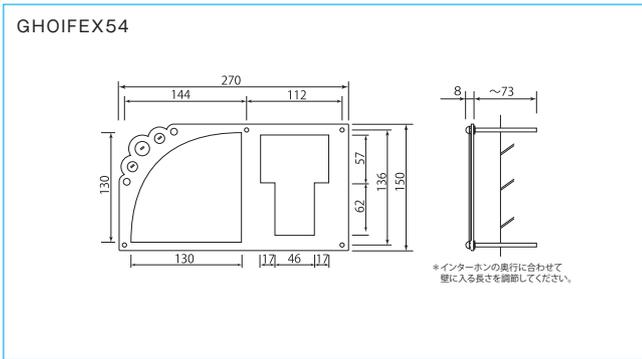
- 3 壁の穴に接着剤を注入して下さい。表札本体の寸切りボルトにステンレス製ワッシャーを通し、これを壁の穴に差し込んで下さい。接着剤が固まるまでは、表札をテープなどで壁に固定して下さい。表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。

インターホンカバーサイン

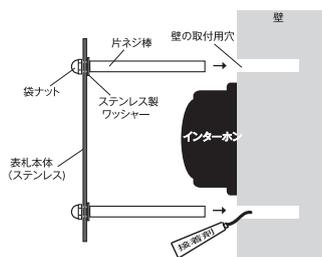
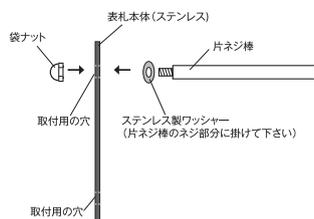
【インターホンカバーサインの寸法図】



【インターホンカバーサインの寸法図】



【インターホンカバーサインの施工要領】



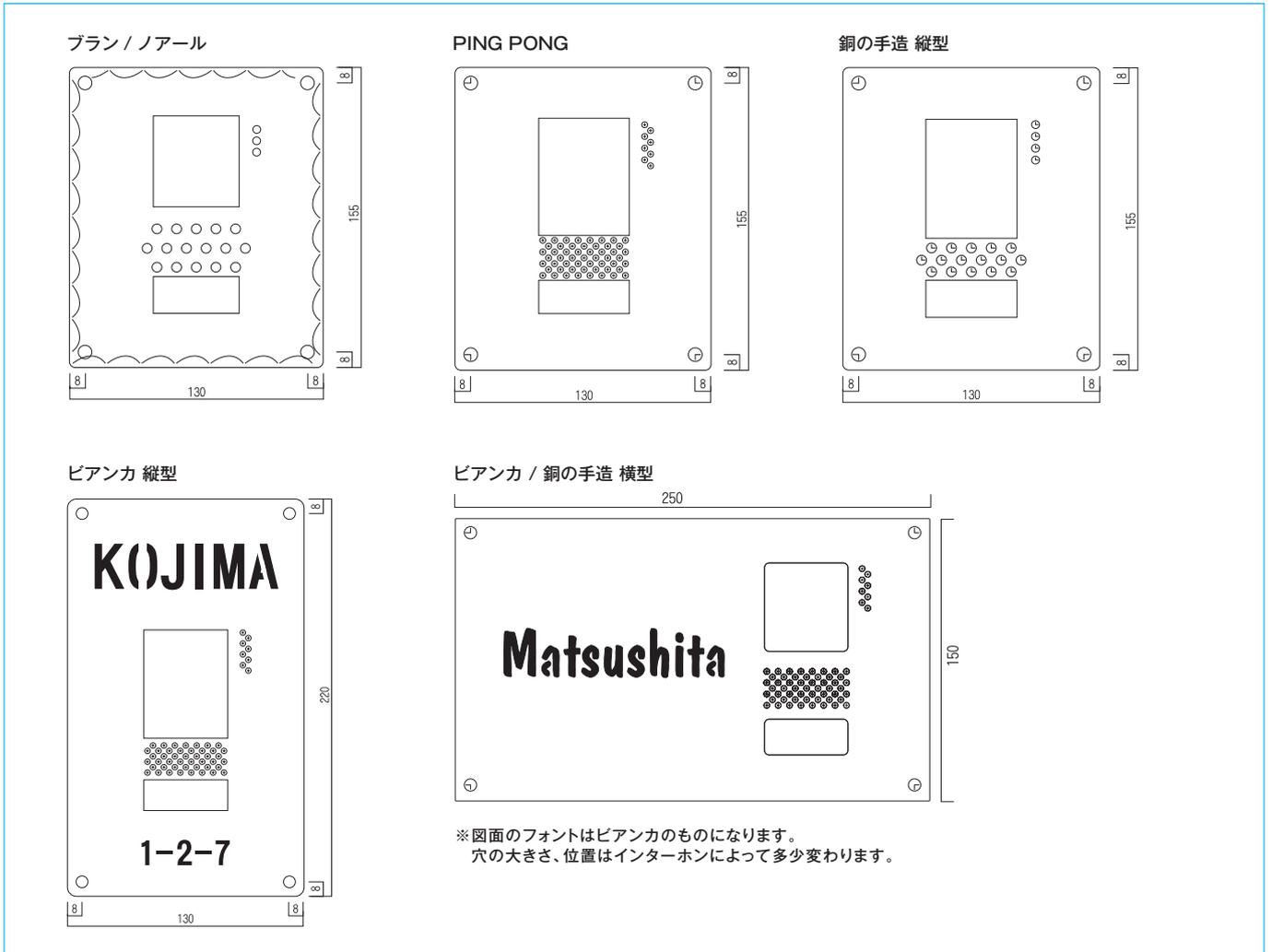
- 【壁に穴を開ける】
表札側の穴位置を確認し、取り付ける壁に電動(振動)ドリルで穴を開けて下さい。
穴の直径:約6~6.5mm、穴の深さ:約40mm。
(この穴に差し込む棒の太さは、直径6mmです)
穴の中に残った削りクズは掃除機などで取り除いて下さい。
- 【表札本体に片ネジ棒を取り付ける】
表札の取り付け穴に片ネジ棒を袋ナットで固定して下さい。
- 【表札本体を壁に取り付ける】
壁の穴に接着剤を注入し、表札本体の片ネジ棒を差し込んで下さい。片ネジ棒をどこまで差し込むかは、インターホンの奥行きや見た目のご希望により、決めて下さい。

接着剤が固まるまでは、表札をテープなどで壁に固定して下さい。表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。テープを外す時は、表札が壁に固定されているのを確認しながら作業を行って下さい。

インターホンカバー カッパー&アイアン

施工要領 寸法図

【寸法図】



【インターホンカバー カッパー&アイアン 施工要領】

インターホン(壁面に取り付けられている)にインターホンカバーを合わせて取り付け位置を確認します。(スイッチやカメラ位置に注意してください。)
次に合わせた位置のまま、高ナットの埋め込み部分にアタリを付けます。
アタリを付けたところに穴をあけて、コンクリートボンドを流し込み、高ナットの埋め込み部分を差し込んでください。

【PING PONG/銅の手造 銅製品の取扱説明】

特徴

この銅製品は、古美色を得るため硫化イブシ仕上げをしています。塗装ではなく銅に硫化被膜を化成し着色する仕上げです。

硫化面は化学的な影響を受けやすく、一般には変色を防ぐため、クリア(透明樹脂塗料)で保護してあります。クリアは永久のものではありませんので、クリアが劣化した部分から変色が始まります。

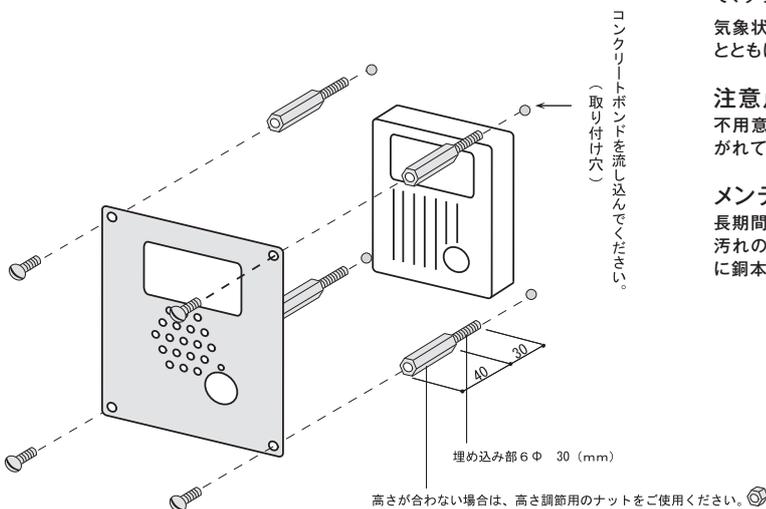
気象状況、設置場所等により、ムラに変色していく場合がありますが、経年とともに本来の硫化皮膜が形成され落ち着いた雰囲気になります。

注意点

不用意にテープやシールを貼らないで下さい。剥がすとイブシも一緒に剥がれてしまいます。

メンテナンス

長期間ほこりが付着したままにならないよう、乾拭きをお勧めします。汚れのひどい場合は水拭きをして下さい。手入れの良いものは、経年とともに銅本来の味わい深い、古美色になっていきます。



ファサード

グラストリー

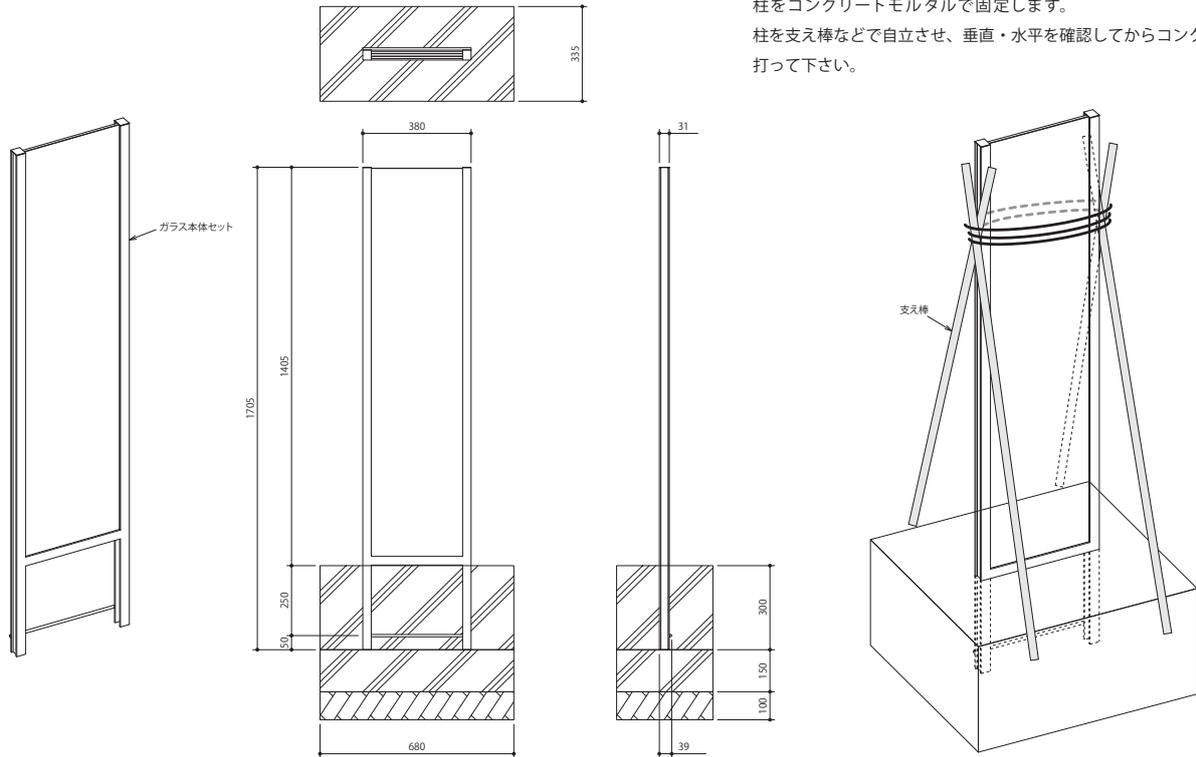
[GS1型]

■梱包内容

■商品基本寸法図

■固定方法

柱をコンクリートモルタルで固定します。
柱を支え棒などで自立させ、垂直・水平を確認してからコンクリートを打って下さい。



■梱包内容

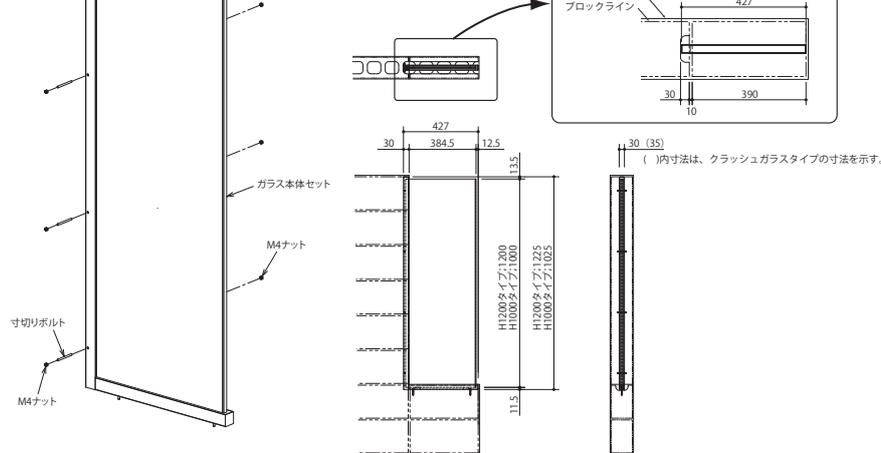
部材	必要数	単位
ガラス本体セット	1	台

[GS2型]

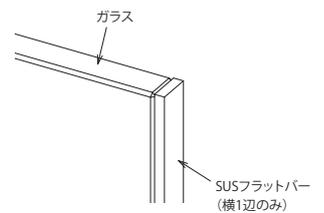
■梱包内容

本製品には方向性があり左勝手(L)/右勝手(R)が御座います。
デザイン上左勝手または右勝手を逆向きにはご使用頂けませんのでご注意ください。
(本ページの図は全て左勝手(L)を示し、右勝手(R)は対称形となります。)
但し、クラッシュガラス仕様には方向性が御座いませんので、どちら向きでもご使用頂けます。
また、クリアガラス仕様とクラッシュガラス仕様では、ガラスの縁金具が右図の様に異なります。

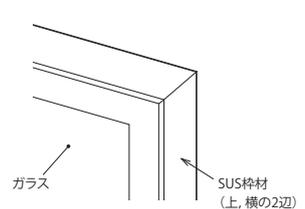
■商品基本寸法図



クリアガラス仕様



クラッシュガラス仕様

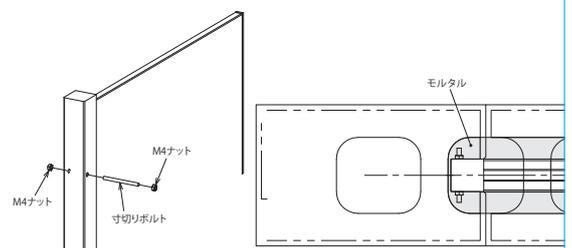


■梱包内容

部材	必要数	単位
ガラス本体セット (L) または (R)	1	台
寸切りボルト	4	本
M4ナット	8	個

■設置方法

- 1 ガラス本体セットの側面金具へ寸切りボルトを差込み、ナットで締め付けます。
- 2 取付位置を確認し、右図の様に側面及び下面をモルタルで固定します。

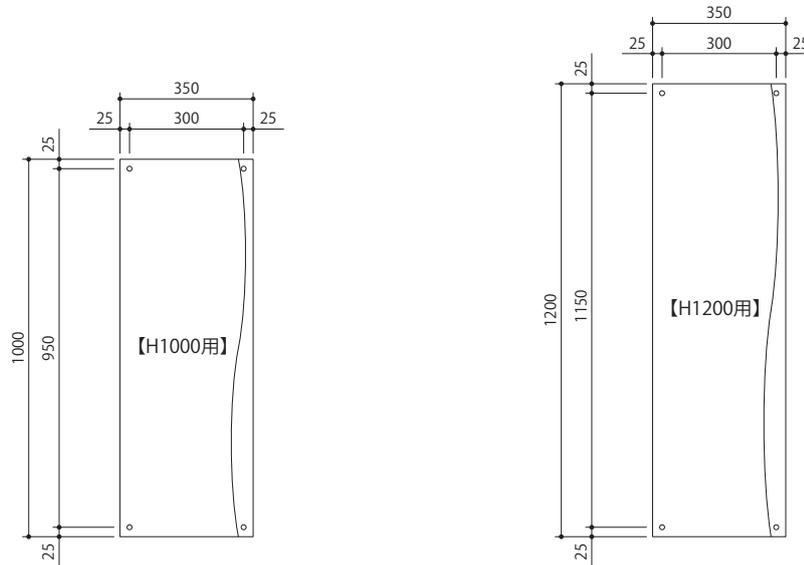


【GS3型】

■ 梱包内容

部材	必要数	単位
ガラス本体	1	式
ステンレス装飾	1	式
化粧ボルトセット	4	セット
オールアンカーボルト	4	セット

■ 商品基本寸法図

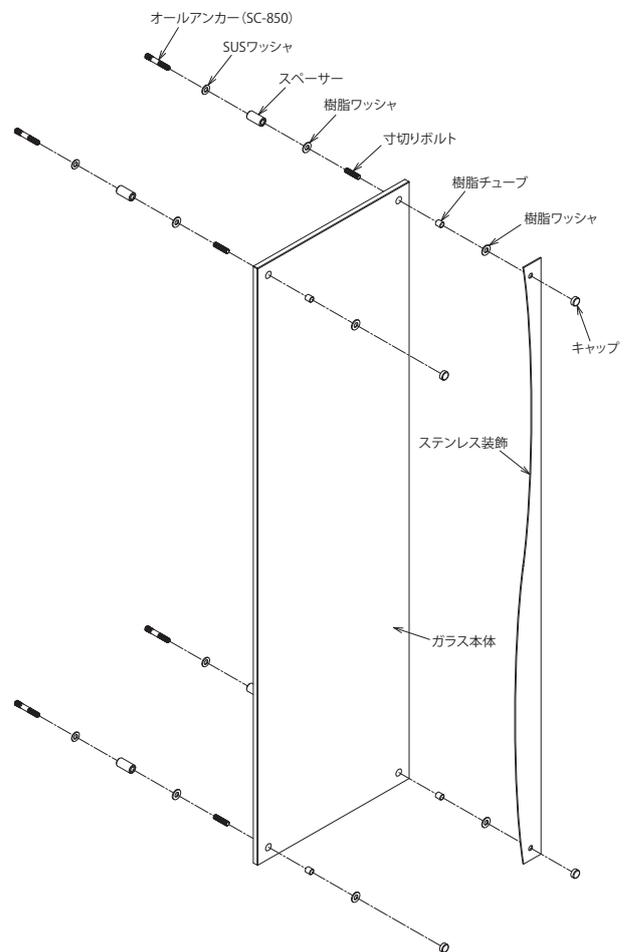
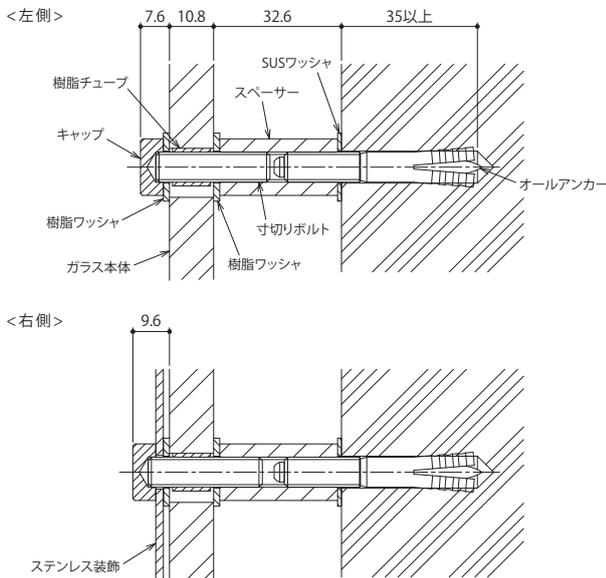


■ 取付手順

- 1 ガラスを取り付ける位置に合わせて取付位置を壁にけがきます。
- 2 けがいた位置に振動ドリルで穴径φ8.4、深さ35mm以上あけ、ネジ部が15mm突出するようにオールアンカーボルトを打ち込みます。
- 3 オールアンカーボルトにセットされているナットを外して、SUSワッシャ、スペーサーをセットします。
- 4 キャップへ寸切りボルトをねじ込み、樹脂ワッシャ、樹脂チューブ、ガラス本体、樹脂ワッシャの順番でセットします。
※右側はステンレス装飾を先にセットします。
- 5 上記でセットしたものをスペーサーへねじ込み固定します。

 キャップを必要以上に締め付けると、ガラスが割れる恐れがありますので、必ず手で締め付けてください。(ペンチ等の工具を使用しないで下さい)

■ 納まり図



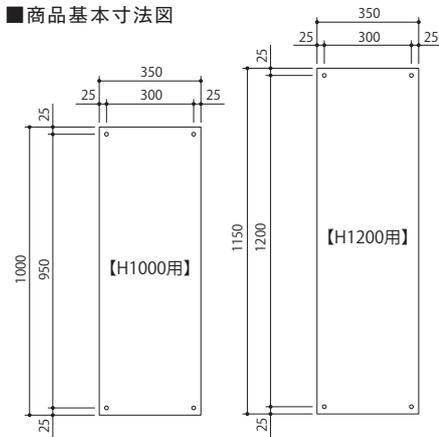
グラストリー

【GS4型】

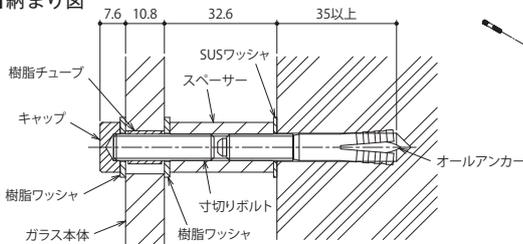
■梱包内容

部材	必要数	単位
ガラス本体	1	枚
化粧ボルトセット	4	セット
オールアンカーボルト	4	枚

■商品基本寸法図



■納まり図

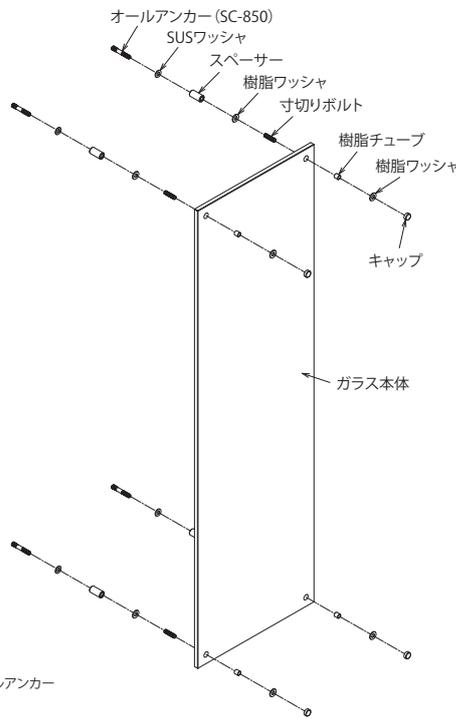


■取付手順

- 1 ガラスを取り付ける位置に合わせて取付位置を壁にけがきます。
- 2 けがいた位置に振動ドリルで穴径φ8.4、深さ35mm以上あけ、ネジ部が15mm突出するようにオールアンカーボルトを打ち込みます。
- 3 オールアンカーボルトにセットされているナットを外して、SUSワッシャ、スペーサーをセットします。
- 4 キャップへ寸切りボルトをねじ込み、樹脂ワッシャ、樹脂チューブ、ガラス本体、樹脂ワッシャの順番でセットします。
- 5 上記でセットしたものをスペーサーへねじ込み固定します。



キャップを必要以上に締め付けると、ガラスが割れる恐れがありますので、必ず手で締め付けてください。(ペンチ等の工具を使用しないで下さい)



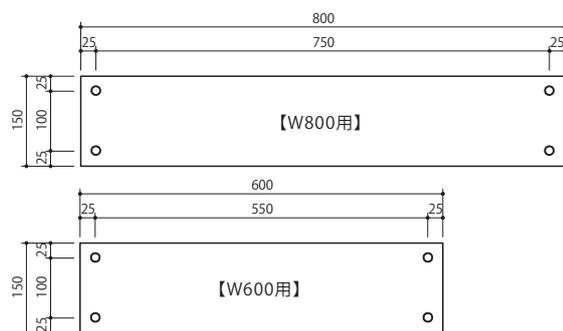
【GS5型】

■梱包内容

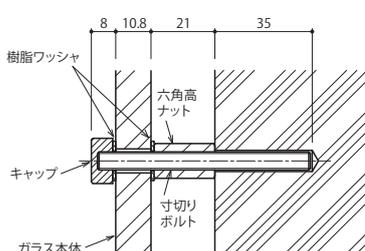
部材	必要数	単位
ガラス本体	1	枚
化粧ボルトセット	4	セット

※現場にて手配して頂くもの
 ・接着剤(コンクリートボンド)
 ・養生テープ

■商品基本寸法図



■納まり図

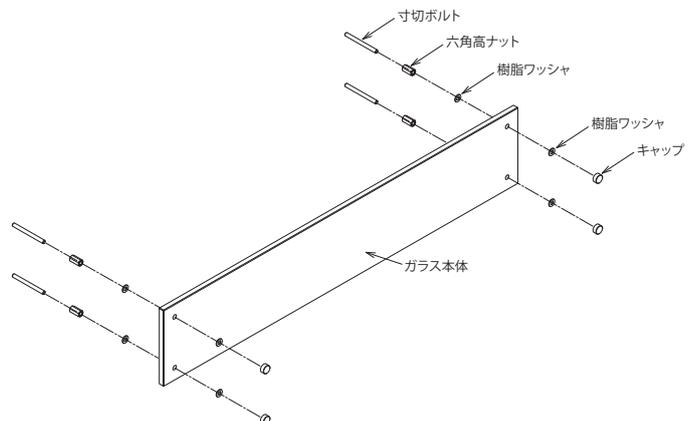


■取付手順

- 1 ガラスを取り付ける位置に合わせて取付位置を壁にけがきます。
- 2 けがいた位置に振動ドリルで穴径φ7、深さ35mm以上の穴をあけます。
- 3 右図の順番にガラス本体へ化粧ボルトセットを固定します。
- 4 壁の穴内部へ接着剤を注入し、本品を差し込みます。接着剤が固まるまでは養生テープ等にて仮固定して下さい。

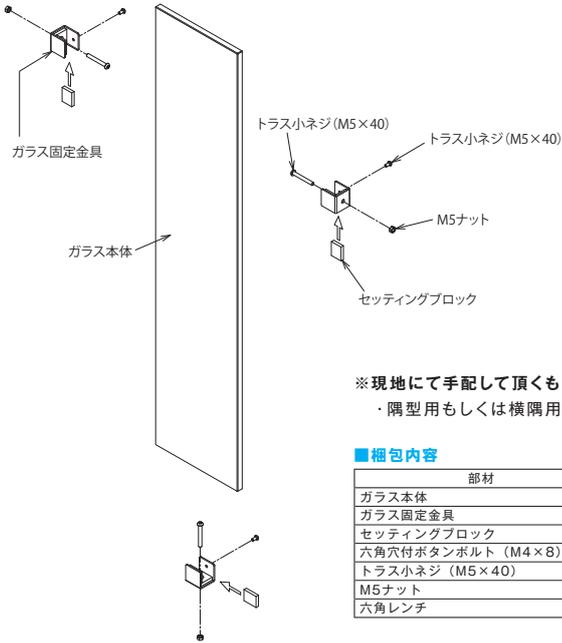


ねじを固定の際、電動工具による固定はしないで下さい。ガラス破損の原因となります。



【GS6型】

■梱包内容



※現地にて手配して頂くもの
・隅型用もしくは横隅用ブロック

■梱包内容

部材	必要数	単位
ガラス本体	1	枚
ガラス固定金具	3	個
セッティングブロック	3	枚
六角穴付ボタボルト (M4×8)	3	本
トラス小ネジ (M5×40)	3	本
M5ナット	3	個
六角レンチ	1	本

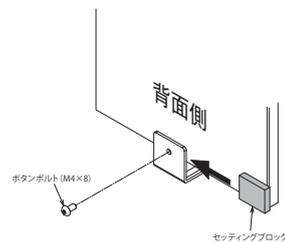
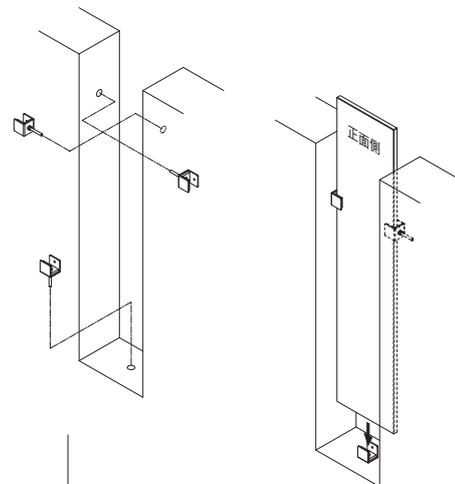
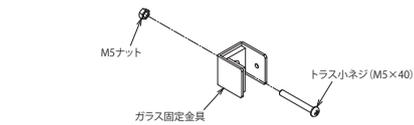
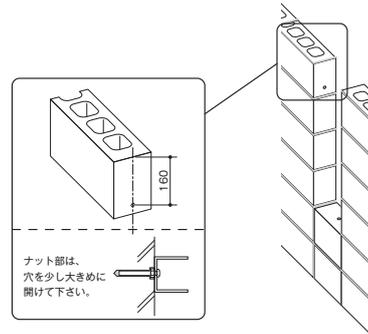
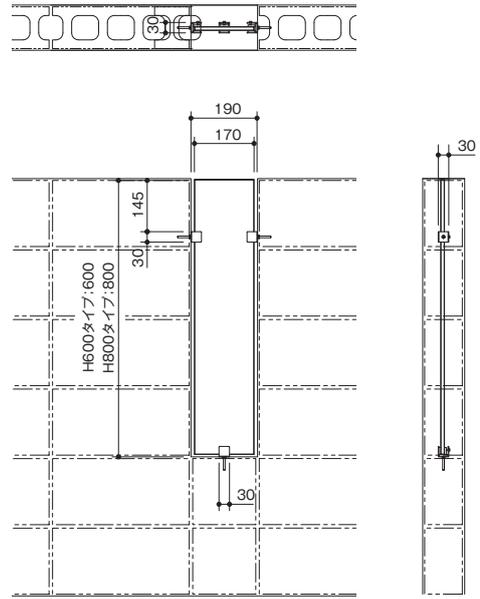
■取付手順

- 1 コンクリートブロック (隅型用もしくは横隅用) の側面に予め、振動ドリルで穴φ7、深さ40mmの穴をあけます。
- 2 ガラス固定金具にトラス小ねじ (M5×40) をM5ナットにて取り付けます。
- 3 上塗り後、コンクリートブロックの穴にコンクリートボンド (市販品) を注入し、ガラス固定金具を図の様に差し込みます。
- 4 ガラス本体を図の様に上部から差し込み据え付けます。
- 5 背面よりセッティングブロックを圧入し、六角穴付きボタボルト (M4×8) にて締め付けガラスを固定します。 (3ヶ所共)



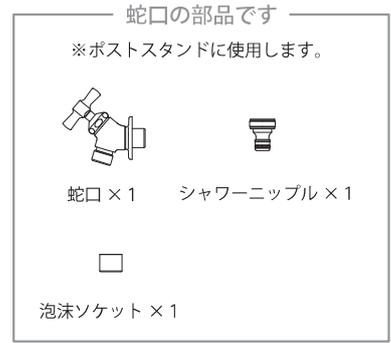
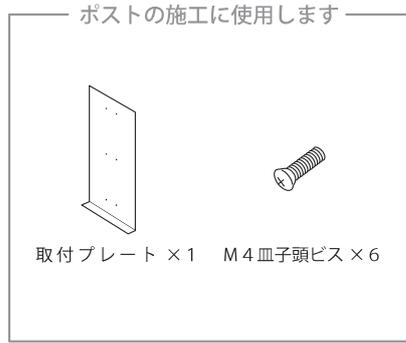
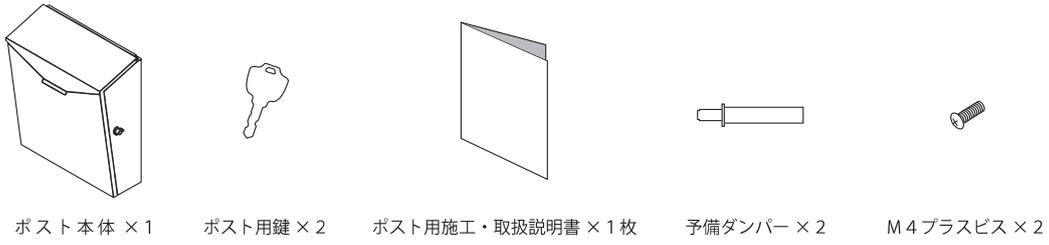
ボタボルトにて締める際には、締め付け過ぎに注意して下さい。ガラスが破損する場合があります。

■商品基本寸法図

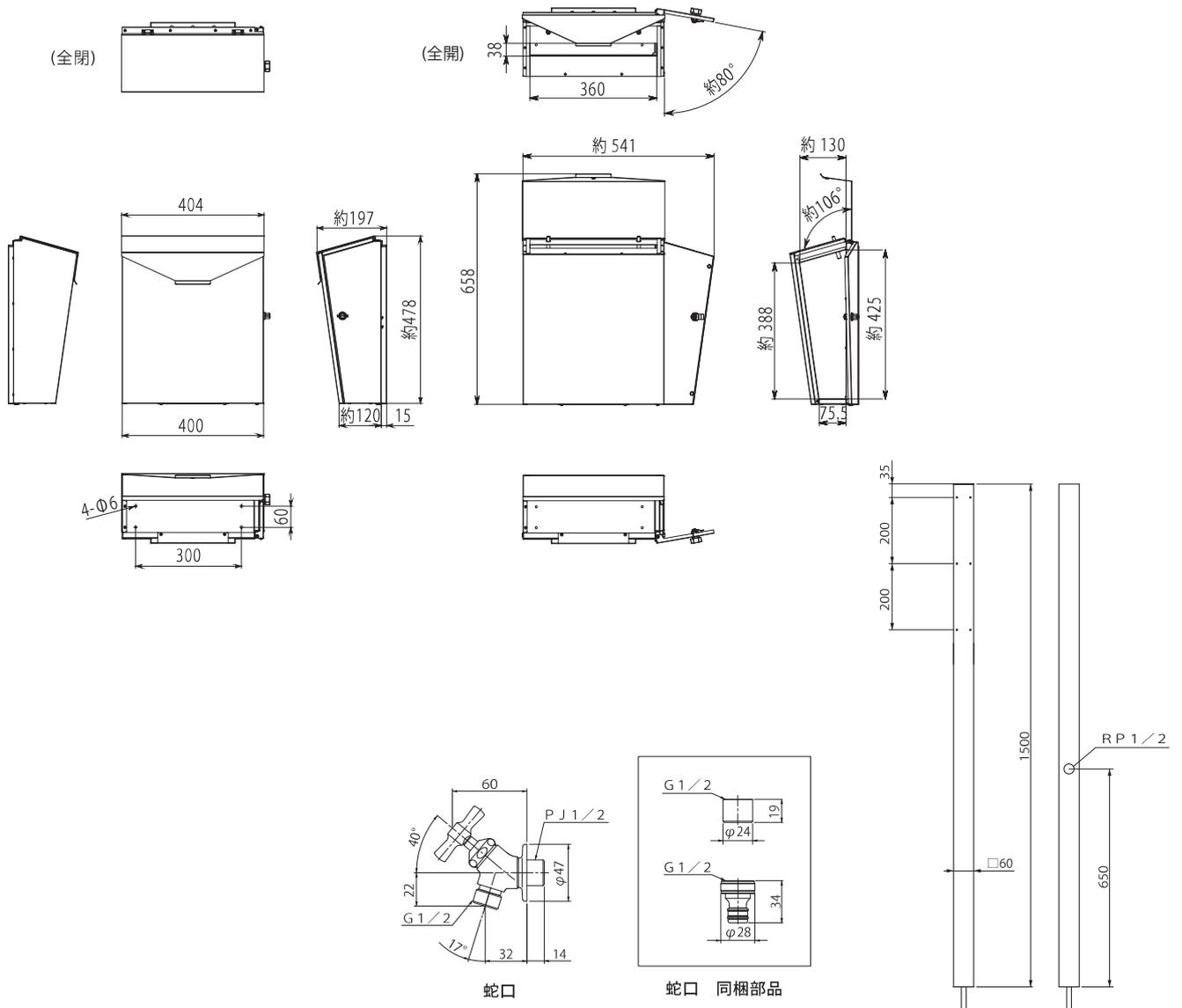


小庭ポスト

■ 梱包内容

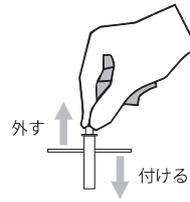
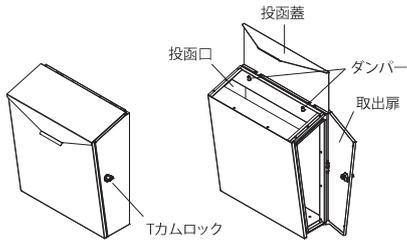


■ 寸法図



ファサード

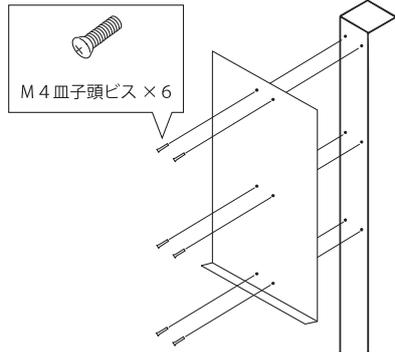
■ 各部名称



ダンパーは指でつまんで簡単に
取り外すことができます。
交換される際は上蓋に指を挟ま
ないようにご注意ください。

■ 施工要領

取付プレートの取り付け方法



※付属の「M4 皿子頭ビス」を使用して6箇所とめてください。

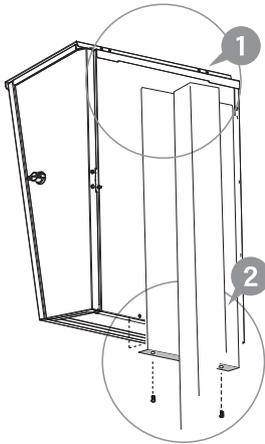
⚠ 注意

ビス止めをする際に、あまり強く締めすぎますと、
水栓柱側のネジを壊してしまう恐れがありますので
ご注意ください。

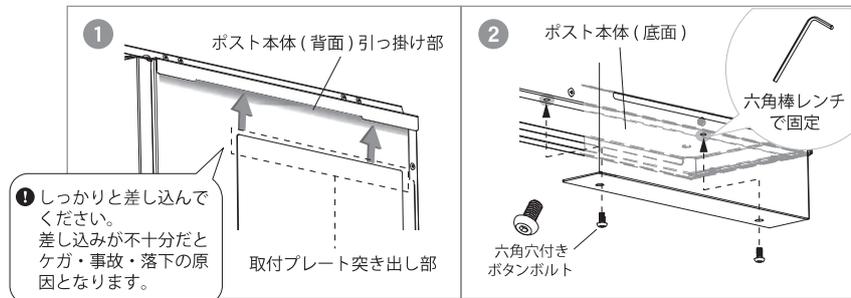
ポスト取り付け方法

取付プレートにポスト本体を取り付けます。(※ ① の図を参照)

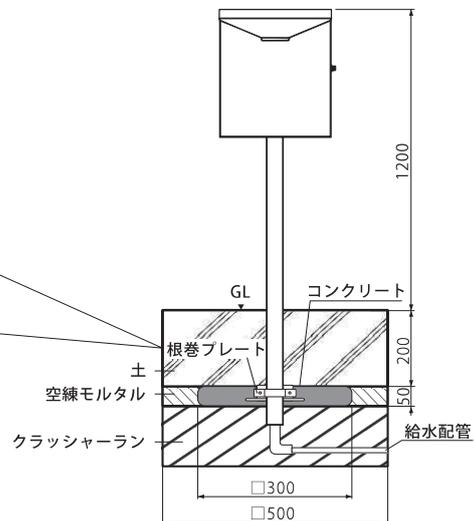
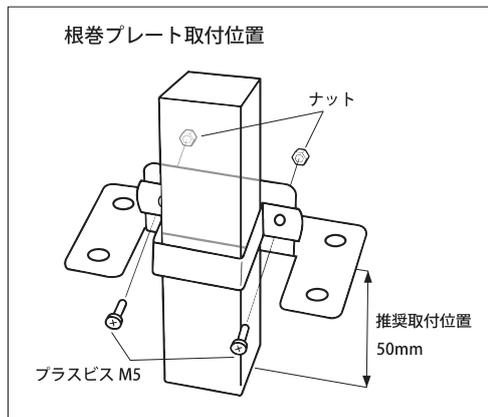
取付プレートの上側の突き出し部をポスト本体(背面)の引っ掛け部にしっかりと差し込みます。
付属の六角穴付きボタボルトを六角棒レンチを使用し、ポスト本体底面2か所を固定します。
(※ ② の図を参照)



① 取付中にポストが落下しないよう、必ず支えながら取付作業を行ってください。



■ 施工断面図



宅配ボックス

【据置タイプ】

■ 寸法図

■ 各部名称

付属品

- ・鍵(シリンダー錠子鍵)2本
- ・シリンダー錠
- ・ナンバーシール1枚
- ・専用受領印

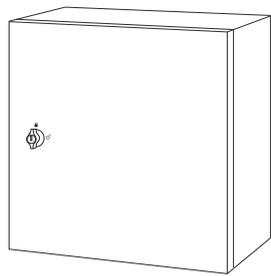
【壁掛けタイプ(3333V2)】

■ 3333V2R (シリンダー錠 右勝手)

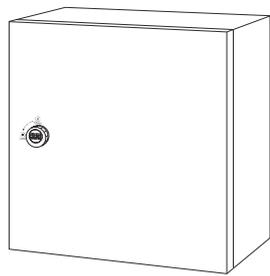
■ 3333V2L (シリンダー錠 左勝手)

【壁掛けタイプ(3333V2)】

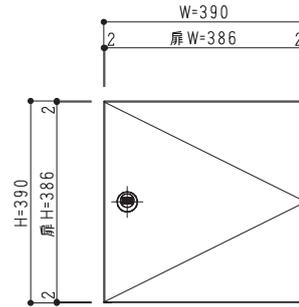
■ 寸法図



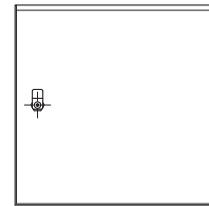
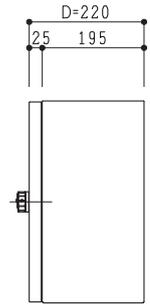
シリンダー錠



ダイヤル錠



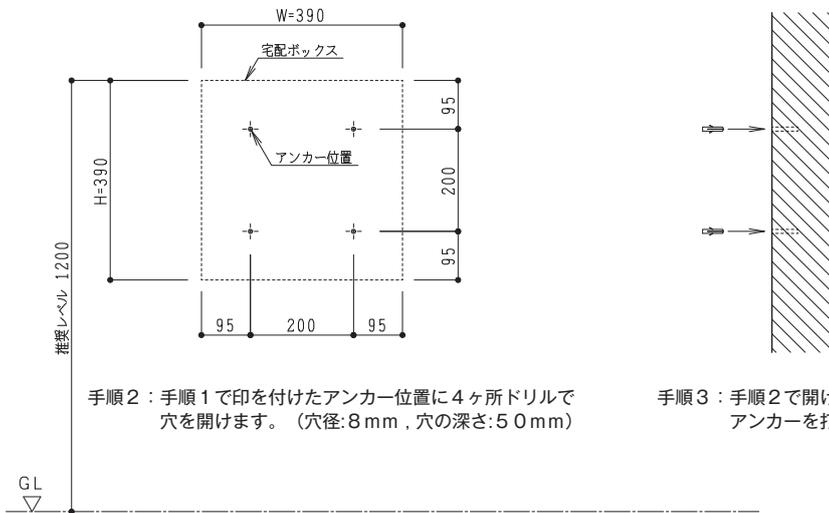
ダイヤル錠



シリンダー錠

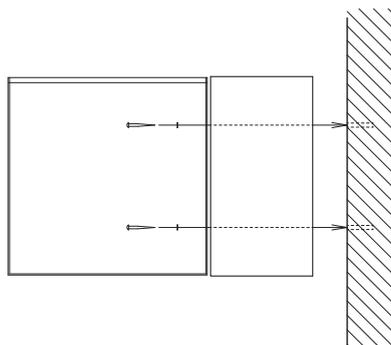
■ 取付方法 ※この取付手順は一般的な取付方法です。条件に合わせて設計者の指示に従ってください。

手順1：壁面（コンクリート等）に取付する宅配ボックスの位置を決め、アンカー位置（下図参照）を壁面に鉛筆等で印を付けます。
位置：宅配ボックスの天端が地上から1,200mmになる高さ（推奨）

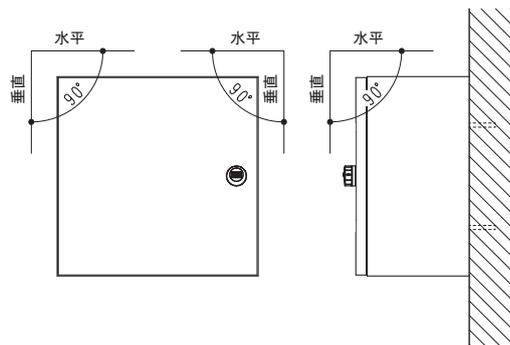


手順2：手順1で印を付けたアンカー位置に4ヶ所ドリルで穴を開けます。（穴径:8mm、穴の深さ:50mm）

手順3：手順2で開けた穴にナイロンアンカーを打ち込みます。



手順4：扉を開け本体の内部より丸木ネジにワッシャーを挿し4本でナイロンアンカーに仮止めします。



手順5：製品の水平・垂直（本体のコーナー直角）、扉が水平になっている事を確認し、丸木ネジの本締めを行って下さい。これで取付完了です。

宅配ボックス

【壁掛けタイプ(3333V2) 取扱説明】

各部名称 ※図は宅配ボックス3333V2R 右開き(右勝手)です。宅配ボックス3333V2L 左開き(左勝手)は左右反転の図になります。

ネームプレート付 受領印ケース

共通付属品

受領印用 ストラップ 1個

投入可能サイズ

18cm 10kg まで 33cm 33cm

シリンダー錠仕様

ダイヤル錠仕様

シリンダー錠仕様付属品

鍵2本 キーナンバーシール No.000

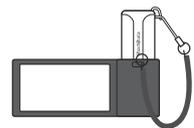
宅配ボックスのご使用方法

① はじめに、宅配業者の配達員の方に不在時の宅配ボックスへの配達方法をお伝えください。

郵便局の配達物(ゆうパック・書留等)の宅配ボックスへの配達については、郵便局公式ホームページをご確認頂くか日本郵便株式会社にお問い合わせください。

② 受領印とストラップを扉内側の受領印ケースにセットしてください。

受領印はお客様でご用意をお願い致します。(「シヤチハタ キャップレス 9」のみ付属のストラップに取付可能です。)



シリンダー錠仕様 荷物の受取り方[配達方法]

※イラストは右開きタイプです。

- 図のようにつまみが横向きで解錠の状態になっている事を確認し、扉を開けます。
- 荷物を入れます。
- 扉の裏側にある受領印(別途)を押印し、扉を閉めてください。
- つまみを左に90°回し、図のように縦向きになると施錠になります。これで配達完了です。

③ この宅配ボックスは1回受取用です。施錠の場合は入れる事ができません。

シリンダー錠仕様 荷物の取出し方

- 鍵を挿し右に180°回します。同時につまみが横向きになります。
- 鍵を左に90°戻し、鍵を抜いて解錠になります。
- 扉を開け荷物を取り出し、扉を閉めます。

鍵を紛失してしまった場合・スペアキーをご購入希望の場合

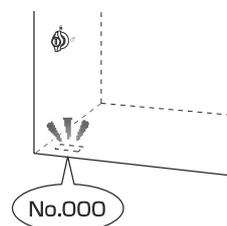
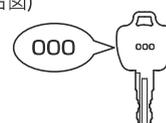
キーナンバーをご確認の上、製品名と併せて弊社またはお買い上げ販売店までご連絡ください。

<キーナンバーの確認方法>

鍵にキーナンバーが刻印されています。紛失してしまった場合は、宅配ボックス本体の底面に(右図)キーナンバーシールが貼られていますのでこちらをご確認ください。

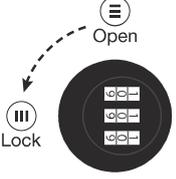
No.

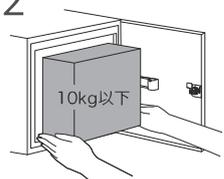
付属のキーナンバーシールはこちらに貼り、大切に保管してください。

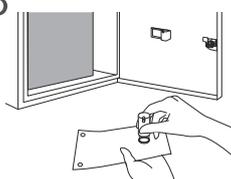


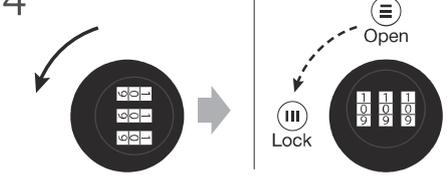
ダイヤル錠仕様 荷物の受取り方【配達方法】

※イラストは右開きタイプです。左開きタイプは反転になります。

- 1 

ダイヤルが **Open** の状態 (数字が横向き) になっている事を確認し、扉を開けます。
- 2 

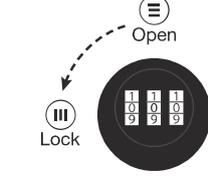
荷物を入れます。
- 3 

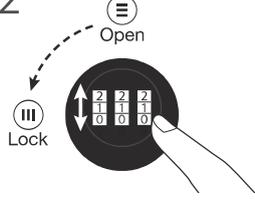
扉の裏側にある受領印(別途)を押し、扉を閉めてください。
- 4 

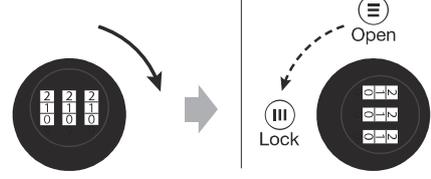
ダイヤル錠を左に回してダイヤルが **Lock** の状態になると施錠になります。(扉が左開きの場合はダイヤル錠を右に回します。) これで配達完了です。

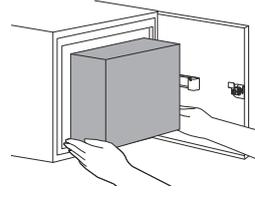
 この宅配ボックスは1回受取用です。ダイヤル錠が **Lock** の状態の場合は入れる事ができません。

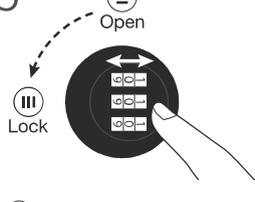
ダイヤル錠仕様 荷物の取出し方

- 1 

ダイヤル錠が **Lock** の状態になっている事を確認します。
- 2 

ダイヤルを暗証番号に合わせます。(暗証番号が『1111』の場合)
- 3 

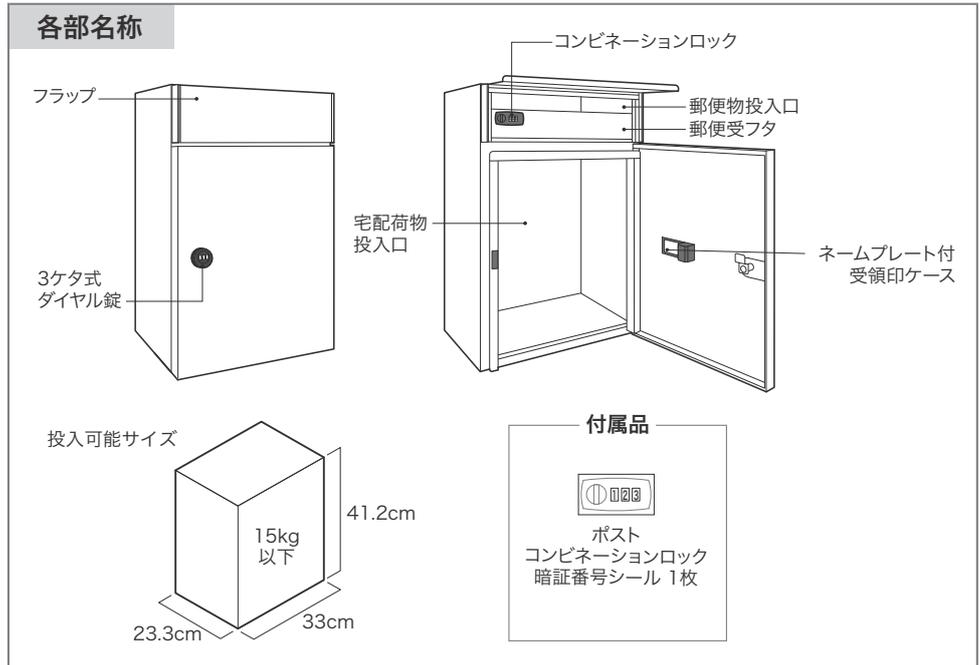
ダイヤル錠を右に回して **Open** の状態 (数字が横向き) にして、扉を開けます。(扉が左開きの場合はダイヤル錠を左に回します。)
- 4 

荷物を取り出し、扉を閉めます。
- 5 

Open の状態でダイヤルを回して、暗証番号を必ず崩してください。

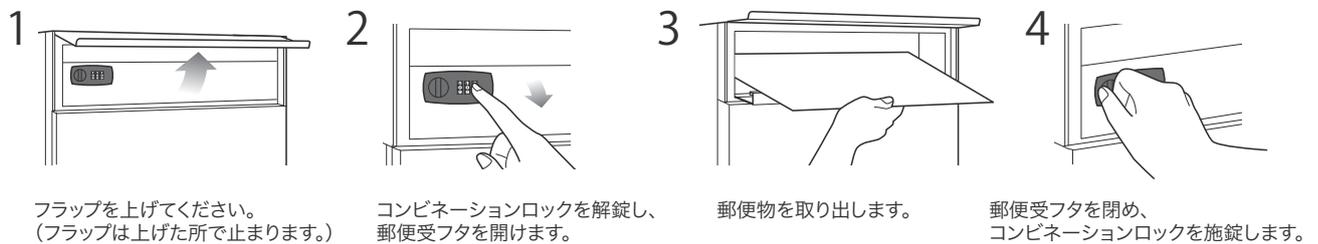
 暗証番号のままになっていると、次回使用時に「Lock」にしても施錠されません。また、第三者に暗証番号を知られる恐れがありますので必ず暗証番号は崩してください。

タクポス

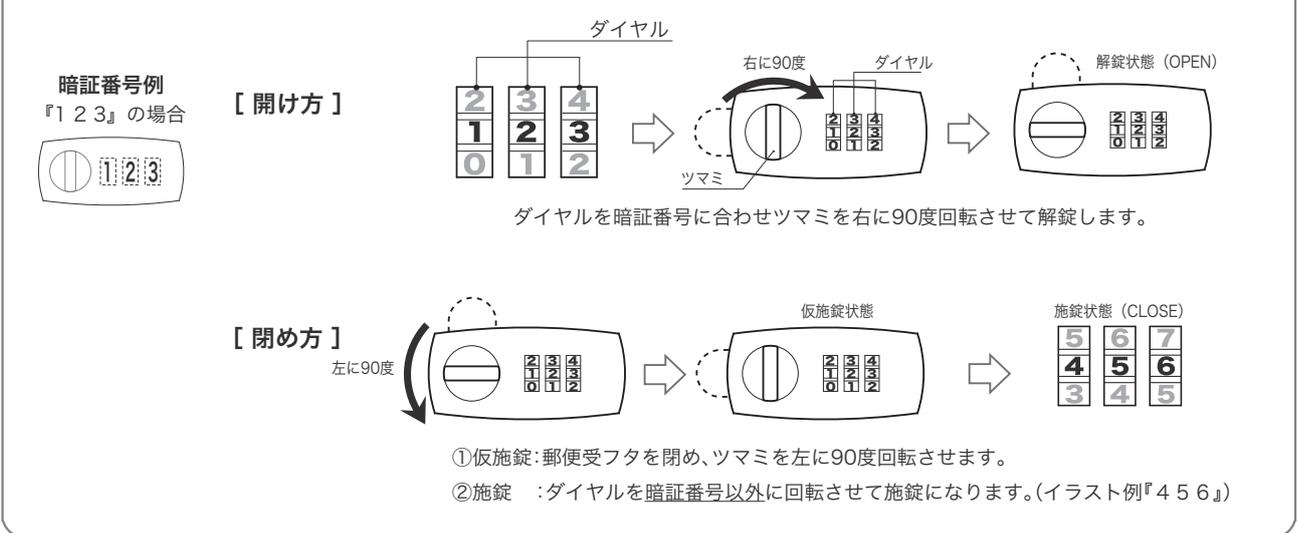


ポストのご使用方法

郵便物の取だし方

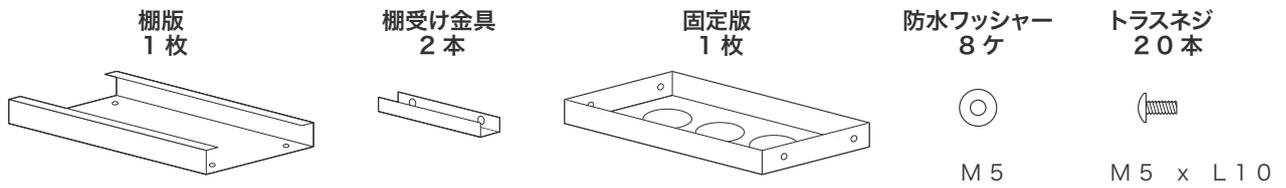


コンビネーションロックの使用方法



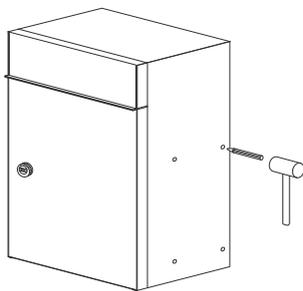
ファサード

■ 付属品 *万一、不足の場合はお買い上げ店にご連絡ください。

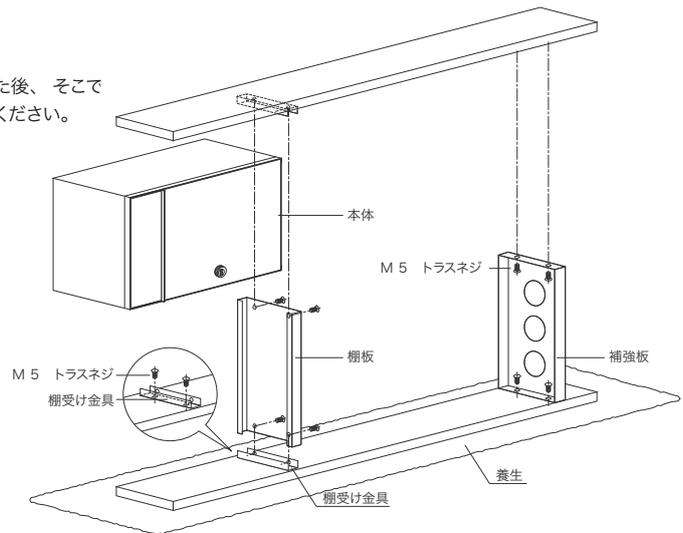


■ スタンドの施工要領

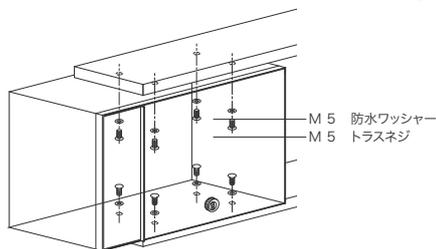
1. 本体側面のノックアウト穴を8点打ち抜きます。



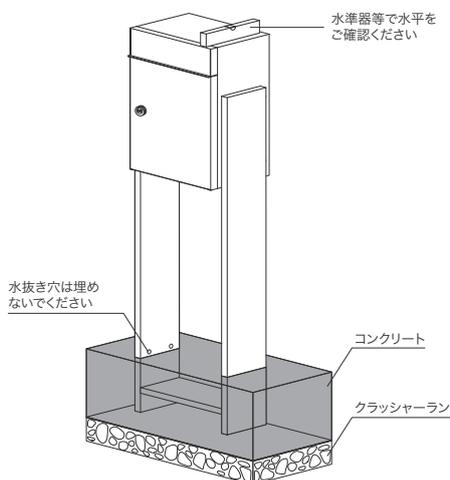
2. 平らな床面に養生をした後、そこでフレームの組立てをしてください。



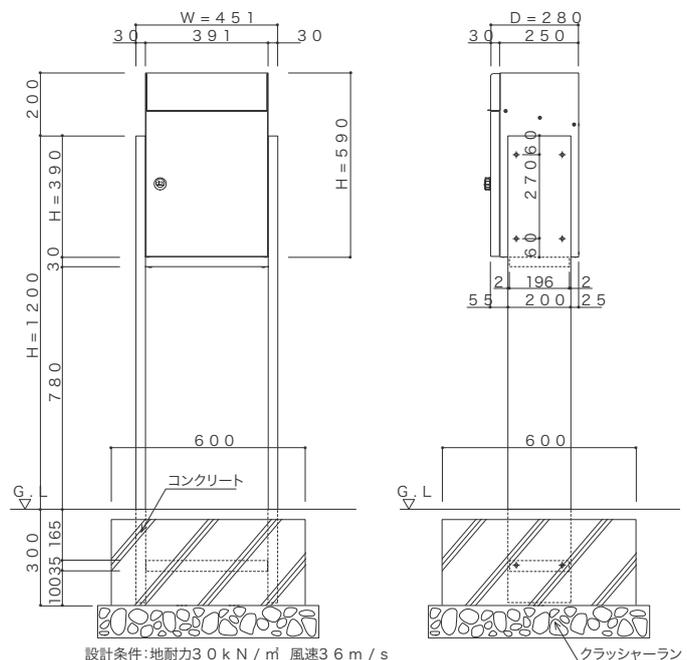
3. 本体の内側から本体とフレームをM5 トラスビスで固定します。
※宅配ポスト内はせまいため小型のドライバー等をご用意頂くと作業がしやすくなります。



4. 設置場所を掘削し、クラッシャーランを敷き固めてください。
3. で組立てたフレームを水平に設置し、コンクリートで固定してください。



■ 寸法図



Glut (グラット)

●本体セット

No.	同梱部品	数量
1	本体	1
2	トリカルネット	1
3	スクリベット	4
4	六角レンチ(呼び2)	1

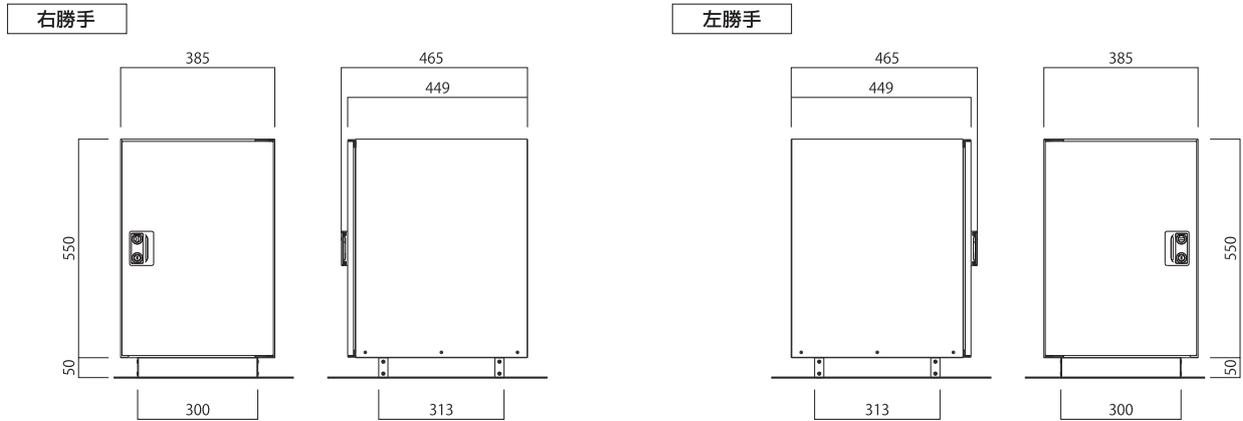
●オプションベース

No.	同梱部品	数量
1	固定ベースA	1
2	固定ベースB	1
3	極低頭ボルト (M4×35)	4
4	トラス小ねじ (M8×60)	1
5	グリップアンカー (M8×35)	1

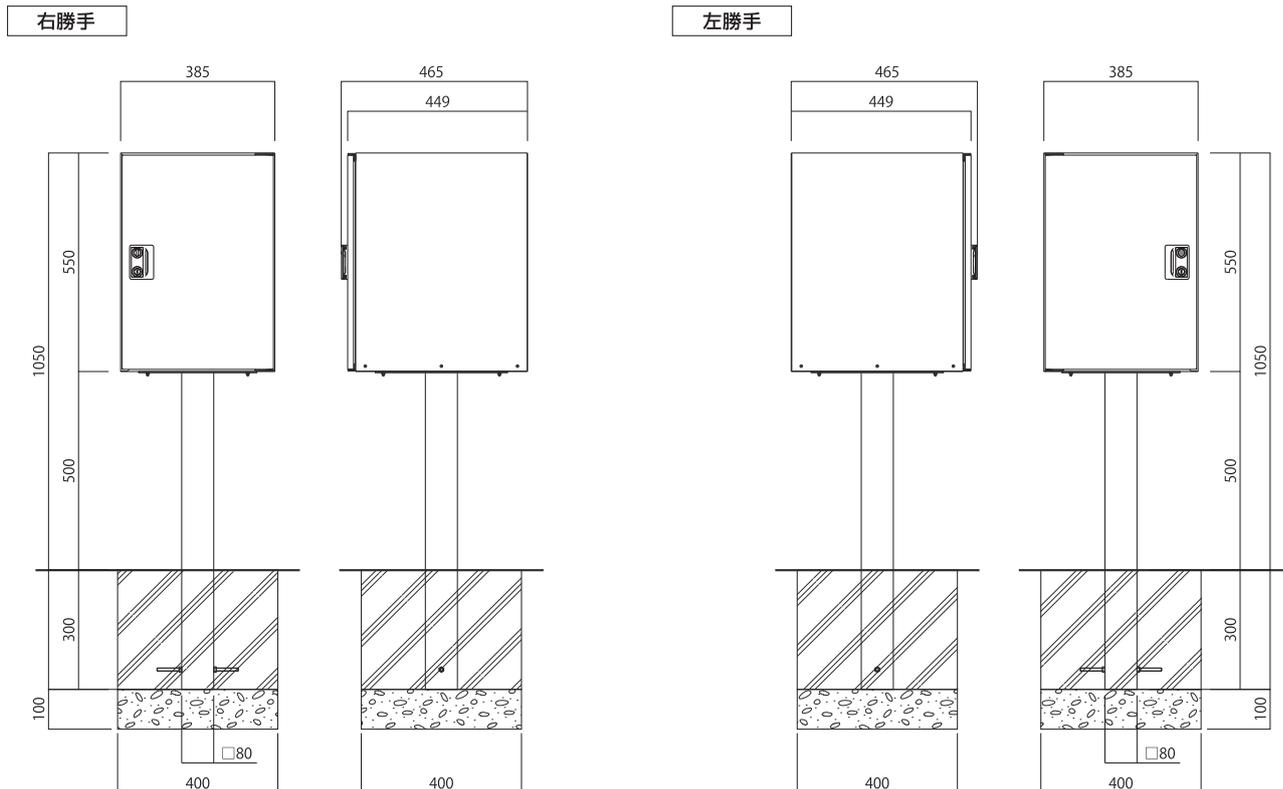
●オプションスタンド

No.	同梱部品	数量
1	オプションスタンド	1
2	極低頭ボルト (M4×35)	4
3	袋ナット (M4)	4
4	スプリングワッシャー (M4)	4
5	ワッシャー (M4)	4
6	寸切りボルト (M8×200)	1
7	六角ナット (M8)	2

■ 基本寸法図 (オプションベース)



■ 基本寸法図 (オプションスタンド)



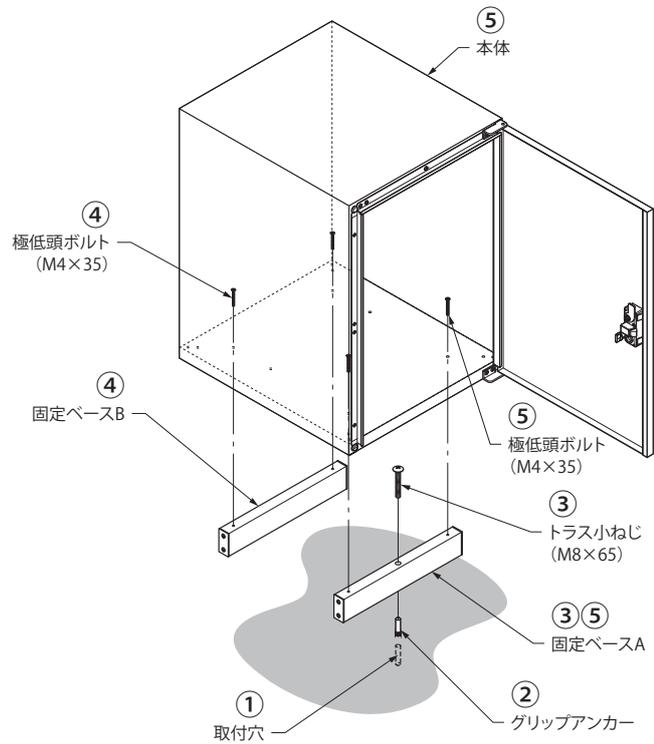
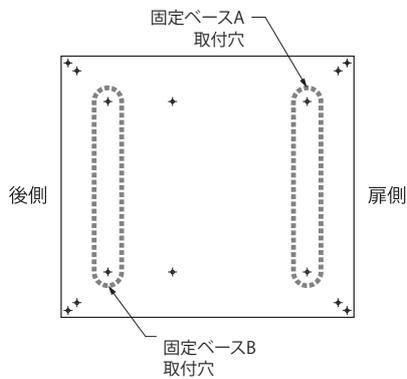
ファサード

■ 本体の取付

オプションベースの場合

- ① 取付け部1ヶ所の指定位置に、振動ドリルで穴(Φ12.5、深さ40mm)をあけ、孔内の切粉を除去します。
- ② 穴を開けた指定位置にグリップアンカーを挿入し、ハンマーを用いて打込みます。
- ③ 固定ベースAをトラス小ねじ(M8×65)で地面に固定してください。
- ④ 固定ベースBを極低頭ボルト(M4×35)2本で本体に固定してください。
- ⑤ 本体を極低頭ボルト(M4×35)2本で固定ベースAに固定してください。

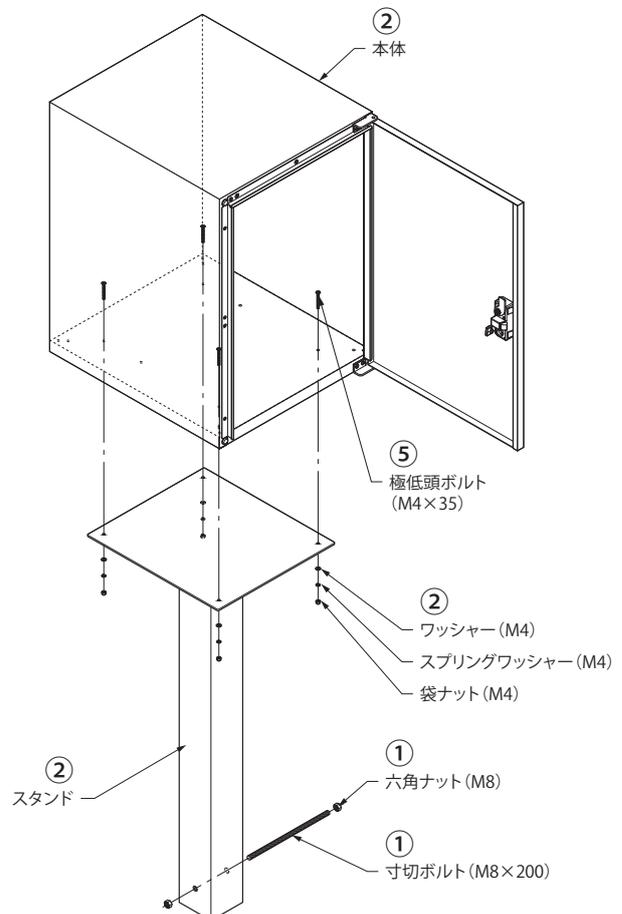
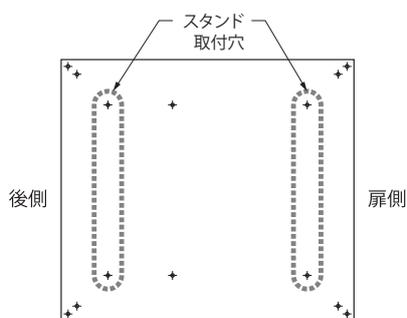
取付穴位置 (取付穴は加工済みです。)



オプションスタンドの場合

- ① 寸切ボルト(M8×200)をポール下部に挿入し、六角ナット(M8)2個で取付けてください。
- ② スタンドと本体を極低頭ボルト(M4×35)4本と袋ナット(M4)4個、スプリングワッシャー(M4)4枚、ワッシャー(M4)4枚で固定してください。

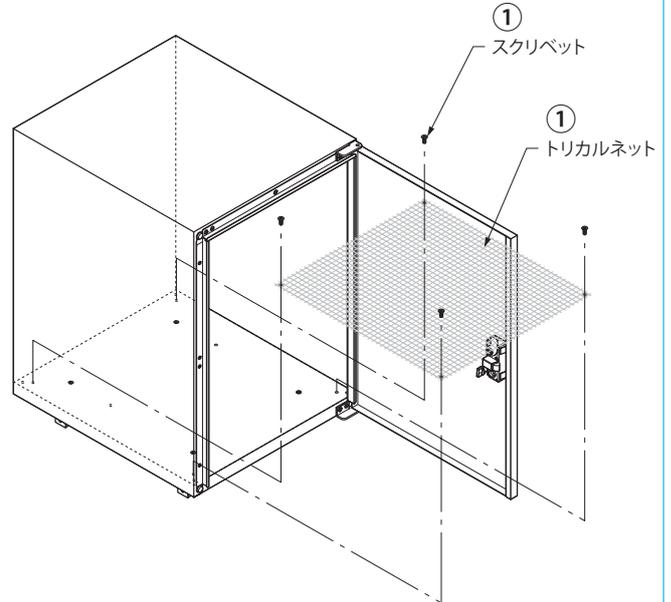
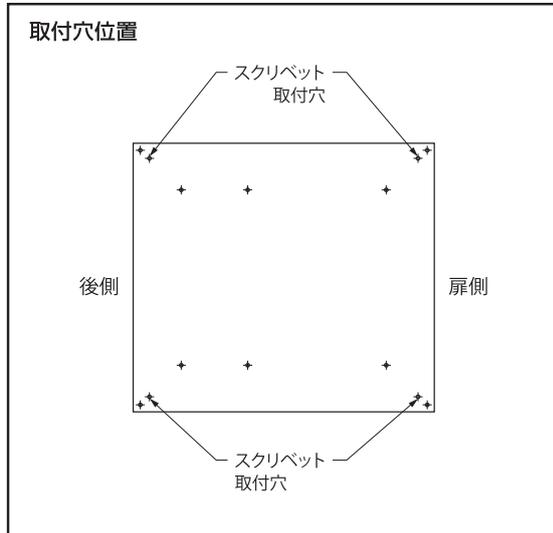
取付穴位置 (取付穴は加工済みです。)



Glut (グラット)

■ トリカルネットの取付 (オプションベース、オプションスタンド)

- ① 宅配ボックス内部にトリカルネットをスクリベット4個で指定の位置に固定してください。

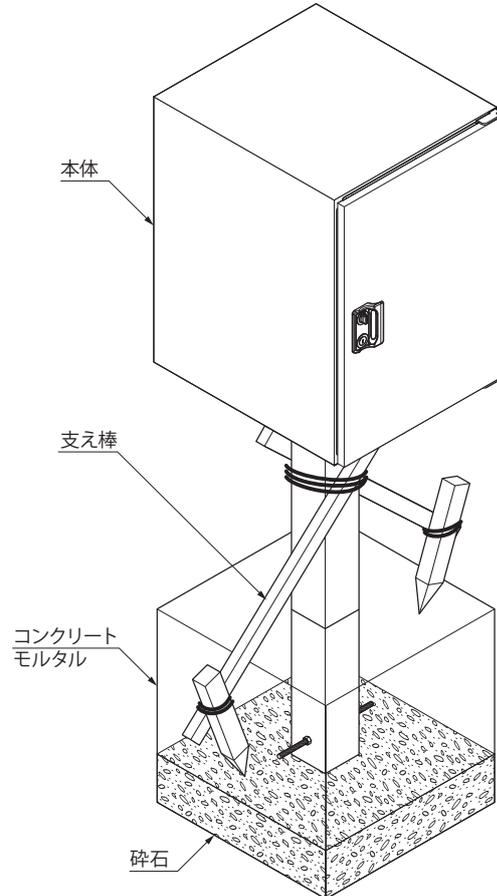


■ 本体の固定

- ① 基礎穴を掘り、水たまり防止のための碎石を敷いてください。
② 本体をコンクリート・モルタルで固定してください。

⚠️ ご注意

- 本体を傷つけないよう養生した後、支え棒で自立させ、垂直・水平を確認してからコンクリートで打ってください。
- 本体の塗装表面には直接養生テープを貼り付けないでください。塗装剥がれの原因となります。

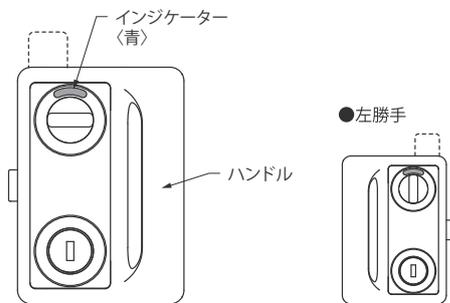


pile (パイル) / compatto (コンパルト) / Glut (グラット)

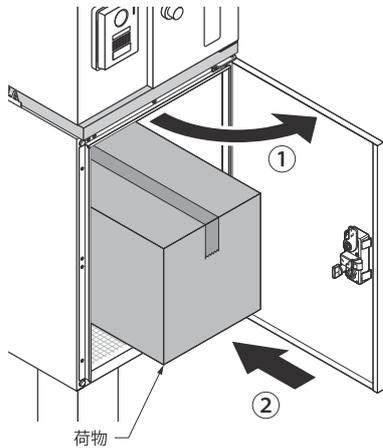
施工要領

■ 荷物の受入方法

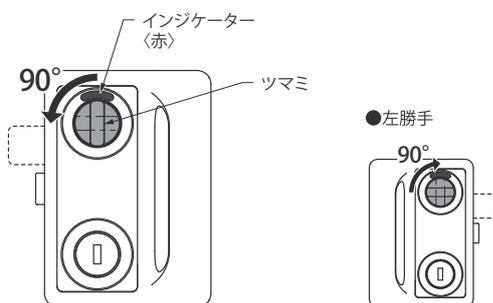
- ① ツマミ部のインジケーターが〈青〉になっていることを確認し、横のハンドルを手前に引き扉を開きます。



- ② 宅配ボックスに荷物を入れてください。



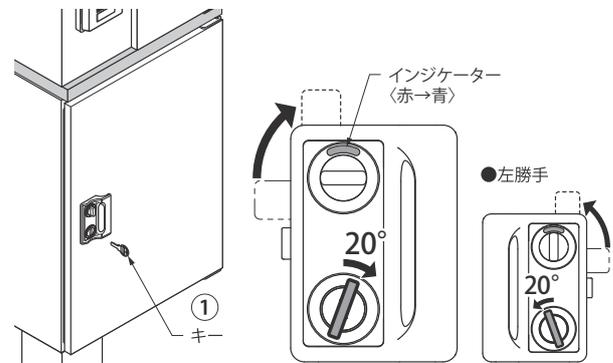
- ③ 扉を閉め、つまみを左に90° 回し鍵を施錠してください。
【左勝手】 右に90° 回す



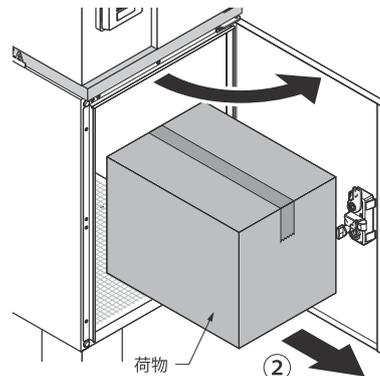
- ③ 扉が開かないことを確認してください。
(インジケーターが〈赤〉の状態)

■ 荷物の取出方法

- ① キーを差し込み右に20° 回し、鍵を解錠してください。
(インジケーターが〈赤→青〉に変わります)



- ② 扉を開いて荷物を取り出してください。



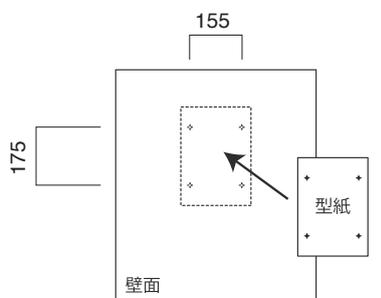
- ③ 扉を閉めてください。
(インジケーターが〈青〉になってることを確認してください)

GRADY (グラディ)

■ 壁取り付けの施工手順

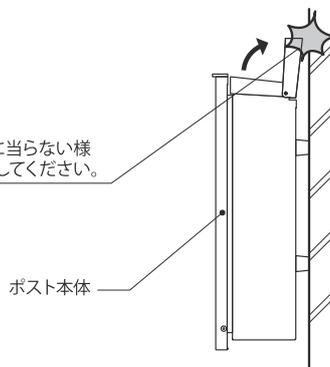
1 壁面への穴あけ

施工要領書に同梱の穴あけ用型紙を使って、壁面 (RC の場合) に振動ドリルで穴 (φ7、深さ32mm) をあけ、カールプラグを差し込みハンマーで打ち込みます。



注意!!

施工の際、壁面に当たらない様に取り付けに注意してください。



●本体セット

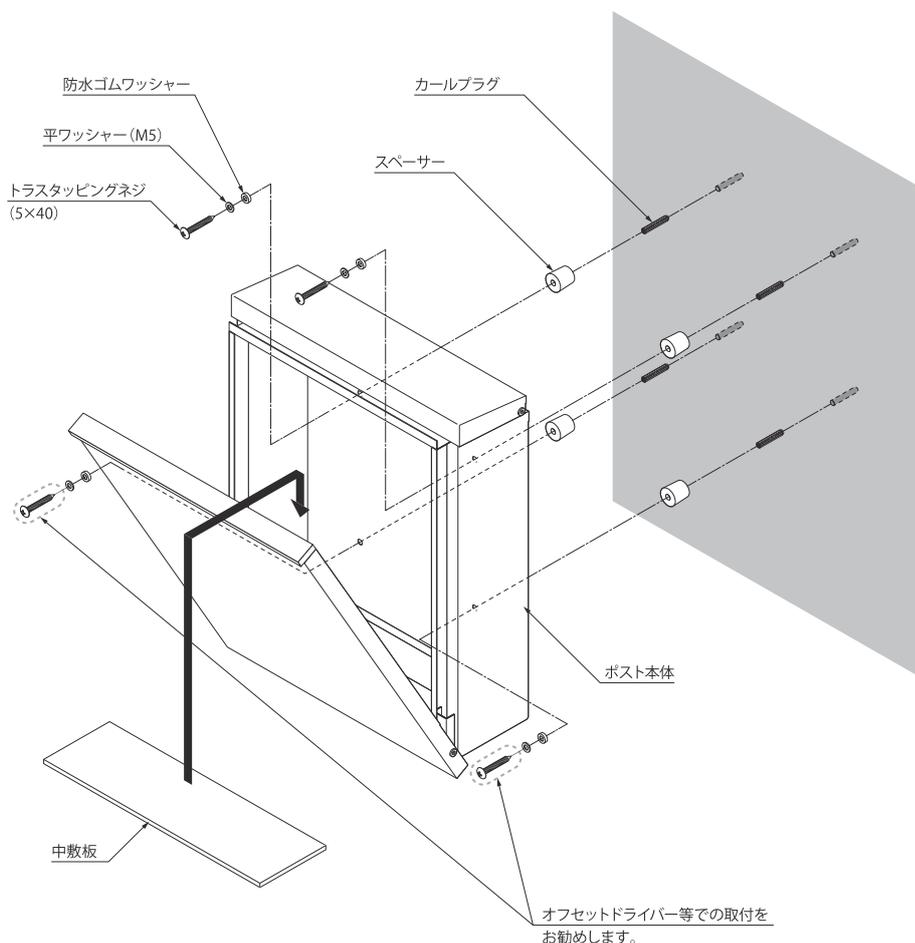
No.	同梱部品	数量	単位
1	本体	1	体
2	防水ゴムワッシャー	4	個
3	平ワッシャー M5	4	個
4	トラスタッピングネジ 5×40	4	本
5	カールプラグ M5用	4	本
6	スペーサー	4	個
7	中敷板	1	枚
8	解錠番号シール	1	枚

2 ポスト本体の仮止め

ポスト本体をスペーサーとともに、トラスタッピングネジ (M5×40)、防水ゴムワッシャー、平ワッシャーで仮止めします。(4ヶ所)

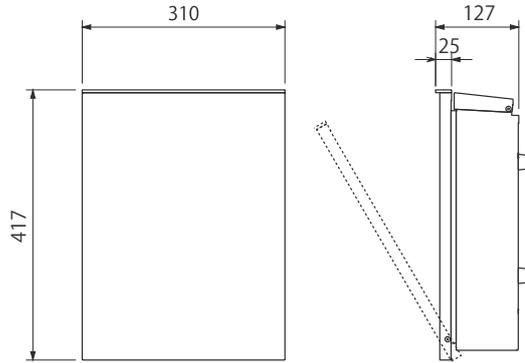
3 ポスト本体の固定

ポスト本体とスペーサーが圧着するまで押し込み、トラスタッピングネジ (M5×40)、を本締めし固定します。(4ヶ所)
※雨が侵入するおそれがありますので壁面の取付け部にはコーキングで防水処理を行った方が安全です。



■ スタンド取り付けの施工手順はP203 obi (オビ) の内容をご覧ください。

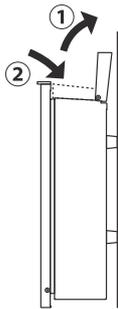
■ 寸法図



■ 使用方法

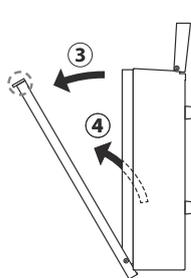
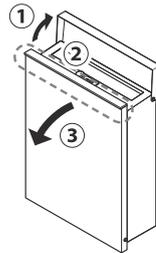
● 投函方法

- ① 上扉を上静止するところまで開きます。
- ② 郵便物が投函できる程度に上扉が開きます。(厚み約40ミリ未満の郵便物が投函できます。)



開ける時

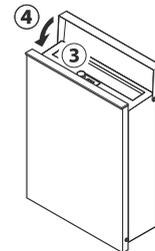
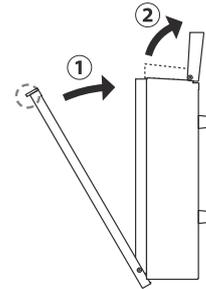
- ① 上扉を上静止するところまで開きます。
- ② ロックを解錠します。(下記の操作方法を参照して下さい)
- ③ 前扉の上部をつかみ手前に引きます。
- ④ 前扉が図のように開き、郵便物が取り出せます。



● 取り出し方法

閉める時

- ① 前扉の上部を押して全閉します。
- ② 上扉が開まっていたら、上に静止するところまで開きます。
- ③ ロックを施錠します。(下記の操作方法を参照して下さい)
- ④ 上扉を静かに下ろして閉めます。



■ ダイヤル錠の操作方法

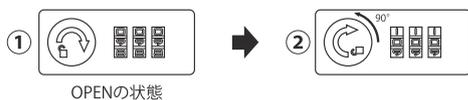
● 暗証番号の設定、変更方法 (出荷時には、000にセットしてあります。)

- 設定された暗証番号は必ず控えをとり、失くさないよう大切に保管してください。
- 本品の特性上、暗証番号が分からなくなると開錠することが出来なくなり、カギの交換となります。



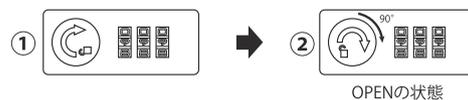
施錠方法

- ① ダイヤルを暗証番号に合わせます。
- ② ツマミを左に90°回します。ダイヤルを暗証番号以外の数字に替えるとロックされます。

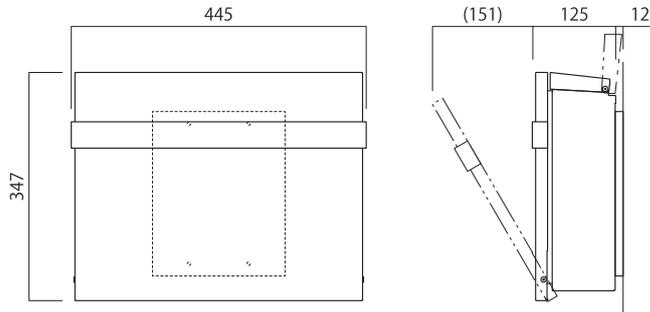


解錠方法

- ① ダイヤルを暗証番号に合わせます。
- ② ツマミを右に90°回すと解錠されます。



■ 本体概略図



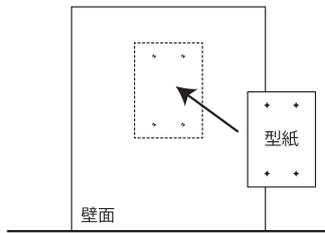
● 本体セット

No.	同梱部品	数量	単位
1	本体	1	体
2	取付ボード	1	枚
3	防水ゴムワッシャー	4	個
4	十字穴付皿小ねじ M5×20	4	本
5	皿頭タッピングねじ 5×40	4	本
6	袋ナット M5	4	個
7	ワッシャー M5	4	枚
8	スプリングワッシャー M5	4	枚
9	カールプラグ M5用	4	本
10	中敷板	1	枚

■ 壁取り付けの施工手順

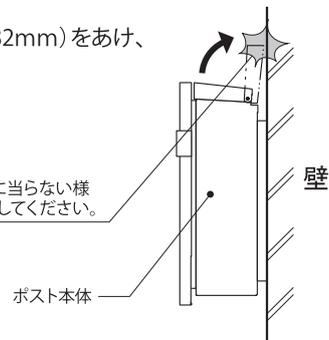
1 壁面への穴あけ

別紙の穴あけ用型紙を使って、壁面(RCの場合)に振動ドリルで穴(Φ7、深さ32mm)をあけ、カールプラグを差込みハンマーで打ち込みます。



注意!!

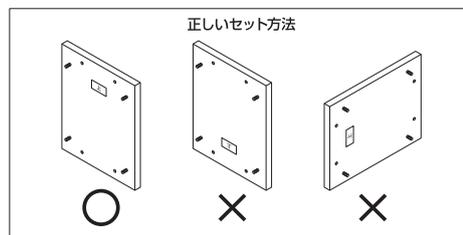
施工の際、壁面に当たらない様取り付けに注意してください。



2 取付ボードの固定

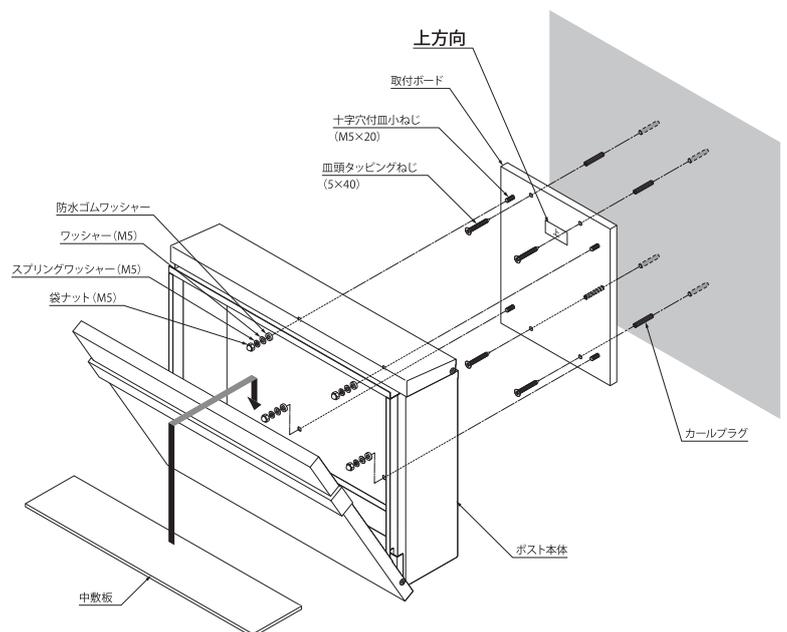
取付ボードの上下左右に注意し、取付ボードに十字穴付皿小ねじ(M5×20)を取付けた後、皿頭タッピングねじ(5×40)で固定します。(4ヶ所)

※皿頭タッピングねじはボードの面位置に合わせ固定して下さい。



3 ポスト本体の固定

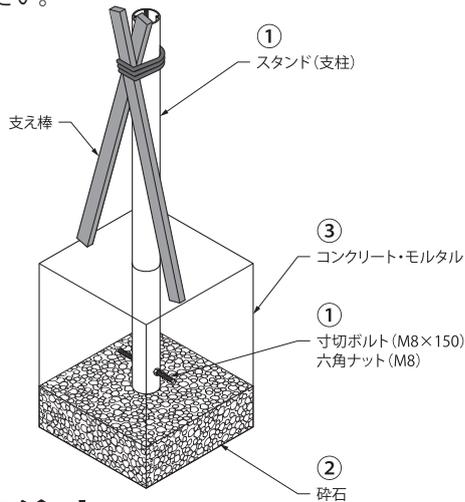
取付ボードのボルト(4ヶ所)にポストをはめ込み、防水ゴムワッシャー、ワッシャー(M5)、スプリングワッシャー(M5)、袋ナット(M5)で固定します。(4ヶ所)



■ スタンド取り付けの施工手順

1 スタンドの固定

- ① スタンド(支柱)に寸切りボルト(M8×150)を六角ナット(M8)2個で固定します。
- ② 基礎穴を掘り、水たまり防止のための砕石を敷いて下さい。
- ③ スタンド(支柱)をコンクリート・モルタルで固定して下さい。

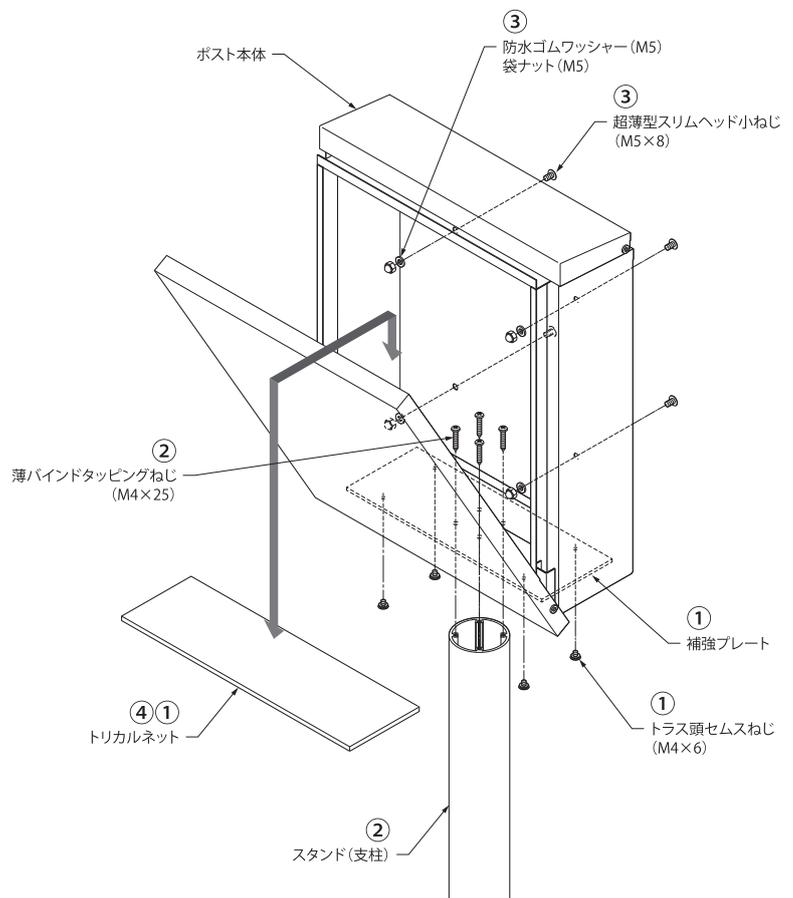


⚠ ご注意

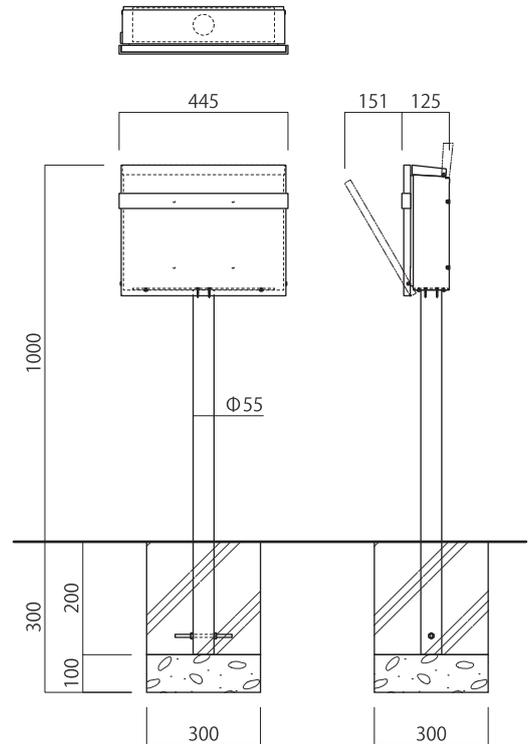
- スタンド(支柱)を傷つけないよう養生した後、支え棒で自立させ、垂直・水平を確認してからコンクリートで打って下さい。
- 本体の塗装表面には直接養生テープを貼り付けしないでください。塗装剥がれの原因となります。

2 ポスト本体の固定

- ① ポスト付属のトリカルネットを取り出してから補強プレート(補強プレート)をポスト内底部に入れ、トラス頭セムねじ(M4×6)4個でポスト下側から固定して下さい。
- ② ポスト本体を薄バインドタッピングねじ(M4×25)4本でスタンドに固定して下さい。
- ③ ポスト背面の穴を超薄型スリムヘッド小ねじ(M5×8)4本、防水ゴムワッシャー(M5)4個、袋ナット(M5)4個で塞いで下さい。
- ④ トリカルネットをポスト内部に戻して下さい。



■ スタンド寸法図

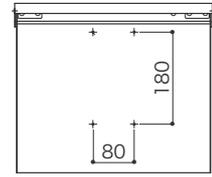
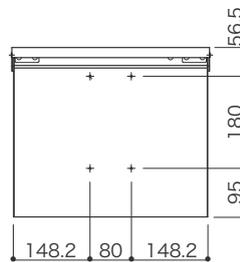
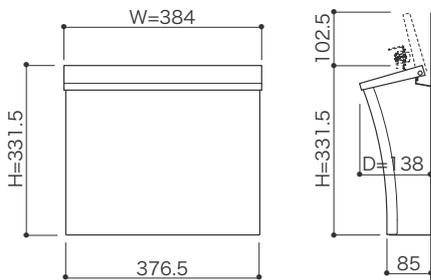
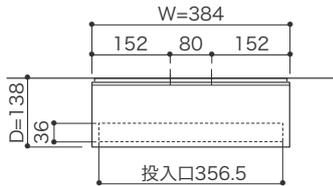


Luce plus (ルーチェプラス)

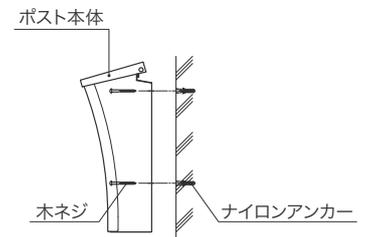
■ 壁取付け施工手順

- ①図の取付ピッチに従い壁面に8φの穴をあけ、ナイロンアンカーを打ち込みます。
- ②ポストの内フタを開き内側背面の穴から木ネジで、壁面に本体を仮止めします。
- ③ポストの位置、水平、垂直に注意し確実にネジを締めます。

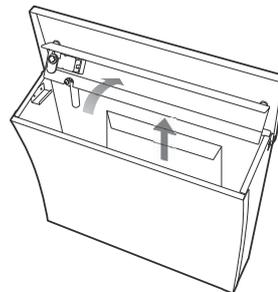
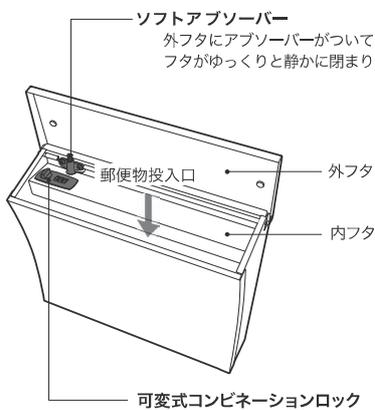
*この設置手順は壁がコンクリートの場合の方法になります。
条件に合わせて設計事務所・工務店等、専門家の指示に従って下さい。



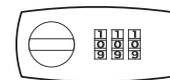
アンカーポイント図



■ 各部名称

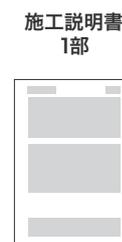


コンビネーションロックを解錠し内フタを開き、郵便物を取り出します。



3ケタの暗証番号を合わせ、ツマミを回して解錠します。暗証番号は自由に設定・変更できる可変式です。

■ 付属品



工事完了後、お客様に必ずお渡しください。

■ スタンド S-04 施工手順(オプション)

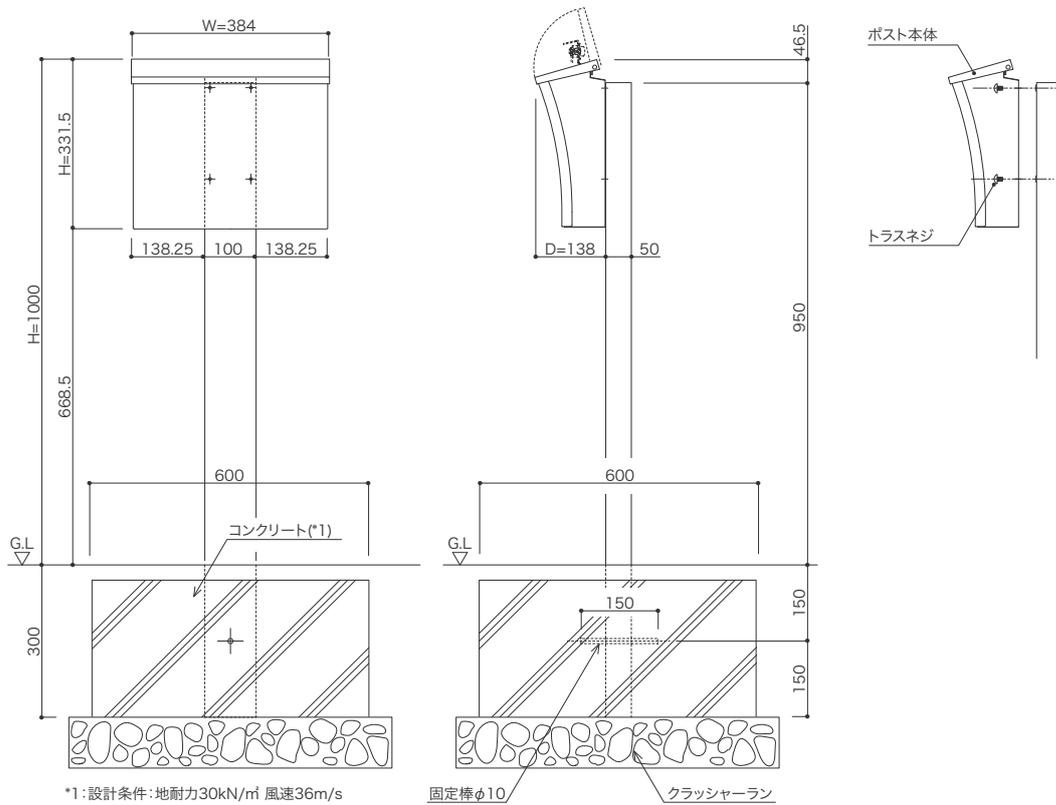
- ① スタンドを設置する穴を掘り、クラッシャーランを敷き十分突き固めて下さい。
スタンド下部の穴に付属の固定棒を差し込み、クラッシャーランの上にスタンドを垂直に立て、倒れないように仮固定し、コンクリートを詰め固定します。
- ② ポストの扉を開き内側背面の穴からM5トラスネジを使いスタンドに固定します。
製品が水平・垂直に取付け出来ていることを確認してネジを本締めして下さい。

スタンド S-04用付属品

トラス小ネジ 4本 M5

固定棒 1本 $\phi 10 \times L150$

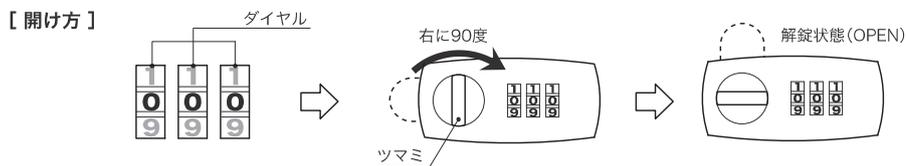
*この設置手順は一般的な方法で下記寸法は設計条件:地耐力30kN/m² 風速36m/sでの寸法になります。
条件に合わせ設計事務所・工務店等、専門家の指示に従って下さい。



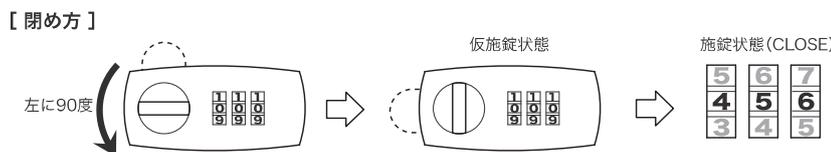
*1: 設計条件: 地耐力30kN/m² 風速36m/s

■ コンビネーションロックの使用法

暗証番号『000』の場合 (初期設定は『000』です)



ダイヤルを暗証番号に合わせ、ツマミを右に90度回転させると解錠します。

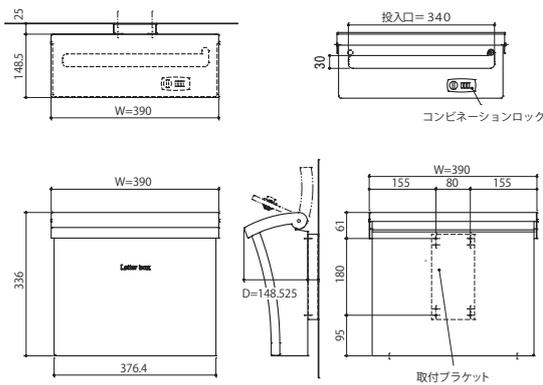


- ① 仮施錠 : 郵便受フタを閉め、ツマミを左に90度回転させます。
- ② 施錠 : ダイヤルを暗証番号以外に合わせると施錠になります。(イラスト例『456』)

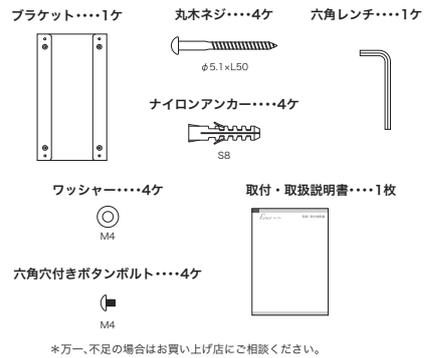
Luce (ルーチェ)

【ルーチェ 壁掛タイプ・スタンド】

■ 寸法図



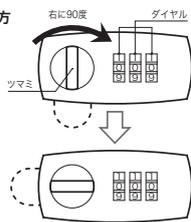
■ 付属品



コンビネーションロックの使用方法

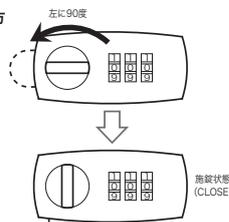
暗証番号「000」の場合

開け方



- ①ダイヤルを暗証番号に合せます。(初期設定は「000」です。)
- ②ツマミを右に90度回転させて解錠します。

閉め方



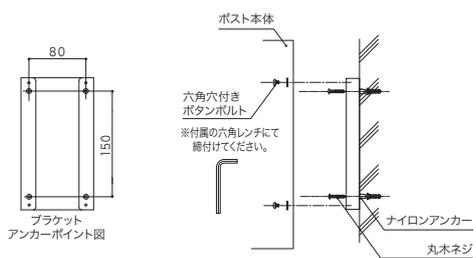
- ①内フタを閉め、ツマミを左に90度回転させます。
- ②ダイヤルを暗証番号以外に回転させて施錠になります。

取付方法

- 施工は必ずこの説明書にしたがって正しく施工してください。
- 屋外防滴仕様ですが、強い風雨などの場合、郵便物が濡れる恐れがございます。
- 取付壁面はコンクリートなどの強度のある壁を前提としております。取付部の強度が不足している場合は落下の原因となります。
- 必ず平滑な壁面に取付けてください。壁面に凸凹があるとボックスがゆがみ、破損する恐れがあります。
- 壁面の取付部にはコーキングで防水処理をしてください。

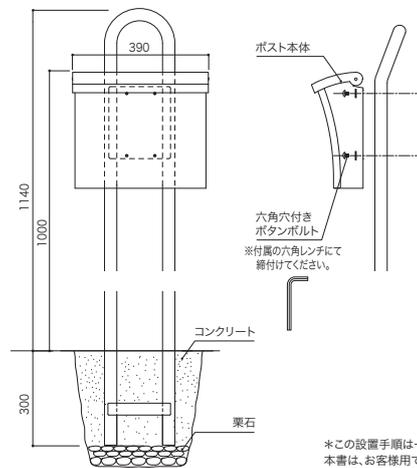
□ 壁面設置

- ①図の取付ピッチに従いφ8の穴をあけ、壁面にナイロンアンカーを打ち込みます。(木部への取り付けの場合は②から始めてください。)
- ②ブラケットを丸木ネジで、壁面に本体を仮止めます。
- ③ブラケットの位置、水平、垂面に注意し確実にネジを締めます。
- ④ポストの扉を開き内側背面の穴から六角穴付きボタネジでブラケットに固定します。



□ Luce用スタンド設置

- ①Luce用スタンドを設置する穴を掘り、栗石を敷き十分突き固めてください。垂面に埋め込み、コンクリートを詰め固定します。
- ②ポストの扉を開き内側背面の穴から六角穴付きボタネジで固定します。



使用上の注意

- ポスト以外の用途でご使用にならないでください。
- ポスト本体、フタ、ブラケットに乗りたり、ぶら下がったりしないでください。
- 1日1回は郵便物を取り出してください。郵便物がたまり過ぎると、扉の作動に支障をきたしたり、鍵が開かなくなることがあります。
- 外フタ、内フタに手を挟まないように、ご注意ください。
- 本製品は防滴型となっておりますが、完全防水ではありません。強い風雨などの場合、郵便物が濡れる恐れがございますので、早めに郵便物を取り出してください。
- 防犯上、施錠される事をお勧めします。
- 貴重品・重要書類、危険物、なま物の保管はしないでください。
- 一般郵便物用ポストとして設計されていますので、貴重品の受取や保管に適していません。また、意図的なイタズラや盗難には対処できません。
- 火気を近づけないでください。火災、延焼または故障の原因となります。
- 投入口フタの急な落下を押さえるソフトアブソーバーは、消耗品です。動きが悪くなりましたら、交換をお勧め致します。

お手入れ時の注意

- 汚れを落とすときは、水で薄めた中性洗剤を布にしみ込ませて拭き取ってください。
- シンナー・ベンジンや、アルカリ性の薬品等を使用すると、色落ち変色の恐れがありますので、おやめください。
- ワイヤブラシや研磨剤入り洗剤の使用は、表面を荒らしてしまいますので、おやめください。
- ビニールテープ、粘着テープを長時間つけたまま放置しはがすと、塗装のはがれが生じることがありますので、おやめください。

ティエラ

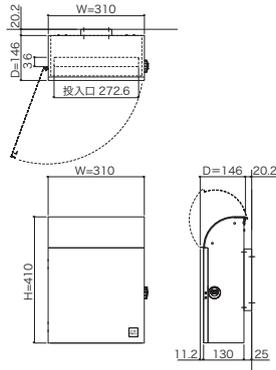
施工要領

施工断面図

寸法図

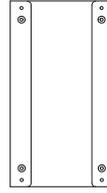
■ 寸法図

ティエラ



■ 付属品

ブラケット
1個



木ネジ
4本



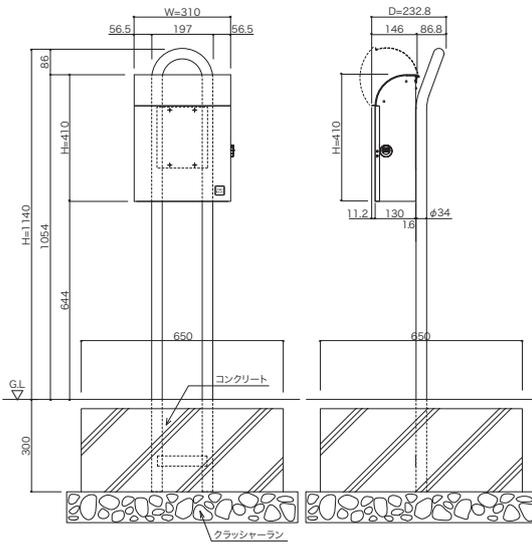
トラスネジ
4本



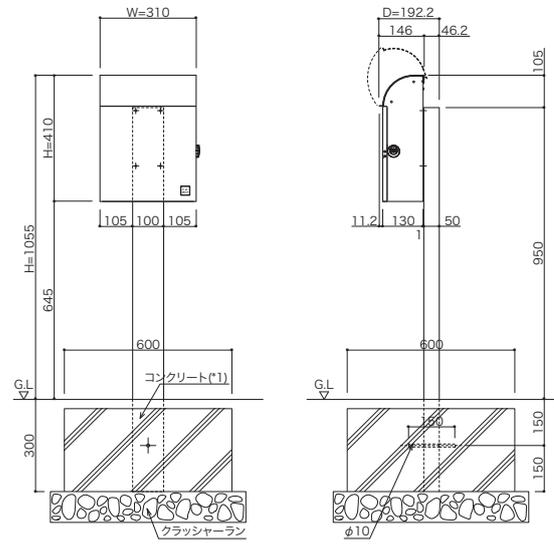
ナイロンアンカー
4本



スタンド S-02



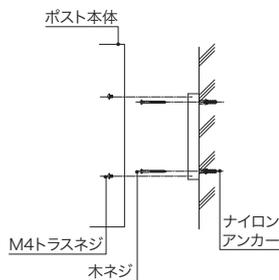
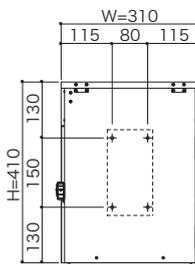
スタンド S-04SL



■ 施工要領

壁取付施工手順

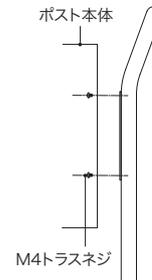
アンカーポイント図



- 1 製品の取付位置を決め、アンカーポイント図に合わせ壁にφ8mm深さ55mmの穴をあけナイロンアンカーを打ち込みます。
- 2 木ネジでブラケットを水平・垂直に壁に固定します。
- 3 製品の扉を開き内側背面の穴からネジでブラケットに固定します。製品が水平・垂直に取付け出来ていることを確認してネジを本締めしてください。

*この設置手順は壁がコンクリートの場合の方法になります。条件に合わせて設計事務所・工務店等、専門家の指示に従ってください。

スタンド施工手順



- 1 スタンドを設置する穴を掘り、碎石を敷き十分突き固めてください。垂直に埋め込み、コンクリートを詰め固定します。
- 2 ポストの扉を開き内側背面の穴からM4トラスネジを使いブラケットに固定します。製品が水平・垂直に取付け出来ていることを確認してネジを本締めしてください。

*この設置手順は一般的な方法で下記寸法は設計条件:地耐力30kN/㎡ 風速36m/sでの寸法になります。条件に合わせて設計事務所・工務店等、専門家の指示に従ってください。

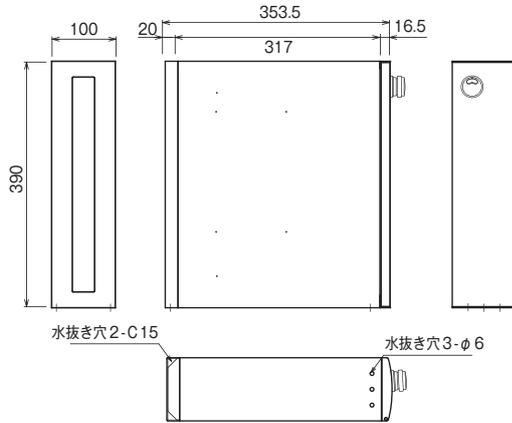
T926

施工要領

施工断面図

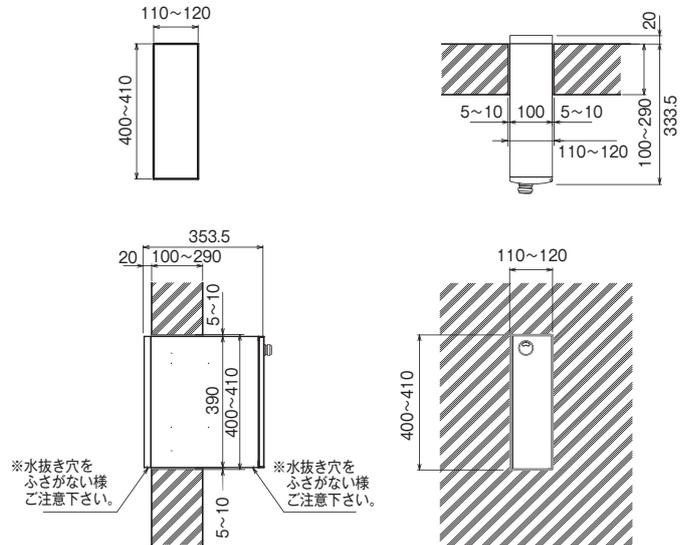
寸法図

■ 寸法図



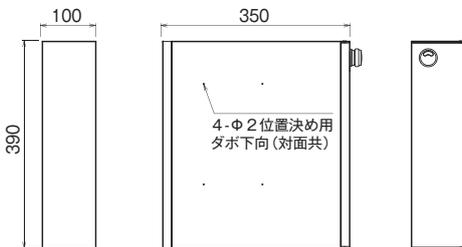
■ 壁埋込設置 施工要領

表記の寸法で取付穴をあけ、ポストを設置してください。
周囲にモルタルを詰めて固定し、目地は必ずコーキングにて
全周仕上げして下さい。



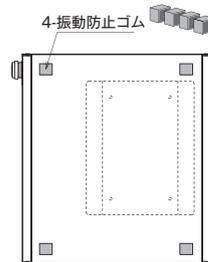
■ 壁面設置 施工要領

1 ポスト側面のΦ2位置決め用タボにドリルで穴を開けます。

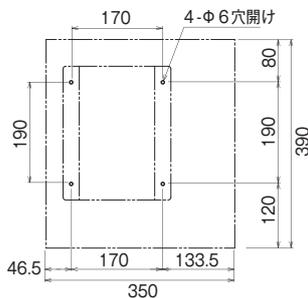


4 振動防止ゴムを貼り付けます。

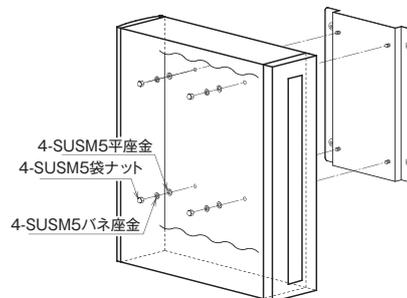
ポストの振動防止の為、ポスト側面(壁側)4ヶ所に振動防止ゴムを
貼り付けます。
壁面の有効幅を考慮し、出来るだけ外側に貼り付けてください。



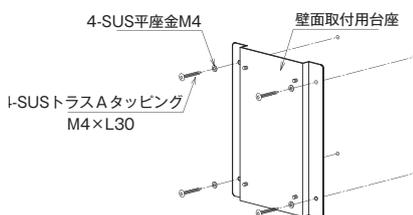
2 壁面に下図のピッチでΦ6の穴を開け、プラグを差し込みます。



5 ポストを台座に固定します。ポスト内側より座金と
袋ナットにて確実に締付けてください。



3 壁面取付用台座をビスで締付け、壁面に固定します。

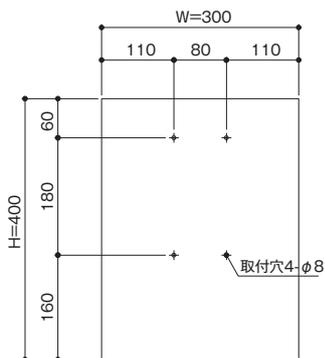
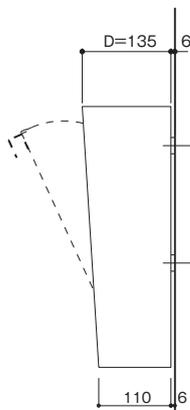
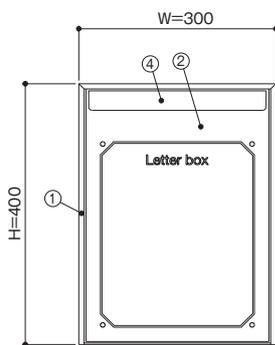
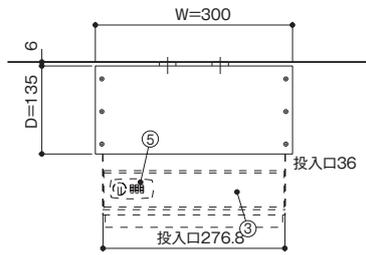


● 付属品

- ・ 壁面取付け用台座 …… 1個
- ・ フィッシャープラグS6 …… 4本
- ・ SUSトラスAタッピング …… 4本
- ・ SUS平座金M4 …… 4枚
- ・ SUS袋ナットM5 …… 4個
- ・ SUS平座金M5 …… 4枚
- ・ SUSバネ座金M5 …… 4枚
- ・ 振動防止ゴム …… 4個

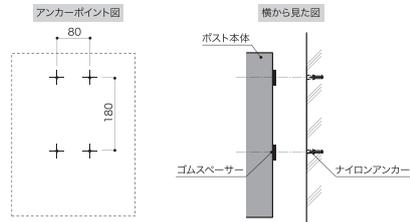
BASARA (バサラ)

■ 寸法図

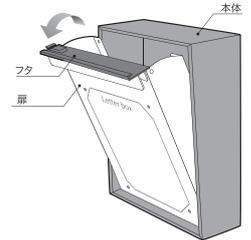


[壁面設置の場合]

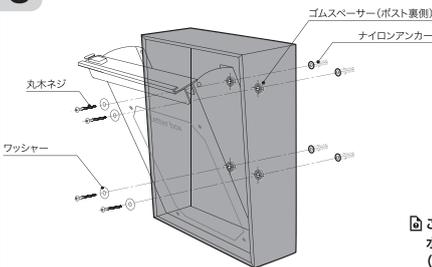
- ①図の取付ピッチに従い壁面に8φの穴をあけ、ナイロンアンカーを打ち込みます。(木部への取付の場合は②から始めてください)
②ゴムスペーサーをポスト本体裏面取付穴部分に両面テープで貼付けます。



- 扉を開け錠を解錠し、フタを開けます。



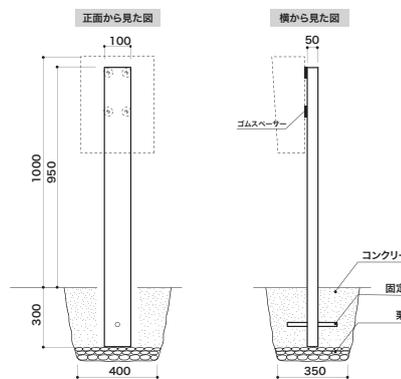
- ポスト内側背面の穴から、丸木ネジとワッシャーで壁に取り付けます。



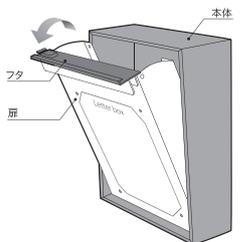
この時、扉がきちんと本体に収納されるか、水平・垂直を確認しながら取付けてください。
(壁面の歪みをネジの締め付けの強弱で補正します。)

[BASARA用スタンド設置の場合]

- 下図のようにBASARA用スタンドを設置する穴を掘り、栗石を敷き十分突き固めてください。スタンド下部の穴に付属の固定棒を差し込み、栗石の上にスタンドを垂直に立て、倒れないように仮固定し、コンクリートを穴に流し込み固定します。

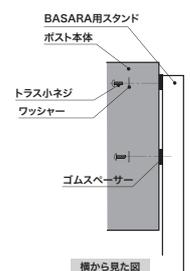
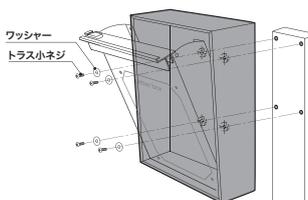


- 扉を開け錠を解錠し、フタを開けます。



- ゴムスペーサー (BASARA 付属品) をポスト本体裏面取付穴部分に両面テープで貼付けます。ポストの内側背面の穴から、トラス小ネジとワッシャー (BASARA 付属品) を使いスタンドに固定します。

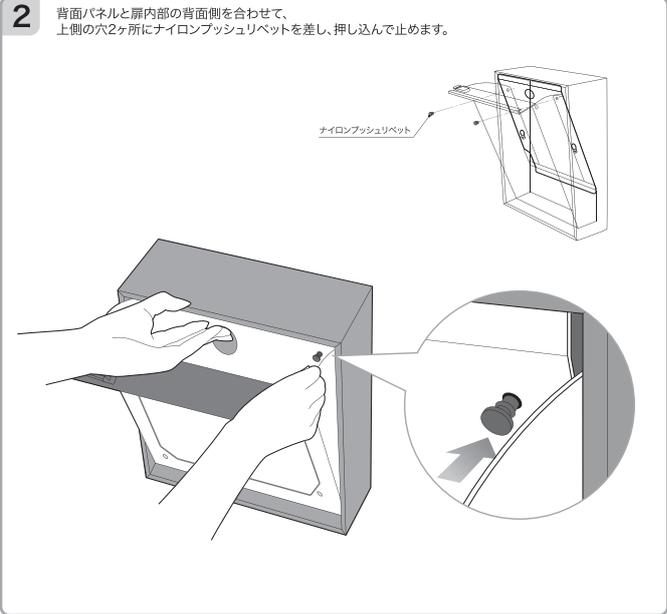
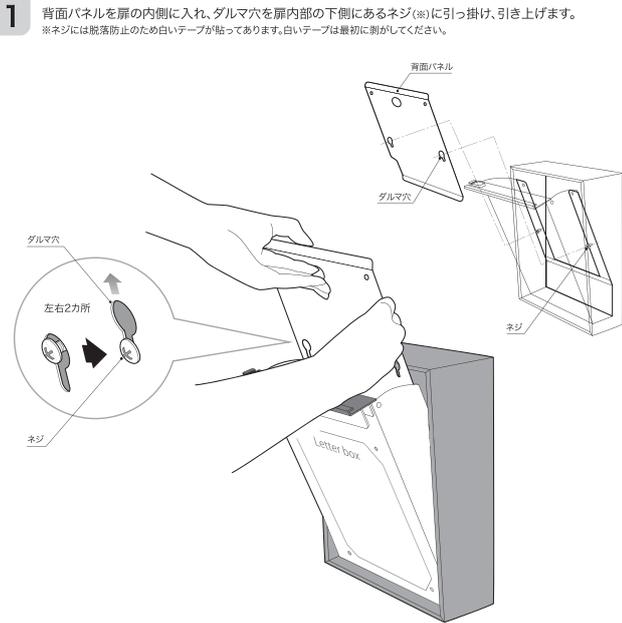
BASARA用スタンド付属品トラス小ネジ 4ヶ M5



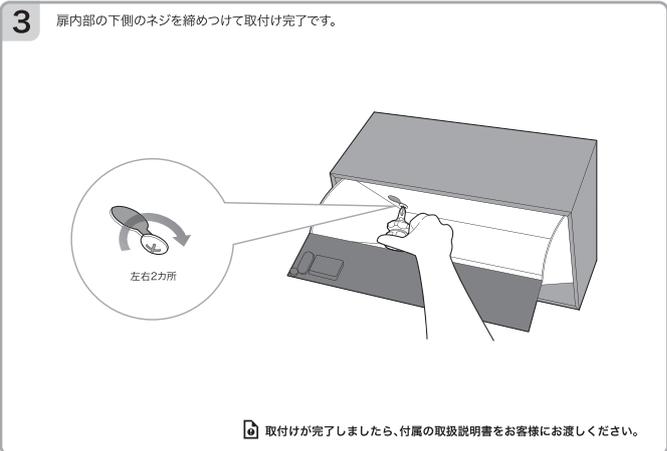
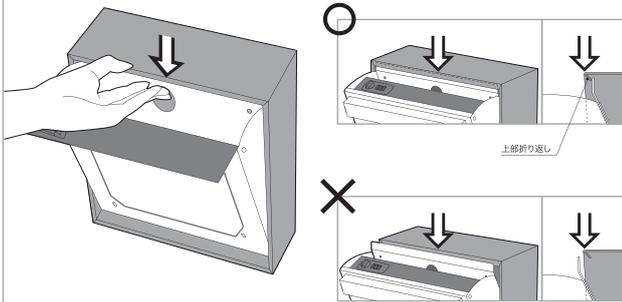
横から見た図

ファサード

[背面パネルの取付方法] 背面パネルは、壁面またはスタンドに設置した後に取付けてください。(表面参照)



ご注意
この時、背面パネルの上部が本体上部折り返しの内側に入るように引き上げてください。

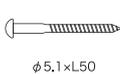


■ 付属品

ゴムスペーサー
4ヶ



丸木ネジ
4ヶ



ワッシャー
4ヶ



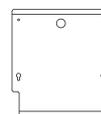
ナイロンアンカー
4ヶ



ナイロンプッシュリベット
2ヶ



背面パネル
1枚



取付説明書
1部



取扱説明書
1部



万一、不足の場合はお買い上げ店にご連絡ください。

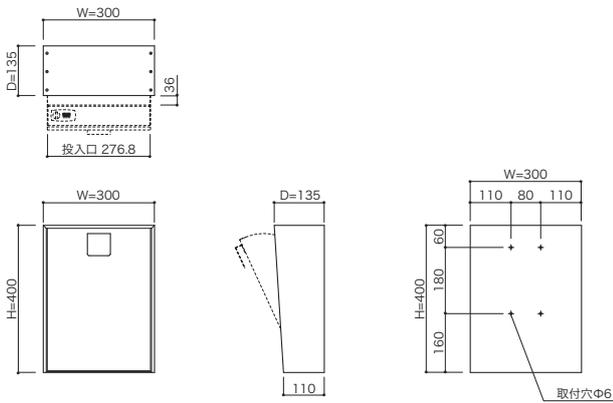
取付上のご注意

- 扉の開閉に支障がある場所や、通行の妨げになる場所には設置しないでください。
- 可能な限り、雨掛りの少ない場所に設置してください。
製品は防滴仕様ですが、完全防水ではないので強い風雨の場合は雨水が侵入する恐れがあります。
- 軟弱地盤にスタンドを取付ける際は、コンクリート基礎は埋込みの深さと周囲幅を十分にとってください。
- 取付面の水平・垂直、また強度を必ず確認してください。
取付面が水平・垂直ではない場合、製品本体にねじれや歪みが生じ、動作不良をおこしたり故障の原因になる場合があります。また、強度が不足している場合、落下の原因になる場合があります。

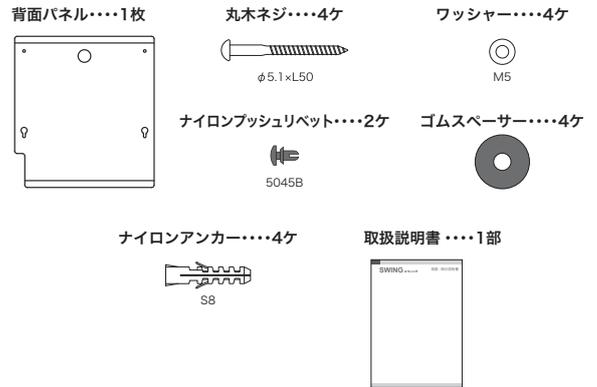
- スタンドは必ず垂直に固定してください。
製品本体にねじれや歪みが生じ、動作不良をおこしたり故障の原因になる場合があります。
- 本体底面の水抜き穴を塞がないでください。
- ネジ類の緩みや締め忘れ、またネジ類の締め過ぎにご注意ください。
電動ドライバーを使用する際は低速回転(低トルク)で取付けてください。ネジ山が機能不良になる恐れがあります。
- 製品取付け後に外装工事を行う場合には必ず養生をしてください。
外装工事により製品にキズがついてしまったり、チリ、洗浄液等でもらい錆、変色、腐食をおこす場合があります。

SWING (スウィング)

■ 寸法図



■ 付属品

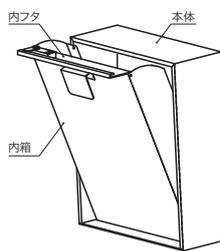


壁面設置

■ 取付方法

- 施工は必ずこの説明書にしたがって正しく施工してください。
- 屋外防滴仕様ですが、強い風雨などの場合、郵便物が濡れる恐れがございます。
- 取付壁面はコンクリートなどの強度のある壁を前提としております。取付部の強度が不足している場合は落下の原因となります。
- 必ず平滑な壁面に取付けてください。壁面に凹凸があるとボックスがゆがみ、破損する恐れがあります。
- 壁面の取付部にはコーキングで防水処理をしてください。

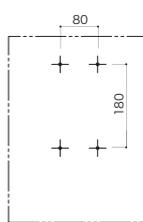
1



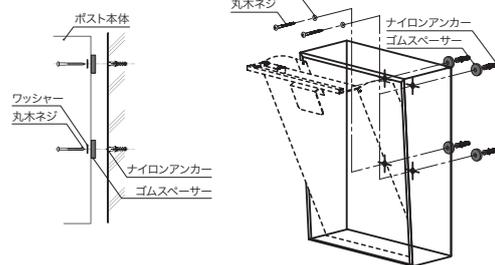
- ① 取っ手を引き、内箱を開けます。
- ② 錠を解錠し、内フタを開けます。

2

アンカーポイント図

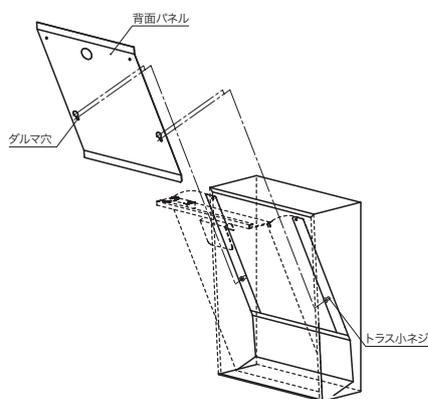


横から見た図



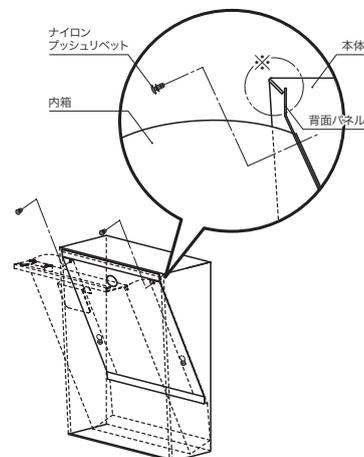
- ① 図の取付ピッチに従い8φの穴をあけ、壁面にナイロンアンカーを打ち込みます。
(木部への取付の場合は②から始めてください。)
- ② ゴムスペーサーを先にポスト裏面から取付穴に両面テープで貼付けます。
- ③ ポスト内側から付属の丸木ネジとワッシャーで壁に取り付けます。

3



- ① 背面パネルを内箱の内側に入れ、ガルマ穴を内箱下側にあるトラス小ネジに引っ掛け、引き上げます。

4



- ① ※背面パネルの上部が本体の内側になるように引き上げ、上側の穴2ヶ所にナイロンプッシュリベットを差込みます。
- ② 下側のトラス小ネジを増し締めして取付け完了です。

ファサード

SWING用スタンド設置

■取付方法

- 施工は必ずこの説明書にしたがって正しく施工してください。
- 屋外防滴仕様ですが、強い風雨などの場合、郵便物が濡れる恐れがございます。

1

160
1000
970
多目的フック
50
コンクリート
固定棒
栗石

①専用スタンドを設置する穴を掘り、栗石を敷き十分突き固めてください。スタンド下部の穴に付属の固定棒を差し込み、垂直に埋め込み、コンクリートを詰め固定します。

2

内フタ
本体
内箱

①取っ手を引き、内箱を開けます。
②錠を解錠し、内フタを開けます。

3

ワッシャー
M4トラス小ネジ
SWING用スタンド
ポスト本体
M4トラス小ネジ
ワッシャー

横から見た図

①ポストの内側背面の穴からM4トラス小ネジとワッシャー(SWING用スタンド付属品)を使い固定します。

4

背面パネル
ダルマ穴
トラス小ネジ

①背面パネルを内箱の内側に入れ、ダルマ穴を内箱下側にあるトラス小ネジに引っ掛け、引き上げます。

5

ナイロンフックリベット
本体
背面パネル
内箱

①※背面パネルの上部が本体の内側になるように引き上げ、上側の穴2ヶ所にナイロンフックリベットを差込みます。
②下側のトラス小ネジを増し締めして取付け完了です。

*この設置手順は一般的な壁取付方法です。条件に合わせて設計者の指示に従って下さい。

コンビネーションロックの使用法 暗証番号「000」の場合 * Sign 共通

開け方

右に90度
ダイヤル
ツマミ
解放状態 (OPEN)

①ダイヤルを暗証番号に合せます。(初期設定は「000」です)
②ツマミを右に90度回転させて解錠します。

閉め方

左に90度
解放状態 (CLOSE)

①内フタを閉め、ツマミを左に90度回転させます。
②ダイヤルを暗証番号以外に回転させて施錠になります。

使用上の注意

- ポスト以外の用途でご使用にならないでください。
- ポスト本体、扉に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
- 1日1回は郵便物を取り出してください。郵便物がたまり過ぎると、扉の作動に支障をきたしたり、鍵が開かなくなることがあります。
- 扉開閉時に手を挟まないように、ご注意ください。
- 本製品は防滴型となっておりますが、完全防水ではありません。強い風雨などの場合、郵便物が濡れる恐れがございますので、早めに郵便物を取り出してください。
- 防犯上、施錠される事をお勧めします。
- 貴重品・重要書類・危険物、なま物の保管はしないでください。
- 一般郵便物用ポストとして設計されていますので、貴重品の受取や保管に適していません。また、意図的なイタズラや盗難には対処できません。
- 火気を近づけないでください。火災、延焼または故障の原因となります。
- 扉がゆっくりと本体に戻るソフトアブソーバーは、消耗品です。動きが悪くなりましたら、交換をお勧め致します。

お手入れ時の注意

- 汚れを落とすときは、水で薄めた中性洗剤を布にしみ込ませて拭き取ってください。
- シンナー・ベンジンや、アルカリ性の薬品等を使用すると、色落ち変色の恐れがありますので、おやめください。
- ワイヤーブラシや研磨剤入り洗剤の使用は、表面を荒らしてしまいますので、おやめください。
- ビニールテープ、粘着テープを長時間つけたまま放置しはがすと、塗装のはがれが生じることがありますので、おやめください。

ファサード

duomo (ドゥオモ)

施工要領

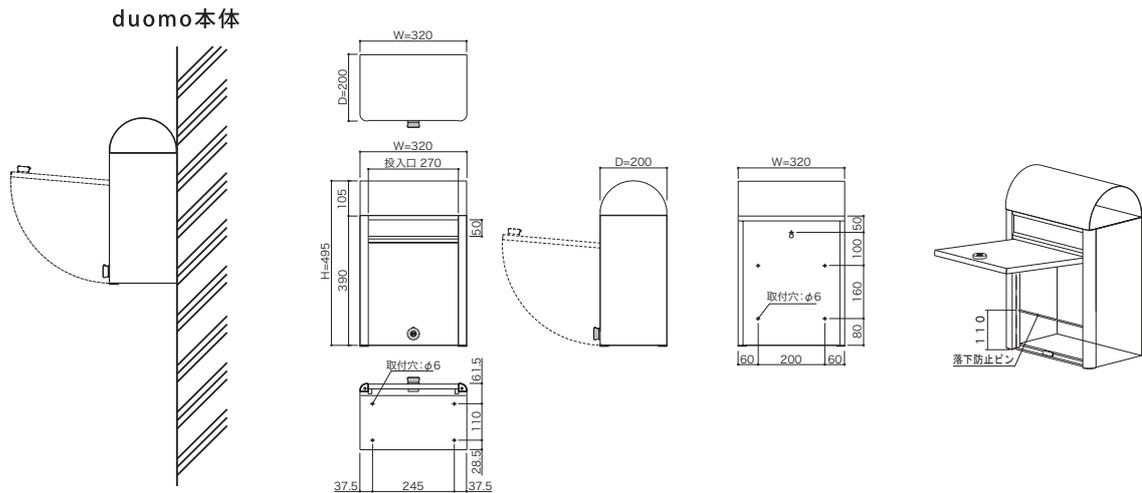
施工断面図

寸法図

【duomo (ドゥオモ) 壁掛タイプ】

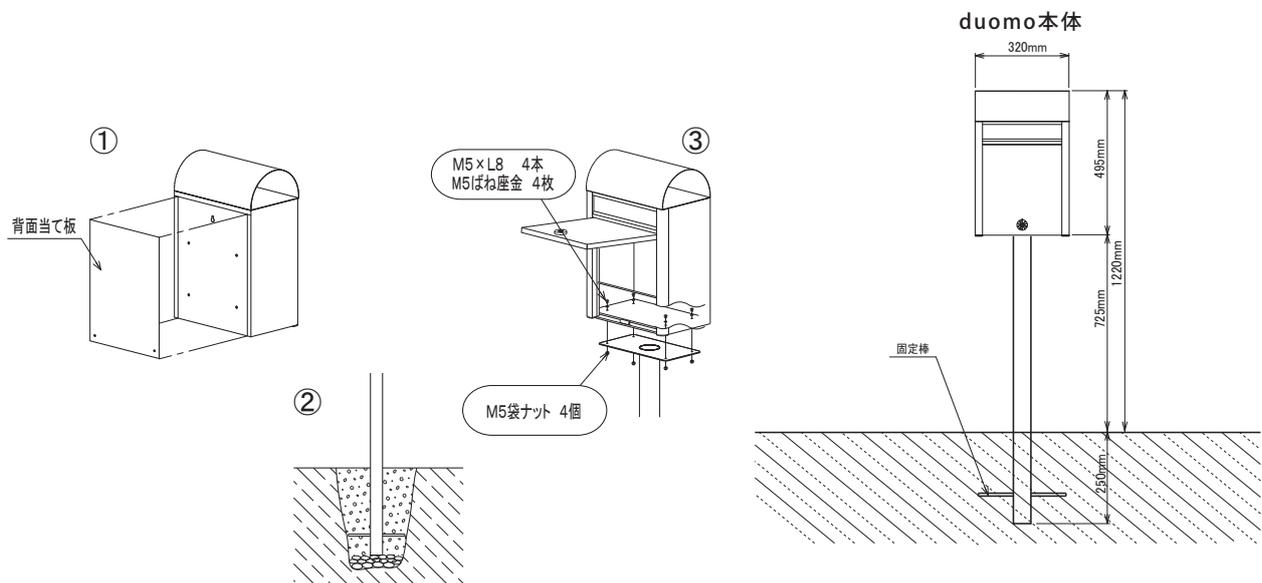
- 1 取付穴用の位置を決め、ドリルにて穴をあけます。
- 2 付属の樹脂プラグを打ち込みます。
- 3 取付ビスを利用してドゥオモ本体を固定します。

■寸法図



【duomo (ドゥオモ) 専用スタンド】

- 1 ドゥオモ本体の背面に、背面当て板（裏面両面テープ付）を貼り付けて下さい。
- 2 ドゥオモ本体を設置する穴を掘り、栗石を敷き十分突き固めて下さい。
専用スタンド下部の穴に付属の固定棒を差し込み、垂直に埋め込み、モルタルを詰め固定します。
その際、専用スタンドを汚した場合は、モルタルが乾かないうちにきれいに拭き取って下さい。
- 3 モルタル等が乾いた後、設置した専用スタンドにドゥオモ本体を載せ、付属のビスで固定して下さい。



Villetta (ヴィレッタ)

施工要領

施工断面図

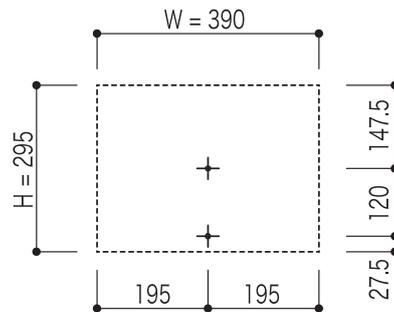
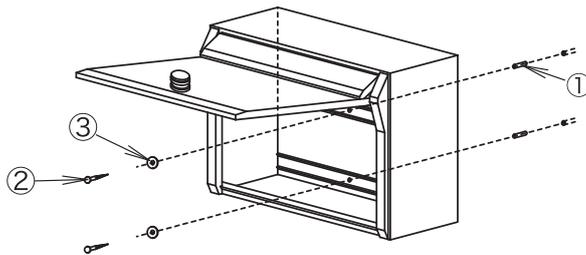
寸法図

【Villetta (ヴィレッタ) 壁掛タイプ】

- 1 壁面にアンカーポイント図に従い穴をあけ、ナイロンアンカーを打ち込みます。
- 2 扉を開け、本体の内部より丸木ネジ②、ワッシャー③にて仮止めします。
- 3 以上の作業終了後、本体開口面の各コーナーの直角をスコヤ等で確かめ、扉が水平になっていることを確認し、その後で丸木ネジ②の本締めを行って下さい。

■梱包内容

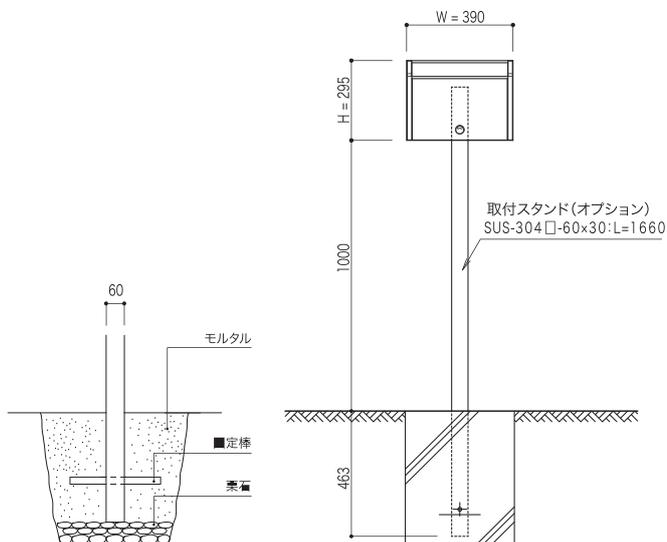
部材	必要数	単位
木ビス	2	個
ナイロンアンカー	2	個
ワッシャー	2	個
取扱・取付説明書	1	枚
ダイヤル錠解錠番号シール	1	枚



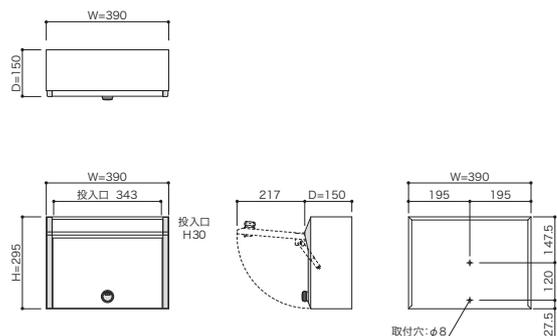
アンカーポイント図

【Villetta (ヴィレッタ) 専用スタンド】

- 1 専用スタンドを設置する穴を掘り、栗石を敷き十分突き固めて下さい。スタンド下部の穴に付属の固定棒を差し込み、垂直に埋め込み、モルタルを詰め固定します。
- 2 設置したスタンドにヴィレッタ本体を載せ、付属のビスで固定して下さい。



■寸法図



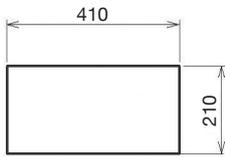
ファサード

Retta (レッタ)

■壁埋込設置

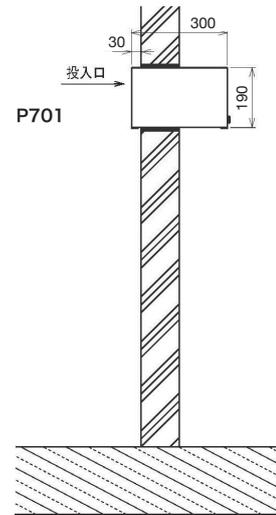
[開口寸法]

コンクリート塀の場合：ポスト本体を設置する穴をあける。
ブロック塀の場合：40cmブロック1個分の大きさに設置することができます。



[標準納まり図]

ブロック塀の場合は、ブロックを積む要領でお好みの場所へ設置して下さい。
コンクリート塀の場合は、周囲にモルタルを詰めて固定し、見切りをまわして完了です。



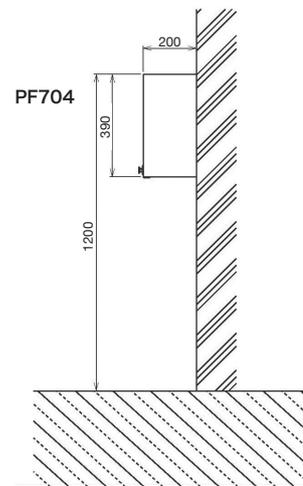
■壁付設置

- 1 裏板上部の穴を取付ビスにて固定します。その時、取付ビスは、いっぱい締め付けしないで下さい。
- 2 ポスト本体の水平を確認して、取付ビスを増締めします。
- 3 残り4箇所の穴を取付ビスにて固定します。

(樹脂プラグ使用の場合)

- 1 取付穴用の位置を決め、ドリルにて穴をあけます。
- 2 付属の樹脂プラグを打ち込みます。
- 3 取付ビスを利用してポスト本体を固定します。

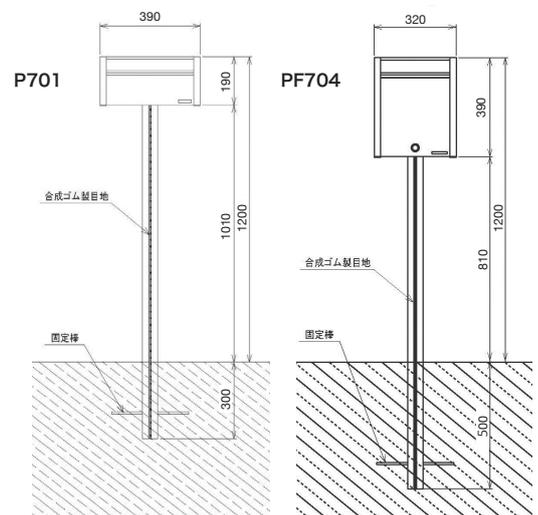
[標準納まり図]



■専用ボール設置

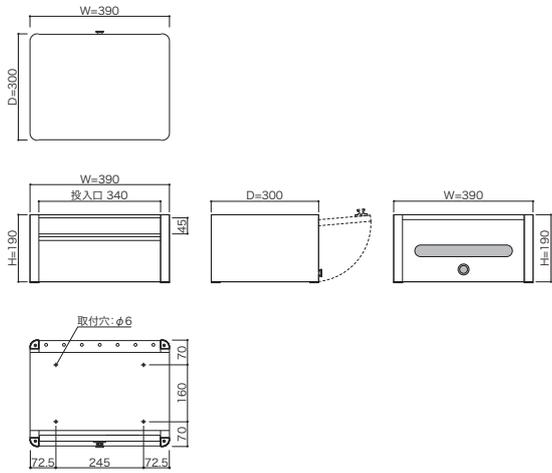
- 1 専用ボールを設置する穴を掘り、栗石を敷き十分突き固めて下さい。
- 2 専用ボール下部の穴に固定棒を差し込み、合成ゴム製目地を正面に向けて垂直に埋め込みます。
- 3 モルタル等を詰め固定します。その際、専用ボールを汚した場合は、モルタルが乾かないうちにきれいに拭き取って下さい。
- 4 モルタル等が乾いた後、ポスト本体を付属のビスで専用ボールに固定して下さい。

[標準納まり図]

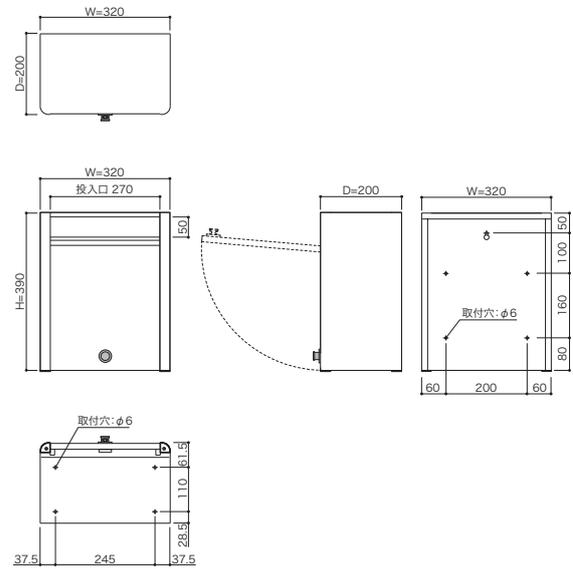


■寸法図

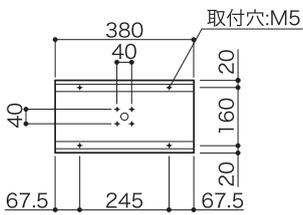
P701



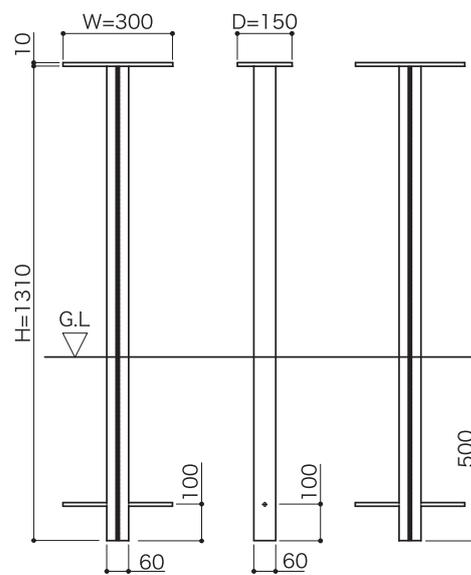
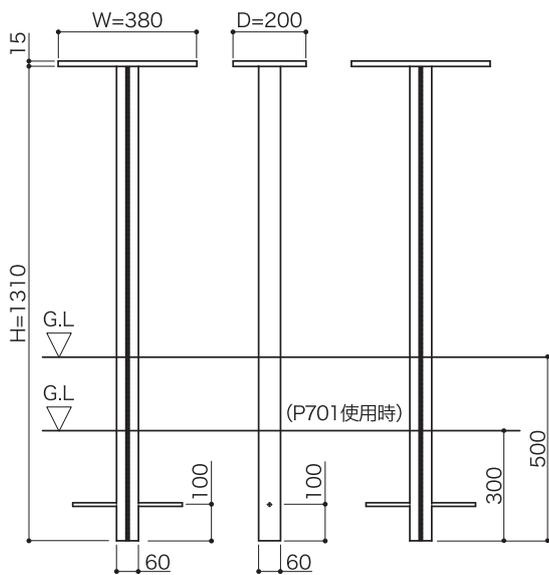
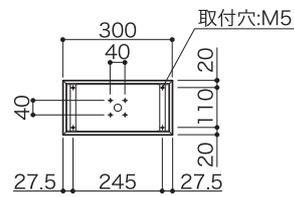
PF704



P701PL 専用ポール



PF704PL 専用ポール



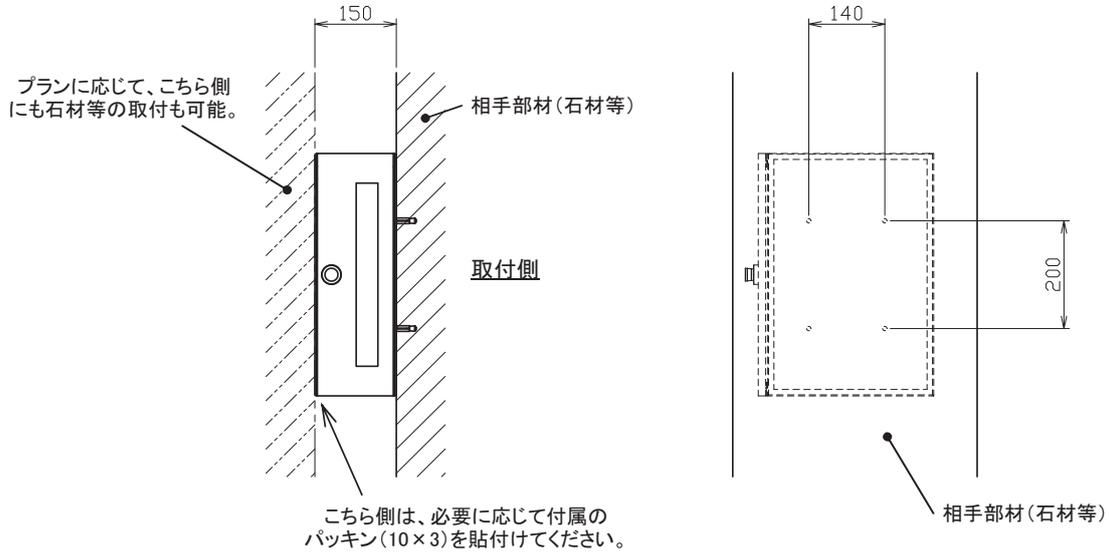
バーチカル

施工要領

寸法図

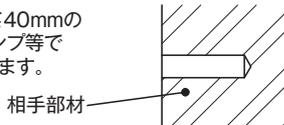
■取付図

※取り付け相手部材（石材等）へ深さ40mmの穴加工が必要です。
 ※穴位置はあらかじめ採寸し決定して下さい。（W140mm×H200mm）
 ※ポストの固定は、付属ねじ（M6）を使用し4箇所で固定します。



手順①

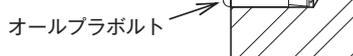
φ11のドリルで深さ40mmの穴をあけ、ダストポンプ等で穴内の切粉を除去します。



穴は取り付け面に対して垂直に開けてください。

手順②

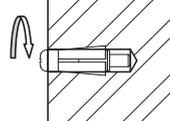
付属のオールプラグボルト(M6)を挿入します。



オールプラグボルト(M6)が出っ張っていないことを確認してください。

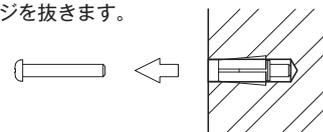
手順③

ネジを締め上げてオールプラグボルトを固定します。



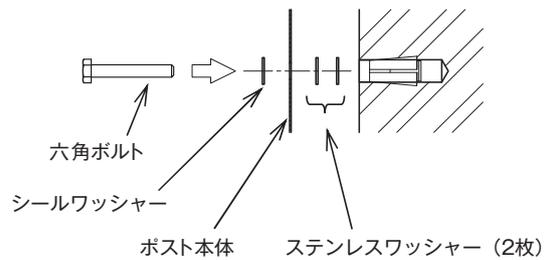
手順④

固定をしたらネジを抜きます。



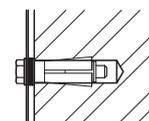
手順⑤

六角ボルトにてステンレスワッシャー(2枚)、ポスト本体、シールワッシャーの順に取り付けをします。

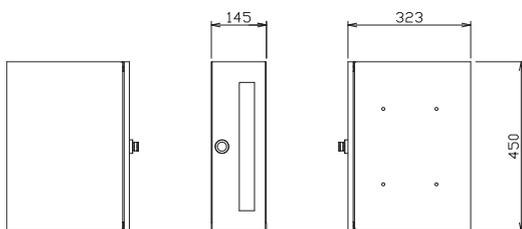


手順⑥

六角ボルトを締め付けて固定完了。



■寸法図



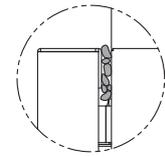
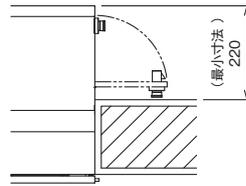
エトワ

施工要領

寸法図

1 ポスト本体を指定の位置にセットし、四方にモルタルを充填します。

2 壁仕上がり面より、投函扉側（カバータイプ：20mm、口金タイプ：15mm）取出口側（両タイプ共：245mm）の寸法を確保して下さい。



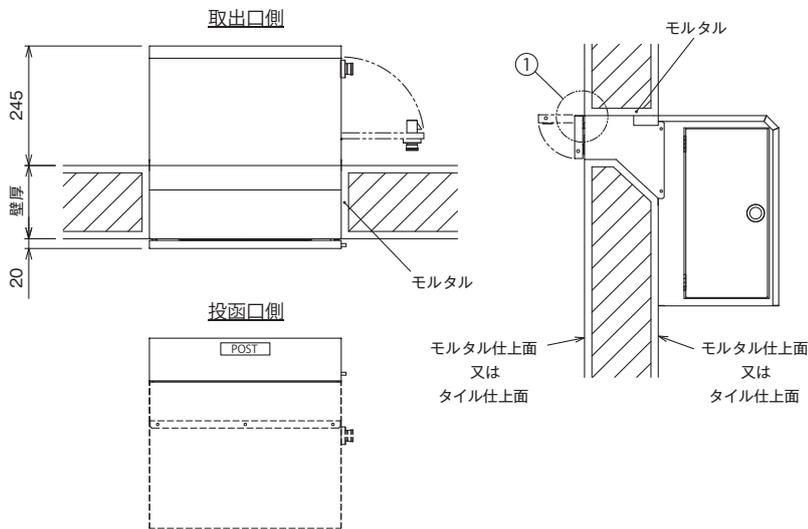
投函口側のすき間(上図①)

取出口側の寸法245mmが少なくなる際は、最小寸法220mm以上として下さい。(O・Sタイプ共通)



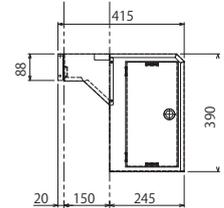
投函口扉と本体のすき間にモルタルが入り凝固しますと、扉が開かなくなります。チリ・ホコリ等の異物が入った状態で開扉しますと故障の原因となります。取付時は養生テープ等を貼り、異物の混入を防いで下さい。

【カバータイプ納まり図】

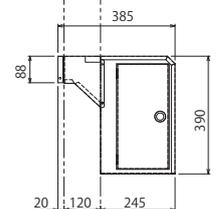
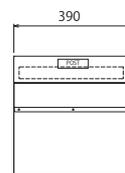


■寸法図

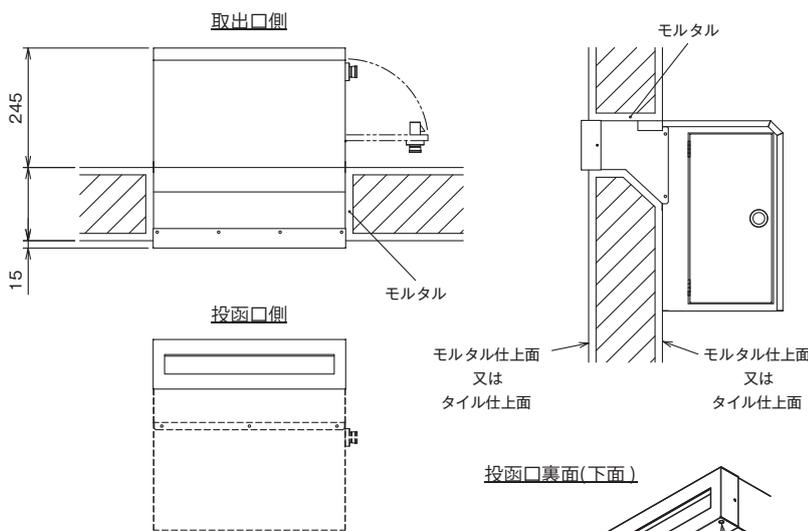
カバータイプ
壁厚 150mm用



カバータイプ
壁厚 120mm用

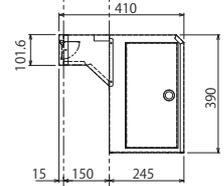
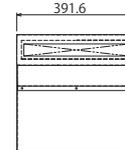


【口金タイプ納まり図】

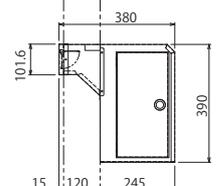
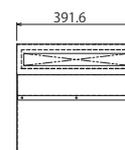


■寸法図

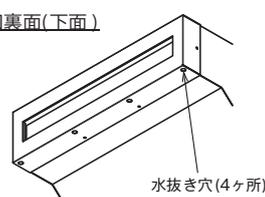
口金タイプ
壁厚 150mm用



口金タイプ
壁厚 120mm用



投函口裏面(下面)

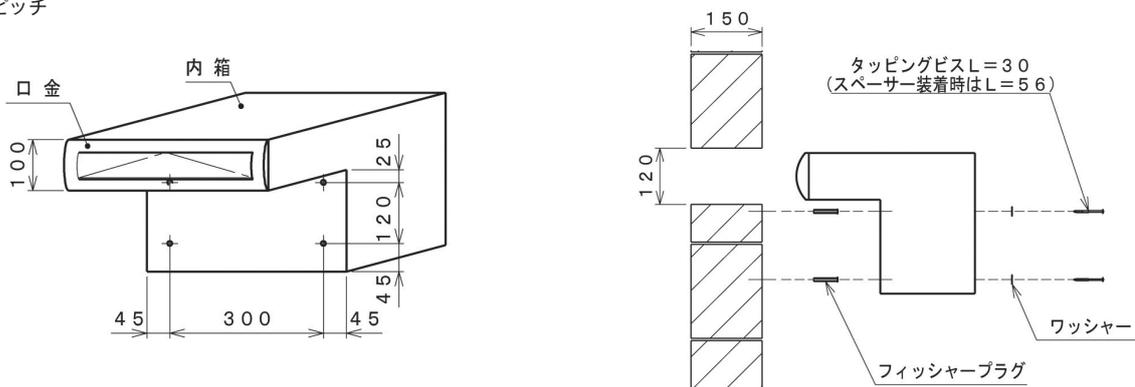


投函口裏面(下面)の水抜き穴を塞がないように仕上げをして下さい。

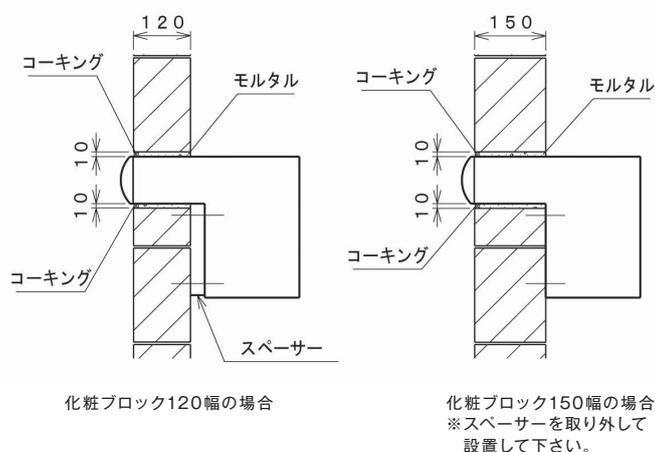
ファサード

Woody&Rusty (ウッディー&ラスティー) / Rossetto (ロセット)

■取り付けピッチ

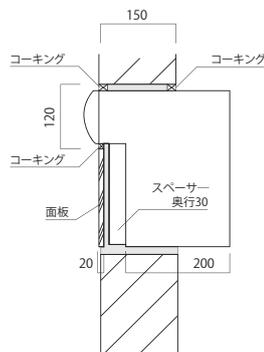


[標準納まり図]

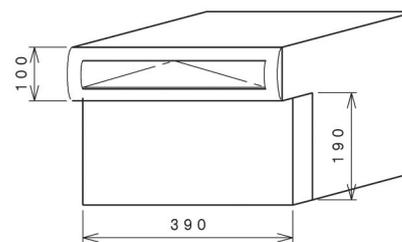


■ポスト05タイプ

- 1 ポストの寸法よりタテ・ヨコ共に20mm程度大きめの穴をあけて下さい。
- 2 ポストを入れて周囲のすき間にモルタルを詰め、設置して下さい。
※適切な場所に、ブロックを積む要領でポストを入れ、モルタルを詰め設置して下さい。スペーサーは、取り付けの面版の厚みに応じて、不要な場合には取り外して下さい。ポスト周囲はコーキングを塗って仕上げして下さい。

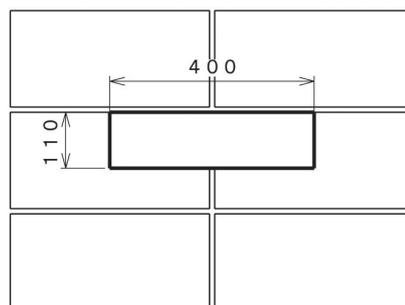


[標準納まり図]



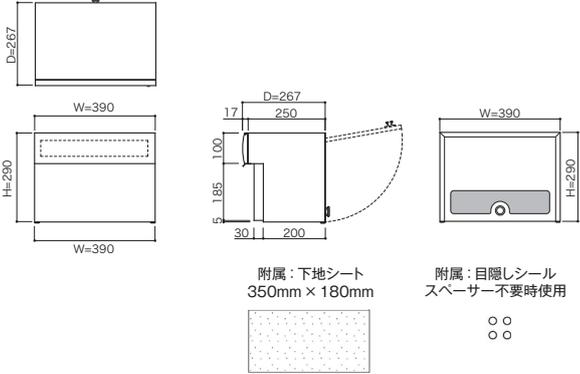
■ポスト15タイプ

- 1 化粧ブロックを右図寸法のとおり切り欠いて下さい。
- 2 図の取付ピッチに従い、壁面にフィッシャープラグ (アンカープラグ) を打ち込みます。(木部への取り付けの場合は2から始めて下さい)
- 3 あらかじめあけておいた穴にポストを差し込み、壁面に本体を仮止めします。
- 4 ポスト全体の位置、水平、垂直に注意し確実にネジを締めます。
- 5 ポスト周囲のすき間にモルタルを詰め、固定して下さい。(口金下部の水抜き穴をふさがらないで下さい)
- 6 モルタル硬化後、ポスト周囲にコーキングをして下さい。

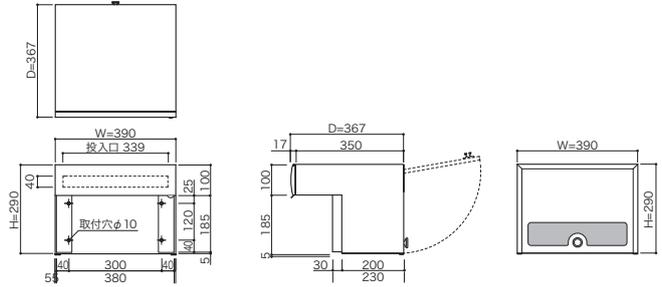


■寸法図

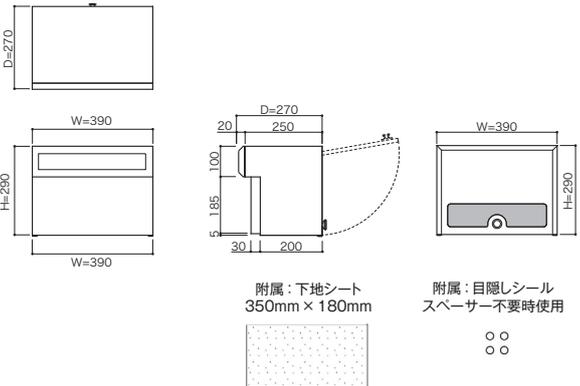
PA05 タイプ



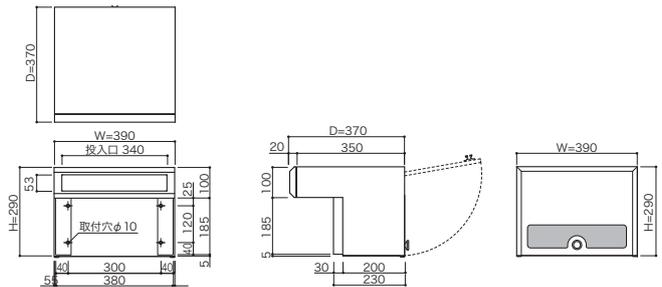
PA15 タイプ



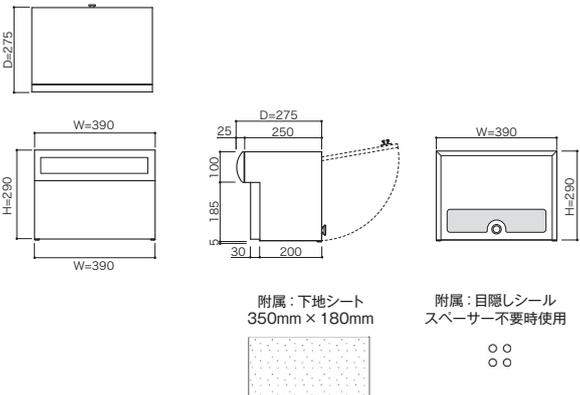
C05 タイプ



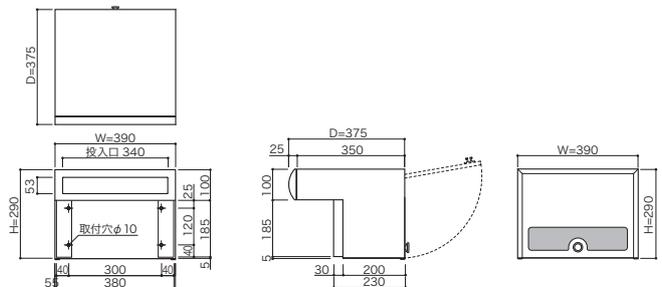
C15 タイプ



R05 タイプ



R15 タイプ

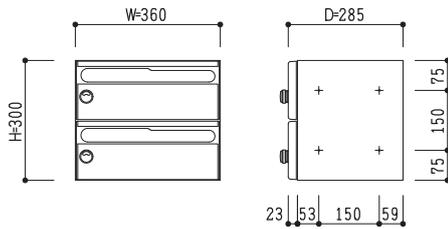


集合ポスト

施工要領

寸法図

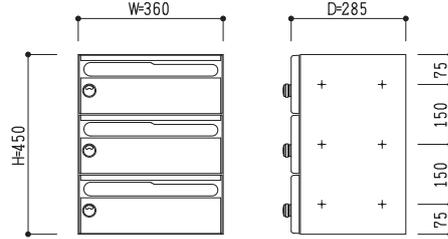
PM-210-2 ■前入れ前出し



部品表

●丸木ネジ φ5.1×L50	4本
●ナイロンアンカー φ8×L40	4本
●平ワッシャー M5用	4個
●ナイロンリベット	8本
●取扱説明書	1部

PM-210-3 ■前入れ前出し

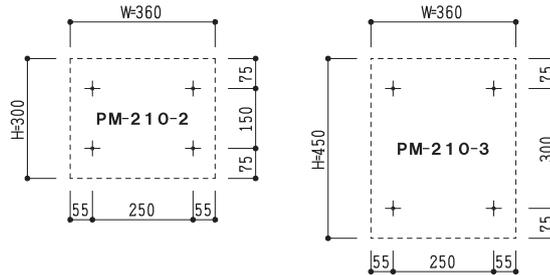


部品表

●丸木ネジ φ5.1×L50	4本
●ナイロンアンカー φ8×L40	4本
●平ワッシャー M5用	4個
●ナイロンリベット	10本
●取扱説明書	1部

<取付方法>

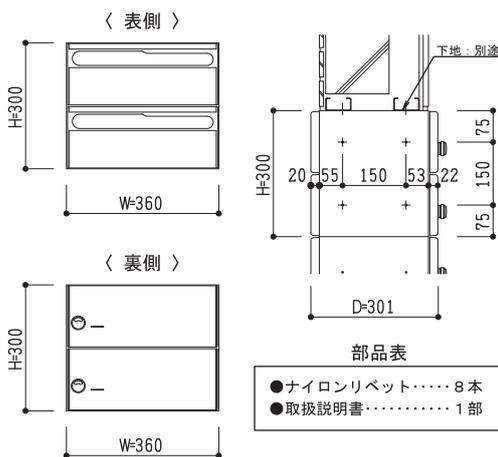
1. 壁面に、右図のアンカーポイント図にしたがい穴を明けナイロンアンカーを打ち込みます。
2. 扉を開け本体の内部より丸木ネジにて仮止めます。
3. 次に上下、左右の本体のジョイントを行います。本体側面の連結穴よりナイロンリベットを通して、指で押し込み、それぞれをジョイントします。
4. 以上の作業終了後、本体開口面の各コーナーの直角をスコヤ等で確め、扉が水平になっている事を確認し、その後で丸木ネジの本締めを行って下さい。



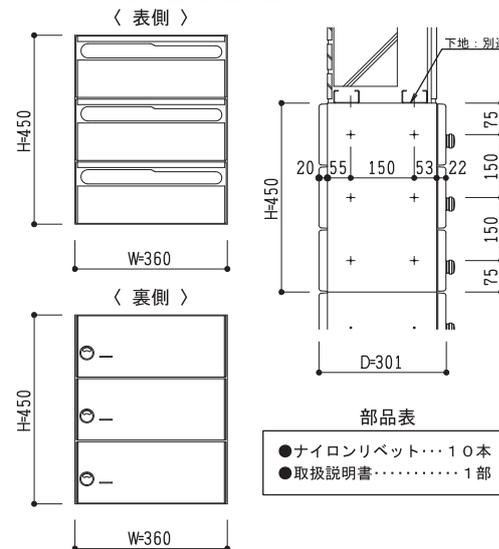
ナイロンリベット取付図は下記参照して下さい。

この取付手順は一般的な壁取付方法です。
条件に合わせ設計者の指示に従って下さい。

PM-215-2 ■前入れ後出し

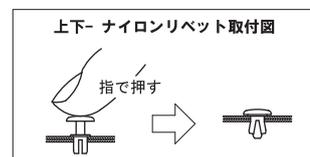


PM-215-3 ■前入れ後出し



<取付方法>

上部の参考取付図を参照に条件に合せた設計者の指示に従って下さい。



ファサード

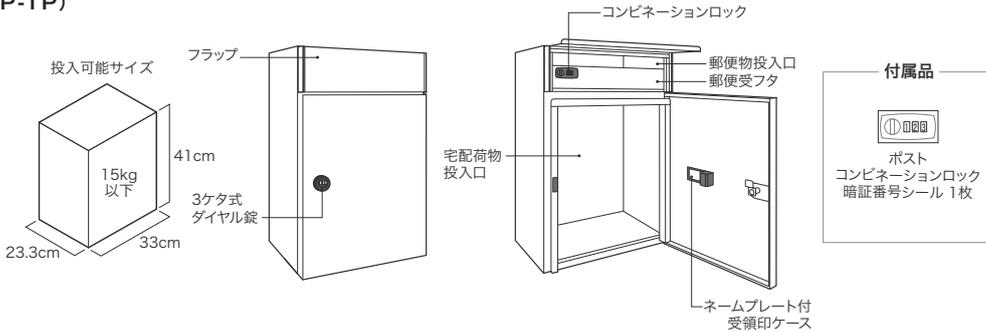
集合宅配ボックス

施工要領

■付属品 ※万一、不足の場合はお買い上げ店にご連絡ください。

	M8xL70 オールアンカー (SUS)	1mm ライナー(SUS)	M5xL14 トラスネジ(SUS)	M5フランジ付 ナット(SUS)	ボンデル ワッシャー(SUS)	管理者様 控用鍵 (AP-TB仕様)
AP-TB2	4個	20枚	10個	5個	15個	2本
AP-TB4	6個	30枚	28個	18個	46個	2本
AP-TB6	8個	40枚	46個	31個	77個	3本
AP-TB8	10個	50枚	64個	44個	108個	4本

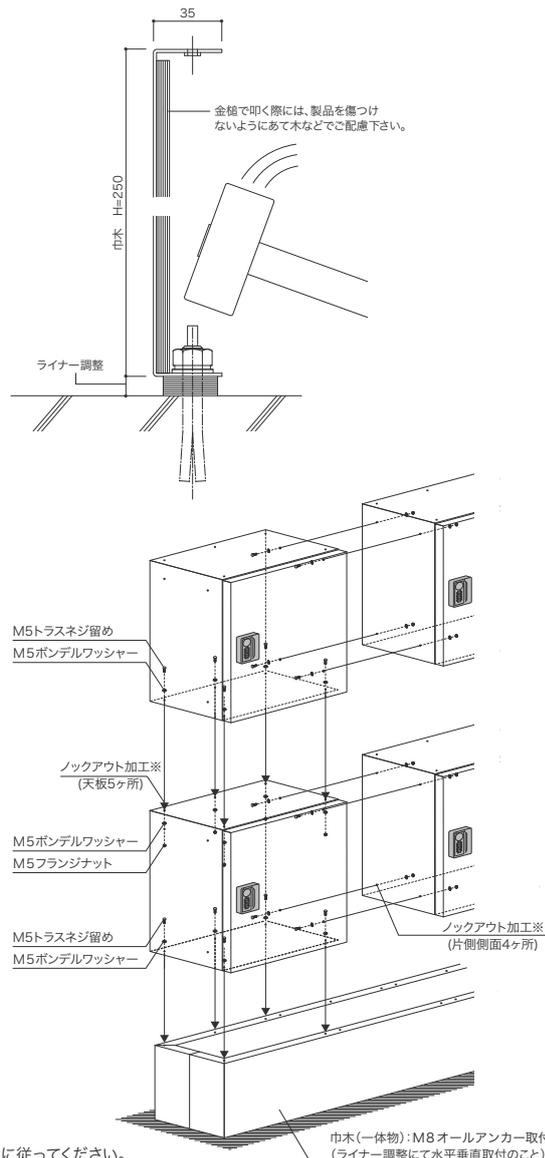
■各部名称 (AP-TP)



■施工手順

- 1 宅配ボックスの位置を決め、巾木を仮置きして下さい。
あらかじめ取付面のレベルを確認してください。
- 2 次のページのアンカーポイント図に従い床面に鉛筆等で印を付けます。
- 3 1で印を付けたアンカー位置にハンマードリルで穴を開けます。
(穴径:8.5mm、穴の深さ60mm以上)
- 4 2で開けた穴に巾木を合わせて付属のライナーでレベル調整を行ない、
オールアンカーを打ち込みます。
高さ調整は付属のライナーで巾木が水平・垂直
になるように再度調整を行いナットを本締めして下さい。
- 5 巾木の上に宅配ボックスをセットしてビスでまともていきますが、
ジョイントする製品のノックアウトはあらかじめ穴を
開けておいて下さい。
- 6 上下左右の宅配ボックスはトラスネジ、ボンデルワッシャー、
フランジ付ナットで締め付けて下さい。
- 7 最後に宅配ボックス製品の水平・垂直(本体のコーナー直角)、
扉が水平になっていて開閉で問題ないことを確認して終了になります。

※ノックアウト:通常、穴はふさがっています。
ドライバなどの先を突き当て柄の部分ハンマーで叩くと穴を開けることができます。

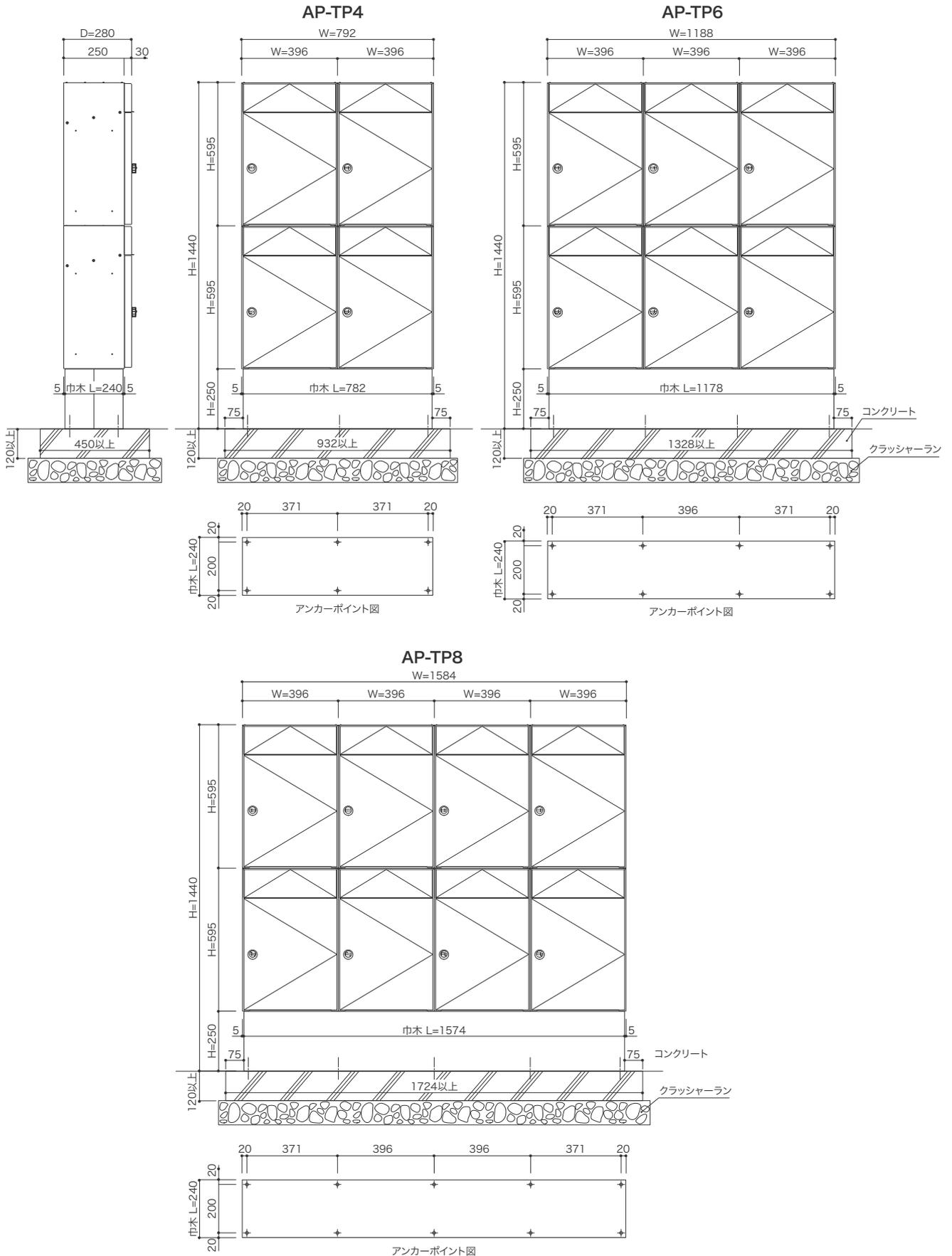


※この取付手順は一般的なコンクリート床面取付方法です。条件に合わせて設計者の指示に従ってください。

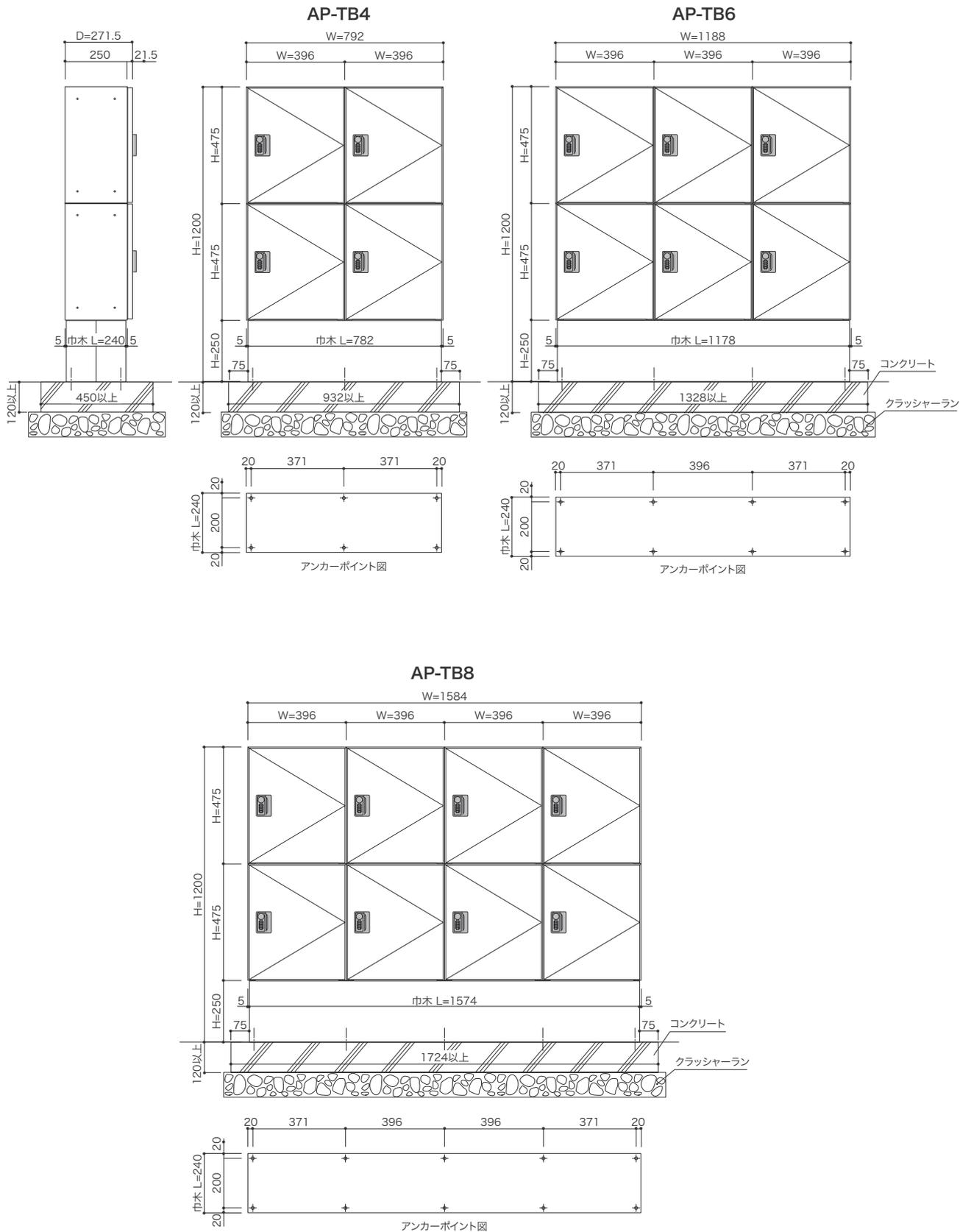
ファサード

集合宅配ボックス

[AP-TP4 / AP-TP6 / AP-TP8]



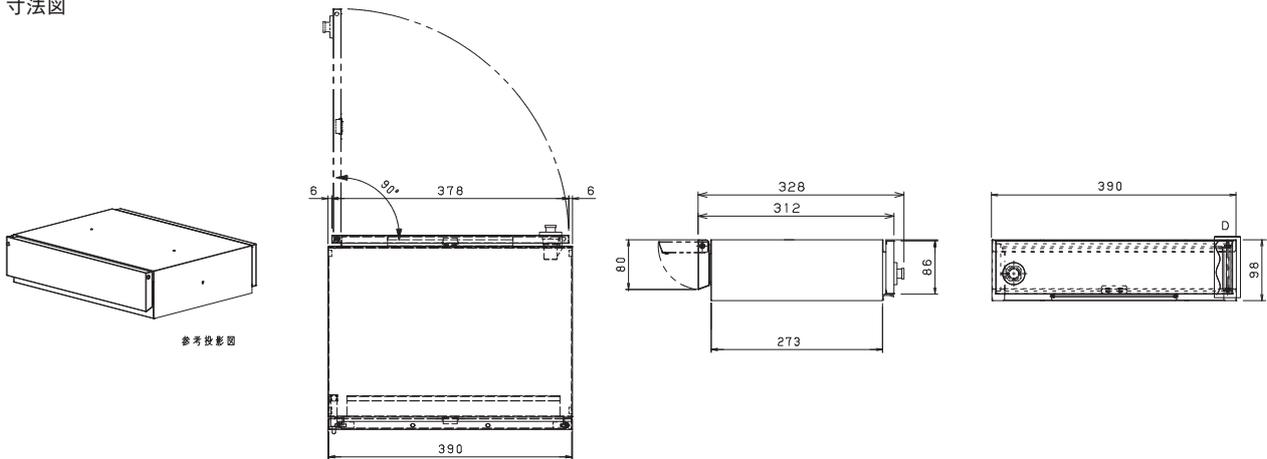
[AP-TB4 / AP-TB6 / AP-TB8]



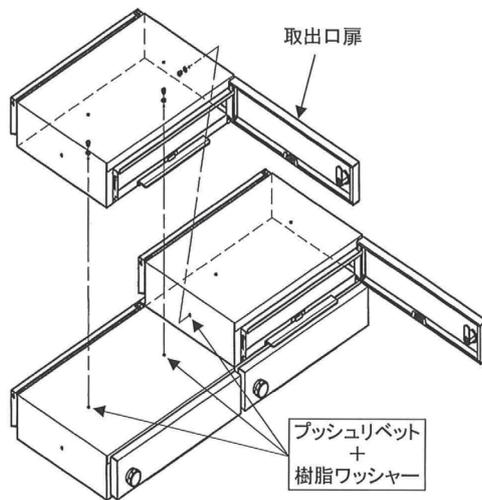
スマートポスト

施工要領 寸法図

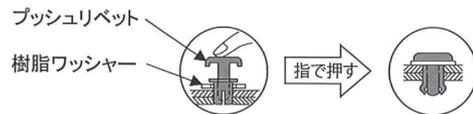
■ 寸法図



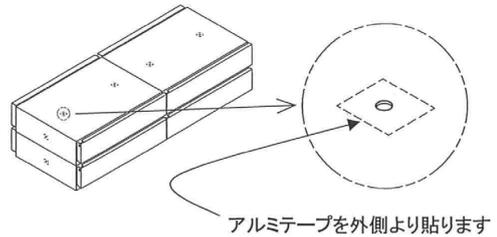
■ 組立図



1) 取出口扉を開け、上下及び左右に隣接する穴にプッシュリベットを樹脂ワッシャーを介して打ち込みます。

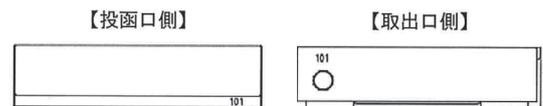


2) ポスト本体全ての連結が終了したら、不要になった連結穴をアルミテープで塞ぎます。(下図参照)



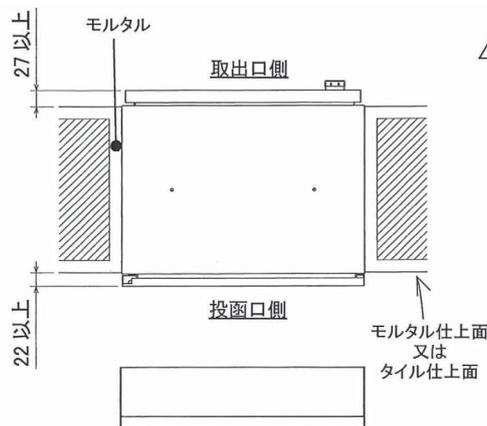
● 号室ステッカーについて(別売)

- 号室ステッカーは下図の位置に貼り付けを推奨しています。
※貼り付け方法については別紙をご参照ください。



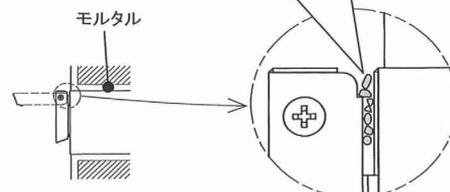
■ 取付図

- ポスト本体を指定の位置にセットし、四方にモルタルを充填します。
- 壁仕上がり面より、投函口側は 22mm以上 取出口側は 27mm以上 を確保してください。



⚠️ ご注意

投函口扉と本体の隙間にモルタルが入り凝固しますと、扉が開かなくなります。チリ・ホコリ等の異物が入った状態で開扉しますと故障の原因となります。取付時は養生テープ等を貼り、異物の混入を防いでください。



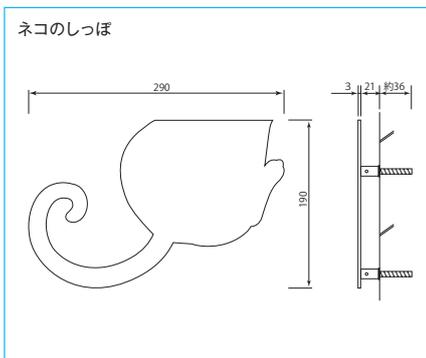
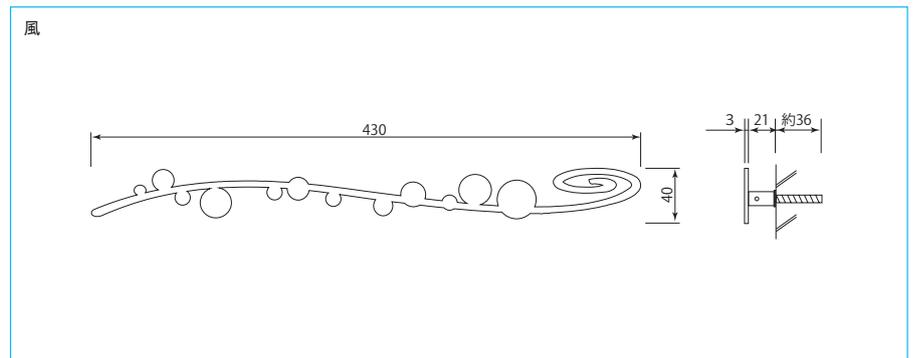
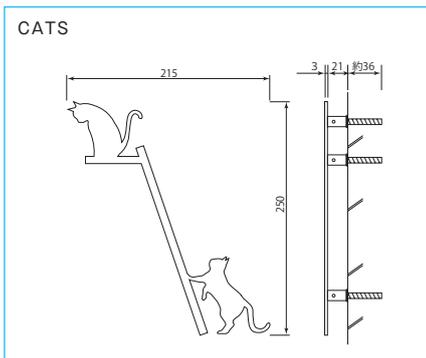
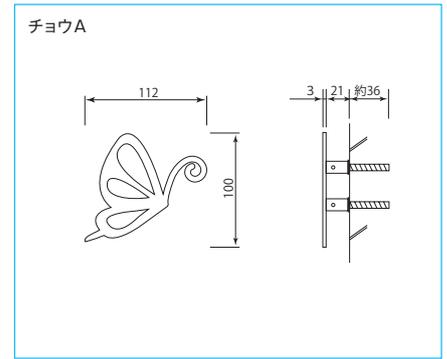
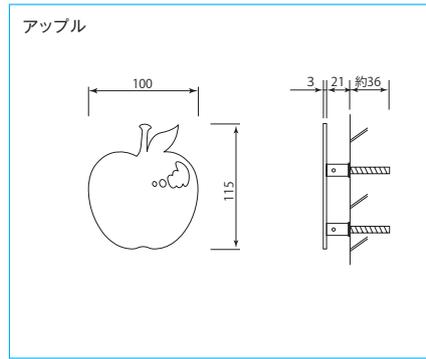
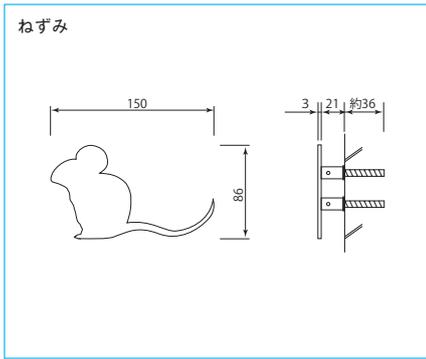
◎ 使用者様へキズのない綺麗な状態でお渡しできるよう、ご丁寧に取扱われますようお願い致します。

ウォールデコレーション

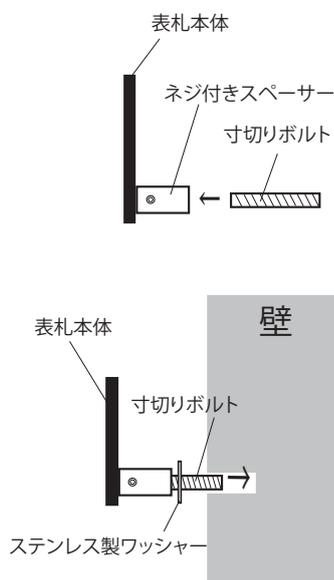
施工要領

寸法図

【ウォールデコレーションの寸法図】



【ウォールデコレーションの施工要領】



- 1 表札の裏側についているネジ付きスペーサーに寸切りボルトを回し込んで下さい。

※ネジ付きスペーサーがぐらつく場合は、一旦寸切りボルトを外して、ネジ付きスペーサーに付いている小さいネジを、同梱の六角レンチで締め直して下さい。

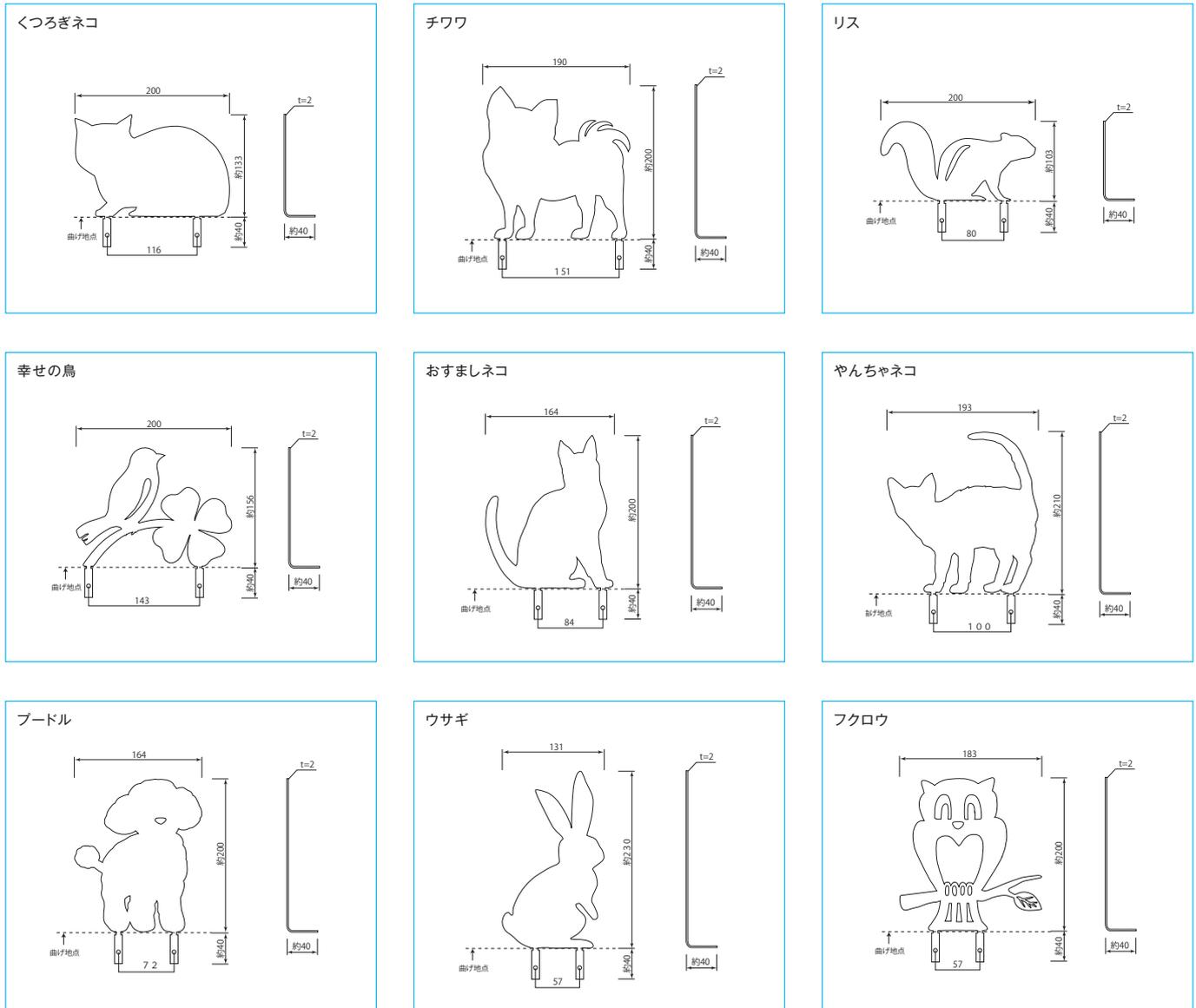
- 2 壁に電動（振動）ドリルで穴をあけて下さい。穴は、直径約6.2～6.5mm、深さ約40mm。
（この穴に通すボルトの太さは直径6mmです）
穴の中に残った削りくずは掃除機などで取り除いて下さい。

- 3 壁の穴に接着剤を注入して下さい。
表札本体の寸切りボルトにステンレス製ワッシャーを通し、これを壁の穴に差し込んで下さい。
接着剤が固まるまでは、表札をテープなどで壁に固定して下さい。表札の上に直接テープを貼るとノリの跡などが残る場合があります。
表札の表面に紙などを当てて保護してからテープを貼って下さい。テープを外す時は、表札が壁に固定されているのを確認しながら作業を行って下さい。

ウェルカムアニマル

施工要領 寸法図

【ウェルカムアニマルの寸法図】



【ウェルカムアニマルの施工要領】

ファサード

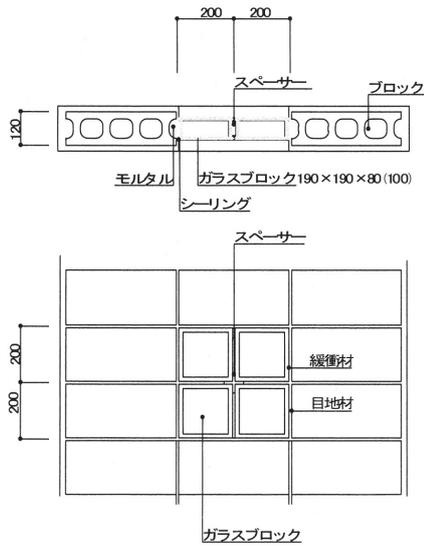
- 1 穴をあける位置を商品本体で確認し、取付箇所電動（振動）ドリルで穴を開けて下さい。直径6mm。深さ30mm。
◆ ドリルを使用する時は、手袋等はしないで下さい。ドリルの刃に巻き込まれると危険です。
- 2 穴の中に残っている切粉をダストポンプなどで除去して下さい。この穴にPCプラグをハンマーなどで軽く打ち込んで下さい。
- 3 取付箇所の穴に合わせてウェルカムアニマルを置き、タッピングネジをPCプラグに回し込んで固定して下さい。

ガラスブロック

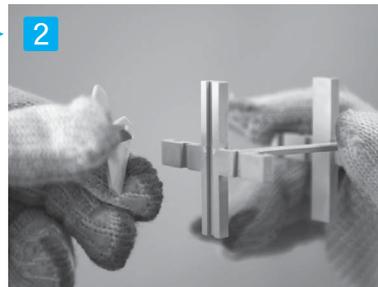
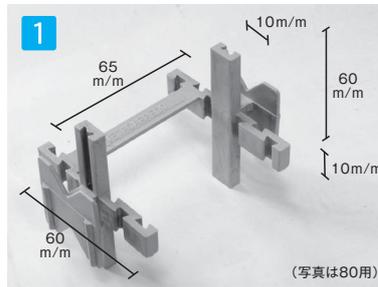
施工要領

施工断面図

■ ガラスブロックの施工断面図



■ ガラスブロックスペーサーの施工要領



前後の不用部分を取ってご使用下さい。



ガラスブロックの目地部分に乗せ、そのまま目地をコーキング又はモルタルで埋めて下さい。

ウーピアガーデン

施工要領

【ソーラーランプ】

安全上の注意

ご使用を開始される前にこの「安全上のご注意」の項目をよくお読みのうえ正しくお使いください。
 本製品は光による充電で作動が可能となります。十分に光が当たるような場所に設置してください。
 火災、感電、故障の原因となりますので、本製品の分解や改造をしないでください。
 過度な火気に触れた場合、故障の原因となりますので、火気の近くに設置はしないでください。

使用方法

ソーラーランプは充電式となっており、日中は直射日光が当たる場所で充電を行い、夜間などの暗い場所で点灯します。

- ① ランプ底面にあるボタンを ON にしてください。
- ② ランプを商品本体の金具に引っ掛けてください。
- ③ ボタンを ON にした状態で、直射日光が当たる場所に商品を保管し、充電を行います。
- ④ 夜間などの暗い場所でランプが点灯します。

充電目安時間: 6 時間 点灯目安時間: 12 時間

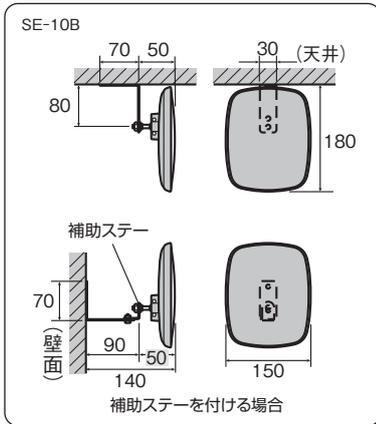
※ランプの交換は承っておりません。



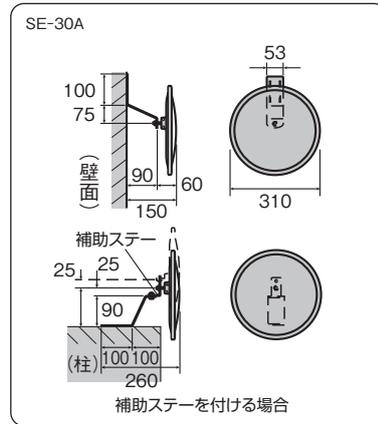
カーミラー

寸法図

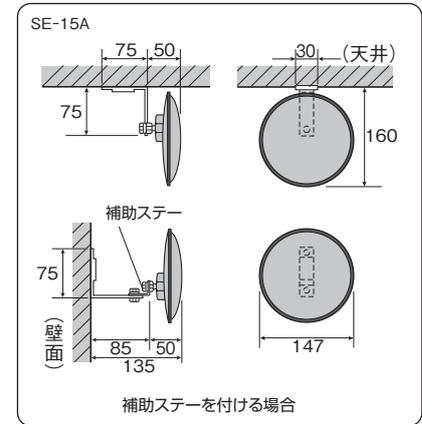
□ コンパクト



□ パーク □ コールド

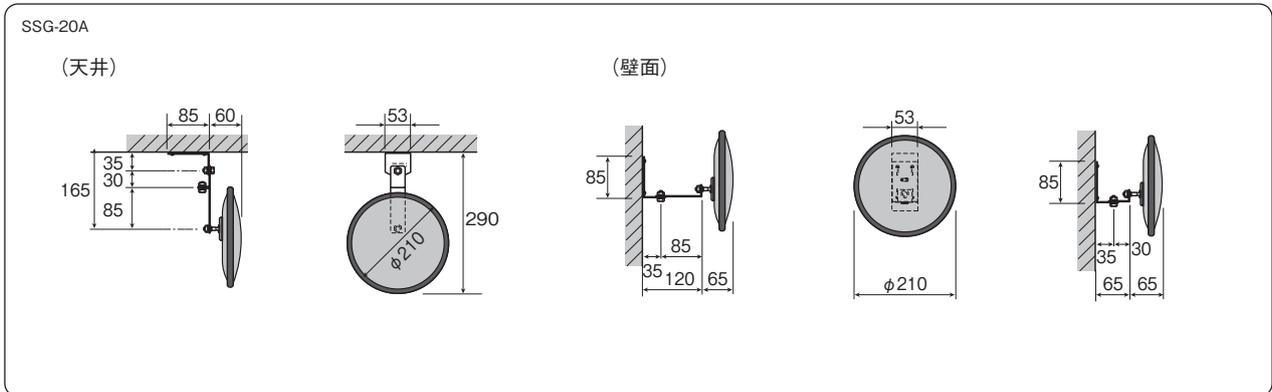


□ イージー



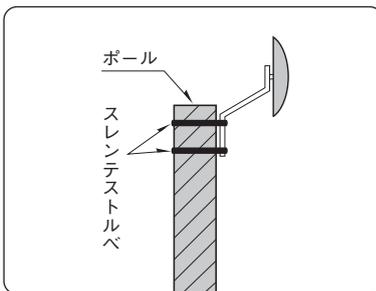
* このアイテムには厳寒冷地域(-30℃)用もございます。

□ フリー

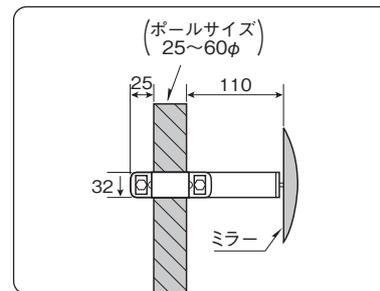


■ オプション

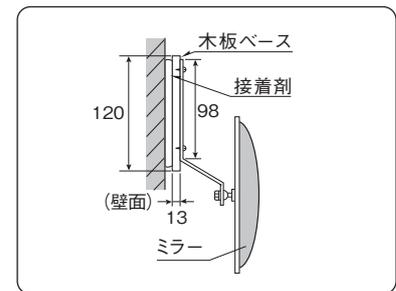
締金具



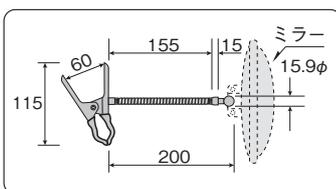
ボール取付専用金具



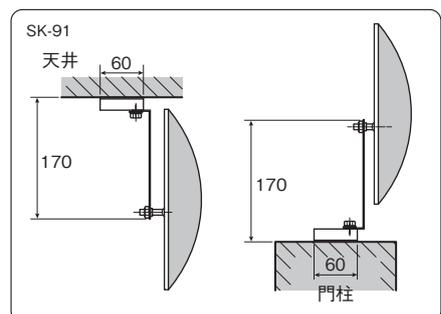
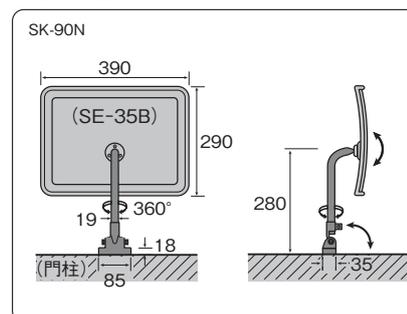
穴あけ不要接着タイプ



フレキ&クリップ



門柱専用金具



G・P・B (ゴム・パーキング・ブロック)

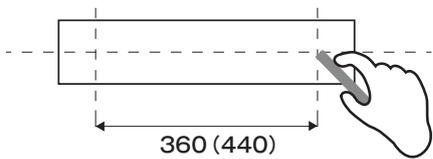
施工要領 寸法図

1 床面の清掃
チリやごみ・油汚れ等を除去します。

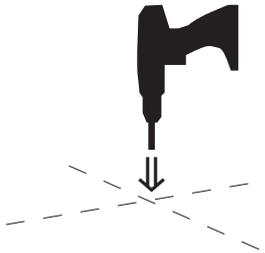
2 外形のケガキ
床面に本体を置き、置き外形をケガいて下さい。



3 穴位置決め
本体を取り除き、外形ケガキ線に対し 360(440)mm 間隔で穴開け用の印(2ヶ所)をつけます。※()内は 2・3 型の数値



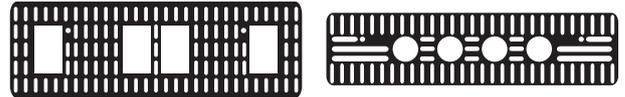
4 穴あけ
印を付けた位置にドリル径φ12(φ15)にて深さ 70~80(105)mmの穴をあけます。
※()内は 2・3 型の数値



5 穴掃除
吸埃機などで穴の中の切粉を除去します。

6 穴に接着剤を注入
※接着剤は市販でお求めください。

7 本体裏面に接着剤塗布
底部に接着剤を塗布して下さい。
※接着剤は市販でお求めください。

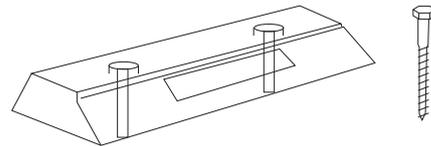


1 型

2・3 型

※穴はイメージです。

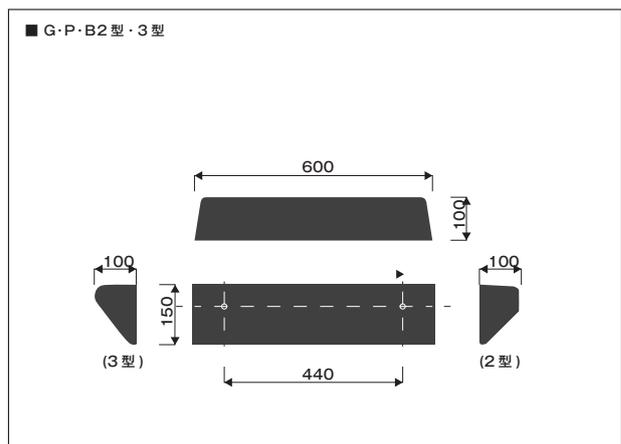
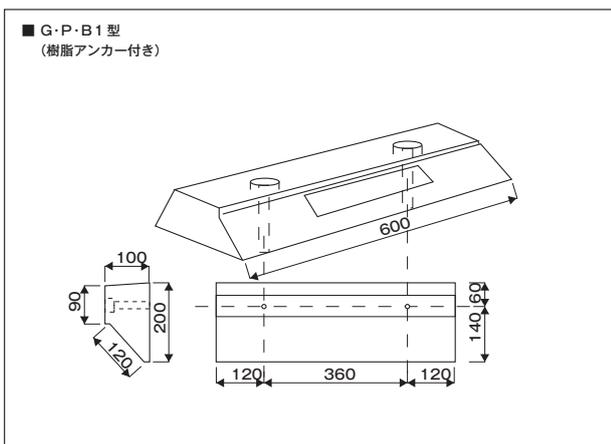
8-1 設置完了 (1 型)
本体の固定穴を樹脂アンカーに合わせナットを付けたボルトで締め穴の上部にふさぎ用ゴムを取りつけます。



8-2 設置完了 (2・3 型)
本体のアンカー部分を穴に差し、押し付けて設置完了です。(アンカーは付属されておりません。※現地手配)



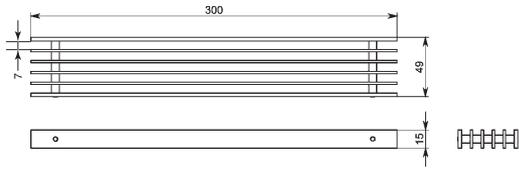
■ 本体寸法図



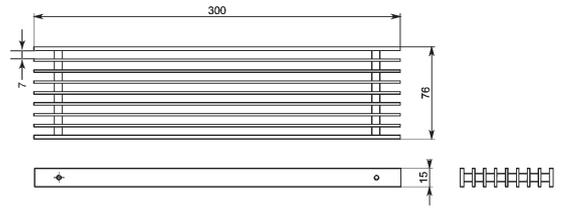
テラスエッジ / テラスエッジneo

【テラスエッジの寸法図】

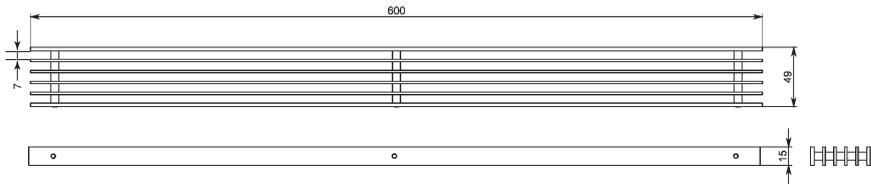
グレーチングスリム 300



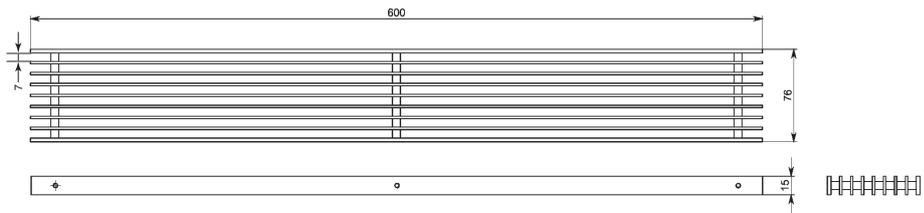
グレーチングワイド 300



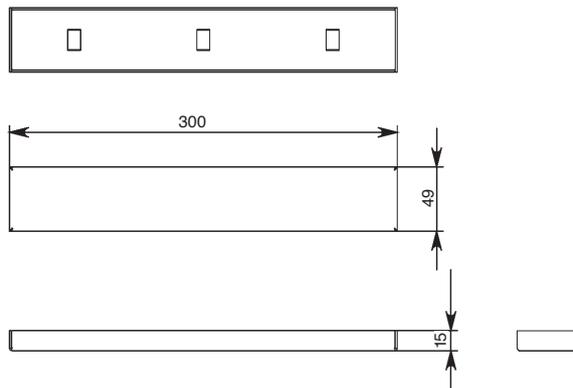
グレーチングスリム 600



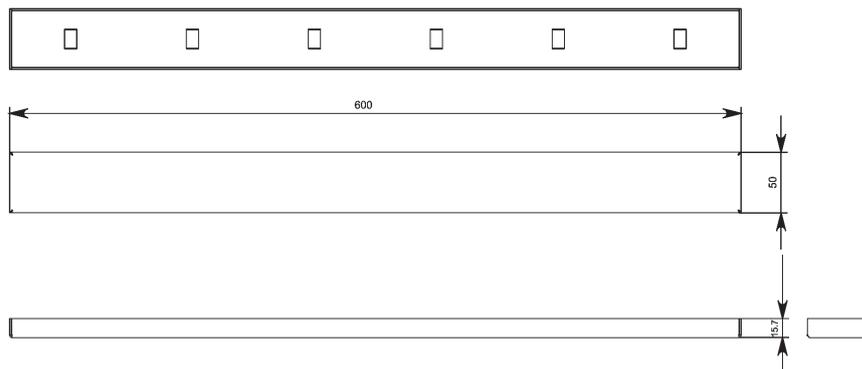
グレーチングワイド 600



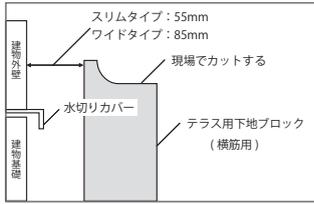
タイトトレー 300



タイトトレー 600

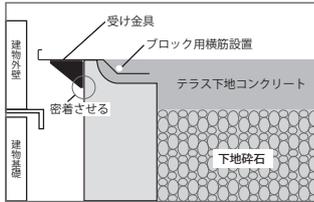


【テラスエッジ/テラスエッジneoの施工要領】



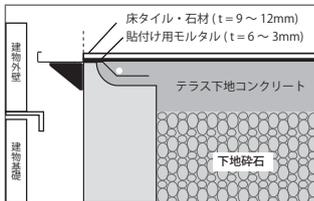
Step1：テラス用下地ブロック作成

テラス用下地ブロックを建物外壁から
ワイドタイプ85mm (受け金具突出部 79mm^[※1] + クリアランス6mm)
スリムタイプ55mm (受け金具突出部 52mm^[※2] + クリアランス3mm)
離して積みます。外壁又はサッシ枠などの突出部とのクリアランス(間隔)は現場の状況に合わせて調整してください。受け金具の詳細は右図の寸法図をご参照ください。



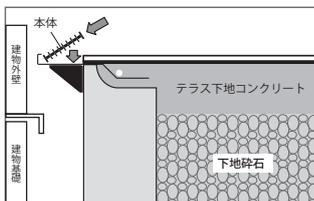
Step2：下地土間打設 (受け金具の固定)

上部内側の立ち上がりを欠いて、受け金具をブロック立上がり面に密着させて設置します。団子状にしたモルタル等で仮固定します。テラスの下地土間コンクリートを打設し、受け金具を本固定します。
△受け金具の三角形プレートが下地ブロックと離れるとたわみの原因となりますのでご注意ください。



Step3：床の仕上げ、下地土間打設 (受け金具の固定)

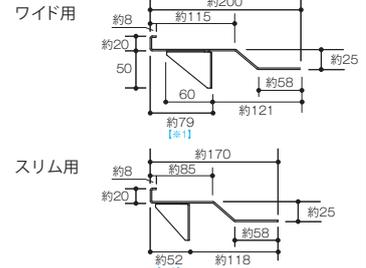
タイル天面とグレーチングの厚さ(15mm)が面一になるように下地モルタルの厚さを調節してください。
※タイルを貼る際、グレーチング本体を仮置きして、施工後グレーチングの脱着が可能であることをご確認ください。



Step4：本体の設置

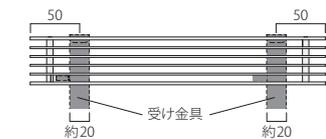
最後に受け金具に本体をセットしてください。受け金具の先端に折り返しが付いているので、先端を滑り込ませるようセットするとスムーズに取り付けられます。

受け金具(側面図)



受け金具の設置位置

標準位置

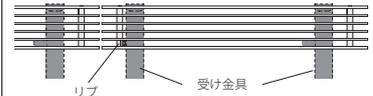


本体両端部から50mm内側
※標準 ±20mmの範囲内で設置してください。

ストッパー使用時

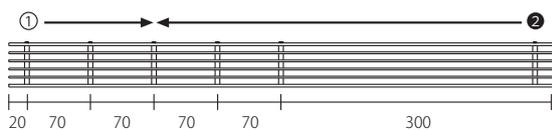


受け金具のサイドのパーツを折り曲げると、グレーチングの横すべりのストッパーになります。



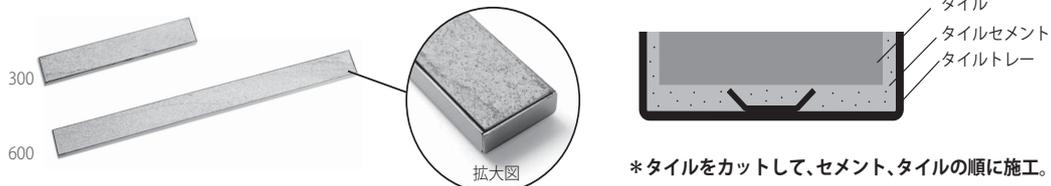
ストッパーを使用する場合は、リブに引っ掛かるか確認してから設置してください。

■グレーチングカットタイプ (現場加工) カット方法



- ① 使用寸法が 300mm未満の場合
リブが多い方(図面左側)から計測し切断してください。
- ② 使用寸法が 300mm以上の場合
リブが少ない方(図面右側)から計測し切断してください。

■タイルトレイ 使用イメージ



■セット内容



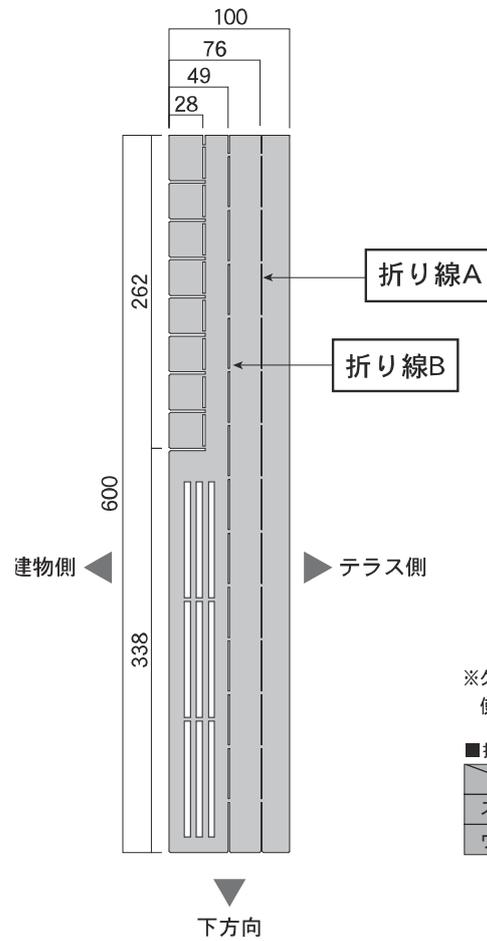
■付属品について

サイドのパーツを折り曲げると、グレーチングの横すべりのストッパーになります。



グレーチングサイドカバー

■ 寸法図

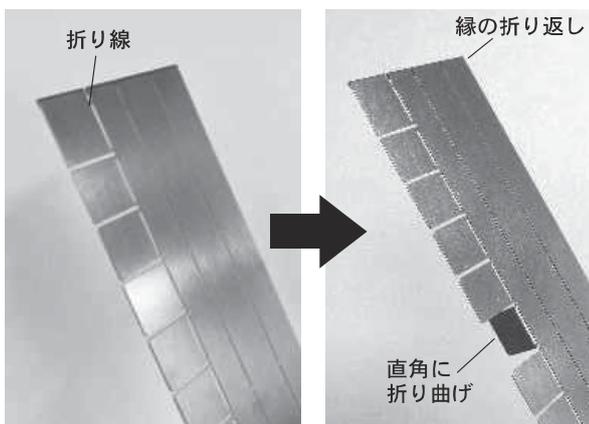


※グレーチングのサイズや施工により使用する折り線が異なります。

■ 折り線について

	標準収まり	特殊収まり
スリム	折り線B	折り線A
ワイド	折り線A	

■ 施工方法



サイドカバーは、折り線に沿って直角に折り曲げることができます。
 また、サイドカバーに表裏は無く、折り曲げる向きを変えることでテラスの左右両側に取り付けることができます。
 サイドカバーを折り曲げる向きによって、縁の折り返しが外側に出る場合がありますが、施工には問題ありません。

⚠ 注意 ⚠

- ❗ サイドカバーを折り曲げる際は、必ず保護用手袋を着用し、注意して作業を行なってください。
- ❗ テラスの左右両側にサイドカバーを使用する場合、曲げる向きは左右それぞれ異なります。それぞれ折り返す向きに注意してください。

標準納まり(水切りカバーだけが突出している場合)

① グレーチングがスリムの場合は、サイドカバーを折り線Bで直角に折り曲げます。グレーチングがワイドの場合は、サイドカバーを折り線Aで直角に折り曲げます。

サイドカバー

折り線 A

※グレーチングがワイドの場合に使用

折り線 B

※グレーチングがスリムの場合に使用

⚠ グレーチングのサイズに合った折り線のみを折り曲げてください。

② サイドカバーを仮設置し、水切りカバーが当たる部分のみ折り線で直角に折り曲げます。

※図はスリムタイプを使用した場合

グレーチング(スリム)

建物外壁

建物床

サイドカバー

テラス用下地ブロック

水切りカバー

建物基礎

※当てる部分のみ折り曲げる

上から見た図

水切りカバー

サイドカバー

建物側

タイル

③ サイドカバーとテラス用下地ブロックが触れる面に接着剤を塗布します。取付位置に合わせてサイドカバーをテラス用下地ブロック面に圧着し、養生テープ等で固定します。接着剤が完全に硬化したら、テープを剥がします。

※図はスリムタイプを使用した場合

サイドカバーとテラス用下地ブロックが触れる面に接着剤を塗布する

サイドカバー

テラス用下地ブロック

接着剤塗布箇所

■ 全体図 ※図はスリムタイプを使用した場合

建物外壁

建物床

グレーチング(スリム)

テラス仕上がり高

テラス下地ブロック

水切りカバー

サイドカバー

建物基礎

※サイドカバーが余る場合下部を地面へ埋めてください。隙間が生じる場合があります。

特殊納まり(水切りカバーに対して建物基礎が30mm以上凹んでいる場合)

① グレーチングはスリムを使用します。サイドカバーを折り線Aで直角に折り曲げます。

サイドカバー

折り線 A

※直角に折り曲げる

⚠ 折り線 B は使用しません。折りまけないでください。

② サイドカバーを仮設置し、建物外壁や水切りカバーが当たる部分のみ折り線で直角に折り曲げます。

※図はスリムタイプを使用した場合

グレーチング(スリム)

建物外壁

建物床

サイドカバー

テラス用下地ブロック

水切りカバー

建物基礎

※当てる部分のみ折り曲げる

上から見た図

水切りカバー

サイドカバー

建物側

タイル

③ サイドカバーとテラス用下地ブロックが触れる面に接着剤を塗布します。取付位置に合わせてサイドカバーをテラス用下地ブロック面に圧着し、養生テープ等で固定します。接着剤が完全に硬化したら、テープを剥がします。

※図はスリムタイプを使用した場合

サイドカバーとテラス用下地ブロックが触れる面に接着剤を塗布する

サイドカバー

テラス用下地ブロック

接着剤塗布箇所

④ 特殊納まりの場合、グレーチングはスリムを使用します。ワイドはご使用になれません。

⑤ テラス用下地ブロックは水切りカバーより50mm程度離して施工してください。

⑥ 水切りカバーと建物基礎面の差が30mm以上あることを確認してから施工して下さい。

■ 全体図

建物外壁

建物床

グレーチング(スリム)

テラス仕上がり高

テラス下地ブロック

水切りカバー

30

50

サイドカバー

建物基礎

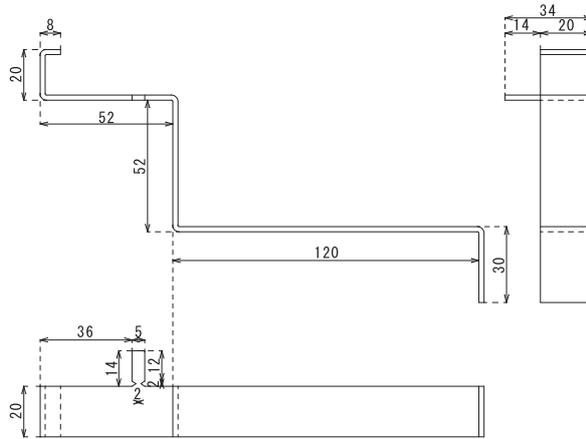
※サイドカバーが余る場合下部を地面へ埋めてください。隙間が生じる場合があります。

テラスエッジ オプション

寸法図

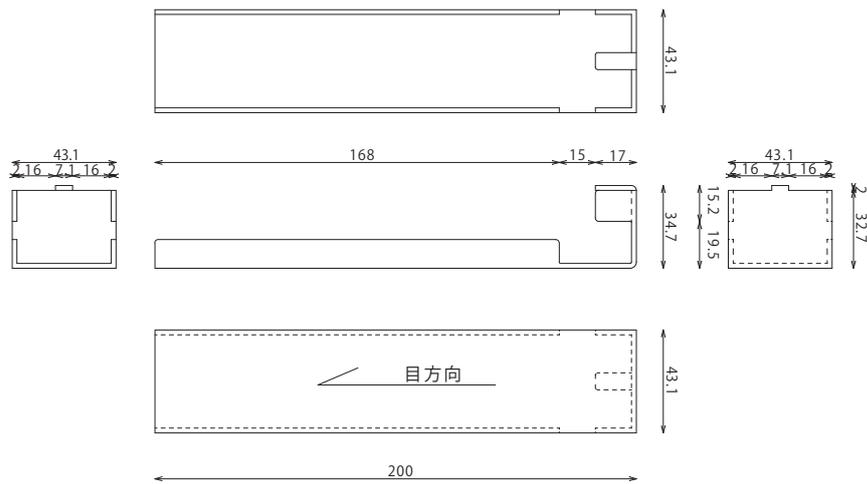
【neo埋め込み金具土間用】

M9783



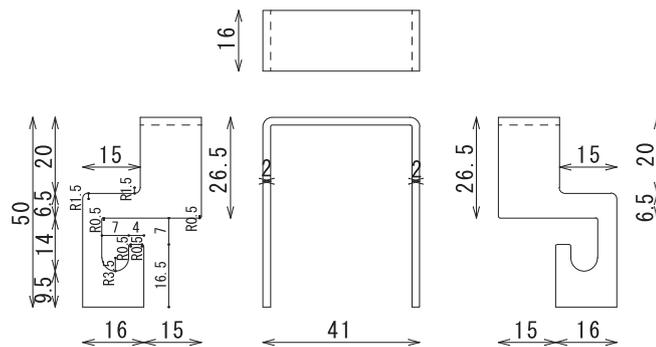
【neoエンド金具】

M9784



【neo垂直連結金具】

M9785



クイックコート

*クラック補修の場合。



1
下地処理
施工現場の清掃(ゴミ、油、塗料などをきれいに取り除く)



2
補修部分のV字カット
充填材をより密着させるためにサンダーでV字状にカットします。



3
充填材と水を混ぜる
硬化が早いため使用する面積に合せて必要な分だけを計量して混ぜて下さい。(1kgあたり水110cc)



4
攪拌
硬化時間が夏場は最短で約5分(冬場の低温時でも約4.5分)と短いため速やかに施工して下さい。



5
均し
金コテを使い充填材を埋め込むように均して下さい。

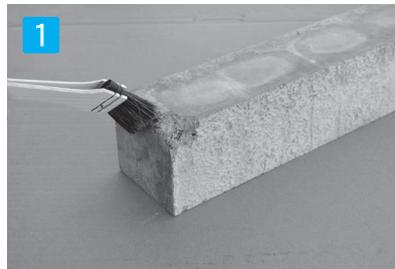


6
ふき取り
充填材が乾かないうちにウエス等で不要部分をふき取して下さい。



7
完成

*コンクリート縁石の場合。



1
下地処理
施工部分の清掃
(ゴミ・塗料などをきれいに取り除いておく)



2
充填材と水を混ぜる
硬化が早いため使用する大きさに合わせて必要な分だけを計量して混ぜ合わせて下さい。
(1kgあたり水110cc)



3
攪拌
硬化時間が夏場は最短で約5分(冬場の低温時でも約4.5分)と短いため速やかに施工して下さい。



4
均し
充填材の硬化の進み具合を見ながら金コテを使って形を作っていく。



5
仕上げ
充填材の余分は引き取り仕上がり面を金コテを使って整える。



6
完成
硬化して完成(乾燥すると白っぽくなります)

*土間コンクリートの場合。



1
下地コンクリートに
穴が空いた状態



2
補修完了

<注意事項>

- * 施工箇所が汚れた状態での施工は、はがれの原因になります。必ずゴミ、油、塗料などをきれいにふき取して下さい。
- * 硬化が早いため、一度に使用する量を調整して下さい。(夏場:約5分 冬場:約4.5分)
- * アスファルトに使用する場合は、アスファルトの伸縮により「ひび割れ」が起きる可能性があるため事前にテスト施工を必ず行って下さい。
- * 施工後すぐに使用した容器、ヘラ、コテ等は水で洗って下さい。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

株式会社メイクは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

株式会社 **メイク**

※本カタログは業務用の為、記載されている金額には消費税は含まれておりません。
※製品の仕様及び価格は通知なしに変更されることがあります。

2026年4月現在

業務用